高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２５年６月

佐世保工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　目的 ・・２

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

基準３　教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５１

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７５

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８１

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１９

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９７

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・４５３

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０９

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５５

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名　佐世保工業高等専門学校

（２）所在地　長崎県佐世保市沖新町１－１

（３）学科等構成

準学士課程

機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，
物質工学科

専攻科課程

複合工学専攻（機械工学系，電気電子工学系，
情報工学系，化学・生物工学系）

（４）学生数及び教員数（平成25年５月１日現在）

①学生数

準学士課程

学科＼学年	1	2	3	4	5	合計
機 械 工 学 科	42	46	47	35	36	206
電気電子工学科	44	43	45	41	41	214
電子制御工学科	44	45	42	45	47	223
物 質 工 学 科	43	43	41	41	43	211
計	173	177	175	162	167	854

専攻科課程

専攻＼学年	学年	1	2	合計
複合工学専攻	機 械 工 学 系	3	7	10
	電気電子工学系	10	8	18
	情 報 工 学 系	6	8	14
	化学・生物工学系	5	2	7
	計	24	25	49

②教員数

学科＼職名	教授	準教授	講師	助教	合計
一 般 科 目	8	7	4	0	19
機 械 工 学 科	3	4	3	0	10
電気電子工学科	4	5	2	1	12
電子制御工学科	3	5	2	1	11
物 質 工 学 科	5	4	2	1	12
計	23	25	13	3	64

２　特徴

・沿革

高度経済成長の基盤を支える中堅技術者の育成という社会的要請によって佐世保工業高等専門学校（以下本校という）は第一期校として昭和37年度に機械工学科と電気工学科の２学科で設立された。昭和41年度に工業化学科が設置され，昭和63年度には２学級であった機械工学科のうち１学級を電子制御工学科に改組し，現在の４学科，学生定員160名/１学年となった。この間，長崎県の離島や県外から学生を受け入れるべく昭和44年度には低学年（1,2年生）の全寮制を実施した。平成３年度には産業界の要請に合わせて工業化学科を物質コースと生物コースからなる物質工学科に改組した。さらに，平成９年度には高専卒業生に，より高度な教育・研究を実施する課程として機械工学，電気電子工学，物質工学の３専攻からなる専攻科（定員16名）を設置した。また，平成16年度より，教育プログラム名「複合型もの創り工学」がJABEE認定されている。平成17年度には電気工学科を電気電子工学科に名称変更した。平成24年度には，高度化・複合化が加速する工学分野に即応できる高度技術者育成を目的に，専攻科を１専攻（複合工学専攻）４工学系（機械工学系，電気電子工学系，情報工学系，化学・生物工学系）に改組し現在に至っている。

・準学士課程教育の特色

大学入試から解放された５年間一貫教育の自由闊達な雰囲気を背景として，本校は低学年から専門分野への導入教育を行う一方，教養科目の充実を図り，広い知識と豊かな教養を身につけることに配慮したカリキュラムを実施している。また，実験実習やクラブ活動を重視し，実践的な技術者，行動的な職業人の育成を目指している。

開校以来，6,500名以上の卒業生を実践的技術者として社会に送り出し，高い評価を得ている。求人倍率は，高校・大学などの教育機関に比べ極めて高く，ほぼ100%の就職率を堅持している。これは，本校の教育理念（Ⅱ　目的参照）の実践によりもたらされた結果である。なお，卒業後の進路は，就職者は約60%であり，専攻科への進学および大学３年生への編入学者は約40%である。

・専攻科課程教育の特色

カリキュラム構成に大きな特徴を有する。専攻科課程では，準学士課程で修得した専門分野をさらに深く学修するとともに，総合創造演習，総合創造実験のような他分野の実験実習を取り入れ，総合的かつ複合型実践教育を実施している。さらにコミュニケーション能力，プレゼンテーション能力の養成に注力し，学協会等での研究成果の発表およびTOEIC 400点相当以上の学力修得を課している。これらにより，近年の高度で複雑かつ国際化した技術に対処できる，問題解決能力を備えた創造性豊かなもの創り技術者の養成を目指す課程としている。

Ⅱ　目的

「地球的視野で人類の幸福のため社会に貢献できる人材の育成を使命とし，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的」として，本校では次の教育理念，目標を掲げている。

１．教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

２．教育目標

２．１．佐世保高専準学士課程の教育目標

（１）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。

（２）高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。

（３）実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。

（４）論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成する。

（５）情報技術の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。

（６）豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

２．２．各学科の教育目標

一般科目，各学科，専攻科は各種資格の獲得を奨励するとともに教育目標を次のように掲げている。

（１）一般科目

①人文・社会・保健体育系科目を充実し，心身ともに豊かな人間性と倫理観を育成する。

②理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し，理論と実践に導かれた創造性と実践力を育成する。

③日本語・英語教育を充実し，国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼテーション能力の向上を図り人間力を育成する

④「くさび形」教育課程の長所を活かして，専門科目との連携・融合を図り，専門科目学習への動機づけを推進する。

（２）各学科の教育目標

各学科共通の目標としては，次の項目が挙げられる。

①応用数学，応用物理，情報処理などの基礎科学を充実し，工業の基礎となる各学科特有の基礎科目を修得することにより，技術者としての基礎能力を育成する。

②創作実習・工作実習・工学実験などの実技演習科目を早期から習得することにより，計画，遂行，データ解析などの実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。

さらに，各学科は学科独自の目標として次のことを掲げている。

①機械工学科では，材料学などの専門科目の他，電気電子工学，制御工学などを修得し，メカトロニクス技術とシステムデザイン能力を育成する。

②電気電子工学科では，電力工学などの電気系分野，電子工学などの電子系分野および通信工学・情報工学などの情報･通信分野の３分野での幅広い能力を養成し,自身で課題の追求や解決できる技術者を育成する。

③電子制御工学科では，専門科目のほか機械概論などを修得し，情報制御技術の総合化と電子制御システムの創成能力を育成する。

④物質工学科は４年から物質，生物の２コースに分かれる。物質系では無機，有機などの専門科目を修得し，生物系では化学を基礎に生物工学や培養，遺伝子工学の修得を通じて，化学，医薬品，食品工業界で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者を育成する。

２．３．専攻科の教育目標

準学士課程教育を基礎に専攻科課程では，さらに２ヶ年の教育課程での目標を次のように掲げている。

①自己の専門分野（機械工学・電気電子工学・物質工学）について，より深い専門性を養う。

②他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ，複合化、高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。

③ 地球的な視野での倫理観と豊かな創造性，実践力を養成する。

④ 国際水準の技術者を目指す。

２．４．専攻科の内容

専攻科では，グローバル化した社会において，高度化，複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために，各分野（機械工学，電気電子工学，情報工学，化学・生物工学）について深い専門性を養いつつ，先進的な他の専門分野の知識と技術を身につける複合的な教育を行うことにより，複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな，世界に通用する「もの創り技術者」を育成する。即ち，複眼的視野を有し，それぞれの専門分野で“もの創り”に対応できる技術者の育成を目指しており，専門分野（工学系）ごとの具体的内容は以下の通りである。

（１）機械工学系

あらゆる産業の根幹をなす機械工学では独創的研究開発を展開するための基礎科学である場の力学，粘性流体力学，熱流動工学，機械振動論などの力学関連の専門科目を中心に，機械要素の設計・製作・制御に関連した精密加工特論，工業計測学，メカトロニクス工学などを修得する。さらに，情報，バイオ，環境などの分野横断的な科目も修得することにより，先進的でシステムデザイン能力を有する技術者を養成する。

（２）電気電子工学系

エレクトロニクス・コンピュータ技術の基礎となる数理科学系科目を中心に，材料科学や生産システム工学など幅広い分野・領域の科目を修得し，産業界での設計・生産や研究開発分野の先進的技術者として，多面的かつ総合的に寄与できる基礎能力を涵養する。さらに，特別研究などを通じて，新規分野の開拓能力，高い問題解決能力を培い，システム創成能力を有する実践的技術者を養成する。

（３）情報工学系

コンピュータおよびネットワークなどの情報技術系およびものづくりの基盤となる電子制御系の専門科目を中心に，環境，バイオなどの学際的な科目を修得し，複眼的な視点を身に付ける。さらに特別研究などにより，情報技術と電子制御の融合技術，創成技術を修得する。これらの習得を通して，情報技術に関する高度な専門知識を，電子制御技術へ融合的に応用し，人にやさしい知的情報処理システムを創成できる研究開発型技術者を育成する。

（４）化学・生物工学系

付加価値の高い素材・製品の研究開発と生産技術を中心とする化学工業の分野と，医薬品等の製造で実用化が図られている先端的バイオ技術分野にわたって幅広い高度な専門知識を修得する。さらに，特別研究などを通じて環境・エネルギー問題への化学・生物学的見地から対処できる能力を養い，各種分析技術や材料開発を含めた関連の技術分野における開発・研究に従事できる創造的技術者を養成する。

２．５．卒業，修了時に達成される基本的な成果

本校の教育課程は，準学士課程，専攻科課程の教育目標にそって系統的に配置されている。これを低学年から順に学修することにより，以下の基本的成果を身につけることができる。

（１）準学士課程

明確な職業意識と自ら学習する能力，技術者としての基礎知識・技能，基礎学力・専門知識と専門技術及び自ら課題を探究し分析・解決する基礎能力，豊かな創造性と実践力，論理的思考力とコミュニケーション能力，情報技術と情報リテラシー，豊かな教養と倫理観などを身につけることができる。

（２）専攻科課程

準学士課程を基礎としたより深い専門知識・専門技術が身につく。さらに他の専門分野並びに総合創造実験，総合創造演習などを学修することにより複眼的な課題探求能力と問題解決能力，創造性・実践力の素養が身につく。また地球的視野と倫理観をもつ技術者として国際的に活躍できる基礎を身につけることができる。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校創設時に，高等専門学校の創設の趣旨である「中堅技術者の養成」及び学校教育法を踏まえて，本校の目的を次のように定めている。「教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有為な技術者を育成することを目的とする（資料１－１－①－１）。」本校では，この目的を創設当初から現在まで一貫して掲げている。

平成 12 年には，学校として養成しようとする人材像を学校の教育理念として定め，平成 14 年度にその教育理念を練り直し，準学士課程と専攻科課程に分けて再定義した（資料１－１－①－２）。さらに，卒業（修了）時に身につけるべき資質・学力を教育目標として本校全体及び専攻科課程に分けて定めている（資料１－１－①－３，４）。また，これらの資質・学力については，具体的に各学科の教育目標として別々に明確に定めている（資料１－１－①－５～９）。

これらは学校教育法 115 条の目的に対応している（資料１－１－①－10）。さらに専攻科課程では，日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に準じ，育成する技術者像を定めている（資料１－１－①－11）。また，これらの教育目標を達成する為に，５ヵ年中期計画を定めている（資料１－１－①－12（別添１－１））。

観点１－１－①資料一覧

（資料１－１－①－１）	学則（学校の目的）	出典：佐世保高専規程集
（資料１－１－①－２）	教育理念	出典：学校要覧
（資料１－１－①－３）	教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－４）	専攻科課程　教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－５）	準学士課程　一般科目教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－６）	準学士課程　機械工学科教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－７）	準学士課程　電気電子工学科教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－８）	準学士課程　電子制御工学科教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－９）	準学士課程　物質工学科教育目標	出典：学校要覧
（資料１－１－①－10）	学校教育法 115 条と目的の対応	出典：総務課資料
（資料１－１－①－11）	JABEE 認定技術者教育プログラム	出典：学校要覧
（資料１－１－①－12）	佐世保高専第２期中期目標・中期計画	出典：総務課資料

資料１－１－①－１

佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有為な技術者を育成することを目的とする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料１－１－①－２

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。 さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－３

教育目標

１）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。
２）高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。
３）実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。
４）論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成する。
５）情報処理の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。
６）豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類のために貢献できる能力を養成する。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－４

専攻科課程　教育目標

① 自己の専門分野（機械工学，電気電子工学，情報工学，化学・生物工学）について，より深い専門性を養う。
② 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ，複合化，高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力を養成する。
③ 地球的な視野での倫理観と豊かな創造性，実践力を養成する。
④ 国際水準の技術者を目指す。（JABEE 認定，2005 年５月）

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－５

準学士課程　一般科目教育目標

1. 人文・社会・保健体育系科目を充実し，心身ともに豊かな人間性と倫理観を育成する。
2. 理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し，理論と実践に導かれた創造性と実践力を育成する。
3. 日本語・英語教育を充実し，国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を育成する。
4. 「くさび形」教育課程の長所を活かして，専門科目との連携・融合を図り，専門科目学習への動機づけを推進する。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－６

準学士課程　機械工学科教育目標

1. 応用数学，一般物理，情報処理などの基礎科学を充実し，工業の基礎となる材料力学・熱力学・流体工学・機構学など力学関連科目を修得することにより，技術者としての基礎能力を育成する。
2. 創作実習・工作実習・ものづくり総合実習・工学実験などの実技教育を早期から習得することにより，実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。
3. 設計製図・材料学・機械工作法・電気工学・制御工学などを修得し，メカトロニクス技術とシステムデザイン能力を育成する。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－７

準学士課程　電気電子工学科教育目標

1. 電気磁気学，電気回路の電気系基礎科目や応用数学，工業物理などの工業基礎科目を充実させるとともに，技術者としての強い責任感や倫理観を育成する。
2. 電気機器，高電圧工学，電気材料，電力工学，電気設計などの電気系分野や電子回路，電子工学，電子制御，電気電子計測などの電子系分野および通信工学，情報通信，電子計算機，情報工学，情報処理などの情報リテラシーおよび通信の３分野での幅広い能力を養成し自身で課題を追求し解決できる技術者を育成する。
3. 創作実習，電気工学実験や卒業研究などの実験実習の体験的学習を重視し，計画，遂行，データ解析，工学的考察および説明能力を育成する。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－８

準学士課程　電子制御工学科教育目標

1. 応用数学，一般物理，数値プログラミングなどの基礎科学を充実し，電子情報系の基礎となる電磁気学・電子回路・ソフトウェア科学・システムプログラム論などを体系的に修得することにより，情報システムを構築し，開発できる技術者としての基礎能力を育成する。
2. 創作実習・情報処理・工学実験などの実技演習科目を早期から修得させ，実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。
3. ロボット工学・計測工学・電子制御工学・工学基礎概論などを修得し，情報制御技術の総合化と電子制御システムの創成能力を育成する。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－９

準学士課程　物質工学科教育目標

1. 生物・応用数学・一般物理・情報処理などの基礎科学を充実し，物質・生物系の基礎となる無機・有機・物理・分析化学などを体系的に修得させ，物質の本質を理解し，新素材を開発できる技術者としての基礎能力を育成する。
2. 創作実習・情報処理・工学実験・化学機器などの実験演習を早期から修得させ，実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。
3. 物質系では，無機・有機・高分子材料の合成，分析，測定，評価法などを修得させ，生物系では，化学を基礎に生物工学や培養，遺伝子工学の修得を通じて，化学，医薬品，食品工業界で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者を育成する。

（出典　学校要覧）

資料１－１－①－10

学校教育法１１５条と目的の対応

「深く専門の学芸を教授」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
教育理念（準学士課程） 「ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，」	教育理念（準学士課程） 「創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる」
教育理念（専攻科課程） 「他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，」	教育理念（専攻科課程） 「複眼的視野をもつ」
教育目標（準学士課程）の２），３）	教育目標（準学士課程）の１），４）～６）
教育目標（専攻科課程）の①，②	教育目標（専攻科課程）の③，④
準学士課程各学科（機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科及び物質工学科）の教育目標	準学士課程一般科目の教育目標の１～３

（出典　総務課資料）

資料１－１－①－11

JABEE 認定 技術者教育プログラム（育成する技術者像）

グローバル化した社会において，高度化，複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために，各専門分野（機械工学，電気電子工学，物質工学）について深い専門性を養いつつ，先進的な他の専門分野の知識と技術も身につける複合的な教育を行うことにより，複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな，世界に通用する「もの創り技術者」を育成する。

（出典　学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，高等専門学校が社会において担う基本的な役割として，学校教育法に基づき学校の目的を定めている。また，学校の養成する人材像として教育理念を定め，これに基づき，卒業時に身につけるべき資質・学力としての教育目標を各学科，専攻科共に具体的に定めている。専攻科においては，日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に準じて，育成しようとする人物像も策定している。さらに，これらの目標を達成するため，５ヵ年の中期計画も策定している。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校の目的を本校ウェブサイト（資料１－２－①－１）に掲載している。また，教員必携及び学生便覧（資料１－２－①－２）にも掲載し，学則（資料１－２－①－３）に含む形となっている。教育理念と教育目標は，教員と事務部門に配布される学校要覧（資料１－２－①－４），全学生と教職員に配布している学生便覧（資料１－２－①－５）及び本校ウェブサイト（資料１－２－①－６）に掲載している。また，周知を図るために，教職員に本校の目的を記載したカード（資料１－２－①－７）を配布している。新任教員については，着任時に本校の目的の説明を行っている（資料１－２－①－８）。非常勤講師に対しては，教育目標一覧（資料１－２－①－９）とJABEE認定のパンフレットを年度当初に渡すことで周知を図っている。その他，全教員で行っている中学校訪問の事前説明会の際に，教育目標の再確認をしている。また，準学士課程の学生は，教育目標に対応した科目系統図（資料１－２－①－10）を用いて，成績確認（ポートフォリオ）の際に教育目標と取得科目の関係を確認している。

目標の周知程度を学校として把握するために，学校の教育目標に対する周知アンケートを全教職員及び全学生に対して行った（資料１－２－①－11）。この結果から，教育目標が概ね周知されていることが確認できる（資料１－２－①－12）。

観点１－２－①資料一覧

（資料１－２－①－１）	学校の目的	出典：本校ウェブサイト
（資料１－２－①－２）	学校の目的	出典：教員必携，学校要覧
（資料１－２－①－３）	学則（学校の目的）	出典：佐世保高専規程集
（資料１－２－①－４）	教育理念と教育目標	出典：学校要覧
（資料１－２－①－５）	教育理念と教育目標	出典：学生便覧
（資料１－２－①－６）	教育理念と教育目標	出典：本校ウェブサイト
（資料１－２－①－７）	教育目標カード	出典：総務課資料
（資料１－２－①－８）	新任教員に対する目的の周知資料	出典：教務主事室資料
（資料１－２－①－９）	教育目標一覧（非常勤講師用）	出典：学生課資料
（資料１－２－①－10）	教育目標に対応した科目系統図	出典：学生課資料
（資料１－２－①－11）	教育目標アンケート様式	出典：総務課資料
（資料１－２－①－12）	教育目標のアンケートの結果	出典：教育データベース

資料１－２－①－１

学校の目的

佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有為な技術者を育成することを目的とする。

（出典　本校ウェブサイト）

資料１－２－①－２

学校の目的

佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有為な技術者を育成することを目的とする。

（出典　教員必携，学校要覧）

資料１－２－①－３

第１章　目的

（目的）

第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有為な技術者を育成することを目的とする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料１－２－①－４

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。

さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

教育目標

１）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。
２）高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。
３）実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。
４）論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成する。
５）情報技術の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。
６）豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

（出典　学校要覧）

資料１－２－①－５

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。

さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

教育目標

１）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。
２）高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。
３）実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。
４）論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成する。
５）情報技術の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。
６）豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

（出典　学生便覧）

資料１－２－①－６

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。

さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

教育目標

１．ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。

２．高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。

３．実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。

４．論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成する。

５．情報技術の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。

６．豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

（出典　本校ウェブサイト）

資料１－２－①－７

教育目標カードの表示内容

（表）

佐世保高専の教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。

さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

佐世保高専の教育目標

1．ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。
2．高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。
3．実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する
4．論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を育成する。
5．情報技術の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。
6．豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

（裏）

佐世保高専（専攻科）の教育目標

1．自己の専門分野（機械工学，電気電子工学，情報工学，化学・生物工学）について，より深い専門性を養う。
2．他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ，複合化，高度化した工業分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する
3．地球的な視野での倫理観と豊かな創造性，実践力を養成する。
4．国際水準の技術者を目指す。（JABEE 認定，2005 年５月）

（出典　総務課資料）

資料１－２－①－８

新任教員に対する目的の周知資料

1. 教育目標(本科)

1）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な**職業意識、学習意欲**を養成する

2）高度科学技術を中核となって推進するための**基礎知識**と**基礎技能、専門知識**を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を育成する

3）実験実習など体験学習を重視して、豊かな**創造性**と**実践力**を養成する

教育目標(本科)

4）**論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力**を養成する

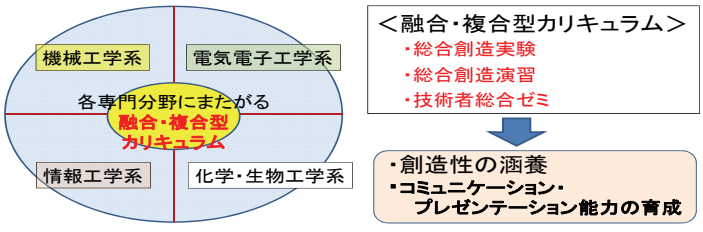
5）情報技術の進展に対応できるよう、全学科おいて**情報リテラシー**の向上をはかる

6）**豊かな教養と倫理観**を身につけ、**地球的な視野**で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する

専攻科の教育

【教育目標】
① 自己の専門分野について、より深い専門性を養う。
② 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ、複合化、高度化した工業分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。
③ 地球的な視野での倫理観と豊かな創造性、実践力を養成する。
④ 国際水準の技術者を目指す。

JABEE認定教育プログラム「複合型もの創り工学」



＜融合・複合型カリキュラム＞
・総合創造実験
・総合創造演習
・技術者総合ゼミ

・創造性の涵養
・コミュニケーション・
プレゼンテーション能力の育成

（出典　教務主事室資料）

資料１－２－①－９

佐世保高専の教育目標について

平成○○年４月○日

非常勤の先生方へ

本校の本科、専攻科の教育目標について以下のようになっております。シラバス作成の際に参考にしていただけると助かります。

学校の目的

佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有為な技術者を育成することを目的とする。

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して、ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性を備え、社会に貢献できる人材を育成する。

さらに専攻科では、他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、７年間に亘る一貫教育を行い、複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

準学士課程　教育目標

1. ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。
2. 高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探究し、解決できる能力を養成する。
3. 実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。
4. 論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。
5. 情報処理の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。
6. 豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類のために貢献できる能力を養成する。

準学士課程　一般科目教育目標

1. 人文・社会・保健体育系科目を充実し、心身ともに豊かな人間性と倫理観を育成する。
2. 理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し、理論と実践に導かれた創造性と実践力を育成する。
3. 日本語・英語教育を充実し、国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を育成する。
4. 「くさび形」教育課程の長所を活かして、専門科目との連携・融合を図り、専門科目学習への動機づけを推進する。

準学士課程　機械工学科教育目標

1. 応用数学、一般物理、情報処理などの基礎科学を充実し、工業の基礎となる材料力学・熱力学・流体工学・機構学など力学関連科目を修得することにより、技術者としての基礎能力を育成する。
2. 創作実習・工作実習・ものづくり総合実習・工学実験などの実技教育を早期から習得することにより、実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。
3. 設計製図・材料学・機械工作法・電気工学・制御工学などを修得し、メカトロニクス技術とシステムデザイン能力を育成する。

準学士課程　電気電子工学科教育目標

1. 電気磁気学、電気回路の電気系基礎科目や応用数学、応用物理などの工業基礎科目を充実させるとともに、技術者としての強い責任感や倫理観を育成する。
2. 電気機器、高電圧工学、電気材料、電力工学、電気設計などの電気系分野や電子回路、電子工学、電子制御、電気電子計測などの電子系分野及び通信工学、情報通信、電子計算機、情報工学、情報処理などの情報リテラシーおよび通信の３分野での幅広い能力を養成し自身で課題を追求し解決できる技術者を育成する。

3．創作実習、電気工学実験や卒業研究などの実験実習の体験的学習を重視し、計画、遂行、データ解析、工学的考察および説明能力を育成する。

準学士課程　電子制御工学科教育目標

1．応用数学、一般物理、数値プログラミングなどの基礎科学を充実し、電子情報系の基礎となる電磁気学・電子回路・ソフトウェア科学・システムプログラム論などを体系的に修得することにより、情報システムを構築し、開発できる技術者としての基礎能力を育成する。
2．創作実習・情報処理・工学実験などの実技演習科目を早期から修得させ、実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。
3．ロボット工学・計測工学・電子制御工学・工学基礎概論などを修得し、情報制御技術の総合化と電子制御システムの創成能力を育成する。

準学士課程　物質工学科教育目標

1．生物・応用数学・一般物理・情報処理などの基礎科学を充実し、物質・生物系の基礎となる無機・有機・物理・分析化学などを体系的に修得させ、物質の本質を理解し、新素材を開発できる技術者としての基礎能力を育成する。
2．創作実習・情報処理・工学実験・化学機器などの実験演習を早期から修得させ、実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する
3．物質系では、無機・有機・高分子材の合成、分析、測定、評価法などを修得させ、生物系では、化学を基礎に生物工学や培養、遺伝子工学の修得を通じて、化学、医薬品、食品工業界で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者を育成する。

専攻科課程　教育目標

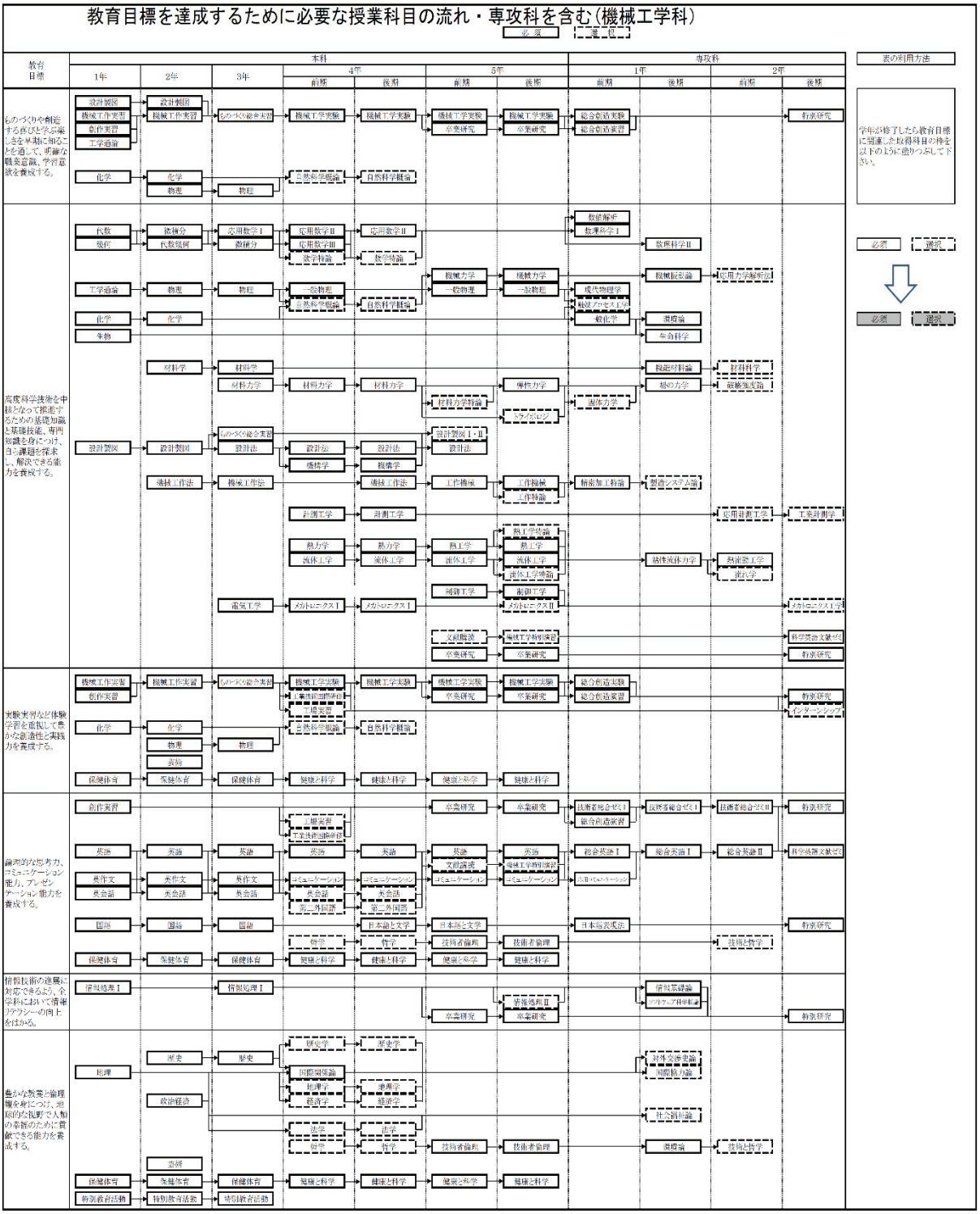
1．自己の専門分野（機械工学・電気電子工学・物質工学）について、より深い専門性を養う。
2．他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ、複合化、高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。
3．地球的な視野での倫理観と豊かな創造性、実践力を養成する。
4．国際水準の技術者を目指す。（JABEE 認定，2005 年５月）

専攻科課程　一般科目・専門基礎共通科目教育目標

1．線形代数、確率・統計、数値解析、現代物理などの専門基礎科目を修得し、高度専門職業人としての基礎能力を養う。
2．日本語表現法、総合英語、応用コミュニケーションの語学教育により、国際的に通用するコミュニケーション能力を養い、技術と哲学、環境論、国際関係論などの科目を修得し、地球的視野で技術と社会の共生を追求しグローバルな視点をもつ技術者を育成する。
3．技術者総合ゼミ、総合創造実験、総合創造演習などの複合科目では、３専攻の専門分野をコラボレートし、システム創成能力と複眼的な問題解決能力を養う。

（出典　学生課資料）

資料１－２－①－10



（出典　学生課資料）

資料１－２－①－11

佐世保工業高等専門学校　機械工学科　教育目標アンケート

このアンケートは皆さんが本校の教育目標をどの程度知っているか調査するものです。
次の選択肢の中から1つだけ選び、該当の番号の 0 の部分を黒のペンか鉛筆で塗りつぶしてください
1:全然知らない　2:少し知っている　3:ある程度知っている　4:よく知っている

１．学校の教育目標

		1	2	3	4
1)	ものづくりや創造する喜びと楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	0	0	0	0
2)	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。				
3)	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。				
4)	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。				
5)	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。				
6)	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。				

２．一般科目の教育目標

		1	2	3	4
1)	人文・社会・保健体育系科目を充実し、心身ともに豊かな人間性と倫理観を育成する。	0	0	0	0
2)	理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し、理論と実践に導かれた創造性と実践力を育成する。				
3)	日本語・英語教育を充実し、国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を育成する。				
4)	「くさび形」教育課程の長所を活かして、専門科目との連携・融合を図り、専門科目学習への動機づけを推進する。				

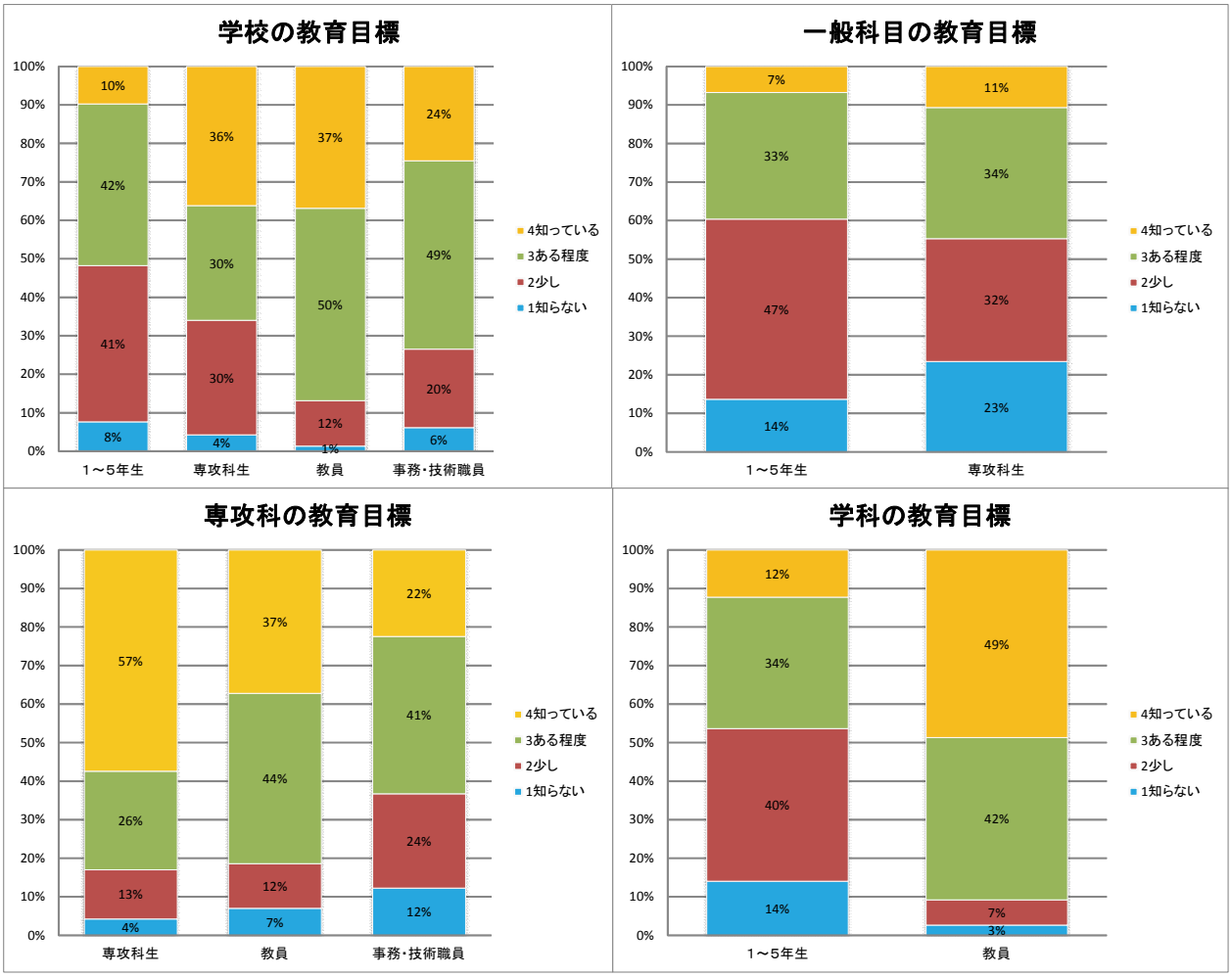
３．機械工学科の教育目標

		1	2	3	4
1)	応用数学、応用物理、情報処理などの基礎科学を充実し、工業の基礎となる材料力学・熱力学・流体工学・機械運動学など力学関連科目を修得することにより、技術者としての基礎能力を育成する。	0	0	0	0
2)	創作実習・工作実習・工学実験などの実技教育を早期から修得することにより、実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。				
3)	設計製図・材料学・機械工作法・電気電子工学・制御工学などを修得し、メカトロニクス技術とシステムデザイン能力を育成する。				

（出典　総務課資料）

資料１－２－①－12

学校の教育目標のアンケート結果



（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

教職員に対する目的の周知は，学校要覧や本校ウェブサイトにより行なわれている。学生に対しては，目的が記載してある学生便覧と本校ウェブサイトにより行われており，成績確認の際に，教育目標と修得科目の対応を再確認する取り組みが行われている。教育目標に対するアンケート結果から，その周知が適切に行われていることがわかる。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校の目的，教育理念及び教育目標を全て本校ウェブサイト（資料１－２－①－１参照，資料１－２－①－６参照）に掲載することにより，社会に対して公表している。平成24年度においては，学校の目的と準学士課程の教育目標が記載されている学校要覧（資料１－１－①－２～９参照）を地域企業や教員訪問先企業，外部評価委員及び報道機関等に例年300部程度を配布している（資料１－２－②－１）。250社以上の工場実習依頼先企業（資料１－２－②－２）に対しては，教育理念（資料１－２－②－３）と専攻科で育成する技術者像（資料１－２－②－４）を記載したリーフレットを送付している。また，準学士課程の募集要項には本校の目的が掲載されており，長崎県，佐賀県，福岡県の中学校全てに配布（計294部）しており，長崎・佐賀の市町村教育委員会及び報道機関等に配布（計109部）している。同様に，本校の目的が記載されている編入学の募集要項を長崎・佐賀県等の高等学校全て(計117部)及び報道機関等に配布(計27部)している。さらに，専攻科の目的が記載された専攻科の募集要項を企業や報道機関等に配布(計76部)し，本校の目的の公表を広く行っている。

観点１－２－②資料一覧

（資料１－２－②－１）	平成 24 年度学校要覧受払簿	出典：総務課資料
（資料１－２－②－２）	工場実習依頼文書発送先会社リスト	出典：学生課資料
（資料１－２－②－３）	教育理念	出典：佐世保高専リーフレット
（資料１－２－②－４）	JABEE 認定技術者教育プログラム	出典：佐世保高専リーフレット

資料１－２－②－1

H24.学校要覧受払簿

日付	配布先	担当係	部数	残部数
8/2	納品			400
〃	教員(67)係長以上(16)校務長	総務係	84	316
〃	情報サービス係	〃	1	315
〃	教務主事	〃	1	314
8/3	永田 和也	人事	1	313
8/6	NTC	企画係	20	293
8/6	南部(E科学科長)		3	290
8/17	高専テクノフォーラム	企画係	10	280
8/20	永田和也	人事係	1	279
8/27	本部施設係	施設	2	277
8/30		総務係	1	276
9/5	企業	南部	2	274
9/7	総務課長		1	273
9/11	企業	南部	1	272
9/12	〃 (フレッシュワーク)	木寺	1	271
9/19	高専機構(学生授与機構)	時田	3	268
9/20	企業	南部	1	267
9/28	10/1 採用職員	古賀	2	265
10/15	津川 初美	企画	1	264
10/17	生活支援係	福野	1	263
10/23	高専キコウ	中田	1	262
10/24	企業	南部	2	260
10/26	九州大学他2名	総務課長	3	257
11/10	小原先生	総務係	1	256
11/21	企業	南部	2	254
12/3	鶴田	中里	1	253
12/3	九州総合通信局	南部	2	251
12/6	中国電力	福野	1	250
12/14	古川先生	竹田	1	249
12/17	川副係長	竹田	4	245
12/19	長嶋先生	竹田	2	243
12/19	古川先生	高木	1	242
12/21	濱田 良	高木	1	241
12/25	松尾先生	太田	1	240
1/8	学生課 松尾補佐	長谷川	2	238
1/31	学生課 森さん	竹田	1	237
2/12	宮成課長	竹田	5	232
2/12	高比良ホサ	高木	1	231
2/12	NTC	企画係	30	201
2/15	NTC	〃	1	200

日付	配布先	担当係	部数	残部数
3/19	ラビサセボ	総務	1	199
〃	外部評価委員会	〃	33	166
3/21	技術室 久保	〃	5	161
3/27	学生課	〃	2	159
〃	総務係 浦上さん	〃	2	157
3/29	国吉 学増さん	〃	1	156
4/1	総務・古賀	〃	5	154
4/4	米軍内小学校	企画係	4	147
4/5	モンゴル(久留須先生)	〃	10	137
4/7	重松先生	総務	6	131
4/11	兼田先生	〃	1	130
4/23	須田(義)先生	人事	3	127
4/26	長嶋先生	総務	3	124

（出典　総務課資料）

資料１－２－②－２

工場実習依頼文書発送会社リスト

No.	会社名		所属部局	担当者
1	アール・ケー・ビー毎日放送株式会社	ｱｰﾙｹｰﾋﾞｰ	技術局　技術管理部	インターンシップ担当者
2	相浦缶詰株式会社	ｱｲﾉｳﾗ	人事部	インターンシップ担当者
3	旭化成株式会社	ｱｻﾋｶｾｲ	人財・労務部	採用GR　高専担当者
4	旭化成ケミカルズ株式会社	ｱｻﾋｶｾｲｹﾐｶﾙｽﾞ	経営総括部　人事室	インターンシップ担当者
5	株式会社　アステック	ｱｽﾃｯｸ	総務部	インターンシップ担当者
6	株式会社　アトックス	ｱﾄｯｸｽ	人事労務部	インターンシップ担当者
7	アリアケジャパン株式会社	ｱﾘｱｹｼﾞｬﾊﾟﾝ	総務課	インターンシップ担当者
8	アルパック九州株式会社	ｱﾙﾊﾟｯｸ	総務部　総務課	インターンシップ担当者
9	イサハヤ電子株式会社	ｲｻﾊﾔ	人事部	インターンシップ担当者
10	石川精機株式会社	ｲｼｶﾜｾｲｷ	総務部	インターンシップ担当者
11	いすゞエンジニアリング株式会社	ｲｽｽﾞｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	デジタル技術部	インターンシップ担当者
12	出光興産株式会社　徳山製油所	ｲﾃﾞﾐﾂｺｳｻﾝ	人事課	インターンシップ担当者
13	伊藤忠エネクス株式会社	ｲﾄｳﾁｭｳ		インターンシップ担当者
14	伊万里市役所	ｲﾏﾘｼ	企業誘致・商工振興課	インターンシップ担当者
15	岩尾磁器工業株式会社	ｲﾜｵｼﾞｷｺｳｷｮｳ	総務部	インターンシップ担当者
16	岩谷ガス株式会社	ｲﾜﾀﾆｶﾞｽ		インターンシップ担当者
17	株式会社　ウラノ	ｳﾗﾉ		インターンシップ担当者
18	株式会社　エーピーアイ　コーポレーション	ｴｰﾋﾟｰｱｲ	吉富工場　業務部	インターンシップ担当者
19	江川自動車整備工場	ｴｶﾞﾜｼﾞﾄﾞｳｼｬ		インターンシップ担当者
20	エコー電子工業株式会社	ｴｺｰ		インターンシップ担当者
21	株式会社　エス・イー・シー・ハイテック	ｴｽｲｰｼｰ	総務部	インターンシップ担当者
22	SMC株式会社	ｴｽｴﾑｼｰ	総務部　人事グループ	インターンシップ担当者
23	株式会社　エヌアイデイ	ｴﾇｱｲﾃﾞｲ		インターンシップ担当者
24	NECネッツエスアイエンジニアリング株式会社	ｴﾇｲｰｼｰﾈｯﾂｴｽｱｲ		インターンシップ担当者
25	NHK長崎放送局	ｴﾇｴｲﾁｹｲ	企画総務	インターンシップ担当者
26	NTTコミュケーションズ株式会社	ｴﾇﾃｨﾃｨ	ヒューマンリソース部　人事人材開発部門	インターンシップ担当者
27	株式会社　荏原製作所　精密・熊本工場	ｴﾊﾗｷｭｳｼｭｳ	総務・管理グループ	インターンシップ担当者
28	株式会社　エム・システム技研	ｴﾑｼｽﾃﾑｷﾞｹﾝ	総務部	インターンシップ担当者
29	王子板紙株式会社　佐賀工場	ｵｳｼﾞｲﾀｶﾞﾐ		インターンシップ担当者
30	大分キヤノン株式会社	ｵｵｲﾀｷｬﾉﾝ	製造技術センター	インターンシップ担当者
31	大阪ガス株式会社	ｵｵｻｶｶﾞｽ	人事部	インターンシップ担当者
32	大阪鋼管株式会社	ｵｵｻｶｺｳｶﾝ	総務課	インターンシップ担当者
33	株式会社　大島造船所	ｵｵｼﾏｿﾞｳｾﾝ	人事部	インターンシップ担当者
34	大塚製薬株式会社	ｵｵﾂｶｾｲﾔｸ	佐賀工場	インターンシップ担当者
35	株式会社　オプティム	ｵﾌﾟﾃｨﾑ	経営企画・管理グループマネージャー	インターンシップ担当者
36	オムロン株式会社	ｵﾑﾛﾝ	経営資源革新本部　人財センタ人財開発部	インターンシップ担当者
37	オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社	ｵﾑﾛﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ	人事部	インターンシップ担当者
38	花王株式会社　和歌山工場	ｶｵｳ	社会関連勤労	インターンシップ担当者
39	株式会社　カネカ	ｶﾈｶ	人事部	インターンシップ担当者

（出典　学生課資料　抜粋）

資料１－２－②－３

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。

さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

（出典　佐世保高専リーフレット）

資料１－２－②－４

JABEE 認定 技術者教育プログラム（育成する技術者像）

グローバル化した社会において，高度化，複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために，各専門分野（機械工学，電気電子工学，物質工学）について深い専門性を養いつつ，先進的な他の専門分野の知識と技術も身につける複合的な教育を行うことにより，複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな，世界に通用する「もの創り技術者」を育成します。

（出典　佐世保高専リーフレット）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的，教育理念及び教育目標を全て本校ウェブサイト等に掲載している。また，本校の目的については学生募集要項にも掲載し，長崎・佐賀県の中学校や高校，報道機関等に配布している。さらに，専攻科の目的及び教育目標に関しても学生募集要項に掲載し，報道機関等に配布している。また，多数の企業に学校要覧を配布するなど，本校の目的を広く公表している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校ウェブサイトや学校要覧や募集要項など，様々な媒体で目的の公表を広く行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準１の自己評価の概要

本校では，創設時に学校の目的を定め，それが現在に至るまで貫かれている。また，学校ならびに学科ごとに養成したい人材像を定めるとともに，卒業（修了）時に身につけるべき資質・学力を定め，学生が本校において学修する際の具体的な指針を示している。これらの学校の目的は，高等専門学校の設置の趣旨及び学校教育法における高等専門学校の目的を踏まえて定められており，教育理念及び教育目標についても学校の目的との関連を考慮して策定されている。

これらの目的，教育理念，教育目標を構成員（教職員及び学生）に対して周知させる取り組みは適切に行われており，アンケートによりその周知の状況を把握している。また，これらの目的は本校ウェブサイトや募集要項や学校要覧等に掲載されており，社会に対して広く公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では，教育理念（資料２－１－①－１）である「ものつくりの基盤を支える専門技術者を育成する」ことを目的に，機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，物質工学科の４学科を設置している（資料２－１－①－２）。各学科は高等専門学校の設置基準の規定に適合するように，資料２－１－①－３に示される特色のある専門分野を教育するために組織されている。各学科の教育目標は，本校の教育目標を考慮して作成されている（資料２－１－①－４）。

平成24年度の準学士課程の求人倍率（資料２－１－①－５），求人会社数（資料２－１－①－６）を見ると，各学科とも求人倍率は高く，各学科の構成は社会のニーズに適したものとなっている。また，地域の大学や企業等の外部有識者により構成される外部評価委員会が５年毎に開催され，教育に関して高い評価を得ている（資料２－１－①－７）。

観点２－１－①資料一覧

（資料２－１－①－１）	教育理念	出典：学校要覧
（資料２－１－①－２）	学則（学科の構成）	出典：佐世保高専規程集
（資料２－１－①－３）	学科の概要	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－①－４）	各学科の教育目標と学校の教育目的の対応	出典：学生課資料
（資料２－１－①－５）	準学士課程の求人倍率	出典：教育データベース
（資料２－１－①－６）	準学士課程の求人会社数	出典：教育データベース
（資料２－１－①－７）	平成 24 年度　外部評価報告書	出典：外部評価報告書

資料２－１－①－１

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して，ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ，創造性と実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する。 さらに専攻科では，他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて，７年間に亘る一貫教育を行い，複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

（出典　学校要覧　抜粋）

資料２－１－①－２

佐世保工業高等専門学校学則

組織

（学科，学級数及び入学定員）

第２条　本校に，次の学科を置く。

機械工学科

電気電子工学科

電子制御工学科

物質工学科

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料２－１－①－３

学科の概要

機械工学科

人間は社会生活をより快適にするために，多くの「物」を作ってきた。機械工学はこれらの物づくりのための設計・製作とこれらの製品の利用・管理を行う総合的な技術である。

近年の機械システムの高機能化，知能化に備えて，また技術のグローバル化に対応して，種々の困難な問題に遭遇したとき，独創的発想で解決できる能力を養うため，応用数学，応用物理などの基礎科目，材料力学，機械力学，熱力学及び流体力学などの力学科目ならびに材料学，機械工作法，機械運動学，設計法，計測工学などの開発・設計・加工に関する機械工学本来の専門科目に加え，情報処理，制御工学，電気工学，電子工学，メカトロニクス，工業化学，生命工学など機械工学に関連する周辺の広い分野の科目を取り入れた教育を行っている。

また知識教育に偏ることなく，設計製図，機械工作実習，機械工学実験などの実技教育を充実させ，豊かな人間性を育むための教養教育を尊重し，さらにクラブ活動を奨励し，人間社会と自然環境の調和を図りながら，真に人間に有用な物づくりとは何かということを，広い視野のもとに的確に判断し，高い理想と信念を持って実行できる心身共に健全でバランスの取れた国際性豊かな機械技術者を育成する。

また，実践的能力を育成するため，機械設計技術者検定３級，危険物取扱者検定乙種，実用英語検定２級，工業英語検定２級，情報処理技術者検定２級などの資格が取得できるよう指導している。 なお，機械技術に関する国家試験等の資格取得には多くの場合，実務経験を要求されるため，学生時代に取得できるものは極めて少ないが，社会に出て実務経験を積んだとき，容易に資格を取得できる学力が身につくよう教育している。

電気電子工学科

将来，社会の変動に対応して，強い責任感と高い倫理性をもって行動し，研究開発，設計，生産技術，フィールドエンジニアリングなどの分野で社会に貢献できる技術者を育成する。また，将来にわたって自己啓発と学習を継続し，独立してまたは人と協力して問題解決にあたることのできる基礎学力と専門知識の修得を目指す。

まず，応用数学，応用物理，情報処理，機械工学概論などを学習することによって工業基礎学力を身につける。また，電気的基礎学力を修得するために，電磁気学，電気回路，電子回路，電子工学，制御工学，情報工学，電気工学実験などを学習する。これらの基礎学力を確実に身につけた後，さらに高度な専門知識を修得するために，電気計測，電気機器，電子計算機，電子制御，通信工学，情報通信，電気材料，高電圧工学，電気設計などの科目が開設されている。

また，最新の知識の修得や各種の公的資格取得のため，選択科目として電力工学，応用通信工学，システム工学，電気法規・電気施設管理，光子工学，情報システムなどが開設されている。卒業研究は創造性の育成や課題探求能力・プレゼンテーション能力の開発のために不可欠なものと位置づけている。

本学科在学中に取得できる資格として，第２種電気主任技術者試験，第１級陸上無線技術士試験，第２種情報技術者試験，ラジオ・音響技能検定試験２級，デジタル技術検定試験２級，工事担任者試験，英語検定試験２級などがあり，これら公的認定試験のうち少なくとも２ないし３の資格を取得できるよう指導している。

資料２－１－①－３続き

電子制御工学科

現代の高度文明社会はコンピューターを用いた制御技術なしには成り立たない。身近な生活の例では，最新型の洗濯機や冷蔵庫，炊飯器などはコンピューターにより制御されている。インターネット，携帯電話，カーナビなどはコンピューターに直結しており，これらをつくる工場もコンピューターにより制御されている。　私たちは，家にいるときも，働いているときも，買い物をしているときも，自動車の中でも，新幹線の中でも，飛行機の中でも，宇宙に飛び立つ人工衛星の中でも，あらゆる分野で情報・通信技術，電気・電子技術，制御技術を頼りにしている。これらの技術分野の進歩は極めて急速であるから，これらに対応できる基礎知識と応用力，開発力を備えた技術者の育成が強く求められている。

電子制御工学科では，急速な情報・制御技術の進歩に対応できるように，この分野の基礎から応用まで理論と実験・実習の両面から教育を行っている。そのために，低学年では，基礎電気工学・電気工学等で電気・電子技術の基礎教育，情報処理で情報技術の基礎教育を行う。高学年では，

（１）電気回路・電気磁気学・工学実験等で高度な電気・電子技術，
（２）電子計算機・知識工学・画像工学・工学実験等に通信工学を加えて情報・通信技術，
（３）電子制御工学・ロボット工学・工学実験

等で制御技術の教育を行っている。

これらを３本柱として，コンピューターを中心に電気電子・制御技術を応用し，人類にとって価値の高い自動化システムや人工知能システムを開発できる技術者の育成を目指している。さらに，急速な技術の進歩に柔軟に対応でき，社会的な責任感を備えた技術者の養成をも目標に掲げている。

物質工学科

現代のわれわれの生活を支えている食料をはじめ自動車や航空機などの輸送機器，電気機器，情報機器，医療機器にいたるまですべては物質から成り立っている。最近では医学や農学の分野で発展した遺伝子操作などのバイオテクノロジーにおける新技術の工学への応用が物質・材料系技術者に期待されている。

一方，20 世紀における物質文明の発展の反面として現れた地球規模での環境汚染や資源枯渇，人口増加などの問題がある。さらに近年，わが国の工業は重厚長大型から軽薄短小型へと移行しつつあり，これにともない物質の分野では新素材の開発や省資源型エネルギーの開発などに重点が置かれるようになっている。

物質工学科ではこれらの状況に対応するため，先端的な有機材料，無機材料の研究開発を中心とした物質コース，生命工学の知識や技術などの修得を中心とした生物コースの２コース制をとっている。　両コースに共通の工学基礎として，数学，物理，化学，生物，情報処理などを学習し，さらに物質の本質を理解するために有機・無機化学，物理化学，分析化学などを学ぶ。
　また，物質の社会的利用形態や利用方法，経済性などを理解するための化学工学，物質と環境との調和や物質の安全性についての理解を深める環境工学についても学習する。

物質コースでは，無機・有機・高分子材料の合成，分析，物性測定，機能性評価などについて学び，生物コースでは，化学に基礎をおいた生物工学（生体触媒や生物反応など）や培養，遺伝子工学などについて学習する。
　それぞれの分野における専門知識の修得を通して，将来，化学，医薬品，食品工業における研究開発や生産分野で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者の養成を目標としている。

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－①－４

準学士課程　各学科の教育目標と学校の教育目的の対応

佐世保工業高等専門学校　教育目標
1）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して，明確な職業意識，学習意欲を養成する。 2）高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能，専門知識を身につけ，自ら課題を探究し，解決できる能力を養成する。 3）実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。 4）論理的な思考力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成する。 5）情報処理の進展に対応できるよう，全学科において情報リテラシーの向上をはかる。 6）豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類のために貢献できる能力を養成する。

準学士課程　一般科目教育目標	学校教育目標との対応
1．人文・社会・保健体育系科目を充実し，心身ともに豊かな人間性と倫理観を育成する。	3），4），6）
2．理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し，理論と実践に導かれた創造性と実践力を育成する。	2），3）
3．日本語・英語教育を充実し，国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を育成する。	4）
4．「くさび形」教育課程の長所を活かして，専門科目との連携・融合を図り，専門科目学習への動機づけを推進する。	2）

準学士課程　機械工学科教育目標	学校教育目標との対応
1．応用数学，一般物理，情報処理などの基礎科学を充実し，工業の基礎となる材料力学・熱力学・流体工学・機構学など力学関連科目を修得することにより，技術者としての基礎能力を育成する。	2），5）
2．創作実習・工作実習・ものづくり総合実習・工学実験などの実技教育を早期から習得することにより，実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。	1），3），4）
3．設計製図・材料学・機械工作法・電気工学・制御工学などを修得し，メカトロニクス技術とシステムデザイン能力を育成する。	2）

資料２－１－①－４続き

準学士課程　電気電子工学科教育目標	学校教育目標との対応
１．電気磁気学，電気回路の電気系基礎科目や応用数学，工業物理などの工業基礎科目を充実させるとともに，技術者としての強い責任感や倫理観を育成する。	２）
２．電気機器，高電圧工学，電気材料，電力工学，電気設計などの電気系分野や電子回路，電子工学，電子制御，電気電子計測などの電子系分野および通信工学，情報通信，電子計算機，情報工学，情報処理などの情報リテラシーおよび通信の３分野での幅広い能力を養成し自身で課題を追求し解決できる技術者を育成する。	２），５），３）
３．創作実習，電気工学実験や卒業研究などの実験実習の体験的学習を重視し，計画，遂行，データ解析，工学的考察および説明能力を育成する。	１），３），４）

準学士課程　電子制御工学科教育目標	学校教育目標との対応
１．応用数学，一般物理，数値プログラミングなどの基礎科学を充実し，電子情報系の基礎となる電磁気学・電子回路・ソフトウェア科学・システムプログラム論などを体系的に修得することにより，情報システムを構築し，開発できる技術者としての基礎能力を育成する。	２），５）
２．創作実習・情報処理・工学実験などの実技演習科目を早期から修得させ，実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。	１），３），４），５）
３．ロボット工学・計測工学・電子制御工学・工学基礎概論などを修得し、制御技術の総合化と電子制御システムの創成能力を育成する。	２）

準学士課程　物質工学科教育目標	学校教育目標との対応
１．生物・応用数学・一般物理・情報処理などの基礎科学を充実し，物質・生物系の基礎となる無機・有機・物理・分析化学などを体系的に修得させ，物質の本質を理解し，新素材を開発できる技術者としての基礎能力を育成する。	２），５）
２．創作実習・情報処理・工学実験・化学機器などの実験演習を早期から修得させ，実践力や創造性を培い，卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。	１），３），４），５）
３．物質系では，無機・有機・高分子材料の合成，分析，測定，評価法などを修得させ，生物系では，化学を基礎に生物工学や培養，遺伝子工学の修得を通じて，化学，医薬品，食品工業界で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者を育成する。	２）

（出典　学生課資料）

資料２－１－①－５

求人倍率･就職率

年度	機　械	電気電子	電子制御	物　質	求人倍率	就職率
20	17.1	23.4	16.6	14.6	17.9	100
21	28.7	17.8	23.7	27.3	24.4	98.7
22	13.9	10.4	14.9	13.9	13.3	98.2
23	15.6	19.8	15.9	10.6	15.5	99.0
24	16	16.1	20.1	12	16.1	99.0

（出典　教育データベース）

資料２－１－①－６

求人会社数データ･就職率

年	機　械		電気電子		電子制御		物　質		就職希望	就職率
度	会社数	学生数	会社数	学生数	会社数	学生数	会社数	学生数	者総数	(%)
20	496	29	491	21	464	28	335	23	101	100
21	517	18	497	28	451	19	300	11	77	98.7
22	376	27	376	36	388	26	265	19	110	98.2
23	405	26	415	21	413	26	254	24	98	99.0
24	465	29	484	30	422	21	253	21	102	99.0

（出典　教育データベース）

資料２－１－①－７

Ⅰ　外部評価委員会

1. 外部評価の概要

（１）目的

佐世保工業高等専門学校における教育研究活動等の状況について、外部の有識者による意見、提言を受け、本校の教育研究体制等の改善を目指すため、外部評価委員会を開催するものである。

（２）外部評価の実施方法

外部評価は、各種資料及び口頭説明に基づき評価を受ける。

①実地調査（外部評価委員会）

本校において、学内関係者からの口頭説明ののち、質疑応答及び意見交換の上、外部評価委員から講評を受ける。

②外部評価委員による評価書の作成

上記の調査に基づき、外部評価終了後、外部評価委員に評価結果についての報告書を作成していただく。

（３）評価項目

「佐世保高専の概要」を除く説明事項の６項目の運営状況及び取組みについて評価を受ける。

（４）外部評価報告書の作成

外部評価委員会の結果及び外部評価委員から提出していただいく評価結果をとりまとめ、「外部評価報告書」を作成し、公表する。

（５）外部評価委員会委員

別紙のとおり（９名）

（６）外部評価委員会開催日時

平成２５年３月２０日（水・祝）　13：30～16：30

（７）開催場所

佐世保工業高等専門学校　一般教科棟１階　多目的教室

資料２－１－①－７続き

Ⅱ　評価結果報告

1. 評価点

項目	[redacted]									平均
	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	
学生(本科)の教育について	5	4	5	5	5	5	5	4	5	4.8
専攻科の教育について	5	5	5	5	4	5	5	4	5	4.8
学生生活・学生指導について	5	5	4	5	4	4	5	5	3	4.4
学生の寮生活について	5	4	4	4＋	4	4	5	5	4	4.3
社会との連携について	5	5	5	4＋	4	4	4	4	4	4.3
広報活動について	5	4	5	4	3	5	4	4	4	4.2

評価点	評価基準
5	優れている
4	やや優れている
3	普通
2	やや劣っている
1	劣っている

資料２－１－①－７続き

２. 意見・提言

外部評価委員から委員会終了後、後日提出いただいた評価表のご意見・ご提言を次のとおり示します。

項目１. 学生（本科）の教育について

＜意見・提言:　A委員＞

＊ キャリアＧＰをはじめ精力的な取り組みが行われた。成果を検証する必要がある。
＊ 技術士など資格取得状況が顕著で、高い成果をあげている。
＊ 教員が九州工学教育協会の賞を受賞しており、評価されている。
＊ 国際化に向けて精力的な取り組みがなされている。ＴＯＥＩＣスコアも上昇しており、英会話の機会をより一層増やすことにより、更なる向上を期待する。

＜意見・提言:　B委員＞

＊ 中学への訪問、高専説明会等の回数が多いことは大変評価できる。
＊ 中学のときの成績が比較的良い層が入学しているので、きちんと育てる責任も大きい。
＊ 電気電子工学と電子制御工学が中学卒業生に本当に分かるか些か心配である。大学にも求められていることであるが、学科間の垣根を低くする工夫が必要であろう。
＊ 「芸術文学賞受賞者による国語教育」とあるが、文学を味わうような教育と、理工系の分かり易く説明して相手を説得する文章を書く訓練は本質的に違うので、若干心配な面もある。
＊ 就職に関しては求人数が多く、大学から見ると羨ましい限りである。
＊ 英語は若いとき程力がつくので、どんどんやって欲しい。
＊ 海外との交流も若いとき程大きな刺激になるだろうから、専門と少しくらい分野が違ってもできるだけチャンスを多くすることが重要であろう。
＊ 細かいことであるが、物質実験をしている学生の写真を見ると保護眼鏡をかけていない。安全と思っても着用させる方が望ましい。

＜意見・提言:　C委員＞

＊ 教育理念にもあるように「社会に貢献できる人材育成」と「複眼的視野をもつ人材育成」に職員一丸となり、ていねいな教育実践をされていることに、敬意を表します。
＊ 今年とも、特別支援教育の充実をよろしくお願いします。
＊ 入試対策の充実、くさび型カリキュラム、キャリア支援等に高専の強みを感じました。

（出典　平成 24 年度　外部評価報告書　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では「ものつくりの基盤を支える専門技術者を育成する」ことを目的に４つの学科で構成されている。各学科が学校の教育目標を達成するために，その専門分野の特徴を活かした教育目標を掲げて教育を行っており，学科の構成は本校の教育の目的を達成する上で適切なものになっている。また，全学科の求人倍率が高く，学科の構成は社会のニーズに適合している。さらに，外部評価委員会における本校の教育に関する評価も良好である。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科は，本校の教育理念のさらなる実現のために，平成９年に３専攻（機械工学，電気電子工学，物質工学）が設立された。平成 24 年度には，複合融合教育を更に発展させると同時に社会のニーズに対応するために１専攻に改組し（資料２－１－②－１），教育研究分野の変化にも柔軟に対応できる体制とした（資料２－１－②－２（別添２－１，２），資料２－１－②－３（別添２－３））。専攻科は，自己の専門分野について深い専門性を養うために，基盤となる４つの工学系（資料２－１－②－４～７），及び一般科目・専門基礎共通科目（資料２－１－②－８）から構成されている。これらの教育内容は，専攻科の教育目標を反映している（資料２－１－②－９）。また，専攻科の入学資格（資料２－１－②－１），各工学系の内容（資料２－１－②－４～７），深い専門性を有する特別研究の実施（資料２－１－②－10）は，学校教育法 119 条の規定に適合している。

専攻科課程は，準学士課程の４，５年と合わせて，平成 16 年度から日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けており，国際的な水準の工学技術者を育成する機関として認められている。例年，高い求人倍率となっており（資料２－１－②－11），社会のニーズに適合している。

また，企業・大学院による教育評価アンケート（資料２－１－②－12）では，企業や大学院で必要とされる問題解決力や実践的な技術力に対する本校修了生の評価は高く，教育の実施体制が有効かつ適切に機能している。また，専攻科の教育に関する外部評価でも良好な結果を得ている（資料２－１－②－13）。

観点２－１－②資料一覧

（資料２－１－②－１）	学則（専攻科）	出典：佐世保高専規程集
（資料２－１－②－２）	専攻科「一専攻制」改組準備会議資料	出典：専攻科委員会資料
（資料２－１－②－３）	「１専攻制」への改組について	出典：専攻科委員会資料
（資料２－１－②－４）	専攻科課程　機械工学系の内容	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－②－５）	専攻科課程　電気電子工学系の内容	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－②－６）	専攻科課程　情報工学系の内容	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－②－７）	専攻科課程　化学・生物工学系の内容	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－②－８）	専攻科課程の一般科目・専門基礎共通科目の内容	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－②－９）	専攻科の教育目標と各工学系の内容・目的との関係	出典：総務課資料
（資料２－１－②－10）	2012 年度専攻科特別研究発表会プログラム	出典：学生課資料
（資料２－１－②－11）	専攻別就職者数及び求人状況	出典：学校要覧
（資料２－１－②－12）	企業・大学院による教育評価アンケート	出典：教育データベース
（資料２－１－②－13）	平成 24 年度　外部評価報告書	出典：外部評価報告書

資料２－１－②－１

佐世保工業高等専門学校学則

第１２章　専攻科

（設置）
第４４条　本校に，専攻科を置く。

（目的）
第４５条　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）
第４６条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
複合工学専攻	１６人

（修業年限及び在学期間）
第４７条　専攻科の修業年限は，２年とする。ただし，４年を超えて在学することはできない。

（入学資格）
第４８条　専攻科に入学できる者は，次の各号の一に該当する者とする。

一　高等専門学校を卒業した者

二　短期大学を卒業した者

三　専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第１３２の規定により大学に編入学することができるもの

四　外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者

五　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１４年の課程を修了した者

六　我が国において，外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１４年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

七　その他専攻科において，高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選抜）
第４９条　校長は，専攻科の入学志願者について，別に定めるところにより選抜を行う。

（教育課程）
第５０条　専攻科の授業科目及び単位数は，一般科目及び専門基礎科目については別表第３，専門科目については別表第４のとおりとする。

２　　授業科目の単位計算方法は，１単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の各号の基準によるものとする。

一　講義及び演習については，１５時間から３０時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

二　実験及び実習については，３０時間から４５時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料２－１－②－４

専攻科課程　機械工学系の内容

あらゆる産業の根幹をなす機械工学では独創的研究開発を展開するための基礎科学である場の力学,粘性流体力学,熱流動工学,機械振動論などの力学関連の専門科目を中心に,機械要素の設計・製作・制御に関連した精密加工特論,工業計測学,メカトロニクス工学を修得する。さらに,情報,バイオ,環境などの分野横断的な科目も修得することにより,先進的でシステムデザイン能力を有する技術者を養成する。

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－②－５

専攻科課程　電気電子工学系の内容

エレクトロニクス・コンピュータ技術の基礎となる数理科学系科目を中心に,材料科学や生産システム工学など幅広い分野・領域の科目を修得し,産業界での設計・生産や研究開発分野の先進的技術者として,多面的,かつ総合的に寄与できる基礎能力を涵養する。さらに,特別研究などを通じて,新規分野の開拓能力,高い問題解決能力を培い,システム創成能力を有する実践的技術者を養成する。

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－②－６

専攻科課程　情報工学系の内容

コンピュータおよびネットワークなどの情報技術系およびものづくりの基盤となる電子制御系の専門科目を中心に,環境,バイオなどの学際的な科目を修得し,複眼的な視点を身に付ける。さらに特別研究などにより,情報技術と電子制御の融合技術,創成技術を修得する。これらの習得を通して,情報技術に関する高度な専門知識を,電子制御技術へ融合的に応用し,人にやさしい知的情報処理システムを創成できる研究開発型技術者を育成する。

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－②－７

専攻科課程　化学・生物工学系の内容

付加価値の高い素材・製品の研究開発と生産技術を中心とする化学工業の分野と,医薬品等の製造で実用化が図られている先端的バイオ技術分野にわたって幅広い高度な専門知識を修得する。さらに,特別研究などを通じて,環境・エネルギー問題への化学・生物学的見地から対処できる能力を養い,各種分析技術や材料開発を含めた関連の技術分野における開発・研究に従事できる創造的技術者を養成する。

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－②－８

専攻科課程　一般科目・専門基礎共通科目の内容

高度科学技術の中核を担う専門職業人としての教養と専門基礎知識を有する技術者の養成を以下の内容で行う。

①数学（数理科学）や一般化学などの一般科目,および現代物理などの専門基礎科目を修得し,高度専門職業人としての基礎能力を養う。

②日本語表現法,総合英語,応用コミュニケーションの語学教育により,国際的に通用するコミュニケーション能力を養い,技術と哲学,環境論,国際関係論などの科目を修得し,地球的視野で技術と社会の共生を追求したグローバルな視点を持つ技術者を育成する。

③技術者総合ゼミ,総合創造実験,総合創造演習などの複合科目では,４つの系の専門分野をコラボレートし,システム創成能力と複眼的な問題解決能力を養う。

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－②－９

専攻科課程の教育目標と各工学系の内容・目的との関係

専攻科課程　教育目標
①　自己の専門分野（機械工学,電気電子工学,情報工学,化学・生物工学）について,より深い専門性を養う。 ②　他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ,複合化,高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力を養成する。 ③　地球的な視野での倫理観と豊かな創造性,実践力を養成する。 ④　国際水準の技術者を目指す。（JABEE 認定,2005 年５月）

専攻科課程　一般科目・専門基礎共通科目の内容	専攻科教育目標との対応
数学（数理科学）や一般化学などの一般科目,および現代物理などの専門基礎科目を修得し,高度専門職 業人としての基礎能力を養う。	②
日本語表現法,総合英語,応用コミュニケーションの語学教育により,国際的に通用するコミュニケーション能力を養い,技術と哲学,環境論,国際関係論などの科目を修得し,地球的視野で技術と社会の共生を追求しグローバルな視点をもつ技術者を育成する。	③，④
技術者総合ゼミ,総合創造実験,総合創造演習などの複合科目では,３専攻の専門分野をコラボレートし,システム創成能力と複眼的な問題解決能力を養う。	②

専攻科課程　機械工学系の内容	専攻科教育目標との対応
あらゆる産業の根幹をなす機械工学では独創的研究開発を展開するための基礎科学である場の力学,粘性流体力学,熱流動工学,機械振動論などの力学関連の専門科目を中心に,機械要素の設計・製作・制御に関連した精密加工特論,工業計測学,メカトロニクス工学を修得する。	①
さらに,情報,バイオ,環境などの分野横断的な科目も修得することにより,先進的でシステムデザイン能力を有する技術者を養成する。	②

資料２－１－②－９続き

専攻科課程　情報工学系の内容	専攻科教育目標との対応
コンピュータおよびネットワークなどの情報技術系およびものづくりの基盤となる電子制御系の専門科目を中心に,環境,バイオなどの学際的な科目を修得し,複眼的な視点を身に付ける。	①，②
さらに特別研究などにより,情報技術と電子制御の融合技術,創成技術を修得する。	③
これらの習得を通して,情報技術に関する高度な専門知識を,電子制御技術へ融合的に応用し,人にやさしい知的情報処理システムを創成できる研究開発型技術者を育成する。	①，②

専攻科課程　電気電子工学系の内容	専攻科教育目標との対応
エレクトロニクス・コンピュータ技術の基礎となる数理科学系科目を中心に,材料科学や生産システム工学など幅広い分野・領域の科目を修得し,産業界での設計・生産や研究開発分野の先進的技術者として,多面的,かつ総合的に寄与できる基礎能力を涵養する。	①，②
さらに,特別研究などを通じて,新規分野の開拓能力,高い問題解決能力を培い,システム創成能力を有する実践的技術者を養成する。	③

専攻科課程　化学・生物工学系の内容	専攻科教育目標との対応
付加価値の高い素材・製品の研究開発と生産技術を中心とする化学工業の分野と,医薬品等の製造で実用化が図られている先端的バイオ技術分野にわたって幅広い高度な専門知識を修得する。	①
さらに,特別研究などを通じて,環境・エネルギー問題への化学・生物学的見地から対処できる能力を養い,各種分析技術や材料開発を含めた関連の技術分野における開発・研究に従事できる創造的技術者を養成する。	③

（出典　総務課資料）

資料２－１－②－10

2012年度 専攻科特別研究発表会 プログラム

日時：平成25年2月7日（木）9:00～　　会場：佐世保高専　多目的教室

発表時間：8分（1分前：ベル1回、終了：ベル2回）、質疑応答：4分（終了：ベル3回）

番号	発表時間	テーマ名	発 表 者	審 査 員
	機械工学専攻【座長：中江　道彦 】			
1	9:00 － 9:12	マイクロバブルの水耕栽培への応用に関する研究		中江　道彦
2	9:13 － 9:25	歯車歯面のラッピング仕上げに関する研究		校　　長
3	9:26 － 9:38	ラグビーにおけるコンタクトプレイに関する衝突力学的解析		森田　英俊
4	9:39 － 9:51	ねじり予ひずみを導入した炭素鋼S25Cの水素侵入特性・拡散係数および疲労特性に及ぼす水素の影響		下野　次男
5	9:52 － 10:04	レーザによる熱応力を利用したガラスの非接触スライシング加工の可能性		
6	10:05 － 10:17	振動モードを利用したFPD用ガラスの非接触割断加工に関する研究		
7	10:18 － 10:30	曲線形手すりの形状とその効果に関する研究		
	10:30 － 10:40	休憩		
	電気電子工学専攻【座長：坂口　彰浩 】			
8	10:40 － 10:52	粉体ターゲットを用いた機能性薄膜作製と評価		坂口　彰浩
9	10:53 － 11:05	屋内用搭乗型移動ロボットの走行制御に関する研究		高比良　秀彰
10	11:06 － 11:18	深度センサを用いた手話認識システムの開発		下尾　浩正
11	11:19 － 11:31	文字の色と形状に注目した情景画像からの文字領域抽出		下野　次男
12	11:32 － 11:44	環境情報構造下におけるレーザセンサを用いた障害物位置検出装置の開発		
13	11:45 － 11:57	ダイヤモンド砥粒形状計測システムの開発		
14	11:58 － 12:10	水中音響を用いた小型測位システムの開発		
	12:10 － 13:20	**昼　休　み　休　憩**		
	電気電子工学専攻【座長：高比良　秀彰 】			
15	13:20 － 13:32	動画像からの三次元データ自動抽出手法に関する研究		高比良　秀彰
16	13:33 － 13:45	有機金属溶液を用いたナノ微粒子作製に関する研究		坂口　彰浩
17	13:46 － 13:58	パルス電圧による低温液体中の放電特性		手島　裕詞
18	13:59 － 14:11	電子コミックのためのシーン評価手法の一検討		下野　次男
19	14:12 － 14:24	SURF特徴量を用いた水中画像からの水中生物抽出		
20	14:25 － 14:37	ケプストラム分析を用いたカエルの鳴き声認識に関する研究		
21	14:38 － 14:50	ダイヤモンド工具の砥粒配置最適化に関する研究		
	14:50 － 15:00	休憩		
	物質工学専攻【座長：田中　泰彦】			
22	15:00 － 15:12	イミド構造を有する新規ベンゾオキサジンおよび分子複合材の開発		田中　泰彦
23	15:13 － 15:25	機能性脂質を生産する海洋微生物の培養条件の検討		古川　信之
24	15:26 － 15:38	アルミナージルコニア系触媒によるヘキサフルオロエタンの加水分解反応		長田　秀夫
25	15:39 － 15:51	新規ナフトオキサジンの合成と反応解析		下野　次男
26	15:52 － 16:04	廃セッコウの有効利用に関する基礎検討		
27	16:05 － 16:17	海水電解法を用いた海水浄化技術に関する研究		
28	16:18 － 16:30	低周波大気圧プラズマジェットを用いた口腔内細菌の不活化		
29	16:31 － 16:43	イミド構造を有するベンゾオキサジンの合成反応における酢酸亜鉛の触媒効果		

（出典　学生課資料）

資料２－１－②－11

専攻別就職者数及び求人状況　Employment Situation

年度	機械工学専攻	電気電子工学専攻	物質工学専攻	計	求人数	倍率	就職率
平成 19 年度 2007	5	9 (1)	3 (1)	17 (2)	1,081	63.6	100
平成 20 年度 2008	1	10 (1)	5	16 (1)	896	56.0	100
平成 21 年度 2009	4	8 (1)	3 (2)	15 (3)	852	56.8	100
平成 22 年度 2010	6 (0)	11 (0)	2 (0)	19 (0)	759	39.9	100
平成 23 年度 2011	2 (0)	10 (1)	3 (1)	15 (2)	758	50.5	100

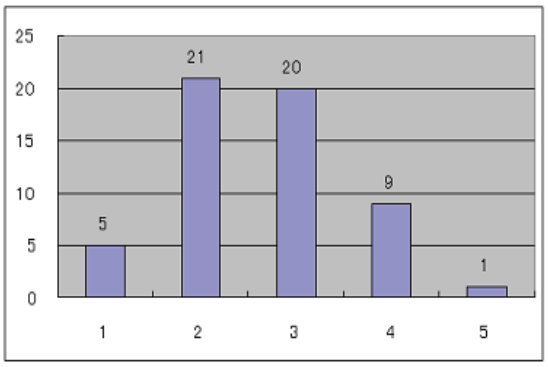
（出典　学校要覧）

資料２－１－②－12

企業・大学院による教育評価アンケート

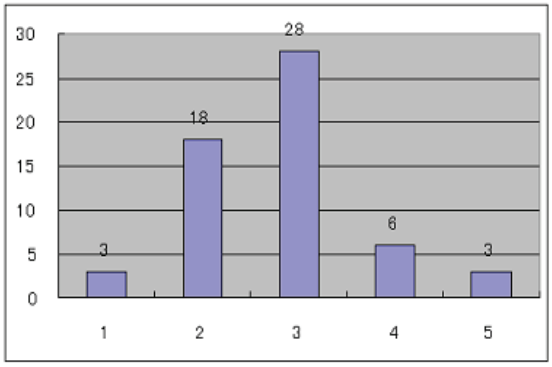
A-3. 基礎工学の知識を身につけて，複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できる。

1．非常に高い　2．高い　3．普通　4．やや不足　5．不足



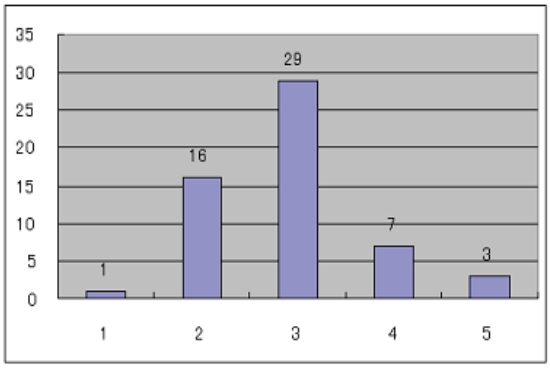
D-2-2. 創造性を発揮して，調査・解析をおこない，解決策を組み立てて実行し，課題を解決できる。

1．非常に高い　2．高い　3．普通　4．やや不足　5．不足



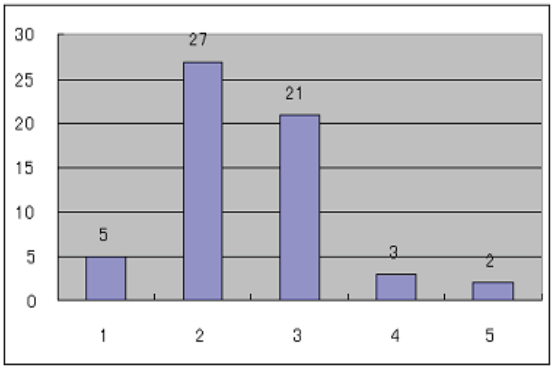
D-3. 社会の要求する課題を解決するにあたって，その内容を分析して，計画や方策を複眼的にデザインできる。

1．非常に高い　2．高い　3．普通　4．やや不足　5．不足



D-4. 実践的能力を身につけ，技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができる。

1．非常に高い　2．高い　3．普通　4．やや不足　5．不足



（出典　教育データベース　抜粋）

資料２－１－②－13

項目2. 専攻科の教育について

＜意見･提言:　A委員＞

＊　３専攻を１専攻に改組するという、意欲的な取り組みが開始された。ＪＡＢＥＥ認定プログラムを含め、新しい取り組みの効果を期待する。効果をどのように検証するかについて、評価項目について早急に検討されること、年毎の推移を継続的に調査されることを望む。

＜意見･提言:　B委員＞

＊　複合工学専攻制度の特長が活きる教育ができれば、素晴らしいことである。
＊　学士取得率が事実上100%であることは大変評価できる。
＊　学協会の発表数が学生の１学年の人数より多いことは、素晴らしい。
＊　進学と就職が相半ばしているが、ここら辺が妥当なところであろうか。
＊　教育への満足度調査で電気電子が他と比べて低いのが気になる。

＜意見･提言:　C委員＞

＊　複合型もの創り工学のさらなる充実を期待します。
＊　catch-up の昭和 40 年代から front-runner になった平成の時代。今後は flag ship 的な活躍を目指してほしいです。

＜意見･提言:　D 委員＞

＊　専攻科への志望者が多いこと､修了生の学士取得が５年間で98.4%､この２年100%は、高く評価できる。

＜意見･提言:　E委員＞

＊　専攻科については「１専攻制」に改組されたことは、時代の要請に沿っていると感心している。
＊　学士取得状況を見ても大学以上に専門的・総合的な教育成果が上げられていると思う。
＊　課題は、やはり知名度の低さにある。
やはり高専教育の特色は、５年間の一貫教育、早期の専門教育にあり、その上位に専攻科が位置し、その卒業生の質の高さおよび総合力の高さを社会にアピールし続ける努力が必要と感じる。

（出典　（平成 24 年度）外部評価報告書　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程では，自己の専門分野について深い専門性を養うために，１専攻４系で構成され，各系の内容は本校の教育目標に適合している。また，専攻科の教育は，日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けている。企業・大学院による教育評価アンケート及び外部評価では，良好な結果を得ている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校では，平成６年に設置した総合技術教育研究センターを，地域企業との連携をさらに強化するために平成24年に地域共同テクノセンター（資料２－１－③－１～４）に改組し，外部団体である西九州テクノコンソーシアムと協力して活動を行っている。地域共同テクノセンターにおいて地域企業との連携研究の一部を本校学生の卒業研究として行っている（資料２－１－③－５，資料２－１－③－６訪問時資料）。また，本校学生を対象に長期インターンシップを計画し，実践的な学生指導を通じて本校と地域企業との連携を深めている（資料２－１－③－７，資料２－１－③－８訪問時資料）。これらの活動は，本校の教育目標２），４）及び専攻科の教育目標①，②に対応するものである。

情報処理センター（資料２－１－③－９）は，情報処理教育の推進を図ることを目的に設置し，本校の教育目標５）に対応するものである。情報処理センターは第１演習室及びCAD室を管理運営しており，その利用状況は平成24年前期の時間割（資料２－１－③－10）に示すように授業及び自学自習において広く利用されている（資料２－１－③－11）。

観点２－１－③資料一覧

（資料２－１－③－１）	地域共同テクノセンター規則	出典：佐世保高専規程集
（資料２－１－③－２）	地域共同テクノセンター運営規則	出典：佐世保高専規程集
（資料２－１－③－３）	地域共同テクノセンターの概要	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－③－４）	地域共同テクノセンター組織図	出典：本校ウェブサイト
（資料２－１－③－５）	地域共同テクノセンター利用報告書例	出典：電気電子工学科資料
（資料２－１－③－６）	新聞記事「共同研究で技術振興」	訪問時資料
（資料２－１－③－７）	長期インターンシップ実施報告書	出典：機械工学科資料
（資料２－１－③－８）	新聞記事「新たな連携を模索」	訪問時資料
（資料２－１－③－９）	情報処理センター規則	出典：佐世保高専規程集
（資料２－１－③－10）	特別教室等使用割	出典：教務主事室資料
（資料２－１－③－11）	情報処理センター利用細則	出典：佐世保高専規程集

資料２－１－③－１

佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

（平成２４年　４月　１日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は,佐世保工業高等専門学校学則第６条の規定に基づき,佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の組織及び管理運営に関し,必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　センターは,佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）の共同利用教育研究施設として,学生の技術教育のための教育方法の開発・研究を行うとともに総合的実習及び教員の共同研究の場並びに地域社会における技術開発,技術振興及び技術者教育等に資することを目的とする。

（部門）

第３条　センターに,次の各号に掲げる部門を置く。

一　海洋・エネルギー部門

二　環境・生物部門

三　ＩＴ部門

四　加工計測システム部門

五　生涯学習部門

（業務）

第４条　センターは,次の各号に掲げる業務を行う。

一　技術教育及び共同研究活動に対する技術開発支援の基本計画策定及び実施に関すること。

二　民間機関等との共同研究及び受託研究に関すること。

三　技術相談及び技術指導の実施並びに学術情報の提供に関すること。

四　地域企業等と連携した共同教育の促進支援に関すること。

五　西九州テクノコンソーシアムの構成機関と連携した地域の技術振興及び人材育成の促進支援に関すること。

六　地域教育界に対する実験教育支援及び教材支援に関すること。

七　その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

（組織）

第５条　センターに,次の各号に掲げる教職員を置く。

一　センター長

二　副センター長

三　部門長

四　その他校長が必要と認める教職員

（センター長）

第６条　センター長は,本校教授の中から校長が選任する。

２　センター長は,センターの業務を統括する。

３　センター長の任期は２年とし,再任を妨げない。

４　センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第７条　副センター長は,本校専任教員の中からセンター長の推薦により校長が選任する。

２　副センター長は,センター長を補佐する。

３　副センター長の任期は１年とし,再任を妨げない。

４　副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。

（部門長）

第８条　部門長は,第３条各号に定める部門ごとに,本校専任教員の中からセンター長の推薦により校長が選任する。

２　部門長は,センター長の命を受け,研究部門の業務に従事する。

３　部門長の任期は１年とし,再任を妨げない。

４　部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。

資料２－１－③－１続き

（運営委員会）
第９条　センターに，センターの運営に関し必要な事項を審議するため，佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第１０条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　第４条各号に定める業務に関すること。
二　各部門の連絡調整に関すること。
三　その他センターの管理運営に関すること。
（組織）
第１１条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　センター長
二　副センター長
三　教務主事
四　専攻科長
五　各学科長及び一般科目長
六　部門長
七　総務課長
八　その他センター長が必要と認めた者
（委員長）
第１２条　委員会の委員長は，センター長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。
（会議）
第１３条　委員会は，委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第１４条　委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を会議に出席させることができる。
（専門部会）
第１５条　委員会に，必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し，必要な事項は別に定める。
（事務）
第１６条　センターの事務は，総務課企画係において処理する。
（その他）
第１７条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
１　この規則は，平成２４年４月１日から施行する。
２　佐世保工業高等専門学校総合技術教育研究センター規則（平成１６年 4 月１日制定）は廃止する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－１－③－２

佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規則

平成２４年　４月　１日制定

（趣旨）

第１条　この規則は,佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則第１７条,佐世保工業高等専門学校不動産管理規則（以下,「不動産管理規則」という。）第７条第１項ただし書及び佐世保工業高等専門学校共用研究スペース管理運営規程第５条ただし書に基づき,佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の利用について定める。

（利用の範囲）

第２条　センターの利用は,次の各号に該当するものとする。

一　地域企業との共同研究,受託研究及び技術相談等の研究交流

二　技術セミナー,技術研修会及び公開講座等

三　電子顕微鏡を用いた検査又は分析等

四　その他地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経て,地域共同テクノセンター長（以下「センター長」という。）が認めたもの

（利用資格）

第３条　センターを利用できる者は,次の各号に該当する者とする。

一　前条各号の目的で来校する企業または個人

二　地域貢献を目的に活動する本校の教職員及び学生

三　その他,センター長が認めた者

（利用申請）

第４条　地域共同実験室を利用しようとする教職員は,別紙様式第１号の地域共同実験室利用申請書をセンター長に提出しなければならない。

２　本校教職員の共同研究の相手方で共同利用設備室を利用しようとする地域企業又は個人は,不動産管理規則別記様式第４号甲の不動産貸付申請書に別紙様式第２号の共同利用設備室利用理由書を添えて,センター長に提出しなければならない。

３　電子顕微鏡を利用しようとする教職員,及び学生に電子顕微鏡を利用させようとする教職員は,本校デスクネッツで設備の利用予約をしなければならない。なお,内容欄には使用目的,使用者名を記入すること。

４　教職員及び学生以外の者で電子顕微鏡を利用しようとする者は,別紙様式第３号の電子顕微鏡利用申請書をセンター長に提出しなければならない。

（利用者の決定等）

第５条　前条第１項の申請があったときは,センター長は委員会の意見を聴いて諾否を決定し,別紙様式第４号又は別紙様式第５号により,申請者に通知する。

２　前条第２項の申請があったときは,センター長は委員会の意見を聴き,諾否の意向を添えて不動産管理役に通知する。

３　前条第４項の申請があったときは,センター長は委員会の意見を聴き,諾否の意向を添えて物品管理役に通知する。

（講習会の受講）

第６条　電子顕微鏡を利用する者は,事前にセンター長が主催する講習会を受講しなければならない。

資料２－１－③－２続き

（利用料）
第７条　地域共同実験室及び共同利用設備室の利用は無料とする。ただし，共同利用設備室を利用する者は，光熱水料を負担しなければならない。
２　教職員及び学生以外の者で電子顕微鏡を利用する者は，佐世保工業高等専門学校諸料金規則に規定する料金を負担しなければならない。
３　第１項の光熱水料は，佐世保工業高等専門学校出納命令役の発行する請求書により，毎月納入しなければならない。
４　第２項の料金は，佐世保工業高等専門学校出納命令役の発行する請求書により，原則として利用開始までに納入しなければならない。

（利用期間）
第８条　同一テーマにおける共同利用設備室の利用期間は３年以内とする。ただし，３年を超えて引き続き利用を希望する場合は改めて不動産管理規則別記様式第４号甲及び別紙様式第２号をセンター長に提出し，不動産管理役が承認した場合は１年を限度として期間の延長を許可できるものとする。

（利用報告書の提出）
第９条　地域共同実験室及び共同利用設備室の利用者は，利用期間終了後３０日以内に委員会に別紙様式第６号又は第７号の利用報告書を提出するものとする。なお，１年以上にわたって利用する場合は，１年毎に１年を経過する日から３０日以内に提出するものとする。
２　電子顕微鏡の利用者は，別紙様式第８号の電子顕微鏡使用記録簿に記録するものとする。

（利用の取り消し）
第１０条　地域共同実験室について，利用者がこの申請事由に著しく異なる利用をしている場合，又は報告に関する義務を果たさない場合等については，利用を取り消すことができる。
２　共同利用設備室及び電子顕微鏡について，利用者がこの申請事由に著しく異なる利用をしている場合，又は報告に関する義務を果たさない場合等については，センター長は委員会の議を経て不動産管理役又は物品管理役にその利用の取り消しを申し立てることができる。

（機器の管理）
第１１条　センター所有の共同利用機器については，センター長の管理とする。ただし，センター長が認める場合には，利用者に管理を委託することができる。

（損害の賠償）
第１２条　センター長は，利用者が故意又は重大な過失により施設等を毀損したときは，利用者にその損害に相当する費用の賠償を求めることができる。

附　則
この規則は，平成２４年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－１－③－３

独立行政法人国立高等専門学校機構
佐世保工業高等専門学校
SASEBO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

English　中文　サイトマップ

サイト内検索

教育理念　学校案内　施設・設備　学科・専攻科　教育・研究活動　リンク集　図書館　同窓会

→ 入学希望の皆様へ　→ 在学生の皆様へ　→ 保護者の皆様へ　→ 卒業生の皆様へ　→ 企業・一般の皆様へ　→ 教職員の皆様へ

トップページ ＞ 教育・研究活動 ＞ 産学官連携制度 ＞ 地域共同テクノセンター ＞ 地域共同テクノセンター

産学官連携制度
- 地域共同テクノセンター
- 制度
- 地域企業説明会
- 西九州テクノコンソーシアム
- 技術シーズ集

地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンター

本センターは、学生に対する技術者教育を行うとともに、民間企業を含む佐世保工業高等専門学校と他の組織の間の共同研究を支援し促進するために平成24年4月1日に設置されました(「総合技術教育研究センター」を改組)。

組織は5つの部門(海洋・エネルギー、環境・生物、IT、加工計測システム、生涯学習部門)から構成されており、部門横断的な「融合研究」により技術シーズの蓄積を図るとともに、実践的で創造性に優れた「もの創り」技術者の育成を支援しています。

また、長崎県北地域の産学官民連携組織である「西九州テクノコンソーシアム」の事務局もセンター内にあり、一体となって地域の「技術振興」と「人材育成」を図るための活動を積極的に推進しています。

組織図はこちらへ(PDF 72KB)

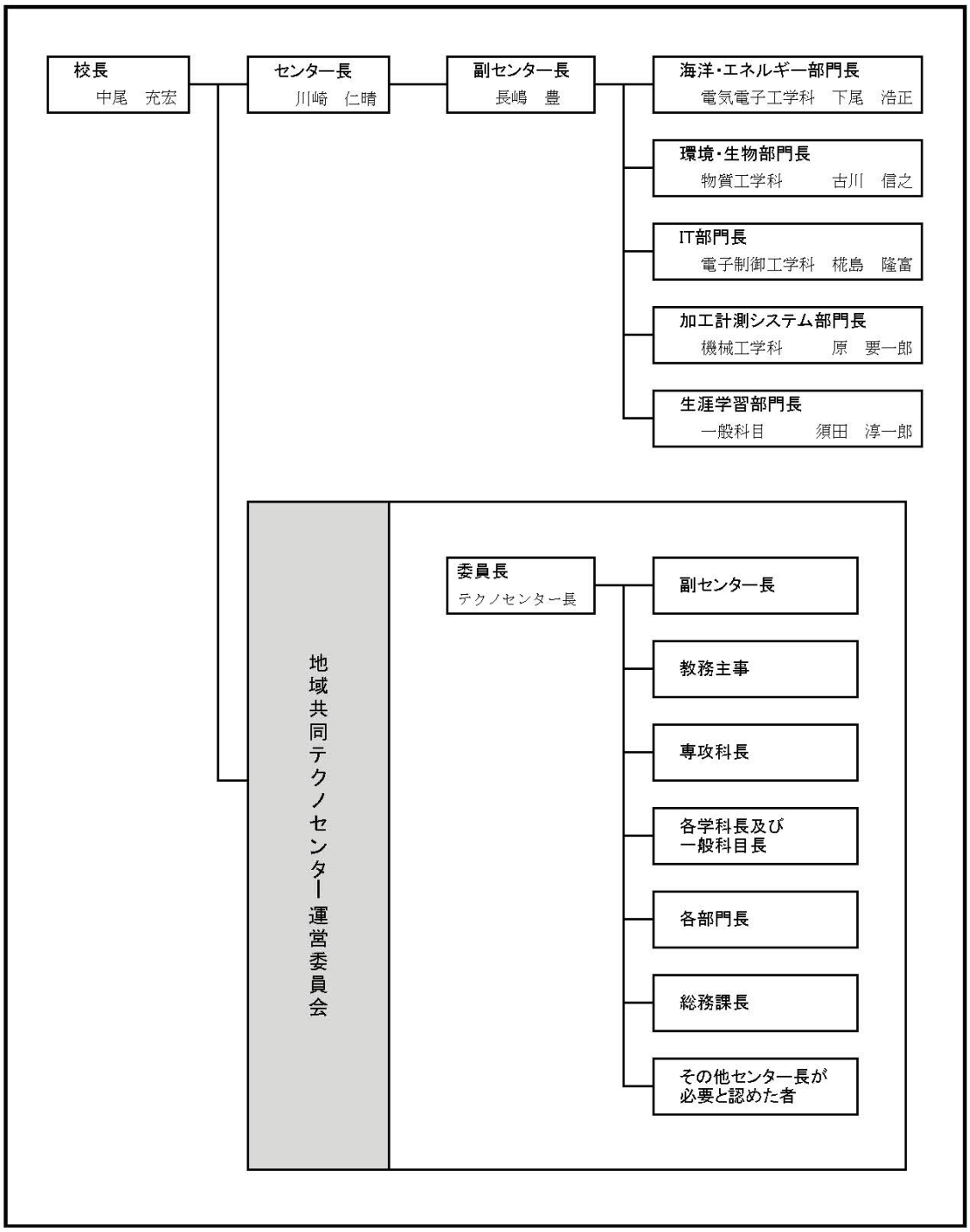
ATOK あ 連 R漢 般

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－③－４

地域共同テクノセンター組織図

（平成24年4月1日現在）



（出典　本校ウェブサイト）

資料２－１－③－５

平成２４年度　佐世保工業高等専門学校　地域共同テクノセンター利用報告書

1. 研究テーマ：バラスト水殺菌用オゾン／酸素分離ユニット評価試験
2. 研究期間：平成２４年６月～平成２５年３月
3. 研究組織：佐世保高専電気電子工学科，佐世保重工株式会社，株式会社ADSエンジニアリング
4. 研究者名：
   佐世保高専電気電子工学科　柳生義人，○○○○（専攻科1年），○○○○（本科5年）
   佐世保重工株式会社，株式会社ADSエンジニアリング
5. 研究目的・概要

長期航海を行う船舶は渡航先にて積載してきた貨物を下ろすと，船位の上昇により航行が不安定になる。帰港の際には，積載してきた貨物の代わりに，現地の海水を「バラスト」として船底に補充し，船位を下げることで安定航行を行う。バラスト水には海域特有の微生物が混入しており，それを排出する行為は，その海域に生息しない生物の導入に繋がり，生態系の破壊や人間の健康被害が問題視されている。この対策としてIMO（国際海事機関）は2004年にバラスト水管理条約を制定し，現在，熱処理や化学処理などの処理法が開発されている。本研究では，基底技術にPSA法（Pressure Swing Adsorption：圧力スイング吸着法）を用いて，オゾンによるバラスト水処理装置の実用化に向けた取り組みをしている。

6. 本年度の研究内容

本年度は，PSA小型試験機（図1）を用いて，酸素PSA装置に用いる窒素吸着剤の特性を定量的に得るために評価プロトコルの作成および窒素吸着剤の特性試験を行った。実験には3種類の吸着剤を用い，PSA装置に流入する空気の圧力を0.05~0.40MPaまで変化させたときの吸着特性を得た（図2）。吸着ガスに含有する窒素吸着量と酸素吸着量の比は分離係数と呼ばれ，吸着物質の定量的評価に用いられる。一般的に，分離係数10以上の吸着剤が用いられており，この指標を達成しているのは吸着剤Aのみで，流入圧力0.30MPa以下の条件下であることが明らかとなった。吸着剤にて窒素を吸着することで，オゾンの原料ガスとなる酸素（酸素富化空気）をオゾナイザに供給することができる。高濃度酸素としてこのガスを供給するほか，吸着塔の圧力を下げて吸着剤から窒素を脱着すれば，高濃度窒素の供給も可能となる。吸着剤Aは窒素に対し高い選択性を示しているため，酸素PSA装置に適していることが分かった。


図1　PSA小型試験装置

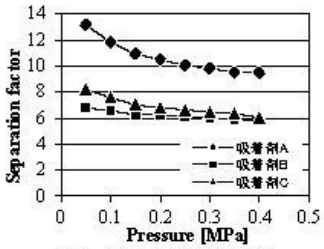


図2　圧力に対する分離係数

7. 今後の展開

本年度の研究より，規格化した実験プロトコルを用いて酸素 PSA 装置に最適な吸着剤の選定試験および吸着剤の圧力特性を明らかにできた。今後はオゾン PSA 装置の吸着剤について，同様の評価試験を行い，最適な吸着剤の選定を行うこと，評価プロトコルの自動化，オゾン PSA 装置の最適化の検討を行う。また，共同研究企業の開発した PSA 法によるバラスト水処理装置の実用機を用いて，吸着剤の特性試験や生成されたガス分析に関する研究開発を行うことで，O_2/O_3吸脱着法の実用的技術の構築を目指す。

（出典　電気電子工学科資料）

資料２－１－③－７

平成24年度　長期インターンシップ実施報告書

平成 24 年 12 月 13 日

氏　　名	4 年 M 組 [redacted] 番 [redacted]
会社名・部署	株式会社 ワイビーエム
実 習 地	佐賀県唐津市北波多岸山589-10 岸山工場
担当者名	総務グループ
通勤方法	車、バス
ＯＢの有無 （居る場合）	数人 氏名
実習期間	8月 1日 ～ 8月 31日 （ 31日間） その他の機関（地活など。適宜記載してください）
実習テーマ	製造機械の取扱い、製造部品の製造補佐、安全衛生教育

＜実習概要＞

材料のバリ取りから始まり、NCフライス盤やマシニングセンタ、NC旋盤などの工作機械の見学をしました。それぞれの機械の見学のあとには、実際に機械を使い、製造部品の加工をしました。NC旋盤では、φ65シューやφ85シューという部品の加工を材料の取付けから加工後のバリ取りまで、200個程しました。その他にも、ボーリングロッドの塗装をする仕上げ作業や摩擦圧接機の見学をしました。品質保証の部署では、計測器の取扱いの指導を受け、ノギスやマイクロメータ、硬度計などを使い部品の測定をしました。また、熱膨張による測定値の誤差の実験やダイヤルゲージ、マイクロメータの精度確認のための誤差線図の作成やグラインダの安全教育を受けました。

＜感　　想＞

学校での実習でやってきたことが役に立ちました。しかし、まだまだ学ぶべきことがたくさんあることにも気づくことができました。また、働いている方々の声を聞くことで、実際に働くことについても知ることができました。

長い期間インターンシップに行くことで、働くことの大変さや、やりがいを感じ、多くの知識や経験を得ることができました。

＜今後の予定＞ 終了，継続（どちらかに○をし、継続の場合は予定を記載してください。）

終了です。

（出典　機械工学科資料）

資料２－１－③－９

佐世保工業高等専門学校情報処理センター規則

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は,佐世保工業高等専門学校学則第６条の規定に基づき,佐世保工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し,必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第２条　センターは,佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究のための共同利用施設として,情報処理教育の推進及び情報処理システムの高度化を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　センターは,次の各号に掲げる業務を行う。
一　情報処理システムの研究開発及び管理保全に関すること。
二　教育用電算機システムの利用に関すること。
三　校内ＬＡＮの利用に関すること。
四　学生に対する情報処理教育に関すること。
五　他高専等とのコンピュータの相互利用に関すること。
六　その他情報処理に関すること。
（組織）
第４条　センターに,次の各号に掲げる教職員を置く。
一　センター長
二　副センター長
三　センター員
四　その他校長が必要と認めた教職員
（センター長）
第５条　センター長は,本校専任教員の中から校長が選任する。
２　センター長は,センターを統括する。
３　センター長の任期は２年とし,再任を妨げない。
４　センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。
（副センター長）
第６条　副センター長は,本校専任教員の中からセンター長の推薦により校長が命ずる。
２　副センター長は,センター長を補佐し,センターの業務に従事する。
３　副センター長の任期は２年とし,再任を妨げない。
４　副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。
（センター員）
第７条　センター員は,本校専任教員及び職員の中からセンター長の推薦により校長が命ずる。
２　センター員は,センター長の命を受け,センターの業務に従事する。
３　センター員の任期は２年とし,再任を妨げない。
４　センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。
（運営委員会）
第８条　センターに,センターの運営に関し必要な事項を審議するため,佐世保工業高等専門学校情報処理センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第９条　委員会は,次の各号に掲げる事項を審議する。
一　センターの組織,予算に関すること。
二　その他センターの運営に関すること。

資料２－１－③－９続き

（委員会の組織）
第１０条　委員会は,次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　センター長
二　教務主事
三　専攻科長及び専攻科副科長のうちから選出された教員　１名
四　各学科及び一般科目から選出された教員　各１名
五　副センター長
六　センター員
七　総務課長及び学生課長
八　その他校長が必要と認めた教職員
２　前項第４号の委員の任期は２年とし,再任を妨げない。
３　第１項第４号の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は,前任者の残任期間とする。
（委員長）
第１１条　委員会の委員長は,前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は,委員会を招集し,その議長となる。
３　委員長に事故があるときは,あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第１２条　委員会は,委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は,出席した委員の過半数をもって決し,可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第１３条　委員長が必要と認めた場合は,委員以外の者を出席させることができる。
（専門委員会）
第１４条　委員会に,必要に応じて専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関し,必要な事項は別に定める。
（事務）
第１５条　委員会の事務は,技術室において処理する。
（雑則）
第１６条　この規則に定めるもののほか,センターの運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この規則は,平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規則は,平成１８年７月１日から施行し,平成１８年４月１日から適用する。
附　則
この規則は,平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は,平成２１年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－１－③－10

特別教室等使用割（情報処理センター第１演習室（CP）と CAD 室の利用状況）

平成２４年度　特別教室等使用割(前期)　Ver.10

	本科棟													専攻科棟			
	多目的室	機械実習室	大講義室	CP	CAD	異文化ラボ	D	LL	ゼミ室	体育1，2	体育3，4，5	化学実験室	物理実験室	実習工場	AV	講義室①②	ゼミ室	共同研究室
月1	応数 山崎 4C			情基演 高比良 下馬 1E		計異化学 平山 AC2		英会話 ストッカー 2S			健科学 吉塚 3M					固力 増田 AMESC1		
月2		地理 牧野 1M						英会話 ストッカー 3C										
月3			国際関係 牧野 4ES	製図 前田 2S	ものづくり 総合実習 中江、森川 西村 3M		製図 前田 2S	コミュニ ストッカー 5M		保体 吉塚 1M	健科学 福田 4C			ものづくり 総合実習 中江・森川 西村 CAD 3M	放電 卿生 AES2		応物化 長田 AC2	
月4								コミュニ ストッカー 3E										
月5			国際関係 牧野 4MC	情ネット 高比良 5E				総英Ⅰ 松尾LL AMESC1		保体 福田 2S						技習 川瀬 AMESC2		
月6										保体 福田 2M								
月7																		
月8																		
火1	奥所 黒山	書道 鍋糸	音楽 伊藤	情通 手島 5S	情見 品川 5E		製図 長嶋・徳原 1E	総英Ⅱ 森下 AMESC2		保体 福田 1S	保体 田井 3E					数科Ⅰ 塩永 1AMESC		
火2	奥所 黒山 2ES	書道 鍋糸 2ES	音楽 伊藤 2ES															
火3	奥所 黒山 2MC	書道 鍋糸 2MC	音楽 伊藤 2MC	数プロ 横田 5S				応ユニ ライフ AMESC1		保体 宮良 2S	保体 田井 3M					応解 原 AM2	電磁特 吉田 AES2	
火4	奥所 黒山	書道 鍋糸	音楽 伊藤							保体 宮良 2C								
火5	総合実験 中江・三橋 川下・野尻 AMESC1	知活 4E	知活 4年	情見 中村嘉 2S	設計 製図Ⅰ 佐々木	知活 異文化交流 4E	設計 製図Ⅰ 佐々木			保体 宮良 2M	健科学 吉塚 5E		物理 森 2E	知活 全員 4M	総合実験 中江・三橋 川下・野尻 AMESC1			
火6										保体 宮良 2E			物理 森 2M					
火7	知活 4年			工概 中島昭 5S	設計 製図Ⅱ 西村 3M		設計 製図Ⅱ 西村 3M						物理 森 2S					
火8																		
水1		地理 牧野 1C		図学 横田 1S	実験 福田・中江 中濱・森田 西口・森川 小原・桑弘 原 4M		図学 横田 1S	英会話 ローソン 1M		保体 福田 1E	健科学 吉塚 5C		物理 森 3C		材料 川崎 AES2	現物 三橋 AMESC1	熱流 松山 AM2	
水2		地理 牧野 1M						英会話 ローソン 2M					物理 森 3E					
水3				数値解析 手島 AMESC1				英会話 ローソン 1S			保体 岡崎 3S							
水4		地理 牧野 1S						英会話 ローソン 2C					物理 森 3M					
水5		地理 牧野 1E		プログ 高比良 3E						保体 福田 2C	保体 岡崎 3C							
水6					実験 福田・中江 中濱・森田 松山・中島 3M								物理 森 3S_留学					
水7																		
水8					実験 4M													
木1		生工 山崎 1C		情見 高比良 4E				コミュニ ストッカー 5S		保体 福田 1M			物理 森 2E			一化 須田達 AME1	無工化 下野 AC1	
木2	生体教振 越村 4C	創生物 山崎 2C					製図 西村 2M	コミュニ ストッカー 5C					物理 森 2S	実習 小原 2M				
木3	中国MS 堤江習 4週	英会話ES ケイン 4週	ハングル 李 4週	情見Ⅰ 城野 3C				英会話MC ストッカー 4週	歴史学 堤江 4週	保体 福田 1C	健科学 吉塚 5S	科概 須田達 4週	物理 城 2C					
木4				情見Ⅰ 田中・越村 1C														
木5	技術ゼミ 中江・高比良 坂口・田中 下野・牧野 AMESC1,2	生化学 村川 4C					製図 西村 2M	英会話 ストッカー 3M		保体 吉塚 1E				実習 西口 2M				
木6								英会話 ストッカー 3E		保体 福田 2E			物理 森 3M					
木7				情見Ⅰ 城野 2C									物理 森 3S					
木8																		
金1	工英 村川 4C			情工 高比良 5E	情見Ⅰ 中濱・桑弘 3M			英会話 ローソン 1E		保体 吉塚 1S	健科学 中山 4E		物理 森 3C			構加特 中江 ① AM1		
金2								英会話 ローソン 1C					物理 森 3S					
金3				情見 坂口 1S	情見 中濱・桑弘 2M			英会話 ローソン 2E			健科学 中山 4S		物理 城 2C			日英環 生住 AMESC1		
金4		地理 牧野 1E						英会話 ローソン 2S		保体 吉塚 1C								
金5	総合実習 森田・三橋 志久・坂口 廣現 AMESC1	地理 牧野 1S		ソフトⅠ 武富 3S	流れ 中島 AM2		製図 福田・小原 1M				健科学 吉塚 4M		物理 森 3E	実験・実習 重松 横田 2S				
金6		地理 牧野 1C																
金7				シスプロ 寺山 3S									物理 森 2M					
金8																		
	多目的室	機械実習室	大講義室	CP	CAD	異文化ラボ	D	LL	ゼミ室	体育1，2	体育3，4，5	化学実験室	物理実験室	実習工場	AV	講義室①②	ゼミ室	共同研究室
	本科棟														専攻科棟			

（出典　教務主事室資料）

資料２－１－③－11

佐世保工業高等専門学校情報処理センター利用細則

（平成１６年４月１日制定）

佐世保工業高等専門学校情報処理センター利用細則（平成１１年３月２６日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第１条　この細則は,佐世保工業高等専門学校情報処理センター規則第１６条の規定に基づき,佐世保工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）の利用について,必要な事項を定めるものとする。

（利用の範囲）

第２条　センターの利用は,次の各号に掲げる場合とする。

一　学生に対する情報処理教育に関する授業及びこれに伴う演習

二　学生の実験実習及び卒業研究

三　教職員の研修及び研究

四　事務処理

五　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）が主催する行事

六　その他センター長が必要と認めた場合

（利用資格）

第３条　センターを利用することができる者は,次の各号に掲げる者とする。

一　本校教職員

二　本校学生

三　センター長が許可した者

（利用申請）

第４条　センター長が必要と認めた場合は,申請書を提出し承認を得なければならない。

（利用時間）

第５条　センターの利用は,原則として,平日の午前８時３０分から午後６時３０分までとする。

（利用者の遵守事項）

第６条　センターの利用を認められた者は,次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一　ユーザＩＤを当該利用目的以外に使用し,または他人に使用させないこと。

二　パスワードを他人に知られないように留意する等セキュリティへ配慮すること。

三　センターの機器及びソフトウェアに支障をきたすような使用をしないこと。

四　他の利用者に支障をきたすような利用をしないこと。

五　有償ソフトウェアの不法複製等,違法な行為はしないこと。

六　公序良俗に反する行為はしないこと。

七　営利,宣伝行為はしないこと。

八　その他の利用に際しては,センター員の指示に従うこと。

（利用の制限）

第７条　センターの機能を著しく低下する恐れがある場合や授業に支障をきたす恐れがある場合は,利用を制限することがある。

（利用の停止）

第８条　利用者がこの細則に違反し,又はセンターの運営に重大な支障を生じさせたときは,センター長はその利用の承認を取り消し,または利用を停止させることができる。

附　則

この細則は,平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この細則は,平成１８年７月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

地域共同テクノセンターの活動は，本校の教育目標の２），４）及び専攻科の教育目標の①，②の養成のために機能している。また，情報処理センターの活動は，本校の教育目標の５）のために機能している。これらのことより，両センターは本校の教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育活動全体の企画調整及び教育活動の有効な展開を行うための検討・運営体制として，各種委員会等から構成される教育点検システムを設け（資料２－２－①－１），校長を中心とした運営委員会（資料２－２－①－２）が教育活動等の重要事項を審議し，教員会議でその方針が周知されている。

運営委員会で審議された教育活動に関わる事項は，各種委員会（資料２－２－①－３）で検討される。主な委員会（資料２－２－①－４～７）は，原則毎月開催されている（資料２－２－①－８）。これら委員会での検討事項の一部は，毎月開催される学科会議でさらに検討され，学科としての意見集約が行われる。また，各主事室会議は毎週開催されており，担当分野の教育活動に係る事項が検討される。それらの結果は、該当委員会の協議を経て運営委員会に報告される。

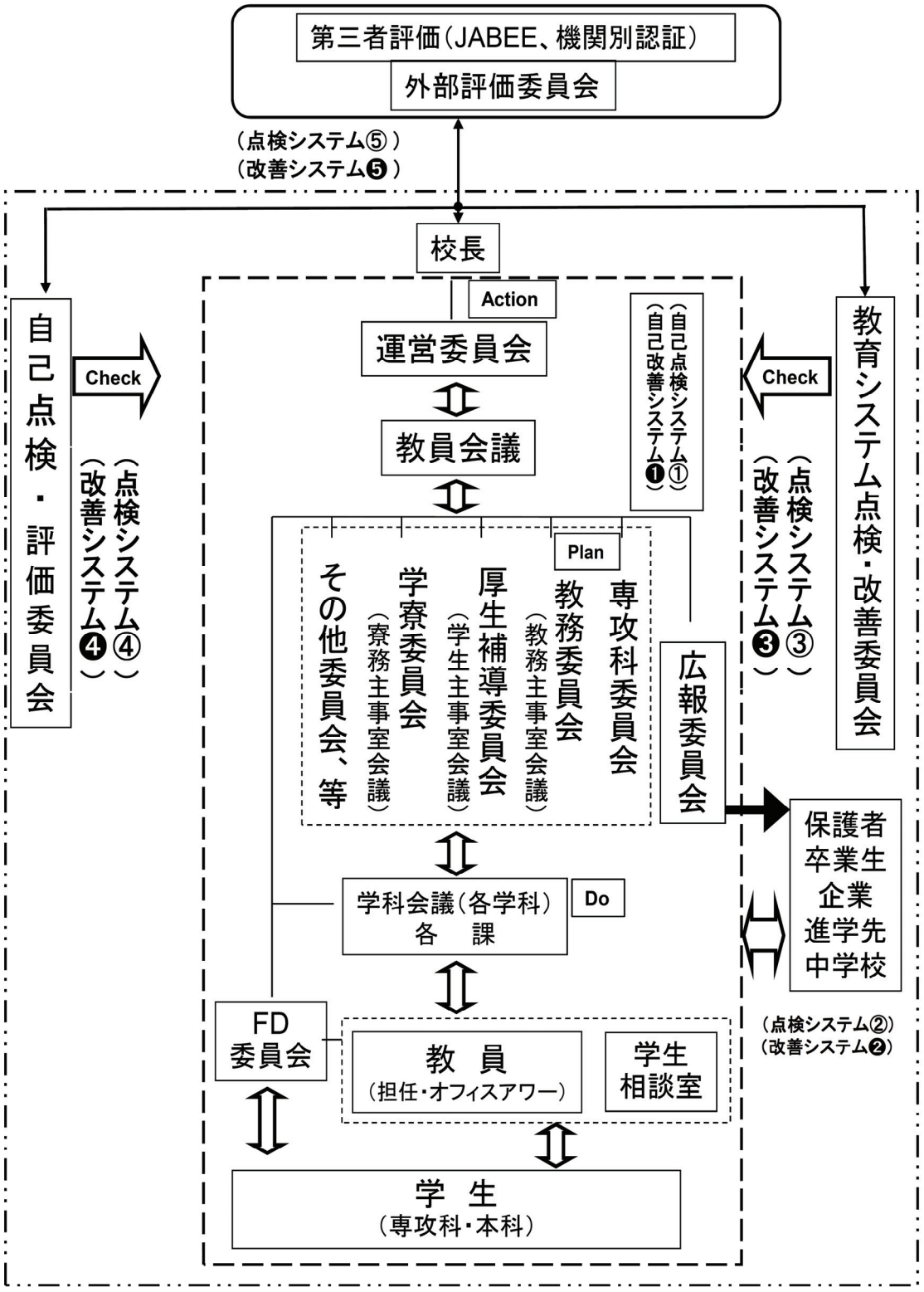
運営委員会で審議後，学科会議を経て，教務・専攻科委員会で取りまとめた後，教員会議にて周知が行われた事例（資料２－２－①－９，10）より，本校での検討・運営体制が機能していることが分かる。

観点２－２－①資料一覧

（資料２－２－①－１）	教育点検システムの構成	出典：本校ウェブサイト
（資料２－２－①－２）	運営委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－①－３）	平成 24 年度校務分担	出典：学生課資料
（資料２－２－①－４）	教務委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－①－５）	厚生補導委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－①－６）	学寮委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－①－７）	専攻科委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－①－８）	平成 24 年度行事予定表	出典：学生課資料
（資料２－２－①－９）	教員会議配布資料	出典：総務課資料
（資料２－２－①－10）	学科会議資料	出典：電子制御工学科資料

資料２－２－①－１

教育点検システムの構成



（出典　本校ウェブサイト）

資料２－２－①－２

佐世保工業高等専門学校運営委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）

第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の円滑な運営に関し必要な事項を審議するため，佐世保工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　本校の運営に関する重要な事項

二　その他校長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　校長

二　教務主事，学生主事及び寮務主事

三　校長補佐

四　専攻科長

五　各学科長及び一般科目長

六　技術室長

七　事務部長

（委員長）

第４条　委員会の委員長は，校長をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（開催）

第５条　委員会は，原則として毎月１回開催する。ただし，委員長が必要と認めた場合は，臨時に開催することができる。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を出席させることができる。

（事務）

第７条　委員会の事務は，総務課において処理する。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則

この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１９年７月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２１年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２２年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－２－①－３

平成２４年度校務分担

１．主事・主事補

区分	主事	主事補
教務	須田義昭	松山、大島、嶋田、山崎、堀江
学生	田﨑弘章	貞弘、三橋、手島、越村、三ッ廣
寮務	渡辺哲也	西口、下尾、槇田、城野、生住、縄田

２．学科長等

専攻科長	下野次男	一般科目長	松尾秀樹
専攻科副科長	中江、高比良、坂口、田中、牧野	図書館長	須田淳一郎
機械工学科長	小原彰	校長補佐（広報担当）	福田孝之
電気電子工学科長	南部幸久	〃（地域連携担当）	川崎仁晴
電子制御工学科長	中村嘉男	技術室長	川下智幸
物質工学科長	長田秀夫		

３．情報処理センター長・センター員

情報処理センター長	センター員
中村嘉男	貞弘、長嶋、嶋田、城野、三ッ廣

４．地域共同テクノセンター長・副センター長・部門長

地域共同テクノセンター長	副センター長・部門長
川崎仁晴	副センター長：長嶋、部門長：原、下尾、椛島、古川、須田（淳）

５．学生相談室長・相談員

学生相談室長	相談員
森保仁	中江、大島、川下、古川、堂平、苑田

６．特別支援教育コーディネーター

特別支援教育コーディネーター
松尾秀樹

７．キャリア教育支援室・支援室員

キャリア教育支援室長	支援室員
志久修	森田、高比良、手島、山崎、大屋、川瀬

資料２－２－①－３続き

８．学 級 担 任　　○印は学年主任

区　　分		１　年　（副担任）	２　　年	３　　年	４　　年	５　　年
機　　械	M	大　里（森田）	中村真（福田）	中　浦	◎中　島	森　川
電気電子	E	森下（高比良）	関（吉塚）	吉　田	品　川	柳　生
電子制御	S	○大　屋（椛島）	○川　瀬	前田（重松）	志　久	兼　田
物　　質	C	真　部(田中)	堂　平	◎古川（山崎）	村　山	◎平　山

９．各　種　委　員　会　　○印は委員長、※は兼任

委　員　会　名	委　　員　　名
運　営　委　員　会 （１４名）	○校　　長、教務主事、学生主事、寮務主事、校長補佐、 専攻科長、各学科長、一般科目長、技術室長、事務部長
将来構想検討委員会 （１８名）	○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科長、 一般科目長、各学科及び一般科目各１名（福田、吉田、重松、 平山、牧野）、事務部長、総務課長、学生課長
教　務　委　員　会 （１５名）	○教務主事、教務主事補、学生主事、寮務主事、専攻科長 各学科及び一般科目代表（森川、吉田、手島、田中、稲永）、学生課長
厚生補導委員会 （１６名）	○学生主事、学生主事補、教務主事、寮務主事、専攻科長若しく は副科長から１名、各学科及び一般科目代表（森田、柳生、 前田、野尻、中村真）、体育教員（吉塚）、学生課長
学　寮　委　員　会 （１７名）	○寮務主事、寮務主事補、教務主事、学生主事、専攻科長若しく は副科長から１名、第１学年及び第２学年の学級担任から各１名 （大里、堂平）、各学科代表（中浦、猪原、坂口、村山）、学生課長
授業料免除選考委員会 （若干名）	○学生主事、教務主事、総務課長 学生課長、各学級担任教員（関係教員のみ出席）
奨学生選考委員会 （若干名）	○学生主事、教務主事、事務部長、学生課長 各学級担任教員（関係教員のみ出席）
図　書　委　員　会 （８名）	○図書館長、各学科及び一般科目代表（中島、品川、坂口、越村、 関、縄田）、総務課長
研究報告編集委員会（８名）	○図書館長他図書委員会に同じ
情報処理センター 運　営　委　員　会 （１３名）	○情報処理センター長、教務主事、専攻科長若しくは副科長から １名、各学科及び一般科目代表各１名（中浦、高比良、※嶋田 ※城野、※三ッ廣）、副センター長、センター員、 総務課長、学生課長、
地域共同テクノセンター 運　営　委　員　会 （１５名）	○地域共同テクノセンター長、副センター長、部門長、教務主事、 専攻科長、各学科長及び一般科目長、総務課長
学級担任連絡会 （３９名）	○各主事及び主事補、各学級担任教員 （分科会とすることあり）

資料２－２－①－３続き

委員会名	委員名
広報委員会（１３名）	○校長補佐（広報担当）、学生主事、寮務主事、専攻科長、情報処理センター長、各学科及び一般科目代表各１名（原、吉田、坂口、野尻、大里）、総務課長、学生課長、専門職員（入試担当）
安全教育委員会（１１名）	○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、各学科長、一般科目長専攻科長、事務部長
留学生委員会（若干名）	○教務主事、学生主事、寮務主事 留学生指導教員、大里
学校教育システム点検・改善委員会（９名）	○南部、機械：中浦、電気：高比良、制御：兼田、物質：古川信、一般：真部、森下、総務課長、学生課長
ＦＤ委員会（８名）	○教務主事、中江、高比良、嶋田、野尻、稲永、総務課長、学生課長
情報ｾｷｭﾘﾃｨ管理委員会（１４名）	○校　長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科長、一般科目長、情報処理センター長、事務部長、総務課長、学生課長
施設整備委員会（１０名）	各学科及び一般科目から１名（中島、下尾、志久、平山、大屋） 教務主事、学生主事、寮務主事、総務課長、学生課長
国際交流委員会（１４名）	○校　長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科長、一般科目長、専門委員会委員長、事務部長、総務課長、学生課長
情報公開委員会（６名）	○校　長、教務主事、学生主事、寮務主事、 事務部長、総務課長
資金管理運用委員会（１２名）	○校　長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科長、事務部長、総務課長、学生課長
安全衛生委員会（１２名）	事務部長、産業医（[redacted]）、衛生管理者（西嶋）、安全管理者（総務課長）、学生課長、労働者の過半数代表者の推薦する者（西口、品川、川下、野尻、堀江、松尾修）、苑田
教員資格審査委員会（５名）	○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、当該学科等の学科長等、その他校長が必要と認めた者
表彰選考委員会（６名）	○校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、その他校長が必要と認めた者
キャンパス・ハラスメント防止委員会　（１３名）	○校　長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、各学科長、一般科目長、事務部長、その他校長が必要と認めた者（村山、苑田）
５０周年記念事業実行委員会（１１名）	各学科及び一般科目から１名（須田淳、原、長嶋、前田、古川） 事務部長、総務課長、学生課長、総務課長補佐、同窓会の推薦する者(福田)
技術室運営委員会（１４名）	技術室長、教務主事、専攻科長、各学科長及び一般科目長、総合技術教育研究センター長、情報処理センター長、総務課長、学生課長、技術長、副技術長
情報ｾｷｭﾘﾃｨ推進委員会（９名）	○情報処理センター長、情報処理センター員、情報サービス係長
知的財産委員会（８名）	○地域共同テクノセンター長、教務主事、各学科長及び一般科目長、事務部長

資料２－２－①－３続き

１０．将来構想検討委員会専門部会

部　　会　　名	委　　員　　名
将来構想検討委員会 専門部会 （　７　名）	※将来構想検討委員の各学科及び一般科目の各１名が専門部会委員、総務課長、学生課長

１１．安全教育委員会専門部会

部　　会　　名	委　　員　　名
実験、実習専門部会 （体育を含む） （７名）	○教務主事、教務主事補（大島）、体育教員（吉塚） 各学科代表各１名（森川、須田義、前田、田中）
課外活動専門部会 （７名）	○学生主事、学生主事補１名、体育教員（吉塚） 各学科代表各１名（中島、柳生、志久、城野）
学寮生活専門部会 （７名）	○寮務主事、寮務主事補（城野）、 各学科及び一般科目代表各１名（西口、下尾、重松、越村、生住）
交通安全専門部会 （７名）	○学生主事、学生主事補１名 各学科及び一般科目代表各１名（小原、品川、中村（嘉）、野尻、三ッ廣）

１２．国際交流委員会専門委員会

委員会名	委　　員　　名
学術交流専門委員会 （６名）	○教務主事、各学科及び一般科目から各１名（松山、川崎、重松、越村、大屋）

１３．おもしろ実験大公開実行委員会

委員会名	委　　員　　名
おもしろ実験大公開実行委員会 （６名）	各学科１名及び一般科目から２名（原、三橋、槇田、田中、須田淳、森）

専攻科関係

１．専攻科委員会

委員会名	委　　員　　名
専攻科委員会 （１０名）	○専攻科長、専攻科副科長、教務主事、学生主事、寮務主事、学生課長

（出典　学生課資料）

資料２－２－①－４

佐世保工業高等専門学校教務委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の本科の教務に関する重要事項を審議するため，佐世保工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程の編成及び実施に関する事項
二　指導要録に関する事項
三　学校行事に関する事項
四　入試に関すること。
五　学生の就職及び進学に関すること。
六　その他教務に関する重要事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　教務主事
二　教務主事補
三　学生主事
四　寮務主事
五　専攻科長
六　学科代表（一般科目を含む。）
七　学生課長
２　前項第６号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は，教務主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（開催）
第５条　委員会は，毎月１回開催することを原則とする。ただし，委員長が必要と認めた場合は，臨時に開催することができる。
（報告）
第６条　委員長は，委員会の審議内容を校長に報告するものとする。
（委員以外の者の出席）
第７条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第８条　委員会の事務は，学生課において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－２－①－５

佐世保工業高等専門学校厚生補導委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下｢本校｣という。）に,本校の学生の厚生補導に関する重要事項を審議するため,佐世保工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は,次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生の補導,健康及び福祉に関する事項
二　学生の課外活動に関する事項
三　学生会活動に関する事項
四　その他学生の厚生補導に関する重要事項
（組織）
第３条　委員会は,次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　学生主事
二　学生主事補
三　教務主事
四　寮務主事
五　専攻科長及び専攻科副科長のうちから選ばれた者　１人
六　学科代表（一般科目を含む。）
七　保健・体育を担当する教員のうちから選ばれた者　１人
八　学生課長
２　前項第６号の委員の任期は２年とし,再任を妨げない。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は,学生主事をもって充てる。
２　委員長は,委員会を招集し,その議長となる。
３　委員長に事故があるときは,あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（開催）
第５条　委員会は,毎月１回開催することを原則とする。ただし,委員長が必要と認めた場合は,臨時に開催することができる。
（報告）
第６条　委員長は,委員会の審議内容を校長に報告するものとする。
（委員以外の出席）
第７条　委員長が必要と認めた場合は,委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第８条　委員会の事務は,学生課において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか,委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この規程は,平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は,平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－２－①－６

佐世保工業高等専門学校学寮委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下｢本校｣という。）に,本校の学寮の管理運営に関する重要事項を審議するため,佐世保工業高等専門学校学寮委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は,次の各号に掲げる事項を審議する。
一　寮生の教育及び訓育指導の計画に関する事項
二　寮生の健康管理及び福利厚生に関する事項
三　寮生の負担となる経費に関する事項
四　学寮に関する諸規程の制定に関する事項
五　その他学寮の管理運営に関する重要事項
（組織）
第３条　委員会は,次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　寮務主事
二　寮務主事補
三　教務主事
四　学生主事
五　専攻科長及び専攻科副科長のうちから選ばれた者　１人
六　第１学年及び第２学年の学級担任のうちから選ばれた者　各１人
七　各学科の教授,准教授,講師及び助教のうちから選ばれた者　各１人
八　学生課長
２　前項第７号の委員の任期は１年とし,再任を妨げない。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は,寮務主事をもって充てる。
２　委員長は,委員会を招集し,その議長となる。
３　委員長に事故があるときは,あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（開催）
第５条　委員会は,毎月１回開催することを原則とする。ただし,委員長が必要と認めた場合は,臨時に開催することができる。
（報告）
第６条　委員長は,委員会の審議内容を校長に報告するものとする。
（委員以外の者の出席）
第７条　委員会において必要と認めた場合は,委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第８条　委員会の事務は,学生課において処理する。

附　則
この規程は,平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は,平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－２－①－７

佐世保工業高等専門学校専攻科委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下｢本校｣という。）に,本校の専攻科の教務に関する重要事項を審議するため,佐世保工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は,次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教育課程の編成及び実施に関すること。
二　入試に関すること。
三　学生の就職及び進学に関すること。
四　その他教務に関する重要事項
（組織）
第３条　委員会は,次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　専攻科長
二　専攻科副科長
三　教務主事
四　学生主事
五　寮務主事
六　学生課長
七　その他委員会において必要と認めた者
（委員長）
第４条　委員会の委員長は,専攻科長をもって充てる。
２　委員長は,委員会を招集し,その議長となる。
３　委員長に事故があるときは,あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（報告）
第５条　委員長は,委員会の審議内容を校長に報告するものとする。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は,委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第７条　委員会の事務は,学生課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか,委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この規程は,平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は,平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－２－①－８

平成24年度　行事予定表

ver-13

平成 24 年　1 月 19 日

週	日	曜	4　月		週	日	曜	5　月		週	日	曜	6　月	
	1	日	春季休業始め			1	火	教務・専攻科委員会			1	金	高総体開会式	高総体
	2	月	就職対策会議			2	水				2	土		
	3	火				3	木	憲法記念日			3	日		
	4	水				4	金	みどりの日		9	4	月		
	5	木				5	土	こどもの日			5	火	教務・専攻科委員会	
	6	金	運営委員会，教員会議，春期休業終り			6	日				6	水		
	7	土	新入生入寮		5	7	月	図書委員会	専攻科入学願書受付（推薦・社会人）		7	木	厚生補導委員会	
	8	日	入学式，入寮説明会			8	火	厚生補導委員会			8	金		
1	9	月	水曜日授業，LHR(1,2限)，始業式(3,4限)，専攻科始業式(1,2限)			9	水				9	土		
	10	火	教務・専攻科委員会	健康診断・呼出中		10	木	学寮委員会			10	日	図書館開放，第1回実用英検	
	11	水	月曜日授業			11	金			10	11	月		
	12	木	厚生補導委員会，学寮委員会			12	土				12	火	学寮委員会	前学期中間試験
	13	金	技術室運営委員会			13	日				13	水		
	14	土			6	14	月				14	木	広報委員会	
	15	日	↕ 1年生オリエンテーション（鳥帽子岳）			15	火	留学生委員会 情報処理センター運営委員会			15	金	運営委員会	
2	16	月	↕ 1年生オリエンテーション（鳥帽子岳）			16	水	体育祭リハーサル，学生会総会（午後授業なし），運営委員会			16	土		
	17	火	広報委員会	健康診断		17	木	教員会議，クラブ顧問会議			17	日	図書館開放	
	18	水				18	金			11	18	月	教員会議	
	19	木	教員会議			19	土	第2回TOEIC IPテスト，寮内清掃			19	火	施設整備委員会，防災・避難訓練，留学生懇談会	
	20	金				20	日	体育祭			20	水		
	21	土	第1回TOEIC IPテスト		7	21	月	学生臨休（体育祭代休），体育祭予備日			21	木		
	22	日				22	火				22	金		
3	23	月	開校記念日，開校記念式典・遠足（授業なし）			23	水				23	土	寮生部屋替え（1年） 交通安全講習会	
	24	火	月曜日授業			24	木	学科会議			24	日		
	25	水				25	金	専攻科入試（推薦・社会人）全体会議		12	25	月		専攻科入学願書受付（学力前期）
	26	木	学科会議			26	土	専攻科入学試験（推薦・社会人）・判定会議			26	火	図書委員会	
	27	金	新入寮生歓迎会			27	日	第1回工業英検（2～4級）			27	水		
	28	土	学寮火災避難訓練		8	28	月	学級担任連絡会（1･2年）			28	木		
	29	日	昭和の日			29	火	地域共同テクノセンター運営委員会			29	金		
4	30	月	振替休日			30	水	高総体壮行会，専攻科合格発表（推薦・社会人）			30	土		
						31	木	FD委員会						

4/9：1年実力ﾃｽﾄ(5～7限目)

4/9：数学実力テスト(2･3年)(7限目)

4/25：制服に関する講演(1年)(7限)

5/23：薬物犯罪講演(2年)

特別講義(5C)

6/27：ﾀﾊﾞｺの害講演(1年)(7限)

工場見学(3M)

学校説明会(本校，大村，諫早，時津，鳥原，唐津，佐賀)

6/1～6/14：技術士1次試験電子申請による受験申込

6/15～7/2：技術士1次試験郵送及び窓口による受験申込

（出典　学生課資料）

資料２－２－①－９

教務主事（教務委員会）
専攻科長（専攻科委員会）

学内教育システムの緊急確認事項

危機対策本部・調査委員会

下記内容について各学科での協議後，教務・専攻科委員会で取りまとめ教員会議による審議（確認）を経て共通理解の徹底を図る．

１．協議内容
（１）卒研・特別研究指導のガイドライン
（今回の詳細内容は，各学科の調査委員で状況説明後，協議下さい．）
①　学生からみて不適切指導と感じた場合の学科対応システムの確立
（駆け込み寺的な運用システム）
②　適切な時間管理
③　学生の能力・適性に対応した指導（課題レベル，日程等々）

（出典　総務課資料　抜粋）

資料２－２－①－10

学科会議資料

学科会議(4 月)

電子制御工学科 2013/4/25

1）報告事項
1．担任報告
・ １Ｓ；
・ ２Ｓ；
・ ３Ｓ；
・ ４Ｓ；
・ ５Ｓ；
・ 専攻科

2）議題
1．編入学試験（工業高校）について　　実施？
2．学内教育システムの緊急確認事項
3．進学・就職対策
「学力入試での、推薦書提出後の辞退」
4．九州・沖縄地区国立高等専門学校間の
教員交流について
5．その他

	25	木	学科会議
	26	金	新入寮生歓迎会
	27	土	学寮火災避難訓練
	28	日	
4	29	月	昭和の日
	30	火	

週	日	曜	5　月
	1	水	
	2	木	月曜日授業,教務・専攻科委員会,図書委員会
	3	金	憲法記念日
	4	土	みどりの日
	5	日	こどもの日
5	6	月	
	7	火	厚生補導委員会
	8	水	
	9	木	学寮委員会
	10	金	
	11	土	第2回TOEIC IPテスト
	12	日	
6	13	月	
	14	火	留学生委員会 情報処理センター運営委員会
	15	水	体育祭リハーサル，学生会総会(午後授業なし)，運営委員会
	16	木	教員会議，クラブ顧問会議
	17	金	

	18	土	寮内清掃
	19	日	体育祭
7	20	月	学生臨休（体育祭代休），体育祭予備日
	21	火	
	22	水	
	23	木	学科会議
	24	金	専攻科入試(推薦・社会人)全体会議
	25	土	専攻科入学試験(推薦・社会人)・科学会議
	26	日	第1回工業英検(2～4級)
8	27	月	学級担任連絡会(1･2年)
	28	火	地域共同テクノセンター運営委員会
	29	水	高総体壮行会，専攻科合格発表(推薦・社会人)
	30	木	FD委員会
	31	金	高総体開会式　高総体

（出典　電子制御工学科資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動に係る事項の検討・運営体制として運営委員会が設置されている。また，教育活動を有効に展開するために複数の委員会を整備している。各種委員会は，会議を原則毎月一回開催し，継続的に教育に係る事項を検討している。さらに，各種委員会や学科会議での協議事項は運営委員会で審議され，決定事項はその後教員会議で報告される．このように，教育活動に係る事項の審議等の活動が十分に行われている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，教員間連絡ネットワーク組織が整備されている（資料２－２－②－１）。この組織の基礎は学科会議であり，各科目の授業内容や，クラスの情報交換を行い，授業及び個別指導の改善に役立てている。なお，学科会議には１，２年のクラス担任である一般科目の教員も列席し，担当クラスの学生に関する情報交換を行っている（資料２－２－②－２）。また，数学・物理・化学の一般科目と各専門科目担当教員との連絡会議（意見交換会）も行っており，そこでは，数学に関する現状が議論され，本校の入試合格基準の見直しと習熟度クラスの要望が出された例もある（資料２－２－②－３）。

学科を越えた連携は，運営委員会，教務委員会（準学士課程），専攻科委員会（専攻科課程）が担っており，各学科代表委員が意見交換を行っている。

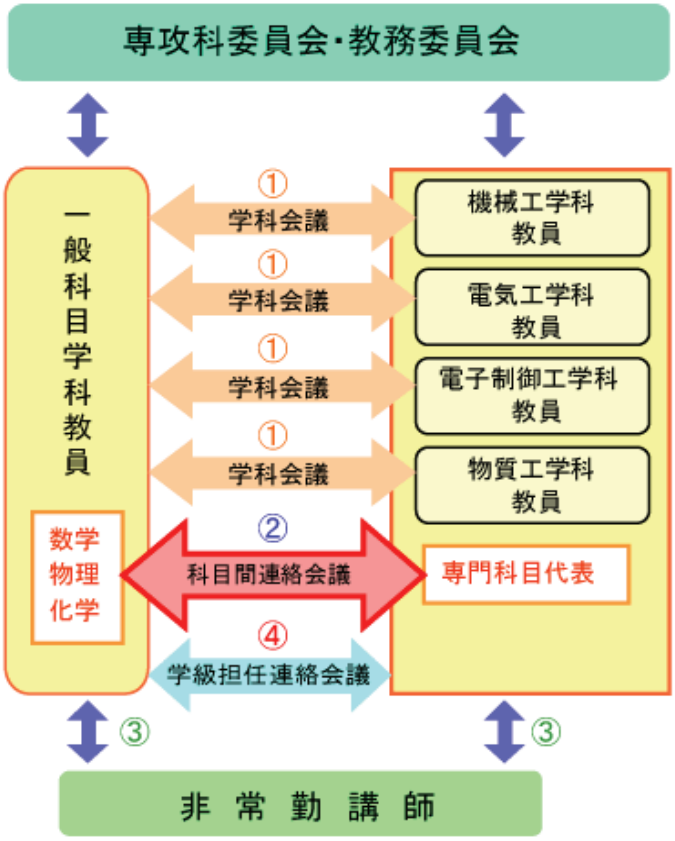
また，一年生においては担任（一般科目教員）に加え副担任（専門科目教員）を配置し，連携を図っている．さらに，学級担任連絡会議が開催されており，担任間の連携を強化している（資料２－２－②－４）。

観点２－２－②資料一覧

（資料２－２－②－１）	教員間連絡ネットワーク組織	出典：本校ウェブサイト
（資料２－２－②－２）	学科会議議事録	出典：電子制御工学科資料
（資料２－２－②－３）	理系教員と専門科目教員との意見交換会 議事録	出典：教育システム点検・改善委員会資料
（資料２－２－②－４）	学級担任連絡会規程	出典：佐世保高専規程集

資料２－２－②－１

教員間連絡ネットワーク組織



①学科会議
学科ごとの教育改善検討（各専門学科会議に2名の一般科教員出席）

②一般（数学・物理・化学）と専門の科目間連絡会議
一般理系科目（数学・物理・化学）と専門科目との教育改善検討

③非常勤講師との連絡会議
学内教員と非常勤講師との教育改善検討

④学級担任連絡会議
各学年レベルで教育改善検討

（出典　本校ウェブサイト）

資料２－２－②－２

電子制御工学科 学科会議議事録　　平成 24 年 10 月 23 日

学科長 中村 嘉男
議事録 槇田 論

日時：平成 24 年 10 月 23 日（火） 16:10～
場所：電子制御工学科 A 棟会議室
出席者：

○	中村 嘉男		川下 智幸	○	重松 利信	○	兼田 一幸
○	志久 修	○	嶋田 英樹	○	坂口 彰浩	○	手島 裕詞
○	前田 貴信	○	槇田 論	○	桃島 隆富	○	中原 勝俊
○	松尾 修二	○	川瀬 雅也	○	大屋 博一		

- 担任（担当）報告
  - 1S
    - 前期成績不振学生について
    - 新学級委員の選出
  - 2S
    - 工場見学旅行の報告
    - 前期成績不振学生について
    - 学習時間確保への取り組みについて報告（朝 SHR 前）
  - 3S
    - 研修旅行の報告
    - 前期成績不振学生について
  - 4S
    - 海外研修旅行の報告.
    - 前期成績不振学生について
  - 5S
    - 全員の進路が確定
    - 欠課の多い学生について
    - 卒業研究中間発表について
  - 専攻科
    - 学習成果レポートの提出が終わった
- 協議事項
  - 新任教員着任時の居室の確保
    - 専攻科棟 1F
  - 製図
    - ドラフター廃止を検討．製図室を不使用とする方針．
  - ペナルティポイント制
    - 導入を求める声が挙がっているが，実施するのであれば試行期間（例えば 2013 年 3 月まで）を経てその効果を定量的かつ客観的に評価するべき．

1

（出典　電子制御工学科資料）

資料２－２－②－３

一般科目：理系教員と専門科目教員との意見交換会　議事録

作成：教育システム点検･改善委員長
（電気電子工学科）南部 幸久

【日時】平成 24 年 9 月 26 日(水)16:00～16:45

【出席者(敬称略)】15 名
一般科目:(数学)稲永, 中村真, 三ツ廣, 真部, 大屋, (化学)須田淳, (物理)森
専門科目:(M)中浦, 森田, (E)南部, 大島, (S)重松, (C)長田, 古川, 城野

1. 意見交換会の開催にあたって
① 学校教育システム点検･改善委員長:南部より, 本意見交換会の開催にあたって背景･目的･構成メンバー･開催回数などについて説明を行った。

《説明事項》
(会の名称)「一般科目理系教員と専門科目教員との意見交換会」
(背景) 同会は, これまで不定期に開催
(目的) 一般科目:理系教員と専門科目教員との意見交換
(ア) ⇒育成する技術者像の共有＆一般理系科目と専門科目の接続の協議
(出席者) 学校教育システム点検･改善委員長, 一般科目:理系教員,
2.学科長(M, E, S, C), 各専門学科より1～2 名
(会議)年に1～2回開催(招集:学校教育システム点検･改善委員長または学科長)

※ オフィシャルな会議だけでは, 教員間の共通理解は難しいので, 各科目担当者間で, 機会あるごとに意見交換して頂くことが望ましい。

2. 議事
(略)

3. 意見交換

①M / 中浦先生:
3 年生までの数学について講義の進め方に問題があるとの意見があがった. 学生の勉強する様子や学生との会話の中で, 数学の教科書を使用して勉強していないことがわかった. 問題を解く方法をビジュアル的に覚えているだけで内容理解には至っていないため, 4･5 年生でも数学が出来ない学生が多い.

②数学 / 中村真先生:
①について講義の中では教科書と練習問題をまとめたプリントを使用しているとの報告があった.

③E / 南部:
E 科では一般科目に対して特に意見は無いが, 4 年生の一般物理が 3 年生までに習う物理と大きくギャップのある講義や試験が行われているため, 学科内で対応を取る必要があるとの意見があがった.

④S / 重松先生:
学生の定着力が足りないとの意見があがった. 例えば, 文字式で分数の足し算が出来ないなど, 数学の講義内容に問題があるというよりも入学時から既に力の差がある. そこで, 学力レベルに応じてクラス編制をした方が良い.

⑤数学 / 中村先生･堂平先生:
④に関連して数学の試験においても同様の傾向は見られるとの報告があった.

⑥C / 長田先生:
微分方程式などの難しい内容よりも, C 科に必要なのは微分･積分の基本的な問題を数多く解かせて欲しいという意見があがった.

⑦数学 / 稲永先生:
モデルコアカリキュラムの内容は, 3 年生までの数学で行うには量が多すぎるため, 現在の数学の講義数の中でひとつひとつ丁寧に教えている余裕は無いとの意見があがった.

《出席者全員の意見及び要望》
･本校の入試合格基準を見直した方が良い。
･特に数学の足きり点を上げる(合格最低点の見直し)などの対策を取り, 入学前から数学で苦労するとわかっている学生を入学させるべきではない。
･現行の合格基準では, 入試5教科の中で, 数学が悪くても他の教科が良くできていれば合格できる仕組みになっている。中学生の時から数学で苦労している学生(例えば文字式は苦手, 分数計算は理解できていない等々)が入学した場合, 高専の数学や専門科目の授業にはついていけないのは当たり前である。
(数学教員や専門科目教員で手当てしても間に合わない)

(出典　教育システム点検・改善委員会資料　抜粋)

資料２－２－②－４

佐世保工業高等専門学校学級担任連絡会規程

（平成１６年４月１日制定）

佐世保工業高等専門学校学級担任連絡会規程（昭和４４年４月１日制定）の全部を改正する。

第１条　教務,厚生補導及び特別教育活動等について意見を聴取し,円滑な実施を図るため,学級担任連絡会議（以下「会議」という。）を設ける。

第２条　会議は,次の教員をもって構成する。

一　教務主事

二　学生主事

三　寮務主事

四　教務主事補

五　学生主事補

六　寮務主事補

七　各学級担任教員

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教員間連絡ネットワークを構築しており，学科会議において学科間の教員の連携や，専門科目と一般科目の連携を行っている。さらに，学級担任連絡会における担任の連携を行っている。また，数学・物理・化学の一般科目と専門科目担当教員間の連絡会議を行っている。これらにより，一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が機能的に行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では，準学士課程１年から５年までは担任制（１，２年は一般科目の教員，３～５年は専門科目の教員）を取っており（資料２－２－③－１），さらに１年生の担任の助言と支援を目的に専門科目の教員を副担任として配置している。２年生以上でも必要に応じて副担任を配置している。専攻科課程では専攻科長の支援と担任の役割を果たす目的で，専攻科副科長を配置している（資料２－２－③－２）。

教務主事室では，特別教育活動予定表を計画・策定し（資料２－２－③－３），担任の学級運営を支援している。その他，特別支援教育部会（資料２－２－③－４）や学生相談室（資料２－２－③－５）を設けており，担任とこの相談室が密接に連携を取ることにより，学級運営の支援を行っている。

また，学生主事室と学生課等の事務職員（資料２－２－③－６，７）が緊密な協力をとりつつ，クラブ顧問教員の支援を行っている。クラブ顧問の支援としては必要に応じて校内外コーチを依頼している（資料２－２－③－８）。さらに，クラブ顧問会議を通して，課外活動の指導に関する意見交換や調整を行っている（資料２－２－③－９）。

観点２－２－③資料一覧

（資料２－２－③－１）	学級担任の仕事内容	出典：教員必携
（資料２－２－③－２）	平成 24 年度校務分担表　学級担任	出典：平成 24 年度教員会議資料
（資料２－２－③－３）	特別教育活動予定表	出典：教務主事資料
（資料２－２－③－４）	特別支援教育部会概要図	出典：学生課資料
（資料２－２－③－５）	学生相談室規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－③－６）	機構図	出典：学校要覧
（資料２－２－③－７）	事務分掌規程	出典：佐世保高専規程集
（資料２－２－③－８）	平成 24 年度　クラブ顧問教員	出典：学生課資料
（資料２－２－③－９）	クラブ顧問会議議事要旨	出典：学生課資料

資料２－２－③－１

学級担任の仕事内容

Ａ．健康状態と出席・欠席の把握・指導

1．１日１回は担任する学級に出向き、学生と顔を合わせ、学生の健康状態並びに学級の雰囲気等を観る。（例えば毎朝ショートHRを行うのも一例である）
2．遅刻防止の指導を行い、常習者とはよく話し合う。
3．無断で欠席している学生がいたら、保護者に連絡し、欠席する場合は事前に必ず保護者から担任に連絡をするように依頼する。寮生の場合は学寮に連絡する。
4．毎週出席簿を点検し、欠課時数の記入と欠席の累計を行い、学生の出欠状況を把握する。特に出席率の低い学生に対して指導を徹底し、出席日数及び出席時数が不足しないよう充分な指導をする。（欠席届及び欠課届の提出の励行と指導をする）

《学習指導と生活指導は車の両輪である》

Ｂ．学習指導

1．教科担当教員との連絡を密に取り、成績不振の学生および欠課時数等の多い学生がいたら相談にのると共に指導を行う。
2．試験期毎に学生の成績を分析し、本人への指導および保護者との懇談を行う。特に留年者、成績不振者に対しては不断の指導を行う。
3．シラバスによる学習指導並びに就職、進学の指導及び進路変更等の指導を行う。
4．試験を受ける場合の注意事項の徹底をはかる。特にカンニング防止の指導を行う。

Ｃ．生活指導

1．学生は中学校の管理教育から解放され、戸惑いがあるように見受けられる。よって徐々に管理をゆるめて学生の自主性、自立（律）性を育てる。
2．学級担任は学生の悩みや相談にものり、カウンセラーの役目もする。折りを見て学生と話し、また面接をし、学生とのコミュニケーションをはかる。
3．HRの時間を効果的に利用するよう工夫する。また年間指導の目標を学生にも知らせておく。
4．服装、髪型、喫煙、麻薬及び暴力等について、学級で話し合う。また問題のある学生の把握と指導を行う。（学生と話し合い共通理解をはかる。また必要によって学生主事室や学生相談室との連絡を行う）
5．学生に相応しくないと思われるアルバイトをしている学生の指導を行う。（原則として1～3年生についてはアルバイト禁止である）
6．家庭との連絡を行う(電話の活用)。また必要に応じて家庭訪問を実施する。(保護者は学級担任と連絡を密に行いたいと思っている。例えば学級通信の発行等を行うのも一例である)
7．学級懇談会の効果的活用をはかる。（学生と担任教官の情報交換の場、学級懇談会費の活用）
8．さらに学級日誌を通して学級の日直者とのコミュニケーションをはかり、日直学生の指導を行う。（学生としての義務と責任）

資料２－２－③－１続き

9. 教員に対しての言葉使いや態度等について指導する。敬語、謙譲語の使い方の指導及び教員に対して友達言葉は止めるよう指導する。
10. 学生としての自治活動の訓練のため学校行事及びボランティアへの参加を促す。

D. 教育環境の保全及びしつけ

1. 気持ち良く学習ができるように、教室や廊下の整理、整頓、清掃を行うよう指導し、ゴミはゴミステーションに必ず分別して捨てるように指導する。
2. 下校の際、学生は机上にいすを上げ、最後に教室を出る学生は窓を閉め、照明および換気扇等を消すように指導する。特に台風接近の場合は注意する。
3. 公共物を大切にするよう指導する。（壁、机、いす等に落書きをしないように、ロッカー等破損しないように指導する。もし破損した場合は弁償するように指導し、直ちに教務係に届け出るように指示する。）
4. 持ち物には必ず名前を書かせ、ロッカーには必ず鍵をかけさせ、盗難防止に努めるよう指導する。
5. 教室の掲示物等を定期的に整理し、また教室の備品等を管理する。

E. 事務処理等

1. 個人調査票A票およびB票を記入し、それを管理し、次年度の担任に引き継ぐ。
2. 授業料免除や奨学金等の会議に担任として出席する。
3. 学年末再試験等の連絡を学生に行う。
4. 学生の各種届け出を確認し、承認する。
5. 学校行事等で点呼を行い、学生の動態を把握する。
6. 学生に関する各種褒賞について把握する。
7. 学級委員や他の役員、学校行事などのメンバーの決定において、すみやかに決定できるように補助する。
8. 学生の処分について、保護者との連絡を行う。
9. 保護者懇談会等を利用して、保護者と連携を密にする。
10. 学生への各種調査やアンケート等を行う。
11. ポートフォリオの記入を学生に指導する。
12. 非常勤講師担当の科目の追試験や再試験等の試験監督を代行する。

（出典　教員必携）

資料２－２－③－２

平成 24 年度校務分担表　学級担任

○印は学年主任

２．学 科 長 等

専　攻　科　長	下　野　次　男
専攻科副科長	中江、高比良、坂口、田中、牧野

８．学 級 担 任　　○印は学年主任

区　　分		１　年（副担任）	２　年	３　年	４　年	５　年
機　械	M	大　里（森田）	中村真（福田）	中　浦	○中　島	森　川
電気電子	E	森下（高比良）	関（吉塚）	吉　田	品　川	柳　生
電子制御	S	○大　屋（花島）	○川　瀬	前田（重松）	志　久	兼　田
物　質	C	真　部(田中)	堂　平	○古川（山崎）	村　山	○平　山

（出典　平成 24 年度教員会議資料　抜粋）

資料２－２－③－３

平成24年度　特別教育活動予定表　（水曜日、7限目）Ver.7

月	日	曜	1年生	2年生	3年生	掃除	カウントすべき時間数
4	9	月	水曜日授業，LHR(1・2限目)，***始業式***，2・4年写真撮影				3
			1年実力テスト(5～7限目)	2・3年数学実力テスト(7限目)			1
	15	日	**オリエンテーション**				1年生のみ(2)
	16	月	**オリエンテーション**				
	18	水	心理検査(HR)	**学年集会(第一体育館)**	ポートフォリオの見直し(HR)		1
	23	月	開校記念日・遠足				2
	25	水	**制服の着こなし講演会(大講)**	ポートフォリオの見直し(HR)		3S① 3C②	1
5	2	水		**薬物犯罪の講演会(大講)**		1S③ 1C④	1
	9	水	ストレスマネージメントの講演(大講)		**学年集会(第一体育館)**	2M⑤ 2E①	1
	16	水	体育祭リハーサルおよび学生会総会(午後)				1
	20	日	体育祭				2
	23	水	心理検査結果返却・分析			3M② 3E③	1
	30	水	**高総体壮行会(8限)**			5M④ 5E⑤	
6	6	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意	4M① 4E②	1
	13	水	6/12～19　前期中間試験				17(19)時間
	20	水	**タバコの害講演(大講)**	グループワーク1(HR)		4S③ 4C④	1
	27	水	人生設計(HR)		プレジョブハンティング1(大講)	5S⑤ 5C①	
7	4	水	成績処理				1
			高専大会地区大会壮行会(8限)				
	11	水	性教育の講演会(大講)		プレジョブハンティング2(HR)	2S② 2C③	1
	26	木	**月曜日授業、*主事講話・表彰(3限目)***，LHR(4限目)　(1，2限目通常授業)				2
9	3	月	***校長講話・表彰(1校時)***，LHR(2限目)　(3限目より通常授業)				2
			英語課題テスト(7限目)(1～3年)				1
	5	水		社会人、卒業生、講話	プレジョブハンティング3(HR)	1M④ 1E⑤	1
	11	火	**立会演説会・球技大会**				2
	12	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意		1
	26	水	9/20～28　前期期末試験				29(31)時間
10	3	水	**学年集会(第一体育館)**	グループワーク2(HR)	プレジョブハンティング4(HR)発表	4S① 4C②	1
	10	水		グループワーク3(HR)	**知財セミナー①(大講)**	1S③ 1C④	1
	17	水	成績処理				1
	24	水		グループワーク4(HR)発表	**知財セミナー②(大講)**	1M⑤ 1E①	1
	31	水			**学年集会(第一体育館)**		
11	7	水	**学生会新旧交替式，ラグビー壮行会(8限目)**				
	9	金	文化祭準備				1
	10	土	文化祭(グループワーク5発表／プレジョブハンティング5発表)				2
	11	日	50周年記念式典				2
	14	水	学科紹介(学科長、HR)	**学年集会(第一体育館)**	マナー講習『社会人として』(大講)		1
	21	水	先輩講話(HR)		デートDVの講演会(大講)	2M② 2E③	1
	20	火	**球技大会**				2
	28	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意	5M④ 5E⑤	1
12	12	水	**AED講習会(第一体育館)**	12/6～12/12　後期中間試験			40(42)時間
	19	水				3S① 3C②	1
	21	金	成績処理、LHR・掃除(4限目)　(午後授業なし)				1
1	9	水	1・2年生数学実力テスト(7限目)		ACEテスト(HR)	5S③ 5C④	1
	23	水		先輩講話(HR)	**交通安全講習会(大講)**		1
	30	水	**学年集会(第一体育館)**			4M⑤ 4E①	1
2	6	水				2S② 2C③	1
	13	水				3M④ 3E⑤	1
	20	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意		1
	27	水	2/21～3/1　後期期末試験				
3	1	金	試験終了後***終業式***，LHR・大掃除				50(52)時間

① 1年生オリエンテーション，開校記念日・遠足，球技大会，体育祭，高専祭は開始点呼と終了点呼をそれぞれ1時間としてカウントして下さい。従って，これらのイベントに欠席の場合は2時間の欠課扱いとなります。ただし，皆勤賞計算においては午前4時間，午後3時間欠課扱いで計算して下さい。

② 掃除は、その週内で実施できる時間(HRや放課後)をクラスごとに設定し、指定のエリアを行って下さい。

③ 特別教育活動の時間は，学習(補講)などにも利用できます。

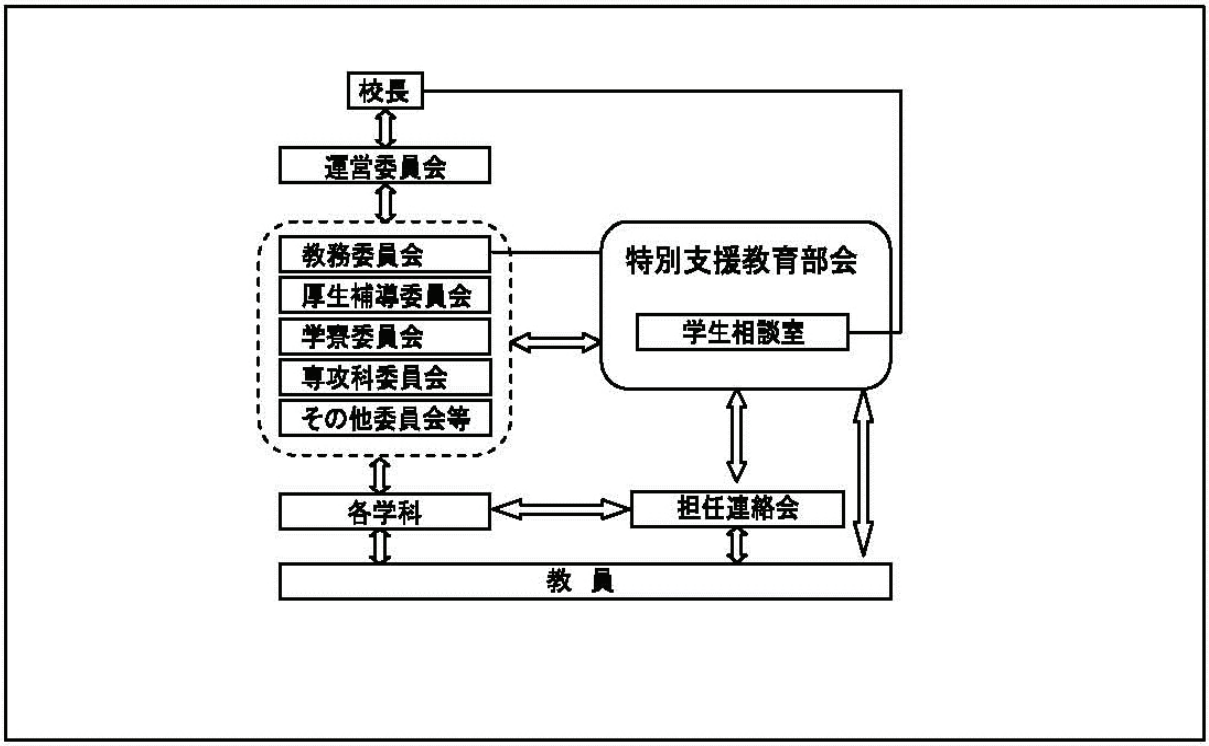
④ LHR関係図書として，「高校ホームルームの研究(1)(2)」，「ホームルームの指導計画」，「ホームルームの展開」，「ホームルーム・ハンドブック」などが、図書館や教務主事室にあります。

⑤ 始業式，体育祭リハーサル，講話・表彰，高専祭準備，終業式はそれぞれ1時間としてカウントして下さい。従って，これらのイベントに欠席した場合は1時間の欠課扱いとなります。ただし，皆勤賞計算においては実時間の欠課扱いで計算して下さい。

（出典　教務主事資料）

資料２－２－③－４

特別支援教育部会概要図



（出典　学生課資料）

資料２－２－③－５

佐世保工業高等専門学校学生相談室規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。
（目的）
第２条　相談室は，本校学生の相談に応じ，問題解決に必要な助言及び指導を行うことを目的とする。
（業務）
第３条　相談室は，次の各号に掲げる業務を行う。
一　就学に関する助言及び指導
二　精神衛生に関する助言及び指導
三　健康に関する助言及び指導
四　その他個人的問題に関する助言及び指導
五　相談活動に関する調査研究
六　その他学生相談に関する必要な業務
（組織）
第４条　相談室に，次の各号に掲げる職員を置く。
一　相談室長（以下「室長」という。）
二　相談員
（室長）
第５条　室長は，本校の教授及び准教授の中から校長が選任する。
２　室長は，相談室を統括する。
３　室長の任期は２年とし，再任を妨げない。
４　室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（相談員）
第６条　相談員は，次の各号に掲げる者をもって充てる。
一　各学科及び一般科目の教員から選出された者　各１人
二　学生課所属の看護師
２　相談員は第３条に掲げる業務を処理する。
３　第１項第１号の相談員の任期は１年とし，再任を妨げない。
４　第１項第１号の相談員に欠員が生じた場合の補欠の任期は，前任者の残任期間とする。
５　校長は，必要に応じて，本校職員以外の者を相談員として委嘱することができる。
（秘密の保持）
第７条　相談室の職員は，業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。
（運営委員会）
第８条　相談室に，相談室の運営等に関する必要な事項を審議するため，佐世保工業高等専門学校学生相談室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（委員会の組織）
第９条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　室長
二　相談員
三　学生課長
四　その他室長が必要と認めた者
（委員長）
第１０条　委員会の委員長は，室長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を召集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第１１条　委員会は，委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第１２条　委員長が必要と認めた場合は，委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第１３条　相談室の事務は，学生課生活支援係において処理する。
（雑則）
第１４条　この規程に定めるもののほか，相談室の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則

この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２２年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料２－２－③－６

機構図　Organization Chart

（H24.7.1 現在）



（出典　学校要覧）

資料２－２－③－７

佐世保工業高等専門学校事務分掌規程

（平成１９年７月１日制定）

（学生課）

第１５条　学生課に,課長補佐並びに次の専門職員及び係を置く。

一　専門職員（入試担当）
二　教育支援係
三　生活支援係
四　寮務係

（課長補佐）

第１６条　課長補佐は,次の事務をつかさどる。

一　学生課の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　教育課程の編成,実施に係わる専門的事項に関すること。
三　教育システム点検・改善に関すること。
四　入学者の選抜に係わる専門的事項に関すること。
五　他機関との各種協定及び単位互換制度に関すること。
六　留学生の受入及び支援に関すること。
七　他機関で実施する学生の企画事業に関すること。
八　その他学生課の所掌事務のうち,各係に属しない事項に関すること。

（専門職員（入試担当））

第１７条　専門職員（入試担当）は,次の事務をつかさどる。

一　入学者の選抜に関すること。
二　学生の募集に関すること。
三　入学志願者確保のための統計調査及び情報分析に関すること。
四　入試の広報に関すること。
五　入試及び教務の連絡調整に関すること。

（教育支援係）

第１８条　教育支援係は,次の事務をつかさどる。

一　教育課程の編成,実施に関すること。
二　学生の考査,成績に関すること。
三　学生の修学支援に関すること。
四　学生のインターンシップ,学外研修の事務に関すること。
五　学生の学籍等の記録・保管に関すること。
六　学生の諸届,諸証明に関すること（他係の所掌に属するものを除く。）。
七　教務の会議及び学生の諸行事に関すること。
八　非常勤講師に関すること。
九　ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
十　教務及び入試に関し,連絡調整すること。
十一　その他学生課の所掌事務で他の係に属しない事項に関すること。

資料２－２－③－７続き

（生活支援係）
第１９条　生活支援係は,次の事務をつかさどる。
一　厚生補導に関すること。
二　課外活動に関すること。
三　生活相談に関すること。
四　就職支援に関すること。
五　就学支援金に関すること。
六　奨学金及び経済支援に関すること。
七　授業料等の免除,猶予及び分納に関すること。
八　日本スポーツ振興センターの事務に関すること。
九　学生の旅客運賃割引証に関すること。
十　福利厚生に関すること。
十一　学生の保健管理に関すること。
十二　その他学生の支援に関すること。

（寮務係）
第２０条　寮務係は,次の事務をつかさどる。
一　学生の入寮及び退寮に関すること。
二　寮生の福利厚生に関すること。
三　学生寮の防火・防災に関すること。
四　学生寮に関する統計諸調査及び報告に関すること。
五　寮生の生活支援に関すること。
六　寮生の保健管理に関すること。
七　学生寮の宿日直に関すること。
八　学生寮の管理運営に関すること。
九　学生寮の将来計画（適正定員等）の分析に関すること。
十　厦門理工学院との相互交流に関すること。
十一　その他寮生の支援に関すること。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料２－２－③－８

平成24年度　クラブ顧問教員

クラブ名		顧問教員	コーチ
体育局	体育局顧問		
	陸上	☆吉塚，大里，坂口	○○○○(学外)
	野球	☆重松，川崎，手島，越村，猪原	○○○○(職員) ○○○○(専攻科生) ○○○○(専攻科生)
	ラグビー	☆中島，三橋，志久，牧野	
	バレー（男子）	☆福田，縄田	○○○○(職員)
	バレー（女子）	☆大屋，大島	○○○○(学外)
	バスケット（男子）	☆古川，西口	
	バスケット（女子）	☆平山，生住	
	ソフトテニス	☆嶋田，山崎，野尻	○○○○(専攻科生)
	卓球	☆森下，城野，原	○○○○(学外)
	柔道	☆吉田，品川	○○○○(学外)
	剣道	☆堂平，兼田，稲永	
	ワンダーフォーゲル	☆真部	
	サッカー	☆松山，川瀬，槇田	
	水泳	☆中江，村山	
	漕艇	☆松尾，川下，関	○○○○(学外)
	テニス	☆下野，三ッ廣，須田淳	
	バドミントン	☆田中，中村真，小原	○○○○(職員)
	武道	☆下尾，南部，高比良	○○○○(学外)
	ハンドボール	☆森田，長田，貞弘	
文化局	文化局顧問		
	文芸	☆生住	
	新聞		
	軽音楽	☆高比良	
	写真	☆長嶋	
	英会話	☆大里（上田）	
	パソコン	☆中村嘉	
	サイエンス	☆須田淳（真部）	
	無線	☆南部	○○○○(学外)
	華道	☆牧野	○○○○(学外)
	自動車	☆森川	
	吹奏楽	☆森，堀江，森川	○○○○(学外) ○○○○(学外)
	美術	☆貞弘（野坂）	○○○○(学外)
同好会	ダンス	☆堀江	
	数学	☆中村真	
特	ロボコン	☆前田，中浦，柳生，椛島	

（出典　学生課資料）

資料２－２－③－９

平成２４年度　第１回クラブ顧問会議議事要旨（案）

日　時　　平成２４年５月１７日（木）　１７時４０分～１８時３０分
場　所　　大会議室
出席者　　学生主事・主事補、各クラブ顧問、学生課長、学生課長補佐、生活支援係長

【１】報告確認事項

１．高総体について

学生主事より資料に基づき、高総体に関して説明があった。

・６月１日の入場行進に参加するクラブは、陸上部、柔道部、武道部、ハンドボール部で構成すること、体育祭終了後から行進の練習を行うことが説明された。
・また、長崎県高等学校体育連盟からの参加上の心得・注意事項をメールで配信していること、選手として参加・応援における服装は学校が認めたユニフォーム・ジャージとすることが確認された。
・高総体のバス配車については、別紙のとおり２日目はスクールバスのみが原則であるが、団体のサッカー、バスケットボール男子、ボートが希望しており、借り上げバスで対応することが確認された。

２．ハンドボール部練習場について

学生主事よりハンドボール部の練習場について説明があった。

・第１体育館を他のクラブとのローテーションに組み込むことで決定した。
・これに伴い、体育館の施設保全や他のクラブ活動の安全確保のためにネット、衝立等を準備することで、その予算は厚生補導設備充実費で対応することで了承した。

３．数学同好会の廃止について

学生主事より数学同好会の廃止案について５月１６日の学生会総会で承認されたことの報告があった。また、今後、部活動・同好会の昇格、降格、統合、廃止等の制度を検討する必要性があることの説明があった。

４．陸上部の特別欠席について

学生主事より、５月１８日～２０日に開催の九州インカレ、県選手権に出場する陸上部選手の特別欠席の申請が承認されたことの報告があった。

５．その他

・高校総体で入場行進に参加する学生の授業は、４時限まで授業に出て参加することとなることが確認された。
・今年度のユニーホームの購入ローテーションについて確認がなされたので、後日報告することとなった。（現在、ルール改正で至急必要なクラブがあるため調整中）
・地域住民から、やまと台団地前の坂道車道でダッシュを学生が行っていて危ない旨の通報があり、指導したところサッカー部であった。練習は、交通量等を配慮した上で実施するよう協力依頼があった。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教務主事室が特別活動予定表を計画・策定することで，学級担任の教育活動が円滑に実施できるように支援を行っている。また，学生相談室においても，学級担任への支援を行っている。さらに，学生主事室と学生課等の事務職員が緊密な協力を行うことで，クラブ顧問教員の支援を行っている。これらを通して教員の支援体制が十分に機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

運営委員会を中心とした検討・運営体制が整備されており，各種委員会が相互に連携し有効に機能している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程の４学科（機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，物質工学科）並びに専攻科課程は，ものづくりの基盤を支える技術者としての知識を身につけ，創造性や実践力に富み，豊かな教養と人間性，国際性を備え社会に貢献できる人材を育成するという教育目的に沿った編成になっている。さらに，地域との共同研究や技術開発及び技術教育や学習支援を行う地域共同テクノセンターや情報処理教育推進のための情報処理センターを設置し，本校の教育の目的達成の支援を行っている。

教育活動を展開する上で，教育活動全体を審議・検討するために各種委員会や会議等を設け，相互に連携して活動している。また，一般科目教員の専門学科の学科会議への列席や一般科目と専門科目間の連絡会議などにより，教員間の連携が図られている。さらに，教育活動を円滑に実施するために，教務主事室，学生主事室及び学生課等の事務職員が緊密な協力をとりつつ，担任の業務・クラブ顧問教員の支援を行っている。また，学生相談室を設け，担任の業務の支援を行っている。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的，教育理念や教育目標を達成する為に教育課程を編成し，各教員の専門性を考慮し，教員を配置している(資料３－１－①－１，資料３－１－①－２訪問時資料）。

本校は，４学科４学級編成であることから高等専門学校設置基準に定められた教員数は18人であるが，常勤教員数は20人であり基準を満たしている。平成24年度における一般科目の非常勤を含む教員数は39人である。

本校の教育目標に対応するように，各学年の授業科目に合致した専門性を活かした教員を配置している（資料３－１－①－３）。さらに，一般科目の教育目標に対応するように，専門性を考慮して適切に配置している（資料３－１－①－４）。例えば，準学士課程の教育目標４）（資料１－１－①－３参照）の「コミュニケーション能力の養成」のため，英会話の授業では米国人を英会話講師として配置している。

観点３－１－①資料一覧

（資料３－１－①－１）	一般科目教員の専門分野と担当科目の対応	出典：総務課資料
（資料３－１－①－２）	平成 24 年度非常勤講師任用調書	訪問時資料
（資料３－１－①－３）	本校の教育目標に対応した一般科目名と教員の配置	出典：総務課資料
（資料３－１－①－４）	一般科目の教育目標に対応した科目名と教員の配置	出典：総務課資料

資料３－１―①―１

一般科目教員の専門分野と担当科目の対応

	氏名	職名	学位	専門分野	企業等経験年数	他の教育機関での経験の有無	担当授業科目
一般科目		教授	修士	英語教育（英語教材分析・開発論）	無	○	英作文、英語
		教授	博士	四元数関数論、数学教育	5年未満	○	代数幾何、微積分、数学特論
		教授	博士	化学教育、化学実験教育、結晶成長、パターン形成	無	○	化学、自然科学概論
		教授	修士	日本近代文学　日本語表現法	無	○	国語
		教授	修士	自然地理学	無	○	地理、地理学、国際関係論
		教授	博士	偏微分方程式論	無	○	幾何、微積分、応用数学Ⅱ、応用数学Ⅲ
		教授	修士	英語教育学	無	○	英語、英作文
		准教授	博士	物理教育、理科教育、衝撃波工学	無	○	物理、留学生物理
		准教授	博士	コーチング、運動生理学	無	－	保健体育、健康と科学
		准教授	修士	数学	無	－	代数、幾何、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ
		准教授	博士	（2次体の整数論）、応用数学（組合せ論、グラフ理論）	無	○	代数幾何、微積分、応用数学Ⅱ
		准教授	修士	微分幾何学	5年未満	－	幾何、微積分、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ
		准教授	博士	日本古代史	無	－	歴史、歴史学
		准教授	修士	英語教育	無	○	英語、英作文、コミュニケーション
		准教授	博士	現象学　科学技術倫理	5年未満	－	政治経済、哲学、技術者倫理
		准教授	修士	英語教育、言語学（音韻論）	無	○	英作文、英語、コミュニケーション基礎
		講師	博士	非線形偏微分方程式	無	○	代数、幾何、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅲ
		講師	修士	英語教育	5年未満	○	英語、コミュニケーション
		講師	修士	日本近代文学	無	○	国語、日本語と文学
		助教	修士	バレーボール、コーチング、動作分析	無	－	保健体育、健康と科学

（出典　総務課資料）

資料３－１―①―３

本校の教育目標に対応した一般科目名（機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科）と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

	教育目標	準学士課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	化学（須田）	化学（椋尾） 物理（森）	物理（森）	自然科学概論（須田） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田）	
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	幾何 （堂平、中村、真部） 代数 （真部、大屋） 生物（神田、植垣） 化学（須田）	微積分（堂平、中村） 代数幾何（藤崎、稲永,三ツ廣） 物理（森） 化学（椋尾）	微積分（稲永、三ツ廣） 物理（森）	自然科学概論（須田） 数学特論（稲永）	
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	化学（須田） 保健体育（吉塚、縄田）	化学（椋尾） 物理（森） 芸術（伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	物理（森） 保健体育（田井、岡崎）	自然科学概論（（須田） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田）	健康と科学（吉塚）
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	英会話（ローソン） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 国語（生住、田崎） 保健体育（吉塚、縄田）	英会話（ローソン） 英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 国語（蒲池、辻尾） 保健体育（縄田、宮良）	英会話（ストッカー） 英語（松尾、森下、上田） コミュニケーション基礎（関） 国語（辻尾、生住、蒲池） 保健体育（田井、岡崎）	英語（松尾、大里） コミュニケーション （大里、上田） 日本語と文学（生住） 英会話（ストッカー、ケイン） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田））	英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（田崎、生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚、縄田）
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	（専門科目で対応）				
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理（牧野） 保健体育（吉塚、縄田）	歴史（堀江） 政治経済（川瀬） 保健体育（縄田、宮良） 芸術（伊藤、栗山、朝永）	歴史（堀江） 保健体育（田井、岡崎）	国際関係論（牧野） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 地理学（牧野） 哲学（川瀬） 歴史学（堀江）	健康と科学（吉塚） 技術者倫理（川瀬）

資料３－１―①―３続き

本校の教育目標に対応した一般科目名（物質工学科）と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

	教育目標	準学士課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	化学（須田） 生物（植垣、神田）	物理（城）	物理（森）	自然科学概論（須田）	
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	幾何（大屋） 代数（真部） 生物（植垣、神田） 化学（須田）	微積分（堂平） 代数幾何（藤崎） 物理（城）	微積分（三ツ廣） 物理（森）	自然科学概論（須田） 数学特論（稲永）	
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	化学（須田） 保健体育（吉塚、縄田）	物理（城） 芸術（伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	物理（森） 保健体育（岡崎、田井）	自然科学概論（須田） 健康と科学 （吉塚、縄田、中山）	健康と科学（吉塚）
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	英会話（ローソン） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 国語（生住、田崎） 保健体育（吉塚、縄田）	英会話（ローソン） 英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 国語（蒲池） 保健体育（縄田、宮良）	英会話（ストッカー） 英語（松尾、森下、上田） コミニュケーション基礎（関） 国語（蒲池） 保健体育（岡崎、田井）	英語（松尾、大里） コミュニケーション （大里、上田） 日本語と文学（生住） 英会話（ストッカー、ケイン） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、縄田、中山）	英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚）
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	（専門科目で対応）				
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理（牧野） 保健体育（吉塚、縄田）	歴史（堀江） 政治経済（川瀬） 保健体育（縄田、宮良） 芸術（伊藤、栗山、朝永）	歴史（堀江） 保健体育（岡崎、田井）	国際関係論（牧野） 健康と科学 （吉塚、縄田、中山） 地理学（牧野） 哲学（川瀬） 歴史学（堀江）	健康と科学（吉塚） 技術者倫理（川瀬） 日本語と文学（生住）

（出典　総務課資料）

資料３－１－①―４

一般科目の教育目標に対応した科目名（機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科）と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

	教育目標	進学十課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	人文・社会・保健体育系科目を充実し、心身とも豊かな人間性と倫理観を育成する。	保健体育 （吉塚、縄田） 地理（牧野）	芸術（伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良） 歴史（堀江） 政治経済（川瀬）	保健体育（田井、一箭）	健康と科学 （縄田、福島） 地理学（牧野） 哲学演習（川瀬） 歴史学演習（堀江）	健康と科学（吉塚、縄田） 技術者倫理（川瀬）
2	理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し、理論と実践に導かれた想像力と実践力を育成する。	化学（須田,原田） 幾何 （堂平、三ツ廣） 代数 （堂平、大屋）	化学（須田、原田） 物理（森、城） 微積分（真部、三ツ廣） 代数幾何（堂平、中村、大屋）	微積分（堂平、中村、大屋） 物理（森）	自然科学概論（森） 数学特論（堂平） 健康と科学 （縄田、福島）	
3	日本語・英語教育を充実し、国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を育成する。	英会話（ｽﾄｯｶｰ、ｹｲﾝ） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、原口） 国語（生住）	英会話（ｽﾄｯｶｰ、ｹｲﾝ） 英語（関、原口） 英作文（森下、大里） 国語（蒲池）	英作文（ｽﾄｯｶｰ） 英語（松尾、関） コミュニケーション基礎（関） 国語（辻尾、生住）	英会話（ｽﾄｯｶｰ） 英語（森下、松尾、関） コミュニケーション （大里、関） 日本語と文学（田崎） 英会話（ｽﾄｯｶｰ、ｹｲﾝ） 第二外国語（廣吉、趙） 国際関係論（牧野）	英語（関） コミュニケーション（ｽﾄｯｶｰ） 日本語と文学（田崎）
4	「くさび形」教育課程の長所を活かして、専門科目との連携・融合を図り、専門科目学習への動機づけを推進する。	生物（神田、植垣） 化学（須田、原田） 幾何 （真部、三ツ廣） 代数（堂平、大屋）	科学（須田、原田） 物理（森、城） 微積分（真部、三ツ尋） 代数幾何（堂平、中村、大屋）	物理（森） 微積分（堂平、中村、大屋）	自然科学概論（森）	

資料３－１－①―４続き

一般科目の教育目標に対応した科目名（物質工学科）と教員の配置

赤字は非常勤　　（平成24年度）

	教育目標	準学士課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	人文・社会・保健体育系科目を充実し、心身とも豊かな人間性と倫理観を育成する。	化学（須田） 生物（植垣、神田）	物理（城）	保健体育（岡崎、田井）	自然科学概論（須田）	健康と科学（吉塚） 技術者倫理（川瀬）
2	理数系科目では実験・実習の体験的学習を重視し、理論と実践に導かれた想像力と実践力を育成する。	幾何（大屋） 代数（真部） 生物（植垣、神田） 化学（須田）	微積分（堂平） 代数幾何（藤崎） 物理（城）	微積分（三ツ廣） 物理（森）	自然科学概論（須田） 数学特論（稲永）	
3	日本語・英語教育を充実し、国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を育成する。	英会話（ローソン） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 国語（生住、田崎）	英会話（ローソン） 英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 国語（蒲池）	英作文（ストッカー） 英語（松尾、森下、上田） コミュニケーション基礎（関） 国語（蒲池）	自然科学概論（須田） 健康と科学（吉塚、縄田、中山）	英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（生住）
4	「くさび形」教育課程の長所を活かして、専門科目との連携・融合を図り、専門科目学習への動機づけを推進する。	英会話（ローソン） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 国語（生住、田崎） 保健体育（吉塚、縄田）	物理（城） 微積分（堂平） 代数幾何（藤崎）	英作文（ストッカー） 英語（松尾、森下、上田） コミュニケーション基礎（関） 国語（蒲池） 保健体育（岡崎、田井）	英語（松尾、大里） コミュニケーション（大里、上田） 日本語と文学（生住） 英会話（ストッカー、ケイン） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 哲学（川瀬） 健康と科学（吉塚、縄田、中山）	英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚）

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，４学科４学級編成であり，高等専門学校設置基準に決められた教員数以上の一般科目担当教員が配置されている。一般科目担当教員は，教育の目的を達成するために各教員の専門分野を考慮して適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的，教育理念や教育目標を達成する為に教育課程を編成し，各教員の専門性を考慮し，教員を配置している（資料３－１－②－１，資料３－１－①－２参照）。

専門学科では，平成24年度における非常勤を含む教員は63人で，そのうち常勤は46人である。本校は４学科４学級編成であるから，高等専門学校設置基準に定められた専任の教員数は29人である。これに対し本校の専門科目担当教員数は46人であり，教授，准教授は33人である。また，教授，准教授の総数は，一般科目担当の専任教員数20人と専門科目担当の教員数46人の合計66人の半数である。いずれにおいても，高等専門学校設置基準を満たしている。

これらの教員は，本校の目的，教育理念や教育目標を達成するために必要な配置となっている（資料３－１－②－２）。各専門学科の教育目標に対する科目と教員の配置は，いずれも専門性，授業担当の適性も十分な教員を配置してある（資料３－１－②－３）。

観点３－１－②資料一覧

（資料３－１－②－１）　専門科目教員の専門分野と担当科目の対応　出典：総務課資料

（資料３－１－②－２）　本校の教育目標に対応した専門科目名と教員の配置　出典：総務課資料

（資料３－１－②－３）　専門科目の教育目標に対応した科目名と教員の配置　出典：総務課資料

資料３－１－②―１

専門科目教員の専門分野と担当科目の対応

平成２４年４月１日現在

	氏名	職名	学位	専門分野	企業等経験年数	他の教育機関での経験の有無	担当授業科目
機械工学科		教授	博士	材料強度、機械設計	6～10年	○	材料学、設計法、設計製図、知識活用型教育、機械工学特別演習、機械工学実験、創作実習、文献購読、卒業研究
		教授	博士	機械力学、機械振動学	5年未満	－	一般物理、機械力学、知識活用型教育、機械工学実験、機械工学特別演習、文献購読、卒業研究
		教授	博士	機械工作、歯車加工、機械要素	無	－	機械工作法、機械材料、計測工学、創作実習、ものづくり総合実習、知識活用型教育、機械工学実験、文献購読、機械工学特別演習、卒業研究
		准教授	博士	流体工学、粉体工学、混相流工学	5年未満	－	流体工学、機械工学特別演習、創作実習、知識活用型教育、機械工学実験、文献購読、卒業研究
		准教授	学士	機械要素設計	無	－	設計製図、設計法、機構学、設計製図、機械工作実習、機械工学実験、機械工学特別演習、文献購読、卒業研究
		准教授	博士	制御工学、制御理論、ロボット工学	無	○	情報処理Ⅰ、制御工学、メカトロニクスⅠ、創作実習、ものづくり総合実習、機械工学実験、知識活用型教育、機械工学特別演習、文献購読、卒業研究
		准教授	博士	機械工作、機械要素設計	無	－	工学通論、機械工作法、工作機械、創昨実習、ものづくり総合演習、機械工学実験、知識活用型教育、機械工学実験、機械工学特別演習、文献購読、卒業研究
		准教授	博士	機械振動学、パターン形成、レーザによる熱応力割断、レーザスクライブ	無	－	一般物理、電気工学、機械工学特別演習、創作実習、機械工学実習、機械工学実験、文献購読、卒業研究
		講師	博士	制御工学、ロボット工学、コンピュータ外科学	無	○	情報処理Ⅰ、電気工学、創作実習、知識活用型教育、機械工学実験、機械工学特別演習、文献購読、卒業研究
		講師	博士	熱工学、混相流	無	－	熱力学、熱工学、熱工学特論、創作実習、機械工学実験、機械工学特別演習、文献購読、卒業研究
		講師	博士	材料強度学	無	－	材料力学、弾性力学、材料力学特論、機械工作実習、知識活用型教育、機械工学実験、卒業研究
		助教	修士	設計製図	21年以上	－	設計製図、ものづくり総合実習、設計製図Ⅱ、卒業研究
電気電子工学科		准教授	修士	磁性材料、電気計測	無	－	電気磁気学Ⅰ、電気磁気学Ⅱ、電気電子情報工学実験Ⅱ、卒業研究
		教授	博士	プラズマプロセス工学、電気機器、電力応用、環境電磁	無	－	電気機器Ⅰ、電気機器Ⅱ、電気設計、電気電子情報工学実験Ⅱ、卒業研究
		教授	博士	ロボット工学、水中音響学、計測・制御工学	無	○	電気電子計測Ⅰ、電気電子計測Ⅱ、電気電子製図演習、電気電子工学実験Ⅱ、卒業研究
		教授	博士	電磁界理論、電波工学、技術者倫理、教育工学	無	○	電子回路Ⅰ、工業物理概論、通信工学、無線通信概論、電気電子工学実験Ⅱ、卒業研究
		教授	博士	プラズマ理工学	無	○	電子工学、高電圧工学、電気電子情報工学実験Ⅰ、電気電子情報工学実験Ⅱ、卒業研究
		准教授	修士	非線形回路、ストリーム暗号	無	－	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、電気数学、信号処理、電気電子情報工学実験Ⅱ、卒業研究
		准教授	博士	生物物理学、科学技術教育	無	－	一般物理、工業物理概論、電気電子情報工学実験Ⅰ、電気電子情報工学実験Ⅱ、卒業研究
		准教授	博士	薄膜工学、プラズマプロセス工学	無	－	電気電子工学基礎、電気回路Ⅰ、電子回路Ⅱ、創作実習、電気電子情報工学実験Ⅰ、卒業研究
		准教授	博士	環境電気工学	無	－	電気磁気学Ⅰ、制御工学、電気電子情報工学実験Ⅱ、電気電子情報工学実験、卒業研究
		講師	修士	画像処理、認識工学、IT全般	無	○	情報工学基礎演習、プログラミング、情報処理、情報通信ネットワーク、情報工学、創作実習、卒業研究
		講師	博士	総合領域分野・情報学分科（計算機システム）	無	－	デジタル回路、電子計算機応用、情報工学基礎演習、電気電子情報工学実験Ⅰ、電気電子情報工学実験Ⅱ、卒業研究
		助教	博士	放電プラズマ工学、高電圧パルスパワー工学	無	－	電気数学、電気回路Ⅱ、電気電子材料、創作実習、電気電子製図演習、電気電子情報工学実験Ⅰ、卒業研究

資料３－１－②―１続き

専門科目教員の専門分野と担当科目の対応

平成２４年４月１日現在

	氏名	職名	学位	専門分野	企業等経験年数	他の教育機関での経験の有無	担当授業科目
電子制御工学科		准教授	修士	画像処理、情報処理	無	○	情報処理、制御工学、情報通信特論、創作実習、工学実験・実習、卒業研究
		教授	博士	サーボ制御、精密モーションコントロール	6～10年	－	電子回路Ⅱ、計測工学、制御工学特論、工学実験・実習、卒業研究
		教授	博士	センサー工学、低温物理学、物理教育	5年未満	○	電子工学、一般物理、工学実験・実習、卒業研究
		准教授	博士	画像処理、パターン認識	無	－	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、画像工学、工学実験・実習、卒業研究
		准教授	博士	情報通信工学、通信工学	無	－	電子回路Ⅰ、通信工学、情報通信、情報通信特論、工学実験・実習、卒業研究
		准教授	博士	電磁界解析、計算機応用	無	－	電気磁気学Ⅰ、電気磁気学Ⅱ、電子工学、工学実験・実習、卒業研究
		准教授	博士	制御工学	無	－	情報処理、電気工学、電子制御工学、創作実習、工学実験・実習、卒業研究
		准教授	博士	コンピュータグラフィックス	無	○	情報通信、知識工学、創作実習、工学実験・実習、卒業研究
		講師	修士	電気工学、制御工学、情報処理、自動計測	5年未満	－	基礎電気工学、ディジタル回路、製図、創作実習、工学実験・実習、卒業研究
		講師	博士	ロボット工学，知能システム	無	－	生産加工Ⅰ、図学、生産加工Ⅱ、計測工学、数値プログラミング、工学実験・実習、卒業研究
		助教	修士	コンピュータネットワーク	21年以上	－	電気工学、情報処理、ソフトウェア科学Ⅱ、情報通信特論、工学実験・実習、卒業研究
物質工学科		教授	博士	触媒化学、物理化学	無	○	反応工学、物理化学Ⅱ、物理化学Ⅲ、創作実習、物質化学実験2、物質化学実験3、物質化学実験4、卒業研究
		教授	博士	無機材料、環境化学、分析化学	11～20年	－	無機化学、無機材料学、創作実習、物質工学実験2、物質化学実験3、物質化学実験4、卒業研究
		教授	博士	高分子材料化学(物性、応用)、反応工学(反応解析、反応速度論)	21年以上	－	工業英語、化学工学、有機材料学、反応工学、資源化学、創作実習、物質化学実験2、物質化学実験3、物質化学実験4、卒業研究
		教授	博士	有機合成化学	無	－	有機化学、理論有機化学、創作実習、物質化学実験2、物質化学実験3、卒業研究
		教授	博士	無機材料化学、エネルギー変換材料	無	－	基礎物質化学、工学基礎、無機化学、物理化学Ⅰ、創作実習、物質化学実験、物質化学実験4，卒業研究
		准教授	博士	化学工学、粉体工学、数値計算工学、混相流工学	無	○	情報処理Ⅰ、化学工学、機械工学概論、創作実習、物質化学実験3、物質化学実験4，卒業研究
		准教授	博士	応用微生物学	5年未満	－	基礎生物工学、微生物学序論、工業英語、応用微生物学、創作実習、物質化学実験1、物質化学実験4，卒業研究
		准教授	博士	細胞・遺伝子工学、植物組織培養学	無	－	生物化学、工業英語、細胞・遺伝子工学、植物学、創作実習、物質化学実験4，卒業研究
		助教	博士	生物有機化学、海洋天然物化学	5年未満	－	情報処理Ⅰ、生体触媒工学、生物環境工学、物質化学実験1，物質化学実験2、卒業研究
		講師	博士	電気化学　分光電気化学 分析化学　機器分析	無	○	情報処理Ⅰ、分析化学Ⅰ、危機分析、物質化学実験1、物質化学実験4、卒業研究
		助教	博士	機能性無機材料化学	5年未満	○	電気・電子工学概論、セラミックス化学、情報処理Ⅱ、物質化学実験1、物質化学実験2、物質化学実験3、物質化学実験4、卒業研究

（出典　総務課資料）

資料３－１－②―２

本校の教育目標に対応した機械工学科科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

教育目標		準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	工学通論（森川） 創作実習 （中島、森田、中浦、松山、福田、中江、森川、貞弘） 機械工作実習（森田） 設計製図 （福田、小原、西村） 化学（須田）	機械工作実習 （小原、西口） 設計製図（西村） 化学（椋尾） 物理（森）	ものづくり総合実習 （中江、森川、西村） 物理（森）	機械工学実験（全教員） 自然科学概論（須田 社会人基礎力育成ｾﾐﾅｰ （全教員）	機械工学実験（全教員） 卒業研究（全教員）
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	工学通論（森川） 設計製図 （福田、小原、西村） 化学（須田） 生物（神田、植垣） 代数（真部、大屋） 幾何 （堂平、中村、真部）	材料学（福田） 機械工作法（中江） 設計製図（西村） 微積分（堂平、中村） 代数幾何 （藤崎、稲永、三ツ廣） 物理（森） 化学（椋尾）	応用数学Ⅰ（大屋） 材料学（中江） 機械工作法（森川） 設計法（小原） 材料力学（西口） 電気工学（貞弘） 微積分（稲永、三ツ廣） 物理（森） ものづくり総合実習 （中江、森川、西村）	応用数学Ⅱ（三ツ廣） 応用数学Ⅲ（中村） 一般物理（原） 材料力学（西口） 機械工作法（中江） 機構学（小原） 設計法（福田） 熱力学（松山） 流体工学（中島） 計測工学（中江） 電気工学（森田） 制御工学（中浦） 数学特論（稲永） 自然科学概論（須田） メカトロニクスⅠ（中浦）	一般物理（森田） 弾性力学（西口） 工作機械（森川） 設計法（小原） 機械力学（原） 熱工学（松山） 流体工学（中島） メカトロニクスⅠ（中浦） 設計製図Ⅰ（佐々木） 設計製図Ⅱ（西村） 文献講読（全教員） 材料力学特論（西口） 熱工学特論（松山） メカトロニクスⅡ（中浦） トライボロジ（中島） 卒業研究（全教員） 機械工学特別演習（全教員） 情報処理Ⅱ（貞弘）
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	創作実習 （中島、森田、中浦、松山、福田、中江、森川、貞弘） 機械工作実習（森田） 化学（須田） 保健体育（吉塚、縄田）	機械工作実習 （小原、西口） 化学（椋尾） 物理（森） 芸術 （伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	材料学（中江） ものづくり総合実習 （中江、森川、西村） 物理（森） 保健体育（田井、岡崎）	機械工学実験（全教員） 自然科学概論（須田） 工場実習 （学科長、４年担当） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 社会人基礎力育成ｾﾐﾅｰ （全教員） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	機械工学実験（全教員） 卒業研究（全教員） 健康と科学（吉塚）
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	創作実習 （中島、森田、中浦、松山、福田、中江、森川、貞弘） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 英会話（ﾛｰｿﾝ） 国語（生住、田崎） 保健体育（吉塚、縄田） 情報処理Ⅰ （貞弘、中浦）	英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 英会話（ﾛｰｿﾝ） 国語（蒲池、辻尾） 保健体育（縄田、宮良）	英語（松尾、森下、上田） 英会話（ｽﾄｯｶｰ） 国語（辻尾、生住、蒲池） コミュニケーション基礎（関） 保健体育（田井、岡崎）	工場実習 （学科長、４年担当） 英語（松尾、大里） コミュニケーション （大里、上田） 英会話（ｽﾄｯｶｰ、ｹｲﾝ） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 日本語と文学（生住） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	卒業研究（全教員） 文献講読（全教員） 英語（上田） コミュニケーション（ｽﾄｯｶｰ） 日本語と文学（田崎、生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚） 機械工学特別演習（全教員）
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	情報処理Ⅰ （貞弘、中浦）	情報処理Ⅰ （貞弘、中浦）	情報処理Ⅰ （貞弘、中浦）		卒業研究（全教員） 情報処理Ⅱ（貞弘）
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理（牧野） 保健体育（吉塚、縄田）	歴史（堀江） 政治経済（川瀬） 芸術 （伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	歴史（堀江） 保健体育（田井、岡崎）	歴史学（堀江） 国際関係論（牧野） 地理学（牧野） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田）	技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚）

資料３－１－②―２続き

本校の教育目標に対応した電気電子工学科科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

教育目標		準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	電気電子工学基礎（大島） 電気電子製図演習 （長嶋、猪原） 創作実習 （高比良、猪原、大島） 情報工学基礎演習 （高比良、下尾） 化学（須田）	電気電子情報工学実験Ⅰ （大島、猪原、三橋、下尾） 化学（椋尾） 物理（森）	電気電子情報工学実験Ⅰ （大島、下尾、猪原、川崎） 物理（森）	電気電子情報工学実験Ⅱ （須田、川崎、南部、 品川、柳生、下尾） 自然科学概論（須田） 情報処理（高比良）	電気電子情報工学実験Ⅱ （吉田、川崎、南部、長嶋、 三橋、柳生、下尾） 卒業研究（全教員）
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	代数（真部、大屋） 幾何（堂平、中村、真部） 化学（須田） 生物（神田、植垣） 電気電子工学基礎（大島） 電気電子製図演習 （長嶋、猪原） 情報工学基礎演習 （高比良、下尾）	微積分（堂平、中村） 代数幾何 （藤崎、稲永,三ツ廣） 物理（森） 化学（椋尾） プログラミング（高比良） 電気回路Ⅰ（大島） 電気磁気学Ⅰ（柳生）	応用数学Ⅰ（堂平） 電気磁気学Ⅰ（吉田） 電気回路Ⅰ（品川） 電気電子計測Ⅰ（長嶋） 電子回路Ⅰ（南部） デジタル回路（下尾） 電気機器Ⅰ（須田） 微積分（稲永、三ツ廣） プログラミング（高比良） 物理（森）	応用数学Ⅱ（堂平） 数学特論（稲永） 一般物理（三橋） 工業物理概論 （南部、三橋） 自然科学概論（須田） 電気数学（品川、猪原） 電気電子計測Ⅱ（長嶋） 電気機器Ⅱ（須田） 制御工学（柳生） 電気回路Ⅱ（品川、猪原） 電子回路Ⅱ（大島） 電気磁気学Ⅱ（吉田） 情報処理（高比良）	電気設計（須田） 電気電子材料（猪原） 電気法規・電気施設管理（寺崎） 電子工学（川崎） 情報通信ネットワーク （高比良） 電子計算機応用（下尾） 高電圧工学（川崎） 電気設計（須田） 通信工学（南部） 信号処理（品川） 電力工学（山田） 情報工学（高比良） 無線通信概論（南部） 卒業研究（全教員）
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	創作実習 （高比良、猪原、大島） 情報工学基礎演習 （高比良、下尾） 化学（須田） 保健体育（吉塚、縄田）	電気電子情報工学実験Ⅰ （大島、猪原、三橋、下尾） 物理（森） 化学（椋尾） 保健体育（縄田、宮良） 芸術（伊藤、栗山、朝永）	電気電子情報工学実験Ⅰ （大島、下尾、猪原、川崎） 物理（森） 保健体育（田井、岡崎）	電気電子情報工学実験Ⅱ （須田、川崎、南部、 品川、柳生、下尾） 工場実習 （学科長、４年担当） 自然科学概論（須田） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	電気電子情報工学実験Ⅱ （吉田、川崎、南部、長嶋、 三橋、柳生、下尾） 卒業研究（全教員） 健康と科学（吉塚）
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	創作実習 （高比良、猪原、大島） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 英会話（ローソン） 国語（生住、田崎） 保健体育（吉塚、縄田）	英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 英会話（ローソン） 国語（蒲池、辻尾） 保健体育（縄田、宮良）	英語（松尾、森下、上田） 英会話（ストッカー） 国語（辻尾、生住、蒲池） コミュニケーション基礎 （関） 保健体育（田井、岡崎）	工場実習 （学科長、４年担当） 英語（松尾、大里） コミュニケーション （大里、上田） 英会話（ストッカー、ケイン） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 日本語と文学（生住） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	卒業研究（全教員） 英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（田崎、生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚）
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	情報工学基礎演習 （高比良、下尾）	プログラミング（高比良）	プログラミング（高比良）	情報処理（高比良） 電気数学（品川、猪原）	情報通信ネットワーク （高比良） 卒業研究（全教員） 情報工学（高比良）
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理（牧野） 保健体育（吉塚、縄田）	歴史（堀江） 政治経済（川瀬） 保健体育（縄田、宮良） 芸術（伊藤、栗山、朝永）	歴史（堀江） 保健体育（田井、岡崎）	歴史学（川瀬） 国際関係論（牧野） 地理学（牧野） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田）	

資料３－１－②―２続き

本校の教育目標に対応した電子制御工学科科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

	教育目標	準学士課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	生産加工Ⅰ（槇田） 図学（槇田） 製図（前田） 基礎電気工学（前田） 創作実習（重松、川下、志久、椛島） 化学（須田）	製図（前田） 工学実験・実習 （重松、槇田、前田、志久、坂口） 物理（森） 化学（椋尾）	生産加工Ⅱ（槇田） 工学実験・実習 （重松、手島、志久、坂口、椛島、兼田） 物理（森）	工学実験・実習 （制御工学科全教員） 自然科学概論（須田）	工学基礎概論（前期） （川下、中島） 工学基礎概論（後期） （山邉） 工学実験・実習 （制御工学科全教員） 卒業研究（全教員）
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	図学（槇田） 製図（前田） 幾何 （堂平、中村、真部） 代数 （真部、大屋） 生物（神田、植垣） 化学（須田） 生産加工Ⅰ（槇田） 情報処理（坂口） 基礎電気工学（前田）	製図（前田） 電気工学（坂口、椛島） 物理（森） 化学（椋尾） 情報処理（中村）	応用数学Ⅰ（真部） デジタル回路（前田） 電気回路Ⅰ（志久） 電気磁気学Ⅰ嶋田） 電子回路Ⅰ（兼田） 生産加工Ⅱ（槇田） ソフトウェア科学Ⅰ （武富） 物理（森）	応用数学Ⅱ（中村） 応用数学Ⅲ（大屋） 数学特論（稲永） 一般物理（重松） 自然科学概論（須田） 電気回路Ⅱ（志久） 電気磁気学Ⅱ（嶋田） 電子工学（重松、嶋田） 電子回路Ⅱ（川下） 通信工学（兼田） 計測工学（槇田、川下） 制御工学（中村） ソフトウェア科学Ⅱ （椛島）	一般物理（重松） 工学基礎概論（前期） （川下、中島） 工学基礎概論（後期） （山邉） 数値プログラミング（槇田） 情報通信（兼田、手島） システム・プログラム論（寺山） 電子制御工学（坂口） ロボット工学（中島,川下） 制御工学特論（川下） 情報通信特論 （兼田、椛島、中村） 知識工学（手島） 画像工学（志久） システム工学（寺山） 卒業研究（全教員）
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	創作実習 （重松、川下、兼田、志久、椛島） 化学（須田） 保健体育（吉塚、縄田）	工学実験・実習 （重松、志久、前田、坂口、槇田） 化学（椋尾） 物理（森） 芸術（伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	工学実験・実習 （重松、手島、志久、坂口、椛島、兼田） 物理（森） 保健体育（田井、岡崎）	工学実験・実習 （制御工学科全教員） 工場実習 （学科長、４年担当） 自然科学概論（須田） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	健康と科学（吉塚） 工学実験・実習 （制御工学科全教員 卒業研究（全教員）
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	英会話（ローソン） 英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 国語（生住、田崎） 保健体育（吉塚、縄田） 創作実習 （重松、川下、兼田、志久、椛島）	英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 英会話（ローソン） 国語（蒲池、辻尾） 保健体育（縄田、宮良）	英語 （松尾、森下、上田） 英会話（ストッカー） コミュニケーション基礎（関） 国語（辻尾、生住、蒲池） 保健体育（田井、岡崎）	工場実習 （学科長、４年担当） 英語（松尾、大里） コミュニケーション （大里、上田） 英会話（ストッカー、ケイン） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 日本語と文学（生住） 哲学（川崎） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	卒業研究（全教員） 英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（田崎、生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚）
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	情報処理（坂口）	情報処理（中村）	ソフトウェア科学Ⅰ （武富）	ソフトウェア科学Ⅱ （椛島）	システム・プログラム論（寺山） 卒業研究（全教員）
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理（牧野） 保健体育（吉塚、縄田）	歴史（堀江） 政治経済（川瀬） 芸術（伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	歴史（堀江） 保健体育（田井、岡崎）	歴史学（堀江） 国際関係論（牧野） 地理学（牧野） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、中山、縄田）	技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚）

資料３－１－②―２続き

本校の教育目標に対応した物質工学科（生物コース）科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

教育目標		準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	化学(須田) 生物(植垣、神田) 基礎物質化学(渡辺) 基礎生物工学(山崎) 工学基礎(渡辺) 創作実習(全教員)	物理(城) 微生物学序論(山崎) 物質化学実験1-1 (田中，野尻、和田) 物質化学実験1-2 (山崎、越村)	物理(森) 物質化学実験２ (下野，古川，長田， 平山，渡辺，城野， 越村，野尻)	自然科学概論(須田) 物質化学実験３ (下野，古川，長田，平山， 渡辺，城野，越村，野尻)	機械工学概論(城野) 電気・電子工学概論(野尻) 卒業研究(全教員) 物質化学実験4-1 (全教員) 物質化学実験4-2 (平山、渡辺、村川、田中、野尻)
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	代数(真部) 幾何(大屋) 化学(須田) 生物(植垣、神田) 基礎物質化学(渡辺) 基礎生物工学(山崎) 工学基礎(渡辺)	代数幾何(藤崎) 微積分(堂平) 物理(城) 無機化学(渡辺) 有機化学(平山) 分析化学Ⅰ(田中) 微生物学序論(山崎)	応用数学Ⅰ(大屋) 微積分(三ツ廣) 物理(森) 無機化学(下野) 有機化学(平山) 分析化学(和田) 物理化学Ⅰ(渡辺) 化学工学(古川，城野) 工業英語(古川，山崎)	応用数学Ⅱ(真部) 数学特論(稲永) 自然科学概論(須田) 一般物理(小野) 理論有機化学(平山) 機器分析(田中) 物理化学Ⅱ(長田) 化学工学(宮川) 反応工学(古川，長田) 生物化学Ⅰ(村山) 工業英語(村山) 応用微生物学　(山崎) 生体触媒工学(越村)	物理化学Ⅲ(長田) 化学工学(城野) 生物化学Ⅱ(野坂) 環境工学(山邉) 品質管理(児玉) 資源化学(古川) 機械工学概論(城野) 電気・電子工学概論(野尻) 食品プロセス工学(宮川) 植物学(村山) 細胞・遺伝子工学(村山) 応用微生物学(大坪) 生物環境工学(越村)
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	化学(須田) 保健体育 (吉塚、縄田) 創作実習(全教員)	物理(城) 芸術(伊藤、栗山、朝永) 保健体育(縄田、宮良) 物質化学実験1-1 (田中，野尻、和田) 物質化学実験1-2 (山崎、越村)	物理(森) 保健体育(岡崎、田井) 物質化学実験２ (下野，古川，長田，平山， 渡辺，城野，越村，野尻)	自然科学概論(須田) 健康と科学 (吉塚、縄田、中山) 物質化学実験３ (下野，古川，長田，平山， 渡辺，城野，越村，野尻) 工場実習 (学科長、4年担当) 工業技術国際研修 (国際交流委員)	健康と科学(吉塚) 卒業研究(全教員) 物質化学実験4-1 (全教員) 物質化学実験4-2 (平山、渡辺、村川、田中、野尻)
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	英語(大里、森下) 英作文(松尾、関) 英会話(ﾛｰｿﾝ) 国語(生住、田崎) 保健体育 (吉塚、縄田) 創作実習(全教員)	英語(関、上田) 英作文(森下、大里) 英会話(ﾛｰｿﾝ) 国語(蒲池) 保健体育(縄田、宮良)	英語(松尾、森下、上田) 英会話(ｽﾄｯｶｰ) コミュニケーション基礎(関) 国語(蒲池) 保健体育 (岡崎、田井) 工業英語(古川、山崎)	英語(松尾、大里) コミュニケーション (大里、上田) 英会話(ｽﾄｯｶｰ、ｹｲﾝ) ドイツ語(廣吉) 中国語(堀江、趙) ハングル語(李) 日本語と文学(生住) 哲学(川瀬) 健康と科学 (吉塚、縄田、中山) 工業英語(村山) 工場実習 (学科長、4年担当) 工業技術国際研修 (国際交流委員)	英語(上田) コミュニケーション(ｽﾄｯｶｰ) 日本語と文学(生住) 技術者倫理(川瀬) 健康と科学(吉塚) 卒業研究(全教員)
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	基礎情報処理Ⅰ (田中、越村)	情報処理Ⅰ(城野)	情報処理Ⅰ(城野)	情報処理Ⅰ(椛島)	情報処理Ⅱ(椛島) 卒業研究(全教員)
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理(牧野) 保健体育 (吉塚、縄田)	歴史(堀江) 政治経済(川瀬) 芸術(伊藤、栗山、朝永) 保健体育 (縄田、宮良)	歴史(堀江) 保健体育 (岡崎、田井)	歴史学(堀江) 国際関係論(牧野) 地理学(牧野) 哲学(川瀬) 健康と科学 (吉塚、縄田、中山)	技術者倫理(川瀬) 健康と科学(吉塚) 環境工学(山邉)

資料３－１－②―２続き

本校の教育目標に対応した物質工学科（物質コース）科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

教育目標		準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。	化学（須田） 生物（植垣、神田） 基礎物質化学（渡辺） 基礎生物工学（山崎） 工学基礎（渡辺） 創作実習（全教員）	物理（城） 微生物学序論（山崎） 物質化学実験1−1 （田中、野尻、和田） 物質化学実験1−2 （山崎、越村）	物理（森） 物質化学実験2 （下野、古川、長田、 平山、渡辺、城野、 越村、野尻）	自然科学概論（須田） 物質化学実験3 （下野、古川、長田、 平山、渡辺、城野、 越村、野尻）	機械工学概論（城野） 電気・電子工学概論（野尻） 卒業研究（全教員） 物質化学実験4−1 （全教員） 物質化学実験4−2 （平山、渡辺、村川、田中、野尻）
2	高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探求し、解決できる能力を養成する。	代数（真部） 幾何（大屋） 化学（須田） 生物（植垣、神田） 基礎物質化学（渡辺） 基礎生物工学（山崎） 工学基礎（渡辺）	代数幾何（藤崎） 微積分（堂平） 物理（城） 無機化学（渡辺） 有機化学（平山） 分析化学Ⅰ（田中） 微生物学序論（山崎）	応用数学Ⅰ（大屋） 微積分（三ツ廣） 物理（森） 無機化学（下野） 有機化学（平山） 分析化学（和田） 物理化学Ⅰ（渡辺） 化学工学（古川、城野） 工業英語（古川、山崎）	応用数学Ⅱ（真部） 数学特論（稲永） 自然科学概論（須田） 一般物理（小野） 理論有機化学（平山） 機器分析（田中） 物理化学Ⅱ（長田） 化学工学（宮川） 反応工学（古川、長田） 生物化学Ⅰ（村山） 工業英語（村山） 無機材料学（下野） 有機材料学（古川）	物理化学Ⅲ（長田） 化学工学（城野） 環境工学（山邉） 品質管理（児玉） 機械工学概論（城野） 電気・電子工学概論（野尻） 食品プロセス工学（宮川） 資源化学（古川） 植物学（村山） 応用微生物学（大坪） セラミック科学（野尻） 生物環境工学（越村）
3	実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。	化学（須田） 保健体育 （吉塚、縄田） 創作実習（全教員）	物理（城） 芸術 （伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良） 物質化学実験1−1 （田中、野尻、和田） 物質化学実験1−2 （山崎、越村）	物理（森） 保健体育（岡崎、田井） 物質化学実験2 （下野、古川、長田、平 山、渡辺、城野、越村、野 尻）	自然科学概論（須田） 健康と科学 （吉塚、縄田、中山） 物質化学実験3 （下野、古川、長田、平山、 渡辺、城野、越村、野尻） 工場実習（全教員） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	健康と科学（吉塚） 卒業研究（全教員） 物質化学実験4−1 （全教員） 物質化学実験4−2 （平山、渡辺、村川、田中、野尻）
4	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。	英語（大里、森下） 英作文（松尾、関） 英会話（ローソン） 国語（生住、田崎） 保健体育 （吉塚、縄田） 創作実習（全教員）	英語（関、上田） 英作文（森下、大里） 英会話（ローソン） 国語（蒲池） 保健体育 （縄田、宮良）	英語（松尾、森下、上田） 英会話（ストッカー） コミュニケーション基礎 （関） 国語（蒲池） 保健体育 （岡崎、田井） 工業英語（古川、山崎）	英語（松尾、大里） コミュニケーション （大里、上田） 英会話（ストッカー、ケイン） ドイツ語（廣吉） 中国語（堀江、趙） ハングル語（李） 日本語と文学（生住） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、縄田、中山） 工業英語（村山） 工場実習（全教員） 工業技術国際研修 （国際交流委員）	英語（上田） コミュニケーション（ストッカー） 日本語と文学（生住） 技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚） 卒業研究（全教員）
5	情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。	基礎情報処理Ⅰ （田中、越村）	情報処理Ⅰ（城野）	情報処理Ⅰ（城野）	情報処理Ⅰ（椛島）	卒業研究（全教員）
6	豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。	地理（牧野） 保健体育 （吉塚、縄田）	歴史（堀江） 政治経済（川瀬） 芸術 （伊藤、栗山、朝永） 保健体育（縄田、宮良）	歴史（堀江） 保健体育 （岡崎、田井）	歴史学（堀江） 国際関係論（牧野） 地理学（牧野） 哲学（川瀬） 健康と科学 （吉塚、縄田、中山）	技術者倫理（川瀬） 健康と科学（吉塚） 環境工学（山邉）

（出典　総務課資料）

資料３－１－②―３

機械工学科の教育目標と科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

	教育目標	準学士課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	応用数学、応用物理、情報処理などの基礎科目を充実し、工業の基礎となる材料力学・熱力学・流体力学・機械運動論など力学関連科目を習得することにより、技術者としての基礎学力を育成する。	工学通論（森川） 情報処理Ⅰ（中島）		応用数学Ⅰ（丸山） 材料力学（西口） 情報処理Ⅰ（松山）	応用数学Ⅱ（丸山） 応用数学Ⅲ（寺山） 一般物理（森田） 材料力学（西口） 機械運動学（小原） 熱力学（松山） 流体力学（中島）	一般物理（森田） 弾性力学（西口） 機械力学（原） 熱工学（松山） 流体工学（中島） 材料力学特論（西口） 熱工学特論（松山） 流体工学特論（中島） 情報処理Ⅱ（貞弘）
2	創作実習・工作実習・工学実験などの実技科目を早期から修得することにより、実験・実習等で実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を養成する。	創作実習（全教員） 機械工作実習(中江)	機械工作実習（小原、西口）	ものづくり総合実習 （中江、森川）	機械工学実験（全教員） 工場実習 （学科長、4年担当）	機械工学実験（全教員） 卒業研究（全教員） 文献講読（全教員）
3	設計製図・材料学・機械工作法・電気電子工学・制御工学などを修得し、機械電子技術の総合化とシステムデザイン能力を養成する。	設計製図 （小原）	設計製図（西村） 材料学（福田） 機械工作法（中江）	設計製図（西村） 材料学（中江） 機械工作法（森川） 設計法（福田） 電気工学（長嶋）	機械工作法（中江） 設計法（小原） 計測工学（森川） 電気工学（森田） 制御工学（中浦） メカトロニクスⅠ（中浦）	工作機械（中江） 設計法（福田） メカトロニクス（筑） 設計製図Ⅰ（佐々木） 設計製図Ⅱ（西村） メカトロニクスⅡ（中浦） トライボロジー（中島）

資料３－１－②―３続き

電気電子工学科の教育目標と科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

	教育目標	準学士課程 1年	2年	3年	4年	5年
1	電気磁気学、電気回路の電気系基礎科目や応用数学、応用物理などの工業基礎科目を充実させるとともに、技術者としての強い責任感や倫理観を育成する。	電気電子工学基礎 （吉田） 電気電子製図演習 （下尾、猪原）	電気回路Ⅰ（大島） 電気磁気学Ⅰ（柳生）	応用数学Ⅰ（丸山） デジタル回路（下尾） 電気回路Ⅰ（猪原） 電気磁気学Ⅰ（柳生）	応用数学Ⅱ（皆本） 数学特論（稲永） 一般物理（南部） 電気回路Ⅱ（品川） 電気磁気学Ⅱ（吉田）	電気法規・電気施設管理 （寺崎）
2	電気機器、高電圧工学、電気材料、電力工学、電気設計などの電気系分野や電子回路、電子工学、電子制御、電気電子計測などの電子系分野および通信工学、情報通信、電子計算機、情報工学、情報処理などの情報通信系分野の3分野での幅広い科目を修得し自身で課題の探求や解決が出来る技術者を育成する。	情報工学基礎演習 （高比良、下尾、寺村）	プログラミング（高比良）	電気電子計測Ⅰ（長嶋） プログラミング（高比良） 電気機器Ⅰ（須田） 電子回路Ⅰ（大島）	電気電子計測Ⅱ（長嶋） 電気機器Ⅱ（須田） 制御工学（柳生） 電子回路Ⅱ（大島） 高電圧工学（川崎） 電子工学（川崎） 電子計算機応用（下尾） 情報工学（高比良） 無線通信概論（南部） 情報処理実習（高比良）	電気設計（須田） 電気電子材料（吉田） 情報通信ネットワーク （高比良、寺崎） 通信工学（南部） 信号処理（品川） 電力工学（山田）
3	創作実習、電気工学実験や卒業研究などの実験実習の体験的学習を重視し、計画、遂行、データ解析、工学的考察および説明能力を育成する。	創作実習 （高比良、柳生、猪原、寺村）	電気電子情報工学実験Ⅰ （大島、柳生、猪原、寺村）	電気電子情報工学実験Ⅰ （南部、大島、下尾、猪原、寺村）	電気電子情報工学実験Ⅱ （須田、南部、大島、柳生、下尾、寺村） 工場実習 （学科長、4年担当）	電気電子情報工学実験Ⅱ （吉田、南部、猪原、下尾） 卒業研究（全教員）

資料３－１－②―３続き

電子制御工学科の教育目標と科目名と教員の配置

赤字は非常勤　　（平成24年度）

	教育目標	準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	応用数学、応用物理、数値解析などの基礎科学を充実し、電子情報系の基礎となる電磁気学・電子回路・電子計算機・システムプログラム論などを修得することにより、情報システムを構築し、開発できる技術者としての基礎能力を育成する。	基礎電気工学（椛島） 情報処理（坂口）	電気工学（坂口、椛島） 情報処理（中村）	応用数学Ⅰ（真部） デジタル回路（前田） ソフトウエアエ学Ⅰ（武富） 電気回路Ⅰ（志久） 電子回路Ⅰ（兼田） 電気磁気学Ⅰ（嶋田）	応用数学Ⅱ（中村） 応用数学Ⅲ（大屋） 数学特論（稲永） 一般物理（重松） ソフトウェア科学（椛島） 電気回路Ⅱ（志久） 電子回路Ⅱ（川下） 電気磁気学Ⅱ（嶋田） 電子工学（重松、志久） 通信工学（兼田）	一般物理（重松） 数値プログラミング（槇田） 情報通信（兼田、手島） システムプログラム論 （寺山） 情報通信特論 （兼田、中村、椛島） 知識工学（手島） 画像工学（志久） システム工学（寺山）
2	創作実習・工作実習・工学実験などの実技科目を早期から修得することにより、実験・実習等で実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を養成する。	図学（前田） 製図（槇田） 創作実習 （中村、重松、兼田、前田）	製図（前田） 工学実験・実習 （川下、重松、前田、槇田、椛島）	工学実験・実習 （重松、前田、兼田、手島、槇田、椛島）	工学実験・演習 （全教員） 工場実習 （学科長、4年担当）	工学実験・実習（全教員） 卒業研究（全教員）
3	生産加工・計測工学・電子制御・機械概論などを修得し、情報制御技術の総合化と電子制御システムの創生能力を養成する。	生産加工Ⅰ（槇田）		生産加工Ⅱ（槇田）	計測工学(槇田) 制御工学（中村）	工学基礎概論（諸星） 電子制御工学（坂口） ロボット工学（中島） 制御工学特論（川下）

資料３－１－②―３続き

本校の物質工学科科目（生物コース）の教育目標と科目名と教員の配置

赤字は非常勤　　（平成24年度）

	教育目標	準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	生物・応用数学・一般物理・情報処理などの基礎科学を充実し、物質・生物系の基礎となる無機・有機・物理・分析化学などを体系的に修得させ、物質の本質を理解し、新素材を開発できる技術者としての基礎能力を育成する。	基礎物質化学（渡辺） 基礎生物工学（山崎） 情報処理Ⅰ（田中）	無機化学（渡辺） 有機化学（平山） 分析化学（田中） 微生物学序論（山崎） 情報処理Ⅰ（城野）	応用数学Ⅰ（大屋） 無機化学（下野） 有機化学（平山） 分析化学（和田） 物理化学Ⅰ（渡辺） 化学工学（古川，城野） 情報処理Ⅰ（城野） 工業英語（野坂）	応用数学Ⅱ（真部） 数学特論（稲永） 一般物理（小野） 物理化学Ⅱ（長田） 化学工学（宮川） 反応工学（古川，長田） 生物化学Ⅰ（村山） 情報処理Ⅰ（椛島） 工業英語（村山）	物理化学Ⅲ（長田） 化学工学（城野） 環境工学（山邉） 機械工学概論（城野） 電気・電子工学概論 （野尻）
2	創作実習・情報処理・工学実験・化学機器などの実験演習を早期から修得させ、実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。	工学基礎（渡辺） 創作実習（全教員）	物質化学実験1−1 （田中，野尻、和田） 物質化学実験1−2 （山崎、越村）	物質化学実験2 物質化学実験2 （下野，古川，長田， 平山，渡辺，城野， 越村，野尻）	物質化学実験3 （下野，古川，長田， 平山，渡辺，城野， 越村，野尻）	卒業研究（全教員） 物質化学実験4−1 （全教員） 物質化学実験4−2 （平山、渡辺、村川、 田中、野尻） 生物化学実験 （野坂，村山）
3	物質系では、無機・有機・高分子材料の合成、分析、測定、評価法などを修得させ、生物系では、化学を基礎に生物工学や培養、遺伝子工学の修得を通じて、化学、医薬品、食品工業界で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者を育成する。				理論有機化学（平山） 機器分析（田中） 無機材料学（下野） 有機材料学（古川）	品質管理（児玉） 細胞・遺伝子工学（村山） 資源化学（古川） 食品プロセス工学（宮川） 植物学（村山）

資料３－１－②―３続き

物質工学科科目（物質コース）の教育目標と科目名と教員の配置

赤字は非常勤

（平成24年度）

教育目標		準学士課程				
		1年	2年	3年	4年	5年
1	生物・応用数学・一般物理・情報処理などの基礎科学を充実し、物質・生物系の基礎となる無機・有機・物理・分析化学などを体系的に修得させ、物質の本質を理解し、新素材を開発できる技術者としての基礎能力を育成する。	基礎物質化学（渡辺） 基礎生物工学（山崎） 情報処理Ⅰ（越村）	無機化学（渡辺） 有機化学（越村） 分析化学（田中） 微生物学序論（山崎） 情報処理Ⅰ（城野）	応用数学Ⅰ（大屋） 無機化学（渡辺） 有機化学（平山） 分析化学（和田） 物理化学Ⅰ（渡辺） 化学工学（古川、城野） 情報処理Ⅰ（城野） 工業英語（古川、山崎）	応用数学Ⅱ（真部） 数学特論（稲永） 一般物理（小野） 物理化学Ⅱ（長田） 化学工学（宮川） 反応工学（古川、長田） 生物化学Ⅰ（村山） 情報処理Ⅰ（椛島） 工業英語（村山）	物理化学Ⅲ（長田） 化学工学（城野） 環境工学（山邉） 機械工学概論（城野） 電気・電子工学概論 （野尻）
2	創作実習・情報処理・工学実験・化学機器などの実験演習を早期から修得させ、実践力や創造性を培い、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力を育成する。	工学基礎（渡辺） 創作実習（全教員）	物質化学実験１－１ （田中、野尻、和田） 物質化学実験１－２ （山崎、越村）	物質化学実験２ （下野、古川、長田、 平山、渡辺、城野、 越村、野尻）	物質化学実験３ （下野、古川、長田、 平山、渡辺、城野、 越村、野尻）	卒業研究（全教員） 物質化学実験４－１ （全教員） 材料化学実験４－２ （平山、渡辺、野尻、 村川、田中）
3	物質系では、無機・有機・高分子材料の合成、分析、測定、評価法などを修得させ、生物系では、化学を基礎に生物工学や培養、遺伝子工学の修得を通じて、化学、医薬品、食品工業界で活躍できる人間性豊かで創造性に富む技術者を育成する。				理論有機化学（平山） 機器分析（田中） 無機材料学（下野） 有機材料学（古川）	生物化学Ⅱ（野坂） 品質管理（児玉） 機能材料科学（野尻） 資源化学（古川） 食品プロセス工学（宮川） 植物学（村山）

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員は，教育の目的を達成するために専門性を考慮して適切に配置し授業担当者としての適正を保っている。また，各学科の教育目標と教員の配置もそれぞれ専門性を活かし，目標を達成するために適切に配置している。

本校は４学科，４学級編成であるから，高等専門学校設置基準に定められた教員数以上の専門科目担当教員数が配置され，教授，准教授の比率は適正を保っている．

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，平成24年度入学生から１専攻制（複合工学専攻）を採用しているため，専門の垣根を越えて幅広い専門性を身に付け，複眼的な学習を可能にしている。各科目担当教員はそれぞれの分野で教育・研究における経験が豊富であり（資料３－１－③－１，資料３－１－①－２参照），大学評価・学位授与機構の資格審査合格者である。これらのことより，専攻科における教員配置は，専攻科の教育目標①～④を達成するために適切なものとなっている（資料３－１－③－２）。

観点３－１－③資料一覧

（資料３－１－③－１）　専攻科授業担当教員の専門分野と担当科目の対応　　出典：総務課資料

（資料３－１－③－２）　専攻科の教育目標に対応した科目と教員の配置　　出典：総務課資料

資料３－１－③－１

専攻科授業担当教員の専門分野と担当科目の対応

平成２４年４月１日現在

	氏名	職名	学位	専門分野	企業等経験年数	担当授業科目
機械工学科		教授	博士	材料強度、機械設計	6～10年	固体力学、場の力学、破壊強度学、特別研究
		教授	博士	機械力学、機械振動学	5年未満	機械振動学、応用力学解析法
		教授	博士	機械工作、歯車加工、機械要素	無	精密加工特論、技術者総合ゼミ、総合創造実験、特別研究
		准教授	博士	流体工学、粉体工学、混相流工学	5年未満	粘性流体力学、流れ学、特別研究
		准教授	博士	機械工作、機械要素設計	無	製造システム論、特別研究
		准教授	博士	機械振動学、パターン形成、レーザによる熱応力割断、レーザスクライブ	無	工業計測学、応用計測工学、総合創造演習、特別研究
		講師	博士	制御工学、ロボット工学、コンピュータ外科学	無	科学英語文献ゼミ、特別研究
		講師	博士	熱工学、混相流	無	熱流動工学、特別研究
		講師	博士	材料強度学	無	特別研究
電気電子工学科		准教授	修士	磁性材料、電気計測	無	磁気工学
		教授	博士	プラズマプロセス工学、電気機器、電力応用、環境電磁	無	機能材料論、特別研究
		教授	博士	電磁界理論、電波工学、技術者倫理、教育工学	無	電気通信概論、特別研究
		教授	博士	プラズマ理工学	無	電気エネルギー応用、材料科学、特別研究
		准教授	博士	生物物理学、科学技術教育	無	現代物理学、科学英語文献ゼミ、電気回路特論、総合創造演習、総合創造実験、特別研究
		准教授	博士	薄膜工学、プラズマプロセス工学	無	特別研究
		准教授	博士	環境電気工学	無	放電工学、特別研究
		講師	修士	画像処理、認識工学、IT全般	無	技術者総合ゼミ、特別研究
		講師	博士	総合領域分野・情報学分科（計算機システム）	無	情報基礎論、特別研究
電子制御工学科		准教授	修士	画像処理、情報処理	無	知識情報工学
		教授	博士	サーボ制御、精密モーションコントロール	6～10年	総合創造演習、メカトロニクス工学、生産システム工学、特別研究
		教授	博士	センサー工学、低温物理学、物理教育	5年未満	特別研究
		准教授	博士	画像処理、パターン認識	無	画像情報工学、総合創造演習、特別研究
		准教授	博士	情報通信工学、通信工学	無	通信方式
		准教授	博士	電磁界解析、計算機応用	無	特別研究
		准教授	博士	制御工学	無	総合創造演習、技術者総合ゼミ、特別研究
		准教授	博士	コンピュータグラフィックス	無	数値解析、ソフトウェア科学概論、情報科学、特別研究
		講師	博士	ロボット工学，知能システム	無	特別研究
		講師	修士	電気工学、制御工学、情報処理、自動計測	5年未満	特別研究

資料３－１－③―１続き

専攻科授業担当教員の専門分野と担当科目の対応

平成２４年４月１日現在

	氏名	職名	学位	専門分野	企業等経験年数	担当授業科目
物質工学科		教授	博士	触媒化学、物理化学	無	触媒プロセス工学、応用物理化学、特別研究
		教授	博士	無機材料、環境化学、分析化学	11～20年	環境論、無機工業化学、技術者総合ゼミ、特別研究
		教授	博士	高分子材料化学（物性、応用）、反応工学（反応解析、反応速度論）	21年以上	高分子工学
		教授	博士	有機合成化学	無	有機化学特論、特別研究
		教授	博士	無機材料化学、エネルギー変換材料	無	総合創造演習
		准教授	博士	化学工学、粉体工学、数値計算工学、混相流工学	無	移動現象論
		准教授	博士	応用微生物学	5年未満	生命工学、酵素工学、特別研究
		准教授	博士	細胞・遺伝子工学、植物組織培養学	無	植物学特論
		講師	博士	電気化学　分光電気化学　分析化学　機器分析	無	工業分析化学、技術者総合ゼミⅠ、技術者総合ゼミⅡ
		助教	博士	機能性無機材料化学	5年未満	科学英語文献ゼミ
一般科目		教授	修士	英語教育（英語教材分析・開発論）	無	総合英語Ⅰ
		教授	博士	四元数関数論、数学教育	5年未満	数理科学Ⅰ
		教授	博士	化学教育、化学実験教育、結晶成長、パターン形成	無	一般化学
		教授	修士	自然地理学	無	国際協力論、技術者総合ゼミ
		教授	修士	英語教育学	無	総合英語Ⅱ
		准教授	博士	（2次体の整数論）、応用数学（組合せ論、グラフ理論）	無	数理科学Ⅱ
		准教授	博士	日本古代史	無	対外交渉史論
		准教授	博士	現象学　科学技術倫理	5年未満	技術と哲学
		講師	修士	日本近代文学	無	日本語表現法

（出典　総務課資料）

資料３－１－③―２

専攻科の教育目標と科目（教員）配置

（平成24年度）

No.	教育目標	1年	2年
1	自己の専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、化学・生物工学）について、より深い専門性を養う。	場の力学（福田） 粘性流体力学（中島） 精密加工特論（中江） 機械振動論（原） 製造システム論（森川） ソフトウェア科学概論（手島） 触媒プロセス工学（長田） 移動現象論（城野） 電気回路特論（三橋） 画像情報工学（志久） 電気エネルギー応用（三橋） 機能材料論（須田義） 工業分析化学　（田中） 高分子化学（古川） 酵素工学（山崎） 生命科学（山崎） 環境論（下野）	特別研究（各専攻科全教員） 応用力学解析法（原） メカトロニクス工学（川下） 科学英語文献ゼミ（三橋） メカトロニクス工学（川下） 情報科学（手島） 知識情報工学（中村） 放電工学（柳生） 磁気工学（吉田） 生産システム工学（川下） 無機工業化学（下野） 植物学特論（村山） 応用物理化学（長田）
2	他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ、複合化、高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。	応用計測工学（森田） 数理科学I(稲永) 数理科学II（三ツ廣） 数値解析（手島） 製造システム論（森川） 固体力学（福田） 生命科学（山崎） 情報基礎論（下尾） 一般化学（須田淳） 総合創造実験（各専攻科教員） 総合創造演習（各専攻科教員） 現代物理学（三橋） 機能材料論（須田義） 環境論（下野）	電気通信概論（南部） 応用計測工学（中江） 破壊強度論（森田） 材料科学（川崎） 工業計測学（森川）
3	地球的な視野での倫理観と豊かな創造性、実践力を養成する。	社会福祉論（坂本） 国際協力論（牧野） 対外交渉史論（堀江） 技術者総合ゼミ（各専攻科教員） 環境論（下野）	技術と哲学（川瀬） 技術者総合ゼミ（各専攻科教員） 特別研究（各専攻科全教員） インターンシップ
4	国際水準の技術者を目指す。	総合英語Ⅰ（松尾） 応用コミニケーション(Rife Stephen) 国際協力論（牧野） 対外交渉史論（堀江） 環境論（下野） 日本語表現法（生住）	総合英語Ⅱ（森下） 技術と哲学（川瀬） 科学英語文献ゼミ（三橋）

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科担当教員は教育経験が豊富であり，さらに専門教科の研究活動，実務経験を有するなど十分な資質を有している。また大学評価・学位授与機構の資格審査合格者で構成され，教育目標を達成する為に適切な配置となっている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教員構成は前述の通りで，このうち企業経験者数は17名であり（資料３－１－④－１），高校・大学教員など教育経歴を持つ教員数は28名であり（資料３－１－①－１参照，３－１－②－１参照），多様な経歴を持つ教員組織となっている。教員の年齢構成は資料３－１－④－２訪問時資料の通り，各学科における定員枠を教授４人，准教授５人，講師２人，助教１人を基本として構成し，バランスの取れた状態である。

教員の新規採用にあたっては，均衡ある年齢構成を図り広く人材を集めるため，本校では公募制（観点３－２－②参照）を採用している。公募要項には，専門分野，担当科目，職階などを記載し，本校の教育目標や各学科の現状に沿った人材を採用する配慮を行っている。一例として平成24年度に公募を行った際の募集要項を示す（資料３－１－④－３）。応募資格は博士又は技術士を有し，職階は教授とし，退任教員と専門分野が一致する人材を求めた公募である。また，公募に際しては男女共同参画にも配慮している。

教員組織の活性化のための措置として佐世保工業高等専門学校表彰規程（資料３－１－④－４）を設け，表彰選考委員会の議を経て（資料３－１－④－５訪問時資料）学校賞，教育貢献賞，最優秀授業賞，学校功績賞などを表彰し，本校ウェブサイト（資料３－１－④－６）に公開している。また，学生による教員評価も行われている（資料３－１－④－７）。

教員の資質向上や教育・研究活動の活性化を図るために，内地研究員や在外研究員派遣制度を利用することを推進し，平成11年度以降においてはそれぞれ４名，６名の教員が制度を利用している．また，高専・両技科大間教員交流もこれまで４名が利用している。

観点３－１－④資料一覧

（資料３－１－④－１）	学科別企業経験者数	出典：総務課資料
（資料３－１－④－２）	教員年齢構成（学科別）	訪問時資料
（資料３－１－④－３）	教員公募の募集要項	出典：総務課資料
（資料３－１－④－４）	表彰規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－１－④－５）	表彰選考委員会議事要旨	訪問時資料
（資料３－１－④－６）	被表彰者一覧	出典：本校ウェブサイト
（資料３－１－④－７）	学生による教員の評価アンケート様式	出典：総務課資料

資料３－１－④―１

学科別企業経験者数

平成24年4月1日現在

企業経験	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	物質工学科	一般科目
5年未満	2	0	2	3	4
6～10年	1	0	1	0	0
11～20年	0	0	0	1	0
21年以上	1	0	1	1	0
計	4	0	4	5	4

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－３

佐高専総第３４号
平成２４年１１月８日

各関係機関の長　殿

佐世保工業高等専門学校長
中 尾 充 宏（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて，このたび本校では，下記の要領により教員を公募することになりました。
つきましては，貴職関係者へ周知方よろしくお願い申し上げます。

記

１．職 名・人 員　教授１名
２．所　　属　電気電子工学科
３．担当予定科目　以下の通り：
・ 情報処理，プログラミング，信号処理，通信工学等の情報通信系専門科目（本科及び専攻科）
・ 電気電子情報工学実験，卒業研究(本科)，特別研究(専攻科)
・ 低学年の基礎的な専門科目
（基礎電気，電気回路，電気磁気学，電気電子計測，等）
４．専 門 分 野　電気電子工学（情報通信または関連分野）
５．採 用 予定日　平成２５年４月１日
６．応募資格 次のいずれにも該当する方
①博士の学位，または，技術士の資格を有する方。
②高専での教育，研究，体育クラブ活動，学級担任，進路指導，寮生生活指導（男・女）など学生指導に意欲がある方。
③情報通信またはその関連分野において実務経験或いは研究実績のある方

（出典　総務課資料　抜粋）

資料３－1－④－４

佐世保工業高等専門学校表彰規程

（平成１６年４月１日制定）

佐世保工業高等専門学校表彰規程（平成１６年３月２９日制定）の全部を改正する。

（目的）

第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた者を表彰することにより、本校の教育、研究等の諸活動の一層の向上を図ることを目的とする。

（表彰の時期）

第２条　表彰は、毎年１月に前年度の功績について表彰するものとする。

（表彰の種類）

第３条　この規程により行う表彰は、次に掲げるとおりとする。

一　学校賞　本校の教育、研究、学生指導、地域貢献、管理運営等総合的に、当該年度でもっとも貢献した者を対象とするもの。

二　教育貢献賞　本校の学生教育について当該年度に著しく貢献した者を対象とするもの。

三　最優秀授業賞　当該年度の授業評価において優れた評価を受けた者を対象とするもの。

四　学校功績賞　本校の教育、研究、学生指導、管理運営、地域貢献等について当該年度に著しい成果を上げた者を対象とするもの

五　感謝状　本校の教育、研究等に著しく寄与した学外の者を対象とするもの。

（委員会）

第４条　表彰の対象者を選考するため、表彰選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

一　校長

二　教務主事

三　学生主事

四　寮務主事

五　専攻科長

六　事務部長

七　その他校長が必要と認めた者

３　委員会に委員長を置き、前項第１号の委員をもって充てる。

（推薦の方法）

第５条　主事、学科長、一般科目長及び専攻科長は、第３条第４号及び第５号に規定する表彰に該当すると認められる者（以下「候補者」という。）を別記様式により委員長に推薦するものとする。

２　前項の規定にかかわらず、校長及び事務部長は、必要に応じ候補者を推薦できるものとする。

３　候補者の推薦は、原則として毎年１０月３１日までに行うものとする。

（表彰対象者の決定）

第６条　校長は、委員会の議に基づき、表彰する者を決定する。

（表彰の方法）

第７条　表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。

２　前項の表彰状に添えて、記念品を贈呈することができる。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

２　この規程施行後最初に行う表彰は、第２条の規定にかかわらず、平成１６年５月に平成１４年度の功績について行う。

附　則

この規程は、平成１７年１１月２８日から施行し、改正後の規定は、平成１７年４月１日から適用する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料３－１－④－６

ニュース＆トピックス

入学のご案内
.本科入試情報
.専攻科入試情報
.編入学入試情報
.入試懇談会
.高専説明会
.一日体験入学
創立50周年記念事業
学校開放事業
公開講座、一般教養講座
おもしろ実験大公開
出前授業
平成25年度
平成24年度
平成23年度
平成22年度
平成21年度
平成20年度以前
サイエンス・パートナーシップ
学生に関する 統計資料
進学・就職状況
平成21年度
平成22年度
平成23年度
学生生活
ロボコン
体育祭
高専祭・文化祭
教職員公募
教育・研究活動
産学官連携制度
地域企業説明会
研究活動

平成24年度

平成23年度功績状授与式及び感謝状贈呈式を開催しました

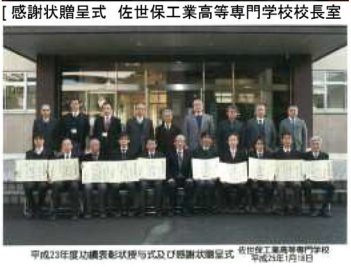
本校の表彰規程に基づいて、平成23年度における本校の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して特に顕著な功績を挙げた方々へ表彰状及び感謝状を授与しました。〔 感謝状贈呈式　平成24年11月10日，功績表彰状授与式及び感謝状贈呈式　平成25年1月18日 〕

学校賞	電子制御工学科　准教授　志久　修
教育貢献賞	一般科目　准教授　森　保仁
最優秀授業賞	一般科目　講師　　生住 昌大 非常勤講師　　李　昌訓
学校功績賞	一般科目　教授　松尾 秀樹 機械工学科　講師　松山 史憲 電子制御工学科　准教授　兼田 一幸 一般科目　講師　大屋 博一 技術室　技術長　森　晴樹
感謝状	厦門FDK有限公司　特別顧問　石田 忠男 佐世保北ロータリークラブ　会長　西川 正美 佐世保市産業支援センター 産業コーディネーター　宮副 武司 元学生課　事務補佐員　東　智佐代※

（※の被表彰者は当日所要により欠席）



[感謝状贈呈式　佐世保工業高等専門学校校長室　平成24年11月10日]



平成23年度功績表彰状授与式及び感謝状贈呈式　佐世保工業高等専門学校 平成25年1月18日

2013-01-18

（出典　本校ウェブサイト）

資料３－１－④－７

学生による教員の評価アンケートの実施について（お願い）

平成１４年度から、全国の高専の教員を対象とする国立高等専門学校教育業績賞が設けられ、今年度も本校から教育活動、学生生活指導等に顕著な功績のあった先生、今後一層の功績を挙げることが期待される先生を推薦することとなりました。ついては、推薦にあたり、学生諸君の先生に対する評価も重要な要素となりますので、下記のとおりアンケートを実施します。
注意事項をよく読んで、アンケートに協力をお願いします。

【投票に当たっての注意事項】

１．次の項目を参考に複数の先生を選出する。
- ・教育に熱心な先生
- ・分かりやすく教えてくれる先生
- ・勉強の意義を良く教えてくれる先生
- ・人生に夢を抱かせてくれる先生
- ・部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生

２．選出する先生
- ・自分の所属する学科の先生 -------- ３名
- ・一般科目または他学科の先生 ------ ５名

３．投票用紙は、学科別となっています。

学生による教員の評価アンケート用紙　【機械工学科用】

下記の表から、指定した人数だけ選出してください。

１．自分の所属する学科の先生

次の表から**３名**選んで○印を付けてください。

機械工学科									
	原 要一郎		中江道彦		福田孝之		小原　彰		中島賢治
	中浦茂樹		森川浩次		森田英俊		松山史憲		貞弘晃宜
	西村睦郎		西口廣志						

２．一般教育または他学科の先生

次の表から**５名**選んで○印を付けてください。

電気電子工学科		電子制御工学科		物質工学科		一般科目			
	長嶋　豊		重松利信		下野次男		中村真一		川瀬雅也
	須田義昭		川下智幸		古川信之		田崎弘章		堀江　潔
	川崎仁晴		中村嘉男		平山俊一		稲永善数		大里浩文
	品川政春		兼田一幸		長田秀夫		須田淳一郎		大屋博一
	南部幸久		志久　修		渡辺哲也		牧野一成		生住昌大
	吉田克雅		嶋田英樹		山崎隆志		松尾秀樹		上田真梨子
	三橋和彦		坂口彰浩		城野祐生		森下浩二		縄田亮太
	大島多美子		手島裕詞		村山智子		三ツ廣 孝		関　文雄
	柳生義人		前田貴信		田中泰彦		真部広紀		
	高比良秀彰		椛島隆富		越村匡博		吉塚一典		
	下尾浩正		槇田　諭		野尻能弘		堂平良一		
	猪原武士						森　保仁		

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

企業経験のある教員や，高校・大学教員など教育経歴を持つ教員が豊富である。また，教員の新規採用においては，年齢構成，教育経験・企業経験，男女共同参画への配慮等が講じられている。さらに，教員表彰制度により教育・研究活動の一層の向上を図り，内地研究員制度や在外研究員制度等により教員の見識を高め，教員組織が活発化するための適切な措置が講じられている。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教育活動に対して定期的評価を行うものとして，ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会（資料３－２－①－１）があり，非常勤を含む教員の教育活動に関する定期的評価や，教職員の資質向上のための研修会，講演会等を行っている。

教育活動に関する定期的評価は，学生による学習態度および授業評価アンケートと意見要望書（資料３－２－①－２，３），学生による教員評価（資料３－２－①－４），公開授業（資料３－２－①－５），教員による相互評価（資料３－２－①－６）により実施している。FD委員長はこのアンケート結果を校長に報告するとともに，各教員にも開示（資料３－２－①－７）し，さらに意見要望書に対する回答をまとめ，教室掲示（資料３－２－①－８）して学生にフィードバックしている。なお，この授業評価の高い教員を最優秀授業賞として表彰（資料３－２－①－９）している。また，２年連続の評価が3.0以下の教員を，FD委員長，並びに校長が注意喚起している。

また，定期的評価を行うものとして高専機構による教員顕彰実施要項（資料３－２－①－10）に基づく評価がある。この教員顕彰は，教育業績自己評価，学生による教員評価，教員による相互評価，研究業績評価等で構成・評価しており，佐世保高専表彰基準（資料３－２－①－11訪問時資料）に沿って選考している。これを基に機構が実施する教員顕彰に優秀教員を推薦すると同時に，本校の表彰者を教員表彰選考委員会で審議し，学校賞，教育貢献賞，学校功績賞（教育貢献，研究貢献，地域貢献）（資料３－２－①－12）を決定し表彰すると同時に，本校ウェブサイトで紹介している。

さらに，学校の教育活動に対し定期的な評価を行うものとして「自啓録」（資料３－２－①－13）がある。この「自啓録」は，全教員が当該年度の反省と次年度の計画を作成し，校長に提出するものである。校長はこの「自啓録」を基に必要に応じて教員との面談を行い，学校の教育方針の徹底を行っている。

観点３－２－①資料一覧

（資料３－２－①－１）	ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－２－①－２）	学習態度および授業アンケート様式	出典：本校ウェブサイト
（資料３－２－①－３）	意見要望書様式	出典：総務課資料
（資料３－２－①－４）	学生による教員の評価アンケート様式	出典：総務課資料
（資料３－２－①－５）	公開授業参観記録様式	出典：学生課資料
（資料３－２－①－６）	教員による相互評価	出典：総務課資料
（資料３－２－①－７）	授業評価アンケート結果	出典：総務課資料
（資料３－２－①－８）	授業評価アンケート結果（教員コメント）	出典：総務課資料
（資料３－２－①－９）	表彰規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－２－①－10）	国立高等専門学校教員顕彰－選考の視点－	出典：総務課資料
（資料３－２－①－11）	佐世保高専表彰基準	訪問時資料
（資料３－２－①－12）	被表彰者一覧	出典：総務課資料
（資料３－２－①－13）	「自啓録」様式	出典：総務課資料

資料３－２－①－１

佐世保工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の教育目的及び理念の達成に向け、ファカルティ・ディベロップメント（「本校の授業内容及び方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み」をいい、以下「ＦＤ」という。）の推進を図るために必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　ＦＤの啓発及び推進に関すること
二　ＦＤに係る研究会、研修会等に関すること
三　授業及び教育技法の改善に関すること
四　ＦＤに係る調査・研究に関すること
五　その他ＦＤに関すること
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　教務主事
二　校長が指名する教員　若干人
三　総務課長
四　学生課長
２　前項第２号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　第１項第２号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、委員のうちから校長が指名する者をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ校長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（他の委員会等との連携）
第７条　委員会は、他の委員会等と相互に連携し、本校におけるＦＤの推進活動を補完しあう。
（専門部会）
第８条　委員会に、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は別に定める。
（事務）
第９条　委員会の事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第１０条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則

この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

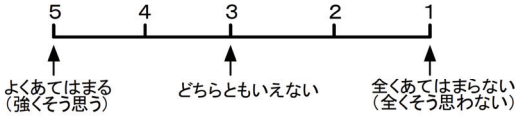
（出典　佐世保高専規程集）

資料３－２－①－２

学習態度および授業アンケート

このアンケート調査は、それぞれの授業担当の先生が学生諸君の受講状況を把握するとともに、今後の授業の改善に役立てる資料とするために実施します。集計結果は学生諸君にも公表する予定です。今年度４月以降の授業を振り返って学生諸君の**公正で真剣な回答**をお願いします。この調査の回答が諸君の学業成績に影響することはありません。

記入上の注意　**①選択指示がない質問について**　→　自分がどの段階にあてはまるかを回答して下さい.



②選択指示がある質問　→　指示に従って回答して下さい

アンケート項目＆回答欄

該当する□印を一つだけ**塗りつぶ**してください。例 ■（濃い黒の鉛筆・ボールペン等）

学 年	□ ５年　□ ４年　□ ３年　□ ２年　□ １年	□ 専１　□ 専２
学 科	□ 機械　□ 電気　□ 制御　□ 物質	□ 機械　□ 電気電子　□物質
科 目	□ 一般科目　□ 専門科目　□ 非常勤（一般）　□ 非常勤（専門）	

	I. この授業に対するあなたの学習態度について答えてください	
1	私語・居眠り・内職やメールの送受信はしない	□ しない　□ ときどきする　□ よくする
2	授業には集中し、注意などをきちんと守る	□ 守る　□ ときどき守る　□ 守らない
3	授業での疑問点はわかるまで調べたり、この授業の先生や友人に質問している	□ いつもする　□ ときどきする　□ しない
4	授業以外の自学自習の時間は、１日どれくらいですか	□ １時間以上　□ １時間以内　□３０分以内
5	授業の宿題は自分の力でやっている	□ いつもする　□ ときどきする　□ しない
6	あなたのこの授業に対する姿勢を総合的に５段階で評価してください	真面目　←　普通　→　不真面目 □　□　□　□　□

	II. この授業について答えてください	←　あてはまる　　あてはまらない　→ 5　4　3　2　1
1	シラバスの説明はあったか 「あった」と答えた人だけ→シラバスに沿って授業が行われている	□ あった　□ ない □　□　□　□　□
2	授業の目標、意義はきちんと説明された	□　□　□　□　□
3	教えている先生には熱意がある	□　□　□　□　□
4	授業内容を理解できていると思う	□　□　□　□　□
5	授業で使っている教科書または資料はわかりやすい	□　□　□　□　□
6	先生の説明はわかりやすい	□　□　□　□　□
7	授業の進め方（単元の進度）は適当である	□　□　□　□　□
8	先生の板書の仕方はわかりやすく丁寧である	□　□　□　□　□
9	先生は学生に興味を持たせるように話している	□　□　□　□　□
10	先生は授業中によく質問し、学生を積極的に参加させようとしている	□　□　□　□　□
11	授業中または時間外でも質問したとき、先生は丁寧に説明してくれる	□　□　□　□　□
12	課題や宿題の量は適切である	□　□　□　□　□
13	定期試験の問題は講義内容に沿ったものとし、適切である	□　□　□　□　□
14	シラバスの要件（評価方法・基準）どおりになされている	□　□　□　□　□
15	この授業を総合的に５段階で評価してください	よい　←　普通　→　悪い □　□　□　□　□

（出典　本校ウェブサイト）

資料３－２－①－３

意 見 要 望 用 紙

工学専攻
工 学 科　　年　科目名

次の項目について、書いてください。**ただし、表現の仕方には注意し、節度をもって書いてください。**

① この授業でよかったと思う点

② この授業の中で改善してほしいと思う点

③ その他の意見・要望

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－４

学生による教員の評価アンケートの実施について（お願い）

平成１４年度から、全国の高専の教員を対象とする国立高等専門学校教育業績賞が設けられ、今年度も本校から教育活動、学生生活指導等に顕著な功績のあった先生、今後一層の功績を挙げることが期待される先生を推薦することとなりました。ついては、推薦にあたり、学生諸君の先生に対する評価も重要な要素となりますので、下記のとおりアンケートを実施します。
注意事項をよく読んで、アンケートに協力をお願いします。

【投票に当たっての注意事項】

１．次の項目を参考に複数の先生を選出する。
- 教育に熱心な先生
- 分かりやすく教えてくれる先生
- 勉強の意義を良く教えてくれる先生
- 人生に夢を抱かせてくれる先生
- 部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生

２．選出する先生
- 自分の所属する学科の先生 -------- ３名
- 一般科目または他学科の先生 ------ ５名

３．投票用紙は、学科別となっています。

学生による教員の評価アンケート用紙　【機械工学科用】

下記の表から、指定した人数だけ選出してください。

１．自分の所属する学科の先生

次の表から３名選んで○印を付けてください。

機械工学科									
	原　要一郎		中江道彦		福田孝之		小原　彰		中島賢治
	中浦茂樹		森川浩次		森田英俊		松山史憲		貞弘晃宜
	西村睦郎		西口廣志						

２．一般教育または他学科の先生

次の表から５名選んで○印を付けてください。

電気電子工学科		電子制御工学科		物質工学科		一般科目			
	長嶋　豊		重松利信		下野次男		中村真一		川瀬雅也
	須田義昭		川下智幸		古川信之		田崎弘章		堀江　潔
	川崎仁晴		中村嘉男		平山俊一		稲永善数		大里浩文
	品川政春		兼田一幸		長田秀夫		須田淳一郎		大屋博一
	南部幸久		志久　修		渡辺哲也		牧野一成		生住昌大
	吉田克雅		嶋田英樹		山崎隆志		松尾秀樹		上田真梨子
	三橋和彦		坂口彰浩		城野祐生		森下浩二		縄田亮太
	大島多美子		手島裕詞		村山智子		三ツ廣　孝		関　文雄
	柳生義人		前田貴信		田中泰彦		真部広紀		
	高比良秀彰		椛島隆富		越村匡博		吉塚一典		
	下尾浩正		槇田　論		野尻能弘		堂平良一		
	猪原武士						森　保仁		

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－５

平成２４年度　公開授業参観記録

公開授業実施期間：平成２４年１０月１日（月）～１０月１５日（月）

参観者名		所属	機械工学科　電気電子工学科 電子制御工学科　物質工学科　一般科目 非常勤　保護者　その他	
授　業　日	平成２４年１０月　　日（　　曜）　第　　校時			
授業科目名			クラス	
授業教員名			参観時間	約　　分
良かった点 参考になった点	・ ・ ・ ・ ・			
教えて欲しい点	・ ・ ・ ・ ・			
アドバイスしたい点	・ ・ ・ ・			

注：　（１）　所属は、該当する名称を○で囲んで下さい。
　　（２）　記入後、所属学科のＦＤ委員へ、メール添付で提出してください。
　　非常勤講師、保護者、その他の方は、教育支援係へ提出してください。

※　提出期限は、**平成２４年１０月１９日（金）**です。

（出典　学生課資料）

資料３－２－①－６

第２部　教員による相互評価

１．評価方法

教育活動，学生生活指導，地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる、本人以外の複数の教員の氏名を記入する。

２．実施方法

（１）全教員を対象とし，３名連記のうえ投票する。

（２）投票については，原則として無記名とし，評価集計表の該当部分を切り取り投票する。ただし,記名があっても差し支えない場合は評価集計表をそのまま提出する。

３．集計方法

校長，教務主事が得票順に順位をつける。

（出典　総務課資料　抜粋）

資料３－２－①－７

平成 24 年度後期授業評価アンケート結果

科目　→A:一般、 B:専門、 C:非常勤(一般)、 D:非常勤(専門)
Ⅱ－1a以外の質問　→①5点満点、②5点がよく、1点が悪い
Ⅱ－1a　→①5点満点、②1点:シラバス読んでいない、5点:読んだ(Ⅱ－1aとⅡ－1bは平均に含まない)

No	クラス	科目	Ⅰ-1	Ⅰ-2	Ⅰ-3	Ⅰ-4	Ⅰ-5	Ⅰ-6	Ⅱ-1a	Ⅱ-1b	Ⅱ-2	Ⅱ-3	Ⅱ-4	Ⅱ-5	Ⅱ-6	Ⅱ-7	Ⅱ-8	Ⅱ-9	Ⅱ-10	Ⅱ-11	Ⅱ-12	Ⅱ-13	Ⅱ-14	平均Ⅱ 2~14
401	4 M	[redacted]	4.4	4.5	3.7	2.1	4.2	3.9	4.8	4.4	4.4	4.2	4.0	3.9	4.1	3.4	3.8	3.8	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0
402	5 M		4.2	4.4	3.4	2.1	3.8	3.9	4.8	4.6	4.2	4.2	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.4	3.7	4.0	4.1	3.8	3.7	3.8
403	5 C		4.6	4.6	4.1	1.9	4.4	4.1	4.4	4.8	4.6	4.6	4.4	4.6	4.7	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.7	4.6	4.7	4.6
404	5 S		3.7	4.5	3.1	1.6	4.5	3.7	4.6	4.0	4.1	3.9	3.8	3.6	3.7	2.7	3.6	3.1	3.4	3.7	4.1	3.4	3.7	3.6
405	5 C		3.9	4.1	3.5	1.4	4.3	3.9	5.0	4.2	4.3	4.1	4.1	4.0	4.1	3.4	4.3	4.5	4.0	4.2	4.3	4.1	4.2	4.1
406	5 S		4.7	4.7	4.0	1.7	4.4	4.2	4.9	4.3	4.3	4.2	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.3	4.4	4.2	4.1
407	4 C		4.1	4.3	3.6	2.3	3.9	4.0	5.0	4.5	4.5	4.6	4.1	3.8	4.2	4.1	4.4	4.0	4.4	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2
408	5 S		3.7	4.3	2.8	1.6	4.1	3.4	4.9	4.4	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	3.9	4.0	3.4	3.9	4.2	4.4	3.7	4.0	4.0
410	5 C		4.5	4.9	3.7	1.4	4.1	4.4	5.0	4.7	4.7	4.8	4.5	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.6	4.7	4.7
411	1 M		4.7	4.8	3.2	1.7	4.4	3.9	5.0	4.6	4.5	4.1	3.8	3.1	3.6	3.2	3.3	3.6	3.8	3.6	3.9	4.0	3.7	3.7
412	3 M		4.8	4.9	3.8	3.1	5.0	4.3	4.7	3.4	3.3	2.3	2.8	1.9	1.7	1.9	2.1	2.9	2.9	2.7	2.1	3.2	2.1	2.5
413	4 C		4.1	4.3	3.7	2.2	4.1	3.7	4.3	4.2	3.8	3.9	3.1	3.2	3.4	3.3	3.4	3.4	3.8	3.7	3.8	3.6	3.4	3.5
414	5 C		4.5	4.6	4.0	1.8	4.3	4.2	4.5	4.6	4.5	4.5	4.3	4.5	4.5	4.6	4.4	4.1	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4
422	5 C		4.3	4.4	3.2	1.4	4.1	4.0	5.0	4.8	4.7	4.6	4.4	4.3	4.6	4.2	4.3	4.4	4.3	4.6	4.6	4.4	4.3	4.4
423	5 M		4.6	4.6	4.1	1.2	4.1	4.0	4.6	4.5	4.4	4.3	3.7	4.3	4.4	4.4	4.0	3.7	3.9	4.1	4.3	4.2	4.4	4.2
424	3 M		4.4	4.6	2.9	1.8	4.4	3.7	4.9	4.4	4.0	3.5	3.3	3.0	3.8	3.4	3.1	3.9	3.7	3.8	4.0	3.9	3.5	3.6
426	5 C		4.5	4.5	3.4	1.5	4.5	4.4	5.0	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.8	4.8	4.4	4.8	4.7
427	4 C		4.7	4.8	3.8	1.7	4.8	4.4	4.7	4.6	4.8	4.7	4.4	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6	4.5	4.5	4.0	4.6	4.5	4.5
428	1 S		4.2	4.5	2.8	1.5	4.6	3.7	4.5	4.2	4.4	4.1	3.4	3.6	4.1	3.7	3.5	3.4	4.1	4.1	3.3	4.2	3.7	3.8
429	4 C		4.6	4.8	4.2	3.0	4.1	4.4	4.9	4.6	4.5	4.6	3.4	3.4	3.7	3.7	3.7	3.0	4.3	3.8	3.9	4.4	3.9	3.9
430	4 E		4.0	4.0	3.3	1.4	3.8	3.4	4.8	3.6	3.7	3.5	3.7	2.8	3.1	2.6	3.0	2.8	3.2	2.9	3.7	3.5	3.2	3.2
431	4 S		4.5	4.6	3.7	1.7	4.1	3.9	5.0	4.2	4.3	4.3	3.7	3.5	4.0	4.1	3.7	2.9	4.3	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9
432	5 C		4.1	4.2	3.8	2.0	4.1	3.8	5.0	3.7	3.5	3.4	2.1	2.1	2.5	2.2	2.8	2.6	3.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.7
433	4 M		4.6	4.5	3.4	1.6	4.8	4.1	5.0	4.1	4.6	4.5	3.6	3.9	4.0	4.1	4.1	4.3	3.9	3.9	3.3	4.3	4.2	4.0
434	4 S		4.5	4.6	3.0	1.4	4.8	4.1	5.0	4.3	4.5	4.5	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.0	4.0	3.6	4.2	4.2	4.1
435	4 E		4.7	4.8	3.1	1.4	4.9	4.2	5.0	4.1	4.5	4.7	4.0	4.3	4.1	4.0	4.4	4.7	4.1	4.0	3.5	4.3	4.3	4.2
436	1 ME/EE/IT/AC		4.1	4.2	3.9	1.7	4.5	3.9	4.1	4.2	4.2	4.2	3.9	4.1	4.1	3.8	4.2	4.0	3.9	4.0	3.9	3.8	4.0	4.0
437	2 AES		4.2	4.3	4.0	4.2	4.8	4.7	5.0	3.6	4.0	3.0	2.8	3.4	3.1	3.1	3.3	3.3	3.5	2.9	3.1	3.4	3.3	3.2
438	1 AM/AES/AC		4.7	4.8	4.2	1.8	4.7	4.2	5.0	4.5	4.4	4.1	4.2	4.1	4.2	3.9	4.3	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1
439	2 AC		4.7	4.4	3.9	2.4	4.1	4.1	3.9	4.2	4.1	4.1	3.4	3.7	4.0	3.7	4.1	4.1	4.4	4.3	4.0	4.3	4.0	4.0
445	1 AES		4.3	4.1	3.4	1.1	3.9	3.8	4.7	4.5	4.1	4.2	4.1	4.1	4.4	4.3	4.1	3.8	4.3	4.5	4.4	4.1	4.1	4.2
449	1 AM/AES/AC		5.0	5.0	4.3	1.7	5.0	4.7	5.0	4.7	3.7	4.0	3.5	4.3	3.8	3.5	4.5	4.5	4.3	3.7	3.8	4.3	3.7	4.0
450	2 AM		5.0	4.7	5.0	4.7	5.0	4.4	5.0	4.6	4.9	4.9	3.6	4.0	4.3	3.7	4.7	4.6	4.4	4.1	4.3	4.7	4.6	4.4
451	1 AM/AES/AC		4.7	4.7	4.1	2.0	4.6	4.2	5.0	4.3	4.3	4.3	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.3	4.2	4.1	4.1
452	1 AC		5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	3.5	3.5	4.0	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5	4.0	5.0	4.5	4.2
453	1 AM/AES/AC		4.7	4.8	4.2	2.3	4.7	4.2	5.0	4.6	4.6	4.5	4.4	4.3	4.5	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	4.4	4.1	4.4	4.3
454	1 AM/AES		4.2	4.6	4.0	2.1	4.8	3.9	5.0	3.7	3.9	3.7	3.7	3.4	3.7	3.5	3.8	3.9	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7
455	2 AM		5.0	5.0	4.5	3.5	5.0	4.5	5.0	4.8	4.8	4.5	5.0	4.8	4.5	4.5	4.5	5.0	4.8	4.5	4.7	4.5	4.8	4.7
456	1 AM		4.7	4.7	4.0	2.0	4.3	4.0	5.0	4.2	4.2	4.2	4.0	4.3	4.0	3.8	4.2	4.2	4.0	3.8	4.3	3.8	4.2	4.1
457	1 AM		5.0	5.0	4.3	3.7	4.7	4.7	5.0	3.7	4.7	4.3	4.0	4.3	4.0	3.8	4.0	4.2	4.2	4.2	3.7	4.0	4.3	4.1
458	1 AM/AES		5.0	5.0	4.2	2.1	4.7	4.5	5.0	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
459	1 AC		5	5	4	1	5	4.5	5	4.5	4.5	5	3.5	3.5	4	4.5	4	4	3.5	4	4.5	4	4	4.08

（出典　総務課資料　抜粋）

資料３－２－①－８

H24年度　後期授業評価アンケート

1M	情報処理I	おおむね好意的な意見が多くありがたく思っています。改善点として演習やテストに直結する内容を行ってほしい旨の意見が複数ありました。次年度以降この点に注意して進めていきたいと思います。
3M	電気工学	授業中にも一部学生から指摘されましたが、授業の進め方の問題や速度の問題、試験内容に関することなど様々意見いただきました。真摯に受け止め今後の授業改善に役立てていきたいと思います。
3M	設計法	声が小さい、説明が時々わかりづらい、などの意見がありました。声は元々大きくないので、傾聴しても分からないときは質問してください。板書が分かり易いという意見が数件あった中に板書が悪いとの指摘もありました。一番多い好意的な意見は演習・例題が多いというもので、これからも続けるよう努力したいと思います。
4M	日本語と文学	学生が実際に書いた文章を使って授業を進めていくやり方、文章の個人添削、配布プリントなどがためになったなど、多くの意見をもらいました。ですから、ここでは唯一出された、「この授業をやっている意味がわからない」という意見について、私の考えを述べたいと思います。 「もちろん履歴書の書き方を学んで損はないと思うけど、週に2時間も何をやっているんだろうと思う」→この半期は就活を意識した文章指導を行ってきました。しかし、同時にそれは、他者へ思いを馳せる訓練でもあることを思いだしてほしいと思います。決して、就活テクニックを教え続けたわけではなく、世代を超えて人間関係を構築していくために必要な「何か」を考え続けた授業でした。 「先輩方の話を聞いても結局修正、訂正を先生がしてくれるらしい」 →仮にそういう先生がいたとして、その先生に自分の将来を委ねてもいいものでしょうか。自分の人生を切り拓く文章力の獲得を、みんなで目指した半期でした。 「ある先生も今の5年生の力になっていないとおっしゃっていた」→自分の非力さを痛感しています。講義形式で文章力を養わせるのは、今の自分には不可能だと思いましたから、今年は個人添削や意見交換の場を多く設ける工夫をしました。これからも、試行錯誤を続けて、よりよい授業を構築していくことを約束します。
5M	機械工作法	悪くない評価だと思います．指摘のあった板書の方法，試験問題の量については考えます．
5M	熱工学特論	「熱工学と関連していて分かりやすい・板書が見やすい・課題で復習できる」との評価を頂きました．今後も継続できるように努力します．さらに実社会での情報も取り入れて，より充実した授業となるように勉強したいと思います．

（出典　総務課資料　抜粋）

資料３－２－①－９

佐世保工業高等専門学校表彰規程

（平成１６年４月１日制定）

佐世保工業高等専門学校表彰規程（平成１６年３月２９日制定）の全部を改正する。

（目的）

第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた者を表彰することにより、本校の教育、研究等の諸活動の一層の向上を図ることを目的とする。

（表彰の時期）

第２条　表彰は、毎年１月に前年度の功績について表彰するものとする。

（表彰の種類）

第３条　この規程により行う表彰は、次に掲げるとおりとする。

一　学校賞　本校の教育、研究、学生指導、地域貢献、管理運営等総合的に、当該年度でもっとも貢献した者を対象とするもの。

二　教育貢献賞　本校の学生教育について当該年度に著しく貢献した者を対象とするもの。

三　最優秀授業賞　当該年度の授業評価において優れた評価を受けた者を対象とするもの。

四　学校功績賞　本校の教育、研究、学生指導、管理運営、地域貢献等について当該年度に著しい成果を上げた者を対象とするもの

五　感謝状　本校の教育、研究等に著しく寄与した学外の者を対象とするもの。

（委員会）

第４条　表彰の対象者を選考するため、表彰選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

一　校長

二　教務主事

三　学生主事

四　寮務主事

五　専攻科長

六　事務部長

七　その他校長が必要と認めた者

３　委員会に委員長を置き、前項第１号の委員をもって充てる。

（推薦の方法）

第５条　主事、学科長、一般科目長及び専攻科長は、第３条第４号及び第５号に規定する表彰に該当すると認められる者（以下「候補者」という。）を別記様式により委員長に推薦するものとする。

２　前項の規定にかかわらず、校長及び事務部長は、必要に応じ候補者を推薦できるものとする。

３　候補者の推薦は、原則として毎年１０月３１日までに行うものとする。

（表彰対象者の決定）

第６条　校長は、委員会の議に基づき、表彰する者を決定する。

（表彰の方法）

第７条　表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。

２　前項の表彰状に添えて、記念品を贈呈することができる。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

２　この規程施行後最初に行う表彰は、第２条の規定にかかわらず、平成１６年５月に平成１４年度の功績について行う。

附　則

この規程は、平成１７年１１月２８日から施行し、改正後の規定は、平成１７年４月１日から適用する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料３－２－①－10

国立高等専門学校教員顕彰
－選考の視点－

１．選考の基本的視点

本来，教育活動（講義，実習，学生生活指導等）は地味な活動であって，「著しい功績」「顕著な功績」と称しても，一部の分野で短期間に目立った功績を挙げた教員よりは，むしろ幅広い教育活動において長期間にわたって努力した教員を対象にすべきである。

このような教員を顕彰することによって，地道な努力をしている大多数の教員の意欲が高まり，資質の向上をもたらし，ひいては高専教育全体の充実，向上に寄与することになる。

また，高等専門学校は大学，高等学校とは違った年齢層を教え，特有の目的を有する観点からも貢献の度合いを測る必要がある。

２．候補者調書の評価基準

（１）欄１「略歴」について

学位及び職務に関する国家資格については，その有無，職歴については，教職に関する経験年数及び他機関の経験の有無，学会賞等の受賞歴については受賞数，本制度による受賞歴については，その有無を採点の対象とし，学歴については採点の対象とせず，評価の参考資料とする。

（２）欄２「高等専門学校における担任歴等」について

担任歴，役職歴については，その回数（期間の長さ）を採点の対象とし，部・クラブ担当については，平均活動日数を採点の対象とする。なお，平均活動日数とは，申請前年度までの直近５年間（H23 年度申請の場合は、H18 年度～H22 年度）において，各年の活動日数の合計を５で除した数とする。

（３）欄３「担当授業・講演・ＦＤ活動」について

「担当授業」については，平均単位数を採点の対象とし，現在担当している講義，演習，実習，実験の授業概要については評価の参考資料とする。なお，平均単位数とは，申請年度までの直近の５年間（H23 年度申請の場合は、H19 年度～H23 年度）において，各年の担当授業単位数の合計を５で除した数とする。

「教育研究集会での講演」については，講演回数を採点の対象とし，題目については，採点の対象とせず，評価の参考資料とする。

「ＦＤ活動・ＦＤ講演会への出席」については，出席回数を採点の対象とする。

（４）欄４「教育・研究著書・論文，外部資金受入」について

①著書・査読付論文数，②科学研究費補助金等の公的外部資金受入件数及び金額，③民間からの外部資金受入件数及び金額を採点対象とする。

３．自己申告書の評価基準

（１）教育活動について

ここにいう教育活動とは，授業担当，教材開発，教育方法，ＦＤ活動等の教育活動全般を指している。これらの教育活動について，以下のように，工夫した点，努力した点，効果が上がった点，他教員，自高専／他高専に波及した点の４つの観点から評価する。

（出典　総務課資料　抜粋）

資料３－２－①－12

参考資料(被表彰者一覧)

内容

平成16年3月に制定された本校の表彰規程に基づいて、本校の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方々を次のとおり表彰しました。

平成 23年度の功績に対する表彰(表彰式　平成 25年 1月 １８ 日)

学校賞	電子制御工学科准教授　志久修		
教育貢献賞	一般科目准教授　森　保仁		
最優秀授業賞	〔一般科目〕　一般科目	講師	生住昌大
	〔非常勤講師〕		李　昌訓
学校功績賞	機械工学科	講師	松山史憲
	電子制御工学科	准教授	兼田一幸
	一般科目	講師	大屋博一
	技術室	技術長	森晴樹
感謝状	佐世保市産業支援センター産業コーディネーター		宮副武司
	元学生課	事務補休員	東智佐代
	廈門FDK有限公司	特別顧問	石田忠男
	佐世保北ロータリークラブ会長		西川正美

(出典　総務課資料)

資料３－２－①－13

自　啓　録

平成２４年度　　平成 24　3月 31 日提出

（学科・科目名）	職　名		氏　名	

１．教育活動
（１）講義・実験・実習
講義科目名、学年・学科名、前後期の別・単位数
（コメント：目標やその達成状況、問題点などを記入してください）
実験実習名、学年・学科名、前後期の別・単位数
（コメント：目標やその達成状況、問題点などを記入してください）

（２）授業評価結果とそれへの対応

（３）学級担任
クラス名
（コメント：目標やその達成状況、問題点などを記入してください）

（４）部活指導
クラブ名
（コメント：目標やその達成状況、問題点などを記入してください）

（５）公開講座、体験入学などの企画や運営、協力
講座名
（コメント：目標やその達成状況、問題点などを記入してください）

２．校内委員会活動など
（１）校内委員会委員

（２）見学旅行の企画・引率

（３）就職先開拓

（４）中学校訪問・入試説明会
（コメント：問題点などを記入してください）

３．地域との連携、非常勤講師、校外委員など
（１）学会の委員

（２）中央あるいは地域行政機関などの委員

（３）校外の公開講座、研究会などの企画、講師

（４）非常勤講師（学校名と講義名）

（コメント：問題点などを記入してください。）

以上

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教員評価の実施体制としては，FD委員会並びに教員顕彰実施要項を整備し，授業アンケートなどを定期的また組織的に行っている。これらの評価を基に表彰委員会で優秀教員を決定し，本校ウェブサイトで公開している。また各教員は「自啓録」を用いて，年度の反省と次年度の計画を校長に報告している。把握された事項を基に，教員の組織の見直し等，適切な取り組みがなされている。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用，昇任に関する規定に関しては，高等専門学校の設置基準に基づいて，佐世保工業高等専門学校教員選考規則を定めている（資料３－２－②－１）。

常勤教員の採用は公募制とし，応募者から提出された書類を基に教員候補適任者推薦委員会（資料３－２－②－１）において専門性，教育者としての適性などを審査する。さらに教育上の能力を審査するため，面接，模擬授業等を行い評価している。この推薦委員会による審査を経て，教員資格審査委員会（資料３－２－②－１）が，複数名の教員候補適任者から書類審査，面接等による審議の後，採用を決定する。

教員の昇任は，教員資格審査委員会において，専門性，教育上の能力，校務経験等から総合的に評価を行い，審議の後，昇任を決定する。

非常勤講師については，「非常勤講師任用に関する申合せ」（資料３－２－②－２訪問時資料）に沿って，専門性や教育上の能力を判断し，任用している。

観点３－２－②資料一覧

（資料３－２－②－１）	教員選考規則	出典：佐世保高専規程集
（資料３－２－②－２）	非常勤講師任用に関する申し合わせ	訪問時資料

資料３－２－②－１

佐世保工業高等専門学校教員選考規則

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授、准教授、講師、助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任のための選考に関し、必要な事項を定めるものとする。

（教授の資格）

第２条　教授となることのできる者は、次の各号のいずれにも該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい能力を有すると認められる者とする。ただし、特定の分野について、特に優れた知識及び経験・実績を有すると認められ、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい能力を有すると認められる者にあっては、この限りではない。

一　専攻分野について博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は技術士等の職業上の高度の資格（理系以外の一般科目の担当教授にあっては、専攻分野について修士以上の学位）を有する者

二　次に掲げるいずれかの経歴及び実績を有し、専攻分野について教育上、研究上又は実務上の特に優れた業績を有する者

イ　大学、短期大学又は高等専門学校（以下「大学等」という。）における教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）を有し、かつ、最近の業績を有する者

ロ　研究所、試験所、調査所等（以下「研究所等」という。）に在職した経験及び教育若しくは研究に関する実績を有し、かつ、最近の業績を有する者

ハ　工場その他の事業所（以下「工場等」という。）に在職し、技術に関する業務の経験を有し、かつ、技術に関する特に優れた業績又は特許等の知的財産を有する者

ニ　一般科目の担当教授にあっては、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）において学習指導、生徒指導、課外活動指導等に特に優れた実績があり、かつ、最近の業績を有する者

（准教授の資格）

第３条　准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい能力を有すると認められる者とする。ただし、特定の分野について、優れた知識及び経験・実績を有すると認められ、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい能力を有すると認められる者にあっては、この限りではない。

一　前条に規定する教授となることのできる者

二　次に掲げるいずれかの経歴及び実績を有し、専攻分野について教育上、研究上又は実務上の優れた業績を有する者

イ　大学等における准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）を有し、かつ、最近の業績を有する者

ロ　研究所等に在職した経験及び教育若しくは研究に関する実績を有し、かつ、最近の業績を有する者

ハ　工場等に在職し、技術に関する業務の経験を有し、かつ、技術に関する優れた業績又は特許等の知的財産を有する者

ニ　一般科目の担当准教授にあっては、高等学校において学習指導、生徒指導、課外活動指導等に優れた実績があり、かつ、最近の業績を有する者

（講師の資格）

第４条　講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一　第２条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

二　高等学校において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると認められる者

（助教の資格）

第５条　助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一　第２条から前条までに規定する教授、准教授又は講師となることのできる者

二　専攻分野について修士の学位又は専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有するか、又は、専攻分野について知識及び経験を有すると認められる者であって、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると認められる者

（助手の資格）

第６条　助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一　学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者

二　前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると認められる者

（選考の願い出）

第７条　教員の採用又は昇任のための選考の必要が生じた学科又は一般科目（以下「当該学科等」という。）の学科長又は一般科目長（以下「学科長等」という。）は、所定の様式により校長へ願い出なければならない。

資料３－２－②－１続き

（推薦委員会）
第８条　校長は、教員の採用のための選考の願い出があったときは、教員の候補者となるべき適任者（以下「候補適任者」という。）を推薦させるため、教員候補適任者推薦委員会（以下「推薦委員会」という。）を設置しなければならない。この場合において、校長は、あらかじめ、当該学科等の学科長等の意見を踏まえて選考方針を定めるものとする。
２　推薦委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
一　当該学科等の学科長等
二　当該学科等から選出された教授　若干人
三　当該学科等以外の学科又は一般科目から選出された教授　若干人
四　その他校長が必要と認めた者
３　前項第２号の委員の選出に当たって、准教授、講師、助教又は助手の採用のための選考であり、かつ、特に必要があると認められる場合は、准教授を含めて選出することができる。
４　第２項に掲げる委員のほか、校長が必要と認めるときは、本校の教職員以外の者で選考しようとする教員が担当することとなる専門分野に関し広くかつ高い識見を有するものを委員に加えることができる。
５　前項の委員は、校長が委嘱する。
（委員長及び副委員長）
第９条　推薦委員会に委員長を置き、前条第２項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は、会議を招集し、その議長となる。
３　推薦委員会に副委員長を置き、委員長の指名する委員をもって充てる。
４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
（候補適任者の推薦）
第１０条　推薦委員会は、原則として複数の候補適任者を校長に推薦しなければならない。
２　推薦委員会は、前項の推薦を行うに当たっては、公募等により広く候補適任者の選定を行うものとする。
（審査委員会）
第１１条　校長は、推薦委員会から推薦された候補適任者及び昇任させようとする教員の資格を審査するため、教員資格審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。
２　前項の審査は、書面、面接及び模擬授業等により行うものとする。ただし、昇任の場合にあっては、面接及び模擬授業を行わないことができる。
第１２条　審査委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
一　校長
二　教務主事、学生主事及び寮務主事
三　当該学科等の学科長等
四　その他校長が必要と認めた者
２　前項に掲げる委員のほか、校長が必要と認めるときは、本校の教職員以外の者で高等専門学校の教育に関し広くかつ高い識見を有するものを委員に加えることができる。
３　前項の委員は、校長が委嘱する。
（委員長）
第１３条　校長は、審査委員会の委員長となる。
２　委員長は、会議を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長の指名する者がその職務を代行する。
（意見の聴取）
第１４条　委員長が必要と認めたときは、審査委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。
（関係職員の出席）
第１５条　委員長は、必要に応じ、審査委員会に関係教職員を出席させることができる。
（候補者の決定）
第１６条　校長は、審査委員会の審査の結果に基づき、候補者を決定する。
（事務）
第１７条　推薦委員会及び審査委員会の事務は、総務課において処理する。
（配置換のための選考）
第１８条　第７条及び第１１条から第１７条までの規定は、教員の配置換のための選考について準用する。
（補則）
第１９条　この規則に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。
附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則の改正前における助教授としての経歴は、准教授としての経歴とみなす。
附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用や昇任に関する規定には，専攻分野において教育・研究上の優れた最近の業績を有することが定められている。この規定に基づき，採用や昇任は，教育・研究上の能力などを判断し，推薦委員会，教員資格審査委員会の議を経て決定しており，適切に行われている。非常勤講師の任用についても申合わせ事項に沿って，適切に行われている。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

事務職員は本校事務組織規程（資料３－３－①－１，２）に基づき組織されており，技術職員は技術室に関する規程（資料３－３－①－３，４）に基づき組織されている（資料３－３－①－５）。

学生への教育活動支援は，学生課の教育支援係と生活支援係，寮務係，総務課の図書係及び技術職員が，各主事室等と連携しながら行われている。

教育支援係と生活支援係，寮務係，図書係の事務分掌は，本校事務分掌規程（資料３－３－①－２）に定められている。また，技術室の技術職員の事務分掌は，技術専門員及び技術専門職員に関する規程（資料３－３－①－４）に定められている。

技術室は職員の企業経験及び専門性を考慮し，三つの班から構成されている。５名の第１技術班は電気・電子・制御・情報を，４名の第２技術班は物質工学・一般物理・一般化学を，５名の第３技術班は機械工学・実習工場を担当し，教育の支援を行っている（資料３－３－①－６～７）。また，この支援業務に加え，実験実習機器の保守，管理，安全教育等を行っている（資料３－３－①－８）。

図書館（資料３－３－①－９）には，司書資格を持った常勤職員１名と非常勤職員１名の２名を配置して，学生・教職員や一般利用者に対し様々な支援業務を行なっている。

観点３－３－①資料一覧

（資料３－３－①－１）	事務組織規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－３－①－２）	事務分掌規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－３－①－３）	技術室規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－３－①－４）	技術専門員及び技術専門職員に関する規程	出典：佐世保高専規程集
（資料３－３－①－５）	機構図	出典：学校要覧
（資料３－３－①－６）	技術室時間割	出典：技術室資料
（資料３－３－①－７）	技術職員勤務状況一例	出典：技術室資料
（資料３－３－①－８）	長期業務依頼申請書	出典：技術室資料
（資料３－３－①－９）	図書館規則	出典：佐世保高専規程集

資料３－３－①－１

佐世保工業高等専門学校事務組織規程

（平成１９年７月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１０条及び佐世保工業高等専門学校学則第３条に基づき、事務部の事務組織に関し、必要な事項を定める。
（事務部）
第２条　事務部に、総務課及び学生課を置く。
（事務部長）
第３条　事務部に、事務部長を置く。
２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。
（課長）
第４条　課に、課長を置く。
２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
（課長補佐）
第５条　課に、課長補佐を置くことができる。
２　課長補佐は、上司の命を受け、高度な専門知識又は経験を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
（専門職員）
第６条　課に、専門職員を置くことができる。
２　専門職員は、上司の命を受け、課の事務のうち専門的事項を処理する。
（係長）
第７条　係に係長を置く。
２　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
（主任）
第８条　係に主任を置くことができる。
２　主任は、係の事務を処理する。
（係員）
第９条　係に係員を置くことができる。
２　係員は、係の事務を処理する。
（総務課の所掌事務）
第１０条　総務課においては、次の事務をつかさどる。
一　事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　儀式その他会議に関すること。
三　将来構想に関すること。
四　国際交流に関すること。
五　安全管理及び衛生管理に関すること。
六　訴訟に関すること。
七　公印の管守に関すること。
八　文書及び郵便物の接受並びに発送に関すること。
九　広報に関すること。
十　学則及び規程等の制定並びに改廃に関すること。
十一　情報公開及び個人情報に関すること。
十二　教職員の人事管理及び雇用（社会保険・労働保険等）に関すること。
十三　教職員の任免、給与（計算及び支給）、服務及び兼業等に関すること。
十四　教職員の退職手当に関すること。
十五　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
十六　教職員の賞罰に関すること。
十七　共済組合に関すること。
十八　教職員の福祉及び災害補償に関すること。
十九　教職員の出張及び研修に関すること。
二十　栄典及び表彰に関すること。
二十一　産学官・地域連携事業に関すること。
二十二　地域開放事業（公開講座、広報事業等）に関すること。
二十三　工業所有権等の知的財産権に関すること。
二十四　評価に関すること。

資料３－３－①－１続き

二十五　競争的資金及び外部資金等に関すること。
二十六　内地研究員及び在外研究員等に関すること。
二十七　インターンシップ学生の受入れに関すること。
二十八　図書の受入れ、収集、整理及び管理に関すること。
二十九　図書の貸出、閲覧及び案内に関すること。
三十　　事務情報化に関すること。
三十一　概算要求等に関すること。
三十二　会計の監査に関すること。
三十三　財務会計決議書等の照査に関すること。
三十四　予算及び決算に関すること。
三十五　資産に関すること。
三十六　宿舎に関すること。
三十七　収入及び支出に関すること。
三十八　現金及び有価証券に関すること。
三十九　旅費の計算並びに支給に関すること。
四十　　物品及び役務に関すること。
四十一　共用車の管理に関すること。
四十二　施設整備の計画に関すること。
四十三　営繕工事に関すること。
四十四　土地、建物及び工作物等の維持保全に関すること。
四十五　施設マネジメントに関すること。
四十六　その他他の課の所掌に属しない事務に関すること。
（学生課の所掌事務）
第１１条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
一　教育課程の編成、実施に関すること。
二　教育システム点検・改善に関すること。
三　入学者の選抜及び学生の募集に関すること。
四　入試の広報に関すること。
五　学生の修学支援に関すること。
六　学生の学籍に関すること。
七　学生の考査、成績に関すること。
八　学生のインターンシップ、学外研修及び国際交流の事務に関すること。
九　非常勤講師に関すること。
十　ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
十一　他機関との各種協定及び単位互換制度に関すること。
十二　留学生の受入及び支援に関すること。
十三　厚生補導に関すること。
十四　課外活動に関すること。
十五　生活相談に関すること。
十六　就職支援に関すること。
十七　就学支援金に関すること。
十八　奨学金及び経済支援に関すること。
十九　授業料等の免除、猶予及び分納に関すること。
二十　日本スポーツ振興センターの事務に関すること。
二十一　厚生福利に関すること。
二十二　学生寮の管理運営に関すること。
二十三　学生の入退寮に関すること。
二十四　寮生の生活支援に関すること。
二十五　その他教務、学生の厚生補導及び学生寮の事務に関すること。
（事務分掌）
第１２条　各課の事務分掌は、別に定める。
附　則
この規程は、平成１９年７月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料３－３－①－２

佐世保工業高等専門学校事務分掌規程

（平成１９年７月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校事務組織規程第１３条の規定に基づき、総務課及び学生課の事務分掌について、次のとおり定める。

（総務課）
第２条　総務課に、課長補佐（総務企画担当）、課長補佐（総務人事担当）及び課長補佐（財務担当）並びに次の専門職員及び係を置く。
一　専門職員（評価等担当）
二　総務係
三　人事係
四　企画係
五　情報サービス係
六　経理係
七　契約係
八　図書係
九　施設係

（課長補佐（総務企画担当））
第３条　課長補佐（総務企画担当）は、次の事務をつかさどる。
一　総務課専門職員（評価等担当）、総務係、企画係及び情報サービス係（以下「総務企画系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　将来構想の企画・立案に関すること。
三　中期目標、中期計画及び年度計画の策定に関すること。
四　安全管理及び衛生管理の総括に関すること。
五　防火・防災の総括に関すること。
六　訴訟に関すること。
七　国際交流の総括に関すること。
八　創立記念事業の支援に関すること。
九　その他総務課総務系の所掌事務のうち、特に重要な事務に関すること。

（課長補佐（総務人事担当））
第４条　課長補佐（総務人事担当）は、次の事務をつかさどる。
一　総務課人事係の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　その他総務課人事係の所掌事務のうち、特に重要な事務に関すること。

（課長補佐（財務担当））
第５条　課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。
一　総務課経理係、契約係、図書係及び施設係（以下「財務系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　概算要求等に関すること。
三　会計の監査に関すること。
四　財務会計決議書等の照査に関すること。
五　大型設備の調達に関すること。
六　物品の調達（図書の発注を除く。）に関すること。
七　役務に関すること。
八　調達関連の各種統計調査に関すること。
九　その他総務課財務系の所掌事務のうち、特に重要な事務に関すること。

（専門職員（評価等担当））
第６条　専門職員（評価等担当）は、次の事務をつかさどる。
一　自己点検・評価及び外部評価に関すること。
二　日本技術者教育認定制度の事務に関すること。
三　教育データベースの整備に関すること。

（総務係）
第７条　総務係は、次の事務をつかさどる。
一　本校の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　儀式、その他諸行事に関すること。
三　運営委員会、教員会議その他総務課の他の係に属しない会議等に関すること。
四　公印の管守に関すること。
五　文書及び郵便物の接受並びに発送に関すること。
六　他の係に属しない調査・報告に関すること。
七　学則等の制定及び改廃に関すること。
八　情報公開に関すること。
九　個人情報保護に関すること。
十　校内の警備取締に関すること。
十一　その他他の課、係に属しない事項に関すること。

資料３－３－①－２続き

（人事係）
第８条　人事係は、次の事務をつかさどる。
一　教職員の人事管理及び雇用(社会保険・労働保険等)に関すること。
二　教職員の任免、給与（計算及び支給）、服務及び兼業等に関すること。
三　教職員の退職手当に関すること。
四　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
五　教職員の賞罰に関すること。
六　共済組合に関すること。
七　教職員の福祉及び災害補償に関すること。
八　教職員の衛生管理に関すること。
九　教職員の出張及び研修に関すること（経理に関することを除く。）。
十　栄典、表彰に関すること。
十一　その他人事に関すること。

（企画係）
第９条　企画係は、次の事務をつかさどる。
一　産学官・地域連携事業に関すること（経理に関することを除く。）。
二　地域開放事業（公開講座、広報事業等）に関すること。
三　工業所有権等の知的財産権に関すること。
四　競争的資金及び外部資金等の獲得支援及び受入・報告に関すること。（国際交流に関することを除く。）
五　内地研究員及び在外研究員等に関すること。
六　学則等の制定及び改廃に関すること。
七　インターンシップ学生の受入れに関すること。
八　広報に関すること。
九　その他企画に関すること。

（情報サービス係）
第１０条　情報サービス係は、次の事務をつかさどる。
一　事務情報化の企画・立案に関すること。
二　事務情報に係る連絡調整及び助言・指導に関すること。
三　ＷＥＢ（ホームページ及びグループウェア）の管理、運用に関すること。
四　情報セキュリティに関すること。
五　ソフトウェアの管理に関すること。
六　その他事務情報に関すること。

（経理係）
第１１条　経理係は、次の事務をつかさどる。
一　予算及び決算に関すること。
二　会計の諸規程に関すること。
三　資産に関すること。
四　宿舎に関すること。
五　収入及び支出に関すること。
六　現金及び有価証券に関すること。
七　旅費の計算及び支給に関すること。
八　競争的資金及び外部資金等の経理に関すること。
九　営繕工事の入札業務に関すること。
十　その他経理に関すること。

（契約係）
第１２条　契約係は、次の事務をつかさどる。
一　備品、消耗品、役務及び修理等（図書の発注を除く。）の契約に関すること。
二　物品の管理（登録・処分）に関すること。
三　共用車の管理に関すること。
四　寄贈物品等の受入れに関すること。
五　その他契約に関すること。

（図書係）
第１３条　図書係は、次の事務をつかさどる。
一　図書の受入れ、収集、整理及び管理に関すること。
二　図書の貸出、閲覧及び案内に関すること。
三　図書館間の相互協力（貸借、文献複写等）に関すること。
四　図書の統計調査に関すること。
五　図書の調達に関すること。
六　図書の製本に関すること。
七　その他図書に関すること。

（施設係）
第１４条　施設係は、次の事務をつかさどる。
一　施設整備の計画に関すること。
二　営繕工事の設計、施工及び検査に関すること。
三　営繕工事の請負契約に関すること。
四　土地、建物及び工作物等の維持保全に関すること。
五　施設マネジメントに関すること。
六　光熱水料に関すること。
七　構内の清掃に関すること。
八　ボイラーの管理に関すること。
九　安全管理に関すること。
十　防火・防災に関すること。
十一　その他施設に関すること。

資料３－３－①－２続き

（学生課）
第１５条　学生課に、課長補佐並びに次の専門職員及び係を置く。
一　専門職員（入試担当）
二　教育支援係
三　生活支援係
四　寮務係

（課長補佐）
第１６条　課長補佐は、次の事務をつかさどる。
一　学生課の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　教育課程の編成、実施に係わる専門的事項に関すること。
三　教育システム点検・改善に関すること。
四　入学者の選抜に係わる専門的事項に関すること。
五　他機関との各種協定及び単位互換制度に関すること。
六　留学生の受入及び支援に関すること。
七　他機関で実施する学生の企画事業に関すること。
八　その他学生課の所掌事務のうち、各係に属しない事項に関すること。

（専門職員（入試担当））
第１７条　専門職員（入試担当）は、次の事務をつかさどる。
一　入学者の選抜に関すること。
二　学生の募集に関すること。
三　入学志願者確保のための統計調査及び情報分析に関すること。
四　入試の広報に関すること。
五　入試及び教務の連絡調整に関すること。

（教育支援係）
第１８条　教育支援係は、次の事務をつかさどる。
一　教育課程の編成、実施に関すること。
二　学生の考査、成績に関すること。
三　学生の修学支援に関すること。
四　学生のインターンシップ、学外研修の事務に関すること。
五　学生の学籍等の記録・保管に関すること。
六　学生の諸届、諸証明に関すること（他係の所掌に属するものを除く。）。
七　教務の会議及び学生の諸行事に関すること。
八　非常勤講師に関すること。
九　ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
十　教務及び入試に関し、連絡調整すること。
十一　その他学生課の所掌事務で他の係に属しない事項に関すること。

（生活支援係）
第１９条　生活支援係は、次の事務をつかさどる。
一　厚生補導に関すること。
二　課外活動に関すること。
三　生活相談に関すること。
四　就職支援に関すること。
五　就学支援金に関すること。
六　奨学金及び経済支援に関すること。
七　授業料等の免除、猶予及び分納に関すること。
八　日本スポーツ振興センターの事務に関すること。
九　学生の旅客運賃割引証に関すること。
十　福利厚生に関すること。
十一　学生の保健管理に関すること。
十二　その他学生の支援に関すること。

（寮務係）
第２０条　寮務係は、次の事務をつかさどる。
一　学生の入寮及び退寮に関すること。
二　寮生の福利厚生に関すること。
三　学生寮の防火・防災に関すること。
四　学生寮に関する統計諸調査及び報告に関すること。
五　寮生の生活支援に関すること。
六　寮生の保健管理に関すること。
七　学生寮の宿日直に関すること。
八　学生寮の管理運営に関すること。
九　学生寮の将来計画（適正定員等）の分析に関すること。
十　厦門理工学院との相互交流に関すること。
十一　その他寮生の支援に関すること。

附　則
この規程は、平成１９年７月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成２３年７月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料３－３－①－３

佐世保工業高等専門学校技術室規程

（平成２１年４月１日制定）

（設置）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第４号）第１２条及び佐世保工業高等専門学校学則第６条の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、技術室を置く。

（目的）

第２条　技術室は、本校の学科等の要請に基づき、技術・技能を要する専門業務を行うことにより、本校における教育研究等の業務を支援する。

（業務）

第３条　技術室は、次に掲げる業務を行う。

一　実験・実習における教育の補助及び技術指導に関すること。

二　教育研究に必要な技術業務、技術開発及び教材作成に関すること。

三　情報システム基盤の維持・管理に関すること。

四　実験室、実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。

五　地域社会との連携に基づく技術協力に関すること。

六　技術の向上・継承に関すること。

七　技術職員の研修の企画、立案及び実施に関すること。

八　技術職員の養成に関すること。

九　学校行事への支援に関すること。

十　本校の業務の技術支援に関すること。

十一　その他技術室に関すること。

（組織）

第４条　技術室に、次に掲げる職員を置く。

一　技術室長

二　技術長

三　副技術長

四　技術専門職員

五　技術職員（建物及び施設の営繕、保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）

六　その他必要な職員

２　技術室に、次の班及び班長を置き、各業務に従事する。

一　第１技術班　主に電気・情報・制御、情報処理センターに関する業務

二　第２技術班　主に物質・生物・物理・化学、環境マネジメントに関する業務

三　第３技術班　主に実習指導・研究機器製作、実習工場に関する業務

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料３－３－①－４

佐世保工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員に関する規程

（平成１６年４月１日制定）

佐世保工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員に関する規程（平成１０年３月４日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員の選考等に関し必要な事項を定めるものとする。

（技術専門員）

第２条　技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

（技術専門職員）

第３条　技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

（選考）

第４条　技術専門員及び技術専門職員の選考は、定数の範囲内で校長が行う。

（選考基準）

第５条　技術専門員となることができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一　職務に関連する技術系の国家資格試験（大卒程度以上）に合格した者

二　特許取得等の独創的な技術開発を行った者

三　学会賞等を受賞した者

四　科学研究費補助金等の公募採択型の各種助成金を受けた者

五　修士以上の学位を有する者

六　学会等において職務に関連する論文発表等を行った者

七　職務に関連する著作を発表した者

八　技術職員研修会等において講師の経験を有する者

九　前各号に掲げる者と同等以上の資格等を有する者

２　技術専門職員となることができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一　前項に規定する技術専門員となることのできる者

二　職務に関連する技術系の国家資格試験に合格した者（前項に掲げる者を除く。）

三　技術発表会等において、職務に関連する技術発表等を行った者

四　技術職員研修会等の研修を修了した者

五　前各号に掲げる者と同等以上の資格等を有する者

（補則）

第６条　この規程に定めるもののほか、技術専門員及び技術専門職員の取扱に関し、必要な事項は、別に定める。

附　則

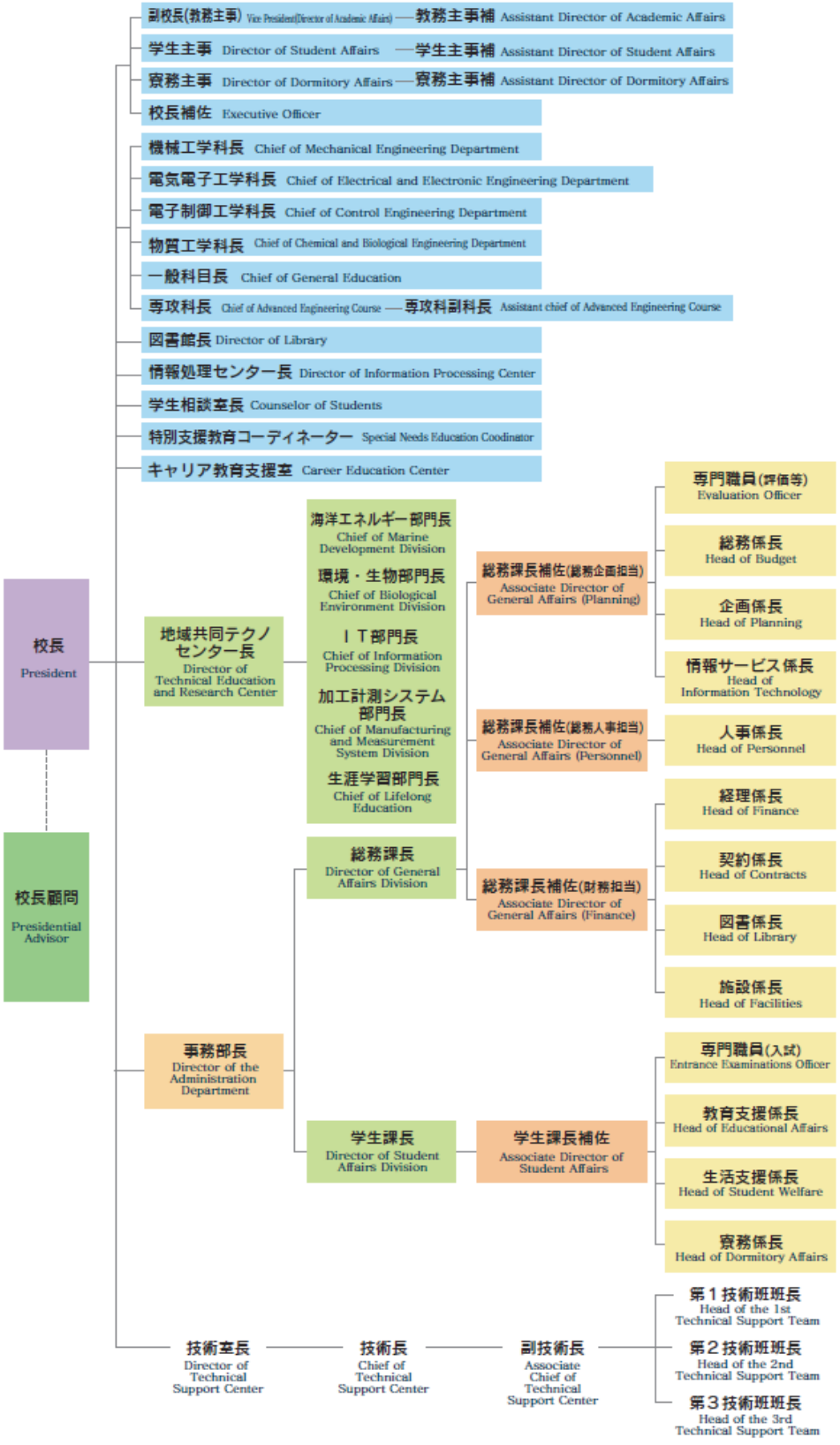
この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料３－３－①－５

機構図　Organization Chart

（H24.7.1 現在）



（出典　学校要覧）

資料３－３－①－６

平成２４年度　技術室　時間割(前期)　個人別一覧

	大渕	中原	茂木	松尾	白石	原	森	澤田	山北	久保	樋口	久保川	別	木室
月１	1E 情基演		1E 実験		1E 実験									
月２														
月３	2S 製図						2C 実験		1S 化学	3M ものづくり 総合実習	3M ものづくり 総合実習	3M ものづくり 総合実習	3M ものづくり 総合実習	3M ものづくり 総合実習
月４														
月５	5E 情ネット	4S 工学実験	2E 実験	4S 工学実験	4E 実験				1C 化学					
月６														
月７	3M ものづくり													
月８														
火１	5S 情通													
火２														
火３	5S 数プロ								1E 化学	1M 実習	1M 実習	1M 実習	1M 実習	1M 実習
火４														
火５	2S 情処	4S 知活	3E 実験	3S 工学実験	3E 実験	2E 物理	5C 卒研		1M 化学		4M 知活	4M 知活		4M 知活
火６			4E 知活・5E 卒研	知識活用	4E 知活・5E 卒研	2M 物理								
火７	5S 工概					2S 物理								
火８														
水１	1S 図学			5S 卒研		3C 物理								
水２						3E 物理						4M 実験	4M 実験	
水３	AMESC1 数解													
水４						3M 物理								
水５	3E プログ	5S 工学実験							1C 化学		5M 実験			
水６			4E 実験		4E 実験	留学生 物理								
水７	5M 実験													
水８	4M 実験													
木１	4E 情処		5E 実験	5S 卒研	5E 実験	2E 物理			専攻科一般科学					
木２				2S 工学実験		2S 物理				2M 実習	2M 実習	2M 実習	2M 実習	2M 実習
木３	3C 情処					4年自然科学 2C 物理			4年自然科学概論					
木４	1C 情処Ⅰ													
木５		5S 卒研					5C 卒研							
木６						3M 物理								
木７	2C 情処Ⅰ		5E 卒研		5E 卒研	3S 物理								
木８														
金１	5E 情工					3C 物理								
金２						3S 物理								
金３	1S 情処		5E 卒研		5E 卒研	2C 物理	3C 実験	3C・4C 実験						
金４														
金５	3S ソフトⅠ					3E 物理				2S 実験実習	2S 実験実習	2S 実験実習	2S 実験実習	2S 実験実習
金６				1S 創作実習										
金７	5S シスプロ					2M 物理								
金８														

（出典　技術室資料）

資料３－３－①－７

○○氏勤務状況　（平成２４年度前期）

	月	火	水	木	金
1 (8:50～9:40)	３M実習準備			２M実習準備	依頼物品製作
2 (9:40～10:30)	３M実習	１M実習準備		２M実習	依頼物品製作
休み					
3 (10:40～11:30)	３M実習	１M実習		２M実習	依頼物品製作
4 (11:30～12:20)	３M実習	１M実習	５M実験準備	２M実習	２Ｓ実習準備
休み					
5 (13:20～14:10)	３M実習	４M 知識活用教育	５M実験	２M実習	２Ｓ実習
6 (14:10～15:00)	３M実習	４M 知識活用教育	５M実験	２M実習	２Ｓ実習
休み					
7 (15:10～16:00)	３M実習	４M 知識活用教育	５M実験	２M実習	２Ｓ実習
8 (16:00～16:50)	機械類保守点検	４M 知識活用教育		５M卒業研究	機械類保守点検

１）実際に携わっている「実験」、「実習」時間及びその準備「時間」を記入（準備時間は平均を記入）
２）「共同研究」、「会議」など授業以外で携わっているものがあれば記入

※物品の製作依頼は年間を通してあり、７～8月は製作公開講座、ロボコン製作指導と重なることが多
※空き時間に職員、教員との実習実験の打ち合わせ、材料注文、機械の保守点検などを行っている。
※学生・教員からの技術相談は曜日を問わずある。

出典　２４年度時間割、事務部資料

（出典　技術室資料）

資料３－３－①－８

整理番号 SL－1

長期業務依頼申請書

佐世保工業高等専門学校　技術室長殿

室長	技術長	副技術長	担当者
印	印	印	印

申請申込年月日	平成 24 年 4 月 6 日	所属	電子制御工学科	申請者	
期　間	業　務　内　容		担当技術職員	評価	理由
平成 24 年 4 月 1 日から 平成 25 年 3 月 31 日 まで	創作実習及び 2S, 3S, 4S, 5S の工学実験・実習			良い	
				普通	
	実験書印刷				
	実験準備				
	技術指導				
	実験・実習時間中の全テーマの 安全確認・室内巡回				
	学生実験室整備管理				
	制御Ａ棟計算機工学演習室				
	制御Ｂ棟電子制御工学実験室				
	専攻科棟精密工学実験室				
	学生実験機材整備管理			改善	
	制御Ａ棟計算機工学演習室				
	制御Ｂ棟電子制御工学実験室				
	専攻科棟精密工学実験室				
	学生実験機材簿作成管理				
	制御Ａ棟計算機工学演習室				
	制御Ｂ棟電子制御工学実験室				
	専攻科棟精密工学実験室				
	レポート指導				
平成 24 年 4 月 1 日から 平成 25 年 3 月 31 日 まで	学科行事の準備と参加			良い	
				普通	
	学科会議出席				
	最先端技術大公開出展・参 加			改善	

（出典　技術室資料）

資料３－３－①－９

佐世保工業高等専門学校図書館規則

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は、佐世保工業高等専門学校学則第５６条第２項の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校に図書館を置き、その管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　図書館は、図書及びその他の教育・研究上必要な資料を収集・整理・管理して、本校教職員並びに学生の利用に供することを目的とする。

（図書館長）

第３条　図書館に図書館長を置く。

２　図書館長は、本校の教授及び准教授の中から校長が選任し、任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

（図書館長の職務）

第４条　図書館長は、校長の命を受け、次の事項を掌理する。

一　図書及びその他の資料の収集及び整理に関すること。

二　図書館利用の指導及び調整に関すること。

三　教員の行なう教育・研究に対する協力に関すること。

四　図書館に関する調査及び渉外活動に関すること。

五　その他図書館運営上必要なる事項

（図書委員会）

第５条　図書館の円滑なる運営を図るため、校長の諮問機関として図書委員会を置く。

２　図書委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（雑則）

第６条　この規則に定めるもののほか、図書館の運営に関し必要な規程は別に定める。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

教育支援のため，事務職員，技術職員を配置し，組織的に行っている。また，技術職員は実験・実習等の教育支援を行っている。また，図書館においては司書資格を持った職員を配置している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学生による授業評価が行われており，教員が改善点などをコメントし，教室掲示によって学生にフィードバックされており，教育改善のためのシステムが機能している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

準学士課程の教育を遂行するための一般科目と専門科目教員は，研究や教育実績及び実務経験に基づく専門性を活かして配置されている。また，専攻科は基本的に専任教員または学位授与機構の資格審査合格教員で構成しており，適正な配置となっている。教員の採用及び昇任については，教員選考規則に基づき推薦委員会，教員資格審査委員会の議を経て選考しており適切である。

教員の教育活動評価は，ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会並びに教員顕彰実施要項により行い，学生による授業評価アンケート，意見要望書，公開授業，教員相互評価等を定期的に実施している。学生の意見要望書には，全科目担当教員が要望に答えて改善点を学生にフィードバックする等の適切な取り組みがなされている。また各教員は「自啓録」を用いて，年度の反省と次年度の計画を校長に報告し，学校の教育方針との整合性を図っている。このように教員の教育方法を改善するシステムが適切に機能している。また，その教員組織を活性化する措置として，優秀教員を表彰する制度も設けられている。

さらに，学生課の教育支援係と生活支援係，寮務係，総務課の図書係及び技術職員が，各主事室等と連携しながら本校の教育活動を支援している。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は，全教員が所有する「教員必携」に明記されている（資料４－１－①－１）。本校の入学者選抜は，１）準学士課程入学者選抜，２）第４年次編入学者選抜，３）専攻科生入学者選抜の３種類がある。入学者受入方針は全ての学生募集要項（資料４－１－①－２～４）にも記載されている。また，将来の学生を含めた社会には，本校ウェブサイトにおいて各入試情報として公表（資料４－１－①－５）すると共に，学校説明会において平易に説明している。さらに，企業等に配布する学校紹介リーフレット（資料４－１－①－６）にて周知している。

教員に対しては，「教員必携」の配布及び中学校訪問時の説明の際に再確認が行われている。職員に対しては，本校ウェブサイト，学校紹介リーフレット及び学生募集要項にて周知されている。また，教職員に対する入学者受入方針の周知状況調査の結果，概ね周知されていることがわかる（資料４－１－①－７，８）。

観点４－１－①資料一覧

（資料４－１－①－１）	入学者受入方針（アドミッションポリシー）	出典：教員必携
（資料４－１－①－２）	入学者受入方針（準学士課程）	出典：学生募集要項
（資料４－１－①－３）	入学者受入方針（４年次編入学）	出典：編入学生募集要項
（資料４－１－①－４）	入学者受入方針（専攻科課程）	出典：専攻科学生募集要項
（資料４－１－①－５）	入学者受入方針記載箇所	出典：本校ウェブサイト
（資料４－１－①－６）	入学者受入方針記載箇所	出典：学校紹介リーフレット
（資料４－１－①－７）	入学者受入方針調査アンケート様式	出典：総務課資料
（資料４－１－①－８）	入学者受入方針調査アンケート結果	出典：総務課資料

資料４－１－①－１

佐世保工業高等専門学校における入学者受入方針
（アドミッションポリシー）

（平成 16 年 11 月 4 日制定）

佐世保工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成します。

専攻科では、さらに専門を深めるとともに他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、複眼的視野をもち、ものづくりに対応しうる人材を育成します。

本校では、基礎学力を身につけた次のような人に入学してほしいと考えています。

（１）自然現象に対して好奇心が強い人
（２）夢をもち、それに向かって努力できる人
（３）ものづくりが好きな人
（４）技術者として人類の幸福のために貢献したい人
（５）技術者として国際的に活躍したい人

編入学アドミッションポリシー

（１）科学または工学の基礎を習得している人
（２）希望する学科の教育目標を理解している人
（３）コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
（４）倫理観を身につけ、地域及び国際社会の発展のために技術者として貢献したい人

専攻科アドミッションポリシー

（１）科学と工学の基礎的学力を十分身につけている人
（２）社会性と倫理観を身につける意欲を持っている人
（３）基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人
（４）複眼的かつ実践的能力を身につける意欲を持つ人
（５）地域及び国際社会の発展のため、技術者として自主的に行動する意欲を持つ人

（出典　教員必携）

資料４－１－①－２

受検生の皆さんへ

佐世保工業高等専門学校における入学者受入方針（アドミッションポリシー）

佐世保工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成します。

専攻科では、さらに専門を深めるとともに他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、複眼的視野をもち、ものづくりに対応しうる人材を育成します。

本校では、基礎学力を身につけた次のような人に入学してほしいと考えています。

（１）　自然現象に対して好奇心が強い人

（２）　夢をもち、それに向かって努力できる人

（３）　ものづくりが好きな人

（４）　技術者として人類の幸福のために貢献したい人

（５）　技術者として国際的に活躍したい人

入学生は、全員、入学後、１０頁の「６　日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）対応教育プログラムについて」に示すプログラムが適用されることになります。

（出典　学生募集要項）

資料４－１－①－３

受験生の皆さんへ

佐世保工業高等専門学校における入学者受入方針（アドミッションポリシー）

佐世保工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成します。

専攻科では、さらに専門を深めるとともに他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、複眼的視野をもち、ものづくりに対応しうる人材を育成します。

本校では、次のような人に入学してほしいと考えています。

（１）　科学または工学の基礎を習得している人

（２）　希望する学科の教育目標を理解している人

（３）　コミュニケーション能力の基礎を身につけている人

（４）　倫理観を身につけ、地域および国際社会の発展のために技術者として貢献したい人

入学生は、全員、入学後、１１頁の「１０　日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）対応教育プログラムについて」に示すプログラムが適用されることになります。

（出典　編入学生募集要項）

資料４－１－①－４

受験生の皆さんへ

佐世保工業高等専門学校専攻科における入学者受入方針（アドミッションポリシー）

佐世保工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成します。

専攻科では、さらに専門を深めるとともに他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、複眼的視野をもち、ものづくりに対応しうる人材を育成します。

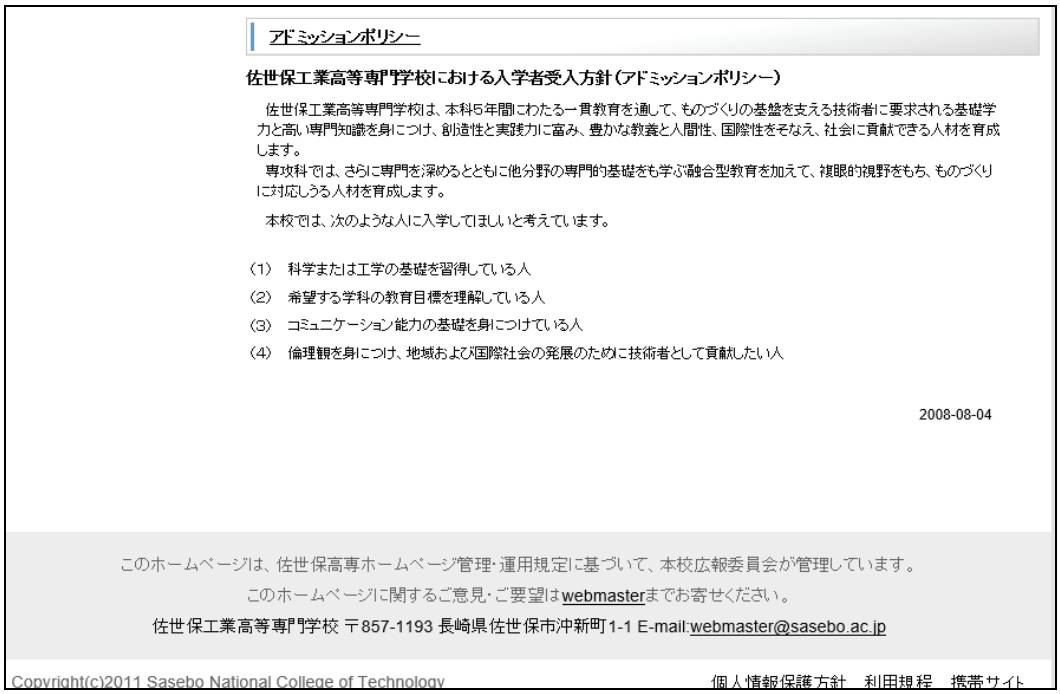
専攻科では、次のような人に入学してほしいと考えています。

（１）科学と工学の基礎的学力を十分身につけている人
（２）社会性と倫理観を身につける意欲を持っている人
（３）基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人
（４）複眼的かつ実践的能力を身につける意欲を持つ人
（５）地域及び国際社会の発展のため、技術者として自主的に行動する意欲を持つ人

（出典　専攻科学生募集要項）

資料４－１－①－５

本校ウェブサイトのアドミッション・ポリシー記載箇所



アドミッションポリシー

佐世保工業高等専門学校における入学者受入方針（アドミッションポリシー）

佐世保工業高等専門学校は、本科5年間にわたる一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成します。

専攻科では、さらに専門を深めるとともに他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、複眼的視野をもち、ものづくりに対応しうる人材を育成します。

本校では、次のような人に入学してほしいと考えています。

〈1〉　科学または工学の基礎を習得している人

〈2〉　希望する学科の教育目標を理解している人

〈3〉　コミュニケーション能力の基礎を身につけている人

〈4〉　倫理観を身につけ、地域および国際社会の発展のために技術者として貢献したい人

2008-08-04

このホームページは、佐世保高専ホームページ管理・運用規定に基づいて、本校広報委員会が管理しています。

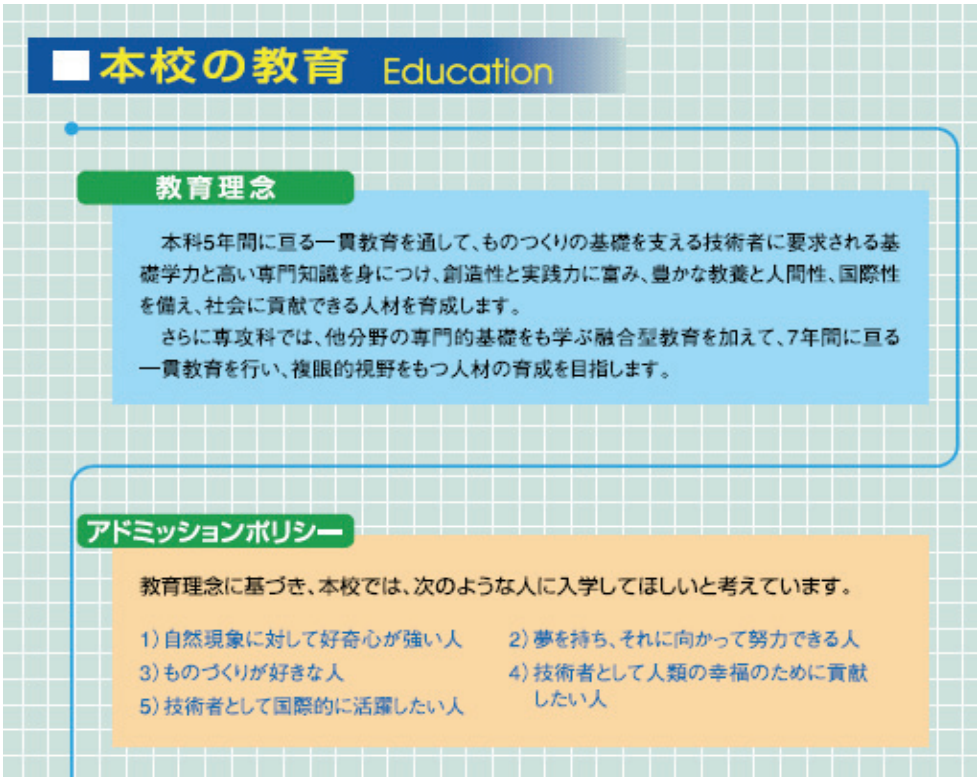
このホームページに関するご意見・ご要望はwebmasterまでお寄せください。

佐世保工業高等専門学校 〒857-1193 長崎県佐世保市沖新町1-1 E-mail:webmaster@sasebo.ac.jp

Copyright(c)2011 Sasebo National College of Technology　　個人情報保護方針　利用規程　携帯サイト

（出典　本校ウェブサイト）

資料４－１－①－６



本校の教育 Education

教育理念

本科5年間に亘る一貫教育を通して、ものつくりの基礎を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性を備え、社会に貢献できる人材を育成します。

さらに専攻科では、他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、7年間に亘る一貫教育を行い、複眼的視野をもつ人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー

教育理念に基づき、本校では、次のような人に入学してほしいと考えています。

1）自然現象に対して好奇心が強い人
2）夢を持ち、それに向かって努力できる人
3）ものづくりが好きな人
4）技術者として人類の幸福のために貢献したい人
5）技術者として国際的に活躍したい人

（出典　学校紹介リーフレット）

資料４－１－①－７

佐世保工業高等専門学校　入学者受け入れ方針アンケート

このアンケートは皆さんが本校の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）をどの程度知っているか調査するものです。
次の選択肢の中から1つだけ選び、該当の番号の0の部分を黒のペンか鉛筆で塗りつぶしてください

1：全然知らない　2：少し知っている　3：ある程度知っている　4：よく知っている

1．本科生アドミッションポリシー

		1	2	3	4
1）	自然現象に対して好奇心が強い人				
2）	夢をもち、それに向かって努力できる人				
3）	ものづくりが好きな人	0	0	0	0
4）	技術者として人類の幸福のために貢献したい人				
5）	技術者として国際的に活躍したい人				

2．編入生アドミッションポリシー

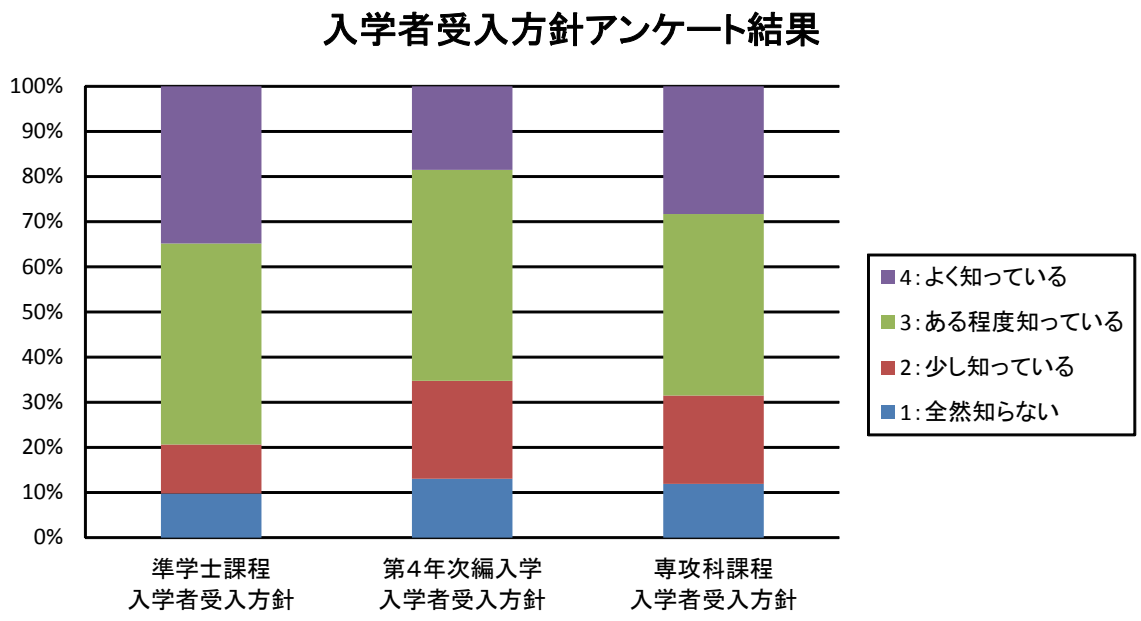
		1	2	3	4
1）	科学または工学の基礎を習得している人				
2）	希望する学科の教育目標を理解している人				
3）	コミュニケーション能力の基礎を身につけている人	0	0	0	0
4）	倫理観を身につけ、地域及び国際社会の発展のために技術者として貢献したい人				

3．専攻科アドミッションポリシー

		1	2	3	4
1）	科学と工学の基礎的学力を十分身につけている人				
2）	社会性と倫理観を身につける意欲を持っている人				
3）	基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人	0	0	0	0
4）	複眼的かつ実践的能力を身につける意欲を持つ人				
5）	地域及び国際社会の発展のため、技術者として自主的に行動する意欲を持つ人				

（出典　総務課資料）

資料４－１－①－８



（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生の受入に関し，入学者受入方針が明確に定められており，入学者に対し箇条書きでわかりやすい表現で示されている。教職員に対する入学者受入方針の周知状況調査の結果，概ね周知されていることがわかる。また，本校ウェブサイトや学校説明会，学校紹介リーフレットにより，将来の学生を含めた社会に理解されやすい形で公表している。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜は，入学者選抜要項（資料４－２－①－１）並びに入学者選抜実施要項（資料４－２－①－２）に定められた通りに実施されており，筆記試験，面接，調査書等を適切に評価し，判定会議において総合的な結果により選抜を行っている。入学者受入方針と各選抜方法との関連性を以下に示す。

(a)準学士課程入学

準学士課程１年生への入学者選抜は，推薦と学力の２種類がある。なお，受検生には全員に「入学志望理由書」（資料４－２－①－３）の提出を義務づけ，本校の入学者受入方針に沿った受検生であることを確認している。

①　　推薦による選抜

推薦書・調査書並びに面接試験の結果を基に総合的に選抜している。面接試験は面接実施要項（資料４－２－①－４訪問時資料）に従い，「入学志望理由書」を基に志望動機等について評価している（資料４－２－①－５訪問時資料）。入学者受入方針の「基礎学力を身につけた人」については口頭試問によって，入学者受入方針の（２）（３）（４）については面接により評価している。また，（１）（５）については調査書及び面接によって確認している。

②　　学力による選抜

本校では，全国国立高専共通の試験に調査書の成績を加味し，総合的に「基礎学力を身につけた人」に関する資質・能力を評価している。入学者受入方針の（１）は理科・数学・社会の試験，（５）は国語・英語の試験，そして（２）（３）（４）については「入学志望理由書」と調査書によって確認している。

(b)準学士課程４年次編入学

準学士課程４年次への編入学者選抜は，推薦と学力の２種類がある。推薦による選抜は，前述の(a)と同様である（資料４－２－①－６訪問時資料）。学力による選抜は，工業に関する高校の生徒は各学

観点４－２－①資料一覧

（資料４－２－①－１）	入学者選抜要項	出典：教員必携
（資料４－２－①－２）	入学者選抜実施要項	出典：教員必携
（資料４－２－①－３）	入学志望理由書	出典：学生募集要項
（資料４－２－①－４）	推薦入学試験面接実施要項	訪問時資料
（資料４－２－①－５）	推薦入学試験面接実施要項面接評定表	訪問時資料
（資料４－２－①－６）	編入学（推薦）面接実施要項	訪問時資料
（資料４－２－①－７）	編入学（学力）面接実施要項	訪問時資料
（資料４－２－①－８）	編入学志望理由書	出典：編入学生募集要項
（資料４－２－①－９）	編入学試験面接実施要項面接評定表	訪問時資料
（資料４－２－①－10）	専攻科志望理由書	出典：専攻科学生募集要項
（資料４－２－①－11）	専攻科推薦入学試験面接実施要項	訪問時資料

科の専門科目と英語・数学の筆記試験，その他の高校の生徒は英語・数学と専門科目を理科（物理または化学）とした筆記試験に，調査書及び面接を含めた総合評価で行っている（資料４－２－①－７訪問時資料)。編入学者受入方針の（１）は数学・専門科目または理科の試験と調査書によって，（３）は英語の試験と面接によって評価している。（２）（４）は「編入学志望理由書」（資料４－２－①－８）を基に面接によって評価している（資料４－２－①－９訪問時資料)。

(c)専攻科入学

専攻科への入学者選抜は，推薦と学力の２種類がある。なお，受験生には全員に「専攻科志望理由書」（資料４－２－①－10）の提出を義務づけ，本校の入学者受入方針に沿った受験生であることを確認している。

①　　推薦による選抜

推薦書，調査書並びに面接試験を基に総合的に選抜している。面接試験は面接実施要項（資料４－２－①－11訪問時資料）に従い，口頭試問を行い，志望動機等について評価している。専攻科受入方針の（１）（３）は面接時の口頭試問および調査書により評価し，（２）（４）（５）は面接によって評価している。

②　　学力による選抜

一般科目（英語，数学)・専門科目と面接によって選抜し，面接試験については，推薦の場合と同様である。専攻科受入方針の（１）は数学と専門科目の試験によって評価し，（３）は面接時の口頭試問および英語の試験によって評価している。（２）（４）（５）は面接によって評価している。

資料４－２－①－１

佐世保工業高等専門学校入学者選抜要項

（平成１６年１１月　４日制定）
（平成２０年　７月　３日改正）
（平成２３年　１月２４日改正）

（趣旨）

第１　この要項は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における入学者選抜（専攻科を含む。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（入学者選抜に関する審議）

第２　本校における入学者の選抜に関する基本方針等の企画、審議は教務委員会、専攻科にあっては専攻科委員会で行う。

（１）入学者選抜方法等に関する事項
（２）合格者判定の基準に関する事項
（３）検査委員の選考方法に関する事項
（４）入試情報開示に関する事項
（５）入学者選抜に係る広報に関する事項
（６）入学者選抜関係規則等の制定及び改廃に関する事項
（７）その他入学者選抜に関し必要な事項

（入学者選抜）

第３　本校における入学者選抜は、次に掲げる選抜により実施する。

２　本科における入学者の選抜は次のとおり実施する。

（１）学力検査による入学者の選抜
（２）推薦による入学者の選抜
（３）学力による第４年次編入学者の選抜
（４）推薦による第４年次編入学者の選抜

３　専攻科における入学者の選抜は次のとおり実施する。

（１）学力による選抜（前期・後期）
（２）推薦による選抜
（３）社会人特別選抜

４　第３学年編入学者（外国人学生対象）の選抜は次のとおり実施する。

高専機構本部の合否判定資料による第３学年編入学者（外国人学生対象）の選抜

（補則）

第４　この要項に定めるもののほか、入学者選抜に関し、必要な事項は別に定める。

（出典　教員必携）

資料４－２－①－２

佐世保工業高等専門学校入学者選抜実施要項

（平成１６年１１月　４日制定）
（平成２０年　７月　３日改正）
（平成２１年　７月　２日改正）
（平成２３年　６月　２日改正）
（平成２４年　４月　１日改正）
（平成２５年　４月　１日改正）

（趣旨）

第1　この要項は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）が実施する入学者選抜試験の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（学力検査による入学者の選抜）

第2　学力検査による入学者の選抜は次の各号により行うものとする。

(1)募集人員

学科名	募集人員	備考
機械工学科	40名	推薦による募集人員（入学定員の 30%程度）を含む。
電気電子工学科	40名	
電子制御工学科	40名	
物質工学科	40名	

(2)出願資格

① 中学校を卒業した者または見込みの者
② 中等教育学校の前期課程を修了した者
③ 中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則 95 条）

(3)志望学科の選定

機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、物資工学科の4学科のうちから第3志望まで選定することができるものとする。

(4)選抜方法

学力検査による入学者の選抜は、学力検査、出身学校からの調査書、学級成績一覧表などの総合判定により行う。

(5)学力検査

学力検査は、理科・英語・数学・国語・社会の5教科について筆記試験を行う。

（推薦による入学者の選抜）

第3　推薦による入学者の選抜は次の各号により行うものとする。

(1)募集人員

学科名	募集人員	備考
機械工学科	12名程度	推薦による志望学科は第1志望に限る。
電気電子工学科	12名程度	
電子制御工学科	12名程度	
物質工学科	12名程度	

（出典　教員必携　抜粋）

資料４－２－①－３

受検番号	※

入学志望理由書

佐世保工業高等専門学校

平成　　年　　月　　日

志望学科	工学科	ふりがな 氏　名

入学の志望理由として、下記項目で該当するものに、◎あるいは○を記して下さい。該当しない場合は空欄のままで結構です。また、その他の志望理由がある場合は、その他の欄に記入して下さい。

◎ … 強い　　○ … 普通　　空欄 … 該当しない

（　　）自然現象に対して好奇心が強いから

（　　）夢をもち、それに向かって努力できるから

（　　）ものづくりが好きだから

（　　）技術者として人類の幸福のために貢献したいから

（　　）技術者として国際的に活躍したいから

その他　：

（注）必ず本人自筆のこと。また、※印の欄は記入しないこと。

（出典　学生募集要項）

資料４－２－①－８

受験番号	※

編入学志望理由書

佐世保工業高等専門学校

平成　　年　　月　　日

志望学科	工学科	ふりがな 氏　名

入学の志望理由として、下記項目で該当するものに、◎あるいは○を記して下さい。該当しない場合は空欄のままで結構です。また、その他の志望理由がある場合は、その他の欄に記入して下さい。

◎ … 強い　　○ … 普通　　空欄 … 該当しない

（　　）専門知識をもっと身につけたいから

（　　）自ら課題を探求し、解決できる能力を身につけたいから

（　　）コミュニケーション能力をもっと伸ばしたいから

（　　）技術者として人類の幸福のために貢献したいから

（　　）技術者として国際的に活躍したいから

その他　：

（注）必ず本人自筆のこと。また、※印の欄は記入しないこと。

（出典　編入学生募集要項）

資料４－２－①－10

受験番号	＊

専攻科志望理由書

佐世保工業高等専門学校

平成　　年　　月　　日

志望系	複合工学専攻 系	ふりがな 氏　名

専攻科の志望理由として，下記項目で該当するものに　◎あるいは○を記してください。
該当しない場合は空欄のままで結構です。また，その他の志望理由がある場合は，その他の欄に記してください。

◎　…　強い　　○　…　普通　　空欄　…　該当しない

（　　）科学と工学の基礎学力を十分に身につけているから

（　　）社会性と倫理観を身につける意欲を持っているから

（　　）基礎的なコミュニケーション能力を身につけているから

（　　）複眼的かつ実践的能力を身につける意欲を持っているから

（　　）地域及び国際社会の発展のため，技術者として自主的に行動する意欲を持っているから

（　　）高度技術の中核を担う専門職業人としての教養と専門基礎知識を養いたいから

（　　）先進的でシステムデザイン能力を有する技術者となりたいから

（　　）システム創成能力を有する実践的技術者となりたいから

（　　）各種分析技術や材料開発を含めた関連の技術分野における開発・研究に従事できる創造的技術者となりたいから

卒業研究題目　：

（要旨）

（注）必ず本人自筆のこと。また，＊の欄は記入しないでください。

（出典　専攻科学生募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

入学者受入方針に沿って準学士課程１年への入学，準学士課程４年への編入学，そして専攻科課程への入学に対する入学者選抜要項を明確に定めており，それに従って学力試験や面接試験等を適切に実施し，各判定会議において公正に合否は決定されている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

(a)準学士課程入学

入学生の調査書の５段階評点の分布よりその資質を見ると，多くは４以上であり，ほぼ全員が3.5以上となっている（資料４－２－②－１）。このように準学士課程１年入学生の中学時成績は高い水準であり，優秀な学生が入学している。また，入学直後に実施している数学・国語・英語の実力試験の結果を見ると，それぞれ平均点が60点以上であり，入学者受入方針の「基礎学力を身につけた」に沿った学生が入学している（資料４－２－②－２）。

過去５年間の進路変更等で退学した学生数は，全学生に対する割合が３％以下ではあるが，退学者総数の増加傾向が見られる（資料４－２－②－３）。そこで，一部学科のみ実施していた口頭試問を全学科で実施するように平成23年度の推薦試験判定会議において提案され，教務委員会を経て入学者選抜の改善がなされている（資料４－２－②－４，５）。

(b)準学士課程４年次編入学

過去５年間の編入学志願者数は，若干名の募集に対して20名以上であり，入学者受入方針の（１）に沿った学生が入学している（資料４－２－②－６）。過去５年間の編入学生の退学者は２名であり，入学者受入方針に沿った学生の受け入れがなされている（資料４－２－②－３）。

(c)専攻科入学

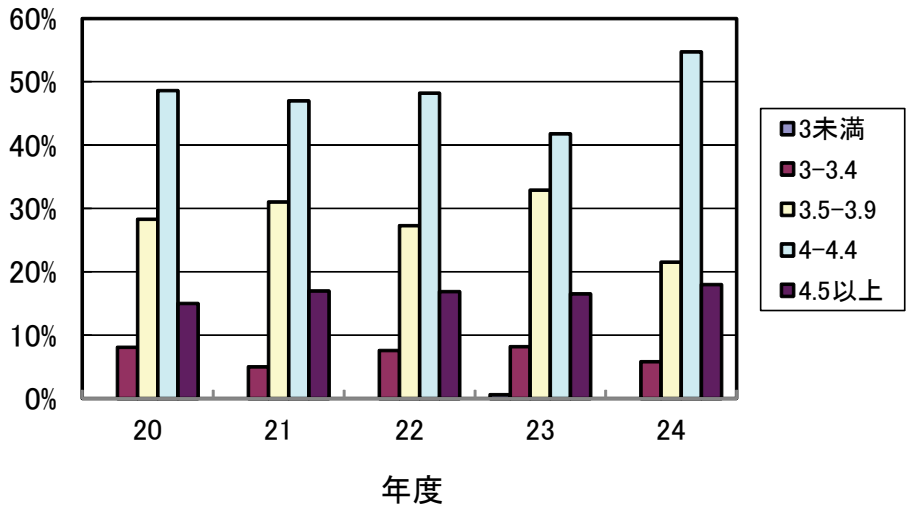
過去５年間の専攻科志願者数は，定員16名に対して２倍以上となっており，入学者受入方針に沿った学生が入学している（資料４－２－②－７）。過去５年間の専攻科生の退学者数は数名であり，入学者受入方針に沿った学生の受け入れがなされている（資料４－２－②－３）。

観点４－２－②資料一覧

（資料４－２－②－１）	入学生の中学時成績	出典：教育データベース
（資料４－２－②－２）	１年生実力試験結果	出典：学生課資料
（資料４－２－②－３）	退学者数	出典：教育データベース
（資料４－２－②－４）	推薦入学試験判定会議議事要旨	出典：学生課資料
（資料４－２－②－５）	教務委員会議事要旨	出典：学生課資料
（資料４－２－②－６）	編入学者入試状況	出典：教育データベース
（資料４－２－②－７）	専攻科入試状況	出典：教育データベース

資料４－２－②－１

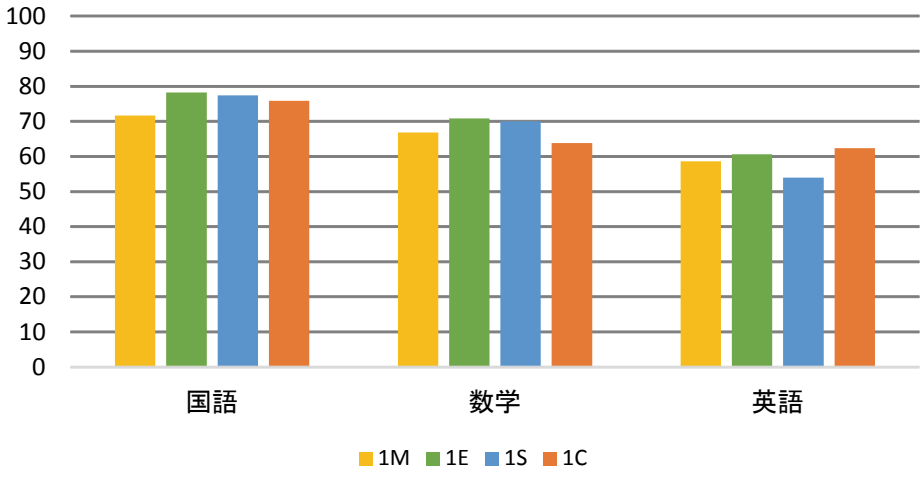
入学生の中学時成績（５段階評価分布）



（出典　教育データベース）

資料４－２－②－２

平成24年度　1年生実力試験結果（始業式後実施）



（出典　学生課資料）

資料４－２－②－３

退学者数

年度	準学士課程	専攻科課程	準学士課程					専攻科	
			1	2	3	4	5	A1	A2
20	9	0	1	0	7	1(0)	0	0	0
21	8	3	1	1	3	3(2)	0	2	1
22	17	1	3	3	5	5(0)	1	0	1
23	19	0	1	3	7	7(0)	1	0	0
24	26	1	1	11	2	10(0)	2	1	0

※準学士課程４年の括弧は編入学生

（出典　教育データベース）

資料４－２－②－４

平成２４年度推薦入学試験判定会議議事要旨

１．　日　　時　平成２４年１月２４日（火）１６：１０～１６：３５
２．　場　　所　大会議室
３．　出 席 者　別紙のとおり
４．　記　　録

略

○　来年度以降の推薦選抜の面接について，物質工学科においても基本的な問題についての口頭試問を行うことが確認された。
　また、機械工学科については，次回の学科会議で検討する旨の説明があった。

会議終了後，グラフ以外の配付資料は回収した。

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－５

平成２４年度　第３回教務委員会議事要旨

日　時　　平成２４年６月５日（火）　１７時２０分～１７時４０分
場　所　　大会議室
出席者　　教務主事、寮務主事、専攻科長、松山史憲、大島多美子、嶋田英樹、山崎隆志、堀江　潔、森川浩次、吉田克雅、手島裕詞、田中泰彦、稲永善数、学生課長、三ッ廣学生主事補（学生主事代理）
欠席者　　学生主事
列席者　　課長補佐、専門職員（入試担当）、教育支援係長

○報告事項

略

○協議事項

１．本科の募集要項について

宮良入試担当専門職員より、昨年度の募集要項により説明がなされ、各学科において内容について確認し、変更・訂正等があれば、6 月末までに連絡して欲しいとの依頼があった。

また、教務主事より、推薦入試の面接時に行う口頭試問については、25 年度入試より全学科で実施することになったが、例年その内容について入試懇談会等で質問があるため、新たに実施する機械工学科と物質工学科については、試問する科目・内容等が決まっている場合は、連絡してほしいとの依頼があった。

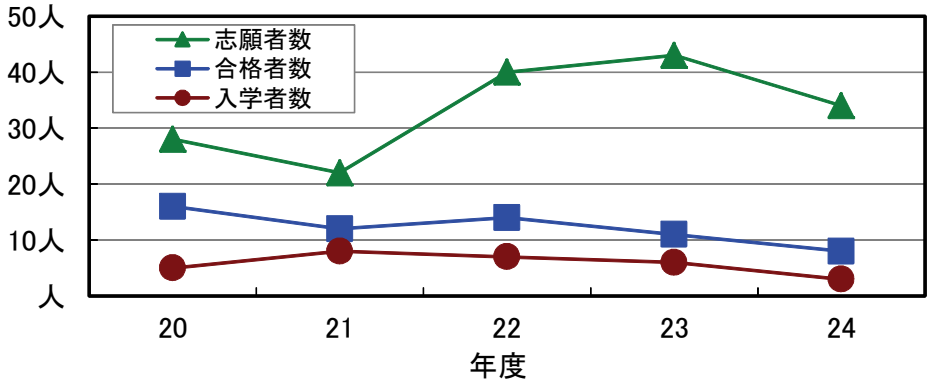
２．その他

略

（出典　学生課資料）

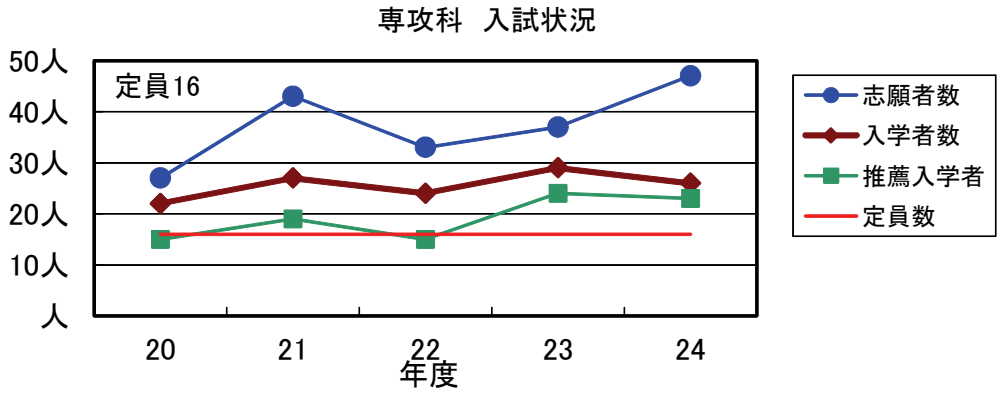
資料４－２－②－６

編入学者入試状況



（出典　教育データベース）

資料４－２－②－７



（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程入学では，調査書と入学後実力試験の結果で，入学者受入方針に沿った学生の受入が確認されている。退学者の増加傾向が見られた為，面接試験の実施方法を再検討し，全学科で口頭試問を実施するように改善が行われている。準学士課程４年次編入学および専攻科入学では，入学者選抜の改善のため，志願者数と退学者数で検証がなされている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われるなど，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程において，各学科定員40名に対する志願者数，倍率及び実入学者数を見ると，各学科の実入学者数が定員40名に近い人数であり（資料４－３－①－１），全実入学者数は定員160名に近い人数となっている（資料４－３－①－２）。

専攻科課程において，平成23年度までの実入学者数は定員を超え，平成23年度では約1.8倍の入学者数となっており，また，平成24年度に複合工学専攻の一専攻へ改組され，実入学者数は26名で約1.6倍が入学している（資料４－３－①－３）。全実入学者数は定員16名に対し平均約1.6倍となっているが（資料４－３－①－４），教員数及び施設設備の教育環境が十分であるため，定員の２倍程度までは適切な教育を受けることができる。

資料４－３－①－１

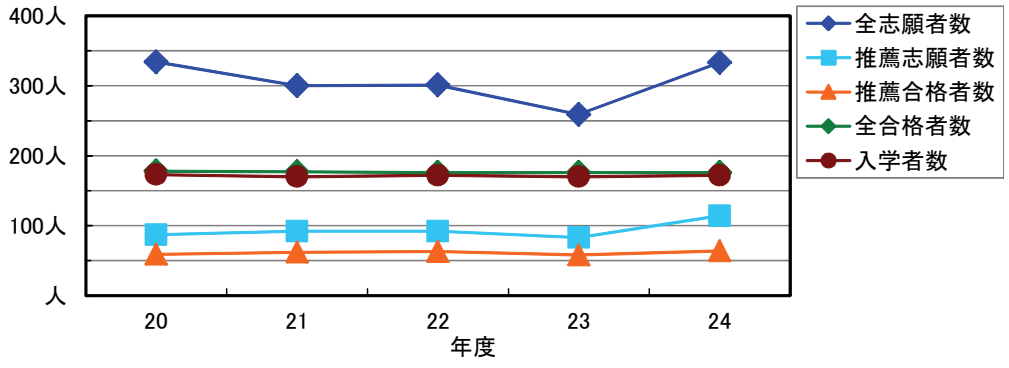
準学士課程入学者数　（各科定員 40）

年度	機械			電気電子			電子制御			物質			全体		
	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者
20	77	1.9	43	68	1.7	45	99	2.5	43	90	2.3	42	334	2.1	173
21	48	1.2	43	85	2.1	42	75	1.9	43	92	2.3	42	300	1.9	170
22	79	2	43	73	1.8	43	81	2	44	68	1.7	42	301	1.9	172
23	60	1.5	43	60	1.5	43	75	1.9	42	64	1.6	42	259	1.6	170
24	68	1.7	44	67	1.7	42	102	2.6	44	96	2.4	42	333	2.1	172

（出典　教育データベース）

資料４－３－①－２

準学士課程志願者数と入学者数



（出典　教育データベース）

観点４－３－①資料一覧

（資料４－３－①－１）	準学士課程入学者数	出典：教育データベース
（資料４－３－①－２）	準学士課程志願者数と入学者数	出典：教育データベース
（資料４－３－①－３）	専攻科課程入学者数	出典：教育データベース
（資料４－３－①－４）	専攻科課程志願者数と入学者数	出典：教育データベース

資料４－３－①－３

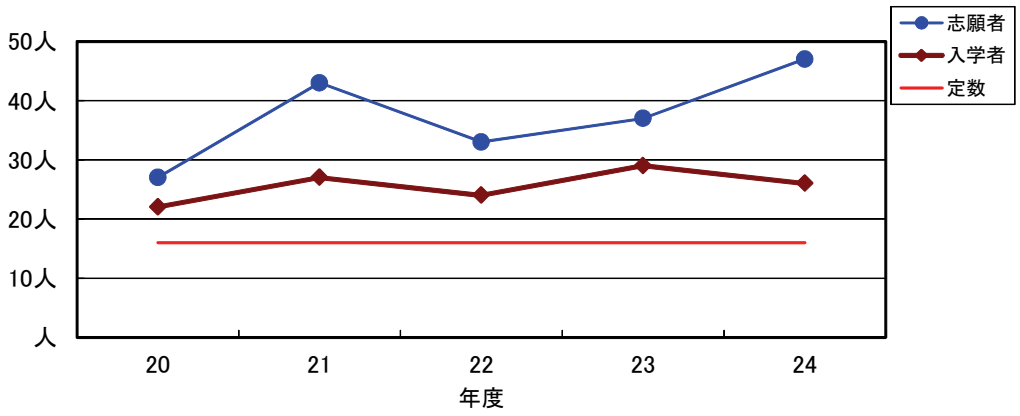
専攻科課程入学者数　　（定員:機械4, 電気電子8, 物質4）
（定員:複合工学:16）

年度	機械			電気電子			物質			全体		
	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者	志願者	倍率	入学者
20	8	2	6	15	1.9	12	4	1	4	27	1.7	22
21	10	2.5	6	21	2.6	15	12	3	6	43	2.7	27
22	7	1.8	5	19	2.4	14	7	1.8	5	33	2.1	24
23	8	2	7	19	2.4	14	10	2.5	8	37	2.3	29
24	24年度より複合工学専攻に改組									47	2.9	26

（出典　教育データベース）

資料４－３－①－４

専攻科課程志願者数と入学者数



（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程における各学科の実入学者数は入学定員とほぼ同じである。また，専攻科課程の入学者数は定員の２倍以内であり，十分な教育環境が確保されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程ならびに専攻科課程ともに，基礎学力が十分な学生を確保している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準４の自己評価の概要

学生の受入について，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定めており，全教員については，それを明記した「教員必携」を配布して周知を行っている。また，職員や入学希望者についても「学生募集要項」や学校紹介リーフレット，本校ウェブサイト等に明記して広く公表している。

入学者の選抜は，準学士課程１年への入学，準学士課程４年への編入，専攻科への入学に対する要項を明確に定めており，それに従って学力試験や面接試験等を適切に実施し，入学者選抜判定会議において公正に合否を決定している。また，それぞれの入学者選抜の方法は対応する委員会で検討・改善を行っている。

準学士課程における各学科の実入学者数は入学定員とほぼ同じである。また，専攻科課程の実入学者数は定員の平均約1.6倍となっているが，十分な教育環境が確保されており教育に支障はない。

このように，入学定員と実入学者数との関係を適正に維持している。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念および教育目標は，学生便覧に示されている（資料５－１－①－１）。カリキュラムの編成方針としては，教育理念・教育目標に基づき，高専教育の特徴である５年間一貫教育の利点を活かしたカリキュラム編成を心掛け，学年ごとに一般科目と専門科目をくさび形に配分し，実験実習を重視しつつ講義との連携を図る編成を行っている（資料５－１－①－２～７）。教育課程表の修得単位数計に着目してもくさび形カリキュラムとなっており，教育課程として体系的に編成されていることがわかる。なお，本校が１年間に行う授業期間は40週にわたり（資料５－１－①－８），高等専門学校設置基準を満たしている。

教育目標と科目との関係は,教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ図に示されている(資料５－１－①－９)。

教育目標１）に関しては，全学科１年次に，創造性を育成するための科目である「創作実習」を組み込んでいる。２年次以降は，専門基礎科目での学習内容を確認する意味で「実験実習」を行っている。

教育目標２）に関しては，低学年において一般科目の理数系科目と各学科の専門基礎科目（機械工学科「工学通論」，電気電子工学科「電気電子工学基礎」，電子制御工学科「基礎電気工学」，物質工学科「基礎物質化学・基礎生物工学」）を，高学年において各学科の専門科目を配置している。また，５年次「卒業研究」では「研究日誌」（資料５－１－①－10）を配布し，研究テーマに沿って自ら研究計画を立て，課題を探究，解決する能力を養成している。

観点５－１－①資料一覧

（資料５－１－①－１）	教育理念	出典：学生便覧
（資料５－１－①－２）	教育課程表　一般科目（機械・電気電子・電子制御工学科）	出典：教員必携
（資料５－１－①－３）	教育課程表　一般科目（物質工学科）	出典：教員必携
（資料５－１－①－４）	教育課程表　専門科目（機械工学科）	出典：教員必携
（資料５－１－①－５）	教育課程表　専門科目（電気電子工学科）	出典：教員必携
（資料５－１－①－６）	教育課程表　専門科目（電子制御工学科）	出典：教員必携
（資料５－１－①－７）	教育課程表　専門科目（物質工学科）	出典：教員必携
（資料５－１－①－８）	平成 24 年度行事予定表	出典：学生課資料
（資料５－１－①－９）	教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－１－①－10）	「研究日誌」様式	出典：学生課資料
（資料５－１－①－11）	化学シラバス	出典：平成 25 年度シラバス
（資料５－１－①－12）	物理シラバス	出典：平成 25 年度シラバス

教育目標３）に関しては，低学年から専門基礎科目の講義内容に対応した実験実習科目を配置している。また，一般科目「化学」「物理」は実践力を養成する科目であり，講義実験・学生実験を取り入れた授業を行っている（資料５－１－①－11，12)。

教育目標４）に関しては，全学科全学年において「英語」「国語」の語学科目を必修として配置している。また，１年次「創作実習」，４年次「工場実習」及び５年次「卒業研究」においてプレゼンテーションを行っている。

教育目標５）に関しては，情報リテラシー教育として全学科３年次まで情報処理科目を配置している。また，「卒業研究」においても情報機器を用いてデータ分析，整理等を行う指導を行っている。

教育目標６）に関しては，低学年次の「地理」「歴史」「政治経済」の社会系科目，高学年次では「国際関係論」「技術者倫理」の科目を配置している。

なお，各科目の内容と教育目標との対応はシラバスに明記している（資料５－１－①－11，12)。

資料５－１－①－１

教　育　理　念

教育理念

準学士課程（本科）５年間に亘る一貫教育を通して、ものつくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性を備え、社会に貢献できる人材を育成する。さらに専攻科では、他分野の専門的基礎をも学ぶ融合型教育を加えて、７年間に亘る一貫教育を行い、複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

教育目標

１）ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。
２）高度科学技術を中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探究し、解決できる能力を養成する。
３）実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。
４）論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。
５）情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーの向上をはかる。
６）豊かな教養と倫理感を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

教育の特色

本校では、受験競争から解放されたのびやかな雰囲気の中で、入学当初から専門分野への導入教育を行う一方、専門に偏らない広い知識と豊かな教養を身につけることに配慮したカリキュラムを実施しています。また、実験実習やクラブ活動を重視し、実践的な技術者・行動的な職業人の育成を目指しています。

卒業生への求人は多く、高専卒業後直ちに就職する者は約55％であり、専攻科への進学、大学３年生への編入学のコースを選ぶ者は約45％です。

（出典　学生便覧）

資料５－１－①－２

別表第１（第２４条関係）

教　育　課　程　表

平成22年度入学以降

一般科目（機械・電気電子・電子制御工学科）

授業科目			単位数	形態	学年別単位数					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語	8	履	3	3	2			
		日本語と文学	2	学				①	①	
	社会	技術者倫理	2	学					②	
		歴史	3	履		1	2			
		地理	2	履	2					
		政治経済	1	履		1				
		国際関係論	1	学				①		
	数学	代数	4	履	4					
		幾何	3	履	3					
		代数幾何	3	履		3				
		微積分	8	履		4	4			
	理科	物理	4	履		2	2			
		化学	4	履	2	2				
		生物	2	履	2					
	体育	保健体育	6	履	2	2	2			
		健康と科学	4	履				2	2	
	芸術		1	履		1				
	外国語	英語	11	履	3	3	3			
				学				①	①	
		英作文	4	履	2	2				
		英会話	3	履	1	1	1			
		コミュニケーション基礎	1	履			1			
		コミュニケーション	2	学				①	①	
	小計		79		24	25	17	6	7	
選択科目	地理学		2	学				②		２単位選択
	法学		2	履				2		
	経済学		2	履				2		
	哲学		2	履				2		
	歴史学		2	学				②		
	数学特論		2	履				2		
	自然科学概論		2	履				2		
	英会話		2	履				2		
	ドイツ語		2	履				2		
	中国語		2	履				2		
	ハングル語		2	履				2		
	フランス語		2	履				2		
	小計		24		0	0	0	24	0	
開設単位数計			103		24	25	17	30	7	
修得単位数計			81		24	25	17	8	7	
特別活動			3		1	1	1			

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，〇付数字は「学修単位」の単位数を表す。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－①－３

平成22年度入学以降
一般科目（物質工学科）

授業科目			単位数	形態	学年別単位数					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語	8	履	3	3	2			
		日本語と文学	2	学				①	①	
	社会	技術者倫理	2	学					②	
		歴史	3	履		1	2			
		地理	2	履	2					
		政治経済	1	履		1				
		国際関係論	1	学				①		
	数学	代数	4	履	4					
		幾何	3	履	3					
		代数幾何	3	履		3				
		微積分	8	履		4	4			
	理科	物理	4	履		2	2			
		化学	4	履	4					
		生物	2	履	2					
	体育	保健体育	6	履	2	2	2			
		健康と科学	4	履				2	2	
	芸術		1	履		1				
	外国語	英語	11	履	3	3	3			
				学				①	①	
		英作文	4	履	2	2				
		英会話	3	履	1	1	1			
		コミュニケーション基礎	1	履			1			
		コミュニケーション	2	学				①	①	
小計			79		26	23	17	6	7	
選択科目	地理学		2	学				②		２単位選択
	法学		2	履				2		
	経済学		2	履				2		
	哲学		2	履				2		
	歴史学		2	学				②		
	数学特論		2	履				2		
	自然科学概論		2	履				2		
	英会話		2	履				2		
	ドイツ語		2	履				2		
	中国語		2	履				2		
	ハングル語		2	履				2		
	フランス語		2	履				2		
小計			24		0	0	0	24	0	
開設単位数計			103		26	23	17	30	7	
修得単位数計			81		26	23	17	8	7	
特別活動			3		1	1	1			

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，〇付数字は「学修単位」の単位数を表す。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－①－４

別表第２（第２４条関係）

教　育　課　程　表

平成24年度入学以降

専門科目（機械工学科）

	授業科目	単位数	形態	学年別単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	1	履			1			
	応用数学Ⅱ	2	学				②		
	応用数学Ⅲ	1	学				①		
	一般物理	4	学				2	②	
	情報処理Ⅰ	3	履	1		2			
	材料力学	4	履			2			
			学				②		
	弾性力学	1	学					①	
	材料学	2	履		1	1			
	機械工作法	4	履		1	2			
			学				①		
	工作機械	2	学					②	
	機構学	2	学				②		
	設計法	4	履			1			
			学				②	①	
	設計製図	6	履	3	3				
	機械力学	2	学					②	
	熱力学	2	学				②		
	熱工学	2	学					②	
	流体工学	4	学				②	②	
	計測工学	2	学				②		
	電気工学	2	履			2			
	メカトロニクスⅠ	2	学				②		
	制御工学	2	学					②	
	工学通論	2	履	2					
	創作実習	1	履	1					
	機械工作実習	4	履	1	3				
	ものづくり総合実習	6	履			6			
	機械工学実験	6	学				④	②	
	卒業研究	8	履					8	
	小計	81		8	8	17	24	24	
選択科目	設計製図Ⅰ	2	学					②	
	設計製図Ⅱ	2	学					②	
	文献講読	1	学					①	
	機械工学特別演習	1	学					①	
	情報処理Ⅱ	1	学					①	
	材料力学特論	1	学					①	5年の選択科目は
	工作特論	1	学					①	5単位以上選択
	熱工学特論	1	学					①	
	流体工学特論	1	学					①	
	メカトロニクスⅡ	1	学					①	
	トライボロジ	1	学					①	
	工場実習	2	履				2		
	工業技術国際研修	1	履				1		
	社会人基礎力育成セミナー	2	履				2		
	小計	18		0	0	0	5	13	
開設単位数計		99		8	8	17	29	37	
修得単位数計		86		8	8	17	24	29	

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，〇付数字は「学修単位１」，
□付数字は「学修単位２」の単位数を表す。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－①－５

平成19年度入学以降
専門科目（電気電子工学科）

	授業科目	単位数	形態	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	応用数学Ⅰ	1	履			1			
	応用数学Ⅱ	2	学				②		
	電気数学	2	学				2		
	一般物理	2	学				②		
	工業物理概論	2	学				②		
	電気電子工学基礎	2	履	2					
	情報工学基礎演習	1	履	1					
	電気磁気学Ⅰ	3	履		1	2			
	電気磁気学Ⅱ	2	学				②		
	電気回路Ⅰ	4	履		2	2			
	電気回路Ⅱ	2	学				②		
	電気電子計測Ⅰ	1	履			1			
	電気電子計測Ⅱ	2	学				②		
	電気電子材料	2	学					②	
	電子工学	2	学					②	
	電子回路Ⅰ	1	履			1			
	電子回路Ⅱ	2	学				②		
	通信工学	2	学					2	
	デジタル回路	2	履			2			
	プログラミング	3	履		1	2			
	情報処理	2	学				2		
	情報通信ネットワーク	2	学					2	
	電子計算機応用	2	学					②	
	電気機器Ⅰ	2	履			2			
	電気機器Ⅱ	2	学				②		
	制御工学	2	学				②		
	電力工学	2	学					②	
	電気法規・施設管理	2	学					②	
	電気電子製図演習	2	履	2					
	創作実習	1	履	1					
	電気電子情報工学実験Ⅰ	6	履		3	3			
	電気電子情報工学実験Ⅱ	6	学				④	②	
	卒業研究	11	履					11	
	小計	82		6	7	16	26	27	
選択科目	高電圧工学	2	学					②	5年生は2単位以上選択
	情報工学	2	学					②	
	電気設計	2	学					②	5年生は2単位以上選択
	信号処理	2	学					②	
	無線通信概論	1	履					1	
	工場実習	2	履				2		
	工業技術国際研修	1	履				1		
	小計	12		0	0	0	3	9	
開設単位数計		94		6	7	16	29	36	
修得単位数計		86		6	7	16	26	31	

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，○付数字は「学修単位１」，
□付数字は「学修単位２」の単位数を表す。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－①－６

平成22年度入学以降
専門科目（電子制御工学科）

	授業科目	単位数	形態	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	応用数学Ⅰ	1	履			1			
	応用数学Ⅱ	2	学				②		
	応用数学Ⅲ	1	学				①		
	一般物理	4	学				②	②	
	生産加工Ⅰ	1	履	1					
	生産加工Ⅱ	1	履			1			
	工学基礎概論	2	学					②	
	図学	1	履	1					
	製図	2	履	1	1				
	情報処理	4	履	2	2				
	ディジタル回路	2	履			2			
	ソフトウェア科学Ⅰ	2	履			2			
	ソフトウェア科学Ⅱ	2	学				②		
	数値プログラミング	1	学					①	
	情報通信	2	学					②	
	ｼｽﾃﾑ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ論	2	学					②	
	基礎電気工学	2	履	2					
	電気工学	2	履		2				
	電気回路Ⅰ	2	履			2			
	電気回路Ⅱ	2	学				②		
	電気磁気学Ⅰ	2	履			2			
	電気磁気学Ⅱ	3	学				③		
	電子工学	2	学				2		
	電子回路Ⅰ	2	履			2			
	電子回路Ⅱ	2	学				②		
	通信工学	2	学				②		
	計測工学	2	学				2		
	制御工学	2	学				②		
	電子制御工学	2	学					②	
	創作実習	1	履	1					
	工学実験・実習	12	履		3	3			
			学				③	③	
	卒業研究	10	履					10	
	小計	80		8	8	15	25	24	
選択科目	ロボット工学	1	学					①	5年の選択科目は6単位以上選択
	制御工学特論	1	学					①	
	情報通信特論	2	学					②	
	知識工学	1	学					①	
	画像工学	1	学					①	
	システム工学	2	学					②	
	工場実習	2	履				2		
	工業技術国際研修	1	履				1		
	地域活動ゼミ	1	履				1		
	小計	12		0	0	0	4	8	
開設単位数計		92		8	8	15	29	32	
修得単位数計		86		8	8	15	25	30	

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，○付数字は「学修単位１」，
□付数字は「学修単位２」の単位数を表す。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－①－７

平成24年度以降入学
専門科目（物質工学科）

	授業科目	単位数	形態	学年別単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	基礎物質化学	1	履	1					
	基礎生物工学	1	履	1					
	工学基礎	1	履	1					
	基礎情報処理Ⅰ	1	履	1					
	基礎情報処理Ⅱ	1	履		1				
	情報処理Ⅰ	1	履			1			
	情報処理Ⅱ	1	学					①	
	微生物学序論	1	履		1				
	分析化学Ⅰ	1	履		1				
	分析化学Ⅱ	1	履			1			
	無機化学Ⅰ	1	履		1				
	無機化学Ⅱ	1	履			1			
	有機化学Ⅰ	1	履		1				
	有機化学Ⅱ	2	履			2			
	応用化学	1	履			1			
	応用数学Ⅰ	1	履			1			
	応用数学Ⅱ	2	学				②		
	物理化学Ⅰ	1	履			1			
	物理化学Ⅱ	2	学				②		
	物理化学Ⅲ	2	学					2	
	化学工学Ⅰ	2	履			2			
	化学工学Ⅱ	2	学				②		
	理論有機化学	2	学				②		
	機器分析	2	学				②		
	反応工学	2	学					2	
	生物化学Ⅰ	2	学				②		
	生物化学Ⅱ	2	学					②	
	一般物理	2	学				②		
	電気・電子工学概論	2	学					2	
	機械工学概論	2	学					2	
	品質管理	1	学					①	
	環境工学	1	学					①	
	文献講読	1	学					①	
	創作実習	1	履	1					
	物質化学実験１	5	履		5				
	物質化学実験２	5	履			5			
	物質化学実験３	5	学				⑤		
	物質化学実験４	2	学				②		
	卒業研究	11	履					11	
	小計	76		5	10	15	21	25	
必修科目 コース 物質	機能材料科学	1	学					①	
	無機材料学	2	学				②		
	有機材料学	2	学				②		
	材料化学実験	3	学					③	
	小計	8		0	0	0	4	4	
必修科目 コース 生物	生体触媒工学	2	学				②		
	応用微生物学	2	学				②		
	細胞・遺伝子工学	1	学					①	
	生物化学実験	3	学					③	
	小計	8		0	0	0	4	4	
共通選択科目	物質化学特論	1	学					①	
	資源化学	1	学					①	
	生物工学特論	1	学					①	5年の選択科目は
	植物工学	1	学					①	
	情報工学	1	学					①	2単位以上選択
	工場実習	2	履				2		
	工業技術国際研修	1	履				1		
	小計	8		0	0	0	3	5	
開設単位数計		92		5	10	15	28	34	
修得単位数計		86		5	10	15	25	31	

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，〇付数字は「学修単位１」，
□付数字は「学修単位２」の単位数を表す。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－①－８

平成24年度　行事予定表

ver-18

平成　24　年　1　月　19　日

週	日	曜	1　月		週	日	曜	2　月		週	日	曜	3　月	
	1	火	元旦			1	金				1	金	終業式，大掃除，HR	試験
	2	水				2	土	第4回TOEIC IPテスト			2	土	閉寮点検	
	3	木				3	日				3	日		
	4	金	冬季休業終り	全国高専大会（ラグビー）		4	月				4	月	学生臨休（7/24代休）	
	5	土				5	火				5	火	学生臨休（7/25代休）	
	6	日			38	6	水				6	水	学生臨休（7/26代休）	
	7	月	授業始め			7	木				7	木	学生臨休（11/3代休）	
	8	火				8	金	寮祭			8	金	学生臨休（12/25代休）	
34	9	水				9	土				9	土		
	10	木	学習到達度試験（数学，物理）			10	日				10	日		
	11	金				11	月	建国記念の日			11	月	学生臨休（1/7代休）	
	12	土				12	火				12	火	学生臨休	
	13	日			39	13	水				13	水	学生臨休	
	14	月	成人の日			14	木				14	木	学生臨休	
	15	火				15	金				15	金	学生臨休	
35	16	水	月曜日授業			16	土				16	土		
	17	木				17	日	図書館開放日			17	日		
	18	金				18	月				18	月	学生臨休	
	19	土				19	火				19	火	卒業式，学生臨休	
	20	日	第3回実用英検		40	20	水				20	水	春分の日	
	21	月				21	木		後学期定期試験		21	木	学年末休業始め	
	22	火				22	金				22	金		
36	23	水				23	土				23	土		
	24	木				24	日				24	日		
	25	金				25	月				25	月		
	26	土				26	火				26	火		
	27	日			41	27	水	5年試験最終日			27	水		
	28	月				28	木				28	木		
	29	火									29	金		
37	30	水									30	土		
	31	木									31	日	学年末休業終り	

1/23：交通安全講習会(3年)	卒研審査・発表会（5年）	
交通安全講習会(4，5年，専攻科生)	特別研究発表会（専攻科2年）	
数学実力テスト（1・2年）	創作実習発表会(1C)	
英語実力テスト（3年）		
数学検定		
全国高専英語プレゼンテーションコンテスト		

（出典　学生課資料）

資料５－１－①－９

（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

資料５－１－①－10

研究日誌　　平成24年4月　　前半

日	曜	研究時間帯 (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	担当教員打合せ (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	研 究 内 容
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
週 計		研究時間		打合せ時間		

日	曜	研究時間帯 (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	担当教員打合せ (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	研 究 内 容
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
週 計		研究時間		打合せ時間		

反省	学生署名
所見	指導教員　印

（出典　学生課資料）

資料５－１－①－11

化学 Chemistry	(履修単位)	**担当者：** 須 田 淳 一 郎　SUDA　Junichirou
1 MES　2 単位(必修)　前･後期 100 分／週　授業回数 30 回(60 時間)		講義室：１M・E・S　教　室

授業概要： 我々の身の回りに満ちあふれている「物質」を科学的に考察し，特に物質の構造と化学変化を理解するための基礎理論を学習する。これらの知識をもとに実験・演習を数多く経験することにより，将来必要となる化学的思考力・問題解決力を身につける。

予備知識： 中学３年までに習得した理科・数学に関する知識を整理・復習しておくこと。

授業項目	授業内容
[前期] 1.物質の構成 1.1物質とその成分 1.2純物質と混合物	(１週)化学的なものの見方，元素，単体，化合物，同素体 (２週)純物質，混合物，原子，主な元素の元素名と元素記号 (３週)原子核,陽子,中性子,電子,原子番号,原子の構造と同位体
２．物質の構成粒子 2.1原子 2.2イオン 2.3元素の周期律 2.4分子 2.5分子や原子からなる物質	(４週)電子殻，閉殻，価電子，原子の電子配置 (５週)イオンの生成，イオン式，多原子イオン，イオン結合 (６週)イオン化エネルギー，イオン結合性物質の組成式 (７週)電気的中性の原理，周期律と周期表の構造 (８週)前期中間試験 (９週)共有結合，共有電子対，不対電子 (10週)非共有電子対，主な分子の電子式と構造式 (11週)化学の基礎法則 (12週)配位結合，極性 (13週)電気陰性度，水素結合，金属結合 (14週)体心立方格子,面心立方格子,六方最密充てん構造 (15週)化学結合の分類，原子量 **前期期末試験**
[後期] ３．粒子の相対質量と物質量 3.1原子量・分子量・式量 3.2物質量 3.3化学反応式と物質量	(16週)分子量・式量，molの考え方 (17週)物質量とアボガドロ定数,気体分子１molの体積 (18週)molに関する演習 (19週)化学変化と物理変化,化学反応式のつくり方,係数の意味
４．物質の三態 4.1拡散と粒子の熱運動 4.2三態の変化 4.3物質の融点・沸点などの性質	(20週)係数決定法(計算法，直観法)演習 (21週)化学反応式が表す量的関係(Ⅰ) (22週)化学反応式が表す量的関係(Ⅱ) (23週)後期中間試験 (24週)拡散と粒子の熱運動
５．気体 5.1気体の体積 5.2ボイル・シャルルの法則 5.3混合気体の圧力 5.4実在気体	(25週)分子間力，気液平衡 (26週)飽和蒸気圧，沸騰 (27週)気体とは何か，気体の三要素，ボイルの法則 (28週)シャルルの法則と絶対温度 (29週)ボイル・シャルルの法則，気体の状態方程式 (30週)ドルトンの分圧の法則，実在気体 **後期期末試験**

到達目標： 物質の構造および化学結合力を正しく理解し，説明することができる。mol概念，化学反応式，化学量論および気体の法則を正しく理解し，これらを問題解決のために使うことができる。

評価方法： 中間・期末試験(４回)を８０％，演習，レポート，小テストを２０％で評価し，６０点以上を合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標:1),2),3)	JABEE対応学習教育目標：　A-1
JABEE基準１(１)：　c	

教科書： 高等学校 化学Ⅰ，化学Ⅱ(数研出版)

参考書、補助教材等： ビジュアルワイド図説化学(東京書籍)，化学Ⅰ及び化学Ⅱの基礎徹底(啓林館)，実験プリント，小テストプリント

授業形式： 講義と演習,学生実験(すべて同一テーマ一斉実験,年間６テーマ),適宜,教師実験も行う。
学生が用意するもの：

自己学習の指針 授業の前日までに教科書を熟読し，疑問点などをノートしておく。教科書の問，練習問題などを自力で解いて完全に理解しておく。また、ドリル（化学Ⅰ及び化学Ⅱの基礎徹底(啓林館)）および小テストプリントなどを予習し、解説終了後、更に復習すること。

オフィスアワー 月，水．　15:00～17:00

備　　考：

（出典　平成 25 年度シラバス）

資料５－１－①－12

物理 Physics	（履修単位）	**担当者：** 森　保 仁　MORI　Yasuhito	
2 MC　2 単位（必 修）　前･後期 100 分／週　授業回数 30 回（ 60 時間）		講義室： 物理実験室	
授業概要： 自然界の「なぜ？」を解き明かすために必要な「科学的に考える力」を身に付けるため、主に「力学」に関する講義および講義実験を中心に授業を展開する。さらに自然界に成り立つ物理法則を学生実験を通して実感することにより、科学的自然観を育てる。			
予備知識： 中学校で学習した理科（特に第一分野）の内容			

授業項目	授業内容
[前期] 講義プリントを用い、講義実験を随所に取り入れた授業を行う。 １．運動の表し方 (1)直線運動の速度 (2)直線運動の加速度 (3)落体の運動 ２．運動の法則 (1)いろいろな力 (2)力のつり合い (3)運動の法則 (4)摩擦や空気抵抗を受ける運動	(１週)物理とは何か、等速直線運動 (２週)平均の速さ、瞬間の速さ、変位と速度 (３週)速度の合成・分解、相対速度とは何か (４週)加速度とは何か、瞬間の加速度、等加速度直線運動 (５週)負の加速度、自由落下 (６週)鉛直投げ上げ、鉛直投げ下ろし、水平投射 (７週)斜方投射（モンキーハンティング）、演習 (８週)＜前期中間試験＞ (９週)テスト返却、力とは何か (10週)いろいろな力（重力、垂直抗力、張力、弾性力、圧力、浮力） (11週)力の合成・分解、力のつり合い (12週)作用・反作用の法則、慣性の法則 (13週)運動の法則、運動方程式 (14週)質量と重さ、静止摩擦力、動摩擦力 (15週)空気抵抗、演習 **前期期末試験**
[後期] ３．学生実験［Ⅰ］ ４．仕事と力学的エネルギー (1)仕事 (2)運動エネルギー (3)位置エネルギー (4)力学的エネルギーの保存 ５．運動量の保存 (1)運動量と力積 (2)運動量の保存 (3)反発係数 ６．円運動 (1)等速円運動 (2)単振動 ７．学生実験［Ⅱ］	(16週)テスト返却、仕事とは何か (17週)学生実験［Ⅰ］ (18週)学生実験［Ⅰ］、仕事の原理、仕事率 (19週)運動エネルギー、位置エネルギー (20週)弾性エネルギー、保存力 (21週)力学的エネルギー保存の法則、縦向きばねの問題 (22週)力学的エネルギーが保存されない時の問題、演習 (23週)＜後期中間試験＞ (24週)テスト返却、運動量とは何か、運動量と力積 (25週)運動量保存の法則（正面衝突、斜め衝突） (26週)反発係数（正面衝突、斜め衝突） (27週)等速円運動、単振動 (28週)学生実験［Ⅱ］ (29週)学生実験［Ⅱ］、単振り子 (30週)ばね振り子、演習 **後期期末試験**

到達目標： 全ての自然現象の基礎にある物理法則、特にその中心にある「力学の法則」（等速直線運動、等加速度直線運動、力のつり合い、運動方程式、力学的エネルギー保存則、運動量保存則、等速円運動、単振動など）に関する基本的なものの見方や考え方が出来る。	
評価方法： 定期試験は、テスト（75～95%）、実験レポート・宿題（25～5%）の割合で評価し、60点以上を合格とする。追試験は、定期テストの素点が60点未満の学生を対象として行う。 **評価基準**	
佐世保高専教育目標：1),2),3)	**JABEE対応学習教育目標：** A-1
JABEE基準１（１）： c	
教科書： 「高等学校物理　力学の総合学習」（数研出版）	
参考書、補助教材等： 講義プリント、 センサー「総合物理」（啓林館）	
授業形式： 講義、講義実験（ストロボカメラ、自作の実験装置などを使用）、学生実験 **学生が用意するもの：** 電卓、定規、色付きのペン	
自己学習の指針 問題集や授業時間に渡した演習プリントを自習ノートにすること。	
オフィスアワー 月曜日16:00～18:00、金曜日16:00～18:00	
備　考：	

（出典　平成 25 年度シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

授業科目は，各目標に対応するように学年ごとに配置されている。教育課程は，くさび形カリキュラムとして体系的に編成している。また，授業科目の内容は，教育課程の編成趣旨に沿って，教育目標への到達が可能となるよう適切なものとなっている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズ，学術の発展の動向等に迅速に対応するために，他の高等教育機関における授業科目の履修における単位認定制度を設けている（資料５－１－②－１）。

また，学生の職業意識の向上並びに職業適性等を考えさせる目的で，４年次に「工場実習（インターンシップ)」を実施している（資料５－１－②－２，３）。

さらに，平成17年より実施した現代ＧＰにおいて，グローバル化に対応すべく中国の廈門理工学院との交流を通じて，世界的な問題に対して協力して解決することができる技術者を養成する機会を整えていた（資料５－１－②－４）。現在ではこれに加え，大学教育推進プログラムにより，中国，スウェーデン，韓国の大学と国際学術交流協定を結んでいる（資料５－１－②－５）。また，平成19年度より実施した現代ＧＰにおいて，学生が自律的にキャリアデザインできる能力を身につけるProblem Based Learning(PBL)を柱とするキャリア教育システムにも取り組んでいた（資料５－１－②－６）。その後キャリア教育支援室を設立し，学生のキャリアデザイン活動をサポートしている。

学生の要望や社会の要求を汲み上げるために各種活動（観点６－１－④，⑤，７－１－③参照）を行っており，それを自己点検や外部評価に反映させるシステムを構築し（資料５－１－②－７），カリキュラム等の教育の改善に反映している（資料５－１－②－８～10)。

観点５－１－②資料一覧

（資料５－１－②－１）	学則　第 25 条	出典：教員必携
（資料５－１－②－２）	学習心得	出典：学生便覧
（資料５－１－②－３）	平成 24 年度工場実習先一覧	出典：学生課資料
（資料５－１－②－４）	「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」成果報告書	出典：成果報告書
（資料５－１－②－５）	「国際的協業による実践的若年技術者の育成」成果報告書	出典：成果報告書
（資料５－１－②－６）	「ＰＢＬを柱としたキャリア教育システム構築」最終報告書	出典：最終報告書
（資料５－１－②－７）	教育点検システムの構成	出典：本校ウェブサイト
（資料５－１－②－８）	教育システム点検・改善委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料５－１－②－９）	自己点検・評価委員会規則	出典：佐世保高専規程集
（資料５－１－②－10）	外部評価実施要項	出典：佐世保高専規程集

資料５－１－②－１

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

第６章　教育課程等

（他の高等専門学校における授業科目の履修）

第２５条　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を，３０単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　　前項に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（高等専門学校以外の教育施設等における学修等）

第２５条の２　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

２　　前項により認定することができる単位数は，前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。

３　　第１項の規定は，第３２条に定める留学をする場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は３０単位を超えないものとする。

４　　第１項に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－１－②－２

３）学　習　心　得

中略

７　工場実習

本校では，原則として第４学年の夏休み中に、工場、研究所等で２～３週間の実習を行うことを推奨している。詳細は「工場実習の実施要項」に記す。

（出典　学生便覧　抜粋）

資料５－１－②－３

平成24年度工場実習（インターンシップ）先一覧

機械工学科

会社名
JXエンジニアリング株式会社
日本精工株式会社　埼玉工場
住友精化株式会社　別府工場
村田機械株式会社
大阪サニタリー金属工業協同組合
武田薬品工業株式会社
東レエンジニアリング株式会社
キヤノン株式会社
株式会社　大島造船所
株式会社　森精機製作所　伊賀事業所
株式会社　ディスコ　広島事業所
サントリープロダクツ株式会社
JX日鉱日石金属株式会社　佐賀関製錬所
高砂工業株式会社　伊万里工場
サントリープロダクツ株式会社
千代田化工建設株式会社
京セラ株式会社　鹿児島国分工場
極東石油工業合同会社　千葉製油所
湯川王冠株式会社
MHIプラントエンジニアリング株式会社
株式会社　佐賀鉄工所大町工場
日本ピソー株式会社　長崎事業所
株式会社　日立国際電気
新興プランテック株式会社
株式会社　カシフジ
株式会社　三松
株式会社　エム・システム技研
新日本製鐵株式会社　広畑製鉄所
株式会社　牧野フライス製作所
株式会社　ワイビーエム
ミヤマ精工株式会社
株式会社　クレオ
JFEスチール株式会社　西日本製鉄所
三菱自動車工業株式会社　水島製作所
日鐵プラント設計株式会社

電気電子工学科

会社名
伊万里市浄化センター
佐世保重工業（**長期インターンシップ**）
キヤノン株式会社
東京エレクトロンFE株式会社
JFEスチール株式会社　西日本製鉄所
株式会社　三松
株式会社　九州テン
日東電工株式会社　尾道事業所
西部ガス株式会社　佐世保支店
国精工業株式会社　多摩川工場
富士通株式会社
メタウォーター株式会社
湯川王冠株式会社
中央電子工業株式会社
全日本空輸株式会社
株式会社　大島造船所
東洋鋼鈑株式会社
花王株式会社　鹿島工場
矢崎部品株式会社
大阪ガス株式会社
国際通信企画株式会社
ユニチカ株式会社　岡崎事業所
伸和コントロールズ株式会社
NHK長崎放送局
フロイント産業株式会社　浜松事業所
三菱重工業株式会社
東燃ゼネラル石油株式会社　和歌山工場
中外製薬工業株式会社
中部電力株式会社
株式会社　名村造船所
富士電機株式会社
株式会社　カシフジ
株式会社　MHIコントロールシステムズ
セイコーエプソン株式会社
NHK長崎放送局
株式会社　日本触媒　姫路製造所
株式会社　富士通九州システムズ
三洋化成工業株式会社　名古屋工場

電子制御工学科

会社名
株式会社　九州テン
富士通株式会社
長菱ソフトウェア株式会社
株式会社　佐賀新聞社
KDDIエンジニアリング株式会社
NHK長崎放送局
京セラ株式会社　鹿児島川内工場
中部電力株式会社
メタウォーター株式会社　日野事業所
株式会社　トヨタプロダクションエンジニアリング
宇部興産株式会社
富士通株式会社
佐賀県茶業試験場
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
NHK長崎放送局
神鋼テクノ株式会社
株式会社　日本ビジネスソフト
総合研究大学院大学　物理科学研究科　核融合科学専攻
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
株式会社　三松
ジェイ・アール・シー特機株式会社
西部ガス株式会社　佐世保支店
富士通株式会社
株式会社　日本理工医学研究所
富士通株式会社
花王株式会社　鹿島工場
日信電子サービス株式会社
シーティーシー・テクノロジー株式会社
株式会社　ディスコ　広島事業所
富士通株式会社
株式会社　日本ビジネスソフト
富士通株式会社
ジェイ・アール・シー特機株式会社
富士通株式会社
住友電装株式会社
伊万里市浄化センター
九州旅客鉄道株式会社
ダイソー株式会社　尼崎工場
西日本プラント工業株式会社
佐賀県茶業試験場
日東電工株式会社　尾道事業所
ダイキン工業株式会社　滋賀製作所
JX日鉱日石金属株式会社　佐賀関製錬所
東燃ゼネラル石油株式会社　和歌山工場
九州電力株式会社　大分支社
株式会社　MHIコントロールシステムズ
矢崎部品株式会社

物質工学科

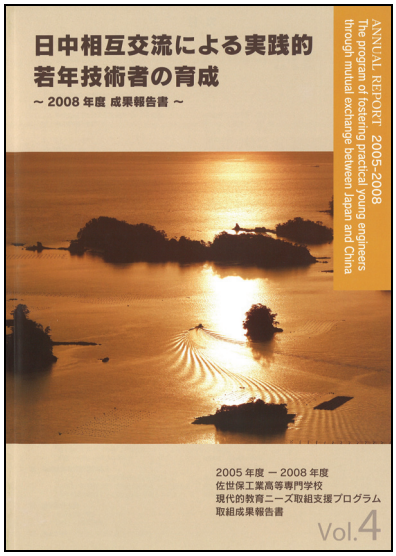
会社名
武田薬品工業株式会社
株式会社　三松
佐賀県茶業試験場
大塚製薬株式会社　佐賀工場
長崎県窯業技術センター
株式会社　ミルボン　ゆめが丘工場
旭化成ケミカルズ株式会社　愛宕事業場
佐世保市保健所
長崎県農林技術開発センター
佐世保市水道局
株式会社　日本触媒　姫路製造所
富士通株式会社
ダイキン工業株式会社
佐世保市保健所
中興化成工業株式会社　松浦工場
花王株式会社　和歌山工場
タカハタプレシジョンジャパン株式会社
住友化学株式会社
極東石油工業合同会社　千葉製油所
佐賀県茶業試験場
東レ株式会社
住友精化株式会社　別府工場
株式会社　微研テクノス
JNC株式会社　水俣製造所
MHIプラントエンジニアリング株式会社
佐賀県茶業試験場
西部ガス株式会社　佐世保支店
佐世保市水道局
株式会社　日本理工医学研究所
佐賀県茶業試験場
富士通株式会社
株式会社　カネカ　高砂工業所
アリアケジャパン株式会社
大日精化工業株式会社東京製造事業所
長崎県窯業技術センター
東ソー株式会社　南陽事業所
三洋化成工業株式会社　京都工場
佐世保市水道局
佐世保市水道局

（出典　学生課資料）

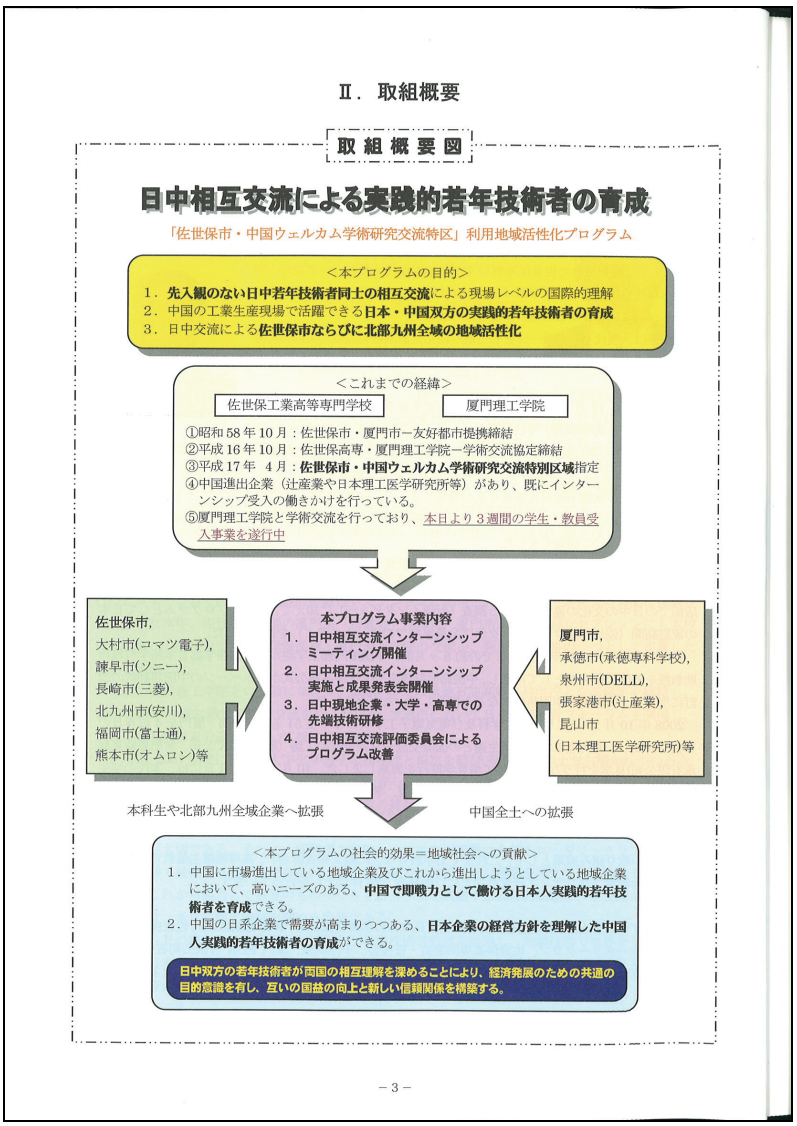
資料５－１－②－４

現代 GP「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」成果報告書

（表紙）



（取組概要）



Ⅱ．取組概要

取組概要図

日中相互交流による実践的若年技術者の育成

「佐世保市・中国ウェルカム学術研究交流特区」利用地域活性化プログラム

＜本プログラムの目的＞
1．先入観のない日中若年技術者同士の相互交流による現場レベルの国際的理解
2．中国の工業生産現場で活躍できる日本・中国双方の実践的若年技術者の育成
3．日中交流による佐世保市ならびに北部九州全域の地域活性化

＜これまでの経緯＞
佐世保工業高等専門学校　厦門理工学院
①昭和 58 年 10 月：佐世保市・厦門市－友好都市提携締結
②平成 16 年 10 月：佐世保高専・厦門理工学院－学術交流協定締結
③平成 17 年 4 月：佐世保市・中国ウェルカム学術研究交流特別区域指定
④中国進出企業（辻産業や日本理工医学研究所等）があり、既にインターンシップ受入の働きかけを行っている。
⑤厦門理工学院と学術交流を行っており、本日より３週間の学生・教員受入事業を遂行中

佐世保市,
大村市(コマツ電子),
諫早市(ソニー),
長崎市(三菱),
北九州市(安川),
福岡市(富士通),
熊本市(オムロン)等

本プログラム事業内容
1．日中相互交流インターンシップミーティング開催
2．日中相互交流インターンシップ実施と成果発表会開催
3．日中現地企業・大学・高専での先端技術研修
4．日中相互交流評価委員会によるプログラム改善

厦門市,
承徳市(承徳専科学校),
泉州市(DELL),
張家港市(辻産業),
昆山市
(日本理工医学研究所)等

本科生や北部九州全域企業へ拡張
中国全土への拡張

＜本プログラムの社会的効果＝地域社会への貢献＞
1．中国に市場進出している地域企業及びこれから進出しようとしている地域企業において、高いニーズのある、中国で即戦力として働ける日本人実践的若年技術者を育成できる。
2．中国の日系企業で需要が高まりつつある、日本企業の経営方針を理解した中国人実践的若年技術者の育成ができる。

日中双方の若年技術者が両国の相互理解を深めることにより、経済発展のための共通の目的意識を有し、互いの国益の向上と新しい信頼関係を構築する。

－3－

（出典　「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」　成果報告書）

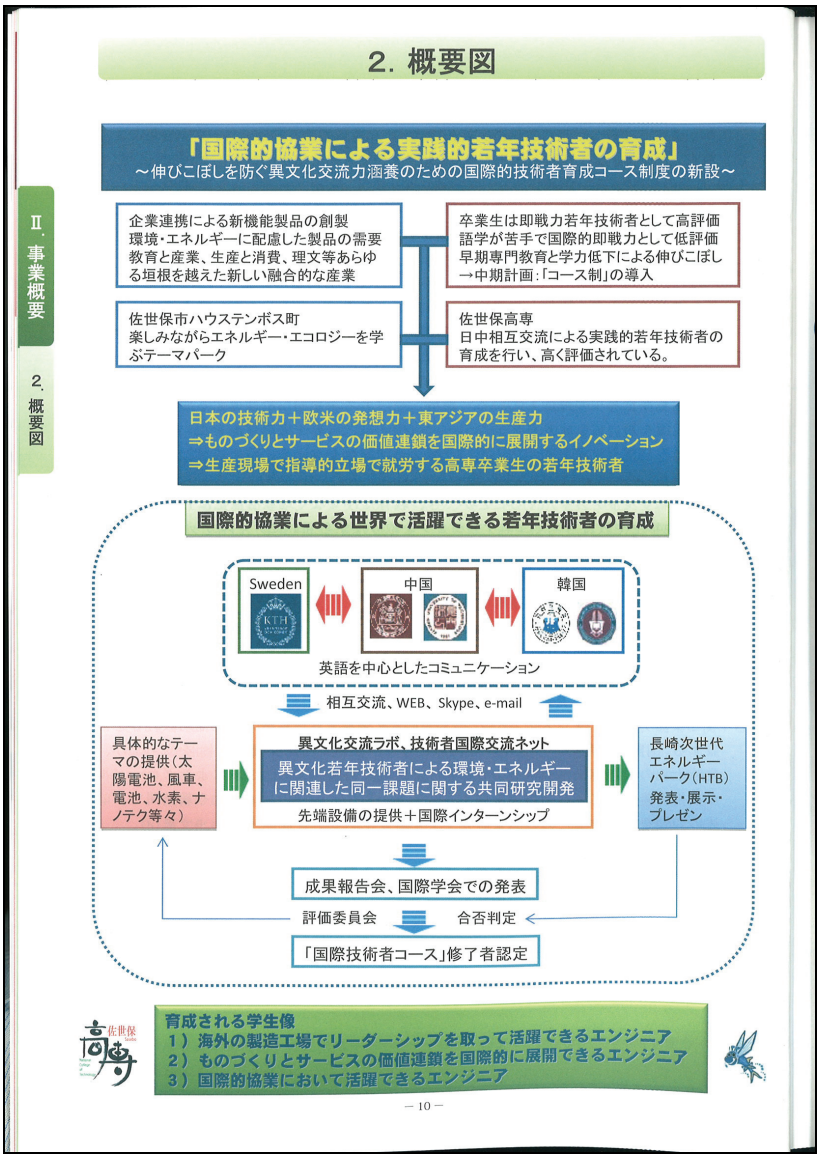
資料５－１－②－５

大学教育・学生支援推進事業【テーマＡ】大学教育推進プログラム
「国際的協業による実践的若年技術者の育成」成果報告書

（表紙）



（取組み概要）

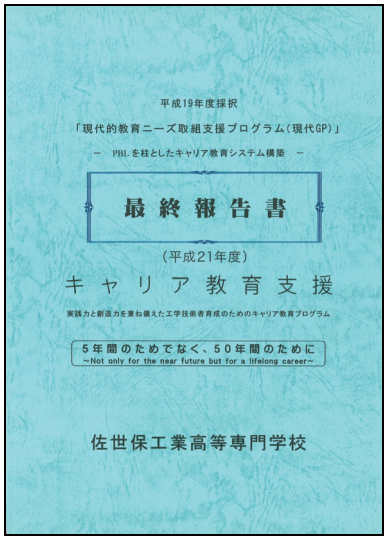


（出典　「国際的協業による実践的若年技術者の育成」　成果報告書）

資料５－１－②－６

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）
「ＰＢＬを柱としたキャリア教育システム構築」最終報告書

（表紙）



（取組内容）

H19年度　現代的教育ニーズ取組支援プログラムの取組事例

取組名称：ＰＢＬを柱としたキャリア教育システム構築
大学名　：佐世保工業高等専門学校

○ **取組概要**

一般に、高専出身者は、専門知識の豊富さと勤務態度について高い評価を受けているが、主体姓の無さや実践的なものに対する応用力不足などが指摘されている。そのために以下のような「PBL教育」を主体とした実践教育を実施した。

● 取組の内容・ポイント





1. 外部教育力の導入
   - ● 講演会
   - ● 先輩たちの講話
   - ● 企業説明会
2. 内部教育力の充実
   - ● 教務･学生主事室
   - ● ロングホームルームの活用
   - ● 進路情報冊子
   - ● 本校12年間の就職進学データ
   - ● 教育方法プロジェクトによる高専生の気質についての調査
   - ● キャリアデータベースの構築
3. PBL教育
   - ● 2年生　リサーチワーク
   - ● 3年生　プレジョブハンティング
4. 教員が学生に目を向ける時間の確保
   - ● 出欠管理システム
   - ● 成績管理システムの構築



● 取組の成果

1. 低学年工場見学･就職説明会など企業を含めた外部の評価が高く、また学生のキャリア形成に大きく効果があった。
2. 出席管理･進路情報など21年度から本格運用し目的を達成した。
3. 進路情報冊子「キャリアデザインへの第一歩」は、全国高専や大学など問い合わせが殺到、多くの学校に配布した。

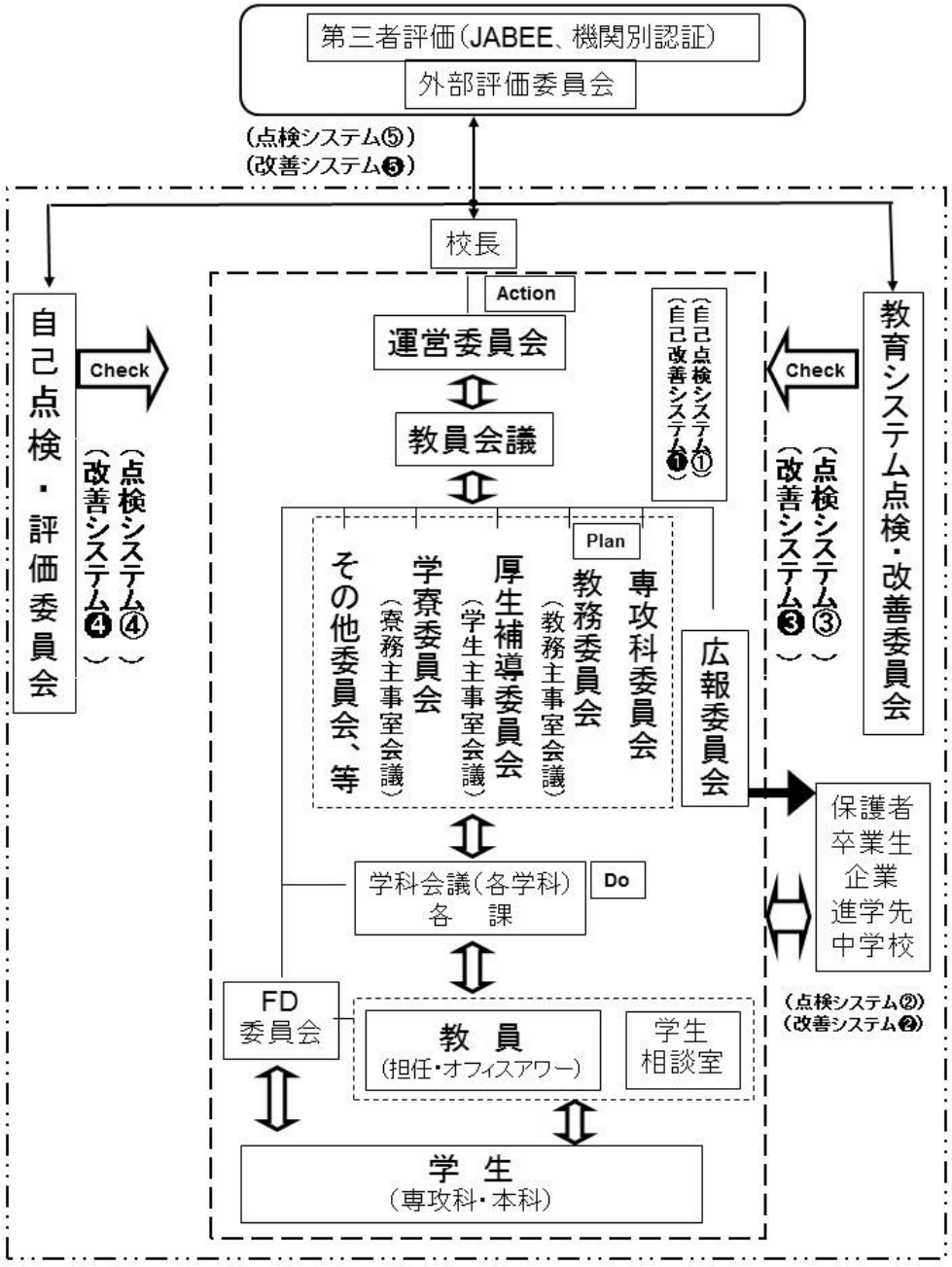
● 学内外からの評価

毎年実施された「外部評価委員会」の評価は、すべて4.5点以上（5点満点）であり、この取組は内外ともに大きく評価された。

（出典　「ＰＢＬを柱としたキャリア教育システム構築」　最終報告書）

資料５－１－②－７

教育点検システムの構成



（出典　本校ウェブサイト）

資料５－１－②－８

佐世保工業高等専門学校教育システム点検・改善委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条 佐世保工業高等専門学校（以下｢本校｣という。）に、本校の「教育システム」を点検し、継続的改善を実行するために必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校教育システム点検・改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本校の教育システムの問題点及びその解決方法の調査・研究に関すること。
二　調査・研究結果を基に「教育システム」の改善を図ること及びそのための留意事項の周知・徹底に関すること。
三　外部審査等の受審に向け、関係資料の整備及びそれを裏付けるための資料の収集に関すること。
四　その他、教育プログラム改善及びＪＡＢＥＥ認定審査に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　校長が指名する教員　若干人
二　専攻科長
三　教務主事
四　総務課長
五　学生課長
２　前項第１号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　第１項第１号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、委員のうちから校長が指名した者をもって充てる。
２　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第７条　委員会の事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。
附　則
この規程は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料５－１－②－９

佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第１条の２の規定に基づき、本校における教育研究活動等の状況と今後の展望に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　自己点検・評価の実施方法等に関すること。
二　自己点検・評価項目の設定に関すること。
三　自己点検・評価の実施報告書の編集に関すること。
四　その他自己点検・評価に関すること。
五　外部評価に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　教務主事、学生主事及び寮務主事
二　専攻科長
三　校長が指名する者
四　総務課長及び学生課長
２　前項第３号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　第１項第３号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、委員のうちから校長が指名する者をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（専門委員会）
第７条　委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関する必要な事項は、委員会が別に定める。
（事務）
第８条　委員会の事務は、総務課において処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。
附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料５－１－②－10

佐世保工業高等専門学校外部評価実施要項

（平成１６年４月１日制定）

（目的）
第１　この要項は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動等の状況に係る自己点検及び評価の結果等について、外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、教育研究体制等の改善に資することを目的とする。
（設置）
第２　本校に、佐世保工業高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（評価事項）
第３　委員会は、次の各号に掲げる事項を評価する。
一　教育理念及び教育目標に関すること。
二　教育活動に関すること。
三　学生生活に関すること。
四　研究活動に関すること。
五　地域社会及び産業との連携に関すること。
六　その他学校の管理運営に関すること。
（組織）
第４　委員会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した委員をもって組織する。
一　大学、高等専門学校等高等教育機関の教員等及び経験者
二　本校の所在する地域の教育関係者
三　地方自治体の関係者
四　地域産業界の関係者
五　報道機関の有識者
六　本校卒業生の代表者
七　その他校長が必要と認める者
（委員長）
第５　委員会の委員長は、委員の互選により選出する。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（実施方法）
第６　外部評価は、次の各号に掲げる事項により実施する。
二　本校の自己点検・評価報告書及び資料による調査
三　本校で実施するヒアリング、実地調査等
（報告）
第７　委員会は、評価の結果を校長に報告する。
（改善）
第８　校長は、外部評価に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。
（報告書の公開）
第９　自己点検・評価委員会は、報告書を作成し、公開するものとする。
（事務）
第１０　委員会の事務は、総務課において処理する。
附　則
この要項は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この要項は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

学術の発展の動向等に迅速に対応するため他の高等教育機関等における単位互換制度を設けている。また，学生の職業意識の向上並びに職業適性の判断材料として，工場実習を実施・活用している。さらに，本校独自の活動として，世界的な問題に対する解決を図るための能力を養成するプログラム，将来のキャリアをデザインする能力を養成するプログラムを実施している。また,各種活動を実施し，教育改善に反映するシステムを構築している。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

５年間一貫教育を通して，教育理念に沿って低学年次から一般科目だけでなく専門科目教育を行っている。また，実践的な力を育成するために，各学科専門の実験並びに実験結果等を処理する目的で用いられる情報処理の講義，演習を低学年から行っている。高学年では，高度で専門的な内容及び実践力等の育成を図る実験・実習科目を配置している。演習・実験・実習科目の単位数割合は，一般科目17%，機械工学科46%，電気電子工学科37%，電子制御工学科37%，物質工学科43%であり，講義における教育内容を定着させるために適切なものとなっている（資料５－１－①－２～７参照)。

適切な学習指導方法の工夫に関し，教育目標１）３）については全学科１年生に対し「創作実習」を実施している。「創作実習」は，もの作りに関する好奇心を持ち，その楽しさを体験し，もの作りの過程で探究心を身につけることを目的とした科目である（観点５－２－③参照)。また，教育目標２）３）５）に関しては，全学科で開講している情報処理の講義・演習，並びに機械工学科「設計製図」，電子制御工学科「製図」の授業科目を情報処理センター第１演習室・CAD室で行うことで，各自のペースで演習できるように配慮している（資料５－２－①－１～３)。教育目標４）６）については「英会話」の授業科目を，LL教室にて，外国語の映像と音声による情報を活かした授業を行うことで，実践的な英語を体感できるようにしている（資料５－２－①－４)。「工場実習」「卒業研究」において発表を行うことで，教育目標４）に掲げられたプレゼンテーション能力の涵養を図っている（資料５－２－①－５)。

観点５－２－①資料一覧

（資料５－２－①－１）	情報工学基礎演習シラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－①－２）	設計製図シラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－①－３）	製図シラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－①－４）	英会話シラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－①－５）	卒研審査会・発表会について	出典：電気電子工学科資料

資料５－２－①－１

情報工学基礎演習 (履修単位) Fundamental Tutorial in Information Engineering	担当者：高比良 秀彰 TAKAHIRA HIDEAKI 下尾 浩正 SHIMOO KOUSEI
１Ｅ　１単位（必修）　前期 100 分／週　授業回数 15 回（ 30 時間）	講義室：情報処理センター第１演習室

授業概要：ＩＴリテラシーを中核に情報処理、コンピュータ操作法、タイピング技能について、実際にパソコンにふれながら学習する。

予備知識：

授業項目	授業内容
[前期] 情報リテラシー 　ハードウェア について 　ソフトウェア について 　インターネットの仕組み 　メールの使用法 　ＷＥＢ利用技術 　セキュリティー について アプリケーション実習 　ワープロ 　表計算 　エディタ 　他 タッチタイプ練習 プログラミングの基礎	(１週)ガイダンスおよび佐世保高専コンピューティング環境の説明 (２週)ネットワークとＩＴ倫理 (３週)ＣＵＩとＧＵＩ、コマンドオペレーション (４週)電子メールの仕組みと使い方（マナー他） (５週)テキストファイルとエディタの使用法 (６週)ワードプロセッサ (７週)ワードプロセッサ (８週)表計算ソフト (９週)プレゼンテーションソフト (10週)タイピング練習（１） (11週)タイピング練習（２） (12週)タイピング練習（３） (13週)タイピング練習（４） (14週)コンピュータの仕組み（ハードウェア、ＯＳ、データ表現他） (15週)情報技術の活用 **前期期末試験**

到達目標：パソコン程度のコンピュータシステムおよび実務用アプリケーションを、通常実務に支障ないレベルで使用できる。また、インターネットやインターネット応用技術について概要を理解し、おおよそ説明できる。さらにプログラミングに関する基本的な知識について説明ができる。

評価方法：演習レポートの評価を５０％、演習中の実技および態度（基準は別途定め提示する）を２０％、タイピング能力を３０％とし、１００点満点中６０点以上で合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標：1), 2), 5)	JABEE対応学習教育目標：D-1, E-2
JABEE基準１（１）：d-2b, h	

教科書：

参考書、補助教材等：適宜資料を配付する。

授業形式：講義・演習
学生が用意するもの：ノート、レポート用紙、USBメモリー

自己学習の指針

オフィスアワー 火曜と木曜の１６：００～１７：００。ただし、会議等により応じられない場合もある。

備　考：この科目は電気主任技術者免状交付申請に必要な授業科目である。

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－①－２

設計製図 Machine Design and Drawing	(履修単位)	**担当者：** 西 村　睦 郎　NISHIMURA　Mutsuo
２Ｍ　３ 単位（必修）	前･後期 150 分／週　授業回数 30 回（ 90 時間）	講義室：２Ｍ教室，製図室，ＣＡＤ室

授業概要：機械要素の用途・規格・製図法を理解し，実技を通してそれらの製作図を描けるようにする

予備知識：１学年の設計製図全般の知識.

授業項目	授業内容
[前期] 機械要素の製図 １．スケッチ ２．ねじ ３．軸と軸継手 ４．軸受 ５．歯車	(１週)道具を用いてスケッチができる (２週)ねじの用途，特徴，種類，製図法を理解し，製図できる (３週)ねじの表記の仕方，図示の仕方を理解し，ねじを製図できる (４週)ねじ部品の規格・図示法を理解し，ねじ部品を製図できる (５週)ねじ部品の規格・図示法を理解し，ねじ部品を製図できる (６週)ねじ穴，座，座金について理解し，製図できる (７週)軸およびキー・ピンの種類，特徴，規格を理解し，製図できる (８週)中間試験 (９週)軸継手の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (10週)軸継手の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (11週)軸受の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (12週)軸受の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (13週)歯車の使用目的，種類，特徴を理解し，製図できる (14週)モジュールを用いて歯車の各部寸法を計算できる (15週)各種歯車の要目表，製図法を理解し，図面に表記できる **前期期末試験**
[後期] ６．Ｖプーリ・スプロケット ７．ばね ８．溶接継手 ９．管・管継手・バルブ	(16週)平歯車の規格を理解し，製図できる (17週)ベルト・プーリの種類，特徴，規格を理解し，製図できる (18週)チェーン・スプロケットの種類，特徴，規格を理解し，製図できる (19週)チェーン・スプロケットの種類，特徴，規格を理解し，製図できる (20週)ばねの用途，種類，特徴，規格を理解し，製図できる (21週)ばねの用途，種類，特徴，規格を理解し，製図できる (22週)リベット・リベット継手の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (23週)中間試験 (24週)溶接継手の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (25週)溶接継手の種類，特徴，規格を理解し，製図できる (26週)管・管継手・バルブの種類，特徴，規格を理解し，製図できる (27週)CADによる製図 (28週)CADによる製図、ＣＡＤ検定演習 (29週)CADによる製図、ＣＡＤ検定演習 (30週)CADによる製図、ＣＡＤ検定演習 **後期期末試験**

到達目標：機械製図を理解し，体得し，実践できるようにする．正確に，迅速に，そして明瞭に機械要素の製作図を作成できる能力を養う．

評価方法：　試験と実技の両方で総合評価する．ただし，実技の課題はすべて提出しなければならない．未提出の場合は原則として不合格．
評価基準

佐世保高専教育目標：1),2)	**JABEE対応学習教育目標**：　A-4
JABEE基準１（１）：　d-2a,e	

教科書：　機械製図（検定　実教出版）：1年次購入

参考書、補助教材等：実技課題プリント

授業形式：　講義1時間（教室）実技2時間（製図室）実技後期からＣＡＤソフトを用いた製図を行う。
学生が用意するもの：教科書，ノート，製図用具

自己学習の指針：

オフィスアワー　オフィスアワー　火：１６～１７時　＆　木：１６～１７時

備　　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－①－３

製図 Electrical Engineering Drawing	(履修単位)	**担当者：** 前 田　貴 信　MAEDA　Takanobu
２Ｓ　１ 単位（必 修）	前期 100 分／週　授業回数 15 回（ 30 時間）	講義室：２Ｓ教室、製図室、ＣＡＤ室

授業概要： 製図に関する規格と基礎的な知識を習得し、電子機器の製作図を正しく製図し、かつ、読図することのできる能力を養う。さらに、３次元CADの使い方を習得しての製図手法の基礎を身につける。

予備知識： １学年・後期の製図の内容、およびパソコンおよびＯＳの基礎知識

授業項目	授業内容
[前期] ５．機械要素 ①ねじ ②ボルト・ナット ③穴および軸 ④スケッチ ６．電子機器用部品 ①定格の表示 ②抵抗 ③コンデンサ・コイル ７．製図（ドラフター） ①電気用図記号 ②陸式ターミナル（スケッチ） ８．ＣＡＤによる製図 ①ＣＡＤによる図面のかき方 ②ＣＡＤシステム利用の基礎	(１週)シラバスの説明、製図（１年）の復習 (２週)図面の作り方と能率化、練習ノート（図面の描き方） (３週)機械要素（ねじ・ボルト・ナット）、練習ノート（ねじ製図） (４週)機械要素（ねじ・ボルト・ナット）、製図例７（その１） (５週)機械要素（ねじ・ボルト・ナット）、製図例７（その２） (６週)機械要素（ねじ・ボルト・ナット）、製図例７（その３） (７週)電気・電子に関する規格、練習ノート（電気用図記号） (８週)電子機器の設計例、練習ノート（電子製図例） (９週)製図に関する総合演習 (10週)CADによる製図、３次元CADの基本操作方法１（１年図学の復習） (11週)３次元CADの基本操作方法２（例：エンジン・ピストン） (12週)３次元CADの基本操作方法３（例：エンジン・ピストン） (13週)３次元CADによる設計・その１（自由課題） (14週)３次元CADによる設計・その２ (15週)３次元CADによる設計・その３ **前期期末試験**

到達目標： １学年の後期に習得した基本的な製図法を応用して、機械要素の基本的なものの製作図およびスケッチ方法を修得すること。
また、CADシステムの概要、３次元CADによる設計図作成方法の基礎を学習し、CADシステムによる設計・製図ができること。

評価方法： 提出作品の点数の平均点を90%、および平常の忘れ物・授業態度による評価を10%とし、60点以上を合格とする。
評価基準 注意！　提出課題は提出率が6割を切る場合、59点以下の評点とする。

佐世保高専教育目標：1),2)	**JABEE対応学習教育目標：** A-4
JABEE基準１（１）： d-2a,e	

教科書： 電子製図（実教出版）
参考書、補助教材等： 基礎電気・電子製図練習ノート（実教出版）
配布資料（電子マニュアル、ＣＡＤ利用技術者試験のテキストなど）
授業形式： 講義および演習
学生が用意するもの： 製図道具一式、もし所有していれば、ＵＳＢメモリ（必携ではない）

自己学習の指針：

オフィスアワー 月、火、木曜16:15～17:15

備　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－①－４

英会話 English Conversation	(履修単位)	担当者：ローソン　ト　ム　RAWSON　Thom

1 MESC　1　単位（必修）　前･後期　50 分／週　授業回数 30 回（ 30 時間）　講義室：ＬＬ教室

授業概要： Use of conversation, communication techniques, some technology, and other medium for the purpose of studying spoken and written English conversation in a communicative environment.

予備知識： Willing to learn and participate in class. Participation factors high in the grade calculation.

授業項目	授業内容
[前期] 1st Term Lessons (subject to change) Lessons include speaking, listening, reading, and writing. Some review grammar and vocabulary will be covered. Students may give short presentations or conversation demonstrations.	(１週)Welcome and Introductions (２週)Unit 1 (３週)Unit 1 (４週)Unit 1 (５週)Unit 1 (６週)Unit 2 (７週)Unit 2 (８週)Review/Test (９週)Unit 2 (10週)Unit 2 (11週)Unit 3 (12週)Unit 3 (13週)Unit 3 (14週)Unit 3 (15週)Review/Final Examination **前期期末試験**
[後期] 2nd Term Lessons (subject to change) Lessons include speaking, listening, reading, and writing. Some review grammar and vocabulary will be covered. Students may give short presentations or conversation demonstrations.	(16週)Review and Activities (17週)Unit 4 (18週)Unit 4 (19週)Unit 4 (20週)Unit 4 (21週)Unit 5 (22週)Unit 5 (23週)Review/Test (24週)Unit 5 (25週)Unit 5 (26週)Unit 6 (27週)Unit 6 (28週)Unit 6 (29週)Unit 6 (30週)Review/Final Examination **後期期末試験**

到達目標： The confident use of basic spoken English and the reinforcement of grammar and vocabulary previously studied. Communication and participation factors high in the calculation of the grade. Students are required to prepare a textbook and notebook and writing implement for each class.

評価方法： Attendance 10%, Participation 40%, Mid-term and Final Examinations 50%
評価基準 Passing grade is 60% or higher.

佐世保高専教育目標：4	JABEE対応学習教育目標：　C-3
JABEE基準１（１）：　f	

教科書： English Firsthand Success(Pearson/Longman Publishing)

参考書、補助教材等：TBD

授業形式： Textbook based conversation and communication activities. Slideshow presentations.
学生が用意するもの：B5 notebook

自己学習の指針：

オフィスアワー By appointment. Also, before or after class.

備　　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－①－５

平成 24 年 12 月 20 日

卒業論文･概要および卒研審査会･発表会について

卒業研究（卒研）は，電気電子工学及びその応用分野の研究テーマについて，1 年間を通して取り組む科目です。指導教員の指示を仰ぎながら身に付けた知識・知見を活用して，自分なりのアプローチで解決すべき問題（研究テーマ）に挑み，成果を出すことが最大のミッションです。そのテーマが有する未知の問題を実践的に解決して行く過程で「問題解決能力」，「実証分析能力」を高め，論理的思考（順序立てて考える力）やプレゼン能力（自分の意見を人に説明する力）がどれほど身に付いているのかが，卒業研究論文，概要，卒業研究審査会・発表会で問われます。また，卒業研究では，受動的ではなく能動的（主体的，積極的）に取り組む姿勢や計画性，協調性，独創性など多岐に渡って評価されます。

中略

3．卒業研究審査会について

日　程：　平成 25 年 2 月 7 日（木）・8 日（金）
場　所：　電気電子工学科棟 3F 実験室
形　式：　口頭発表（1 人・2 人組に係わらず全学生が発表，原則 PowePoint を使用）
持参品：　研究日誌（指導教員の確認が必要。495 時間以上が必修条件），研究ノート，研究成果物（事前に許可が必要）
備　考：　発表順番，発表時間などの詳細は，追って連絡します。

4．卒業研究発表会について

日　程：　平成 25 年 2 月 15 日（金）
場　所：　視聴覚室
形　式：　口頭発表（全学生発表，原則 PowePoint のみ）
参加者：　公開（電気電子工学科教員，佐世保高専教職員，保護者，5E 学生，4E 学生）
備　考：　発表順番，発表時間などの詳細は，追って連絡します。

（出典　電気電子工学科資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

実験・実習・演習は，全授業科目に対してバランスよく配置し，講義における教育内容を定着させるために適切なものとなっている。教育目標に応じて，情報処理演習室やLL教室を利用する等の工夫がなされている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは，シラバス記入要領（資料５－２－②－１）に基づいて当該科目担当教員が「シラバス作成支援システム」を用いて作成している。教員及び学生が自由に閲覧できるように本校ウェブサイト上で公開されている。

シラバスには，授業時間ごとに教育内容についてのキーワード等が示された授業項目・授業内容欄があり，授業の進行度を容易に理解できるように作成され，該当授業科目を履修するために必要な予備知識を示し，事前に行う準備学習の内容を自己学習の指針として示している。到達目標欄には，箇条書きでその科目の到達目標が書かれ，成績評価欄には試験及びレポート等の割合が数字で示されている。さらに，教育目標との関連についても明記されている。また，履修単位・学修単位の別も示されている。講義担当教員はシラバスを配布して授業計画，評価方法，自己学習の指針等を詳しく説明し，ノートに貼り付ける等の活用法を勧めている。なお，学修単位の科目では，自己学習の指針に沿って行われた学習時間が確保されていることを演習課題や試験によって確認している。

授業評価アンケート中の教員によるシラバス活用に関する設問に対する回答，計画通り授業が実施されているかに関する設問に対する回答は,いずれも良好な結果となっている(資料５－２－②－２)。

観点５－２－②資料一覧

（資料５－２－②－１）　シラバス記入要領

出典：本校ウェブサイト　シラバス作成支援システム

（資料５－２－②－２）　教員によるシラバスの活用　アンケート結果　出典：学生課資料

資料５－２－②－１

シラバス記入要領

無機材料学　(学修単位)　担当者：　沖　新　　太　郎　OKISHIN Tarou
Inorganic Materials

４Ｃ　　2　単位（物質 必修）前･後期　100分／週　授業回数30回（60時間）　講義室：　４Ｃ教室

授業概要： 材料特性と化学結合形態との関係、材料の高純度化・単結晶化技術、および種々の無機材料の特徴、製造方法、機能・用途、等を学習し、無機材料を取り扱う上での基礎知識を習得する。

予備知識： ３年次までに学習した化学、特に無機化学の内容を習得し、原子・分子の構造や性質、および結晶構造に関する基礎知識を有すること。

授業項目	授業内容
[前期] １．序論；無機材料学とは	(１週)技術者倫理、無機材料学の概要 (２週)無機材料の製造プロセス、材料開発
２．化学結合 2.1 イオン結合 2.2 共有結合 2.3 水素結合 2.4 金属結合 2.5 ファンデルワールス結合	(３週)化学結合復習（イオン結合、共有結合） (４週)金属結合、絶縁体と半導体、ファンデルワールス結合
３．材料化技術・プロセス 3.1 高純度化 3.2 単結晶の育成	(５週)高純度化技術（蒸留法、イオン交換法） (６週)高純度化技術（溶媒抽出法、帯融法、分解法） (７週)単結晶の育成（CZ法、FZ法、水熱合成法）
４．セラミックス 4.1 セラミックス原料 4.2陶磁器 4.3 耐火物	(８週)前期中間試験 (９週)セラミックス概要、セラミックス原料；シリカ (10週)セラミックス原料；粘土鉱物、長石、セッコウ、石灰石 (11週)陶磁器の概要、分類 (12週)陶磁器の素地原料、うわぐすり (13週)陶磁器の製造工程、特殊陶磁器 (14週)耐火物の分類、耐火物の応用（スペースシャトルなど） (15週)耐火物の製造方法、特殊耐火物 前期期末試験
[後期] 4.4セメント 4.5 ガラス	(16週)セメント概要、原料、製造工程、クリンカー化合物 (17週)セメントの凝結・硬化、セメントの種類と設計 (18週)ガラス概要、構造、粘度と特性温度
５．種々の無機材料 5.1 ケイ素系無機材料	(19週)ガラスの種類と組成 (20週)ガラスの製造工程 (21週)特殊なガラス製造法（CVD法） (22週)特殊なガラス製造法（ゾルゲル法） (23週)後期中間試験 (24週)特殊なガラス（光学ガラス、強化ガラス、感光性ガラスなど） (25週)特殊なガラス（多孔質ガラス、ガラス繊維など） (26週)種々の無機材料；概要 (27週)ケイ素系無機材料；水ガラス、シリカゲル (28週)ケイ素系無機材料；ホワイトカーボン (29週)ケイ素系無機材料；合成ゼオライト（構造、製造法） (30週)ケイ素系無機材料；合成ゼオライト（特徴、用途） 後期期末試験

★ 通年の科目は30週、半期の科目は15週分を記入。
★ 8週目と23週目は中間試験とする。期末試験は入れない。
★ 専攻科は1週分を2行程度記す。

到達目標： 化学結合の種類と材料の性質を関係づけることができる。材料の各種の高純度化技術や単結晶技術と原理、特徴、用途を関係づけることができる。セラミックス原料の種類と性質・用途を関係づけることができる。セラミックス製品の種類と特徴・機能、製造方法、用途を関係づけることができる。無機材料の種類と特徴・機能、製造方法、用途を関係づけることができる。

★「できる」表現で5項目以上記す。

評価方法： 中間試験と定期試験（合計４回）、および小テストの成績により評価する（配点割合９：１）。６０点以上を合格とする。
評価基準

★ 評価割合は具体的数値を記入。

佐世保高専教育目標：2)　　JABEE対応学習教育目標：　A-4, B-2
JABEE基準１(１)：　d-2a, e, b

教科書： 無機材料入門　塩川二朗（丸善）
参考書、補助教材等： 無機工業化学概論・改訂版　伊藤要、他共著（培風館）、配布プリント
授業形式： 講義（質疑を積極的に行う）、毎回小テストを実施する（10～15分間），毎回課題を課す
学生が用意するもの： 教科書、ノート

自己学習の指針（学修単位の科目のみ記入してください。）
毎回の授業で自習課題を課し、それについて次回の授業で小テストを実施するので、自習仮題の整理と小テストの準備を行うこと。
中間試験と定期試験前には、配付した資料、自習課題及び小テストを理解できていること。
危険物や毒・劇物取扱主任者等の資格試験を受けることを推奨する。　○○○○について調べる。

オフィスアワー： 火曜日、木曜日　16:00-17:00
備　　考：

（出典　本校ウェブサイト　シラバス作成支援システム）

資料５－２－②－２

教員によるシラバスの活用（５段階評価）

年度	20	21	22	23	24
シラバスの説明はあったか	4.0	4.4	4.5	4.6	4.7
シラバスに沿って授業が行われたか	3.8	4.2	4.2	4.3	4.3

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスには，具体的な到達目標が示され，この目標を達成できるように十分に留意した上で授業内容等が記述されており，評価方法に関しても明記されている。準備学習として自己学習の指針を示している。履修単位・学修単位の別が明記され，学修単位の科目では，自己学習の指針を示すことで学習時間の確保に対する対策が講じられている。また，アンケート結果からシラバスの活用と記載に沿った授業がなされていることが確認できる。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育として，１年次の後期科目（15週間）に「創作実習」に始まり，学年毎の「工学実験・実習」を通し，総まとめとして５年次の「卒業研究」がある（観点５－２－①参照)。

「創作実習」はPBL型科目として，ものづくりに関して興味を持ち，かつ作ることの楽しさ並びに探究心を養うことを目的に各学科の専門に沿ったテーマで行われている(資料５－２－③－１～４)。「創作実習」のシラバスで紹介されている通り，いずれの学科も到達目標を，学科の専門科目に対する興味の喚起，実験基礎技術の習得，創造性の養成などと定めており，実習内容を発表することでプレゼンテーションの体験も行えるよう工夫している。

また，全学科４年次の夏季休暇中に企業の工場，研究所等で１～２週間の「工場実習（インターンシップ)」を行っている（資料５－２－③－５)。この目的は，職業意識の向上並びに職業適性等を考えるとともに，学校で修得した知識や技術が実社会でどのように活用されているかを理解し，技術者としての心構えを体得することである。実習終了後は，実習証明書，実習報告書を提出し，報告会において発表している（資料５－２－③－６，７)。この報告会には次年度に工場実習を行う３年生も参加し，早期から職業感覚を芽生えさせることに活用している。

観点５－２－③資料一覧

（資料５－２－③－１）	創作実習シラバス（機械工学科）	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－③－２）	創作実習シラバス（電気電子工学科）	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－③－３）	創作実習シラバス（電子制御工学科）	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－③－４）	創作実習シラバス（物質工学科）	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－２－③－５）	平成 24 年度工場実習先一覧	出典：学生課資料
（資料５－２－③－６）	工場実習の実施要項	出典：教員必携
（資料５－２－③－７）	工場実習報告書様式	出典：教員必携

資料５－２－③－１

創作実習 Creative Development	（履修単位）	担当者：中島，森田，中浦，松山，福田，中江，森川，貞弘
１Ｍ　１単位（必修）	後期 100 分／週　授業回数 15 回（ 30 時間）	講義室：機械工学科各実験室，実習工場，ＣＡＤ室，多目的室

授業概要：機械工学への導入教育として，機械工学の基本的事項について実習により体験的に学習する。

予備知識：一般的な教養（好奇心、創作意欲）

授業項目及び内容

【実施方法】

４テーマを設定し、クラスを４班に分け３週間で交代して全テーマを体験する。

【テーマと内容】

１．ガソリンエンジンの分解組立て
教育用ガソリンエンジンを分解・組立することにより，各機械要素の役割，工具の扱い方などを習得する。また，内燃機関の仕組み，熱機関サイクルを理解する。

２．ＰＬＣによるラジコンカーの自動制御
オムロンの教育用シーケンサを利用して市販のラジコンカーをパソコンで自動運転する。シーケンス制御，車のサスペンションやデフギヤの役割を理解する。

３．ミニ四駆を利用した力学学習
ミニ四駆のギヤ比を変更して回転数やトルクを計測し，競争する。歯車やベアリングなど機械要素の役割を理解する。

４．レーザーカッターによる木型切り出し
レーザーカッターで加工によるものづくりを体験する。２年生の鋳造実習で使用する木型をレーザーカッターで切り出す。木型の図面をパソコンで描き，パソコンの使い方，数値制御，レーザーカッターの原理を理解する。

到達目標：さらに機械工学に関心をもつようになる。工具の種類と名称，正しい使用法を習得する。ものづくりに関しての好奇心を持つ。

評価方法：　創作実習の報告書の内容（70%）及び実習態度（30%）により総合評価し，６０点以上を合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標：1),3),4)	JABEE対応学習教育目標：D-2
JABEE基準１（１）：d-2c,h	

教科書：配付プリント

参考書、補助教材等：

授業形式：実技
学生が用意するもの：作業服、作業靴、電卓、製図道具、USBメモリ、ノート、筆記用具

自己学習の指針：

オフィスアワー　金曜日あるいは月曜日の１６：００～１７：００

備　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－③－２

創作実習
Creative Practice Training　　(履修単位)　　**担当者：高比良、大島、猪原**

１Ｅ　１単位(必修)　後期 100 分／週　授業回数 15 回(30 時間)　講義室：電磁気実験室、電子工学実験室

授業概要：電気現象に関する理論的説明と基礎的実験および簡単な電気工作実習等をとおして電気工学への関心を深める。

予備知識：中学までの理科や技術の知識で十分である。自分が興味ある電気的な自然現象についての知識を整理し実験にのぞんでもらいたい。

授業項目及び内容

【後期内容】

1.実験技術の初歩
(a)情報リテラシー（基礎編）
(b)半田付け演習／マインドストーム

2.課題実習
(a)エレクトロニックオルガンの製作
(b)ラジオの製作
(c)回路計（テスタ）の製作
(d)電気工事実習
(e)マインドストーム１
(f)ミニクリスマスツリーの製作
(g)マインドストーム２
(i)光源の実験（光を測る）
(j)モータを作る

4.計測実習
(a)電圧・電流・抵抗(オームの法則)
(b)抵抗の接続(合成抵抗)

到達目標：電気工学、電子工学、情報工学の各分野に対して興味と関心を持ち、探求心を身につける。半田付け、基本的コンピュータ操作技術など初歩的な技能を身につける。

評価方法：　報告書50%実習態度50%とし、60点以上で合格とする。実習態度の評価別途定める。
評価基準

佐世保高専教育目標：1),3),4)	**JABEE対応学習教育目標**：D-1,E-2
JABEE基準１(１)：d-2b,h	

教科書：電気電子情報工学実験テキスト(電気電子工学科作製)および適宜配付する資料

参考書、補助教材等：

授業形式：実験・実習
学生が用意するもの：電卓、ノート

自己学習の指針：

オフィスアワー　火曜と木曜の１６：００～１７：００。ただし、会議等により応じられない場合もある。

備　考：この科目は電気主任技術者免状交付申請に必要な授業科目である。

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－③－３

創作実習 Creative Development	（履修単位）	担当者：重松利信，川下智幸，志久修，椛島隆富
１Ｓ　１単位（必修）　後期 100 分／週　授業回数 15 回（ 30 時間）		講義室：制御Ａ棟、Ｂ棟実験室、ＣＡＤ室または情報処理センター

授業概要：各人が選択したテーマによる少人数教育を通して、物作り、機器の組立・分解、情報収集とまとめ方等を体験し、考える習慣づけや創造性の育成に役立てる。

予備知識：特になし

授業項目及び内容

実施方法】

全体を４班に分け、以下のテーマの中から、各人３テーマを選び、１テーマ４週で実施する。ただし、パソコン組立ては、必修とする。最後の２週で、この実習を通じて考察したことについて発表会を実施する。

【テーマと内容】

１．パソコンの組立て（必修）
パソコンを各パーツから組立て、ＯＳのインストール作業まで行うことで、計算機ハードウェアの構造と構成、その動作の仕組みまでを理解する。

２．ロボコンワールドへようこそ（選択）
ロボコン製作で重要なモータを使った「足（台車）」と、それを操縦する「リモコン」を、自分達で考えた仕様（速さ重視か、坂道が得意か等）に沿って製作し、能力を競い合う。

３．木材加工
木材加工の実習を通じて、木材特有の加工法を体験的に学ぶ。また、企画から製作までの一連の作業を体験することにより、ものつくり工程への関心を深める。

４．マイコン搭載カーのプログラム制御（選択）
マイコンを搭載した簡単な車を、C言語によるプログラムで制御する。終わりに、各人が設計したオリジナルな仕様の車を作成し、発表する。

【スケジュール】

第　１週：　テーマの概要説明、実施方法、班分けの決定
第　２週ー第　５週：　必修または選択の１テーマの実施
第　６週ー第　９週：　必修または選択の１テーマの実施
第１０週ー第１３週：　必修または選択の１テーマの実施
第１４週ー第１５週：　選択テーマについての発表会（全員）

到達目標：
・高学年での計算機ハードウェア・ソフトウェアの基礎部分の理解に役立てる。
・物作り等を通して創造の楽しさや考える習慣づけを養う。
・プレゼンテーション能力の育成を図る。

評価方法：　３テーマの創作達成度等の合計　７５点満点、最後の発表　２５点満点　で評価し、６０点以上を合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標：1),3),4)	JABEE対応学習教育目標：D-4
JABEE基準１（１）：d-2d	

教科書：

参考書、補助教材等：

授業形式：

学生が用意するもの：実習服

自己学習の指針：

オフィスアワー：

備　　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－③－４

創作実習　(履修単位)　**担当者：物質工学科教員全員**
Creative Development

１Ｃ　１単位(必修)　後期 100 分／週　授業回数 15 回(30 時間)　講義室：担当教員実験室

授業概要：各担当教員が提示したテーマの中から2テーマを選択（1テーマあたり4名程度）し，後期を更に1/2期に分けて実験・実習を行う。また，最後の2週で選択した一方のテーマについての発表会を実施し，プレゼンテーションの方法を学習する。

予備知識：化学に関する1年前期の講義内容を理解しておく。

授業項目及び内容

１週目　実習内容の説明とテーマ選択
２～　６週目　選択テーマ１の実習
７～１１週目　選択テーマ２の実習
１２～１３週目　発表準備
１４～１５週目　発表

テーマ（担当教員）と概要

○ガラス細工（下野）
ガラスに関する知識(物性，特徴，着色等)とガラス細工の方法を学び，
ガラス棒やガラス管を用いて作品を製作する。

○色素増感型太陽電池の製作（古川）
透明電極付きガラス板，酸化チタン，色素，電解質を組み合わせて，化学太陽電池を作製する。

○化学タイマー（長田）
ヨウ素デンプン反応を遅らせて時間を知らせる化学タイマーを，スーパーやドラッグストアーで手に入るものから作る。

○尿素樹脂の合成（平山）
尿素，ホルマリン，アンモニア水を原料として，高分子化合物である尿素樹脂を合成する。

○3R作品作り（渡辺）
ペットボトル，段ボール，空き缶(アルミ缶，スチール缶)など，使用済みのものを使って，リサイクル(再資源化)，リユース(再利用)，リデュース(廃棄物の制御)を観点とした作品を作る。

○豆腐づくり（山﨑）
豆乳のタンパク質とにがりの反応で豆腐ができる。豆乳の温度，にがりの量など最適な条件を考える。

○カラフルビーズ作り（村川）
海藻に含まれるアルギン酸を用いて，様々な大きさや色のビーズ作製法について学ぶ。
更に，カラフルビーズを使って，オブジェ（アクセサリーや花瓶，ペン立てなど）作りを行う。

○陶器の製作（城野）
陶芸用年度から各自で考えた陶器の製作を行う。
陶器を作るための成型，乾燥，素焼，下絵付け，釉掛け，本焼き等の各工程を体験し学習する。

○化学実験で使うガラス細工の初歩（田中）

○草木染め（越村）

到達目標：与えられたテーマについて，自分で調べることができる。ものづくりにチャレンジする気持ちを持つことができる。工夫したり考えたりする習慣を身につけることができる。実験を期限英に計画できる。実験についてプレゼンテーションができる。

評価方法：　全教員の創作実習評価（理解度，説明，質疑応答など）で評価し，60点以上を合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標：1),3),4)	JABEE対応学習教育目標：C-1,D-1
JABEE基準１(１)：d-2b,f	

教科書：

参考書、補助教材等：

授業形式：実験
学生が用意するもの：各テーマで担当教員より指示されたもの

自己学習の指針：

オフィスアワー　各担当教員のシラバス中のオフィスアワーを参照。

備　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－２－③－５

平成24年度工場実習（インターンシップ）先一覧

機械工学科

会社名
JXエンジニアリング株式会社
日本精工株式会社　埼玉工場
住友精化株式会社　別府工場
村田機械株式会社
大阪サニタリー金属工業協同組合
武田薬品工業株式会社
東レエンジニアリング株式会社
キヤノン株式会社
株式会社　大島造船所
株式会社　森精機製作所　伊賀事業所
株式会社　ディスコ　広島事業所
サントリープロダクツ株式会社
JX日鉱日石金属株式会社　佐賀関製錬所
高砂工業株式会社　伊万里工場
サントリープロダクツ株式会社
千代田化工建設株式会社
京セラ株式会社　鹿児島国分工場
極東石油工業合同会社　千葉製油所
湯川王冠株式会社
MHIプラントエンジニアリング株式会社
株式会社　佐賀鉄工所大町工場
日本ピソー株式会社　長崎事業所
株式会社　日立国際電気
新興プランテック株式会社
株式会社　カシフジ
株式会社　三松
株式会社　エム・システム技研
新日本製鐵株式会社　広畑製鉄所
株式会社　牧野フライス製作所
株式会社　ワイビーエム
ミヤマ精工株式会社
株式会社　クレオ
JFEスチール株式会社　西日本製鉄所
三菱自動車工業株式会社　水島製作所
日鐵プラント設計株式会社

電気電子工学科

会社名
伊万里市浄化センター
佐世保重工業（**長期インターンシップ**）
キヤノン株式会社
東京エレクトロンFE株式会社
JFEスチール株式会社　西日本製鉄所
株式会社　三松
株式会社　九州テン
日東電工株式会社　尾道事業所
西部ガス株式会社　佐世保支店
国精工業株式会社　多摩川工場
富士通株式会社
メタウォーター株式会社
湯川王冠株式会社
中央電子工業株式会社
全日本空輸株式会社
株式会社　大島造船所
東洋鋼鈑株式会社
花王株式会社　鹿島工場
矢崎部品株式会社
大阪ガス株式会社
国際通信企画株式会社
ユニチカ株式会社　岡崎事業所
伸和コントロールズ株式会社
NHK長崎放送局
フロイント産業株式会社　浜松事業所
三菱重工業株式会社
東燃ゼネラル石油株式会社　和歌山工場
中外製薬工業株式会社
中部電力株式会社
株式会社　名村造船所
富士電機株式会社
株式会社　カシフジ
株式会社　MHIコントロールシステムズ
セイコーエプソン株式会社
NHK長崎放送局
株式会社　日本触媒　姫路製造所
株式会社　富士通九州システムズ
三洋化成工業株式会社　名古屋工場

電子制御工学科

会社名
株式会社　九州テン
富士通株式会社
長菱ソフトウェア株式会社
株式会社　佐賀新聞社
KDDIエンジニアリング株式会社
NHK長崎放送局
京セラ株式会社　鹿児島川内工場
中部電力株式会社
メタウォーター株式会社　日野事業所
株式会社　トヨタプロダクションエンジニアリング
宇部興産株式会社
富士通株式会社
佐賀県茶業試験場
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
NHK長崎放送局
神鋼テクノ株式会社
株式会社　日本ビジネスソフト
総合研究大学院大学　物理科学研究科　核融合科学専攻
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
株式会社　三松
ジェイ・アール・シー特機株式会社
西部ガス株式会社　佐世保支店
富士通株式会社
株式会社　日本理工医学研究所
富士通株式会社
花王株式会社　鹿島工場
日信電子サービス株式会社
シーティーシー・テクノロジー株式会社
株式会社　ディスコ　広島事業所
富士通株式会社
株式会社　日本ビジネスソフト
富士通株式会社
ジェイ・アール・シー特機株式会社
富士通株式会社
住友電装株式会社
伊万里市浄化センター
九州旅客鉄道株式会社
ダイソー株式会社　尼崎工場
西日本プラント工業株式会社
佐賀県茶業試験場
日東電工株式会社　尾道事業所
ダイキン工業株式会社　滋賀製作所
JX日鉱日石金属株式会社　佐賀関製練所
東燃ゼネラル石油株式会社　和歌山工場
九州電力株式会社　大分支社
株式会社　MHIコントロールシステムズ
矢崎部品株式会社

物質工学科

会社名
武田薬品工業株式会社
株式会社　三松
佐賀県茶業試験場
大塚製薬株式会社　佐賀工場
長崎県窯業技術センター
株式会社　ミルボン　ゆめが丘工場
旭化成ケミカルズ株式会社　愛宕事業場
佐世保市保健所
長崎県農林技術開発センター
佐世保市水道局
株式会社　日本触媒　姫路製造所
富士通株式会社
ダイキン工業株式会社
佐世保市保健所
中興化成工業株式会社　松浦工場
花王株式会社　和歌山工場
タカハタプレシジョンジャパン株式会社
住友化学株式会社
極東石油工業合同会社　千葉製油所
佐賀県茶業試験場
東レ株式会社
住友精化株式会社　別府工場
株式会社　微研テクノス
JNC株式会社　水俣製造所
MHIプラントエンジニアリング株式会社
佐賀県茶業試験場
西部ガス株式会社　佐世保支店
佐世保市水道局
株式会社　日本理工医学研究所
佐賀県茶業試験場
富士通株式会社
株式会社　カネカ　高砂工業所
アリアケジャパン株式会社
大日精化工業株式会社東京製造事業所
長崎県窯業技術センター
東ソー株式会社　南陽事業所
三洋化成工業株式会社　京都工場
佐世保市水道局
佐世保市水道局

（出典　学生課資料）

資料５－２－③－６

工場実習の実施要項

佐世保工業高等専門学校

1. 目　的

我国が国際化・情報化するに伴い、自主的・自立的に行動し、コミュニケーション能力などの人間力の向上や独創的な発想ができる能力など、問題解決能力を具えた人材の育成が求められている。このような背景のもと、工場実習では、高い職業意識の育成を図ることを目的とし、企業等の現場での体験を通して、現実の課題に取り組むことにより実務能力を高める。さらには学生の学修目的が明確になり、新たな学修意欲を喚起させるとともに自己の職業適性や将来設計について考える機会となることを目指す。

2. 実施内容

(1)対象学年:本科4年生(機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、物質工学科)
(2)実施時期:原則として4年生の夏休みに実施
(3)実施期間:原則として2週間とする。
(4)授業科目:選択科目「工場実習」2単位
(5)担　当　者:受け入れ先への打診や依頼、調整等の学生指導は、主として各学科の学科長および4年学級担任が行う。
(6)実習内容:受け入れ先から提示されたものをもとに、学生と実習先で調整する。
(7)巡回指導:実習期間中は当該学生の所属する学級担任が、適宜巡回し、状況を把握するとともに、改善点があれば是正に務める。
(8)報　告　書:工場実習報告書(別紙)を作成し、学校に提出する。
(9)実習評価:受け入れ先の実習証明書、実習報告書及び発表会をあわせて行う。
(10)報　　酬:原則として無報酬。

3. 保　険

(1)参加学生は全員必ず加入する。
(2)学生自身の事故:「独立行政法人　日本スポーツ振興センター(傷害保険)」
(3)実習企業の備品等の破損:「独立行政法人　国立高等専門学校機構損害保険(賠償責任保険)」

4. 日　程

別途に定める。

(出典　教員必携)

資料５－２－③－７

平成　　年度　工場実習報告書

年　組　番 氏名	
実習先名等 （住所）	
期 間	平成　年　月　日～ 平成　年　月　日（実働　日間）
テーマ	
実習先の概要（どのような会社か。会社の業務内容など。）	
実習内容（どのような仕事をしたか）	
実習で得られたこと、感想	

（出典　教員必携）

（分析結果とその根拠理由）

ものづくりに関して興味，楽しさ，探究心を養うことを目的に１年次に「創作実習」を実施し，創造性を育む工夫を行っている。また，「工場実習（インターンシップ）」により，企業における工場や研究所等の業務内容を学び，学校で修得した知識や技術が実社会でどのように活用されているかを理解し，実際に企業が求めている職業上の能力の育成を図っている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

学則第24条５項において，特別活動は１年～３年までの各学年で30単位時間とし，３年修了時点で特別活動時間総計が90単位時間となるように設定している（資料５－３－①－１）。

特別活動は，１年～３年次に毎週１時限設けてあり（資料５－３－①－２），担任による生活・学習指導，校長・教務主事・学生主事による講話等を行っている。また，学科長による就職・進学に関する講話，本校卒業生・専攻科生による講話，薬物・性教育・たばこの害に関する学外有識者による講演会も開催している。さらに，グループワークとして行われるプレジョブハンティング等の活動で豊かな人間性の醸成を行っている。さらに，学校行事（創立記念式典等）及び学生会主催行事（体育祭，文化祭等）も特別活動としている（資料５－３－①－３）。これらは，教育目標６）に対応した内容となっている。

４，５年次においては，特別活動の時間を時間割に組み込んでいないが，ビジネスマナー講習会において，人との接し方，電話の応答等社会人としてのマナーを学び，また，企業関係者を招き企業が求める人材，企業の現状等の講演会を開催している（資料５－３－①－４）。

１年次には，入学直後に１泊２日で新入生オリエンテーションを開催している。これは，新入生が本校への理解を深め，高専生活に早くとけ込み，学生相互及び教職員との親睦を深めることを目的に行っている（資料５－３－①－５）。

教育目標６）の達成のため，工場見学を学年毎に各学科において実施している。２年次は日帰りの企業見学，３年次には一泊研修旅行で長崎県近郊の企業見学を行い，４年次では４泊５日の海外の工場見学を実施している（資料５－３－①－６）。これらは，工場・研究所等の設備や生産状況等を見学して専門的知識を深め，社会的視野を広げるとともに，団体行動における協調性を育んでいる。

新入生歓迎遠足，体育祭，文化祭，球技大会の企画・運営は，学生会が主催で実施している。なお，これらイベントは学生主事室の支援のもと行われている（資料５－３－①－７）。これにより，学生の協調性，企画力，集団行動力を身に付けることに寄与している。また，学生会の組織として部活動がある（資料５－３－①－８）。顧問教員は競技経験，指導経験を考慮して配置され（資料５－３－①－９），顕著な活動成績に結びついている（資料５－３－①－10）。

観点５－３－①資料一覧

（資料５－３－①－１）	学則　第 24 条	出典：教員必携
（資料５－３－①－２）	平成 24 年度　本科・専攻科時間割（前期）	出典：学生課資料
（資料５－３－①－３）	特別教育活動予定表	出典：教務主事室資料
（資料５－３－①－４）	講演会・講習会一覧	出典：学生課資料
（資料５－３－①－５）	新入生オリエンテーション日程表	出典：学生主事室資料
（資料５－３－①－６）	平成 24 年度工場見学先一覧	出典：学生課資料
（資料５－３－①－７）	文化祭タイムテーブル	出典：学生会資料
（資料５－３－①－８）	学生会組織図	出典：学校要覧
（資料５－３－①－９）	平成 24 年度　クラブ顧問教員	出典：学生主事室資料
（資料５－３－①－10）	各種大会成績一覧	出典：教育データベース

資料５－３－①－１

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

第６章　教育課程等

（教育課程の編成）

第２４条　本校の教育課程は，授業科目及び特別活動により編成するものとする。

２　　授業科目，履修単位及び学修単位は，一般科目にあっては別表第１，専門科目にあっては別表第２のとおりとする。

３　　各授業科目の単位数は，３０単位時間（１単位時間は，標準５０分とする。第７項において同じ。）の履修を１単位として計算するものとする。

４　　前項の規定にかかわらず，校長が定める授業科目については，１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができる。

一　講義及び演習については，１５時間から３０時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。

二　実験，実習及び実技については，３０時間から４５時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。

５　　前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は６０単位を超えないものとする。

６　　前３項の規定にかかわらず，校長は卒業研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

７　　特別活動は，第１学年から第３学年までの各学年毎に３０単位時間計９０単位時間を実施する。

（出典　教員必携）

資料５－３－①－２

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－３

平成24年度　特別教育活動予定表　（水曜日、7限目）H24.1.30版　Ver.7

月	日	曜	1年生	2年生	3年生	掃除	カウントすべき時間数
4	9	月	水曜日授業，LHR(1･2限目)，***始業式***，2･4年写真撮影				3
			1年実力テスト(5～7限目)	2･3年数学実力テスト(7限目)			1
	15	日	オリエンテーション				1年生のみ(2)
	16	月	オリエンテーション				
	18	水	心理検査(HR)	学年集会(第一体育館)	ポートフォリオの見直し(HR)		1
	23	月	開校記念日･遠足				2
	25	水	制服の着こなし講演会(大講)	ポートフォリオの見直し(HR)		3S① 3C②	1
5	2	水		薬物犯罪の講演会(大講)		1S③ 1C④	1
	9	水	ストレスマネージメントの講演(大講)		学年集会(第一体育館)	2M⑤ 2E①	1
	16	水	体育祭リハーサルおよび学生会総会(午後)				1
	20	日	体育祭				2
	23	水	心理検査結果返却･分析			3M② 3E③	1
	30	水	高総体壮行会(8限)			5M④ 5E⑤	
6	6	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意	4M① 4E②	1
	13	水	6/12～19　前期中間試験				17(19)時間
	20	水	タバコの害講演(大講)	グループワーク1(HR)		4S③ 4C④	1
	27	水	人生設計(HR)		プレジョブハンティング1(大講)	5S⑤ 5C①	
7	4	水	成績処理				1
			高専大会地区大会壮行会(8限)				
	11	水	性教育の講演会(大講)		プレジョブハンティング2(HR)	2S② 2C③	1
	26	木	月曜日授業、***主事講話･表彰(3限目)***，LHR(4限目)　(1，2限目通常授業)				2
9	3	月	***校長講話･表彰(1校時)***，LHR(2限目)　(3限目より通常授業)				2
			英語課題テスト(7限目)(1～3年)				1
	5	水		社会人、卒業生、講話	プレジョブハンティング3(HR)	1M④ 1E⑤	1
	11	火	立会演説会･球技大会				2
	12	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意		1
	26	水	9/20～28　前期期末試験				29(31)時間
10	3	水	学年集会(第一体育館)	グループワーク2(HR)	プレジョブハンティング4(HR)発表	4S① 4C②	1
	10	水		グループワーク3(HR)	**知財セミナー①(大講)**	1S③ 1C④	1
	17	水	成績処理				1
	24	水		グループワーク4(HR)発表	**知財セミナー②(大講)**	1M⑤ 1E①	1
	31	水			学年集会(第一体育館)		
11	7	水	学生会新旧交替式，ラグビー壮行会(8限目)				
	9	金	高専祭準備				1
	10	土	文化祭(グループワーク5発表／プレジョブハンティング5発表)				2
	11	日	50周年記念式典				2
	14	水	学科紹介(学科長、HR)	学年集会(第一体育館)	マナー講習『社会人として』(大講)		1
	21	水	先輩講話(HR)		デートDVの講演会(大講)	2M② 2E③	1
	20	火	球技大会				2
	28	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意	5M④ 5E⑤	1
12	12	水	AED講習会(第一体育館)	12/6～12/12　後期中間試験			40(42)時間
	19	水				3S① 3C②	1
	21	金	成績処理、LHR･掃除(4限目)　(午後授業なし)				1
1	9	水	1･2年生数学実力テスト(7限目)		ACEテスト(HR)	5S③ 5C④	1
	23	水		先輩講話(HR)	交通安全講習会(大講)		1
	30	水	学年集会(第一体育館)			4M⑤ 4E①	1
2	6	水				2S② 2C③	1
	13	水				3M④ 3E⑤	1
	20	水	試験前注意	試験前注意	試験前注意		1
	27	水	2/21～3/1　後期期末試験				
3	1	金	試験終了後***終業式***，LHR･大掃除				50(52)時間

① 1年生オリエンテーション，開校記念日･遠足，球技大会，体育祭，高専祭は開始点呼と終了点呼をそれぞれ1時間としてカウントして下さい。従って，これらのイベントに欠席の場合は2時間の欠課扱いとなります。ただし，皆勤賞計算においては午前4時間，午後3時間欠課扱いで計算して下さい。

② 掃除は、その週内で実施できる時間(HRや放課後)をクラスごとに設定し、指定のエリアを行って下さい。

③ 特別教育活動の時間は，学習(補講)などにも利用できます。

④ LHR関係図書として，「高校ホームルームの研究(1)(2)」，「ホームルームの指導計画」，「ホームルームの展開」，「ホームルーム･ハンドブック」などが、図書館や教務主事室にあります。

⑤ 始業式，体育祭リハーサル，講話･表彰，高専祭準備，終業式はそれぞれ1時間としてカウントして下さい。従って，これらのイベントに欠席した場合は1時間の欠課扱いとなります。ただし，皆勤賞計算においては実時間の欠課扱いで計算して下さい。

（出典　教務主事室資料）

資料５－３－①－４

講演会・講習会一覧

開催月日	名称	講演テーマ	講師職名	対象
平成23年5月25日	特別講習会	薬物犯罪防止について	佐世保警察署生活安全課 少年係　少年補導職員	2年生
平成23年6月22日	特別講習会	たばこの害について	佐世保市保健福祉部 健康づくり課　保健師	1年生
平成23年7月20日	特別講習会	助産師から見た若者の性	社団法人長崎県看護協会 助産師職能委員会　委員	1年生
平成23年10月6日	高学年講演会	自然エネルギーについて	株式会社ホンダソルテック 代表取締役社長	電気電子・電子制御工学科4･5年生
平成23年10月19日 平成23年10月26日	知的財産セミナー	知的財産教育について	一般社団法人長崎県発明協会 財　トータルサポーター	3年生
平成23年10月15日	リーダー研修会	チャンスをつかむ	長崎県バスケットボール協会 総務副委員長	部活動主将
平成23年11月16日	特別講習会	対等な人間関係を考えるために	ＮＰＯ法人 ＤＶ防止ながさき　代表	3年生
平成24年2月2日 ～15日	特別講習会	電話応対及びビジネスマナーについて	前ドコモサービス九州㈱ 人材教育コーディネータ	5年生
平成24年5月23日	特別講習会	薬物犯罪防止について	佐世保警察署生活安全部 少年課　少年補導職員	2年生
平成24年6月20日	特別講習会	たばこの害について	佐世保市保健福祉部 健康づくり課　保健師	1年生
平成24年7月11日	特別講習会	助産師から見た若者の性	社団法人長崎県看護協会 助産師職能委員会　委員	1年生
平成24年10月10日 平成24年10月24日	知的財産セミナー	知的財産教育について	一般社団法人長崎県発明協会 財　トータルサポーター	3年生
平成24年10月20日	リーダー研修会	コーチングで変える自分と未来	（株）智翔館　代表取締役	部活動主将
平成24年11月21日	特別講習会	対等な関係を考えるために	ＮＰＯ法人 ＤＶ防止ながさき	3年生
平成24年12月4日	高学年講演会	化粧品・トイレタリー製品の研究開発と企業研究者として求められる人間像	東京工科大学応用生物学部 教授	物質工学科4･5年生
平成25年1月8日・9日・10日・17日	特別講習会	電話応対及びビジネスマナーについて	前ドコモサービス九州㈱ 人材教育コーディネータ	5年生

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－５

新入生オリエンテーション日程表

新入生オリエンテーション《　スケジュール　》

１５日（日）	
８：５０	各ＨＲ教室に制服で集合（担任点呼）
９：１０	学校出発
１０：００	青少年の天地到着 靴は大研修室横の廊下（ブルーシート）へ。荷物はロビーへ。
１０：１０	パンフ・筆記用具を持って、大研修室に入室（担任点呼） 日程等の説明
１０：３０	★出会いの集い（学生挨拶） ★天地職員からの注意
１１：００	●研修Ⅰ　（司会：三ッ廣先生） 校長講話 教務主事講話 食堂利用法説明
１１：３０	昼食（食堂。注：p3 の食事の後片付け参照。混雑するため、席は指示に従う。） 昼食終了後荷物を部屋に移す
１２：２０	体操服に着替え、多目的ホール集合 ●研修Ⅱ　（司会：三ッ廣先生） 集合・整列練習、体育教員訓話
１３：２０	制服に着替え、大研修室に集合 ●研修Ⅲ　（司会：三ッ廣先生） 教育支援係・生活支援係説明 キャリア支援室講話
１４：００	●研修Ⅳ　（司会：学生会） 学生会による学校行事・体育祭などの説明、校歌指導
１５：３０	大研修室集合（制服）（担任点呼） ●研修Ⅴ　（司会：三ッ廣先生） 身なり指導 学生主事講話 一般科目長講話 明日の日程等の説明、諸注意
１７：１０	朝の集いの係説明会（事務室前集合） シーツ係集合（リネン室前） （係：貞弘先生、三橋先生）
１７：３０	夕食（食堂。注：p3 食事の後片付け参照）
１８：３０	●クラスワーク（担任・学科教員） １Ｍ：２階東学習室 １Ｅ：中研修室 １Ｓ：音楽活動室 １Ｃ：１階西学習室
２０：３０	入浴開始 （注：p3 の入浴時間割を参照） （２２：００まで自由時間）
２１：４５	入浴終了
２２：００	室長点呼 → 担任へ連絡
２２：３０	就寝・消灯

１６日（月）	
６：３０	起床
６：４０	室長点呼 → 担任へ連絡
６：５５	集いの広場集合 （注：p10 の朝の集いの方法を参照）
７：００	★朝の集い（学生挨拶）（日程等の説明）
７：１５	朝食（食堂。注：p3 食事の後片付け参照） 洗面、歯磨き、トイレ等
８：００	荷物をロビーへ移動（クラスごとに置く）
８：１０	★掃除開始 （注：p10-12 の清掃割、点検項目参照） 点検責任者点検 → 担任・教員点検 シーツ係、シーツ・枕カバー返却 （リネン室前の中央テーブルへ） （注：p11 の寝具のたたみ方を参照） （係：貞弘先生、三橋先生）
９：０５	★天地職員による清掃点検 （教職員による点検終了後） 全員、清掃場所前の廊下に待機する
	●野外炊飯（雨天時はレクレーション）
９：３０	食材係２名、玄関外食堂横に集合して食材受け取り（係：手島先生、越村先生） （食材係は早めに集合） 他の学生は西棟倉庫前に移動
９：４０	西棟倉庫前、クラス別全員集合 （各自の野外料理班を確認しておく） 食器係２名、食器受取（必ず数を確認） 天地職員から炊飯等の説明
１０：００頃	野外炊飯開始（野外料理班別）
１２：００頃	昼食（カレー）　（雨天時は食堂） 昼食が済んだ班は後片付け開始 炊事場、洗い場、食器類 （注：p12 の野外炊飯留意点、節水法を参照）担任・主事室による点検
１３：００頃	西棟倉庫前に集合 ★天地職員による食器点検 （食器洗い直しのないように） 点検終了後、男子はエントランスホールで，女子は中研修室で制服に着替え、着替え後、荷物はロビーに置く．
１３：３０頃	学科ごとにエンテランスホールに集合 （担任点呼）
１４：００	★別れの集い（学生挨拶）
１４：１５	担任点呼 → 出発
１５：０５	学校着 → クラスごとに教室へ 教室で感想文作成

注意：食後、次に食事をする人のために、ふきんでテーブルをきれいに拭き、きゅうすを所定の場所にもどすこと。

（出典　学生主事室資料）

資料５－３－①－６

平成24年度工場見学先一覧

日程	見学先	対象	備考
6月25日	日本ビソー（株）長崎製作所 三菱重工業（株）長崎造船所	機械工学科３年生	
6月26日	九州電力 玄海エネルギーパーク	電子制御工学科４年生	
10月1日	チョーコー醤油（株）大村工場	物質工学科２年生	
10月15日	九州電力（株）相浦発電所	電気電子工学科２年生	
10月15日	トヨタ自動車九州(株) ＴＯＴＯ（株） 新日本製鐵(株)八幡製鐵所	電気電子工学科３年生	合宿研修
10月15日	日本精工九州(株) 久光製薬(株)	電子制御工学科３年生	合宿研修
10月16日	（株）大島造船所	機械工学科１年生	
10月16日 10月17日	台湾東陶有限公司 三至機電企業股囲有限公司	電気電子工学科４年生	台湾
10月16日 10月17日	台精化学工業股フン有限公司 花王（台湾）股フン有限公司新竹工廠	物質工学科４年生	台湾
10月17日	花王（台湾）股フン有限公司新竹工廠 頻光半導體股有限公司	電子制御工学科４年生	台湾
10月17日 10月18日	Singapore Polytechnic MAKINO ASIA PTE LTD SINGAPORE DAI-ICHI PTE. LTD	機械工学科４年生	シンガポール
10月18日	佐世保重工業（株）佐世保造船所	電子制御工学科２年生	
10月18日	九州電力（株）天山揚水発電所 九州電力（株）玄海原子力発電所	電気電子工学科５年生	
10月18日	鳥栖キユーピー(株) 新日本製鐵(株)八幡製鐵所	物質工学科３年生	合宿研修
10月22日	鳥栖キューピー（株） (株)安川電機八幡西事業所 新日本製鐵(株)八幡製鐵所	機械工学科３年生	合宿研修
11月22日	大和製罐（株）九州工場 日本精工九州（株）	機械工学科２年生	
1月17日	長崎県工業技術センター	専攻科１年生	

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－７

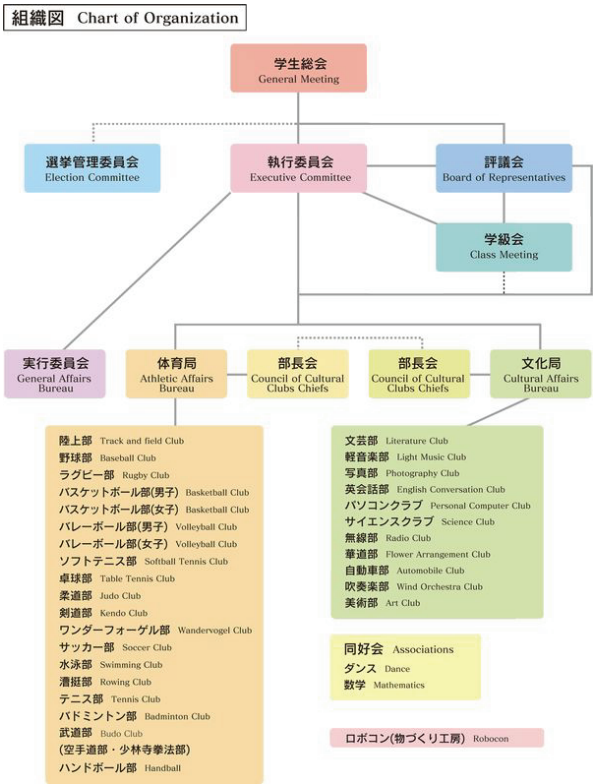
11月10日（土）[文化祭当日]　タイムテーブル

時間	全体の動き	第一体育館	第二体育館	企画・イベント	学科	文化局	バザー	実行委員	学生会
6:00～	dogs機材搬入								
7:30	各自準備						衛生検査 サンプル提出	本部打ち合わせ 各担当場所で準備	音響準備 開会式準備 名簿準備
8:50	第一体育館集合	開会式（開会宣言、実行委員長挨拶、諸注意）・・・学生会点呼					1人テント待機	開会式参加	
9:30 11:45 13:30 14:00 15:15	文化祭開始	軽音部ライブ ↓	（校内班） 休憩所管理 ピタゴラ 吹奏楽部	イベント進行 ↓	接客 ↓	接客 ↓	接客 ↓	（企画班） 各企画の進行 （広報班） 受付 （校内班） 校内案内役 第二体育館管理 （イベント班） ピタゴラスイッチ	実行委員の手伝い等
15:30	文化祭終了 教室集合	イス片付け	片付け	片付け・教室復旧				片付け	備品回収 担当教室移動 名簿準備・誘導・確認
16:20	集合	閉会式（学生会点呼）・・・全員参加							名簿準備
16:40		掃除・片付け		終わっていない場合は引き続き片づけ				校内ゴミ回収 片付け	音響撤収 駐車場整備 備品回収 片付け 校内清掃
未定	第一体育館	片付け（学生会、実行委員で）終了次第→一斉解散							
未定	執行部	学生会・・・諸連絡、締め→終了次第解散　　＜目標　18：30＞							

・15:30までにある程度片付けておく
・教室を使用している団体は15:30から教室復旧ができる状態にしておく！

（出典　学生会資料）

資料５－３－①－８



（出典　学校要覧）

資料５－３－①－９

平成24年度　クラブ顧問教員

クラブ名		顧問教員	コーチ
体育局	体育局顧問		
	陸上	☆吉塚，大里，坂口	○○○○(学外)
	野球	☆重松，川崎，手島，越村，猪原	○○○○(職員) ○○○○(専攻科生) ○○○○(専攻科生)
	ラグビー	☆中島，三橋，志久，牧野	
	バレー（男子）	☆福田，縄田	○○○○(職員)
	バレー（女子）	☆大屋，大島	○○○○(学外)
	バスケット（男子）	☆古川，西口	
	バスケット（女子）	☆平山，生住	
	ソフトテニス	☆嶋田，山崎，野尻	○○○○(専攻科生)
	卓球	☆森下，城野，原	○○○○(学外)
	柔道	☆吉田，品川	○○○○(学外)
	剣道	☆堂平，兼田，稲永	
	ワンダーフォーゲル	☆真部	
	サッカー	☆松山，川瀬，槇田	
	水泳	☆中江，村山	
	漕艇	☆松尾，川下，関	○○○○(学外)
	テニス	☆下野，三ッ廣，須田淳	
	バドミントン	☆田中，中村真，小原	○○○○(職員)
	武道	☆下尾，南部，高比良	○○○○(学外)
	ハンドボール	☆森田，長田，貞弘	
文化局	文化局顧問		
	文芸	☆生住	
	新聞		
	軽音楽	☆高比良	
	写真	☆長嶋	
	英会話	☆大里（上田）	
	パソコン	☆中村嘉	
	サイエンス	☆須田淳（真部）	
	無線	☆南部	○○○○(学外)
	華道	☆牧野	○○○○(学外)
	自動車	☆森川	
	吹奏楽	☆森，堀江，森川	○○○○(学外) ○○○○(学外)
	美術	☆貞弘（野坂）	○○○○(学外)
同好会	ダンス	☆堀江	
	数学	☆中村真	
特	ロボコン	☆前田，中浦，柳生，椛島	

（出典　学生主事室資料）

資料５－３－①－10

九州地区高専大会成績(団体)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
優勝	陸上 野球 バレー男子 バレー女子 バスケット男	陸上 バレー男子 バレー女子	陸上 ラグビー バレー男子 バレー女子 剣道 水泳	陸上 ラグビー バレー男子 バレー女子 剣道	陸上 ラグビー バレー男子 バレー女子 テニス男子 テニス女子
準優勝	ラグビー 柔道 サッカー テニス	ラグビー 剣道 サッカー		サッカー 水泳 テニス	野球 水泳
３位	ソフトテニス 剣道	バスケット男子 テニス	卓球女子 サッカー テニス	卓球 卓球女子 バトミントン	卓球

九州地区高専大会成績（個人）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
１位	4	8	14	10	14
２位	15	9	15	8	14
3位	14	13	16	15	8

全国高専大会成績（団体）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
優勝	バレー女子	バレー女子	バレー女子		バレー女子
準優勝		バレー男子		バレー女子 剣道 サッカー	陸上
3位	**野球** バレー男子		**バレー男子** 水泳	**バレー男子**	

全国高専大会成績（個人）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1位	1	0	2	1	1
２位	1	0	6	4	4
３位	3	4	0	1	3

（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

設置基準に基づき特別活動の時間が90単位時間以上となるように学則により規定し，１年～３年次において週１時限設け，担任の指導のもとに実施されている。特別活動，各種講演会等，工場見学，部活動や学生会主催の行事等は，教育目標６）を達成できるよう配慮しており，豊かな人間性の涵養につながっている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定，進級，卒業認定規定及び成績評価基準，卒業認定基準は，学則 第６章 教育課程等（資料５－４－①－１）と第８章 課程修了，卒業及び称号（資料５－４－①－２）に規定されている。詳細は，学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則（資料５－４－①－３），他の高専及び高専以外の教育施設における学修等に関する規則（資料５－４－①－４）に定めており，学業成績が60点（成績評語がＣ）以上を合格とする基準を明示し，進級・卒業に必要な取得単位数を規定している。

これら規則の学生への周知は，学生便覧の配布や，新入生オリエンテーションや特別活動時における説明により行っている。各科目の担当教員は，シラバスに必ず評価方法・評価基準を明記し，説明を行っている（観点５－２－②参照)。また,「卒業研究」の評価方法について「研究日誌」に掲載し，周知している（資料５－４－①－５)。なお，履修単位・学修単位の違いはシラバス配布時に説明し，特に学修単位では自己学習の指針に沿って学習することを指示している。自己学習の時間が確保されていることは，演習課題や試験によって確認している。

各科目担当教員は，試験答案を学生へ返却，模範解答を示し，試験成績に関する意見申立を受け，シラバスに明記されたオフィスアワー（資料５－２－②－１参照）にて成績に関する問い合わせの機会を設けている。また，追試験や再試験を実施し，評価方法を規定している（資料５－４－①－３)。

単位認定・進級・卒業に関しては，規則に則り認定・判定されている（資料５－４－①－３，資料５－４－①－６訪問時資料)。

なお，成績評価に使用した試験答案・演習レポート等は，「認証評価用試験答案保存要領（１～３年）」及び「JABEE用試験答案保存要領」に基づき，成績評価の分布図及び成績一覧とともに保管している（資料５－４－①－７～10)。

観点５－４－①資料一覧

（資料５－４－①－１）	学則　第６章　教育課程等	出典：教員必携
（資料５－４－①－２）	学則　第８章　課程修了，卒業及び称号	出典：教員必携
（資料５－４－①－３）	学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則	出典：教員必携
（資料５－４－①－４）	他の高専及び高専以外の教育施設等における学修等に関する規則	出典：教員必携
（資料５－４－①－５）	卒業研究の評価方法について	出典：研究日誌
（資料５－４－①－６）	判定会議資料	訪問時資料
（資料５－４－①－７）	認証評価用試験答案保存要領（１～３年）	出典：教員必携
（資料５－４－①－８）	JABEE 用試験答案保存要領	出典：教員必携
（資料５－４－①－９）	成績単票表紙様式	出典：答案ファイル
（資料５－４－①－10）	成績単票様式	出典：答案ファイル

資料５－４－①－１

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

第６章　教育課程等

（授業を行う期間）

第２２条　１年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，３５週にわたることを原則とする。

（授業科目）

第２３条　授業科目は，一般科目及び学科ごとの専門科目とする。

（教育課程の編成）

第２４条　本校の教育課程は，授業科目及び特別活動により編成するものとする。

２　　授業科目，履修単位及び学修単位は，一般科目にあっては別表第１，専門科目にあっては別表第２のとおりとする。

３　　各授業科目の単位数は，３０単位時間（１単位時間は，標準５０分とする。第７項において同じ。）の履修を１単位として計算するものとする。

４　　前項の規定にかかわらず，校長が定める授業科目については，１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができる。

一　講義及び演習については，１５時間から３０時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。

二　実験，実習及び実技については，３０時間から４５時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。

５　　前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は６０単位を超えないものとする。

６　　前３項の規定にかかわらず，校長は卒業研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

７　　特別活動は，第１学年から第３学年までの各学年毎に３０単位時間計９０単位時間を実施する。

（他の高等専門学校における授業科目の履修）

第２５条　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を，３０単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　　前項に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（高等専門学校以外の教育施設等における学修等）

第２５条の２　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を，本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

２　　前項により認定することができる単位数は，前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。

３　　第１項の規定は，第３２条に定める留学をする場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は３０単位を超えないものとする。

４　　第１項に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（成績）

第２６条　各学年の課程の修了又は卒業を認定するに当たっては，学年の平素の成績を評価して行うものとする。

（再履修）

第２７条　前条の認定の結果，原学年にとどめられた者は，当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－４－①－２

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

第８章　課程修了，卒業及び称号
（各学年の課程修了）
第３５条　各学年において，別に定める課程の修了の条件を満たした者については，校長が当該学年の課程の修了を認定する。
（卒業）
第３６条　本校の全学年の課程を修了した者については，校長が卒業を認定する。
２　　校長は，卒業を認定した者に対して，所定の卒業証書を授与する。
（称号）
第３６条の２　前条により卒業した者は，準学士と称することができる。
（学年の途中の課程修了及び卒業）
第３７条　校長は，特別な必要があり，かつ，教育上支障がないときは，第８条に規定する学年の途中においても，学期の区分に従い，各学年の課程の修了及び卒業を認めることができる。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－４－①－３

佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則

第３章　試験
（定期試験及び中間試験）
第８条　定期試験は各学期末に当該学期において開講した授業科目について実施し、中間試験は各学期の中間に必要がある授業科目について実施する。ただし、平素の成績で評価できる科目（卒業研究、実験、実習、実技及び演習等）については、試験を実施しないことがある。
（追試験）
第９条　次の各号に掲げる理由により定期試験又は中間試験を受けることができなかった者については、原則として追試験を実施する。
一　病気（医師の証明書等がある場合に限る。）
二　忌引（佐世保工業高等専門学校学生準則第１４条に該当する場合に限る。）及び当該忌引に必要な旅行
三　特別欠席（第１７条第３項に該当する場合に限る。）及び当該特別欠席に必要な旅行
四　出席停止（学則第３０条に該当する場合に限る。）
五　その他やむを得ない理由があると校長が認めたとき。
２　第１３条第３項に規定する各学期中間及び前学期末におけるそれぞれの学業成績の評価の結果、60 点未満の授業科目がある者（成績不振者）については、原則として追試験を実施する。
なお、４，５年生については、学年末も追試験を実施する。
３　追試験の成績評価は 100 点法により行い、その最高点は次のとおりとする。
一　第１項第１号の場合は 80 点
二　第１項第２号から第５号の場合は 100 点
三　第２項の場合は 60 点
（再試験）
第１０条　学年末における学業成績の評価の結果、次の各号のすべてに該当する場合には、教員会議の議を経て、再試験を実施する。
一　単位の修得を認定されなかった授業科目が３科目以下であること。
二　学業成績の評価の結果、当該学年における学業成績の平均点が 60 点以上であること。
三　実験、実習（工場実習を除く。）及び卒業研究の単位を修得していること。
四　出席日数が年間の出席すべき日数の４分の３以上であり、かつ、各授業科目の出席した単位時間数が出席すべき単位時間数の４分の３以上であること。
２　再試験は当該年度の指定された日までに実施する。
（不正行為の取扱い）
第１１条　試験において不正行為を行った者については、不正行為を行った時間以降の受験を認めない。また、当該試験期間中におけるすべての試験成績は０点とする。
第１２条　試験以外の成績評価（課題レポート等）において不正を行った者については、当該科目の最終成績を０点とする。

資料５－４－①－３続き

第４章　学業成績の評価

（学業成績の評価）

第１３条　各授業科目の学業成績は、シラバスに記載されている評価方法・評価基準により評価する。

２　前項の規定にかかわらず、定期試験又は中間試験を欠席した者が、やむを得ない特別の事由により追試験を受けることができなかった場合は、当該期間における平素の成績及び出席状況等を考慮して学業成績を評価することができる。

３　各授業科目の学業成績は１００点法により、卒業研究は第１４条第１項に規定する評語により評価する。この場合において、再試験の結果により評価された当該科目の学習成績については、６０点とする。

４　前項の規定にかかわらず、工場実習については、本科工場実習成績評価法により評価することとし、特別活動については、修了又は未修了により判定する。

（成績の評語）

第１４条　学業成績の評語及び評定は、次のとおりとする。

学業成績	１００～８０	７９～７０	６９～６０	５９～４０	３９～　０
評　　語	A	B	C	D	E
評　　定	5	4	3	2	1

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－４－①－４

他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則

（平成２０年１１月２０日制定）

（趣旨）

第１条　佐世保工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第２５条及び第２５条の２の規定に基づき、他の高等専門学校における授業科目の履修（以下「他の高等専門学校における履修」という。）及び高等専門学校以外の教育施設等における学修（以下「大学等における学修」という。）に関し必要な事項は、この規則に定めるところによる。

（定義）

第２条　この規則において、次の各号に掲げる用語の定義は当該各号に定めるところによる。

一　「単位認定」とは、他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等で修得した授業科目及び単位を本校において認定することをいう。

二　「単位振り替え認定」とは、他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等で修得した科目及び単位を本校の授業科目に振り替えて認定することをいう。

三　「技能審査の単位認定」とは、別表に掲げる技能審査試験に合格したものを単位認定することをいう。

（大学等における学修）

第３条　大学等における学修とは、次の各号の一に掲げる学修をいう。

一　大学又は短期大学の専攻科における学修

二　高等専門学校の専攻科における学修

三　専修学校の専門課程に関する修業年限が２年以上のものにおける学修で、本校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

四　技能審査の認定に関する規則（昭和４２年文部省告示第２３７号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査に係る学修で、佐世保工業高等専門学校において高等専門学校の教育に相当する水準を有すると認めたもの

２　前項第４号に規定する学修は、別表に掲げる技能審査とする。

（学修の手続）

第４条　学生が、他の高等専門学校で履修する場合及び前条第１項第１号、第２号及び第３号に規定する教育施設において学修する場合は、大学等における学修許可願（様式第１号）により、校長の許可を受けなければならない。

２　学生交流に基づく場合は、別に定めるところによる。ただし、単位修得の認定申請については本規則によるものとする。

（単位修得の認定申請）

第５条　他の高等専門学校で修得した単位及び大学等における学修で修得した単位の認定を受ける場合は、大学等における学修単位等認定申請書（様式第２号）に単位取得証明書、成績証明書及び合格証明書(写)等を添えて、校長へ申請するものとする。　ただし、本科は、１月末までに申請するものとする。

２　第３条第１項第４号に規定する技能審査に合格した場合は、大学等における学修単位等認定申請書（様式第２号）に合格証明書(写)を添えて、１月末までに校長へ申請するものとする。

（単位修得の認定）

第６条　前条の規定により申請があった単位修得の認定は、校長が行う。この場合において、校長は、単位修得の認定をしようとするときは、教務委員会又は専攻科委員会に諮問するものとする。

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－４－①－５

卒業研究の評価方法について

教務主事

【評価方法】

(1)評価は、各学生の研究途中段階の評価も入れ、年間を通じて評価する。
(2)下記に示す10項目を5段階の評価基準で行い、最終得点は合計点の2倍とする。
(3)最初の7項目は、各学生の研究状況に関して、各指導教員が採点する。
(4)後半の3項目は、卒研審査において学科全教員記名で採点し、その平均をそれぞれの項目の得点とする。
(5)指導教員は、卒研審査のパフォーマンスに関しては、評価を加えない。
(6)中間発表は、評価には直接入れない。(研究途中の評価対象の一部として考慮することは可能)
　中間発表は、各学生の研究進捗状況の確認機会と捉える。

【評価項目】

①研究の背景・関連研究を調査し、研究の目的・意義・到達目標をよく理解しているか。
②社会の要求を解決するために、研究遂行のための計画や方策を複眼的にデザインできているか。
③実験や解析に対して利用可能な情報・技術・手段を駆使するとともに、創造性を発揮して積極的に取り組んだか。
④研究記録(日誌等)を確実に残し、適切に利用しながら、自主的にまた長期間継続的に研究できたか。
⑤指導教員との連携(研究の経過および成果についての協議・討論等)を十分に行なったか。
⑥研究目標に対して十分な達成が得られ、論理的に記述した論文が作成されたか。
⑦研究成果の質・量は充実しているか。
⑧研究の目的および成果が、明確に提示されているか。
⑨発表資料はよく整理され、充実しているか。研究内容が分り易く説明されているか。
⑩適切な質疑応答がなされているか。

【評価基準】

＜ ５ ： 100点に相当。 非常に優れている。AA ＞

卒業・特別研究に取り組む姿勢が非常に意欲的かつ真摯であり、とても良く努力した。研究の計画立案、進行、発展、まとめ方いずれにおいても素晴らしい手腕と独創性を発揮した。その結果、得られた成果および発表には特筆すべきものがある。

＜ ４ ： 80点に相当。 優れている。A ＞

自分から進んで意欲的に卒業・特別研究に取り組み、創意工夫に努めた。研究計画を自分で定め、堅実に研究を進めた。研究計画立案や成果のまとめ方も的確である。得られた結果および発表は優れている。

＜ ３ ： 60点に相当。 やや劣っている。B ＞

卒業・特別研究に取り組む意欲は評価できるものの、取り組む姿勢は、ごく一般的なレベルにとどまっている。また、研究内容も指導教員の指示に従うことに終始し、創意工夫があまり見られなかった。研究計画やまとめはしっかりと行われているが、得られた結果および発表に見るべきものは少ない。

＜ ２ ： 40点に相当。 劣っている。C ＞

卒業・特別研究に割り当てられた時間内でも取り組む姿勢に積極性が感じられなかった。実際に取り組んだ時間も少ない。創意工夫が乏しく研究計画も自分では作成していない。結果のまとめ方や発表内容も不十分である。

＜ １ ： 20点に相当。 非常に劣っている。D ＞

卒業・特別研究に取り組む時間が少なく、ほとんど研究を進めていない。指導教員の指示にほとんど従わず、研究計画立案や結果のまとめ方もいい加減である。研究の内容および結果に創意工夫の跡が全くなく、発表も拙劣である。

(出典　研究日誌)

資料５－４－①－７

H20.9.30

認証評価用試験答案保存要領（1～3年）

通常時のファイル保存要領
　基本的にJABEEの保存要領に準ずるが、授業態度や出席状況を評価に入れても良い。但し、その場合は評価方法を明記し、表として保存する。（例：工学実験における授業態度：一覧表）

【試験答案保存】：以下を必要条件として保存する。
(1)各教員は受審年度の前年度までの５年間の試験答案（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末：4回分すべて。追試、再試分も含む）を保管する。保存媒体は、原本、コピー、PDFを問わない。保管は各教員室、JABEE室、JABEE資料保管室（新設）のいずれかに保管する。
(2)３月末に、前期中間、前期期末、後期中間、後期期末のいずれか２回分の全員のファイルに綴じJABEE室内に保管する(追試、再試分も含む)。隔年度毎に２回ずつ保管することで、２年度毎に１年（４回）分がJABEE室内に常に保管されている形にする。JABEE室内には直近の２年間分が保管される。（PDF形式も同様）
(3)保存ファイルには、(2)の答案に加えて、各年度毎の①成績単票（内表紙）、②成績表紙、③保管表示シート、④シラバスが紙媒体として添付されている事とする。また、1年分の⑤教科書、⑥ノートが同梱包されていること（担当者や内容変更があった場合、その都度梱包）。なお、小テスト、レポートを評価に入れる場合は、成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。
(4)JABEE室内にある3年前の答案は、新年度初めに各先生に返却する。PDFの場合は5月頭にJABEE室内のPCから、教務主事室で消去する。
(5) 6年以上前の答案は各教員で消去もしくは廃棄する。

[非常勤講師の答案について]
　①平成20年度前期中間、前期期末、後期中間の３回分は、各学科長が保管する。
　②後期期末試験終了後に非常勤職員を雇用し、【試験答案保存】(1)～(5)に従って、非常勤職員がファイリングする。
　③ファイリング方法（PDFか、紙媒体か）は、各学科に委任する。

[電子ファイルの管理]
①各担当教員が責任を持って管理保管（保存）する。
②PDFファイルは、パスワード（パスワードは各自管理）をつけることも、ファイルそのものを自分のPCに移動させて管理する事も可とする。
③パスワードをつけた場合は、審査当日にパスワードを審査員に提示する。ファイルを自分のPCで管理する場合、審査当日には必ずJABEE室内のPC内に移動させる。
④閲覧用のコンピュータは外部のLANには繋げない。
⑤JABEE室は常時施錠する。鍵の管理は教務係で行う。
⑥メモリー等からHDへの読み書きは原則自由とする。但し、セキュリティーに関しては各担当教員が責任を持つ。

【小テスト、演習、宿題、学習レポート】
(1)全ての採点結果を記した採点表を残し、保存ファイルに添付、JABEE室内に保管する。（小テスト、演習、宿題等は極力学生に返却する。）
(2)ただし証拠として、どれか1回分の全員分の資料（1行）、もしくは1回分の全員分の小テスト（1列）を保管する。（ファイリングする必要はない）
(3)小テスト、レポートを評価に入れる場合は、成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。

【製図、実習等実技科目】
(1)【小テスト、演習、宿題、学習レポート】に従い、製作品や報告書は、担当教員が保管する。ファイルできない製作品は、写真撮影して保存する。
(2) ３月末に、JABEE室内には、①成績単票（内表紙）、②成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加えて、もしあれば⑤教科書、⑥ノート、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して保管する。製作品や報告書は担当教員が保管する。

【実験】
(1)【試験答案保存】に従い、実験報告書は、全て担当教員が保管する。
(2)保存ファイリング作業は,原則として学科長が担当する。(学科で担当者を決めてもよい)
(3)３月末に、JABEE 室内には、①JABEE 用成績単票（内表紙）、②JABEE 用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、⑤実験テーマ一覧表(実験計画表等)、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して JABEE 室内に保管する。

【卒業研究】
(1) 【試験答案保存】に従い、「卒業論文」は全て担当教員が保管する。
(2) ①JABEE 用成績単票（内表紙）、②JABEE 用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加え⑤研究テーマ一覧表(学生名,教員名記載)、⑥評価（採点）集計表、⑦講演概要集を，ファイルして JABEE 室内に保管する。保存ファイリング作業は,原則として学科長および専攻科長が担当する。
(3)「研究日誌」は、全て卒業研究の指導教員が保管する。

【その他、注意事項】
(1)成績単票は、再試験前のものとし、再試験に合格した場合は、「備考欄」に「再試合格」と記す。
(2)紙媒体の答案を破棄する場合は必ずシュレッダーを用いる。もしくは年1回、学内の不要な公文書とともに、教務主事室でまとめて事業ゴミとして焼却処分する。
(3) 小テスト、レポート、宿題、卒研や特研の研究日誌等、評価対象となる資料は、JABEE 室内での保管の義務がないものもすべて担当教員（卒研や特研の指導教員）が保存しておき、認証評価対応委員による検査等の要求に即対応できるようにしておく。

（出典　教員必携）

資料５－４－①－８

H20.9.30

JABEE用試験答案保存要領

通常時のファイル保存要領
　毎年度末までに、以下の【試験答案保存】【小テスト、演習、宿題、学習レポート】【製図、実習実技科目】【実験】【卒業研究、特別研究】に準じて保管（保存）する。

【試験答案保存】：以下を必要条件として保存する。
(1)各教員は受審年度の前年度までの５年間の試験答案（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末：4回分すべて。追試、再試分も含む）を保管する。保存媒体は、原本、コピー、PDFを問わない。保管は各教員室、JABEE室、JABEE資料保管室（新設）のいずれかに保管する。
(2)３月末に、前期中間、前期期末、後期中間、後期期末のいずれか２回分の全員のファイルに綴じJABEE室内に保管する(追試、再試分も含む)。隔年度毎に２回ずつ保管することで、２年度毎に１年（４回）分がJABEE室内に保管されている形にする。JABEE室内には直近の２年間分が保管される。（PDF形式も同様）
(3)保存ファイルには、(2)の答案に加えて、各年度毎の①JABEE用成績単票（内表紙）、②JABEE用成績表紙、③保管表示シート、④シラバスが紙媒体として添付されている事とする。また、1年分の⑤教科書、⑥ノートが同梱包されていること（担当者や内容変更があった場合、その都度梱包）。なお、小テスト、レポートを評価に入れる場合は、JABEE用成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。
(4)JABEE室内にある3年前の答案は、新年度初めに各先生に返却する。PDF形式も同様。PDFの場合はJABEE室内のPCから、年度初めに教務主事室で消去する。
(5) 6年以上前の答案は各教員で消去もしくは廃棄する。

[非常勤講師の答案について]
　①前期中間、前期期末、後期中間の３回分は、各学科長が保管する。
　②後期期末試験終了後に非常勤職員を雇用し、【試験答案保存】(1)～(5)に従って、非常勤職員がファイリングする。
　③ファイリング方法（PDFか、紙媒体か）は、各学科に委任する。

[電子ファイルの管理]
①各担当教員が責任を持って管理保管（保存）する。
②PDFファイルは、パスワード（パスワードは各自管理）をつけることも、ファイルそのものを自分のPCに移動させて管理する事も可とする。
③パスワードをつけた場合は、審査当日にパスワードを審査員に提示する。ファイルを自分のPCで管理する場合、審査当日には必ずJABEE室内のPC内に移動させる。
④閲覧用のコンピュータは外部のLANには繋げない。
⑤JABEE室は常時施錠する。鍵の管理は教務係で行う。
⑥メモリー等からHDへの読み書きは原則自由とする。但し、セキュリティーに関しては各担当教員が責任を持つ。

【小テスト、演習、宿題、学習レポート】：成績評価に用いる場合
(1)全ての採点結果を記した採点表を残し、保存ファイルに添付、JABEE室内に保管する。（小テスト、演習、宿題等の原本は極力学生に返却する。）
(2)ただし証拠として、①代表的な学生1名分の全てか（1行）、もしくは、②前期中間、前期期末、後期中間、後期期末の各試験に対し、それぞれ1回分の全員分の小テスト(4列)を保管する。但し、JABEE室内にファイリングする必要はない。
(3) 小テスト、レポートを評価に入れる場合は、JABEE用成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。

【製図、実習等実技科目】
(1)【試験答案保存】に従い、製作品や報告書は、全て担当教員が保管する。ファイルできない製作品は、写真撮影して保存する。数が多い場合は、上記【小テスト、演習、宿題、学習レポート】に従い保存する。
(2) ３月末に、JABEE室内には、①JABEE用成績単票（内表紙）、②JABEE用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加えて、もしあれば⑤教科書、⑥ノート、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して保管する。（製作品や報告書は担当教員が保管）

【実験科目】
(1)【試験答案保存】に従い、実験報告書は、全て担当教員が保管する。
(2)保存ファイリング作業は,原則として学科長が担当する。(学科で担当者を決めてもよい)
(3)３月末に、JABEE 室内には、①JABEE 用成績単票（内表紙）、②JABEE 用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、⑤実験テーマ一覧表(実験計画表等）、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して JABEE 室内に保管する。

【卒業研究,特別研究】
(1) 【試験答案保存】に従い、「卒業論文」、「特別研究論文」は全て担当教員が保管する。
(2) ①JABEE 用成績単票（内表紙）、②JABEE 用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加え⑤研究テーマ一覧表(学生名,教員名記載)、⑥評価（採点）集計表、⑦講演概要集を，ファイルして JABEE 室内に保管する。保存ファイリング作業は,原則として学科長および専攻科長が担当する。
(3)「研究日誌」は、全て卒業研究の指導教員が保管する。

【その他、注意事項】
(1)成績単票は、再試験前のものとし、再試験に合格した場合は、「備考欄」に「再試合格」と記す。
(2)紙媒体の答案等成績に関与した資料を破棄する場合は必ずシュレッダーを用いる。もしくは年1回、学内の不要な公文書とともに、教務主事室でまとめて事業ゴミとして焼却処分する。学生に返却する場合はこの限りでない。
(3)小テスト、レポート、宿題、卒研や特研の研究日誌等、評価対象となる資料は、**JABEE** 室内での保管の義務がないものもすべて担当教員（卒研や特研の指導教員）が保存しておき、JABEE 委員による検査等の要求に即対応できるようにしておく。

（出典　教員必携）

資料５－４－①－９

平成 24 年度

科目名	設計法	担当者	沖新　太郎

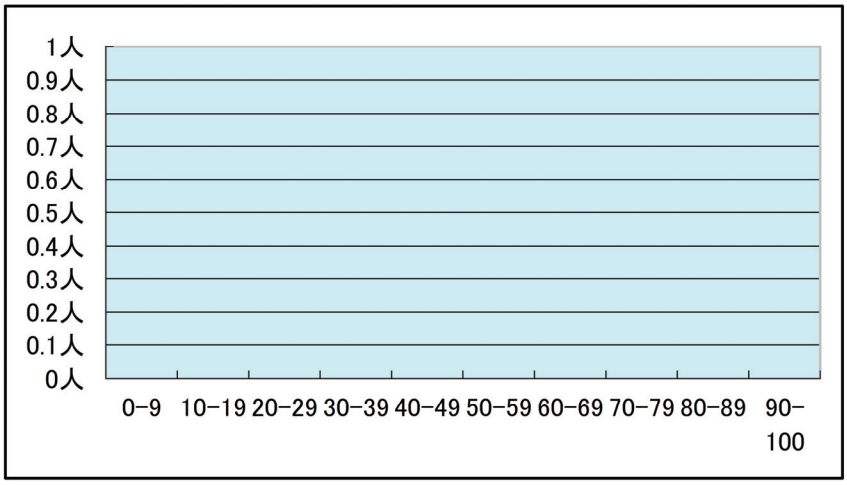
本　科	2	年	通年	機械	工学科	必修

単位数	2	単位
受講者数	0	人

学年授業時数	0

平均点	0.0
最高点	0
最低点	0

優	0	人	≧80
良	0	人	≧70
可	0	人	≧60
不可	0	人	＜60



チェックリスト
- □シラバス
- □成績単票
- □問題用紙と模範解答
- □60点台の全答案
- □50点台の答案数例
- □優秀答案
- □追試答案
- □演習、レポート等（評価使用時）
- □教科書＆ノート

備考欄

	提出時サイン	日付		保存確認サイン	日付
担当者		／	学科長		／

（出典　答案ファイル）

資料５－４－①－10

平成 24 年度　成績単票

C= (A+B)/2
E= (A+D)/2
H= (F+G)/2
X= (E+H)/2 or
X= (A+D+F+G)/4

科目　設　計　法

2　年　M　組　　単位数 2 単位　　科目担当者　沖新　太郎　印

番号	氏名	受講	成績評価												欠課時数				備考
			前期					前期追試後	後期				後期追試後	学年成績	前期		後期	学年	
			中間		定期	前期成績	定期		中間		定期				中間	定期	中間		
			成績	追試後 A	成績 B	C	追試後 D	E	成績	追試後 F	成績	追試後 G	H	X	授業時数	授業時数	授業時数	授業時数	
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
22																			
23																			
24																			
25																			
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
31																			
32																			
33																			
34																			
35																			
36																			
37																			
38																			
39																			
40																			
41																			
42																			
43																			
44																			
45																			
46																			
47																			
48																			
49																			
50																			
51																			
52																			
53																			
54																			
55																			
総計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人員			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平均			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					

（出典　答案ファイル）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定や進級・卒業の判定に関する規定を定め，学生便覧および本校ウェブサイト掲載により学生への周知を図っている。シラバスに評価方法・評価基準，履修単位や学修単位の別について明記し，説明を行っている。単位認定・進級・卒業に関しては，規則に則り，慎重かつ厳格な運用のもと認定・判定を行っている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育との発展等を考慮した教育課程となっているか。

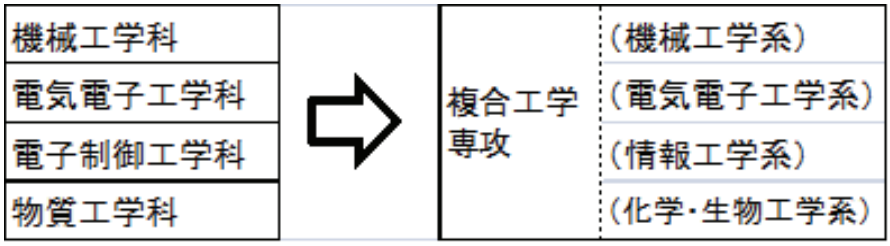
（観点に係る状況）

専攻科課程は，教育理念および４項目の教育目標に基づき融合的知識や複眼的視野をもつ「もの創り技術者」の育成を行っており，複合工学専攻の１専攻４系は準学士課程の４学科に対応することで準学士課程の教育と連携している（資料５－５－①－１，２）。

専攻科の各授業科目における準学士課程との連携は，本校の教育目標を達成するための流れ図（資料５－１－①－９参照）で示されており，本校の教育目標１）２）３）５）に関する各専門科目の発展だけでなく，教育目標４）６）に関する語学や数学，社会・倫理等の一般科目との連携もなされている。

資料５－５－①－１

準学士課程と専攻科の連携図



（出典　専攻科履修の手引き）

資料５－５－①－２

【専攻科の教育目標】

①　自己の専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、化学・生物工学）について、より深い専門性を養う。

②　他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識も身につけ、複合化、高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力を養成する。

③　地球的な視野での倫理観と豊かな創造性、実践力を養成する。

④　国際水準の技術者を目指す。（ＪＡＢＥＥ認定，２００５年５月）

（出典　専攻科募集要項）

観点５－５－①資料一覧

（資料５－５－①－１）準学士課程と専攻科の連携図　　出典：専攻科履修の手引き

（資料５－５－①－２）専攻科の教育目標　　出典：専攻科募集要項

（分析結果とその根拠理由）

１専攻４系からなる専攻科の教育課程は，準学士課程の４学科と連携させ，発展させた構成となっている。一般科目については，専攻科では引き続き発展的に学習できるようにしている。また，専門科目については，さらに深い専門性を養えるよう連携しつつ，他分野の専門的基礎知識をも学ぶ複合型教育として，複眼的視野をもつ「もの創り技術者」の育成を目指したものとなっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程の体系性が確保されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の教育は，深い専門性を養いつつ他分野の専門的基礎知識をも学ぶ複合型教育であり，地球的視点での倫理観や国際性を有する技術者の育成を行なうものとなっている（資料５－５－②－１）。

そのカリキュラムは，「一般科目」「専門基礎科目」「専門科目」から構成されている（資料５－５－②－２）。必修として履修する「専門基礎科目」及び「専門科目」は，複眼的視野を養成する科目として開講しており，選択科目は自系のほかに他系の科目も履修できるように配慮することで，複合的な教育が実践できるようにしている。なお，「特別研究」と「長期インターンシップ」の履修については開講時期を配慮している（資料５－５－②－３）。

教育目標①に関しては，各系における高度な「専門科目」を配置することで対応している。

教育目標②に関しては，各系共通の「専門基礎科目」の他に，他系の科目も必修および選択で数多く履修できるように配置している。「総合創造実験」は，機械，電気，情報，化学・生物系の基礎実験を他系の学生が受講するもので，その実験指導は自系の学生が準備・計画・実施する。この科目を通して，他系の内容を理解するとともに，自系の内容をさらに深く理解することになる。また，「総合創造演習」は，異なる系の学生で３～４人の班を編成し，マイコン制御による自律移動型マシンを製作することで，対戦方式の競技課題に取り組む科目である。班員が互いに協力しながら設計から部品購入・コスト計算・製作・発表まで行い，複眼的な課題探究能力を養成する目的に対応する。

教育目標③に関しては，「環境論」「技術と哲学」「国際協力論」等を配置し，オムニバス授業方式の「技術者総合ゼミ」では，学内外の講師による各種講演会や企業等の見学会，また学生によるディベート等を行っている。これらは，地球的な視野での倫理観を修得し，発表や討論により実践力を養うことに寄与している。

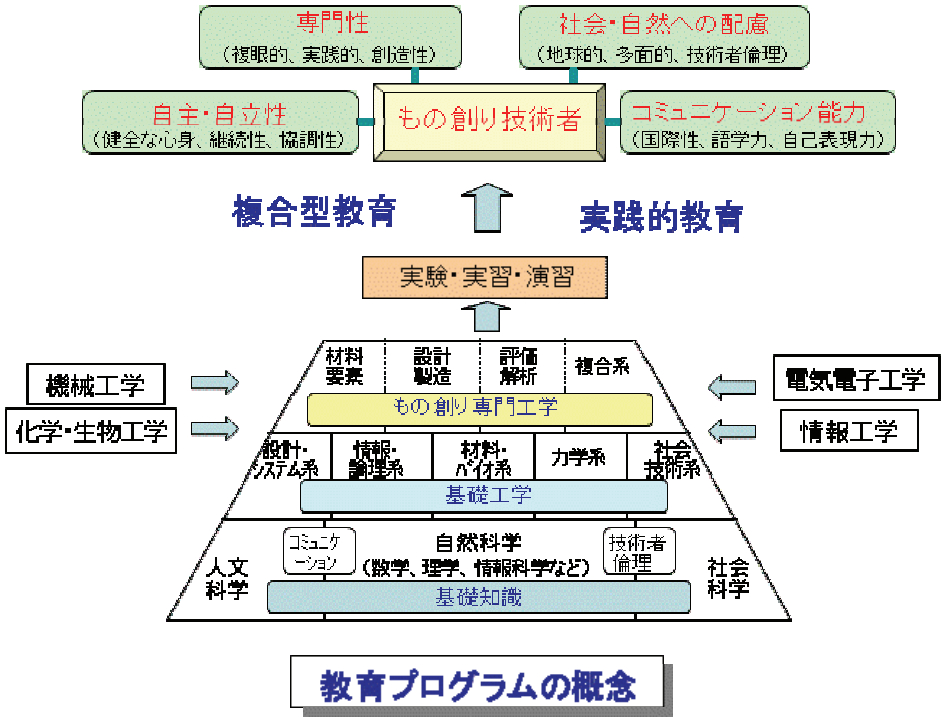
教育目標④に関しては，英語力の向上を図るために，英語の科目を１・２年次ともに配置することで対応している。その中で「応用コミュニケーション」は外国人講師による授業であり，英語によるプレゼンテーションを実施することで，実践的な英語力を身につけるようにしている。

観点５－５－②資料一覧

（資料５－５－②－１）専攻科の教育概念図	出典：専攻科履修の手引き
（資料５－５－②－２）専攻科教育課程	出典：教員必携
（資料５－５－②－３）平成 24 年度　本科・専攻科時間割（後期）	出典：学生課資料

資料５－５－②－１

専攻科の教育概念図



（出典　専攻科履修の手引き）

資料５－５－②－２

別表第3(第50条関係)

専　攻　科　教　育　課　程

平成24年度以降入学
一般科目及び専門基礎科目

授業科目			単位数	標準履修年次	備考
一般科目	必修科目	日本語表現法	2	1年	
		総合英語Ⅰ	2	1年	
		総合英語Ⅱ	2	2年	
		応用コミュニケーション	1	1年	
		数理科学Ⅰ	2	1年	
		数理科学Ⅱ	2	1年	
		一般化学	2	1年	
		必修科目修得単位数計	13		
	選択科目	技術と哲学	2	2年	4単位以上修得
		国際協力論	2	1年	
		対外交渉史論	2	1年	
		社会福祉論	2	1年	
		選択科目開設単位数計	8		
		選択科目修得単位数計	4以上		
	一般科目修得単位数計		17以上		
専門基礎科目	必修科目	技術者総合ゼミⅠ	2	1年	
		技術者総合ゼミⅡ	1	2年	
		総合創造実験	2	1年	
		総合創造演習	2	1年	
		現代物理学	2	1年	
		数値解析	2	1年	
		機能材料論	2	1年	
		環境論	2	1年	
	専門基礎科目修得単位数計		15		
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計			36		
一般科目及び専門基礎科目修得単位数計			32以上		

資料５－５－②－２続き

別表第4（第50条関係）

平成24年度以降入学
専門科目

授業科目			単位数	標準履修年次	系	備　考
専門科目	必修科目	特別研究	8	2年		
		科学英語文献ゼミ	2	2年		
		固体力学	2	1年		
		生命科学	2	1年		
		情報基礎論	2	1年		
		必修科目修得単位数計	16			
	選択必修科目	場の力学	2	1年	機	10単位修得
		粘性流体力学	2	1年	機	
		精密加工特論	2	1年	機	
		機械振動論	2	1年	機	
		画像情報工学	2	1年	電情	
		通信方式	2	1年	電情	
		電気エネルギー応用	2	1年	電情	
		触媒プロセス工学	2	1年	化生	
		工業分析化学	2	1年	化生	
		酵素工学	2	1年	化生	
		熱流動工学	2	2年	機	
		情報科学	2	2年	電情	
		知識情報工学	2	2年	電情	
		有機化学特論	2	2年	化生	
		無機工業化学	2	2年	化生	
		選択必修科目開設単位数計	30			
		選択必修科目修得単位数計	10			

資料５－５－②－２続き

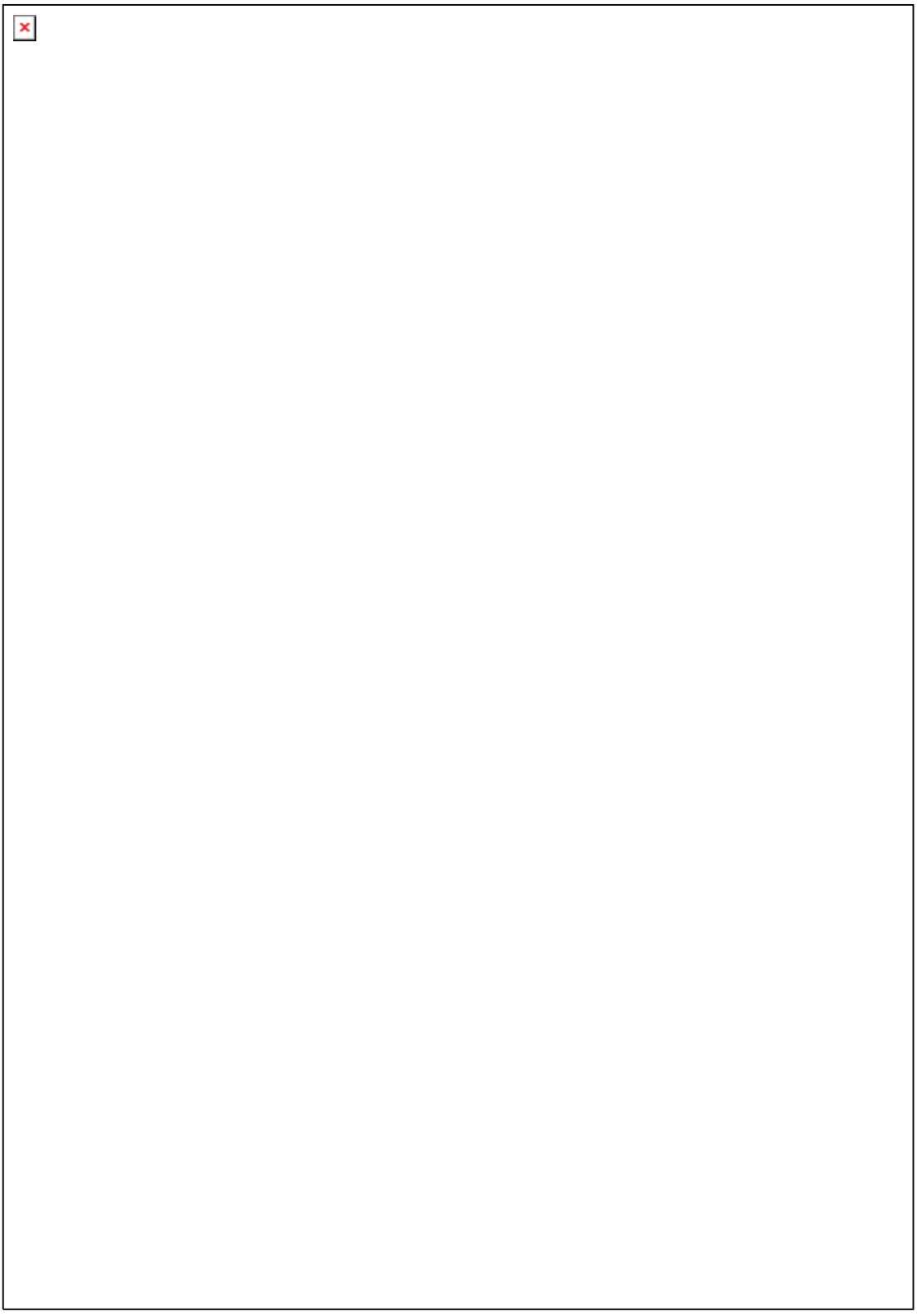
別表第4（第50条関係）

平成24年度以降入学
専門科目

授業科目			単位数	標準履修年次	系	備　考
専門科目	選択科目	製造システム論	2	1年	機	6単位以上修得
		ソフトウェア科学概論	2	1年	電情	
		電気回路特論	2	1年	電情	
		高分子工学	2	1年	化生	
		植物学特論	2	2年	化生	
		電気通信概論	2	1，2年	電情	
		流れ学	2	2年	機	
		破壊強度論	2	2年	機	
		応用計測工学	2	1年	機	
		応用力学解析法	2	2年	機	
		工業計測学	2	2年	機	
		メカトロニクス工学	2	2年	電情	
		材料科学	2	2年	電情	
		放電工学	2	2年	電情	
		電磁気学特論	2	2年	電情	
		生産システム工学	2	2年	電情	
		構造生物化学	2	2年	化生	
		移動現象論	2	1年	化生	
		応用物理化学	2	2年	化生	
		インターンシップ	2	2年	共	
		選択科目開設単位数計	40			
		選択科目修得単位数計	6以上			
専門科目開設単位数計			86			
専門科目修得単位数計			32以上			
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計			36			
一般科目及び専門基礎科目修得単位数計			32以上			
開設単位数総計			122			
修得単位数総計			64以上			

（出典　教員必携　抜粋）

資料５－５－②－３



（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の授業科目は，深い専門性を養いつつ，他分野の専門的基礎知識も学ぶ複合型教育による技術者育成のため，カリキュラムは「一般科目」「専門基礎科目」「専門科目」から構成されている。また，実践的な複合型もの創り教育として，「総合創造実験」「総合創造演習」「技術者総合ゼミ」など効果的な授業を展開している。このように，授業科目は教育目的に照らして適切に配置され，教育課程は体系的に編成され，その教育内容も目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズ，学術の発展の動向等に対応するために，以下の配慮を行っている。

（ａ）専攻科の改組

平成９年に準学士課程の４学科の上に３専攻で設立された専攻科課程を，高専機構の第２期中期計画に基づき平成24年度に１専攻４系に改組した。これにより，更に複合融合教育を発展させると同時に，様々な分野の修得を希望する学生のニーズや社会からの要請に配慮している。

（ｂ）他の高等教育機関で取得した単位の認定

他の高等教育機関で取得した単位については，学則第25条に関する規則（資料５－４－①－４参照）に基づいた専攻科の履修に関する規程を設けている（資料５－５－③－１）。また，長崎県内の12大学と「NICEキャンパス長崎（大学間単位互換制度）」も結んでいる（資料５－５－③－２）。実例として，単位互換に関する協定書に沿った九州高専サマーレクチャーがあり，平成23年度には２名の学生が，平成24年度には１名の学生が，単位認定を受けている（資料５－５－③－３，４）。

（ｃ）インターンシップの単位認定

選択科目「インターンシップ」については，実施要項を定めており（資料５－５－③－５，６），報告会を行うことで単位認定が行われる（資料５－５－③－３，４）。

なお，学術交流協定を締結している中国の厦門理工学院への短期留学はインターンシップとして認定されている（資料５－５－③－７）。

（ｄ）英語関連の授業の実施

１・２年次に「総合英語」の授業を開講し，TOEIC関連教材や工学系の技術英語の教材を用いている。また，外国人講師により行う「応用コミュニケーション」では，英語によるプレゼンテーションを実施している。さらに，eラーニングを導入することで，学生の自学自習のニーズを満たすようにしている。

観点５－５－③資料一覧

（資料５－５－③－１）	専攻科の授業科目の履修等に関する規程	出典：教員必携
（資料５－５－③－２）	NICE キャンパス長崎　協定書	出典：学生課資料
（資料５－５－③－３）	平成 23 年度　第 7 回専攻科委員会議事要旨	出典：学生課資料
（資料５－５－③－４）	平成 24 年度　第 7 回専攻科委員会議事要旨	出典：学生課資料
（資料５－５－③－５）	インターンシップの実施要項	出典：教員必携
（資料５－５－③－６）	インターンシップ報告書様式	出典：教員必携
（資料５－５－③－７）	インターンシップ報告書	訪問時資料

資料５－５－③－１

佐世保工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第５２条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（専攻・系）

第２条　複合工学専攻は、学位申請区分により、機械工学系、電気電子工学系、情報工学系及び化学・生物工学系の４系列に区分し、在籍する学生は、いずれか一つの系列を必ず選択しなければならない。

（授業方法）

第３条　専攻科の授業は、講義、演習、実験若しくは実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

（履修方法）

第４条　専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める「受講申告書」を所定の期日までに校長に、提出しなければならない。

２　前項の規定に基づき提出された「受講申告書」について、校長が必要と認めるときは、「受講申告書」の再提出を求めることができる。

（試験）

第５条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

２　定期試験は、各学期末に実施する。

３　追試験は、次の各号の一に掲げる事由により定期試験を受験することができなかった者のうち、別に定める「追試験受験願」を所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。

一　疾病（医師の診断書を要する。）

二　忌引

三　その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合

４　再試験は、第６条に定める成績の評点が６０点未満であった者のうち、別に定める「再試験願」を所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。

（成績の評価）

第６条　成績は、授業科目ごとに第５条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。

２　成績の評語及び評点は、次の区分による。

評　語	A	B	C	D
評　点	100～80	79～70	69～60	59～0

３　前項の評価は、各授業科目とも出席すべき授業時間数の４分の３以上の出席をしたものに対して行う。

４　再試験により合格した授業科目の評点は、６０点とする。

資料５－５－③－１続き

（単位の認定）

第７条　前条第２項の規定に基づき、評語がＡ、Ｂ及びＣに評価された授業科目については、当該授業科目を修得したものとして、単位を認定する。

（再履修）

第８条　第４条第１項に規定する試験の結果、Ｄに評価された授業科目のうち、修得する必要がある授業科目については、原則として次年度に再履修するものとする。

（修了要件）

第９条　校長は、次の各号すべてに該当するときは、修了を認定する。

一　専攻科に２年以上在籍し、所定の授業科目を履修し、６４単位以上（一般科目１７単位以上、専門基礎科目１５単位、専門科目３２単位以上）を修得していること。

二　本校において別に定める『技術者教育プログラム「複合型もの創り工学」の履修等に関する規程』のプログラム修了要件（第７条）を満たすこと。（ただし、第７条（２）及び（５）を除く。）

（大学等における学修等）

第１０条　大学等で開設されている授業科目を履修しようとするときは、事前に校長に、その許可を受けなければならない。

２　大学において修得した単位は、１６単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位を認定することができる。

３　前２項に関し必要な事項は、別に定めるところによる。

（「複合型もの創り工学」教育プログラム）

第１１条　本校に、日本技術者教育認定のために「複合型もの創り工学」を置く。

２　「複合型もの創り工学」教育プログラムについては、別に定める。

附　則

１　この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

２　佐世保工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程（平成９年４月１日制定）は、廃止する。

附　則

この規程は、平成２０年１１月２０日から施行し、平成２０年４月１日から適用する。

附　則

この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２３年５月１１日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

附　則

この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２５年４月１日から施行する。

（出典　教員必携）

資料５－５－③－２

長崎県における大学間の単位互換に関する協定書
（NICEキャンパス長崎）

平成１２年１０月１２日
平成１４年　２月２６日
平成１５年　２月１３日
平成１６年　４月　１日

長崎県内の大学、短期大学及び工業高等専門学校は、少子化の進行や教育に対するニーズの多様化など大学を取り巻く厳しい環境の中で、各々が魅力ある大学づくりに取り組むとともに、相互交流を緊密にした大学間連携を促進することにより、県内高等教育の充実と地域貢献の推進を図ることが必要との認識から、次により単位互換を行うことに合意する。

また、長崎県は、単位互換を推進するため環境整備に努める。

（制度の目的）

第１条　この制度は、各大学、短期大学及び工業高等専門学校が、それぞれの特色ある授業科目を相互に活用することによって、学生の主体的な学習意欲に応じ、有能な社会人の育成を目指すことを目的とする。

（制度の呼称）

第２条　この協定に基づき実施する単位互換制度は、「ＮＩＣＥキャンパス長崎」と称する。

（受入れ）

第３条　この協定に参加する大学、短期大学及び工業高等専門学校（以下「参加大学」という。）に在学する　学生が他の参加大学が指定する授業科目を履修し単位の修得を希望するときは、授業科目を開設する大学、短期大学及び工業高等専門学校（以下「科目開設大学」という。）の学長又は校長は、当該学生を可能な限り受け入れる。

（受入れ学生の呼称）

第４条　前条により各参加大学が受け入れる学生は、「単位互換履修生」と称する。

（履修期間）

第５条　単位互換履修生の履修期間は、別に定める。

（授業科目の範囲及び単位数）

第６条　単位互換履修生が履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、別に定める。

（受入れ学生数）

第７条　各参加大学が受入れる学生数は、別に定める。

（受入れ手続）

第８条　単位互換履修生の受入れ手続は、別に定める。

（履修方法等）

第９条　単位互換履修生の履修方法及び試験実施方法については、科目開設大学の定めるところによる。

（単位の授与等）

第１０条　単位互換履修生が履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、科目開設大学の定めるところによる。

２　前項の規程により、単位を授与された授業科目の認定等の取扱いは、学生が所属する大学、短期大学及び工業高等専門学校の定めるところによる。

資料５－５－③－２続き

（授業料等）
第１１条　単位互換履修生の検定料、入学料及び授業料は、徴収しない。
（有効期間）
第１２条　本協定書の有効期間は、平成１６年４月１日から平成１９年３月３１日までとする。
２　この協定は、有効期間満了日の９０日前までに、参加大学から文書による申し出がない限り、３年間延長するものとし、その後において期間満了するときもまた同様とする。
（疑義の決定）
第１３条　この協定に定めのない事項又はこの協定に定める事項に疑義が生じたときは、参加大学が協議して定めるものとする。

附　則
この協定は、平成１３年４月１日から適用する。

附　則（平成１４年２月２６日長崎外国語大学新規加盟）
この協定は、平成１４年４月１日から適用する。

附　則（平成１５年２月１３日長崎ウエスレヤン大学新規加盟及び長崎ウエスレヤン短期大学退会）
この協定は、平成１５年４月１日から適用する。

附　則（平成１６年４月１日佐世保工業高等専門学校新規加盟）
この協定は、平成１６年４月１日から適用する。

長　崎　大　学
学　長　齋藤　寛

長　崎　県　立　大　学
学　長　平山祐次

県立長崎シーボルト大学
学　長　武藤　真弓

長　崎　総　合　科　学　大　学
学　長　山邊時雄

（出典　学生課資料）

資料５－５－③－３

平成２３年度　第７回専攻科委員会議事要旨

１．期　日　　平成２３年１１月１日（火）１６：１０～１６：３１
２．場　所　　小会議室
３．出席者　　専攻科長，教務主事，寮務主事，学生主事，専攻科副科長（原，南部，田中，田崎），学生課長
４．欠席者　　坂口副科長
５．列席者　　学生課長補佐，教育支援係長，専門職員（入試）

【報　告】
略

【議　題】
１．サマーレクチャー受講者の単位認定について
原副科長から，別紙資料に基づき説明があり，選択科目「ものづくりの現場から（２単位)」として認定することが了承された。

略
３．インターンシップ単位認定審査会の実施方法について
専攻科長から，今年度の審査会の実施方法について検討願いたい旨の提案があり，1/12（木）技術者総合ゼミ「インターンシップ報告会」で実施することとなった。
また，審査委員として副科長は全員出席すること，インターンシップ報告会の発表内容は，審査会向けの内容とすることが確認された。

以　上

（出典　学生課資料　抜粋）

資料５－５－③－４

平成２４年度　第７回専攻科委員会議事要旨

１．期　日　　平成２４年１１月１日（木）１６：１０～１６：３０
２．場　所　　小会議室
３．出席者　　専攻科長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科副科長（中江、高比良、田中、牧野)、学生課長、嶋田（坂口副科長代理）
４．オブザーバー　　南部電気電子工学科長
５．列席者　　学生課長補佐、教育支援係長、専門職員（入試）

【報　告】
略
【議　題】
１．サマーレクチャー受講者の単位認定について
専攻科長から、別紙資料に基づき説明があり、選択科目「マルチメディア表現と技術（２単位)」として認定することが了承された。
略
５．インターンシップ単位認定審査会の実施方法について
専攻科長から、審査会の実施方法について検討願いたい旨の依頼があり、検討の結果、12/20（木）の技術者総合ゼミ「インターンシップ報告会」で実施することとなった。
また、審査員として副科長は全員出席すること、発表内容は審査会向けの内容とすることが確認された。

以　上

（出典　学生課資料　抜粋）

資料５－５－③－５

インターンシップの実施要項

佐世保工業高等専門学校専攻科

１．目　的

我国が国際化・情報化するに伴い、自主的・自立的に行動し、コミュニケーション能力などの人間力の向上や独創的な発想ができる能力など、問題解決能力を具えた人材の育成が求められている。このような背景のもと、インターンシップでは、高い職業意識の育成を図ることを目的とし、企業等の現場での体験を通して、現実の課題に取り組むことにより実務能力を高める。さらには学生の学修目的が明確になり、新たな学修意欲を喚起させるとともに自己の職業適性や将来設計について考える機会となることを目指す。

２．実施内容

（１）対象学年：専攻科２年生

（２）実施時期：原則として専攻科２年生後期に実施

（３）実施期間：約１ケ月を基本とする（最低３週間は確保すること）

（４）授業科目：選択科目「インターンシップ」２単位

（５）実 習 先：長崎県産業振興財団に加盟し「ベンチャーサロン・サセボ」に参加する企業をベースにし、長崎工業会加盟企業など学生が通勤可能な地元企業を中心に行う。また、長崎県公共機関及び県内大学・短大間単位互換制度への加入校に加えて、小中学校での実習も対象とする。

（６）担 当 者：受け入れ先への打診や依頼、調整等の学生指導は、主として各専攻の専攻科副科長が行う。なお、全体のとりまとめは専攻科委員会で行い、実施責任者は専攻科長とする。

（７）実習内容：受け入れ先から提示されたものをもとに、学生と実習先で調整する。

（８）巡回指導：実習期間中は当該学生の所属する専攻科副科長ならびに特別研究担当教員が分担して、期間中１回は巡回し、状況を把握するとともに、改善点があれば是正に務める。

（９）報 告 書：インターンシップ報告書（別紙）と日誌を作成し、受け入れ先と学校に提出する。

（10）実習評価：受け入れ先が評価書（別紙）を学校に提出する。

（11）評 価 法：本人の報告書及び発表会と企業からの評価書をあわせて行う。

（12）報　　酬：原則として無報酬。

３．保　険

（１）参加学生は全員必ず加入する。

（２）学生自身の事故：「独立行政法人　日本スポーツ振興センター（障害保険）」

（３）実習企業の備品等の破損：「独立行政法人　国立高等専門学校機構損害保険（賠償責任保険）」

４．日　程

別途に定める。

（出典　教員必携）

資料５－５－③－６

平成　　年度　インターンシップ報告書

工学専攻　第　　年　　番　氏名	
インターンシップ先名等（住所）	
期　間	平成　　年　　月　　日～平成　　年　　月　　日（実働　日間）
テーマ	
インターンシップ先の概要（どのような会社か。会社の業務内容など。）	
インターンシップ内容（どのような仕事をしたか）	
インターンシップで得られたこと、感想	

（出典　教員必携）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の改組，他の高等教育機関で取得した単位の認定や長期インターンシップの実施，そして英語教育の充実を行っている。これらの取り組みにより，学生の多様なニーズを満たすとともに，学術発展の動向や社会からの要請に対応した教育課程を編成し，授業科目の内容に配慮している。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，実践的もの創り技術者の育成を目指すために，講義だけでなく，その理解を深めるために実験・実習・演習科目（18単位）を必修科目として設けており，総修得単位数（64単位）の28%である（資料５－５－②－２参照)。また，異なる系の学生が合同で受講する授業を多く配置することは，教育目標②への配慮となっている。

適切な学習指導法の工夫に関し，教育目標①に関しては，専攻科の特徴である少人数を活かして，ゼミ形式の授業や，学生による発表を取り入れている（資料５－６－①－１)。

教育目標②に関しては，他系の基礎実験を学習する「総合創造実験」（資料５－６－①－２）やマイコン制御による自律移動型マシンの製作を行う「総合創造演習」（資料５－６－①－３）等で，異なる系の学生が連携して取り組める工夫を行っている。

教育目標③に関しては，「技術者総合ゼミ」のオムニバス方式の授業で，企業経営者やOB，大学院教授等の講演会や企業等の見学，学生によるディベート等の多彩な内容を実施している（資料５－６－①－４)。

教育目標④に関しては，外国人講師による英会話の授業「応用コミュニケーション」で，英語によるプレゼンテーションを実施している（資料５－６－①－５)。

観点５－６－①資料一覧

（資料５－６－①－１）	環境論シラバス	出典：平成 25 年度シラバス
（資料５－６－①－２）	総合創造実験シラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－６－①－３）	総合創造演習シラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－６－①－４）	技術者総合ゼミⅠ・Ⅱシラバス	出典：平成 24 年度シラバス
（資料５－６－①－５）	応用コミュニケーションシラバス	出典：平成 24 年度シラバス

資料５－６－①－１

環境論 Environment Chemistry	(学修単位)	**担当者：** 下 野　次 男　SHIMONO　Tsugio
１年　2 単位（必修）	後期 100 分／週　授業回数 15 回（ 30 時間）	講義室： 多目的教室

授業概要： さまざまな地球環境問題の原因、現状、対策について学習して環境問題に関する理解を深め、技術者としてどう対応すべきか自分で判断できる知識と能力を涵養する。

予備知識： 本科で学習した基礎化学や材料科学を習得し、原子・分子の構造や一般的な化学反応、および化学平衡に関する知識があることが望ましい。

授業項目	授業内容
[後期] １．地球環境問題概要	（１週） 技術者倫理、序論；地球と人間 地球環境問題の人口爆発との関係、今後の対応を概括する。
２．地球環境問題各論 （原因、現状、対策） 2.1 地球温暖化 2.2 オゾン層破壊 2.3 酸性雨 2.4 熱帯雨林減少、砂漠化 2.5 生物多様性 2.6 大気汚染 2.7 水質汚染 （河川、湖沼・海洋、地下水） 2.8 土壌汚染 2.9 資源枯渇 2.10 廃棄物	（２週） 地球温暖化問題の原因、現状、対策 温暖化の原因、気象や環境への影響、対策について考える。 （３週） オゾン層破壊問題の原因、現状、対策 オゾン層破壊の原因、生態系への影響、対策について考える。 （４週） 酸性雨問題の原因、現状、対策 酸性雨の原因、社会や生態系への影響、対策について考える。 （５週） 熱帯雨林減少、砂漠化問題の原因、現状、対策 発生原因、気象や環境への影響、対策について考える。 （６週） 生物種減少（生物多様性）問題の原因、現状、対策 どういう問題であるか、発生原因、その影響について考える。
３．産業活動と環境問題	（７週） 大気汚染問題の原因、現状、対策 発生原因、社会や生態系への影響、対策について考える。
４．地球にやさしい社会をつくるために	（８週） 中間試験に関する解説 （９週） 後期中間試験 (10週) 河川水汚染問題の原因、現状、対策 発生原因、社会や生態系への影響、対策について考える。 (11週) 湖沼・海洋汚染問題の原因、現状、対策 発生原因、社会や生態系への影響、対策について考える。 (12週) 土壌・地下水汚染問題の原因、現状、対策 発生原因、社会や生態系への影響、対策について考える。 (13週) 資源枯渇問題の原因、現状、対策 資源の有限さを理解し、資源リサイクルの重要性を考える。 (14週) 廃棄物問題の原因、現状、対策 廃棄物＝資源であることを理解し、有効利用について考える。 (15週) 産業活動と環境問題 産業活動がどのように環境問題に関わっているかを考える。 後期期末試験

到達目標： 地球環境問題の種類と原因、影響、現状、および対策を相互に関係づけできる。資源枯渇問題の原因、影響、現状、および対策を相互に関係づけできる。廃棄物問題の原因、影響、現状、および対策を相互に関係づけできる。産業活動と環境問題を相互に関係づけできる。地球環境問題と技術者倫理を関係づけできる。

評価方法： 中間試験と定期試験（合計２回）、発表・討論、および課題レポートにより評価（配点割合６：２：２）。
評価基準 ６０点以上を合格とする。

佐世保高専教育目標：①(②),③,④	**JABEE対応学習教育目標：** A-3, B-2, C-1
JABEE基準１（１）： d-1, b, f	

教科書： みんなの地球　浦野紘平著（オーム社）

参考書、補助教材等：環境関係の各種図書、資料

授業形式： 学生の発表・討論を中心にして、解説は要点にとどめる。
学生が用意するもの：発表・討論用の資料

自己学習の指針：毎回の授業で班毎に発表してもらうので、事前に発表準備を十分行うこと。また、発表したテーマについては、レポートを作成し提出すること。また、定期試験については教科書から出題する。従って、発表準備、レポート作成、及び教科書学習を含め、日頃から2時間の自己学習を行うこと。

オフィスアワー：火曜日、木曜日　16:00-17:00

備　　考：

（出典　平成 25 年度シラバス）

資料５－６－①－２

総合創造実験　(学修単位)　　担当者：三橋(統括)、原、川下、野尻
Experiment of Total Creative Engineering

1年　2 単位(必修)　前期 200 分／週　授業回数 15 回(60 時間)　講義室：ガイダンス～指導書製本：専攻科棟視聴覚室、実験開始

授業概要：機械、電気・電子、物質の各専攻の基礎的実験を、他専攻の学生が体験学習し、複眼的な素養を身に付ける。なお、自専攻の学生は、実験方法の立案から準備・実験までの全てを担当し、指導的立場で取り組む。

予備知識：本科で習得した各種実験に関する知識・実験手法・結果の評価方法と考察の仕方。

授業項目及び内容

機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、物質工学科からそれぞれ提示された下記の実験テーマ全項目若しくは選択された項目について実験を行う。実験方案(指導書作成)と実験指導は，各出身(卒業)学科の学生が行う。スケジュール(予定)は，下記の通りとする。学校行事等の都合により、日程変更もあり得るので、各学科の指導教員とよく打ち合わせを行うこと。

第一回 ガイダンス(総合創造実験についての説明)
　　班分けと実験テーマの選定。各自，担当する実験指導書の作成に取り掛かる。
第二回 実験指導書(仮)仕上げ（提出〆切：17時，提出先：各学科指導教員)
　　この後，1週間をかけて指導教員の点検・修正指示を受ける。
第三回 実験指導書の印刷製本（修正済みの最終原稿を各自持参のこと）。

【機械】：全4回
1. 材料の機械的性質　2. 横型ディーゼルエンジンの分解・組立
3. 計算風洞による流れの観察　4. 1自由度系の強制振動の実験

【電気】：全4回
1. オームの法則　2. レーザー光学実験
3. ブラウン管オシロスコープ　4. トランジスタ回路の測定

【制御】：全4回※
※ 一部、総合創造演習の時間に振替える。
1. サーミスタの静特性の測定　2. シーケンス制御
3. ダイオードの特性測定　4. 組み合わせ論理回路と論理演算
5. トランジスタの静特性測定

【物質】：全4回
1. モリフテン黄吸光光度法による水中のケイ酸の分析　2. 石ケンの製造(エステルのケン化)
3. 大腸菌群の培養　4. 中和滴定を用いたNaOH水溶液の標定と食酢の定量

注：レポートについて：
実験報告書(レポート)は，各班で一部提出する。ただし，考察については，各自で作成したものを添付のこと。提出〆切は原則として実験実施から1週間以内とするが，指導教員から指示がある場合は，それに従うこと。

到達目標：他専門分野の基礎知識を体験的に身につけるとともに、各種測定機器の機能や操作要領、実験技術を習得する。

評価方法：実験報告書の各班共通箇所(実験原理、実験法、結果等)を60点満点、個人ごとの考察または指導者評価を40点満点で評価し、それらの合計の平均が60点以上であれば合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標：②	JABEE対応学習教育目標：	D-1, D-2, E-2, E-3
JABEE基準１(１)：	d-2b, d-2d, h	

教科書：実験書は担当学生が作製する。

参考書、補助教材等：図書館に関連書籍が多数所蔵されている。

授業形式：実技
学生が用意するもの：実習服若しくは白衣、電卓、実験ノート、レポート用紙，ノート型パソコン

自己学習の指針：担当実験課題について授業時間外におこなう準備作業(予備実験、器材・試料・試薬の準備、実験書の作製、安全面の確認)を自己学習とする。

オフィスアワー：基本的に、授業実施日の16:10-17:10とする。実施できない場合は別途指示する。

備　考：ノート型パソコンは、結果処理及びレポート作成に使用するので、各班ごとに必ず準備すること。

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－６－①－３

総合創造演習 Practice of Total Creatve Engineering	(学修単位)	**担当者：** 坂口彰浩、志久修、福田孝之、森田英俊、三橋和彦、渡辺哲也
１年　２単位（必修）　前期 200 分／週　授業回数 15 回（ 60 時間）		講義室：電子制御工学科　B棟　電子工学実験室　他

授業概要： 専門分野の違うメンバーで構成されたグループにわかれ，課題テーマに対応した自律型ロボットをマイコンをシステムの中心において構想・設計・部品手配・コスト計算・製作・発表までを行う．

予備知識： 専門分野の知識を他分野専攻の学生に説明でき，課題の中の問題に対してその解決のため専門分野の知識を生かせるように本科で習得した専門知識を再確認すること．また，Ｃ言語をもちいた簡単なプログラムができること．

授業項目及び内容

（第１週）演習ガイダンスと演習の意義および到達目標の説明
　　１．安全工学概論

（第２週）２．機構
　　(1)回転運動からの
　　　各種線形変換機構
（第３週）３．モータ
　　(1)モータの種類と原理
　　(2)特に，DC電源で動くモータ
（第４．５週）４．蓄電池
　　(1)電池の原理と種類
　　(2)簡単な電池の製作
（第６～１２週）５．マイクロコンピュータ
　　(1)マイコンとは
　　(2)産業界における
　　　マイコンの位置づけ
　　(3)マイコンの開発環境
　　(4)マイコンの演習１(通信)
　　(5)マイコンの演習２(I/Oポート)
　　(6)マイコンの演習３(LED)
　　(7)マイコンの演習４(アナログ入力)
　　(8)マイコンの演習５(モータ制御)
　　(9)マイコンの演習６(応用編)

（第１３～２９週）６．各グループで課題に対して
　　(1)構想・設計・発注・コスト計算・製作

（第３０週）６．各グループで製作発表会

注意）１週（１回）は，前期中間試験含む

到達目標：
・蓄電池に関して原理を理解し製作できる．
・マイコンの基本的な動作原理を理解し実際に課題に対して設計製作できる．
・グループ作業で，課題に対して連携・協調して創造的に対応・解決できる．
・発表会に対して連携・協調して発表内容を検討し対処できる．
・他分野の領域に対して体験的に理解を深め対処できる．

評価方法： 自主的な演習に対する取り組み（30%），グループごとで製作する過程で，自分の役割を認識し積極的に協調して問題解決に取り組んでいるか(40%)，発表会評価(30%)，60点以上合格．
評価基準

佐世保高専教育目標：②	**JABEE対応学習教育目標：** D-2, D-3, E-2, E-3
JABEE基準１（１）： d-2c, h, e	

教科書： マイコン入門テキスト（全員に配布します）

参考書、補助教材等：

授業形式： 講義と演習
学生が用意するもの： 専攻科生に支給されるノートパソコン

自己学習の指針：

オフィスアワー： 担当先生の各部屋に掲示してあるオフィスアワーを確認ください．

備　　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－６－①－４

技術者総合ゼミⅠ・Ⅱ General Seminar for Engineering	(学修単位)	**担当者：** 下野次男、中尾充宏、中江道彦、高比良秀彰、坂口彰浩、田中泰彦、牧野一成
1,2 年　3 単位（必修）　前･後期 100 分／週　授業回数 30 回（ 60 時間）		講義室： 多目的教室

授業概要： 課題発表やディベート，また学内外からの講師による講演会や関連するビデオ、書籍等を題材に、グローバルな視点から多面的に物事を考え、発表、討論や記述の能力を養う。全体の１／３程度を、キャリア教育に充てる。

予備知識： パワーポイントの使用法

授業項目	授業内容
[前期] １．専攻科入学ガイダンス 1-1. 専攻科修了要件 1-2. 学位取得要件 1-3. 学習の成果 1-4. 技術者教育認定 1-5. 特別研究 1-6. 自己点検システム ２．発表 2-1. スピーチ 2-2. 特別研究中間発表(2年生) 2-3. 特別研究内容説明(1年生) 2-4. 学習の成果の内容説明 2-5. 自由課題発表(1年生) 2-6. ディベート ３．講演会他 3-1. 大学院ガイダンス 3-2. マナー講習会	(１週)本ゼミの実施要領、プレゼンテーション要領、自己点検システム (２週)作文（抱負（１年）、１年の反省（２年））、JABEE説明会 (３週)３分間スピーチ（１年生） (４週)社会人基礎力講座１（職業人意識、ビジネスマナー） (５週)ディベート１（２年生） (６週)特別研究中間報告(1)（２年） (７週)特別研究中間報告(2)（２年） (８週)企業経営者講演会 (９週)学位取得者教員講演会 (10週)特別研究目的・方法説明(1)（１年） (11週)特別研究目的・方法説明(2)（１年）、学修成果レポート作成法 (12週)日中相互交流発表会（廈門・佐世保） (13週)社会人基礎力講座２（コミュニケーション能力） (14週)学修成果レポート内容説明（１）（２年） (15週)学修成果レポート内容説明（２）（２年） 前期期末試験
[後期] ４．課題発表 4-1. 問題提起 4-2. 知識紹介 4-3. 企業紹介 4-4. 大学院紹介 ５．報告 5-1. 就職試験 5-2. 大学院入試 5-3. 学位論文試験 ６．技術者の足跡 6-1. 卒業生 ６２．学内教官 6-3. 著名人 ７．地域社会との交流 7-1. 地域企業、研究機関の見学 7-2. 地域企業経営者講話 ８．国際交流 8-1. 異文化理解	(16週)文献データベース講習会 (17週)産業支援センター講演会 (18週)就職試験の報告会（傾向と対策）① (19週)就職試験の報告会（傾向と対策）②、大学院入試の報告会 (20週)ディベート２（１年生） (21週)企業経営者講演会２ (22週)校長特別講演会 (23週)大学院ガイダンス (24週)社会人基礎力講座３（問題解決能力） (25週)インターンシップ報告会 (26週)学位小論文試験報告会（２年） (27週)地域企業等見学会 (28週)異文化理解（留学生との対話） (29週)面接講習会１（面接技術と模擬面接） (30週)面接講習会２ **後期期末試験**

到達目標：
・大勢の前で自分の意見を発表することができる。
・与えられた課題に対して，効果的な資料を作成して説明できる。
・講演を静聴して内容を把握吸収し質問ができる。
・討論に参加して意見を述べることができる。
・意見や感想を要領よく記述できる。

評価方法： 課題発表・質疑応答９０%、課題レポート１０%により評価して６０点以上を獲得し、かつ総合試験に合格することをもって合格とする。
評価基準

佐世保高専教育目標：③	**JABEE対応学習教育目標：** C-2, E-1,
JABEE基準１（１）： f, g	

教科書： なし

参考書、補助教材等：各講師の配布プリント

授業形式： オムニバス形式、調査レポート、講演・発表と討論、感想やまとめの記述。
学生が用意するもの：ファイル（配布プリント整理用）

自己学習の指針：スピーチや発表の機会が多いので、事前準備を十分に行うとともにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上に日頃から努めること。また、ディベートでは調査やチーム内での打ち合わせを事前に十分行っておくこと。また、総合試験合格のために十分な自己学習を行うこと。

オフィスアワー：火曜，木曜の16:00～17:00

備　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料５－６－①－５

応用コミュニケーション Advanced Communication	(学修単位)	担当者：　RIFE　Stephen
１年　１単位（必修）　前期 100 分／週　授業回数 15 回（ 30 時間）		講義室：ＬＬ教室

授業概要：The course will include instruction on how to prepare a public speech or debate which includes organizing ideas and constructing outlines, how to analyze and adapt to audiences, methods of delivery and effective language use.

予備知識：Students will be expected to be able to publicly present and defend their own ideas in English without any serious difficulty.

授業項目	授業内容
[前期] Three general areas to be covered will include the following: 1. Practice of Pronunciation 2. Speech/Debate Preparation: Topic Selection, Audience Analysis and Research 3. Organization of Materials: Outlining etc. 4. Presentation Skills and Practice:	(１週) Introduction: Oral Presentation vs. Conversation (２週) Selecting a Topic and Purpose (３週) Brainstorming (４週) Audience Analysis (５週) Gathering Material/Research (６週) Supporting Your Ideas (７週) Organizing the Speech 1 (８週) Organizing the Speech 2 (９週) Beginning and Ending the Speech / Answering Questions (10週) Presentation of the Speech (11週) The Physical Message (12週) The Visual Message (13週) Presentation Practice 1 (14週) Presentation Practice 2 (15週) Practice (Individual Speech Project Consultation) 前期期末試験

到達目標：
1. Learners are able to organize ideas
2. Learners are able to construct outlines
3. Learners are able to adapt their speech to a particular audience
4. Learners are able to use effective methods of delivery
5. Learners are able to publicly present their own ideas in English

評価方法：Students will be graded on attitude (30%), in-class tests (30%) and performance on presentation projects (40%). They are required to get more than 60 points.
評価基準

佐世保高専教育目標：④	JABEE対応学習教育目標：C-3
JABEE基準１（１）：f	

教科書：All materials will be provided by the instructor in class

参考書、補助教材等：

授業形式：Practice
学生が用意するもの：Handouts, notes

自己学習の指針：Students are required to be well prepared for each lesson and to practice hard on their own for the presentation.

オフィスアワー：Before or after the lesson, by appointment.

備　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

総修得単位数に対する実験・実習・演習科目のバランスは適切で，実験実習によって講義の理解を深めるため，１専攻４系の特色を取り入れた構成となっている。また，専攻科の教育目標に照らした各科目の配置は適切であり，それらの授業科目では，教育目標に応じて内容の工夫がなされている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは，シラバス記入要領（資料５－２－②－１参照）に基づいて当該科目担当教員が「シラバス作成支援システム」を用いて作成している。教員及び学生が自由に閲覧できるように本校ウェブサイト上で公開されている。

シラバスには，授業時間ごとに教育内容についてのキーワード等が示された授業項目・授業内容欄があり，授業の進行度を容易に理解できるように作成され，事前に行う準備学習として，該当授業科目を履修するために必要な予備知識を示している。到達目標欄には，箇条書きでその科目の到達目標が書かれ，成績評価欄には試験及びレポート等の割合が数字で示されている。さらに，教育目標との関連についても明記され，授業時間外の自己学習の指針も示されている。講義担当教員はシラバスを配布して授業計画と評価方法等を詳しく説明している。なお，自己学習の時間が確保されていることは，演習課題や試験によって確認している。

授業評価アンケート中の教員によるシラバス活用に関する設問に対する回答，計画通り授業が実施されているかに関する設問に対する回答は,いずれも良好な結果となっている(資料５－６－②－１)。

資料５－６－②－１

教員によるシラバスの活用実績（５段階評価）

年度	20	21	22	23	24
シラバスの説明はあったか	3.9	4.2	4.6	4.7	4.8
シラバスに沿って授業が行われたか	4.0	4.1	4.1	4.4	4.5

（出典　学生課資料）

観点５－６－②資料一覧

（資料５－６－②－１）　教員によるシラバスの活用　アンケート結果　　出典：学生課資料

（分析結果とその根拠理由）

シラバスには，具体的な到達目標が示され，この目標を達成できるように十分に留意した上で授業内容等が記述されており，評価方法に関しても明記されている。準備学習として自己学習の指針を示すことで，学習時間の確保に対する対策が講じられている。また，アンケート結果からシラバスの活用と記載に沿った授業がなされていることが確認できる。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，創造性を育む教育として「総合創造演習」（資料５－６－①－３参照）を実施している。本科目は，異なる系の学生３～４人の班を編成し，マイコン制御の自律移動型マシンを製作し，毎年異なる対戦方式の競技課題を実施するものである。ロボットの機構や電源について学習し，マイコン制御について独自に作成した教材（資料５－６－③－１訪問時資料）を用いて学び，実験実習を通して理解を深める。互いに協力して，競技課題に対してアイデアを出し合ってマシン製作や制御プログラミングにより創造性を育み，設計から部品購入，コスト計算，製作，発表・実演までの設計開発の一連の工程が経験できるように工夫している。

選択科目である「インターンシップ」（資料５－５－③－４参照）については，学術交流協定を締結している中国の厦門理工学院への短期留学も認めており，毎年６名が３週間滞在し，グローバルな視点での職業感覚を育成している。また「技術者総合ゼミ」でその報告を行なうことで，国際感覚の共有につながっている（資料５－６－③－２）。

資料５－６－③－２

平成２４年度　専攻科　技術者総合ゼミ　年間計画

2012.4.10

No	授業項目	評価	１年	２年	時間(分)	予定日	内　容	担当教員
1	専攻科ガイダンス					4月12日	本ゼミの実施要領・プレゼンテーション要領の概説、自己点検システムの説明	下野
2	作文、JABEE説明会		全員	全員		4月19日	専攻科の抱負（１年）、１年間を振り返って（２年）、JABEE説明会	坂口
3	３分間スピーチ（１年生）	●	全員		3	4月26日	１年生全員による本科の話と専攻科の抱負	坂口
4	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					5月10日	社会人基礎力講座１（職業人意識、ビジネスマナー）	坂口
5	ディベート1	●		全員		5月17日	２年生、設定されたテーマで議論し、他が評価判定	坂口
6	特別研究中間報告会（１）	●		全員	5	5月24日	特別研究の中間報告（２年）	坂口
7	特別研究中間報告会（２）	●		全員	5	5月31日	特別研究の中間報告（２年）	坂口
8	技術者の足跡1（学位取得者講演）					6月7日	学位取得者による講演（２名）	中江
9	特別研究目的説明（１）	●	全員		5	6月21日	特別研究の研究目的・研究方法等の説明（１年）	中江
10	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					6月28日	企業経営者講演会（株式会社モルフォ取締役、本校校長顧問　高尾　慶二氏）	中江
11	特別研究目的説明（２）	●	全員		5	7月5日	特別研究の研究目的・研究方法等の説明（１年）、学修成果レポート作成法について	中江
12	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					7月12日	社会人基礎力講座２（コミュニケーション能力）	中江
13	日中相互交流発表会			該当者		7月19日	厦門・佐世保　相互学生発表会	中江
14	学修成果レポートの内容説明（１）	●		全員		9月6日	学修成果レポートの記述内容説明（２年）	田中
15	学修成果レポートの内容説明（２）	●		全員		9月13日	学修成果レポートの記述内容説明（２年）	田中
16	文献データベース講習会					10月4日	データベースを利用した文献や技術の調査方法の講習	田中
17	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					10月11日	佐世保市産業支援センターによる講演会（起業家の現状と課題）	田中
18	就職試験報告会			該当者		10月18日	就職試験の報告会（傾向と対策）①	田中
19	大学院入試報告会			該当者		10月25日	就職試験の報告会（傾向と対策）②、大学院入試の報告会（傾向と対策）	田中
20	ディベート2	●	全員			11月1日	１年生、設定されたテーマで議論し、他が評価判定	牧野
21	校長特別講演会					11月8日	校長による特別講演	牧野
22	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					11月22日	企業経営者講演会（地元企業、予定）	牧野
23	大学院ガイダンス					11月29日	大学院ガイダンス（奈良先端大、北陸先端大等）	牧野
24	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					12月13日	社会人基礎力講座３（問題解決能力）	牧野
25	インターンシップ報告会		該当者	該当者		12月20日	１年、２年（厦門派遣含む）インターンシップの報告会	牧野
26	学位小論文試験報告会			全員		1月10日	学修成果レポート対応の学位小論文試験報告会（２年）	高比良
27	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					1月17日	地域企業等見学会（工業技術センター、予定）	高比良
28	異文化の理解					1月24日	外国人留学生との対話	高比良
29	面接講習会					1月31日	面接講習会1（面接技術と模擬面接）	高比良
30	特別研究発表会		全員出席	全員		2月7日		高比良
31	ＮＴＣ（地域連携）キャリア教育					2月14日	面接講習会2（面接技術と模擬面接）	高比良

（出典　専攻科資料）

観点５－６－③資料一覧

（資料５－６－③－１）　総合創造演習製作物　　訪問時資料

（資料５－６－③－２）　インターンシップ報告発表会　　出典：専攻科資料

（分析結果とその根拠理由）

創造性を育む教育として,「総合創造演習」で異なる系の学生３～４人の班を編成し，マイコン制御の自律移動型マシンを製作することで一連の工程が経験できるように工夫がなされている。また，学術提携している海外の大学への短期留学が行われており，選択科目の「インターンシップ」として単位を認定している。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

教養教育として，一般科目「日本語表現法」「国際協力論」「技術と哲学」など，専門基礎科目「環境論」や専門科目「生命科学」等を開講し，教育目標③に沿った人材の育成を目指している。

教育目標①，②に沿って「特別研究」を実施しており，学生が希望するテーマや研究室を自由に選べるように配慮し，一人の学生に対して正副２名の教員が指導することで充実した環境を整備している（資料５－７－①－１）。なお，研究指導においては，学生全員に「研究日誌」を配布し，指導教員が定期的に進捗状況を確認している（資料５－７－①－２）。また，専攻科２年次の始めに中間発表を行い，２月に審査・発表会を実施して評価を行っている。

「特別研究」の成果は，学協会等での発表を義務付けており，特別研究論文集に掲載している（資料５－７－①－３）。この成果として，学協会で優秀講演賞等を受賞しており，教育目標④が達成できていることを示している（資料５－７－①－４）。

観点５－７－①資料一覧

（資料５－７－①－１）	特別研究テーマ・指導教員一覧	出典：学生課資料
（資料５－７－①－２）	「研究日誌」様式	出典：学生課資料
（資料５－７－①－３）	専攻科生の研究活動一覧	出典：専攻科特別研究論文集
（資料５－７－①－４）	専攻科生　褒賞実績	出典：教育データベース

資料５－７－①－１

平成24年度専攻科　特別研究テーマ・指導教員一覧

2012.5.31

学年	専攻(系)	氏　名	特別研究テーマ	指導教員	副指導教員
1年	機械		非線形自転車モデルの構築とその実験的検証	貞弘晃宜	中浦茂樹
			水素エネルギーシステム・インフラに使用される金属材料の強度特性に及ぼす極めて多量の水素侵入の影響	西口廣志	野尻能弘
			二輪車用車輪内蔵型姿勢安定化装置の開発	貞弘晃宜	中浦茂樹
			熱応力を利用したガラスの新しいレーザ加工技術	森田英俊	中浦茂樹
			振動モードを利用したガラスの新しい分断技術の開発	森田英俊	中浦茂樹
			高耐熱性エンジニアリング・プラスチックを用いたウォームギヤの負荷能力	森川浩次	中江道彦
			ダブル微粒子ショットピーニングが真空浸炭窒化歯車の疲労寿命に及ぼす影響	森川浩次	中江道彦
	電気電子		自然エネルギー利用のためのDC-DC変換システムの検討	南部　幸久	高比良　秀彰
			小型試験器によるオゾン/酸素分離ユニットの性能評価	柳生　義人	川崎　仁晴
			複数音源の分離手法に関する検討	高比良　秀彰	三橋　和彦
			スパッタリング法を用いた積層薄膜の作製	大島多美子	須田　義昭
			粉体ターゲットを用いたプラズマプロセスによる機能性薄膜の作製	大島多美子	川崎　仁晴
			ソフトプロセッサを用いたハードウェア設計手法に関する研究	下尾　浩正	高比良　秀彰
			粒子法を用いた巨大植物細胞内の原形質流動に関する研究	三橋　和彦	高比良　秀彰
			小型水中ロボットの知能化に関する研究	下尾　浩正	川崎　仁晴
	情報		部分的ケージングの定義と評価手法の提案	槇田　諭	前田　貴信
			手指の筋腱複合体の機械的特性の解明とモデル化	槇田　諭	前田　貴信
			拡張現実を用いたい科学学習支援システムの開発	嶋田　英樹	中村　嘉男
			超電導自動車の開発とその教育効果	重松　利信	森　保仁
			RGBカメラ，深度センサを用いたリハビリ支援システムの開発	嶋田　英樹	手島　裕詞
			研削砥石表面の砥粒形状の解析アルゴリズムの開発	坂口　彰浩	川下　智幸
			回転型研削工具表面状態解析装置の開発	川下　智幸	坂口　彰浩
			道路案内標識における文字認識の基礎研究	志久　修	手島　裕詞
	化生		石炭灰から合成したゼオライトによる重金属イオン除去に関する研究	下野　次男	城野祐生
			芳香族系ポリ(ヒドロキシエーテル)および耐熱性ポリマーアロイの開発	古川　信之	渡辺　哲也
2年	機械		マイクロバブル発生装置の応用性に関する研究	松山　史憲	中島　賢治
			歯車歯面のラッピング仕上げに関する研究	中江　道彦	森川　浩次
			ラグビーにおけるコンタクトプレイに関する衝突力学的解析	中島　賢治	松山　史憲
			水素ガスパイプライン候補材 フェライト・パーライト鋼の強度特性に及ぼす水素の影響	西口　廣志	福田　孝之
			熱応力を利用したガラスの鏡面溝加工のメカニズムに関する研究	森田　英俊	原　要一郎
			振動モードを利用したガラスの新しい割断加工の可能性	森田　英俊	原　要一郎
			曲線形手すりの形状とその効果に関する研究	福田　孝之	西口　廣志
	電気電子		紛体スパッタリング法を用いた機能性薄膜作製と評価	川崎　仁晴	大島多美子
			家庭用ロボットの移動制御に関する研究	前田　貴信	川下　智幸
			深度センサを用いた手話認識システムの開発	嶋田　英樹	手島　裕詞
			情景画像からの文字領域抽出に関する研究	志久　修	手島　裕詞
			家屋内におけるレーザセンサによる移動物体の位置検出	前田　貴信	川下　智幸
			ダイヤモンド工具の超高速3次元切れ刃計測システムの開発	川下　智幸	坂口　彰浩
			水中音響を用いた小型測位システムの開発	下尾　浩正	長嶋　豊
			動画像からの三次元データ自動抽出手法に関する研究	高比良秀彰	南部　幸久
			有機金属溶液を用いたナノ構造体作製に関する研究	須田　義昭	大島多美子
			低温液体中でのカーボンナノ物質生成実験	重松　利信	川崎仁晴
			画像解析による電子マンガ書籍の音声読み上げ強度の推定	手島　裕詞	志久　修
			カメラ入力型文字認識に関する研究	志久　修	手島　裕詞
			cepstrum分析を用いた音声認識	嶋田　英樹	中村　嘉男
			ダイヤモンド工具の切れ刃分布解析ソフトウエアの開発	川下　智幸	坂口　彰浩
	物質		イミド構造を有する新規ベンゾオキサジンおよび分子複合材の開発	古川　信之	平山　俊一
			海洋微生物による機能性脂質の生産	山崎　隆志	越村　匡博
			アルミナ－ジルコニア触媒によるパーフルオロカーボン類の加水分解反応	長田　秀夫	渡辺　哲也
			アゾメチン構造を有するオキサジン誘導体の合成と反応解析	平山　俊一	越村　匡博
			廃セッコウの有効利用技術に関する研究	下野　次男	野尻　能弘
			光触媒－次亜塩素酸併用による海水浄化技術の研究	下野　次男	野尻　能弘
			プラズマによる滅菌効果に関する研究	山崎　隆志	柳生　義人
			剛直鎖を有するベンゾオキサジン類の合成と反応解析口	平山　俊一	古川　信之

(出典　学生課資料)

資料５－７－①－２

研究日誌

研究日誌　　平成24年4月　　前半

日	曜	研究時間帯 (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	担当教員打合せ (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	研 究 内 容
1						
2						
3						
4						
5 6						
7						
週 計		研究時間		打合せ時間		

日	曜	研究時間帯 (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	担当教員打合せ (x:xx～x:xx)	合計時間 hr	研 究 内 容
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
週 計		研究時間		打合せ時間		

反省	学生署名
所見	指導教員　印

（出典　学生課資料）

資料５－７－①－３

平成２４年度　専攻科生の研究活動一覧

◎　学協会発表

○印は講演者

氏　名	題　目	発表機関	年月日
○ [redacted]	マイクロバブルの水耕栽培への応用に関する研究	日本機械学会九州学生会 第44回卒業研究発表講演会	2012.03.06
○	心なしラッピングによる内歯車の歯面仕上げ	日本機械学会九州支部 第66期総会・講演会	2013.3.13
○	加速度センサと角速度センサを用いたラグビーにおける接触プレイの計測	日本機械学会2011年度年次大会	2011.09.14
○	加速度センサと角速度センサを用いたラグビー選手の運動解析	日本機械学会2012年度年次大会	2012.09.10
○	フェライト・パーライト鋼の水素侵入特性・拡散係数に及ぼすねじり予ひずみの影響	日本機械学会九州学生会 第43回卒業研究発表講演会	2012.3.12
○	ねじり予ひずみを導入した炭素鋼の疲労特性に及ぼす水素の影響	日本機械学会九州支部 第66期総会・講演会	2013.3.13
○	レーザ加熱によるせん断応力型き裂進展を利用したガラスの新しい非接触分断加工技術	日本機械学会九州学生会 第43回卒業研究発表講演会	2012.3.12
○	振動モードを利用した薄板ガラスの割断加工の可能性に関する研究	日本機械学会九州学生会 第43回卒業研究発表講演会	2012.3.12
○	らせん状曲線形手すりの有効性	日本機械学会九州学生会 第43回卒業研究発表講演会	2012.3.12
○	らせん状曲線形手すりの実用化に向けての研究	日本機械学会九州学生会 第44回卒業研究発表講演会	2013.3.6
○	粉体スパッタリング法を用いた機能性薄膜作製と評価	第64回電気関係学会 九州支部連合大会	2011.9.26
○	粉体スパッタリング法を用いた機能性薄膜の膜表面形状	第15回プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部大会	2011.12.17
○	粉体スパッタリング法を用いた機能性薄膜作製と評価	平成23年度分 高専連携教育研究 プロジェクト学生成果報告会	2012.8.9

（出典　専攻科特別研究論文集　抜粋）

資料５－７－①－４

専攻科生　褒賞実績

年度	氏名	専攻	賞	学 会	学協会	期日
20	[redacted]	機械	優秀講演賞	九州学生会　第40回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成21年3月
		機械	優秀講演賞	九州学生会　第40回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成21年3月
		電気電子	講演奨励賞	電子情報通信学会九州支部学生会講演会	電子情報通信学会	平成21年3月
		電気電子	講演奨励賞	電子情報通信学会九州支部学生会講演会	電子情報通信学会	平成21年3月
		物質	日本化学会九州支部賞（学術奨励賞）	日本化学会九州支部	日本化学会	平成21年3月
21		機械	優秀講演賞	九州学生会　第41回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成22年3月
		機械	優秀講演賞	九州学生会　第41回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成22年3月
		物質	優秀発表賞	第12回化学工学会学生発表会　福岡大会	化学工学会	平成22年3月
22		機械	優秀講演賞	九州学生会　第42回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成23年3月
		機械	優秀講演賞	九州学生会　第42回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成23年3月
		電気電子	学術奨励賞	電子情報通信学会九州支部学生会講演会	電子情報通信学会	平成23年3月
		物質	日本化学会九州支部賞（学術奨励賞）	日本化学会九州支部	日本化学会	平成23年3月
23		機械	奨励賞		工作機械技術振興財団	平成23年6月
		機械	優秀講演賞	九州学生会　第43回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成24年3月
		機械	優秀講演賞	九州学生会　第43回卒業研究発表講演会	日本機械学会	平成24年3月
		電気電子	電気学会九州支部長賞	電気学会九州支部	電気学会	平成24年3月
		電気電子	学術奨励賞	電子情報通信学会九州支部	電子情報通信学会	平成24年3月
		電気電子	電気学会論文発表賞B賞	平成23年度電気学会九州支部公開技術会合	電気学会	平成24年3月
		電気電子	低温工学協会九州・西日本支部支部長賞	低温工学協会九州・西日本支部支部	低温工学協会	平成24年3月
		電気電子	ベストプレゼンテーション賞	2011年度精密工学会九州支部大分地方講演会	精密工学会	平成24年3月
		物質	日本化学会九州支部賞（学術奨励賞）	日本化学会九州支部	日本化学会	平成24年3月
24		電気電子	電気学会九州支部長賞	電気学会九州支部	電気学会	平成25年3月
		電気電子	学術奨励賞	電子情報通信学会九州支部	電子情報通信学会	平成25年3月
		物質	日本化学会九州支部賞（学術奨励賞）	日本化学会九州支部	日本化学会	平成25年3月

（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

教育目標に沿った教養教育として，一般科目，専門基礎科目，専門科目において様々な講義を開講している。

「特別研究」の指導は，一人の学生に対し正副２名の教員が担当し，充実した指導体制となっている。指導教員が「研究日誌」により定期的に進捗状況を確認・指導し，審査・発表会等を実施して指導・評価を行っている。なお，全員に学協会等での発表を義務付けており，その成果として，学協会で優秀講演賞等を受賞している。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

専攻科における成績評価・単位認定及び修了規程は，学則 第12章 専攻科（資料５－８－①－１）で規定されている。詳細は，専攻科の授業科目の履修等に関する規程（資料５－５－③－１参照）に定めており，学生には「専攻科履修の手引き」を配布し，周知している。特に，１単位の履修時間が授業時間以外の学習も含めて45時間であることは，学則第50条に記してあるが，専攻科履修の手引きに記述し（資料５－８－①－２），専攻科始業式時のガイダンスで説明を行っている。各科目の担当教員は，シラバスに必ず成績評価方法・評価基準を明記し（資料５－６－①－１参照）配布時に説明を行っている。自己学習の時間が確保されていることは，演習課題や試験によって確認している。「特別研究」の評価方法について「研究日誌」に掲載・周知し（資料５－８－①－３），研究発表会等においては，複数の教員により評価を実施している。

各科目担当教員は，試験答案を学生へ返却，模範解答を示し，試験成績に関する意見申立を受け，シラバスに明記されたオフィスアワー（資料５－２－②－１参照）にて成績に関する問い合わせの機会を設けている。また，追試験や再試験を実施し，評価方法を規定している（資料５－５－③－１参照)。単位認定・修了に関しては，規則に則り認定・判定されている（資料５－５－③－１参照，資料５－８－①－４訪問時資料)。

なお，成績評価に使用した試験答案・演習レポート等は，「JABEE用試験答案保存要領」（資料５－４－①－８参照）に基づき，成績評価の分布図及び成績一覧とともに保管している（資料５－８－①－５，６)。

観点５－８－①資料一覧

（資料５－８－①－１）	学則　第 12 章　専攻科	出典：教員必携
（資料５－８－①－２）	専攻科生に適用される学則，履修規則等	出典：専攻科履修の手引き
（資料５－８－①－３）	特別研究の評価方法について	出典：研究日誌
（資料５－８－①－４）	専攻科修了判定会議資料	訪問時資料
（資料５－８－①－５）	成績単票表紙様式	出典：答案ファイル
（資料５－８－①－６）	成績単票様式	出典：答案ファイル

資料５－８－①－１

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

第１２章　専攻科

（教育課程）

第５０条　専攻科の授業科目及び単位数は，一般科目及び専門基礎科目については別表第３，専門科目については別表第４のとおりとする。

２　　授業科目の単位計算方法は，１単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の各号の基準によるものとする。

一　講義及び演習については，１５時間から３０時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

二　実験及び実習については，３０時間から４５時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（修了）

第５２条　専攻科の修了は，別に定める課程の修了要件を満たした者について，校長が修了を認定する。

２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

（準用規定）

第５３条　専攻科学生については，第８条から第１２条まで，第１４条，第１６条，第１９条，第２０条，第２２条，第２５条の２第１項及び第４項，第２８条第１項，第２９条，第３０条，第３２条第１項，第２項及び第４項，第３３条，第３４条，第３８条から第４０条まで，第５８条から第６６条までの規定を準用する。この場合において，第１６条中「前条」とあるのは「第４９条」と，第２０条中「学年の途中の入学，編入学，転入学及び再入学」とあるのは「再入学」と第３２条第１項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と，同条第４項中「前三項」とあるのは「第１項及び第２項」と，第３４条第２号中「第２８条」とあるのは「第５１条」とそれぞれ読み替えるものとする。

（その他）

第５４条　本章に定めるもののほか，専攻科に関する必要な事項は別に定める。

（出典　教員必携）

資料５－８－①－２

電気電子および情報；電情，化学・生物；化生）を付記しています。
専攻科修了には，一般科目１７単位以上、専門基礎科目１５単位、専門科目３２単位以上修得しなければなりません。
また，大学評価・学位授与機構による学位審査申請においては，専攻の区分（工学系に対応）により修得すべき専門科目が異なりますので，55 ～ 59 ページを参考にして自分の専攻の区分に応じた専門科目を履修してください。

（教育課程）

第50条　専攻科の授業科目及び単位数は，一般科目及び専門基礎科目については別表第３，専門科目については別表第４のとおりとする。
２　授業科目の単位計算方法は，１単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせ４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の各号の基準によるものとする。
(1) 講義及び演習については，１５時間から３０時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。
(2) 実験及び実習については，３０時間から４５時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（修了）

第52条　専攻科の終了は，別に定める課程の修了要件を満たした者について，校長が修了を認定する。
２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

３）教育目標の達成と総合評価

JABEE 対応の本専攻科を修了するためには，「技術者教育プログラム”複合型もの創り工学”の履修規程」の付表に示されているように，必要な単位修得だけでなく，各教育目標ごとに単位修得の条件が設定されており，さらに，下記の総合評価が設定されています。これは，修了生として身につけている技術力を保障するためのもので，必ずクリアしなければなりません。

①総合試験Ⅰ～Ⅴの合格（技術者総合ゼミの単位修得要件に含まれる）
②学士の取得（平成24年度から専攻科修了要件から除外）
③TOEICスコア４００点相当以上（英語科目で質を保証する）
④学協会等での発表　（特別研究の単位修得要件に含まれる）

６．履修科目の申告

授業科目を履修するにあたっては，所定の期日までに，48ページ以降に掲載してある「受講申告書」を学生課教育支援係へ提出してください。専門科目については，必修科目は全員履修する必要がありますが，選択必修科目は，５科目選択し，選択した科目は必修科目になります。また，選択科目は，開設している科目の中から，修了要件に必要な単位数分の科目を選択する必要があります。学則の別表第３，４（教育課程表20～22ページ）あるいは上記５の２）で示した「修了に必要な修得単位数」を確認して選択してください。

（出典　専攻科履修の手引き　抜粋）

資料５－８－①－３

特別研究の評価方法について

専攻科長

【評価方法】

(1)評価は、各学生の研究途中段階の評価も入れ、年間を通じて評価する。
(2)下記に示す10項目を5段階の評価基準で行い、最終得点は合計点の2倍とする。
(3)最初の7項目は、各学生の研究状況に関して、各指導教員が採点する。
(4)後半の3項目は、最終発表の審査員で採点し、その平均をそれぞれの項目の得点とする。
(5)最終発表の審査員は，専攻科長と副科長および各学科1名にて実施し，無記名で行う。
(6)中間発表は、評価には直接入れない。(研究途中の評価対象の一部として考慮することは可能)
　中間発表は、各学生の研究進捗状況の確認機会と捉える。

【評価項目】

①研究の背景・関連研究を調査し、研究の目的・意義・到達目標をよく理解しているか。
②社会の要求を解決するために、研究遂行のための計画や方策を複眼的にデザインできているか。
③実験や解析に対して利用可能な情報・技術・手段を駆使するとともに、創造性を発揮して積極的に取り組んだか。
④研究記録(日誌等)を確実に残し、適切に利用しながら、自主的にまた長期間継続的に研究できたか。
⑤指導教員との連携(研究の経過および成果についての協議・討論等)を十分に行なったか。
⑥研究目標に対して十分な達成が得られ、論理的に記述した論文が作成されたか。
⑦研究成果の質・量は充実しているか。
⑧研究の目的および成果が、明確に提示されているか。
⑨発表資料はよく整理され、充実しているか。研究内容が分り易く説明されているか。
⑩適切な質疑応答がなされているか。

【評価基準】

＜ ５ ： 100点に相当。 非常に優れている。AA ＞

卒業・特別研究に取り組む姿勢が非常に意欲的かつ真摯であり、とても良く努力した。研究の計画立案、進行、発展、まとめ方いずれにおいても素晴らしい手腕と独創性を発揮した。その結果、得られた成果および発表には特筆すべきものがある。

＜ ４ ： 80点に相当。 優れている。A ＞

自分から進んで意欲的に卒業・特別研究に取り組み、創意工夫に努めた。研究計画を自分で定め、堅実に研究を進めた。研究計画立案や成果のまとめ方も的確である。得られた結果および発表は優れている。

＜ ３ ： 60点に相当。 やや劣っている。B ＞

卒業・特別研究に取り組む意欲は評価できるものの、取り組む姿勢は、ごく一般的なレベルにとどまっている。また、研究内容も指導教員の指示に従うことに終始し、創意工夫があまり見られなかった。研究計画やまとめはしっかりと行われているが、得られた結果および発表に見るべきものは少ない。

＜ ２ ： 40点に相当。 劣っている。C ＞

卒業・特別研究に割り当てられた時間内でも取り組む姿勢に積極性が感じられなかった。実際に取り組んだ時間も少ない。創意工夫が乏しく研究計画も自分では作成していない。結果のまとめ方や発表内容も不十分である。

＜ １ ： 20点に相当。 非常に劣っている。D ＞

卒業・特別研究に取り組む時間が少なく、ほとんど研究を進めていない。指導教員の指示にほとんど従わず、研究計画立案や結果のまとめ方もいい加減である。研究の内容および結果に創意工夫の跡が全くなく、発表も拙劣である。

(出典　研究日誌)

資料５－８－①－５

平成 24 年度

科目名	数理科学Ⅰ	担当者	沖新　太郎

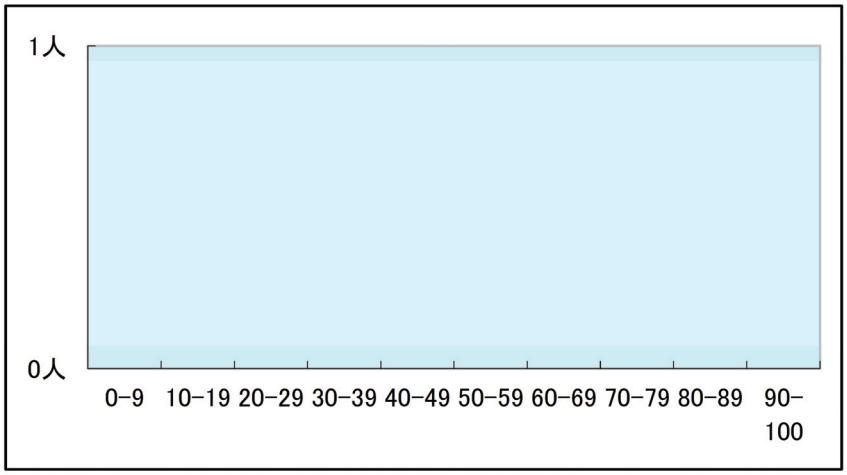
専攻科	1	年	前期	機械	工学系	必修
				電気電子	工学系	必修
				情報	工学系	必修
				化学・生物	工学系	必修

単位数	2	単位
受講者数	0	人

学年授業時数	0

平均点	0.0
最高点	0
最低点	0

優	0	人	≧80
良	0	人	≧70
可	0	人	≧60
不可	0	人	＜60



チェックリスト
- □シラバス
- □成績単票
- □問題用紙と模範解答
- □60点台の全答案
- □50点台の答案数例
- □優秀答案
- □追試答案
- □演習、レポート等（評価使用時）
- □教科書＆ノート

備考欄

	提出時サイン	日付		保存確認サイン	日付
担当者		／	学科長		／

（出典　答案ファイル）

資料５－８－①－６

平成 24 年専攻科成績単票

科　目　数理科学Ⅰ

第 1 学年　　単位数 2 単位　　科目担当者　沖新　太郎　印

番号	氏名	受講	成績評価											欠課時数				備考
			前期					前期成績追試後	後期				学年成績	前期		後期	学年	
			中間		定期	前期成績	定期追試後		中間		定期			中間	定期	中間		
			成績	追試後	成績				成績	追試後	成績	追試後		授業時数	授業時数	授業時数	授業時数	
(機械工学系)																		
(電気電子工学系)																		
(情報工学系)																		
(化学・生物工学系)																		
総計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人員			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

（出典　答案ファイル）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定や修了の判定に関する規定を定め,「専攻科履修の手引き」および本校ウェブサイト掲載により学生への周知を図っている。シラバスに評価方法・評価基準，自己学習の指針等について明記し，説明を行っている。単位認定・修了に関しては，規則に則り，慎重かつ厳格な運用のもと認定・判定を行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・本校ウェブサイト上で全科目のシラバスを作成できる「シラバス作成支援システム」を運用し，自由に閲覧でき，PDF形式ファイルのダウンロードも可能となっている。

・本校独自の活動として，世界的な問題に対する解決能力を養成するプログラム，将来に対するキャリアデザイン能力を養成するプログラムを実施している。

・準学士課程１年次において，創造性の育成を目的とした「創作実習」を実施し，プレゼンテーション能力の育成について考慮している。

・１専攻４系への専攻科の改組により，複合・融合型教育を更に発展させ，幅広い知識の修得を希望する学生や社会のニーズを満たしている。

・専攻科において創造性を育む教育として，異なる系の学生による班を編成し，マイコン制御の自律移動型マシンを製作する「総合創造演習」を行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準５の自己評価の概要

＜準学士課程＞

本校の教育目標に沿って，学科ごとに授業科目の適切な配置や学年間での関連を考慮したくさび形カリキュラムの教育課程となっており，教育内容の体系性が確保されている。各科目の授業内容に関しても，全体として教育課程の編成の趣旨に沿っている。各科目は，それぞれの教育目標を十分に実現できるように，講義，実験，実習，演習が適切な授業形態となっている。

シラバスには授業時間ごとに教育内容についてのキーワード等，必要な事項を記載している。シラバスの作成について，ウェブサイト上で容易に作成できる「シラバス作成支援システム」を本校独自に構築している。

創造性を育む教育方法として，授業内容にものづくりやプレゼンテーションを考慮した「創作実習」を全学科１年次に実施している。４年次にはインターンシップとして「工場実習」を実施しており，実習報告書の提出並びに実習報告会を行い，活用している。

教育課程の編成において人間の素養の涵養を図るため，１～３年次に「特別活動」を実施するとともに，４，５年次においては，マナー講習会，各種講演会を実施し，技術者・社会人として必要な心構え，倫理観について教育している。また，２年次は日帰りの企業見学，３年次には一泊研修旅行で長崎県近郊の企業見学を行い，４年次では４泊５日の海外の工場見学を実施している。

成績評価基準，進級・卒業判定に関する基準を規定しており，学生便覧に掲載するとともに，本校ウェブサイト上で閲覧可能となっている。これらは，入学直後のオリエンテーションや「特別活動」などで説明し，学生へ周知されている。単位認定，進級・卒業判定に関しては，規則に則り適切に実施されている。

＜専攻科課程＞

専攻科の授業科目は，各専門分野についてさらに深い専門知識，他分野の専門的基礎知識を学ぶ複合型教育による「もの創り技術者」を育成すべく，「一般科目」「専門基礎科目」「専門科目」から構成

され，適切に配置されており，準学士課程との連携も考慮している。

授業形態は講義形式を主として，実験・演習形式の授業も適宜配置している。受講学生数が少人数であることから，ゼミ形式の授業や，学生による発表を取り入れている。英語でプレゼンテーションを行う「応用コミュニケーション」等もある。学術提携している海外の大学への短期留学が行われており，選択科目の「インターンシップ」として単位を認定している。

また，実践的な複合型もの創り教育として，「総合創造実験」「総合創造演習」「技術者総合ゼミ」など効果的な授業を展開している。特に，「総合創造演習」では，創造性を育む教育として，異なる系の学生３～４人の班を編成し，マイコン制御の自律移動型マシンを製作する一連の工程が経験できるように工夫がなされている。シラバスは，準学士課程と同様に作成され，公開している。

「特別研究」の指導は，一人の学生に対し正副２名の教員が担当し，充実した指導体制となっている。指導教員が「研究日誌」により定期的に進捗状況を確認・指導し，審査・発表会等を実施して指導・評価を行っている。なお，全員に学協会等での発表を義務付けており，その成果として，学協会で優秀講演賞等を受賞している。

成績評価・単位認定や修了の判定に関する規定を定め，「専攻科履修の手引き」および本校ウェブサイト掲載により学生への周知を図っている。単位認定・修了に関しては，規則に則り，慎重かつ厳格な運用のもと認定・判定を行っている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では,各授業科目の教育目標に対する位置付けを明確にするため科目系統図を作成している(資料６－１－①－１)。これらの科目の修得により教育目標が達成されるようになっており，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について達成されたと見なすことができる。なお，履修する科目のほとんどが必修科目である。その達成状況を把握・評価するために，年４回の試験を行い，成績不振者に対しては追試験を行っている。さらに，欠点科目が３科目以下の場合には学年末試験終了後に再試験を行っている（資料６－１－①－２)。

これらの試験結果について，教員には全学生の成績が掲載された一覧表が配布され，関係する学生の全授業科目についての状況を把握することができる（資料６－１－①－３訪問時資料)。なお，準学士課程の学生には，試験ごとに成績通知票を本人並びに保護者に配布している。学生は各授業科目の成績を成績通知票から成績記録に転記しファイル化する「学習の記録（ポートフォリオ）(資料６－１－①－４，資料６－１－①－５訪問時資料)」により，学生自身が授業科目の理解度及び教育目標の達成状況を把握・評価できる。本校独自で開発したポートフォリオ「自己点検表作成支援システム」により,専攻科課程の学生がウェブサイト上で授業科目の理解度を把握･評価することが可能である(資料６－１－①－６)。

学年末には教育目標に対応する各授業科目の達成度を評価し，規則に則り卒業及び進級を判定している（資料６－１－①－７，８訪問時資料)。専攻科についても，規則に則り修了を判定している（資料６－１－①－９訪問時資料)。

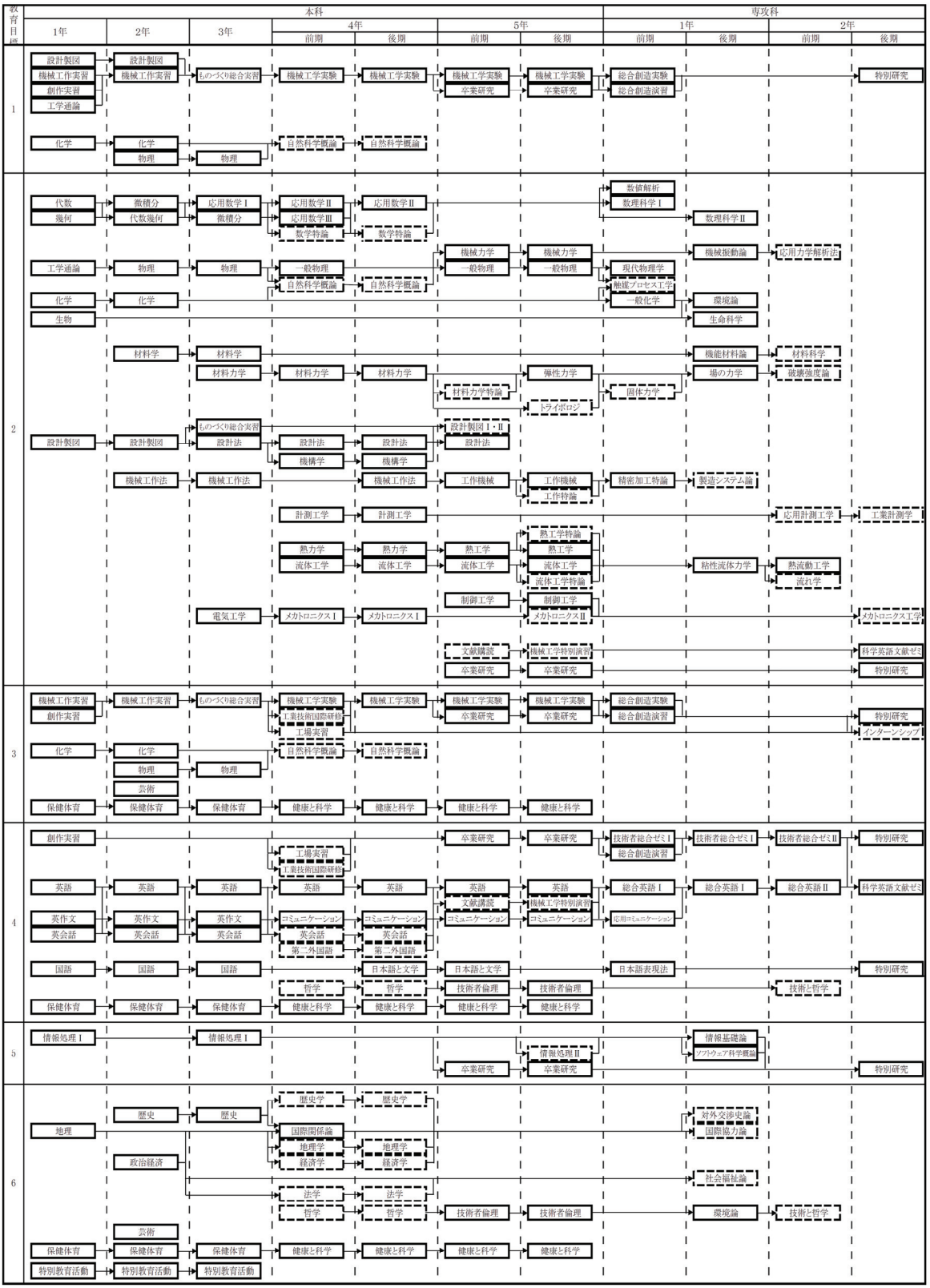
観点６－１－①資料一覧

（資料６－１－①－１）	教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ	出典：平成 24 年度シラバス
（資料６－１－①－２）	学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則	出典：教員必携
（資料６－１－①－３）	平成 24 年度　後期中間　成績一覧	訪問時資料
（資料６－１－①－４）	１年生の成績記録様式	出典：学生課資料
（資料６－１－①－５）	学習の記録	訪問時資料
（資料６－１－①－６）	自己点検表作成支援システム	出典：本校ウェブサイト
（資料６－１－①－７）	卒業判定会議資料	訪問時資料
（資料６－１－①－８）	進級判定会議資料	訪問時資料
（資料６－１－①－９）	専攻科委員会会議資料	訪問時資料

資料６－１－①－１

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ・専攻科を含む（機械工学科）

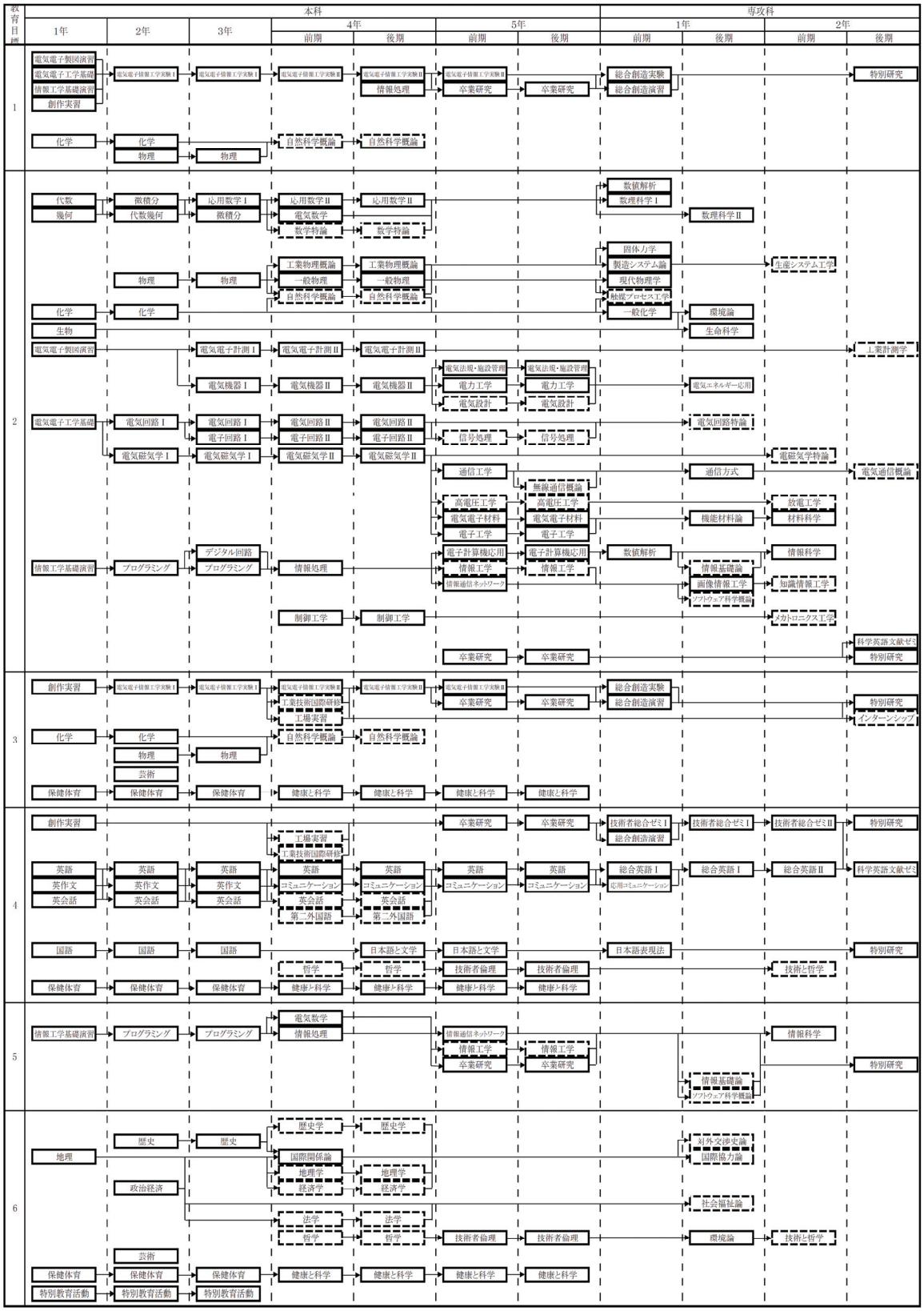
必　須　　選　択



資料６－１－①－１続き

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ・専攻科を含む（電気電子工学科）

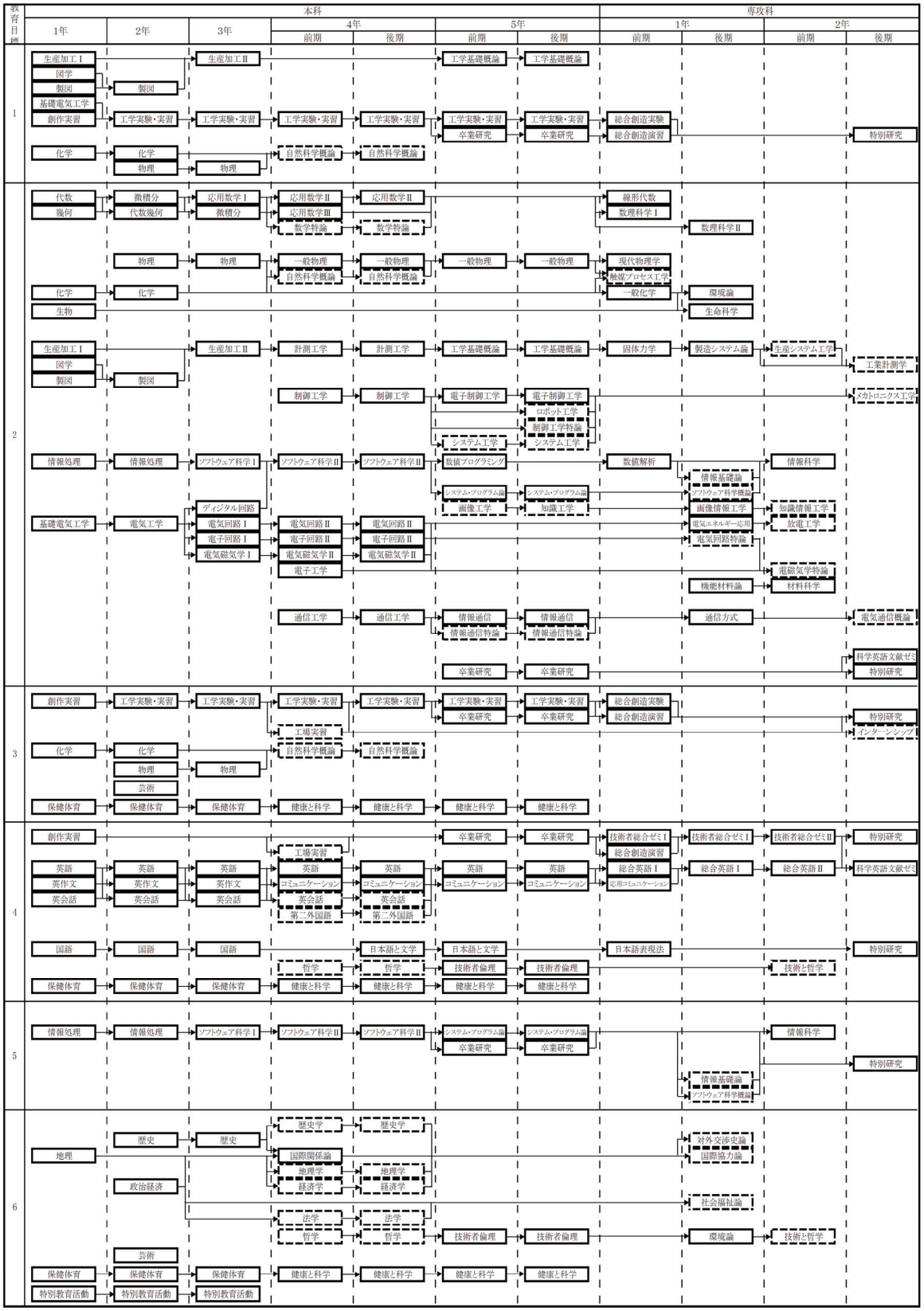
必須　選択



資料６－１－①－１続き

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ・専攻科を含む（電子制御工学科）

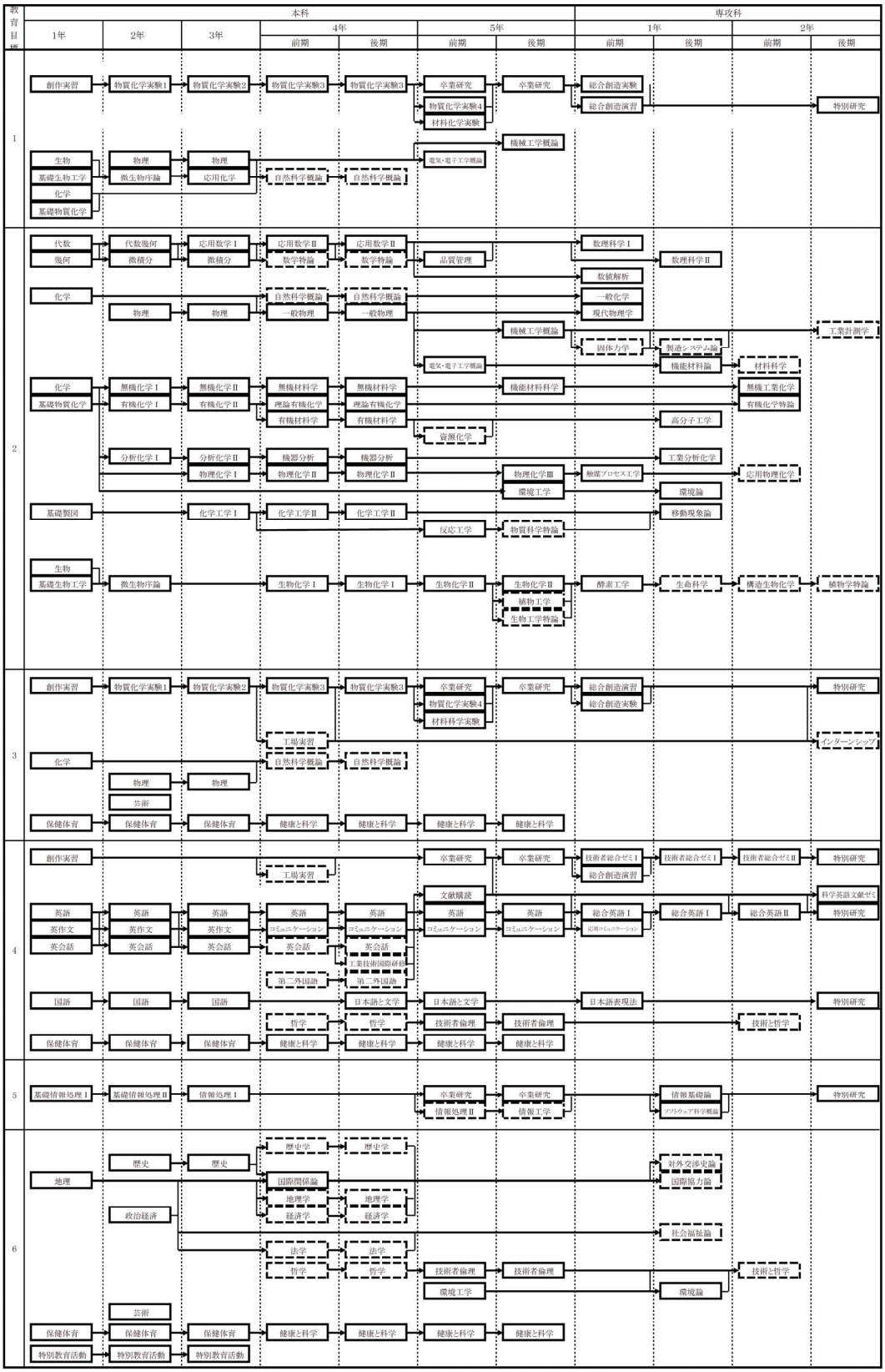
必　須　　選　択



資料６－１－①－１続き

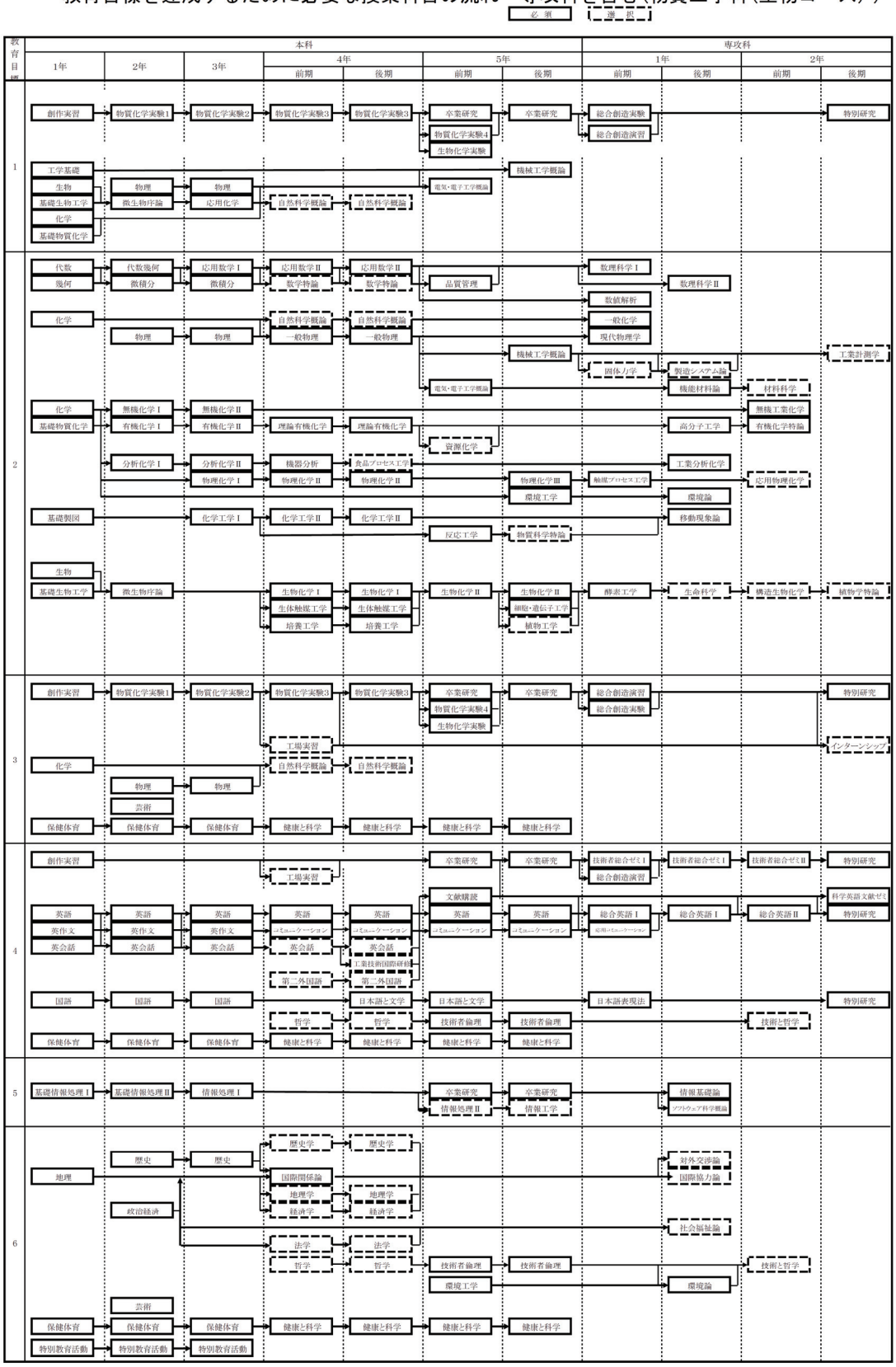
教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ・専攻科を含む（物質工学科（物質コース））

必 選 選



資料６－１－①－１続き

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ・専攻科を含む(物質工学科(生物コース))



（出典　平成 24 年度シラバス）

資料６－１－①－２

佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則

第３章　試験

（定期試験及び中間試験）

第８条　定期試験は各学期末に当該学期において開講した授業科目について実施し、中間試験は各学期の中間に必要がある授業科目について実施する。ただし、平素の成績で評価できる科目（卒業研究、実験、実習、実技及び演習等）については、試験を実施しないことがある。

（追試験）

第９条　次の各号に掲げる理由により定期試験又は中間試験を受けることができなかった者については、原則として追試験を実施する。

一　病気（医師の証明書等がある場合に限る。）

二　忌引（佐世保工業高等専門学校学生準則第１４条に該当する場合に限る。）及び当該忌引に必要な旅行

三　特別欠席（第１７条第３項に該当する場合に限る。）及び当該特別欠席に必要な旅行

四　出席停止（学則第３０条に該当する場合に限る。）

五　その他やむを得ない理由があると校長が認めたとき。

２　第１３条第３項に規定する各学期中間及び前学期末におけるそれぞれの学業成績の評価の結果、60 点未満の授業科目がある者（成績不振者）については、原則として追試験を実施する。

なお、４，５年生については、学年末も追試験を実施する。

３　追試験の成績評価は 100 点法により行い、その最高点は次のとおりとする。

一　第１項第１号の場合は 80 点

二　第１項第２号から第５号の場合は 100 点

三　第２項の場合は 60 点

（再試験）

第１０条　学年末における学業成績の評価の結果、次の各号のすべてに該当する場合には、教員会議の議を経て、再試験を実施する。

一　単位の修得を認定されなかった授業科目が３科目以下であること。

二　学業成績の評価の結果、当該学年における学業成績の平均点が 60 点以上であること。

三　実験、実習（工場実習を除く。）及び卒業研究の単位を修得していること。

四　出席日数が年間の出席すべき日数の４分の３以上であり、かつ、各授業科目の出席した単位時間数が出席すべき単位時間数の４分の３以上であること。

２　再試験は当該年度の指定された日までに実施する。

（不正行為の取扱い）

第１１条　試験において不正行為を行った者については、不正行為を行った時間以降の受験を認めない。また、当該試験期間中におけるすべての試験成績は０点とする。

第１２条　試験以外の成績評価（課題レポート等）において不正を行った者については、当該科目の最終成績を０点とする。

（出典　教員必携　抜粋）

資料６－１－①－４

平成 24 年度 成績記録　1年M組　番 氏名

区分		科目名	単位数	受講	成績評価									欠課時数/授業時数			
					前期					前期成績（追試験後）	後期		学年成績	前期		後期	学年
					中間		定期	前期成績	定期		中間			中間	定期	中間	
					成績	追試後	成績		追試後		成績	追試後					
一般科目	必修	国語	3	○										／	／	／	／
		地理	2	○										／	／	／	／
		代数	4	○										／	／	／	／
		幾何	3	○										／	／	／	／
		化学	2	○										／	／	／	／
		生物	2	○										／	／	／	／
		保健体育	2	○										／	／	／	／
		英語	3	○										／	／	／	／
		英作文	2	○										／	／	／	／
		英会話	1	○										／	／	／	／
		特別活動	1	○										／	／	／	／
専門科目	必修	情報処理Ⅰ	1	○										／	／	／	／
		設計製図	3	○										／	／	／	／
		工学通論	2	○										／	／	／	／
		創作実習	1	○										／	／	／	／
		機械工作実習	1	○										／	／	／	／
		記入例	2	○	70		40	55	60	65	55	60	64	0／16	2／30	6／46	8／60
		平均点															
		学級平均点															
		学級順位															
		欠点科目数															

	反省
前期中間	
前期定期	
後期中間	
学年末	

◆ 網掛欄の「前期中間成績」,「前期成績」,「後期中間成績」は各試験終了後，担任から配布される成績通知表を転記する(「前期成績」は中間試験も考慮した前期の総合成績(ただし，前期定期追試験の結果は考慮されない))。
◆ 「追試後」の成績は，当該科目のみ，科目担当の先生に点数を確認後，記入する。
◆ 「前期定期成績」は定期試験だけの成績で，科目担当の先生より答案返却時の点数を記入する。
◆ 「前期成績(追試験後)」は，前期定期試験の追試受験者は，科目担当の先生に点数を確認後，記入する。
◆ 網掛欄の「学年成績」は，新年度成績通知表を転記する。
◆ 「欠課時数/授業時数」は成績通知表を転記する。

(出典　学生課資料)

資料６－１－①－６

単位修得状況

電気電子工学系:[redacted]

更新日:2013 年 5 月 16 日

【単位修得状況】

取得単位の合計:122 単位(124単位以上が必要)

([redacted] は、未修得、あるいは受講していない科目)

区分	本科					専攻科				
	科目	4年	5年	授業	欠課	科目	1年	2年	授業	欠課
人文科学社会科学	日本語と文学	1	1	30	0	日本語表現法	2		30	0
	英語	1	1	33	1.5	総合英語Ⅰ	2		34	0
	コミュニケーション	1	1	32.5	1	総合英語Ⅱ				
	技術者倫理		2	31	0	応用コミュニケーション	1		34	0
	国際関係論	1		16	0	科学英語文献ゼミ				
	地理学					技術者総合ゼミⅠ	2		62	0
	法学					技術者総合ゼミⅡ				
	経済学					技術と哲学				
	哲学					国際協力論	2		30	0
	歴史学					対外交渉史論				

学習保証時間とその内訳

電気電子工学系:[redacted]

更新日:2013 年 5 月 16 日

【学習保証時間とその内訳】

人文科学、社会科学等:	413 時間	(250 時間以上)
数学、自然科学、情報技術:	889 時間	(250 時間以上)
専門分野:	1637 時間	(900 時間以上)
総計:	2939 時間	(1800 時間以上)

(※参考　科目毎)

学習内容の区分	学習保証時間					
	必須あるいは選択の合計		講義	演習	実験	その他
人文科学、社会科学等(語学教育を含む)の学習	必須	363	284	79		
	選択	50	50			
	合計	413	334	79		
数学、自然科学、情報技術の学習	必須	681	578	103		
	選択	208	208			
	合計	889	786	103		

(出典　本校ウェブサイト　抜粋)

（分析結果とその根拠理由）

教育目標に対する各科目の役割を明確に定めており,全科目を修得することで高等専門学校として,学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力が身に付いたと見なすことができる。さらに,その達成状況を把握・評価するために，年４回の試験及び成績不振者に対しては追試験及び再試験を行っている。これらの試験結果は，教員だけでなく，ポートフォリオによって学生自身にもその達成状況を把握・評価することができる。さらに，卒業・進級・修了の判定は規則に則り行っている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

教育目標と授業科目の対応がとれており，各学年での必修科目の単位を取得することで学生が身に付けるべき学力や資質･能力を卒業及び修了時までに身に付けることができる(観点６－１－①参照)。準学士課程の単位取得状況は取得率が約99%，進級状況については１～４年生が次年度新しい学年へ進級している割合は約98%，卒業時の状況については平成20年度入学者数に対する平成24年度卒業者数の割合が97%以上である（資料６－１－②－１）。

退学者，留年者は年度によって多少の変動があり，平成23年度は留年者および休学者が増加しているが，平成24年度は例年並みとなっている（資料６－１－②－２)。最終的には，ほとんどの学生が修業年内に教育目標に到達して卒業（修了）している。

卒業研究・特別研究は，教育目標全ての項目についての達成度評価としての科目であり，学修の総括として位置づけている。その内容は，各専門分野での先端領域についての研究がなされており（資料６－１－②－３)，卒業研究・特別研究の成果を学協会で発表し（資料６－１－②－４)，学協会による表彰例も認められる(資料５－７－①－３，４参照)。

資料６－１－②－１

単位取得率等の実績

年度	20	21	22	23	24
単位取得率	99.2	98.8	99.0	97.3	98.9
進級率	98.2	97.5	97.3	92.4	98.4
準学士課程卒業率	100.0	98.8	98.2	96.9	97.1
専攻科課程修了率	91.5	93.6	96.0	100.0	100.0

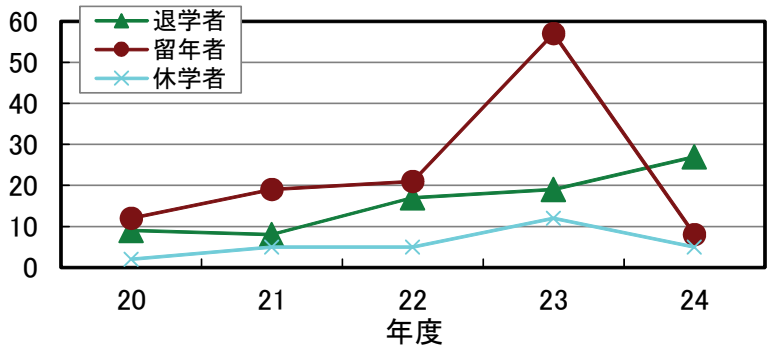
（出典　学生課資料）

観点６－１－②資料一覧

（資料６－１－②－１）	単位取得率等の実績	出典：学生課資料
（資料６－１－②－２）	退学者，留年者，休学者数	出典：教育データベース
（資料６－１－②－３）	平成 24 年度卒業研究題目一覧	出典：学生課資料
（資料６－１－②－４）	平成 24 年度卒業研究生の学会発表例	出典：日本機械学会九州学生会講演会論文集

資料６－１－②－２

退学者，留年者，休学者数



（出典　教育データベース）

資料６－１－②－３

平成24年度機械工学科卒業研究題目

No.	研　究　テ　ー　マ	担当教員	No.	氏名
1	階段用曲線形手すりに関する研究	福田		
2	トイレ用曲線形手すりに関する研究	福田		
3	炭素鋼の疲労特性に及ぼす多量の水素の影響	西口		
4	多量の水素が炭素鋼の引張特性に及ぼす影響	西口		
5	内歯車歯面のラッピングに関する研究	中江		
6	小径歯車歯面のラッピング仕上げ	中江		
7	高面圧運転試験における真空浸炭窒化歯車の歯面性状	森川		
8	自動車用電動パワステ・ウォームホイールの負荷能力	森川		
9	スーパー・エンプラ材の最適切削加工条件とその仕上面評価	森川		
10	3D-CADモデルによる教材の開発	小原・西村		
11	古典制御理論による倒立振子の安定化	中浦		
12	2次系のメカニカル系を用いた工学実験教材の開発	中浦		
13	二輪車用姿勢安定化装置のための基礎的研究	貞弘		
14	非線形自転車モデルの構築とその実験的検証	貞弘		
15	軟鋼板の振動における内部減衰に関する研究	原		
16	クラドニ図形発生装置の製作とFEMによる確認	原		
17	レーザを利用したガラスの新しい除去加工技術開発	森田		
18	振動モードを利用したガラスの新しいクロスカット技術開発	森田		
19	校外講座用実験・実習教材の製作	森田		
20	垂直管内気液環状流における表面張力の影響に関する研究	松山		
21	マイクロバブルの応用可能性に関する研究	松山		
22	加速度センサと角速度センサによるラグビー選手の運動軌跡計測	中島		
23	加速度センサと角速度センサによるラグビー選手の衝撃力計測	中島		

（出典　学生課資料　抜粋）

資料６－１－②－４

平成 24 年度卒業研究生の学会発表例

1223

二自由度動作のための ワイヤ駆動型五指ロボットハンドの製作

Testbeds of wire-driven human-like robot hands with 2 DOF

○学　別府　大輔（佐世保高専），正　槇田　諭（佐世保高専）

Daisuke BEPPU, Sasebo National College of Technology, 1-1 okishinmachi, Sasebo, Nagasaki
Satoshi MAKITA, Sasebo National College of Technology

Key Words: ロボットハンド，ワイヤ駆動型，義手

1. 序論

人は五指の手を有しており，手を用いることで物を持ち，体を支えることができる．また，五指の各指を別々に動かすことで様々な道具を利用することもできる．特に，指の自由度の多さ（自由度の高さ）によって多様な動作が可能になっている．一方で，手の代替として上肢欠損者が使うものとして能動義手がある[1]．ただし，前述のように人の手はとても複雑な構造をしているため，能動義手に人の手のような高度な機能を持たせるためには様々な機器が必要となる．

能動義手の構造やシステムは機器が多くなるにつれて複雑になり，制御が容易でなくなる．したがって，義手を安全に使用するために制御の安定性が課題となる．それに加え，機器が多くなることによって義手が重く使いづらいなどの問題が生じてくると考えられる．これらの問題から，義手は少ない数の機器で構成され，簡易な機構であることが望ましいといえる．

例えば，実用されているハンド[2]は制御安定性の点から一自由度で駆動する．ほかに一自由度で駆動するものに小栗らのハンドがあり[3]，これは人の手のような滑らかな開閉動作を行う機構になっている．ただし，いずれもハンドの動作は開閉のみに限られる．

そこで本研究では，安定した制御でより多様な動作を実現することを目指して，二自由度ロボットハンドを開発し，その動作を考察する．ここから，高自由度の人の手で行っている動作を，五指の二自由度ロボットハンドで達成する方法を検討する．

2. ロボットハンドについて

多指ロボットハンドは大きく分けて，電動モータ型とワイヤ駆動型に分けられる．電動モータ型は各関節にアクチュエータとしてモータを組み込んで動作させる．

一方，ワイヤ駆動型はリンクに接続したワイヤを牽引することで指を動作させる．ワイヤ駆動型は電動モータ型に比べ比較的軽量であり，電動モータ型のような高トルク・高出力はあまり期待できないが，人のような高速な動作を行うことが可能である．これらの特徴から，ワイヤ駆動型ロボットハンドは筋電義手など主に医療分野で，人の装具として用いられている[1][4]．

3. じゃんけん動作のための五指ロボットハンド

本章では二自由度動作の例として，じゃんけん動作を目的とするワイヤ駆動型ロボットハンドの開発を行う．ワイヤの駆動にはモータにはベストテクノロジーの Dynamixel AX-12+を使用する．また，モータの制御プログラムには HSP [5]を用いる．

3.1 機構

ロボットハンドは人の手を模したものとし，大きさは大人の手と同程度とした．また，指の数は 5 本とし，拇指は 2 関節，それ以外の指には 3 関節を持たせた．各指のリンクにはばねポストを貫通させ，ワイヤとバネを保持する．手の平側にワイヤをそれぞれ 1 本ずつ指に沿うように通し，指先に金具で固定した（Fig. 1）．また，各リンク間を接続する引っ張りばねを手の甲側に接続した（Fig. 2）．このような機構により，ワイヤを牽引すると指が曲がり，ワイヤの牽引を緩めるとばねの復元力で指が伸びるようにした．

ロボットハンドの各指に通されたワイヤは，以下の組み合わせでモータと接続されている．

・拇指，薬指，小指　（チョキの動作に対応）
・五指すべて　（グーの動作に対応）

また，手首関節は可動であるが，じゃんけんの手を正面からわかりやすくするために，ロボットハンドと腕の角度が 90° になる状態で固定した（Fig. 3）．

3.2 動作

本章で開発したロボットハンドの目的であるじゃんけんの動作を説明する．まず，両方のモータの状態をワイヤの牽引を緩める方向に駆動させることで，パーの動作を行うことができる（Fig. 4）．また，五指すべてのワイヤを接続したモータを，ワイヤを牽引する方向に駆動させることで，グーの動作を行うことができる（Fig. 5）．このとき，拇指，薬指，小指のワイヤが接続されているモータの状態は，グーの動作には関係していない（Fig. 6）．よって，グーの動作を行う場合には，モータの状態が 2 通りある．さらに，拇指，薬指，小指のワイヤを接続したモータを，ワイヤを牽引する方向に駆動させると同時に，五指すべてのワイヤを接続したモータをワイヤの牽引を解除する方向に駆動させることで，じゃんけんのチョキの動作を行うことができる（Fig. 7）．

3.3 問題点

本章で製作したロボットハンドは二つのモータが拇指，薬指，小指の動作に干渉していたため，ワイヤの緩みなどの原因となった．また，ワイヤがロボットハンドの表面に出ていることで絡まりやすくなり，動作に支障を起こすことが問題となった．

㈳日本機械学会　九州学生会　第43回卒業研究発表講演会（No 128-2 論文集）2012年3月12日

（出典　日本機械学会九州学生会講演会論文集）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程・専攻科課程においては，単位取得率，進級率及び卒業（修了）率のいずれも高く，卒業研究・特別研究の内容・水準は十分に高く，学協会発表レベルであり，学協会により表彰される者もいる。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の卒業生の進路の割合は，約60％が企業への就職，約40％が本校専攻科に進学あるいは大学３年次に編入であり，その他の進路は専門学校等である（資料６－１－③－１）。

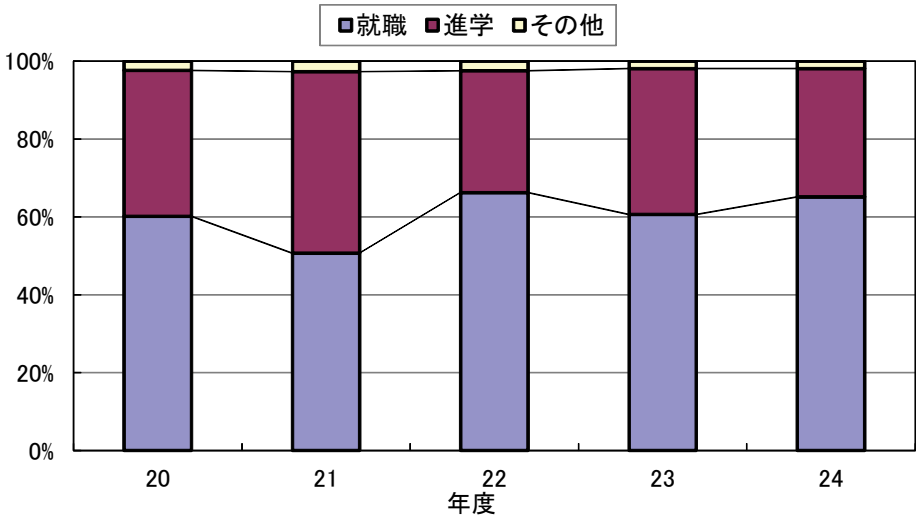
準学士課程の就職の内訳は，９割以上が製造業及びソフトウェア開発等のサービス産業であり，主に技術系職種での採用となっている（資料６－１－③－２）。一方，準学士課程の進学の内訳は，そのほとんどが専攻科課程と大学の理工系学部（工学部，農学部，理学部）である（資料６－１－③－３）。

専攻科課程の修了生の進路の割合は，約70％が企業への就職，約30％が大学院に進学であり，その他の進路は専門学校等である（資料６－１－③－４）。

専攻科課程の就職の内訳は，９割以上が製造業及びソフトウェア開発等のサービス産業であり，主に技術系職種での採用となっている（資料６－１－③－５）。また，専攻科課程の進学先は，そのほとんどが国立大学工学系の大学院となっている（資料６－１－③－６）

資料６－１－③－１

準学士課程卒業生の進路の割合



（出典　教育データベース）

観点６－１－③資料一覧

（資料６－１－③－１）	準学士課程卒業生の進路の割合	出典：教育データベース
（資料６－１－③－２）	学科別卒業生　就職先一覧（卒業時）	出典：教育データベース
（資料６－１－③－３）	学科別卒業生　進学先一覧（卒業時）	出典：教育データベース
（資料６－１－③－４）	専攻科課程修了生の進路の割合	出典：教育データベース
（資料６－１－③－５）	専攻科課程修了生　就職先一覧（修了時）	出典：教育データベース
（資料６－１－③－６）	専攻科課程修了生　進学先一覧（修了時）	出典：教育データベース

資料６－１－③－２

学科別卒業生就職先 （卒業時）

機械工学科

会社名	20	21	22	23	24
第一精工	2	1	1	2	1
日本精工九州(株)	1	2	1	1	1
関西電力	1		1	1	1
大和製罐			1	1	1
千代田工商(株)			1	1	1
王子板紙				1	1
中部電力				1	1
三星ダイヤモンド				1	1
三菱重工業長崎研究所	1		1		1
村田機械	1		1		1
NOK(株)					1
MHIプラントエンジニアリング					1
オートリブ					1
九州住電精密					1
極東石油工業					1
タカハタプレシジョン九州					1
テクモ					1
日特エンジニアリング					1
日本下水道事業団					1
日本ピラー(自由)					1
パナソニック・デバイス					1
日立建機					1
富士ダイス					1
富士電機					1
三菱電機ビルテクノサービス					1
三菱重工業横浜研究所					1
ミヤマ精工					1
明治九州工場					1
ワイビーエム					1
三菱重工業長崎造船所	1	2	1	1	
長崎キヤノン(株)		1	1	1	
日鐵プラント設計	1	1		1	
(株)大島造船所		1		1	
九州グリコ(株)	1			1	
クレオ	1			1	
出光興産徳山製油所				1	
音戸工作所				1	
国立印刷局				1	
新日本製鐵				1	
住友化学				1	
中山鉄工所				1	
日東電工(株)				1	
日本テクシード				1	
富士通九州システムズ				1	
牧野フライス				1	
ヤクルト本社佐賀工場				1	
長菱設計	1	1	1		
東京電力(株)		1	1		
(株)ジェイペック	1		1		
ﾄﾖﾀﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	1		1		
日本モレックス(株)	1		1		
大岡技研(株)			1		
いすゞエンジニアリング(株)			1		
京セラ(株)川内工場			1		
ダット			1		
千代田化工建設(株)			1		
東レ			1		
トヨタ自動車(株)			1		
西日本プラント工業			1		
日東電工(株)豊橋事業所			1		
(株)日立国際電気			1		
マツダE&T			1		
三菱重工業(株)神戸造船所			1		
安川エンジニアリング			1		
住友精化(株)	1	1			
キヤノン(株)		1			
新日本製鐵(株)		1			
東芝エレベータ		1			
西島製作所		1			
名村造船所		1			
三菱重工業高砂製作所		1			
山崎製パン(株)		1			
ﾄﾖﾀﾃｸﾆｶﾙﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ	2				
海上自衛隊	1				
佐世保重工業	1				
シャープ(株)	1				
(株)JAL航空機整備成田	1				
ティー・エス・ジー	1				
東海旅客鉄道(株)	1				
日産テクノ	1				
日本ピソー	1				
日本理工医学研究所	1				
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸITS(株)	1				
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸﾌｧｸﾄﾘｰｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ(株)	1				
三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所	1				
	29	18	27	26	29

電気電子工学科

会社名	20	21	22	23	24
関西電力	1	1	1	2	2
三菱重工業長崎造船所	1	2	1	1	1
中部電力		1	1	1	1
三菱電機ビルテクノサービス		1	1	1	1
NHKアイテック	1	1			1
サントリープロダクツ		1			1
長崎キヤノン(株)		1			1
アルファシステムズ					1
石田エンジニアリング(株)					1
出光興産					1
ANAコンポーネントテクニクス(株)					1
オムロン					1
オムロンフィールドエンジニアリング九州					1
川崎重工業(株)					1
九検(株)					1
九州テン					1
京セラコミュニケーションシステム(株)					1
きんでん					1
西肥情報サービス((株))					1
JPハイテック(株)					1
武田薬品工業(株)					1
中国電力(株)					1
テルモ(株)					1
TOTO(株)					1
長崎県庁					1
中山鉄工所(株)					1
フジテック(株)					1
富士電機(株)					1
三菱電機(株)長崎製作所					1
防衛省	1	1	1	1	
九州電力		1	1	1	
日本精工九州		1	1	1	
佐賀鉄工所	1		1	1	
西日本プラント工業			1	1	
日立ビルシステム			1	1	
三菱電機システムサービス			1	1	
雪印メグミルク(株)			1	1	
旭国際テクネイオン(株)				1	
味の素冷凍食品(株)				1	
出光興産(株)徳山製油所				1	
コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱				1	
東ソー(株)				1	
東洋水産(株)				1	
長崎新聞印刷センター				1	
富士ゼロックス福岡				1	
東海旅客鉄道		1	1		
東京電力		1	1		
トヨタ自動車		1	1		
三菱電機		1	1		
三菱重工業神戸造船所		1	1		
三菱電機ﾌﾟﾗﾝﾄｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ		1	1		
(株)アトックス	1		1		
NOK(株)			1		
大阪ガス			1		
キヤノン(株)			1		
西部ガス			1		
サン・エレック			1		
三興コントロール(株)			1		
自営			1		
新興プランテック(株)			1		
DIC(株)			1		
東芝電機サービス(株)			1		
(株)東洋新薬			1		
戸畑共同火力(株)			1		
野里電気工業(株)			1		
日立化成工業(株)			1		
富士通九州システムズ			1		
富士通マーケティング			1		
(株)フランソア			1		
JPEC(株)	1	1			
ダイキン工業(株)	1	1			
NTTネオメイト		1			
九州管区警察局Ⅱ種		1			
国精工業		1			
中外製薬(株)		1			
東芝エレベータ(株)		1			
西日本旅客鉄道		1			
日信電子サービス		1			
ヒューマンテクノシステム(株)		1			
森永製菓		1			
自衛隊(航空・海上)	2				
イーエレクス	1				
(株)NTTファシリティーズ九州	1				
九州グリコ(株)	1				
(財)九州電気保安協会	1				
サミー	1				
JFEスチール	1				
デンソーテクノ(株)	1				
トヨタテクニカルディベロップメント	1				
パナソニックITS(株)	1				
マツダ	1				
三菱電機ｺﾝﾄﾛｰﾙｿﾌﾄｳｪｱ	1				
	21	28	36	21	30

資料６－１－③－２続き

学科別卒業生就職先 （卒業時）

電子制御工学科

会社名	20	21	22	23	24
本田技研工業	1	1	1	1	1
九州電力(株)			1	1	1
三菱重工名古屋宇宙航空システム製作所				1	1
安川エンジニアリング(株)				1	1
キヤノン(株)	1		1		1
三菱重工業長崎造船所	1		1		1
(株)ダッド			1		1
富士ゼロックス(株)			1		1
富士通	1	1			1
関西電力		1			1
旭化成					1
KDDI					1
資生堂					1
チームラボ株式会社					1
東洋新薬株式会社					1
日本モレックス					1
日野自動車株式会社					1
富士テクノ株式会社					1
三菱電機コントロールソフトウェア(株)					1
三菱電機ビルテクノサービス					1
吉野工業所(株)					1
ダイキエンジニアリング				2	
ジェイ・アール・シー特機(株)		2	1	1	
ﾄﾖﾀﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ(旧BPA)		1	1	1	
京セラ	1			1	
JFEスチール	1			1	
マツダ	1			1	
旭テック(株)				1	
アタカ大機(株)				1	
ANAエアロテック(株)				1	
(株)ISOWA				1	
川崎重工業(株)				1	
九電テクノシステムズ(株)				1	
KDDIテクニカルエンジニアリングサービス				1	
三興コントロール				1	
三波工業				1	
JNC(株)水俣製造所				1	
西日本プラント工業				1	
日本精工				1	
日本ビジネスソフト				1	
日立国際電気				1	
富士通ネットワークソリューションズ(株)				1	
(株)日立製作所	1	1	3		
王子板紙(株)		1	1		
東海旅客鉄道		1	1		
東芝		1	1		
長崎キヤノン(株)		1	1		
トヨタテクニカルディベロップメント(株)	1		1		
久光製薬	1		1		
コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)			1		
サントリーホールディングス(株)			1		
(株)ソルクシーズ			1		
第一精工(株)			1		
日本精工九州			1		
富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)			1		
メタウォーター(株)			1		
(株)メディック			1		
リコー			1		
CTCテクノロジー	2	1			
NTTコミュニケーションズ	1	1			
シャープ	1	1			
日立情報通信エンジニアリング(旧日立ハイブリッドネットワーク)	1	1			
NHKメディアテクノロジー		1			
(独)国立印刷局		1			
ダイキン工業		1			
日本空港テクノ(株)		1			
東レ	2				
ソニーイーエムシーエス	1				
ソニーセミコンダクタ九州	1				
ダイハツ工業	1				
トヨタ自動車	1				
名村造船所	1				
西日本旅客鉄道	1				
パイオニア	1				
(株)ハドソン	1				
日立オムロンターミナルソリューションズ	1				
富士重工業	1				
森永製菓	1				
	28	19	26	26	21

物質工学科

会社名	20	21	22	23	24
日本触媒			1	1	2
旭化成(株)				1	2
ダイキン工業	1		1	2	1
武田薬品工業(株)		1	1	1	1
三菱ガス化学(株)		1		1	1
小川香料				1	1
ユニチカ				1	1
京セラ			1		1
東レ	1	1			1
花王		1			1
ナリス化粧品	1				1
大日精化					1
ダイヤソルト					1
タカハタプレシジョンジャパン					1
田辺三菱製薬工場					1
鳥栖キューピー					1
日東電工 尾道事業所					1
日東電工 豊橋事業所					1
日本理工医学部研究所					1
東ソー				2	
日東電工	1		1	1	
大日精化工業			1	1	
出光興産(株)		1		1	
三菱重工業長崎研究所	1			1	
森永乳業	1			1	
宇部興産				1	
王子板紙				1	
JNC(株)				1	
JNCエンジニアリング(株)				1	
ソニーセミコンダクタ九州				1	
ダイソー(株)				1	
ディスコ				1	
東燃ゼネラル石油				1	
三菱重工業高砂研究所				1	
長菱エンジニアリング(株)		1	1		
三洋化成工業	2		1		
昭栄化学工業	1		1		
DIC(大日本インキ化学工業)	1		1		
トクヤマ	1		1		
(株)クレオ			1		
新日本製鐵			1		
第一三共プロファーマ			1		
高畑精工			1		
田中貴金属工業			1		
鳥栖市役所			1		
日清紡メカトロニクス			1		
フジキン			1		
長崎キヤノン(株)		2			
日本ミルクコミュニティ(株)	1	1			
アドバンテック(株)		1			
(株)ダット		1			
サントリー	1				
自衛隊	1				
触媒化成工業	1				
ツジデン	1				
艶金興業	1				
東洋製罐	1				
日本化学産業	1				
半導体エネルギー研究所	1				
明治乳業	1				
理研ビタミン	1				
和光純薬工業	1				
	23	11	19	24	21

（出典　教育データベース）

資料６－１－③－３

準学士課程卒業生　進学先一覧（卒業時）

機械工学科

大学等名	学部名	20	21	22	23	24
佐世保高専	専攻科	6	5	7	7	3
長崎大学	工学部	1	2	1		
佐賀大学	理工学部	2			1	1
九州大学	工学部				2	
九州工業大学	工学部	1	1	2	2	1
九州工業大学	情報工学部				1	1
熊本大学	工学部		1		2	1
大分大学	工学部		1			
鹿児島大学	工学部		2			
山口大学	工学部	1				
広島大学	工学部		1			
岡山大学	工学部		1			
豊橋技術科学大学		1	3	1		
東京工業大学	工学部	1				
東京農工大学	工学部					1
群馬大学	工学部				1	
合計		13	17	11	16	8

電気電子工学科

大学等名	学部名	20	21	22	23	24
佐世保高専	専攻科	8	7	4	8	11
佐賀大学	理工学部	1			2	
九州大学	工学部	1				
九州大学	芸術工学部			1		
九州工業大学	工学部		2			
熊本大学	工学部	2	1		1	
宮崎大学	工学部				1	
岡山大学	工学部	1				1
長岡技術科学大学					1	1
豊橋技術科学大学			2		1	
東京農工大学	工学部		1			1
電気通信大学	電気通信学部		1			
福井大学	工学部					1
福岡工業大学	工学部	1			1	
合計		14	14	5	15	15

電子制御工学科

大学等名	学部名	20	21	22	23	24
佐世保高専	専攻科	7	7	10	8	5
長崎大学	工学部			1		
佐賀大学	理工学部		1			1
九州大学	工学部				1	1
九州工業大学	情報工学部	2	2			1
熊本大学	工学部	2	1	1	2	1
大分大学	工学部			1		
琉球大学	工学部				1	
山口大学	工学部				1	
広島大学	工学部			1		
岡山大学	工学部			1		
香川大学	工学部					1
東京工業大学	工学部		1			
東京農工大学	工学部		1			
電気通信大学	電気通信学部	1		1		
電気通信大学	情報理工学部				1	
筑波大学	情報学群		3		1	
茨城大学	工学部	1				
信州大学	理学部	1				
名古屋大学	工学部					1
京都工芸繊維大学	工芸科学部		1			
大阪大学	基礎工学部	1				
日本大学	工学部				1	
北九州市立大学	国際環境工学部	1				
福岡工業大学	工学部			2		
〃	情報工学部		1			
熊本高専	専攻科		1			
合計		16	19	18	16	11

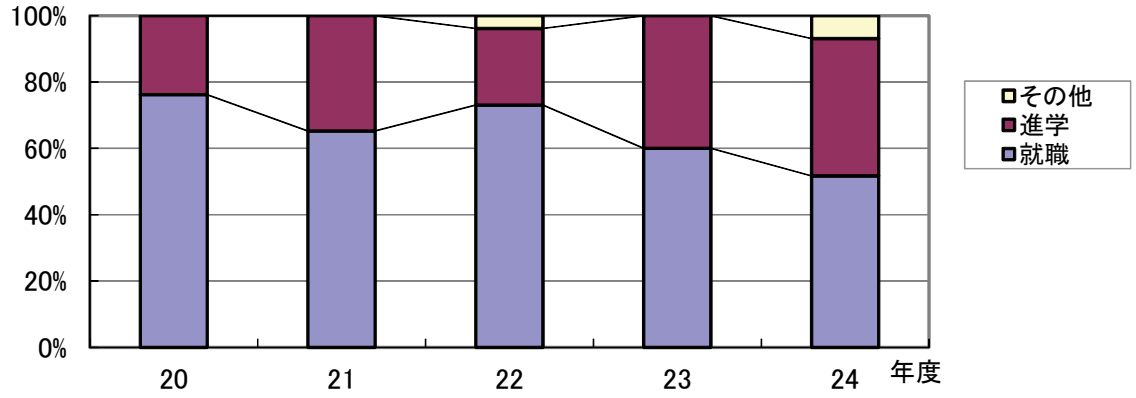
物質工学科

大学等名	学部名	20	21	22	23	24
佐世保高専	専攻科	6	5	8	3	5
長崎大学	環境科学部	1			1	1
佐賀大学	理工学部	2				
佐賀大学	農学部	1		1	1	1
佐賀大学	文化教育学部	1				
九州大学	工学部			1	1	2
九州工業大学	工学部		1			
九州工業大学	情報工学部		3	2	1	1
熊本大学	工学部	1	1		2	
鹿児島大学	工学部		1	1		1
鹿児島大学	農学部	1				
宮崎大学	工学部				1	
宮崎大学	農学部		1			
山口大学	工学部	1				
広島大学	工学部	2				
広島大学	生物生産学部		1	1		
岡山大学	工学部		1		1	1
徳島大学	工学部					1
高知大学	理学部				1	
長岡技術科学大学			1	2		
豊橋技術科学大学		1	2			
東京工業大学	工学部	1		1		1
〃	生命理工学部					2
東京農工大学	工学部	1	1		1	1
東京海洋大学	海洋科学部	1				
京都工芸繊維大学	工芸学部		1			
立正大学	仏教学部		1			
合計		20	20	17	13	17

（出典　教育データベース）

資料６－１－③－４

専攻科課程修了生の進路の割合



（出典　教育データベース）

資料６－１－③－５

専攻科課程修了生　就職先一覧（修了時）

機械工学専攻

会社名	20	21	22	23	24
オークマ株式会社					1
ダイヤソルト(株)崎戸工場					1
TOTO株式会社					1
日本車輌製造(株)					1
牧野フライス製作所(株)					1
三浦工業(株)					1
(株)神鋼環境ソリューション		1		1	
NTN	1			1	
第一精工		1	1		
関西電力			1		
高畑精工			1		
トヨタ自動車九州			1		
日鐵プラント設計			1		
本田技研工業			1		
(株)SUMCO		1			
(株)戸上電機製作所		1			
	1	4	6	2	6

物質工学専攻

会社名	20	21	22	23	24
佐世保市役所					1
宇部興産				1	
高田工業所				1	
TOTO(株)				1	
アトックス			1		
シーメンス旭メディテック			1		
(株)カネカ	1	1			
相浦缶詰(株)		1			
中興化成工業		1			
日東電工(株)	2				
旭化成	1				
長菱検査	1				
	5	3	2	3	1

電気電子工学専攻

会社名	20	21	22	23	24
九州テン				1	1
フジゼロックス(株)		1			1
エコー電子					1
NSK					1
NTTデータ					1
関西電力					1
協和エクシオ					1
TTDC					1
三菱電機エンジニアリング	1	1	1	1	
ジェイペック			1	1	
日立情報通信エンジニアリング			1	1	
九州電力	1			1	
川崎重工業				1	
中央電子工業				1	
TOTO(株)				1	
ノリタケカンパニーリミテド				1	
ヤマハ				1	
東京エレクトロン九州	1	1	1		
富士通(株)		1	1		
佐世保中央病院			1		
三波工業			1		
セイコーエプソン			1		
大日本印刷			1		
日本電子			1		
リコー			1		
サントリーホールディングス(株)		2			
キヤノン(株)		1			
シャープ		1			
旭化成	1				
大島造船所	1				
日本精工(株)	1				
パナソニックコミュニケーションズ	1				
三菱重工業(株)長崎造船所	1				
安川電機	1				
ローランド	1				
	10	8	11	10	8

（出典　教育データベース）

資料６－１－③－６

専攻科課程修了生　進学先一覧（修了時）

年度	専攻	筑波大学	東京工業大学	大阪大学	電気通信大学	奈良先端科学技術大学院大学	総合研究大学院大学	九州大学	九州工業大学	熊本大学	スウェーデン王立工科大学	小計	合計
20	機械							2				2	5
	電気電子							2	1			3	
	物質											0	
21	機械	1						1				2	8
	電気電子					1		2		1		4	
	物質							1		1		2	
22	機械											0	6
	電気電子						1	1	1		1	4	
	物質							1	1			2	
23	機械			1					2			3	10
	電気電子						1	3		1		5	
	物質							1	1			2	
24	機械							1				1	12
	電気電子	1	1	1	1			1	1			6	
	物質		2					2	1			5	
合計		2	3	2	1	1	2	18	8	3	1	41	

（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の卒業生及び専攻科課程の修了生とも，そのほとんどが本校で学んだ専門知識や技術を活用できる技術系職種での就職や，大学の工学系学部や大学院の工学系研究科への進学であり，専門性が活かされた進路となっている。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程卒業生に，本校の教育目標に対する達成度についてのアンケートを「卒業アンケート」の中で行っている（資料６－１－④－１）。アンケートの結果から，いくつか評価の低いものが見られるものの，準学士課程の卒業生は，学校・一般科目・各学科の教育目標に概ね到達していると考えていることがわかる(資料６－１－④－２～５)。この結果に対する評価を教務委員会で協議したところ，学生は学校の意図する教育目標に対して達成感があるとの評価が得られた（資料６－１－④－６）。

専攻科課程修了生に，本校の教育目標に対する達成度についてのアンケートを「修了アンケート」の中で行っている（資料６－１－④－７）。アンケートの結果から，いくつか評価の低いものが見られるが，専攻科課程修了生においても，学校・一般科目・各専攻の教育目標に概ね到達していると考えていることがわかる（資料６－１－④－８～10)。この結果に対する評価を専攻科委員会で協議したところ，学生は学校の意図する教育目標に対して達成感があるとの評価が得られた（資料６－１－④－11)。

観点６－１－④資料一覧

（資料６－１－④－１）	卒業アンケート様式	出典：学生課資料
（資料６－１－④－２）	機械工学科卒業生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１－④－３）	電気電子工学科卒業生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１－④－４）	電子制御工学科卒業生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１－④－５）	物質工学科卒業生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１―④―６）	教務委員会議事要旨	出典：学生課資料
（資料６－１－④－７）	修了アンケート様式	出典：学生課資料
（資料６－１－④－８）	機械工学専攻修了生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１－④－９）	電気電子工学専攻修了生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１－④－10）	物質工学専攻修了生アンケート結果	出典：教育データベース
（資料６－１－④－11）	専攻科委員会議事要旨	出典：学生課資料

資料６－１－④－１

佐世保工業高等専門学校　機械工学科　卒業アンケート

1．本校の教育目標についてどの程度達成できたと思いますか。

○学校の教育目標

		←低い		普通		高い→
1）	明確な職業意識、学習意欲を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□
2）	基礎知識と基礎技能、専門知識を身に付き、自ら課題を探求し、解決できる能力を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□
3）	豊かな創造性と実践力を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□
4）	論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□
5）	情報リテラシーが向上した。	1□	2□	3□	4□	5□
6）	豊かな教養と倫理観が身に付き地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□

○一般科目の教育目標

1）	心身とも豊かな人間性と倫理観を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□
2）	理論と実践に導かれた想像力と実践力を持つことができた。	1□	2□	3□	4□	5□
3）	国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力が向上し、人間力が向上した。	1□	2□	3□	4□	5□
4）	専門科目学習への動機づけに役に立った。	1□	2□	3□	4□	5□

○機械工学科の教育目標

1）	技術者としての基礎学力が身に付いた。	1□	2□	3□	4□	5□
2）	実験・実習等で実践力や創造性が身に付き、卒業研究では自学自習能力と問題解決能力が身に付いた。	1□	2□	3□	4□	5□
3）	メカトロニクス技術とシステムデザイン能力が身に付いた。	1□	2□	3□	4□	5□

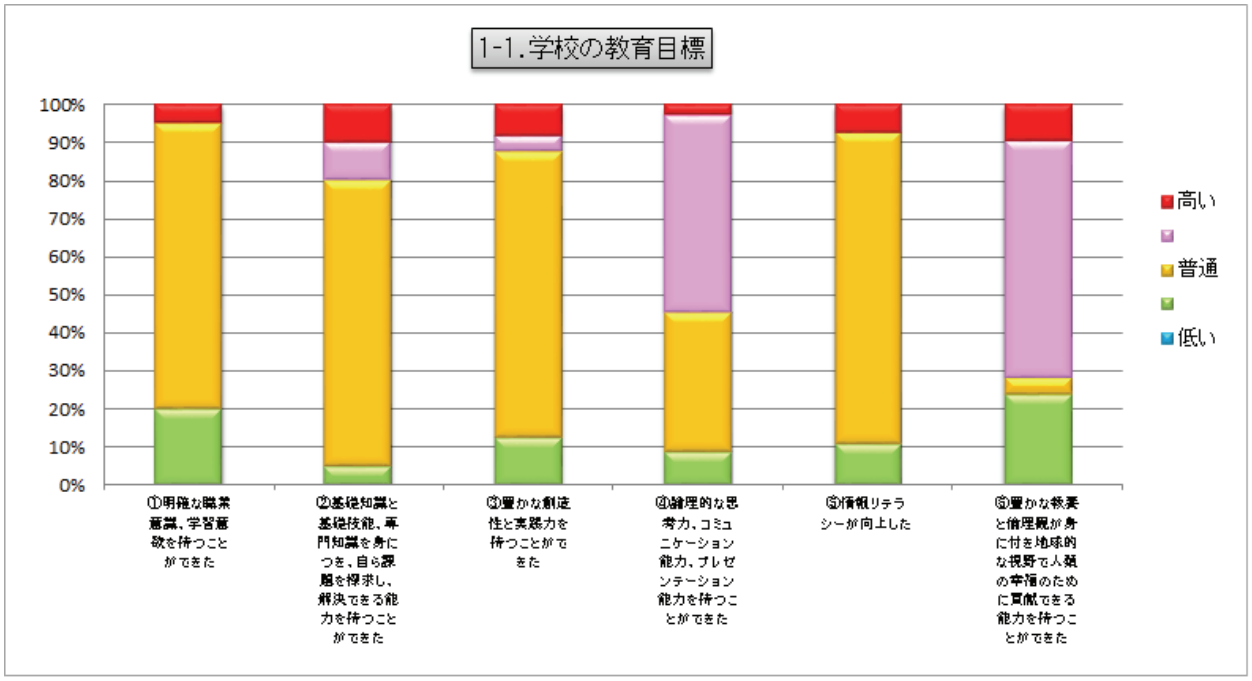
2．高専に対して満足していますか。

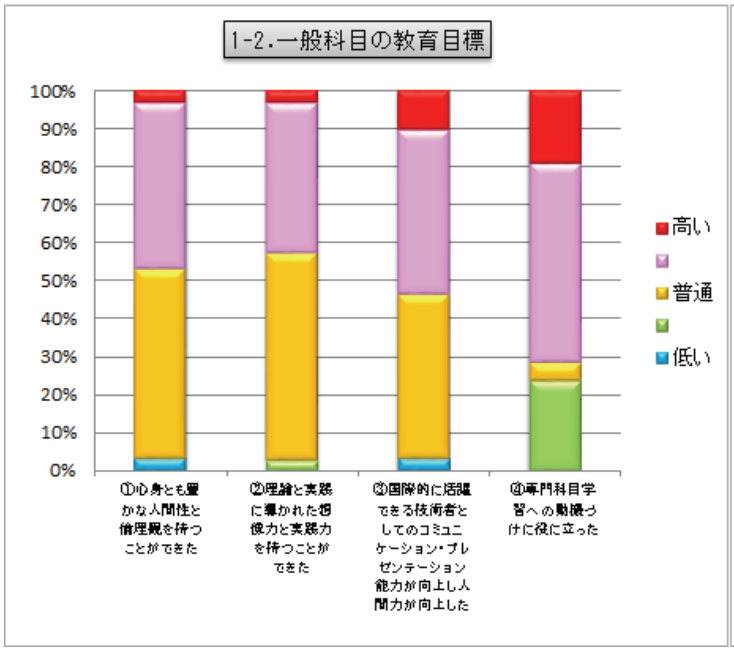
1）	高専への入学	1□	2□	3□	4□	5□
2）	高専での教育	1□	2□	3□	4□	5□
3）	高専での課外活動	1□	2□	3□	4□	5□
4）	卒業後の進路	1□	2□	3□	4□	5□

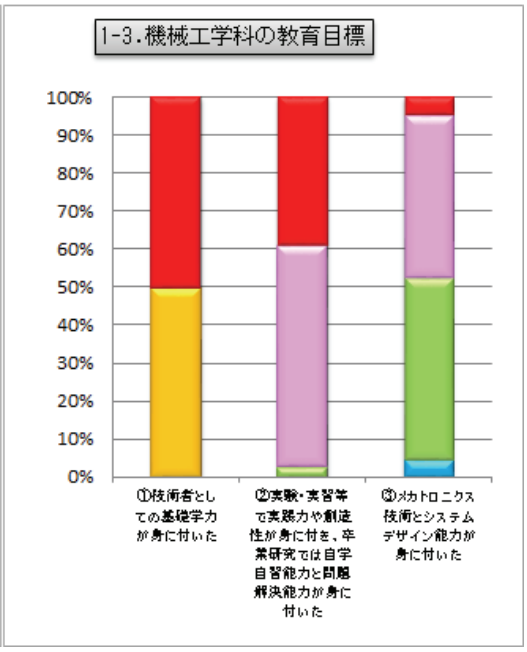
（出典　学生課資料）

資料６－１－④－２

平成２４年度卒業生アンケート結果（機械工学科）



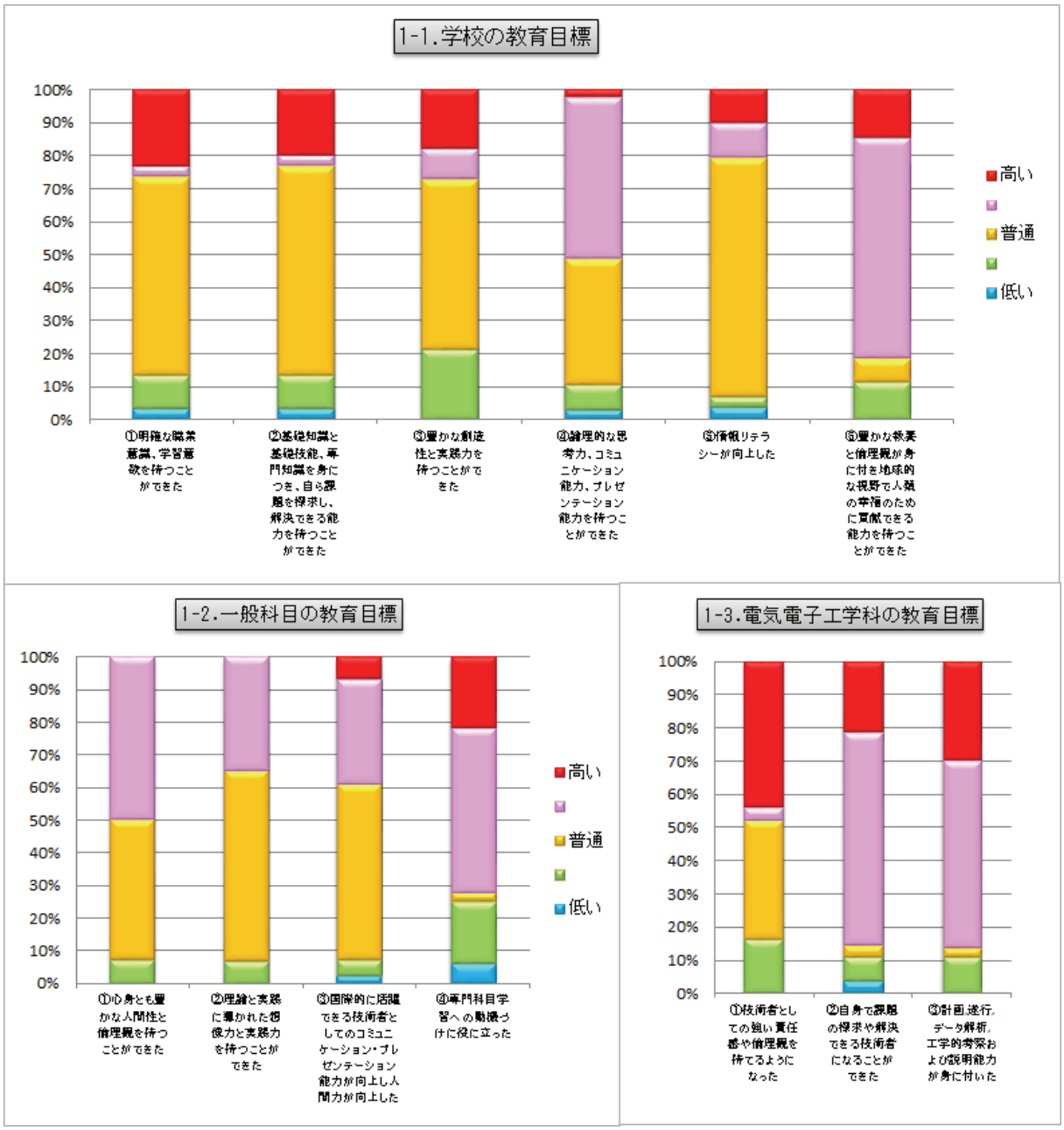




（出典　教育データベース）

資料６－１－④－３

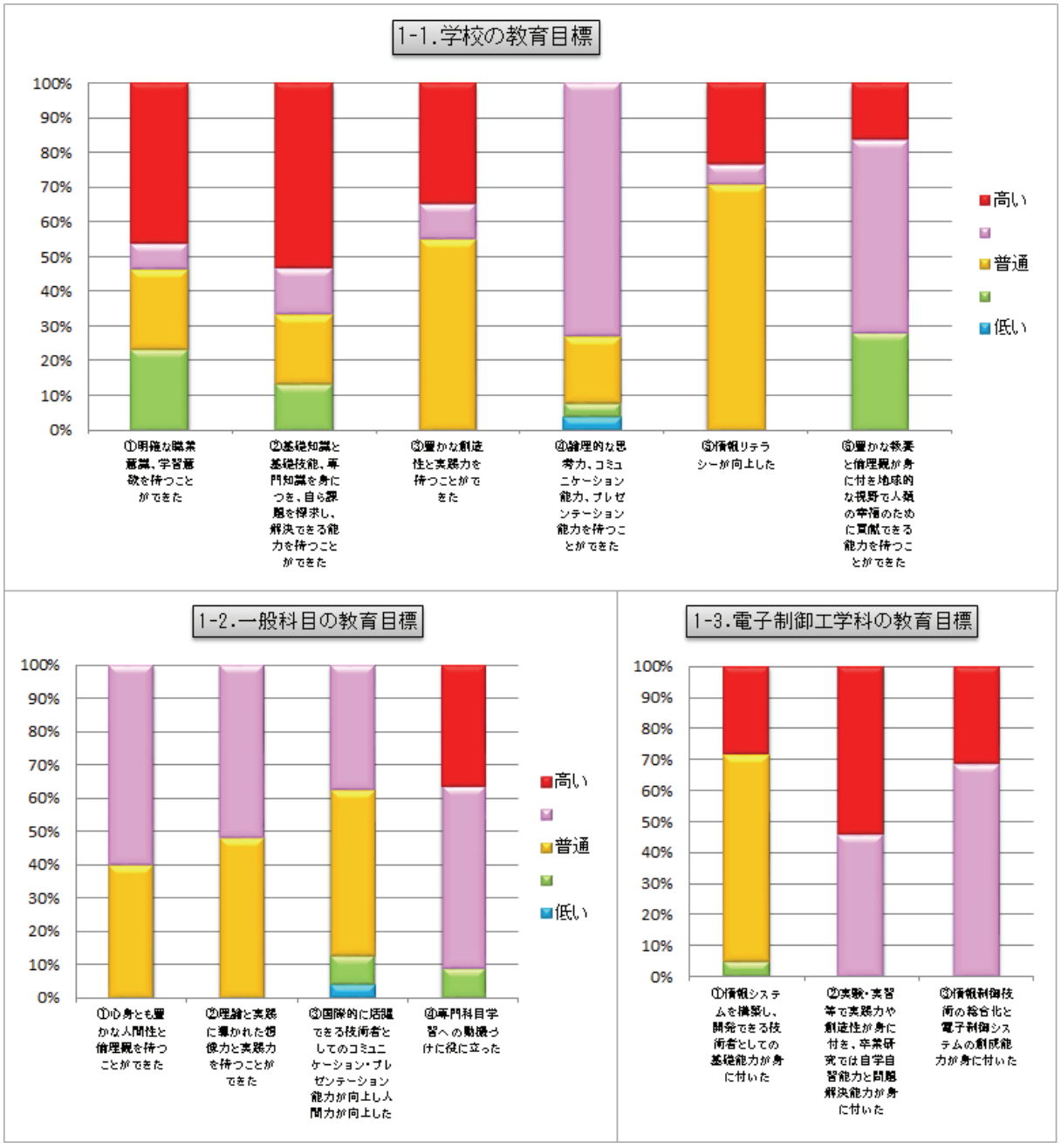
平成２４年度卒業生アンケート結果（電気電子工学科）



（出典　教育データベース）

資料６－１－④－４

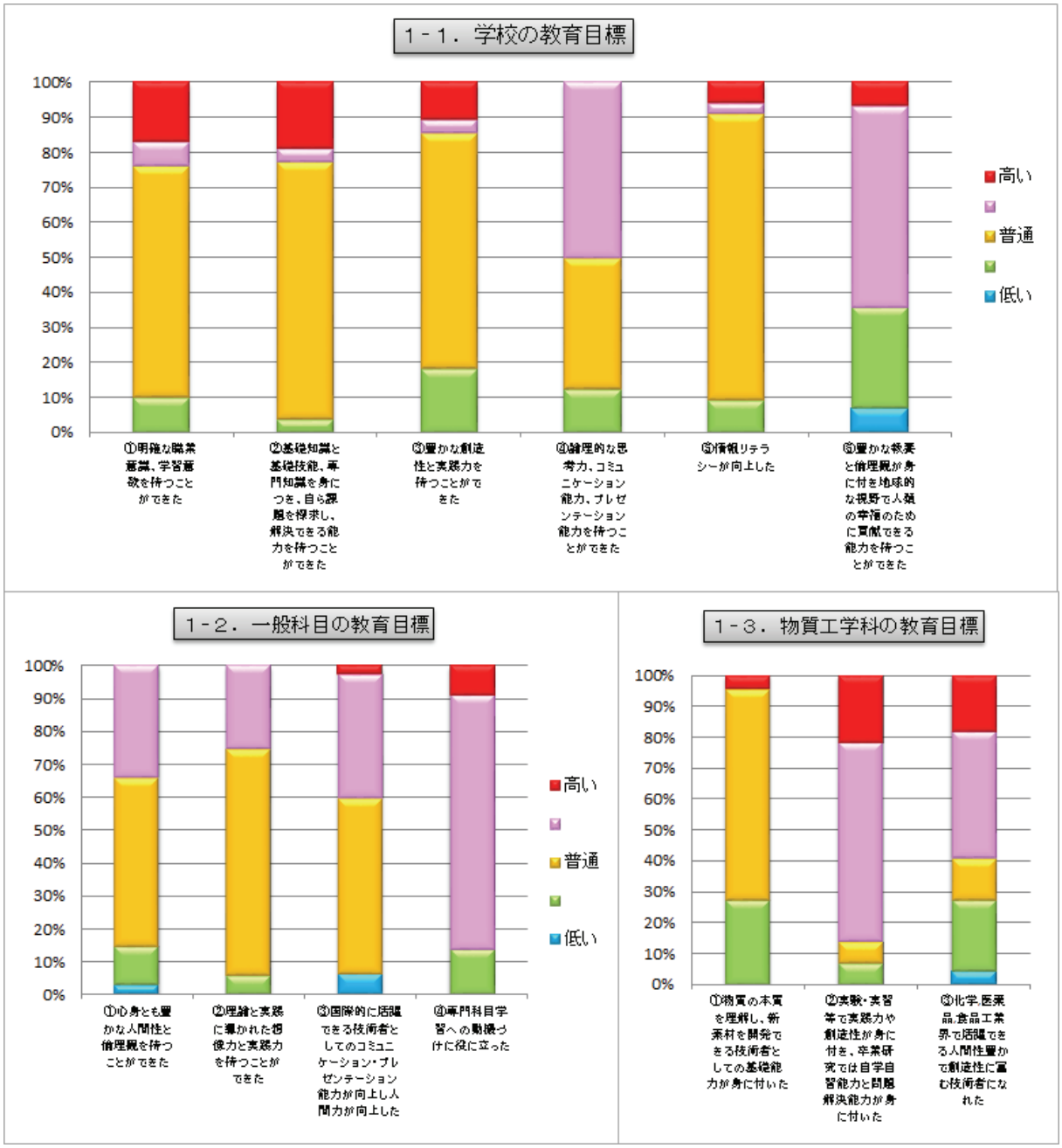
平成２４年度卒業生アンケート結果（電子制御工学科）



（出典　教育データベース）

資料６－１－④－５

平成２４年度卒業生アンケート結果（物質工学科）



（出典　教育データベース）

資料６－１－④－６

平成２５年度　第３回教務委員会議事要旨

日　時　　平成２５年６月４日（火）　１７時１０分～１８時１０分
場　所　　多目的教室
出席者　　教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、松山史憲、坂口彰浩、山﨑隆志、
　　堀江　潔、小原　彰、南部幸久、嶋田英樹、城野祐生、堂平良一、学生課長
欠席者　　高比良秀彰、
列席者　　課長補佐、専門職員（入試担当）、教育支援係長

略

（２）「H24 年度卒業生アンケート」結果の評価について

別紙資料のとおり、平成 24 年度卒業生に実施したアンケートで、学校・一般科目・各学科の教育目標に関する項目において、「普通以上」の評価が 9 割以上であり、教育目標は概ね達成されたことが確認された。

略

（出典　学生課資料　抜粋）

資料６－１－④－７

佐世保工業高等専門学校　機械工学専攻　修了アンケート

１．本校の教育目標についてどの程度達成できたと思いますか。**専攻科入学前と比較**して答えてください。

○学校の教育目標

		←低い		普通		高い→
1)	自己の専門分野で、より深い専門的基礎知識を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□
2)	他の専門技術分野に関する基礎知識と、複合化、高度化した工学分野について、複眼的な課題探求能力と問題解決能力の基礎を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□
3)	地球的な視野での倫理観と、豊かな創造性、実践力の基礎を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□
4)	国際的な技術者を目指す基礎を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□

○一般科目等の教育目標

		←低い		普通		高い→
1)	高度専門職業人としての基礎能力を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□
2)	国際的に通用するコミュニケーション能力や、地球的視野で技術と社会の共生を追求し、グローバルな視点を持つ技術者を目指す基礎を身につけることができた。	1□	2□	3□	4□	5□
3)	システム創成能力と、複眼的な問題解決能力の基礎を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□

○機械工学専攻の教育目標

		←低い		普通		高い→
1)	機械工学における独創的研究開発を展開するための基礎科学や、設計・製作・制御等の専門知識を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□
2)	分野横断的な科目も修得することにより、先進的なシステムデザイン能力を有する技術者の基礎を身に付けることができた。	1□	2□	3□	4□	5□

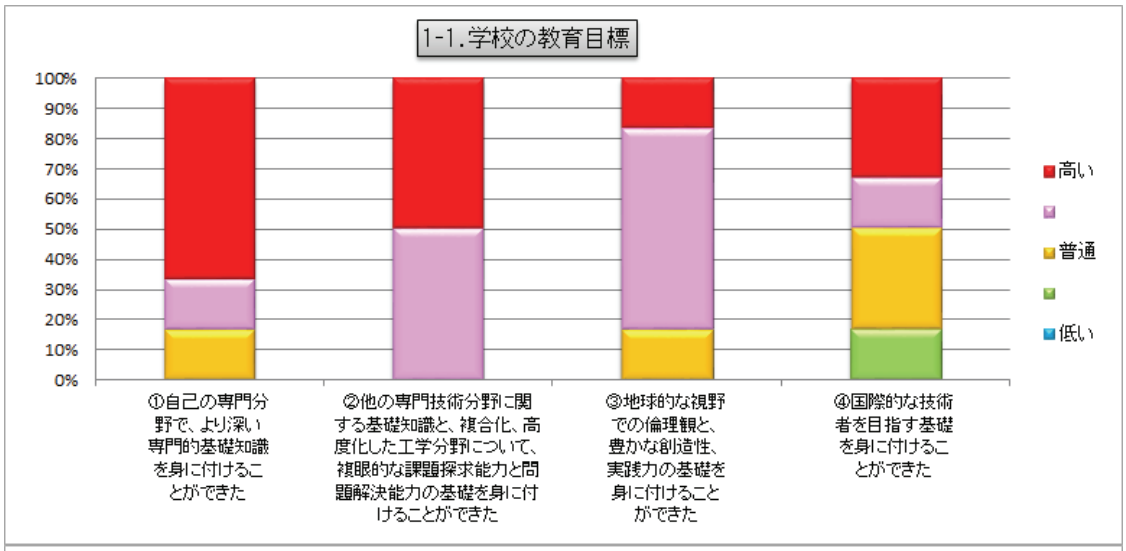
２．専攻科に対して満足していますか。

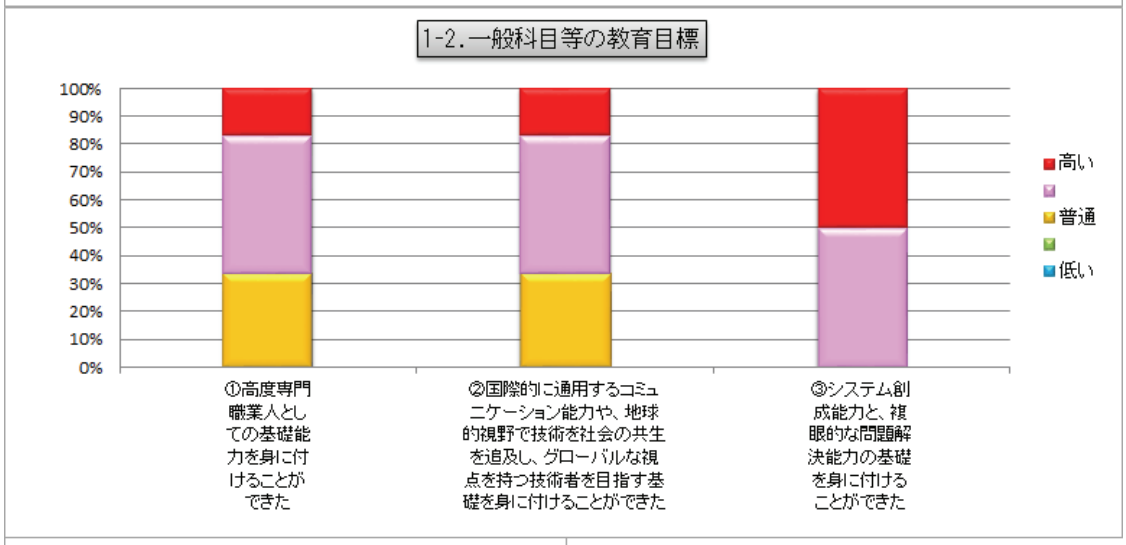
1)	専攻科への入学	1□	2□	3□	4□	5□
2)	専攻科での教育	1□	2□	3□	4□	5□
3)	修了後の進路	1□	2□	3□	4□	5□

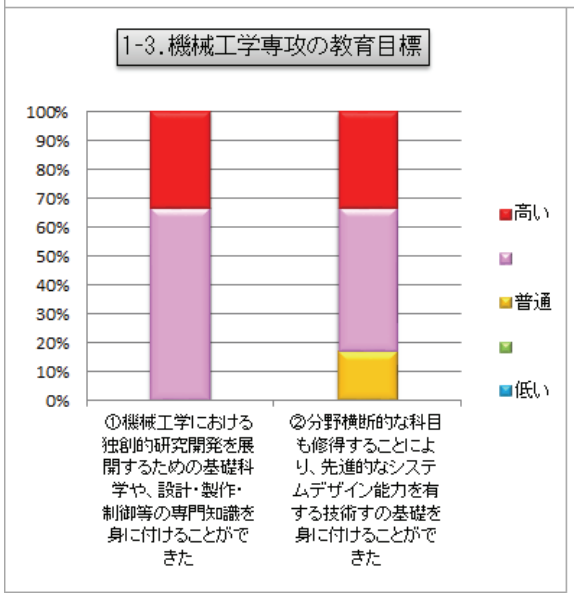
（出典　学生課資料）

資料６－１－④－８

平成２４年度専攻科修了生アンケート結果（機械工学専攻）



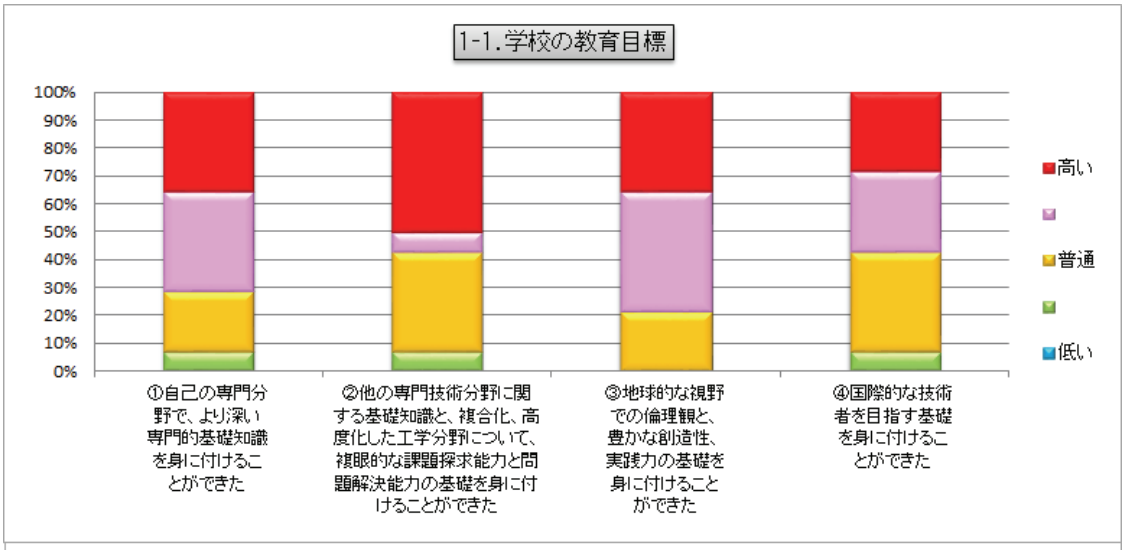


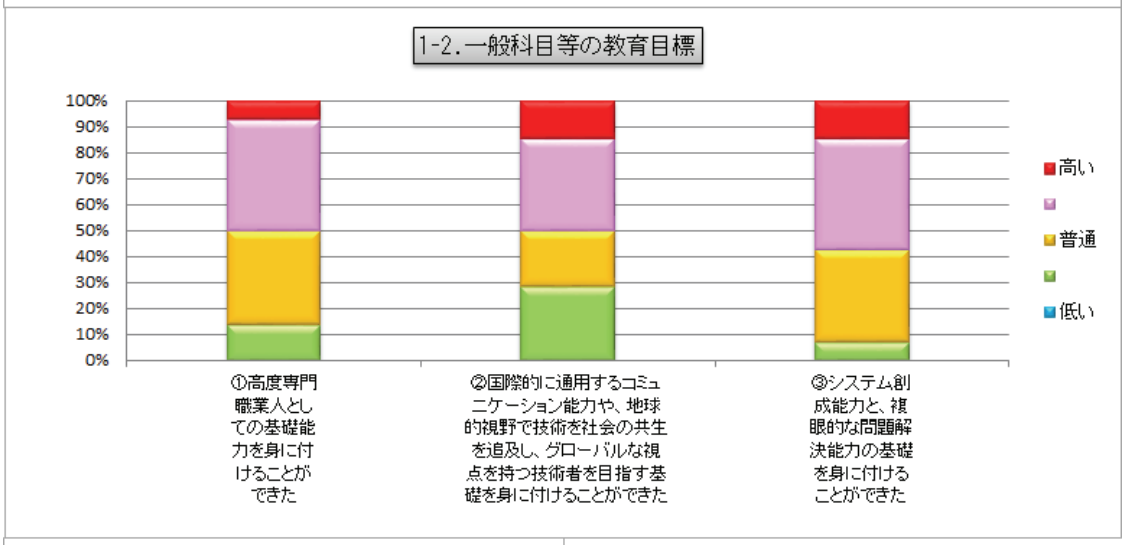


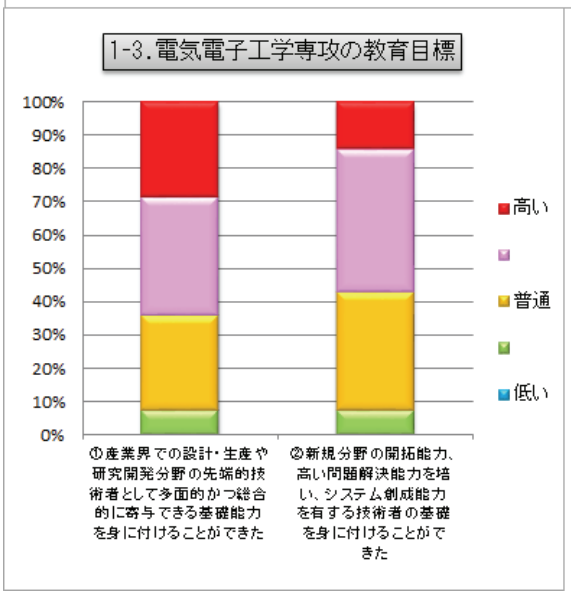
（出典　教育データベース）

資料６－１－④－９

平成２４年度専攻科修了生アンケート結果（電気電子工学専攻）



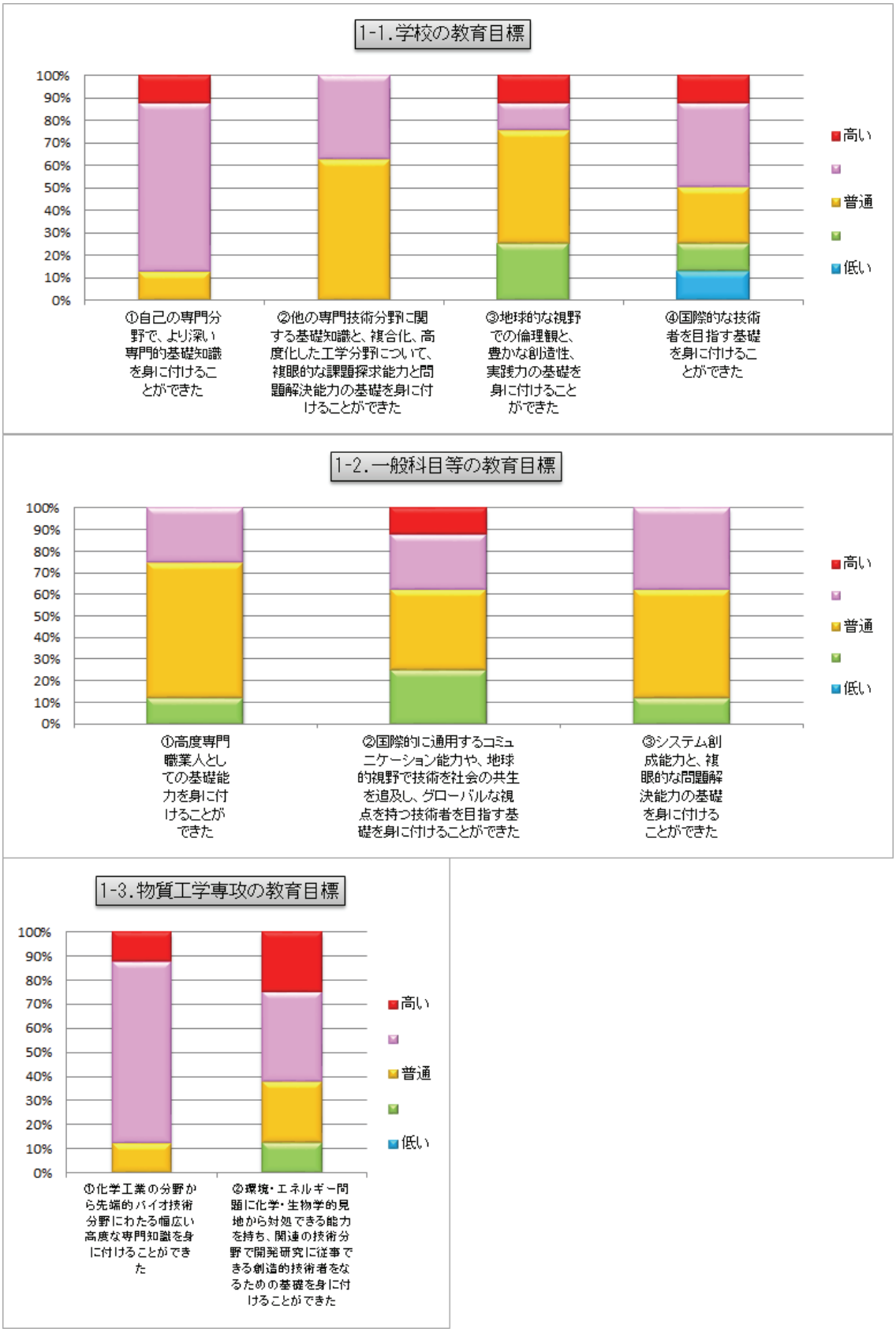




（出典　教育データベース）

資料６－１－④－10

平成２４年度専攻科修了生アンケート結果（物質工学専攻）



（出典　教育データベース）

資料６－１－④－11

平成２５年度　第３回専攻科委員会議事要旨

１．期　日　　平成２５年６月４日（木）１６：１０～１７：０５
２．場　所　　多目的教室
３．出席者　　専攻科長，教務主事，寮務主事，専攻科副科長（中浦，品川，嶋田，古川，牧野），
　　学生課長，中村学生主事補（学生主事代理）
４．列席者　　学生課長補佐，教育支援係長，専門職員（入試）

【報　告】

略

【議　題】

略

４．専攻科生の修了時アンケート結果について

専攻科長から，別紙資料６に基づき平成２４年度修了時アンケートの集計結果について説明があり，学校・一般科目・各専攻の教育目標に関する項目において，普通以上の評価が大半を占めており，専攻科の教育目標は概ね達成されたことが確認された。

また，アンケート結果を踏まえ，５年ごとに行っている外部機関へのアンケート（企業，大学院等…）を機関別認証評価終了後に実施し，教育プログラムの評価・確認を行うことが併せて確認された。

（出典　学生課資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の卒業生，及び専攻科課程の修了生については，アンケートの結果から教育目標を概ね達成しており，教育の成果や効果が上がっている。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

５年毎に専攻科修了生が進学した大学院及び就職した企業に対してアンケートを行っている（資料６－１－⑤－１）。平成20年６月に企業・大学院にアンケートを行った結果，英語に関する回答（設問Ｃ－３，Ｃ－４）では高い評価ではない。しかし，ほとんどの項目において高評価であり，修了生が本校の教育目標に基づいた教育により身に付けた学力や資質・能力等に，概ね満足していることが示されている（資料６－１－⑤－２）。

資料６－１－⑤－１

アンケート（企業・大学院）

佐世保高専専攻科修了生（平成 17 年度以降入社（入学））の平均的な能力の印象についてお尋ねいたします。貴社（大学院）が平成 16 年度以前の修了生のみ受け入れている場合，もしくは，まだ本校の修了生を受け入れていない場合は，４ページからご回答をお願いいたします。結果は５段階に分けておりますので，どれに該当するかを選択して下さい。目安として点数に直すと次のようになります。（非常に高い：80 点以上，高い：70 点台，普通：60 点台，やや不足：40-59 点，不足：39 点以下）各設問に当てはまる項目の枠内を塗りつぶしてください（□→■）。

A-1-1. 数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率・統計など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。
□非常に高い　□高い　□普通　□やや不足　□不足

A-1-2. 自然科学（物理，化学など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。
□非常に高い　□高い　□普通　□やや不足　□不足

A-2. 情報技術の基礎知識を身につけて，情報収集，実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できる。
□非常に高い　□高い　□普通　□やや不足　□不足

A-3. 基礎工学の知識を身につけて，複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できる。
□非常に高い　□高い　□普通　□やや不足　□不足

A-4. それぞれの専門分野におけるもの創りのための４つの専門科目群（材料・要素，設計・製造，評価・解析，複合系）の知識を身につけて，もの創りに応用できる。
□非常に高い　□高い　□普通　□やや不足　□不足

B-1. 他の国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて，グローバルな視点でものごとを考えることができる。
□非常に高い　□高い　□普通　□やや不足　□不足

（出典　教育データベース　抜粋）

観点６－１－⑤資料一覧

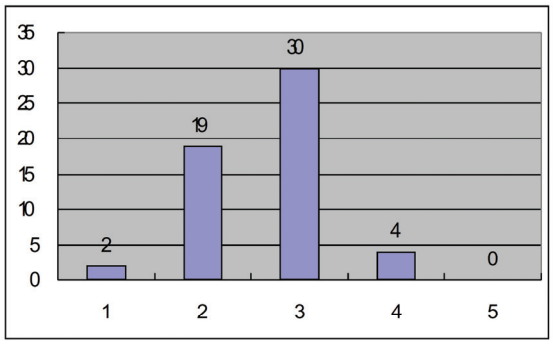
（資料６－１－⑤－１）　平成 20 年企業・大学院アンケート様式　　出典：教育データベース
（資料６－１－⑤－２）　平成 20 年企業・大学院アンケート結果　　出典：教育データベース

資料６－１－⑤－２

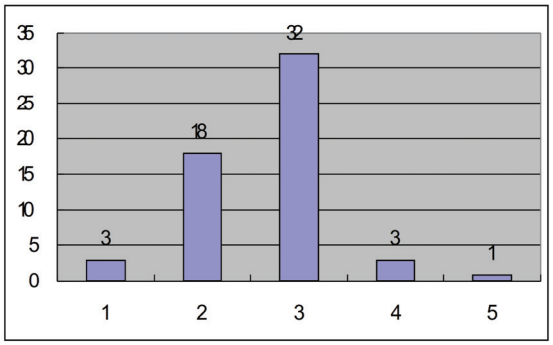
アンケート（企業・大学院）

佐世保高専専攻科修了生（平成 17 年度以降入社（入学））の平均的な能力の印象についてお尋ねいたします。結果は５段階に分けておりますので，どれに該当するかを選択して下さい。目安として点数に直すと次のようになります。（１非常に高い：80 点以上，２高い：70 点台，３普通：60 点台，４やや不足：40-59 点，５不足：39 点以下）回答は６０件（一部，５９～５４件)。縦軸は会社・大学院数。以下，同様。

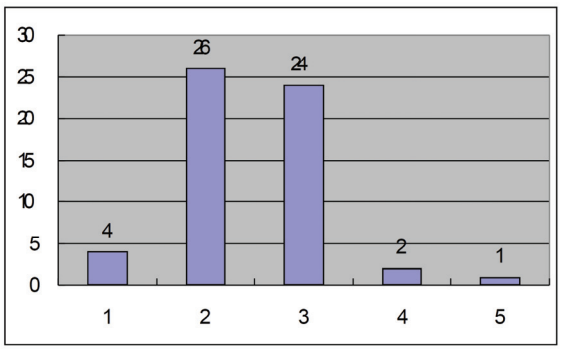
A-1-1. 数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率・統計など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。



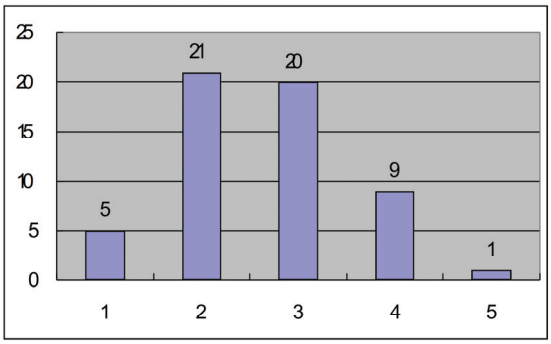
A-1-2. 自然科学（物理，化学など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。



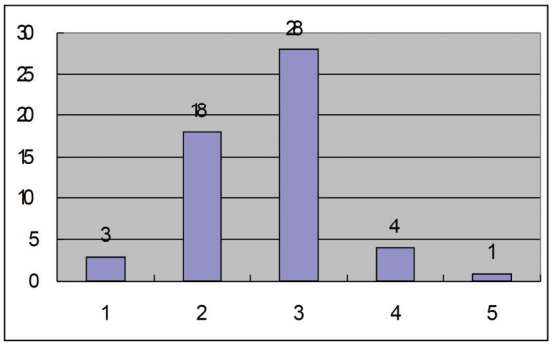
A-2. 情報技術の基礎知識を身につけて，情報収集，実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できる。



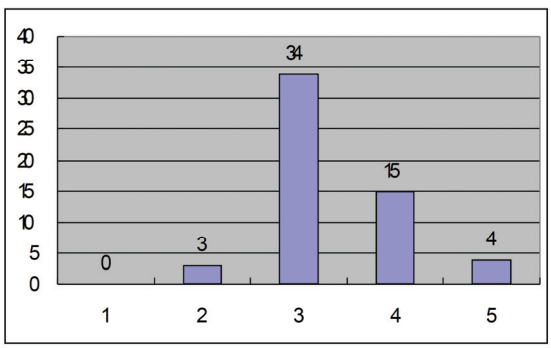
A-3. 基礎工学の知識を身につけて，複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できる。



A-4. それぞれの専門分野におけるもの創りのための４つの専門科目群（材料・要素，設計・製造，評価・解析，複合系）の知識を身につけて，もの創りに応用できる。

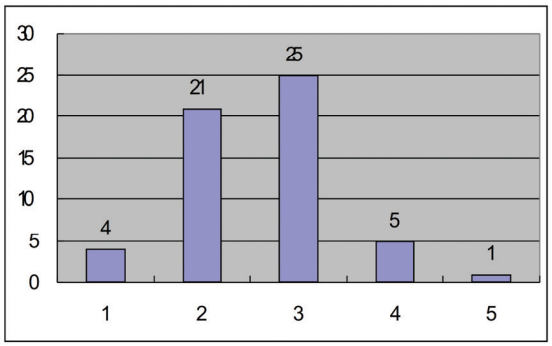


B-1. 他の国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて，グローバルな視点でものごとを考えることができる。

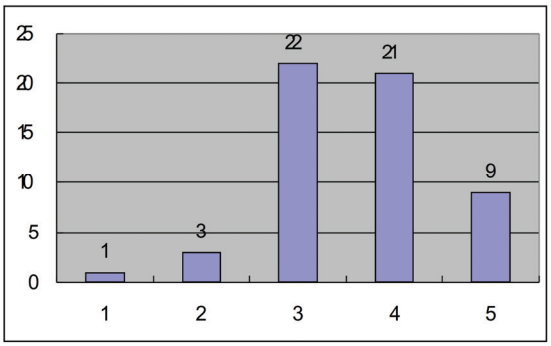


資料６－１－⑤－２続き

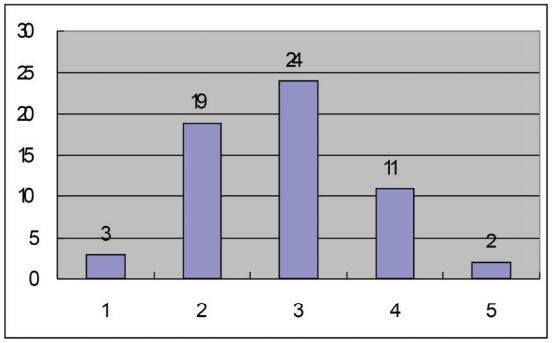
B-2．技術が自然や社会に与える影響・効果を理解して，技術者としての責任を自覚できる。



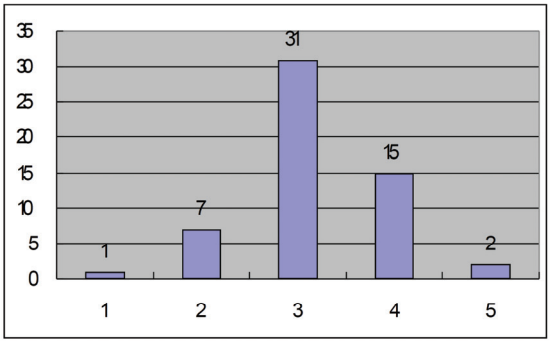
C-3．英語による基礎的なコミュニケーションができる。



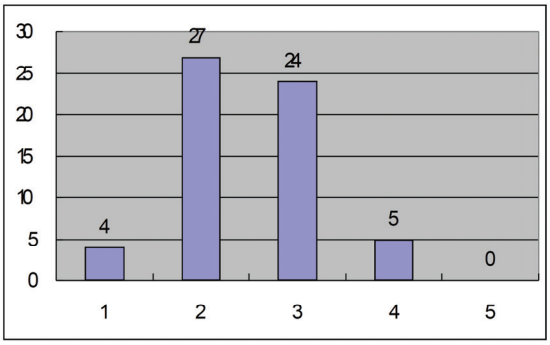
C-1．技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できる。



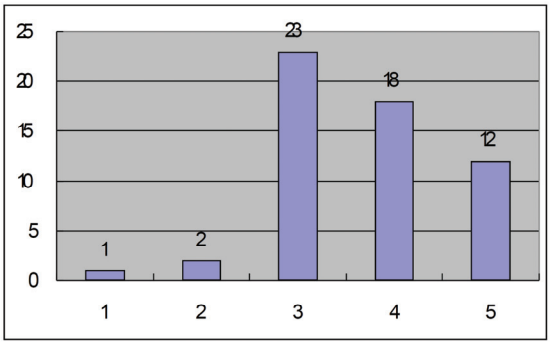
C-4-1．基礎的な技術英語の文章を読むことができる。



C-2．相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができる。

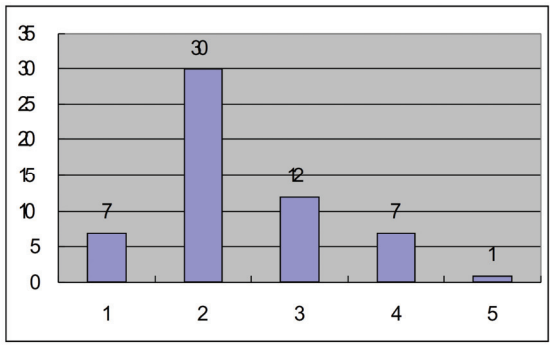


C-4-2．基礎的な技術英語の文章を書くことができる。

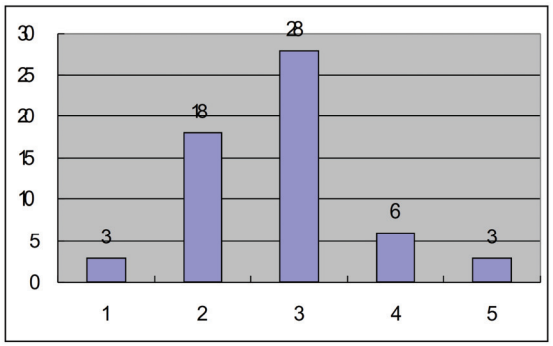


資料６－１－⑤－２続き

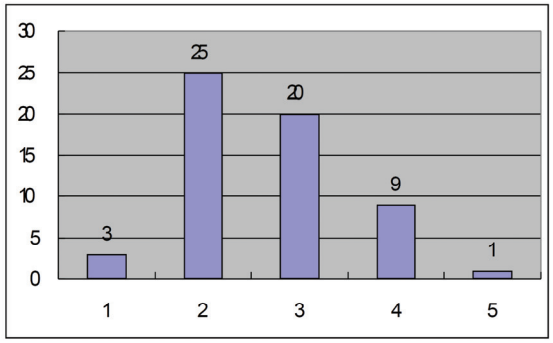
D-1-1. 自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施することができる。



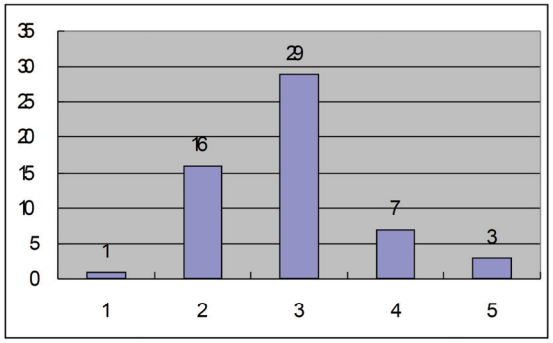
D-2-2. 創造性を発揮して，調査・解析をおこない，解決策を組み立てて実行し，課題を解決できる。



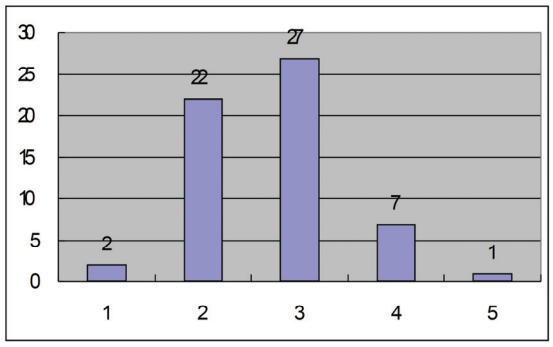
D-1-2. 得られた結果を正しく評価・解析して考察し，論理的に説明できる。



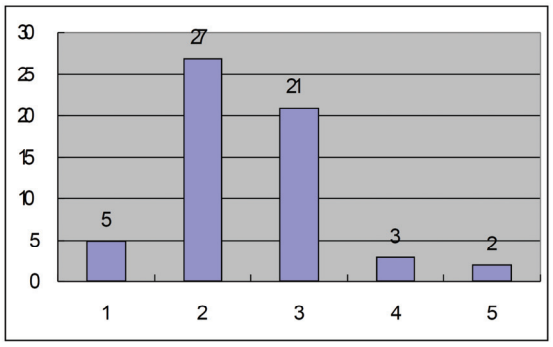
D-3. 社会の要求する課題を解決するにあたって，その内容を分析して，計画や方策を複眼的にデザインできる。



D-2-1. いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使することができる。

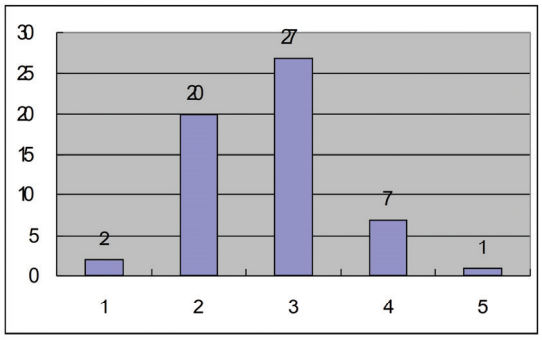


D-4. 実践的能力を身につけ，技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができる。

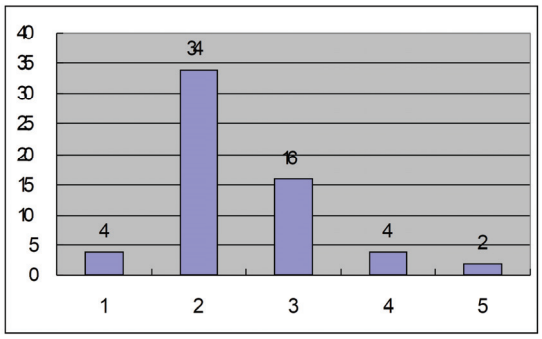


資料６－１－⑤－２続き

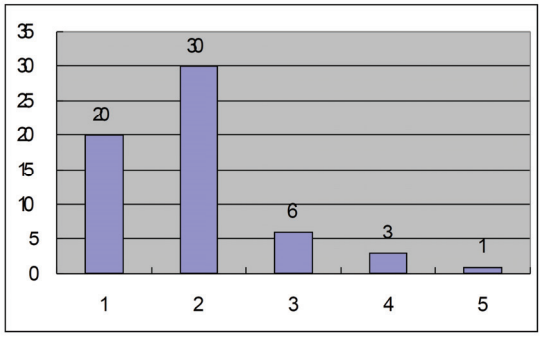
E-1．社会の要請に迅速に対応し，科学技術の進展を先導するため，自主的・継続的に学習できる。



E-2．要求された課題に対して，自立して，あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め，期限内に終わらせることができる。



E-3．健全な心身を持ち，学内外（あるいは社内外）の人々と協調して行動できる。



（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

５年毎に専攻科修了生が進学した大学院及び就職した企業に対してアンケートを行っており，本校の専攻科修了生が在学中に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見聴取を実施している。そのアンケート結果では，専攻科修了生が在学中に身に付けた学力や資質・能力等に大学院及び企業から概ね良好な評価を得ており，教育の成果や効果が上がっていることが示されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校独自で開発したポートフォリオ「自己点検表作成支援システム」により，専攻科課程の学生がウェブサイト上で授業科目の理解度を把握・評価することが可能である。

（改善を要する点）

準学士課程の進路先（編入先大学，就職先企業）等の関係者に対するアンケートの実施について検討する。

（３）基準６の自己評価の概要

本校では，教育目標に対する各科目の役割を明確に定めており，すべての科目を修得することで高等専門学校として，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力が身に付いたと見なすことができる。さらに，その達成状況を把握・評価するために，年４回の試験を行っている。これらの試験の結果は，教員だけでなく学生も，ポートフォリオによってその達成状況をいつでも把握・評価することができるようになっている。

準学士課程・専攻科課程においては，単位取得率，進級率及び卒業（修了）率のいずれも高く，卒業研究・特別研究の内容・水準は学協会発表レベルであり，学協会により表彰されるものもある。

卒業生・修了生ともに，そのほとんどが大学の工学系学部や大学院の工学系研究科への進学および技術系職種での就職である。

卒業生・修了生ともに，アンケートの結果から教育目標を概ね達成している。

５年毎に修了生が進学した大学院及び就職した企業に対してアンケートを行っており，本校の修了生が在学中に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見聴取を実施している。そのアンケート結果から，本校の修了生が在学中に身に付けた学力や資質・能力等に大学院及び企業が満足していることが分かる。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では学生がスムーズに学習計画を立案できるようにするために，新入生オリエンテーション（資料７－１－①－１）において，学生便覧（資料７－１－①－２）に掲載された教育課程表に基づいて学習を進める上でのガイダンスを行っている（資料７－１－①－３，４）。さらに，ホームルームの時間に学級担任が詳細にガイダンスを行っている。専攻科課程では専攻科オリエンテーションを実施して「専攻科履修の手引き」を使用したガイダンスを行っている（資料７－１－①－５）。

学生の自主的な学習計画立案を支援するために，各科目担当教員がシラバスを配布して，授業項目・授業内容・到達目標等を説明している。なお，シラバスは本校ウェブサイト上で自由に閲覧できる。

準学士課程では，各授業科目の成績を成績通知表から成績記録に転記しファイル化する「学習の記録（ポートフォリオ)」（資料６－１－①－５参照）により，学生自身が授業科目の理解度および教育目標の達成状況を把握・評価できる。また，年度当初には科目系統図により，前年度の修得科目と今年度の受講科目との関連性を確認している（資料７－１－①－６）。

専攻科課程では，本校独自で開発したポートフォリオ「自己点検表作成支援システム」により，学生自身がウェブサイト上で授業科目の成績を確認し，理解度や把握・評価することが可能である（資料６－１－①－６参照)。

各教員はオフィスアワーをシラバスや教員室入口の行先表示板（資料７－１－①－７）にて学生に周知している（資料７－１－①－８）。オフィスアワーを中心に，各科目担当教員が学生から学習上の相談を受け，補習などの対応を行っている。授業評価アンケートⅡ－10の項目において（資料７－１－①－９），５段階評価で４以上の評価であり（資料７－１－①－10），学生が学習を進める上での相談・助言を行う体制が有効に機能している。

準学士課程の卒業研究や専攻科課程の特別研究においては，「研究日誌」で研究の進捗を学生に確認させ，卒業研究・特別研究担当教員がその現状を適宜把握している（資料７－１－①－11)。

観点７－１－①資料一覧

（資料７－１－①－１）	新入生オリエンテーション日程表	出典：学生主事室資料
（資料７－１－①－２）	学生便覧	出典：学生便覧
（資料７－１－①－３）	教育課程表	出典：学生便覧
（資料７－１－①－４）	新入生オリエンテーション説明資料	出典：教務主事室資料
（資料７－１－①－５）	専攻科履修の手引き	出典：専攻科履修の手引き
（資料７－１－①－６）	教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ	出典：学生課資料
（資料７－１－①－７）	教員室入口行先表示板	出典：学生課資料
（資料７－１－①－８）	オフィスアワー一覧	出典：平成 24 年度シラバス
（資料７－１－①－９）	授業評価アンケート様式	出典：学生課資料
（資料７－１－①－10）	授業評価アンケートグラフ	出典：学生課資料
（資料７－１－①－11）	研究日誌（様式）	出典：学生課資料

資料７－１－①－１

新入生オリエンテーション日程表

新入生オリエンテーション《　スケジュール　》

１５日（日）	
８：５０	各ＨＲ教室に制服で集合（担任点呼）
９：１０	学校出発
１０：００	青少年の天地到着 靴は大研修室横の廊下（ブルーシート）へ。荷物はロビーへ。
１０：１０	パンフ・筆記用具を持って、大研修室に入室（担任点呼） 日程等の説明
１０：３０	★出会いの集い（学生挨拶） ★天地職員からの注意
１１：００	●研修Ⅰ　（司会：三ッ廣先生） 校長講話 教務主事講話 食堂利用法説明
１１：３０	昼食（食堂。注：p3 の食事の後片付け参照。混雑するため、席は指示に従う。） 昼食終了後荷物を部屋に移す
１２：２０	体操服に着替え、多目的ホール集合 ●研修Ⅱ　（司会：三ッ廣先生） 集合・整列練習、体育教員訓話
１３：２０	制服に着替え、大研修室に集合 ●研修Ⅲ　（司会：三ッ廣先生） 教育支援係・生活支援係説明 キャリア支援室講話
１４：００	●研修Ⅳ　（司会：学生会） 学生会による学校行事・体育祭などの説明、校歌指導
１５：３０	大研修室集合（制服）（担任点呼） ●研修Ⅴ　（司会：三ッ廣先生） 身なり指導 学生主事講話 一般科目長講話 明日の日程等の説明、諸注意
１７：１０	朝の集いの係説明会（事務室前集合） シーツ係集合（リネン室前） （係：貞弘先生、三橋先生）
１７：３０	夕食（食堂。注：p3 食事の後片付け参照）
１８：３０	●クラスワーク（担任・学科教員） １Ｍ：２階東学習室 １Ｅ：中研修室 １Ｓ：音楽活動室 １Ｃ：１階西学習室
２０：３０	入浴開始 （注：p3 の入浴時間割を参照） （２２：００まで自由時間）
２１：４５	入浴終了
２２：００	室長点呼 → 担任へ連絡
２２：３０	就寝・消灯

１６日（月）	
６：３０	起床
６：４０	室長点呼 → 担任へ連絡
６：５５	集いの広場集合 （注：p10 の朝の集いの方法を参照）
７：００	★朝の集い（学生挨拶）（日程等の説明）
７：１５	朝食（食堂。注：p3 食事の後片付け参照） 洗面、歯磨き、トイレ等
８：００	荷物をロビーへ移動（クラスごとに置く）
８：１０	★掃除開始 （注：p10-12 の清掃割、点検項目参照） 点検責任者点検 → 担任・教員点検 シーツ係、シーツ・枕カバー返却 （リネン室前の中央テーブルへ） （注：p11 の寝具のたたみ方を参照） （係：貞弘先生、三橋先生）
９：０５	★天地職員による清掃点検 （教職員による点検終了後） 全員、清掃場所前の廊下に待機する
	●野外炊飯（雨天時はレクレーション）
９：３０	食材係２名、玄関外食堂横に集合して食材受け取り（係：手島先生、越村先生） （食材係は早めに集合） 他の学生は西棟倉庫前に移動
９：４０	西棟倉庫前、クラス別全員集合 （各自の野外料理班を確認しておく） 食器係２名、食器受取（必ず数を確認） 天地職員から炊飯等の説明
１０：００頃	野外炊飯開始（野外料理班別）
１２：００頃	昼食（カレー）　（雨天時は食堂） 昼食が済んだ班は後片付け開始 炊事場、洗い場、食器類 （注：p12 の野外炊飯留意点、節水法を参照）担任・主事室による点検
１３：００頃	西棟倉庫前に集合 ★天地職員による食器点検 （食器洗い直しのないように） 点検終了後、男子はエントランスホールで，女子は中研修室で制服に着替え、着替え後、荷物はロビーに置く．
１３：３０頃	学科ごとにエンテランスホールに集合 （担任点呼）
１４：００	★別れの集い（学生挨拶）
１４：１５	担任点呼 → 出発
１５：０５	学校着 → クラスごとに教室へ 教室で感想文作成

注意：食後、次に食事をする人のために、ふきんでテーブルをきれいに拭き、きゅうすを所定の場所にもどすこと。

（出典　学生主事室資料）

資料７－１－①－２

学生便覧



3）学　習　心　得

1　教育目的

学校教育法によれば高専の教育目的は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」となっているが、この職業に必要な能力とは狭い意味の専門的能力のみでなく、社会人として一般に必要とされる人間的、道徳的諸能力を含むものである。

本校では５年間の一貫教育を通じて、日進月歩する工業界にあって、どのような課題に対しても、専門的知識により、創意工夫する研究的態度をもって対処することができる人間味豊かな、実践的技術者を養成することを目的にしている。

2　授業時間（年間を通じて授業時刻は次の通り）

１校時	８時50分～９時40分	(50分)
２校時	９時40分～10時30分	(50分)

（出典　学生便覧）

資料７－１－①－３

別表第１（第２４条関係）

教　育　課　程　表

平成22年度入学以降
一般科目（機械・電気電子・電子制御工学科）

授業科目			単位数	形態	学年別単位数					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語	8	履	3	3	2			
		日本語と文学	2	学				①	①	
	社会	技術者倫理	2	学					②	
		歴史	3	履		1	2			
		地理	2	履	2					
		政治経済	1	履		1				
		国際関係論	1	学				①		
	数学	代数	4	履	4					
		幾何	3	履	3					
		代数幾何	3	履		3				
		微積分	8	履		4	4			
	理科	物理	4	履		2	2			
		化学	4	履	2	2				
		生物	2	履	2					
	体育	保健体育	6	履	2	2	2			
		健康と科学	4	履				2	2	
	芸術		1	履		1				
	外国語	英語	11	履	3	3	3			
				学				①	①	
		英作文	4	履	2	2				
		英会話	3	履	1	1	1			
		コミュニケーション基礎	1	履			1			
		コミュニケーション	2	学				①	①	
	小計		79		24	25	17	6	7	
選択科目	地理学		2	学				②		２単位選択
	法学		2	履				2		
	経済学		2	履				2		
	哲学		2	履				2		
	歴史学		2	学				②		
	数学特論		2	履				2		
	自然科学概論		2	履				2		
	英会話		2	履				2		
	ドイツ語		2	履				2		
	中国語		2	履				2		
	ハングル語		2	履				2		
	フランス語		2	履				2		
	小計		24		0	0	0	24	0	
開設単位数計			103		24	25	17	30	7	
修得単位数計			81		24	25	17	8	7	
特別活動			3		1	1	1			

1. 形態欄「履」は学則第２４条第３項により開設される授業科目。
2. 形態欄「学」は学則第２４条第４項により開設される授業科目。
3. 学年別単位数欄の数字は「履修単位」の単位数，〇付数字は「学修単位」の単位数を表す。

（出典　学生便覧）

資料７－１－①－４

新入生オリエンテーション説明資料

１年生オリエンテーション

教務主事（副校長）　須田　義昭
平成24年4月15日（日）

佐世保高専の学生数（平成24年度）

女子学生数（内数）

本科生	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械	44(4)	55(1)	34(1)	47(1)	41(1)	221(8)
電気	43(4)	46(4)	41(5)	41(0)	47(5)	218(18)
制御	44(2)	44(2)	43(6)	47(4)	33(4)	211(18)
物質	44(20)	40(20)	43(19)	44(19)	39(17)	210(95)
合計	176(30)	185(27)	161(31)	179(24)	160(27)	861(139)
留学生			1(1)	2(2)	1(1)	4(4)

専攻科生	1年	2年	計
合　計	26(5)	29(4)	55(9)

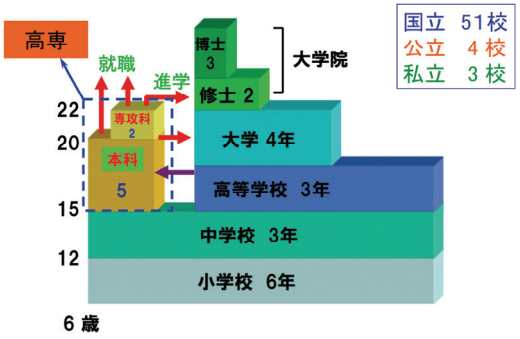
総合計　916(148)

卒業生：　本科 6499名(160名増)　専攻科 289名(25名増)

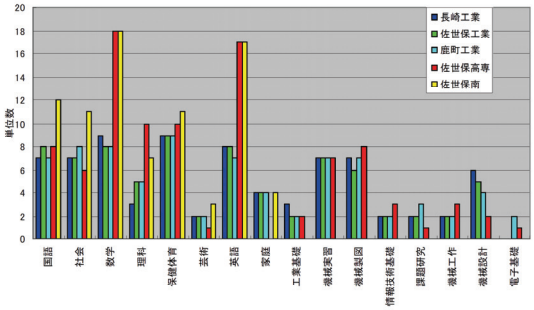
多様な進路

昭和37年設置：　佐世保高専第1期校

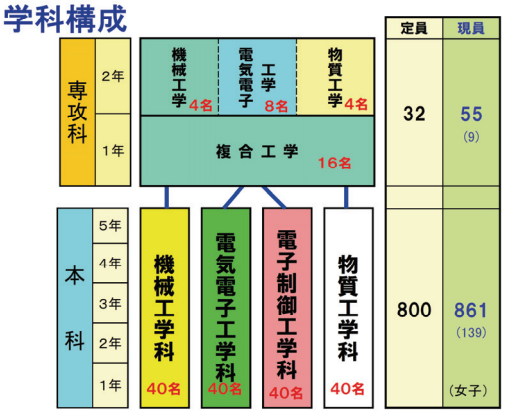
国立　51校
公立　 4校
私立　 3校



教育課程の比較

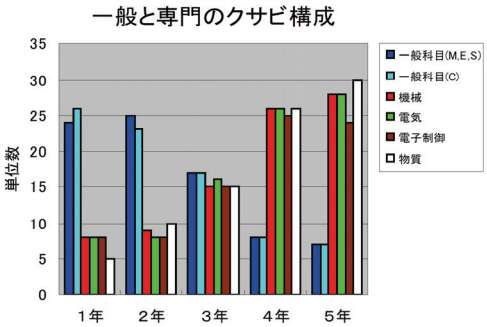


学科構成



各学科の単位構成

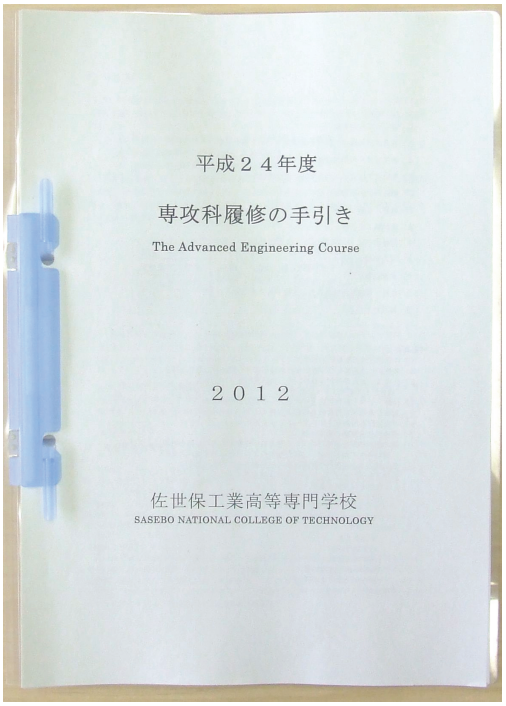
一般と専門のクサビ構成



（出典　教務主事室資料）

資料７－１－①－５

専攻科履修の手引き

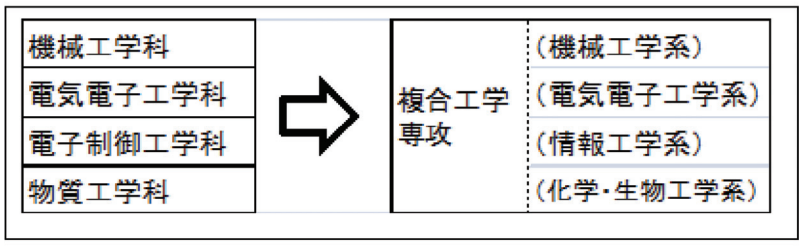


１．はじめに

近年、科学技術水準の高度化とシステム化が急速な勢いで進む中で、産業界では絶え間ない技術革新への対応を迫られているのが現状です。このような社会背景と地域社会との連携・協力として、専攻科は、

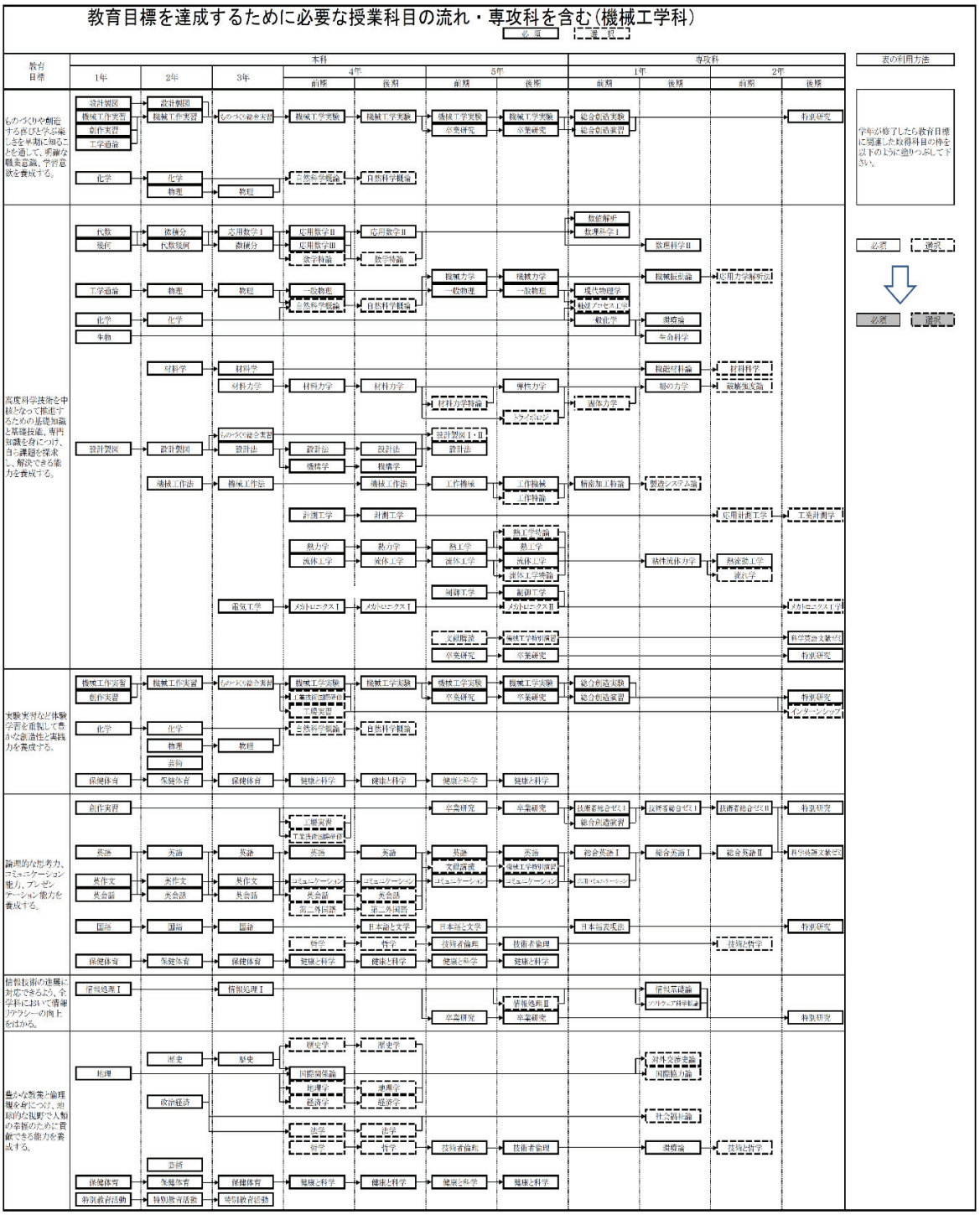
- **○ 応用力と創造力を兼ね備えた研究開発型技術者の育成**
- **○ 社会人技術者への門戸開放と再教育の場**
- **○ 企業との共同研究を通じて研究成果の社会への還元**

という重要な使命を担い、平成９年度に本科の４学科に対応して３専攻（機械工学、電気電子工学、物質工学）が設置されました。そして，平成２４年度の改組に伴って３専攻が１専攻（複合工学専攻）に統合されました。なお，複合工学専攻は次の４つの専門分野（工学系）から構成されています。



（出典　専攻科履修の手引き）

資料７－１－①－６



（出典　学生課資料）

資料７－１－①－７

教員室入口行先表示板



（出典　学生課資料）

資料７－１－①－８

担当教員（順不同）	オフィスアワー（機械工学科）
中江　道彦	火曜および木曜の16:00～17:00
中島　賢治	月曜日 16:00～18:00（教員室）
貞弘　晃宜	金曜日の16:00～17:00
西村　睦郎	月～金曜日16:00～19:00
原　要一郎	月曜日と金曜日の16時から17時まで
中浦　茂樹	月曜日と金曜日の17:00～，その他時間が空いている時はいつでも可
松山　史憲	火曜日と水曜日の4時～5時．その他空いている時間
西口　廣志	火、木の16:00～17:00
森川　浩次	火、金曜日の16:00～17:00
中嶋　明	月曜日の12時30分～13時
小原　彰	火:16～17時　＆　水:16～17時
福田　孝之	火、木曜日の16:00～17:00
森田　英俊	水曜日16:00以降
佐々木　壮一	火曜日の12時30分～13時00分
機械工学科全員	
機械工学科全教員	

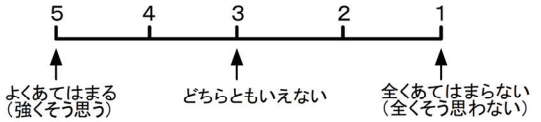
（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

資料７－１－①－９

学習態度および授業アンケート

このアンケート調査は、それぞれの授業担当の先生が学生諸君の受講状況を把握するとともに、今後の授業の改善に役立てる資料とするために実施します。集計結果は学生諸君にも公表する予定です。今年度４月以降の授業を振り返って学生諸君の**公正で真剣な回答**をお願いします。この調査の回答が諸君の学業成績に影響することはありません。

記入上の注意　**①選択指示がない質問について**　→　自分がどの段階にあてはまるかを回答して下さい.



②選択指示がある質問　→　指示に従って回答して下さい

アンケート項目＆回答欄

該当する□印を一つだけ**塗りつぶ**してください。例 ■（濃い黒の鉛筆・ボールペン等）

学 年	□ ５年　□ ４年　□ ３年　□ ２年　□ １年	□ 専１　□ 専２
学 科	□ 機械　□ 電気　□ 制御　□ 物質	□ 機械　□ 電気電子　□物質
科 目	□ 一般科目　□ 専門科目　□ 非常勤（一般）　□ 非常勤（専門）	

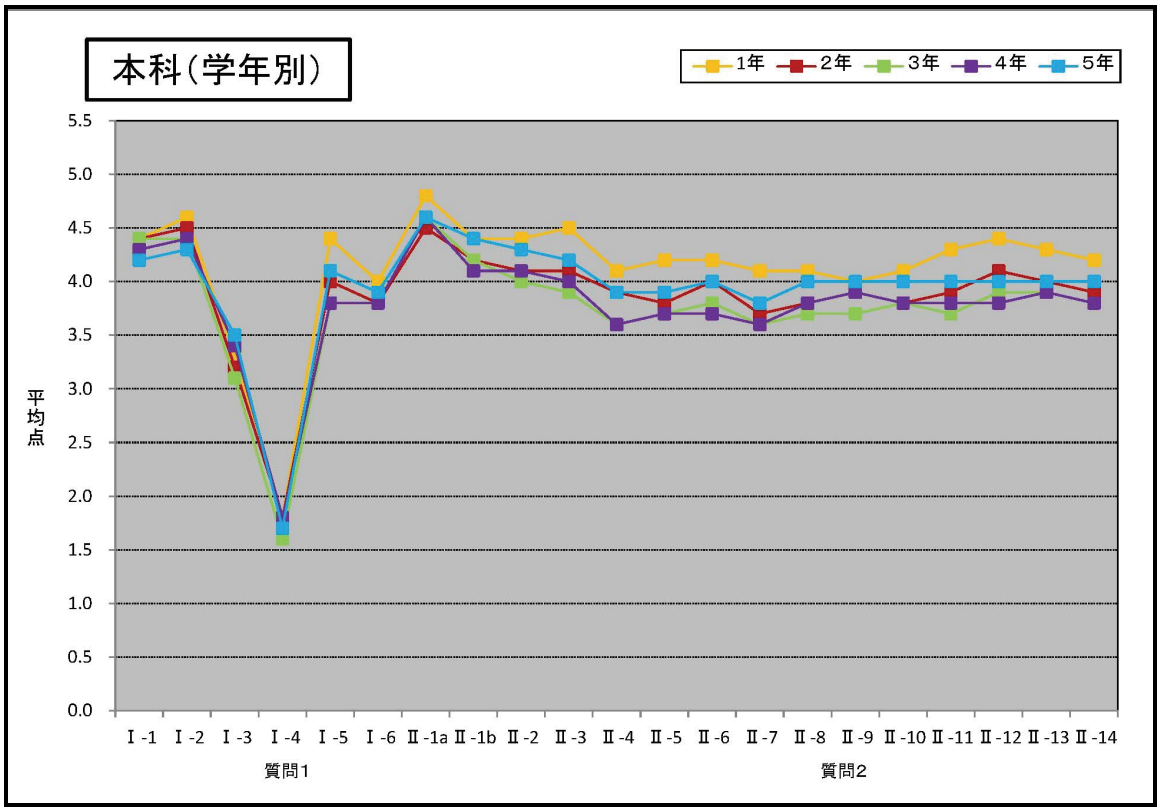
	I. この授業に対するあなたの学習態度について答えてください	
1	私語・居眠り・内職やメールの送受信はしない	□ しない　□ ときどきする　□ よくする
2	授業には集中し、注意などをきちんと守る	□ 守る　□ ときどき守る　□ 守らない
3	先生や友人に質問したり、予習・復習をしたりして、授業内容の理解に努めていますか	□ いつもする　□ ときどきする　□ しない
4	この授業の自学自習の時間は、１週間でどれくらいですか	□ ２時間以上　□ ２時間以内　□ １時間以内
5	授業の宿題は自分の力でやっている	□ いつもする　□ ときどきする　□ しない
6	あなたのこの授業に対する姿勢を総合的に５段階で評価してください	真面目　←　普通　→　不真面目 □　□　□　□　□

	II. この授業について答えてください	←　あてはまる　　あてはまらない　→ 5　4　3　2　1
1	シラバスの説明はあったか 「あった」と答えた人だけ→シラバスに沿って授業が行われている	□ あった　□ ない □　□　□　□　□
2	授業の目標、意義はきちんと説明された	□　□　□　□　□
3	先生は十分な準備を行い、熱意を持ち、授業を進めている	□　□　□　□　□
4	授業で使っている教科書または資料はわかりやすい	□　□　□　□　□
5	先生の説明はわかりやすい	□　□　□　□　□
6	授業の進め方（単元の進度）は適当である	□　□　□　□　□
7	先生の板書の仕方はわかりやすく丁寧である	□　□　□　□　□
8	先生は学生に興味を持たせるように話している	□　□　□　□　□
9	先生は授業中によく質問し、学生を積極的に参加させようとしている	□　□　□　□　□
10	授業中または時間外でも質問したとき、先生は丁寧に説明してくれる	□　□　□　□　□
11	課題や宿題の量は適切である	□　□　□　□　□
12	定期試験の問題は講義内容に沿ったものとし、適切である	□　□　□　□　□
13	先生は私語や携帯電話使用の注意をするなど、授業に集中できるようにしていますか	□　□　□　□　□
14	この授業を総合的に５段階で評価してください	よい　←　普通　→　悪い □　□　□　□　□

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－10

授業評価アンケートグラフ



（出典　学生課資料　抜粋）

資料７－１－①－11

研究日誌

研究日誌　　平成２４年４月　　前半

日	曜	研究時間帯（x:xx～x:xx）	合計時間 hr	担当教員打合せ（x:xx～x:xx）	合計時間 hr	研　究　内　容
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
週 計		研究時間		打合せ時間		

日	曜	研究時間帯（x:xx～x:xx）	合計時間 hr	担当教員打合せ（x:xx～x:xx）	合計時間 hr	研　究　内　容
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
週 計		研究時間		打合せ時間		

反省	学生署名
所見	指導教員　印

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

新入生に対するオリエンテーションやホームルームを利用したガイダンスが実施されている。各科目担当教員がシラバスの内容を説明することに加え，学生が本校ウェブサイト上で自由に閲覧できるシステムが整備されている。

自主的学習を計画する「学習の記録」「自己点検表作成支援システム」や直接相談・助言を行うオフィスアワー等による体制が整備され，機能している。卒業研究や特別研究においては，「研究日誌」でその進捗状況を担当教員が適宜把握している。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

教室以外の自主的学習の施設として，図書館が整備されており（資料７－１－②－１），平日の放課後や休日等も利用できる（資料７－１－②－２，３）。図書館内での利便性を高めるために，ノートパソコンの貸し出しを行っている（資料７－１－②－４訪問時資料）。図書館入館者数は平成22年度において前年度に比べて若干減少しているが，平成23年度に行った図書館内の空調設備の更新を経て，平成24年度においては増加傾向にある（資料７－１－②－５）。

また，情報処理教育の設備である情報処理センター第１演習室（資料７－１－②ー６）やCAD室（資料７－１－②ー７）は，平日の放課後にパソコンを利用した自主的学習にも利用でき，各室のパソコンは十分な台数を確保している（資料７－１－②－８，９）。

各クラスの教室は下校時間まで自由に利用でき，ゼミ室・多目的教室・大講義室等は申請により利用できる（資料７－１－②－10訪問時資料）。

福利厚生施設「敬愛館」は，食堂，音楽鑑賞室，ゼミ室，コミュニケーションスペースが整備されており，学生の部活動等にも利用されている（資料７－１－②－11）。

観点７－１－②資料一覧

（資料７－１－②－１）	図書館（閲覧室）	出典：総務課資料
（資料７－１－②－２）	図書館（利用案内）	出典：本校ウェブサイト
（資料７－１－②－３）	図書館（開館カレンダー）	出典：本校ウェブサイト
（資料７－１－②－４）	図書館　ノートパソコン貸出簿	訪問時資料
（資料７－１－②－５）	図書館入館者数データ	出典：教育データベース
（資料７－１－②－６）	情報処理センター第１演習室	出典：総務課資料
（資料７－１－②－７）	CAD 室	出典：総務課資料
（資料７－１－②－８）	情報処理センター第１演習室，CAD 室利用時間	出典：情報処理センター
（資料７－１－②－９）	情報処理センター第１演習室・CAD 室設置機器台数	出典：情報処理センター
（資料７－１－②－10）	ゼミ室・多目的室・大講義室の鍵貸出簿	訪問時資料
（資料７－１－②－11）	敬愛館（１Ｆコミュニケーションスペース）	出典：学生課資料

資料７－１－②－１

図書館（閲覧室）



（出典　総務課資料）

資料７－１－②－２

佐世保工業高等専門学校　図書館
Sasebo National College of Technology Library

図書館TOPへ

利用案内

【開館日・開館時間・休館日】

●【開館日・開館時間】

通常期（休業期間以外）	月曜日～金曜日	9時～20時
	土曜日	10時～16時
休業期間 （春季・夏季・冬季・学年末）	月曜日～金曜日	9時～17時

●【休館日】

＊日曜日
＊国民の祝日（振替日を含む）
＊開校記念日
＊12月28日から翌年1月4日まで
＊休業期間中（春季・夏季・冬季・学年末）の土曜日
＊上記以外の休館日は、事前に学内掲示および図書館ホームページ上でお知らせします。

【開館カレンダーはこちら】

【図書館案内図】





【一般（学外者向け）利用案内】

2001年（平成13年）1月より、学外の一般利用者も図書館を利用できるようになりました。

【利用資格】

＊特に制限を設けておりませんが、小学生以下は保護者の同伴が必要になります。

【利用者登録】

＊利用される場合は、利用者登録が必要です。
＊利用者登録のために、身分を証明する証書（運転免許証・健康保険証・学生証）をご持参下さい。
＊利用者登録をされる場合は、月曜日～金曜日の9時～17時にお越し下さい。夜間および土曜日の開館時には、手続きが出来ません。

【開館日・利用時間】

＊学内利用者と同様です。

（出典　本校ウェブサイト）

資料７－１－②－３

佐世保工業高等専門学校　図書館
Sasebo National College of Technology Library

図書館TOPへ

図書館 開館カレンダー

4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

区分	開館時間等
	9:00～20:00（平日）
	9:00～17:00（休業期間中）
	10:00～16:00（土曜日）
	別途掲示します（臨時休館）
	休館日

年間指定の休館日

・日曜日
・国民の祝日
・春季・夏季・冬季・学年末休業期間中の土曜日
・12月28日から翌1月4日まで
・開校記念日（4月23日）

★その他、図書館長が必要と認めた時は臨時休館、臨時閉館することがあります。

★台風・大雨・積雪などの悪天候の場合には臨時に閉館、休館することがあります。

★5月20日（月）は体育祭代休日のため臨時休館します。

★7月19日（金）は学生臨休のため臨時休館します。

★8月5日～8月9日、8月12日～8月16日は蔵書整備、本校夏季一斉休業のため臨時休館します。

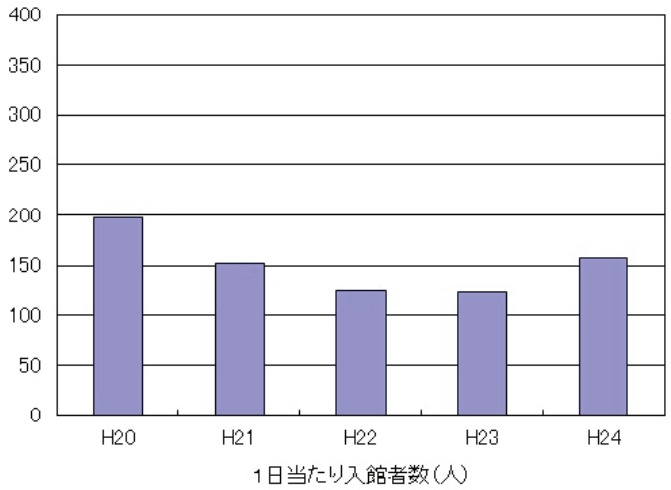
★12月23日～12月26日は閲覧室整備のため臨時休館します。

★12月27日（金）は休業日のため臨時休館します。

（出典　本校ウェブサイト）

資料７－１－②－５

図書館入館者数データ



（出典　教育データベース）

資料７－１－②－６

情報処理センター第１演習室



（出典　総務課資料）

資料７－１－②－７

CAD 室



（出典　総務課資料）

資料７－１－②－８

情報処理センター第１演習室、CAD室利用時間

室　名	利用可能時間
情報処理センター 第一演習室	平日　午前8時30分から16時50分
CAD室	平日　午前8時30分から18時30分

（出典　情報処理センター）

資料７－１－②－９

情報処理センター第１演習室・CAD 室設置機器台数

室　　名	面積（m^2）	（主な）機器名
情報処理センター 第１演習室	９２	学生用パソコン（５２台）、教師用パソコン、プリンター（３台）、 プロジェクター、スクリーン
Ｃ Ａ Ｄ 室	１１４	学生用パソコン（５５台）、教師用パソコン、プリンター（４台）、 プロジェクター、スクリーン

（出典　情報処理センター）

資料７－１－②－11

敬愛館（１Ｆコミュニケーションスペース）



（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

放課後等に学生が自主的学習等に自由に利用できるスペースとして，授業時間外の教室や図書館・情報処理センター第１演習室・CAD室等が用意されている。

福利厚生施設「敬愛館」は，本来の利用方法以外に部活動等にも利用され，学生のキャンパス生活の場となっている。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

担任はホームルームや面談等を通して学生の学習や生活面の意見を直接聞く機会があり，科目担当教員はオフィスアワー等を通して学生の授業に対する意見を汲み上げる機会がある。これらの機会に加え，学生の学習支援に関するニーズを把握する体制として，授業評価アンケート実施時に回収している「意見要望用紙」がある（資料７－１－③－１）。この要望用紙により集められた様々な意見・要望に対する教員の回答は，教室に掲示される（資料７－１－③－２訪問時資料）。これらの機会では十分に汲み上げることができない学生の意見・要望等については，校内の意見箱「みんなの声」（資料７－１－③－３）への投書により，校長が学生のニーズを直接把握する制度が設けられている（資料７－１－③－４訪問時資料）。

保護者を通じて学生のニーズを把握するために，本校において年２回（資料７－１－③－５），唐津地区と諫早地区において隔年交替で年 1 回（資料７－１－③－６），保護者懇談会が開催されている。これらの他に，離島地区（壱岐，対馬，五島等）においても毎年実施している（資料７－１－③－７）。

資格・検定試験の担当教員は，試験日の年間予定を掲示やパンフレット等で学生に周知している（資料７－１－③－８）。TOEICなど主要な資格・検定試験を学校の行事予定表に計画的に組み込み，本校を試験会場として提供することで学生の利便性を考慮し，資格の取得を積極的に支援している（資料７－１－③－９，10）。なお，いくつかの資格・検定試験合格者に関しては，単位を認定している（資料７－１－③－11）。

外国留学に関しては，募集があれば要項等を適宜掲示して案内をしている。本校の学生が留学した場合，外国の高等学校等で修得した単位は学業成績証明書により，本校において履修したものと認定している（資料７－１－③－12）。学術交流協定を締結している中国の厦門理工学院への短期留学を，「インターンシップ」として単位認定している（資料５－５－③－４参照）。

観点７－１－③資料一覧

（資料７－１－③－１）	意見要望用紙様式	出典：学生課資料
（資料７－１－③－２）	教員回答結果	訪問時資料
（資料７－１―③－３）	意見箱「みんなの声」	出典：総務課資料
（資料７－１－③－４）	意見箱「みんなの声」回答例	訪問時資料
（資料７－１－③－５）	保護者懇談会実施一覧	出典：学生課資料
（資料７－１－③－６）	地区保護者懇談会開催通知	出典：学生課資料
（資料７－１－③－７）	壱岐地区保護者懇談会案内	出典：学生課資料
（資料７－１－③－８）	国家試験・検定試験　日程一覧	出典：電気電子工学科資料
（資料７－１－③－９）	平成 24 年度行事予定表	出典：学生課資料
（資料７－１－③－10）	TOEIC 受検者数・得点の推移	出典：英語科資料
（資料７－１－③－11）	単位認定を行う資格試験一覧	出典：教員必携
（資料７－１－③－12）	派遣留学生規則	出典：佐世保高専規程集

資料７－１－③－１

意 見 要 望 用 紙

工学専攻
工 学 科　　年　科目名

次の項目について、書いてください。**ただし、表現の仕方には注意し、節度をもって書いてください。**

① この授業でよかったと思う点

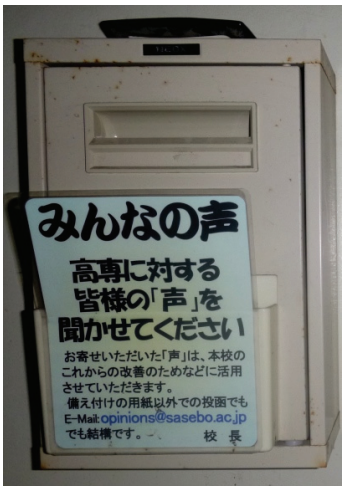
② この授業の中で改善してほしいと思う点

③ その他の意見・要望

（出典　学生課資料）

資料７－１－③－３

意見箱「みんなの声」



（出典　総務課資料）

資料７－１－③－５

平　成　２４　年　度　　保　護　者　懇　談　会　実　施　一　覧

○懇談会開催日　　平成２４年７月８日（日）

※クラスにより日程が異なる場合がありますのでご注意ください。
左記の日程以外でもご希望があれば、個別に面談を実施致しますので、各担任の先生へご連絡下さい。

○会　　場　　佐世保市沖新町１－１　　佐世保工業高等専門学校

学年／学科	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年
機械（M）	担任　大里浩文 TEL　0956-34-8433 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～12:00 13:00～17:00 7/8(日) 9:00～11:00 13:00～17:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　中村真一 TEL　0956-34-8442 場所　教員室（２階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～17:00 7/8(日) 9:00～17:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　中浦茂樹 TEL　0956-34-8452 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　中島賢治 TEL　0956-34-8465 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～11:00 12:30～17:00 希望される保護者および担任が必要とする保護者の方のみとさせていただきます。懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　森川浩次 TEL　0956-34-8464 場所　教員室（１階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～10:45 13:00～17:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。
電気（E）	担任　森下浩二 TEL　0956-34-8448 場所　１Ｅ教室（２階配置図） 時間　7/7(土) 10:00～16:00 7/8(日) 8:30～11:00 12:00～16:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　関文雄 TEL　0956-34-8434 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～11:00 13:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　吉田克雅 TEL　0956-34-8477 場所　教員室（２階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～18:00 7/8(日) 9:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　品川政春 TEL　0956-34-8470 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/7(土) 13:00～18:00 7/8(日) 9:00～11:00 13:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　柳生義人 TEL　0956-34-8528 場所　高電圧実験室（１階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～17:00 7/8(日) 9:00～17:00 懇談を希望する保護者および担任が必要とする保護者を対象と致します。懇談の日時については、事前に学生を通じて回答致します。
制御（S）	担任　大屋博一 TEL　0956-34-8439 場所　１Ｓ教室（２階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～18:00 7/8(日) 9:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　川瀬雅也 TEL　0956-34-8436 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～17:00 7/8(日) 9:00～17:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　前田貴信 TEL　0956-34-8491 場所　教員室（１階配置図） 時間　7/7(土) 9:00～18:00 7/8(日) 9:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　志久修 TEL　0956-34-8487 場所　教員室（１階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～18:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。（７月８日を含む２週間放課後個別面談をします。）	担任　兼田一幸 TEL　0956-34-8486 場所　教員室（２階配置図） 時間　7/8(日) 8:30～16:30 学生を通じて事前に調整します。 希望時間を学生に伝えてください。
物質（C）	担任　真部広紀 TEL　0956-34-8440 場所　１Ｃ教室（２階配置図） 時間　7/6(金) 16:00～19:00 7/7(土) 9:00～15:00 7/8(日) 9:00～12:00 担任が必要とする保護者を対象とします。懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　堂平良一 TEL　0956-34-8432 場所　教員室（３階配置図） 時間　7/7(土) 13:30～17:00 7/8(日) 9:00～17:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　古川信之 TEL　0956-34-8501 場所　生物化学工学実験室（１階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～11:00 12:30～17:30 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　村山智子 TEL　0956-34-8508 場所　教員室（２階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～11:00 12:00～17:00 希望される保護者がおられる場合のみ実施します。懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。	担任　平山俊一 TEL　0956-34-8504 場所　教員室（２階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～17:00 懇談時間は、事前に学生を通じて調整します。
専攻科1･2年	担当【機械:1ME･2AM】中江道彦 TEL　0956-34-8457 場所　教員室（１階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～16:00 希望される保護者がおられる場合のみ実施します。事前に学生を通じて希望時間を連絡してください。	担当【電気:1EE･2AE(E)】高比良秀彰 TEL　0956-34-8523 場所　物性実験室（２階配置図） 時間　7/8(日) 9:00～17:00 希望される保護者がおられる場合のみ実施します。事前に学生を通じて希望時間を連絡してください。	担当【制御:1IT･2AE(S)】坂口彰浩 TEL　0956-34-8494 場所　教員室（１階配置図） 希望される保護者がおられる場合のみ実施します。事前に学生を通じて希望時間を連絡してください。 【７月８日以外でも結構です。】	担当【物質:1CB･2AC】田中泰彦 TEL　0956-34-8506 場所　教員室（３階配置図） 希望される保護者がおられる場合のみ実施します。事前に学生を通じて希望時間を連絡してください。 【７月８日以外でも結構です。】	**※7/8(日)11:00～12:00は後援会総会が開催されますので、面談はできません。**

（出典　学生課資料）

資料７－１－③－６

平成２４年１０月　１　日

保護者各位

佐世保工業高等専門学校長
中　尾　充　宏（公印省略）

保護者懇談会の開催について（お知らせ）

このことについて、下記のとおり保護者懇談会を実施いたしますので、お知らせします。当日担任教員から成績通知表をお渡し致します。

なお、離島（五島、壱岐、対馬）での保護者懇談会も１０月下旬から１１月中旬に予定していることを申し添えます。

また、下記の日程以外でも、御希望があれば個別に面談を実施いたしますので、各担任の先生方へご連絡下さい。

記

１．保護者懇談会（本校）
開催日　　平成２４年１０月２８日（日）
会場　　佐世保工業高等専門学校　（裏面参照）
佐世保市沖新町１－１　TEL０９５６－３４－８４１９

２．地区保護者懇談会（諫早市）
開催日　　平成２４年１０月２６日（金）１８：３０～２０：００
会場　　諫早商工会館（裏面参照）
諫早市高城町５番１０号　TEL０９５７－２２－３３２３

◎諫早会場または本校開催分のいずれかにご出席ください。

また、公開授業参観を１０月１日（月）～１０月１５日（月）まで実施致しますのでご出席ください。（受付場所は学生課教育支援係です）

◎１０月２８日当日は９：３０～１６：００まで、本校情報処理センターで、進路検索システムを使って、求人や大学の募集をご覧いただけます。
入退室は自由です。懇談会の空き時間等にお気軽にお立ち寄りください。

（出典　学生課資料）

資料７－１－③－７

壱岐地区保護者懇談会及び中学校訪問について

１．日　　時　　平成２４年１１月９日（金）～　１０日（土）

２．訪　問　者　　一般科目　　川瀬　雅也（２Ｓ担任）

３．保護者懇談会

会　場　　壱岐マリーナホテル・ロビー（壱岐市郷ノ浦町郷ノ浦 205-1）

時　間　　１１月９日（金）　１８時～

出席者　　別紙「離島地区学生名簿」のとおり（希望者のみ）

※事前に担任を通じて、希望者を確認する。

４．訪問中学校　　１１月９日（金）　　郷ノ浦・勝本・芦辺・石田

５．経　　費　　①旅　　費　　[redacted]円（後援会寄附金）

②島内交通費　　[redacted]円（後援会費）

※島内の移動はレンタカーを利用する。

※金額は昨年度を参照。

※島内交通費は後援会費より事前に支出し、実施後に清算する。

６．資　　料　　保護者懇談会

前期定期試験成績通知表

中学校訪問

中学校訪問教員手持資料　一式

中学校配布用資料　　一式

（出典　学生課資料）

資料７－１－③－８

平成24年度　国家試験・検定試験　日程一覧

佐世保工業高等専門学校　電気電子工学科

	試験名	区分	試験日	回数・次	申込期間	試験地	試験名	区分	試験日	回数・次	申込期間	試験地
技能	技術士（国家試験）	電気電子部門　一次	10月8日(月)	1次	6月8日(金) ～ 7月2日(月)	福岡	情報処理 ディジタル技術検定［デジ検］	1級(制御) 1級(情報) 2級(制御) 2級(情報) 3級／4級	6月24日(日)	第44回	4月24日(火) ～ 5月24日(木)	本校
									11月25日(日)	第45回	9月18日(火) ～ 10月18日(木)	
設備	電気工事士（国家試験）［電工］	第一種	10月7日(日) 12月9日(日)	筆記 技能	7月2日(月) ～ 7月20日(金)	福岡	特殊技能 ラジオ・音響技能検定［A・R検定］	1級／2級 3級／4級	11月11日(日)	第65回	9月11日(火) ～ 10月11日(木)	本校
		第二種	6月3日(日) 7月28日(土)	筆記 技能	3月12日(月) ～ 4月6日(金)	長崎						
			10月6日(土) 12月8日(土)	筆記 技能	※6月と10月の両方の受験不可	九州	C A D CAD利用技術者	3次元 2級	7月15日(日) 12月9日(日)	前期 後期	4月4日(水) ～ 5月22日(火) 8月29日(水) ～ 10月16日(火)	本校
	電気主任技術者（国家試験）［電験］	第二種	9月8日(土) 12月2日(日)	1次 2次	5月21日(月) ～ 6月8日(金)	福岡		2級	6月24日(日) 11月11日(日)	前期 後期	3月14日(水) ～ 5月1日(火) 8月1日(水) ～ 9月18日(火)	本校
		第三種	9月9日(日)			長崎		基礎	随時			
	エネルギー管理士（国家試験）［エネ管］	電気管理	9月2日(日)		6月8日(金) ～ 6月29日(金)	福岡	語学 国際コミュニケーション英語能力テスト［TOEIC］	TOEIC	5月27日(日) 9月23日(日) 11月18日(日) 1月13日(日)	第170回 第173回 第175回 第177回	4月1日(日) ～ 5月14日(月) 7月1日(日) ～ 8月13日(月) 9月1日(土) ～ 10月9日(火) 11月1日(木) ～ 11月26日(月)	佐世保
無線従事者	陸上無線技術士（国家試験）［陸技］	第一級	7月24日(火) 7月25日(水)	7月期 (2日間)	5月1日(火) ～ 5月21日(月)	福岡 熊本		TOEIC IP	4月21日(土) 5月19日(土) 10月14日(日) 2月2日(土)	第1回 第2回 第3回 第4回	本校で設定 英語科教員に要確認	本校
			1月22日(火) 1月23日(水)	1月期 (2日間)	11月1日(木) ～ 11月20日(火)	熊本						
	特殊無線技士（国家試験）［特技］	第一級陸上特殊	6月8日(金)	6月期	4月1日(日) ～ 4月20日(金)	熊本		1級	6月10日(日) 7月8日(日)	第1回1次 第1回2次	3月9日(金) ～ 5月17日(木)	本校
			10月25日(木)	10月期	8月1日(水) ～ 8月20日(月)			準1級	10月14日(日)	第2回1次	8月1日(水) ～ 9月20日(木)	佐世保 本校
			2月10日(日)	2月期	12月1日(土) ～ 12月20日(木)		実用英語技能検定［英検］	2級	11月11日(日)	第2回2次		佐世保
	アマチュア無線技士（国家試験）	第四級	試験地により異なる					準2級	1月27日(日) 2月24日(日)	第3回1次 第3回2次	12月3日(月) ～ 12月25日(火)	本校
電気通信	電気通信の工事担任者（国家試験）［工担］	AI・DD総合種 AI第1種，DD第1種	5月27日(日)	第1回	2月1日(水) ～ 2月29日(水)	大村		1級 2級 3級 4級	5月27日(日)	第91回	3月1日(木) ～ 4月27日(金)	佐世保 本校
			11月下旬	第2回	8月上旬 ～ 8月下旬			3級 4級	7月26日(土)	第92回	～ 7月13日(金)	
	電気通信主任技術者（国家試験）	伝送交換主任技術者 総路主任技術者	7月8日(日)	第1回	4月1日(日) ～ 5月1日(火)	福岡 熊本	工業英語能力検定［工業英検］	1級 2級 3級 4級	11月18日(日)	第93回	9月1日(土) ～ 10月18日(木)	本校
			1月下旬	第2回	10月上旬 ～ 10月下旬			3級 4級	1月27日(日)	第94回	～ 1月11日(金)	
情報処理	情報処理技術者（国家試験）	基本情報技術者 応用情報処理技術者	4月15日(日)	春期	1月16日(月) ～ 2月13日(月)	長崎						
			10月21日(日)	秋期	7月16日(月) ～ 8月13日(月)							
	※ITパスポートは，インターネットを介して随時受験できる方式に変わりました。											
保全	危険物取扱者（国家試験）	乙種・丙種	6月17日(日)	前期	4月9日(月) ～ 4月26日(木)	佐世保	秘書・マナー 秘書技能検定	2級	6月17日(日)	第97回	4月10日(火) ～ 5月16日(水)	佐世保
			11月23日(金)	後期	8月29日(水) ～ 9月21日(金)			3級	11月17日(土)	第98回	9月3日(月) ～ 10月10日(水)	
その他									2月10日(日)	第99回	12月3日(月) ～ 1月15日(火)	
							ビジネス実務マナー検定［ビジネスマナー］	2級	6月24日(日)	第43回	4月10日(火) ～ 5月21日(月)	本校（予定）
								3級	11月25日(日)	第44回	9月3日(月) ～ 10月22日(月)	

※試験日および申込期間は目安です．必ず，受験者各自で願書により正確な日程を確認すること．

（出典　電気電子工学科資料）

資料７－１－③－９

平成24年度　行事予定表

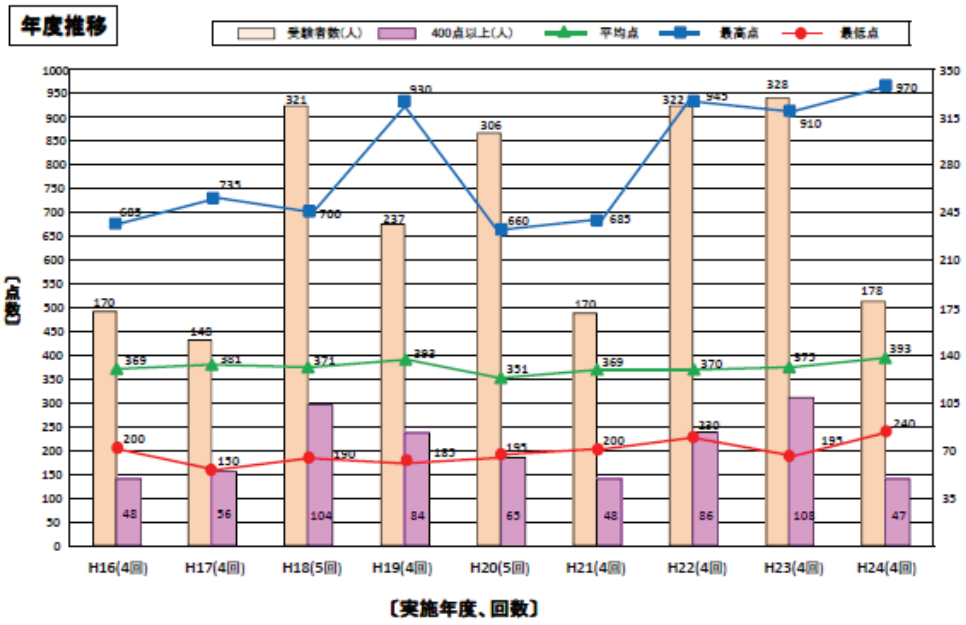
平成 24 年 1 月 19 日

週	日	曜	10　月		週	日	曜	11　月		週	日	曜	12　月	
	1	月	後期授業始め			1	木		専攻科入学願書受付		1	土		
	2	火				2	金				2	日	図書館開放日	
22	3	水				3	土	文化の日			3	月		
	4	木				4	日				4	火		
	5	金				5	月			31	5	水	金曜日授業	
	6	土				6	火	金曜日授業			6	木		後
	7	日			27	7	水	学生会新旧交代式，ラグビー地区大会壮行会			7	金		学
	8	月	体育の日　技術士1次試験			8	木				8	土	試験実施日	期
	9	火				9	金	文化祭準備（授業なし），校内清掃，寮内清掃			9	日	図書館開放日	中
23	10	水				10	土	文化祭	九州高専大会（ラグビー）		10	月		間
	11	木				11	日	50周年記念式典			11	火		試
	12	金				12	月	学生臨休（文化祭代休）		32	12	水		験
	13	土	おもしろ実験大公開			13	火				13	木		
	14	日	第2回実用英検，第3回TOEIC IPテスト		28	14	水				14	金		
	15	月		4年工場見学旅行		15	木	月曜日授業			15	土		
	16	火				16	金				16	日		
24	17	水				17	土				17	月		
	18	木				18	日	第2回工業英検（2-4級）			18	火	地域企業合同説明会（4年・専攻科1年）	
	19	金				19	月			33	19	水		

（出典　学生課資料　抜粋）

資料７－１－③－10

ＴＯＥＩＣ受検者数・得点の推移



（出典　英語科資料）

資料７－１－③－11

単位認定を行う資格試験一覧

別表

技能審査	級	単位数	科目別
実用英語技能検定試験	１　級	7	一般科目
	準１級	5	
	２　級	3	
	準２級	2	
工業英語能力検定試験	１　級	6	専門科目
	２　級	4	
	３　級	2	
	４　級	1	
ラジオ・音響技能検定試験	１　級	4	専門科目
	２　級	2	
	３　級	1	
ディジタル技術検定試験	１　級	4	専門科目
	２　級	2	
	３　級	1	
技術士第一次試験	―――	2	専門科目

（出典　教員必携）

資料７－１－③－12

佐世保工業高等専門学校派遣留学生規則

（平成16年4月1日制定）

佐世保工業高等専門学校派遣留学生規則（平成元年1月17日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条　本校の学生で、佐世保工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第32条第4項の規定に基づき外国の高等学校又は大学（以下「外国の高等学校等」という。）に留学を志願するもの及び外国の高等学校等に留学し履修した授業科目の単位の認定を得ようとするものの取扱いについては、法令等及び学則に別段の定めがあるもののほか、この規則の定めるところによる。

（定義）

第2条　この規則において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

一　留学　本校の学生が、教育上有益であるとする校長の判断により、その許可を受けて、本校の学生としての身分を保有し、外国の高等学校等に修学することをいう。

二　外国の高等学校　外国における正規の後期中等教育機関で我が国の高等学校に相当するものをいう。

三　外国の大学　外国における正規の高等教育機関で我が国における大学（短期大学を含む。）に相当するものをいう。

四　派遣留学生　本校の学生で、留学により外国の高等学校等で修学する者をいう。

（外国の高等学校等との協議）

第3条　学生の留学は、外国の高等学校等との協議に基づき行うものとする。ただし、やむを得ない事情により事前の協議を行うことが困難な場合は、これを欠くことができる。

2　前項の協議は、次に掲げる事項について、あらかじめ学科長の発議を受け、教務委員会の議を経て、校長が行うものとする。

一　履修できる授業科目の範囲

二　単位の認定方法

三　履修期間

四　授業料等の費用の取扱い方法

五　その他必要な事項

（留学許可申請手続き）

第4条　留学を志願する学生は、別に定める期間に所定の願書により、校長に留学の許可を申請しなければならない。

（留学の許可）

第5条　前条の申請があったときは、校長は、教務委員会の議を経て、外国の高等学校等に依頼し、その了解を得てこれを許可する。

（留学期間）

第6条　派遣留学生の留学期間は、1年以内とする。

（在学期間の取扱い）

第7条　派遣留学生としての留学期間は、本校の在学期間に含めるものとする。

（留学報告書等の提出）

第8条　派遣留学生は、留学期間が満了したときは、直ちに（帰国の日から1月以内）に所定の留学報告書及び当該外国の高等学校等の長が交付する学業成績証明書を提出しなければならない。

（単位の認定）

第9条　派遣留学生が外国の高等学校等で修得した単位は、学業成績証明書により、教務委員会の議に基づき、30単位を限度として、本校において履修したものと認定する。

（授業料等）

第10条　派遣留学生は、本校の学生としての授業料を納付するものとする。

（留学許可の取消し）

第11条　校長は、派遣留学生が次の各号の一に該当するときは、当該外国の高等学校等と協議の上、留学の許可を取消すことができる。

一　履修の見込みがないと認められるとき。

二　派遣留学生が、受け入れられた外国の高等学校等の規則等に違反し、又はその本分に反する行為があると認められるとき。

三　その他留学の趣旨に反する行為が認められるとき。

2　校長は、前項の取消しを行おうとするときは、あらかじめ教務委員会、必要な場合には厚生補導委員会の意見を聞くものとする。

（留学以外による外国の高等学校等での修学）

第12条　学則第32条の規定によるもののほか、外国の高等学校等において修学する期間は、学則第28条の規定により休学とすることができる。

（補則）

第13条　この規則に定めるもののほか、学生の留学及び外国の高等学校等で履修した単位の認定について必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

担任面談，オフィスアワー，授業評価アンケート，校内設置の意見箱，保護者懇談会の開催等の取り組みを数多く行い，学習支援に関する学生のニーズを適切に把握している。資格・検定試験は行事予定表に組み込まれ，学生の資格取得を積極的に支援しており，その体制が整備されている。また，外国留学希望者のために，派遣留学生規則が設けられている。

観点７－１－④:　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

外国人留学生に対し，学科教員を留学生指導教員として，及び同一学級の学生をチューターとして配置し，学習面の支援を行っている（資料７－１－④－１，２）。「留学生交流室」の設置により，留学生同士の交流を促進している。さらに，校長は留学生との懇談会（資料７－１－④－３）を開催し，各種要望を把握し対応している。留学生の教育課程への配慮として，国語・歴史を日本語・物理等の授業科目に振り替えている（資料７－１－④－４）。

編入学生に対し，英語に関しては入学前に郵送で返却する添削課題を課し（資料７－１－④－５），数学に関しては入学直後に学力の到達度試験を実施し（資料７－１－④－６），本校での学習に支障がないように支援を行っている。

また，平成19年度より文部科学省学生支援ＧＰの採択を受け，特別支援教育への取り組みを行っている（資料７－１－④－７）。発達障害やその傾向がある学生に対する具体的な支援として「特別支援教育部会」（資料７－１－④－８）を定期的に開催する等，特別支援教育の体制を整えている（資料７－１－④－９）。また，必要に応じて教育支援員を配置する制度も整備されている（資料７－１－④－10）。

観点７－１－④資料一覧

（資料７－１－④－１）	外国人留学生規則	出典：佐世保高専規程集
（資料７－１－④－２）	指導教員・チューター名簿	出典：学生課資料
（資料７－１－④－３）	留学生懇談会記録	出典：学生課資料
（資料７－１－④－４）	外国人留学生特別カリキュラム	出典：学生課資料
（資料７－１－④－５）	編入学生　入学前添削問題案内文書	出典：英語科資料
（資料７－１－④－６）	編入学生の到達度把握試験「数学」結果一覧	出典：数学科資料
（資料７－１－④－７）	「高等専門学校での特別支援教育推進事業」成果報告書	出典：成果報告書
（資料７－１－④－８）	特別支援学内組織図	出典：特別支援教育部会
（資料７－１－④－９）	特別支援教育部会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料７－１－④－10）	教育支援員規程	出典：佐世保高専規程集

資料７－１－④－１

佐世保工業高等専門学校外国人留学生規則

（平成16年4月1日制定）

佐世保工業高等専門学校外国人留学生規則（平成3年3月1日制定）の全部を改正する。

（趣旨）
第1条　この規則は、佐世保工業高等専門学校学則第43条第3項の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校に受け入れる外国人留学生（以下「留学生」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（入学）
第2条　留学生は、定員外とし、原則として第3学年以下に入学を許可することができる。
2　留学生は、本校及び志望学科の教育目標並びに技術者教育プログラム「複合型もの創り工学」を理解した者とする。

（留学生の受入）

第3条　本校においては、原則として当分の間、国費外国人留学生制度、外国政府派遣留学生制度及び第3学年編入学者（外国人学生対象）選抜制度に基づく留学生を受け入れる。
2　受入にあったては、教務委員会の議に基づき校長が許可する。

（授業料等）
第4条　国費外国人留学生制度に基づく留学生に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

（教育課程）
第5条　留学生の教育課程は、学則第24条の規定にかかわらず特別に編成することができる。

（留学生指導教員）
第6条　留学生に対し、一貫した学習及び生活上必要な指導、助言を与えるため、留学生指導教員を置く。
2　留学生指導教員は、留学生が在籍する当該学科長の推薦に基づき、校長が任命する。

（留学生相談員）
第7条　留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言を行うため、留学生相談員（以下「チューター」という。）を置く。
2　チューターは、学生の中から、留学生が在籍する当該学科長の推薦に基づき校長が委嘱する。
3　チューターは、適宜、留学生の相談に応ずるとともに、必要に応じて留学生指導教員に連絡し、その指示を受ける。

（住居）
第8条　留学生は、原則として学寮に居住する。（閉寮期間中を除く）

（事務処理）
第9条　留学生に関する事務は、学生課が行う。

（学則等の準用）
第10条　この規則に定めるもののほか、留学生に関し必要な事項は、学則及び諸規程を準用する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料７－１－④－２

平成２４年度　留学生・指導教員・ﾁｭｰﾀｰ名簿

学年・組	氏　　名	性別	出　身　国	指　導　教　員	チューター
３　S		男	モンゴル	椛　島　隆　富	
４　C		女	インドネシア	長　田　秀　夫	
４　C		女	インドネシア	長　田　秀　夫	
５　M		男	マレーシア	小　原　　彰	
５　E		女	マレーシア	吉　田　克　雅	
５　C		男	インドネシア	平　山　俊　一	

（出典　学生課資料）

資料７－１－④－３

平成２４年度校長と留学生、指導教員及びチューターとの懇談会記録

日　時　：平成２４年６月１９日（火）１２：１０～１３：１０
場　所　：会議室
出席者　：２１名
教　員　：中尾校長、須田副校長(教務主事)、田﨑学生主事、渡辺寮務主事　（４名）
留学生　：○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○（６名）
チューター：○○○○、○○○○、○○○○（３名）
指導教員　：小原教員、吉田教員、椛島教員、長田教員、平山教員（５名）
事務部　：浦口学生課長、松尾学生課長補佐、冨永教育支援係長　（３名）

１．校長開会挨拶
２．留学生・チューター自己紹介（出身国、進路、趣味等について）
３．懇談開始（進行：須田副校長）
※　食事をとりながら懇談開始
○高専卒業後の進路について

[redacted]

副校長：５年生は全員進学するということですね。
４年生はまだ進路は決まっていませんか。

[redacted]

○困っていることや何か要望について
[redacted]：寮に電子レンジはあるが、オーブンレンジを買ってほしい。
ケーキ等を作りたい。
寮務主事：予算を見ながら検討したい。

以下省略

（出典　学生課資料　抜粋）

資料７－１－④－４

外国人留学生特別カリキュラム

平成24年4月1日実施

佐世保工業高等専門学校外国人留学生規則第5条に基づき次のとおり定める。

（第3学年）

機械工学科				電気電子工学科			
授業科目	単位	振替授業科目	単位	授業科目	単位	振替授業科目	単位
国語	2	日本語	2	国語	2	日本語	2
歴史	2	物理 機械通論	1 1	歴史	2	電気工学基礎 物理	1 1
電子制御工学科				物質工学科			
授業科目	単位	振替授業科目	単位	授業科目	単位	振替授業科目	単位
国語	2	日本語	2	国語	2	日本語	2
歴史	2	情報処理 物理	1 1	歴史	2	物理 工業日本語	1 1

（出典　学生課資料）

資料７－１－④－５

編入学生　入学前添削問題案内文書

2012 年 9 月 11 日

佐世保高専　平成 25 年度編入学合格者の皆さんへ

編入学合格おめでとうございます。
佐世保高専では、1 年生～3 年生に関しては、通常の高校と同じようなテキストを用いた授業を行っています。従いまして、皆さんが高校時代に受けた授業内容と同じと考えてください。ただし、本校生が 4 年生以降に受検する TOEIC テストを意識した内容も 3 年生くらいから取り入れています。

そして、皆さんが編入学する 4 年生では、大学の 1 年生が使用するようなテキストを用いた英語の授業と、上にも書いた TOEIC テスト対策の授業を行う事になります。TOEIC テストに関しては、本校を試験会場として年 4 回試験を実施しています。受験料は各受検者が払う事になりますが、早い時期に 1 度受検する事を計画してください。5 年生になる 4 月には就職活動・大学編入学試験等が始まりますので、4 年生の時にそれらに必要な TOEIC 得点を獲得しておく必要があります。

市販されている TOEIC テスト対策問題集等を見ると、TOEIC テストの難しさが判りますので、早目に本屋さんで TOEIC テスト対策問題集を手に取り、出題内容等を確認してください。
来年 4 月までに皆さんに行ってほしいのは、高校 3 年間の復習と、語彙力のアップです。語彙力に関しては、短い期間で向上するものではありませんので、高校生活残り半年の今、少しずつ語彙力を付ける計画をたててください。

さて、本日お渡しする課題の内容ですが、4 年生の授業の準備となるプリント 12 枚です。9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月の各月末までに、最後に書いている住所に回答を書き込んだプリント・レポート用紙を郵送してください。コメントを書き込むスペースを考えて、解答を記入するようにしてください。
お願いなのですが、解答を郵送する際には、切手を貼った返信用封筒も同封していただくようにお願いいたします。

プリントの問題を解いていて何か質問等あれば、morisita@sasebo.ac.jp までお尋ねください。
では、来年の 4 月、本校で皆さんにおいする事を楽しみにしています。
十分勉強に取り組み、本校でも活躍できるようにご準備ください。
この度の佐世保高専編入学試験合格おめでとうございました。心より皆さんを歓迎します。

佐世保工業高等専門学校一般科目(英語科)　森下　浩二

≪プリント郵送先住所≫　郵便番号 857-1193　佐世保市沖新町 1-1
佐世保工業高等専門学校　一般科目(英語科)　森下　浩二　行

(注)まとめて郵送したり、大きめの封筒〈定型外〉を使うと、郵送料が 80 円を超えることがありますので、注意してください。

(出典　英語科資料)

資料７－１－④－６

編入学生の到達度試験把握「数学」結果一覧

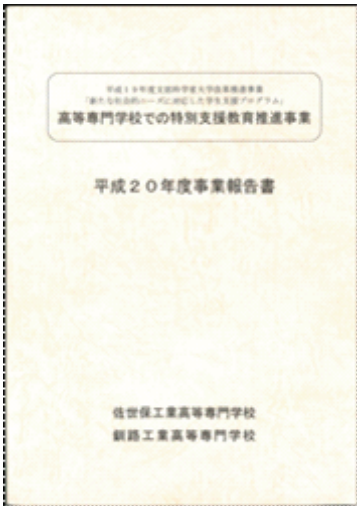
4年編入学生到達度試験結果			平成24年度入学			平成25年度入学	
		名前	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E
問題番号	試験内容	配点	得点	得点	得点	得点	得点
【問題 1】	整式の計算問題	6	0	6	6	2	6
【問題 2】	整式の除法	4	0	4	0	0	2
【問題 3】	複素数の相等	4	4	4	4	4	0
【問題 4】	2次方程式の解	6	4	6	6	6	6
【問題 5】	連立1次方程式	4	4	2	2	0	2
【問題 6】	連立1次不等式	2	2	0	0	0	2
【問題 7】	2次方程式の解と係数との関係	2	2	2	2	2	0
【問題 8】	2次方程式の解と2次不等式	10	6	6	4	4	4
【問題 9】	2次関数の頂点と平行移動	10	10	10	6	6	4
【問題 10】	対数関数とグラフの平行移動	8	2	6	4	6	4
【問題 11】	三角関数の周期とx軸との交点	4	4	4	2	4	2
【問題 12】	平面ベクトルの長さと内積	6	4	5	6	6	2
【問題 13】	導関数の計算と定積分・不定積分	12	6	10	8	12	6
【問題 14】	3次関数の極大値・極小値	14	14	14	14	14	14
【問題 15】	2次関数と面積(定積分)	6	6	6	6	4	6
【問題 16】	2次関数と回転体の体積	2	0	2	0	0	0
	計	100	68	87	70	70	60

（出典　数学科資料）

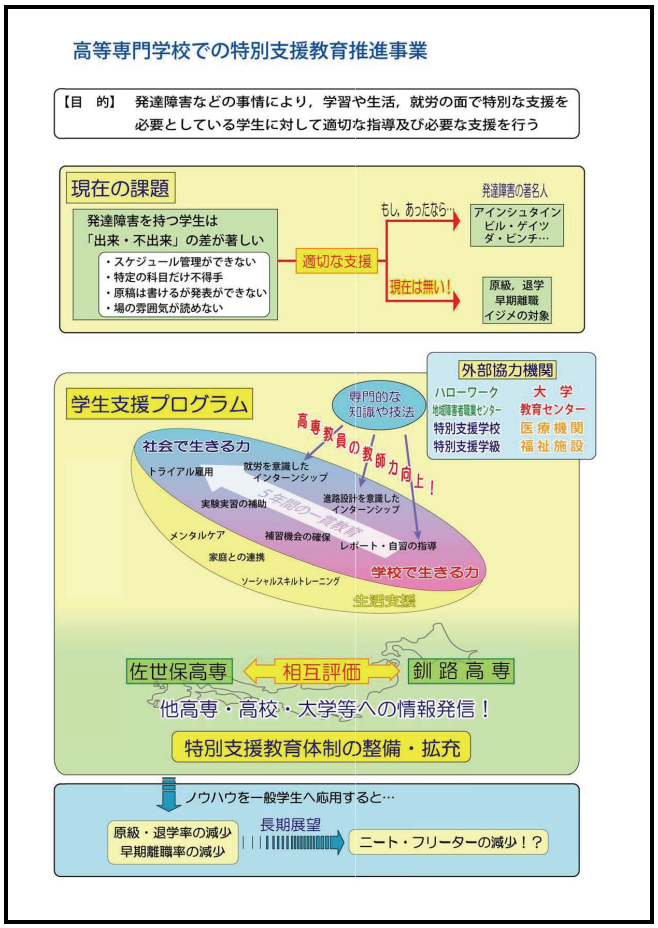
資料７－１－④－７

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム
「高等専門学校での特別支援教育推進事業」成果報告書

（表紙）



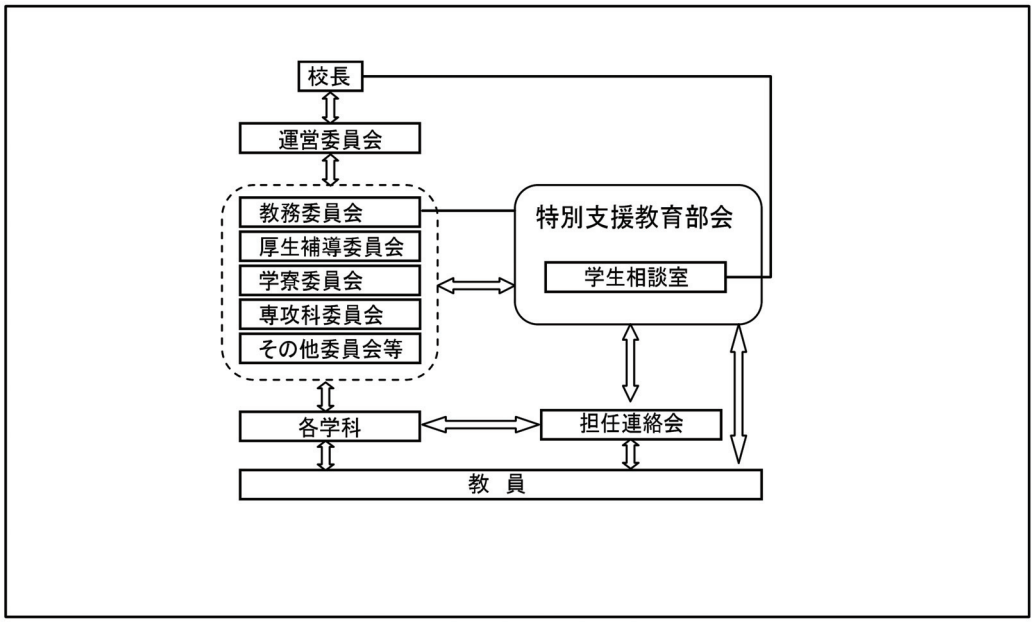
（取組み概要）



（出典　「高等専門学校での特別支援教育推進事業」平成 20 年度成果報告書）

資料７－１－④－８

特別支援学内組織図



（出典　特別支援教育部会）

資料７－１－④－９

佐世保工業高等専門学校特別支援教育部会規程

（平成１９年４月４日制定）

（趣旨）
第１条　佐世保工業高等専門学校教務委員会規程第９条の規定に基づき、本校における発達障害の学生や身心上の障害や病気を持つ学生等に対し､障害の状態に応じて適切な教育及び学生生活の支援方針等を策定するため、教務委員会に特別支援教育部会（以下「部会」という。）を置き、必要な事項を定める。

（組織）
第２条　部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　教務主事
二　当該学生が本科生の場合は在籍する学科長及び学級担任、専攻科生の場合は専攻科長
三　学生相談室長
四　校長が特に必要と認めた者

（部会長）
第３条　部会長は、教務主事をもって充てる。
２　部会長に事故等があるときは、あらかじめ部会長が指名した委員がその職務を代行する。

（開催）
第４条　部会は、部会長が必要と認めた場合に開催する。

（報告）
第５条　部会長は、部会の議事内容等を教務委員会に報告するものとする。

（委員以外の者の出席）
第６条　部会長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。

（事務）
第７条　部会に関する事務は、学生課において処理する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料７－１－④－10

佐世保工業高等専門学校教育支援員規程

（平成２３年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における本校学生への教育活動に関し、特別な支援を必要とする学生に対して就学を行わせるために雇用する者に関し必要な事項を定めるものとする。

（職名）
第２条　独立行政法人国立高等専門学校機構非常勤教職員就業規則に基づき雇用する非常勤教職員で、学生の特別支援に従事する者の職名を教育支援員とする。

（資格）
第３条　教育支援員となることができる者は、本校学生が必要とする特別な支援を行う者で、学内の組織・委員会等から推薦され、適切な対応が可能であるとして認められる者

（教育支援員の決定）
第４条　校長は、学内の委員会等の推薦に基づき、教育支援員を決定する。

（所属）
第５条　教育支援員の所属は、推薦者等が指定する学科又は一般科目等とする。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生については，入学以後の学習に支障がないように，チューター制度・留学生専用教育課程等の学習支援を行う体制が整備されている。編入学生については，入学前後に課題を課す等の指導を行っている。発達障害やその傾向がある学生に対する支援として「特別支援教育部会」を定期開催し，また，必要に応じて教育支援員を配置する制度も整備されている。

観点７－１－⑤：　学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生会が主体となって，体育祭，文化祭，球技大会等の学校行事を企画・運営し，学生主事室がその支援を行っている。学生主事室と学生会は，必要に応じて協議している（資料７－１－⑤－１）。

各クラブは学生会組織に属し，学校はその活動のために顧問教員や校外コーチ等を配置して，日々の活動及び試合等の引率などの支援を行っている（資料７－１－⑤－２，３）。学生主事室が開催するクラブ顧問会議において，リーダー研修会，学生の部活動に関わる褒賞（資料７－１－⑤－４（別添７－１），資料７－１－⑤－５），クラブ相互の練習場所や時間の調整等を行っている。休日等に校内で実施される部活動の安全や緊急時の連絡体制確保のために，教員の「クラブ日直」制度を設けている（資料７－１－⑤－６）。各部の活動場所や部室として，校内施設を利用できる支援体制が整備されている（資料７－１－⑤－７，観点７－１－②参照)。これらの施設・設備の維持・管理は学校が担っている。平成22年度からは各部の要求に応じて，活動に必要な設備の充実を「厚生補導設備充実費」により行っている（資料７－１－⑤－８（別添７－２））。

以上の学生の部活動に対する支援の結果，全国大会に進み優秀な成績を収めている（資料７－１－⑤－９）。

観点７－１－⑤資料一覧

（資料７－１－⑤－１）	学生会連絡会議事録	出典：学生主事室資料
（資料７－１－⑤－２）	学生会組織図	出典：学校要覧
（資料７－１－⑤－３）	平成 24 年度クラブ顧問教員	出典：学生主事室資料
（資料７－１－⑤－４）	課外活動の褒賞基準	出典：学生便覧
（資料７－１－⑤－５）	課外活動賞受賞者数	出典：学生課資料
（資料７－１－⑤－６）	クラブ日直割り振り	出典：学生主事室資料
（資料７－１－⑤－７）	クラブ日直資料（クラブ活動場所図）	出典：学生主事室資料
（資料７－１－⑤－８）	厚生補導設備充実費資料	出典：学生課資料
（資料７－１－⑤－９）	全国高専大会上位入賞者一覧	出典：学生課資料

資料７－１－⑤－１

学　生　会　連　絡　会　議　事　録

平成 24 年 7 月 23 日

○学生会長
・8 月 4 日の一日体験入学で休憩場に学生会の活動ポスターを貼る
・大学連絡協議会に出席、離島にて教会周辺清掃予定（広報担当兼務）

○総務
・自転車安全講習会について検討
・日宇地区健全育成協議会会長と話し合う予定
・シャワー室の利用状況が悪い　→　グランド使用の各クラブ部長に呼びかけた方がよいのでは？
↓
利用状況によってはシャワー室の利用禁止とする

○文化局
・文化祭予算案を作成（各部より見積書）
・7 月 24 日、４，５年生の文化祭実行委員よりスポンサー代を集める
・自動車部より・・・プール付近の駐車場利用の件で打診あり
→　具体的なスペース、安全対策を考える
・５年生によるバザーの検討

○情報広報
・高専大会の新聞発行
・夏休み明けは球技大会の内容について発行予定

○風紀
・長雨の為、花壇作業分を教室チェックにあてた　→　中間発表をする
・花壇整備に重点を置く

○渉外
・交流会を行う場所は「セントラルホテル」に決定（100 名迄対応）

○監査
・次期学生会会長の立候補受付締切は９月５日迄とする
・立合演説は９月 11 日、選挙日は９月 12 日

（出典　学生主事室資料）

資料７－１－⑤－２

学生会組織図



（出典　学校要覧）

資料７－１－⑤－３

平成24年度 クラブ顧問教員

クラブ名		顧問教員	コーチ
体育局	体育局顧問		
	陸上	☆吉塚，大里，坂口	○○○○(学外)
	野球	☆重松，川崎，手島，越村，猪原	○○○○(職員) ○○○○(専攻科生) ○○○○(専攻科生)
	ラグビー	☆中島，三橋，志久，牧野	
	バレー（男子）	☆福田，縄田	○○○○(職員)
	バレー（女子）	☆大屋，大島	○○○○(学外)
	バスケット（男子）	☆古川，西口	
	バスケット（女子）	☆平山，生住	
	ソフトテニス	☆嶋田，山崎，野尻	○○○○(専攻科生)
	卓球	☆森下，城野，原	○○○○(学外)
	柔道	☆吉田，品川	○○○○(学外)
	剣道	☆堂平，兼田，稲永	
	ワンダーフォーゲル	☆真部	
	サッカー	☆松山，川瀬，槇田	
	水泳	☆中江，村山	
	漕艇	☆松尾，川下，関	○○○○(学外)
	テニス	☆下野，三ッ廣，須田淳	
	バドミントン	☆田中，中村真，小原	○○○○(職員)
	武道	☆下尾，南部，高比良	○○○○(学外)
	ハンドボール	☆森田，長田，貞弘	
文化局	文化局顧問		
	文芸	☆生住	
	新聞		
	軽音楽	☆高比良	
	写真	☆長嶋	
	英会話	☆大里（上田）	
	パソコン	☆中村嘉	
	サイエンス	☆須田淳（真部）	
	無線	☆南部	○○○○(学外)
	華道	☆牧野	○○○○(学外)
	自動車	☆森川	
	吹奏楽	☆森，堀江，森川	○○○○(学外) ○○○○(学外)
	美術	☆貞弘（野坂）	○○○○(学外)
同好会	ダンス	☆堀江	
	数学	☆中村真	
特	ロボコン	☆前田，中浦，柳生，椛島	

（出典　学生主事室資料）

資料７－１－⑤－５

課外活動賞受賞者数

区分	年度	機械	電気電子（電気）	電子制御	物質	計
功労賞	平成20年度	1	1	1	1	4
	平成21年度	1	1	0	0	2
	平成22年度	1	1	1	2	5
	平成23年度	0	1	1	3	5
	平成24年度	1	2	1	1	5
課外活動賞	平成20年度	3	3	5	6	17
	平成21年度	3	2	4	4	13
	平成22年度	4	1	4	4	13
	平成23年度	5	2	2	2	11
	平成24年度	6	5	4	4	19

（出典　学生課資料）

資料７－１－⑤－６

平成24年4月6日

クラブ日直割り振り（平成24年度）

学生主事

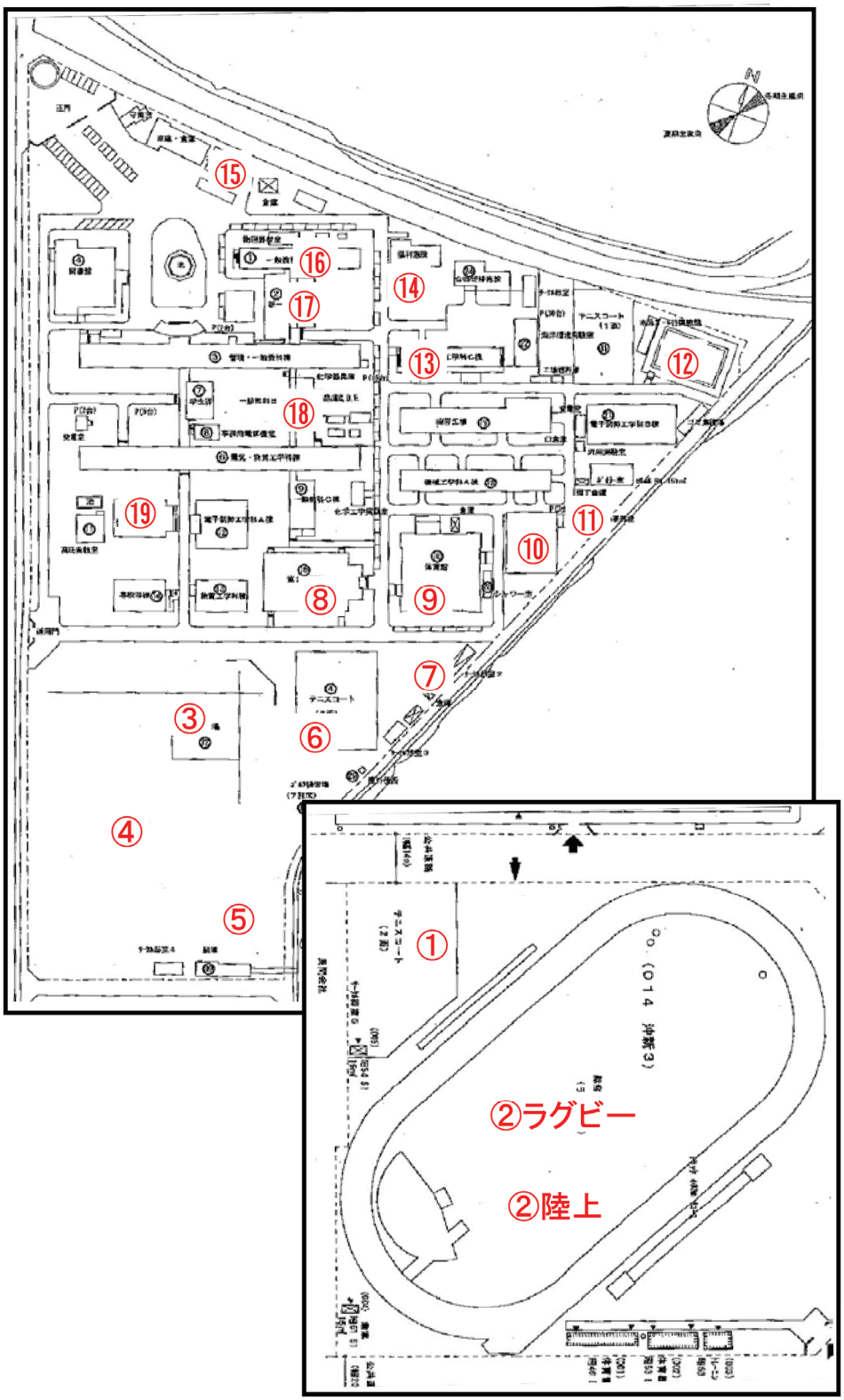
月	日（曜日）	日直者氏名
4月	14（土）	前田貴信
	15（日）	柳生義人
	21（土）	松山史憲
	22（日）	長田秀夫
	28（土）	真部広紀
	29（日）	田崎弘章
	30（月）	野尻能弘
5月	3（木）	牧野一成
	4（金）	中村嘉男
	5（土）	南部幸久
	6（日）	古川信之
	12（土）	大島多美子
	13（日）	中浦茂樹
	21（月）	森　保仁
	26（土）	平山俊一
	27（日）	三橋和彦
6月	23（土）	田中泰彦
	24（日）	須田淳一郎
	30（土）	森下浩二
7月	1（日）	品川政春
	7（土）	槇田　諭
	8（日）	下尾浩正
	14（土）	志久修
	15（日）	森川浩次
	16（月）	中島賢治
9月	8（土）	吉塚一典
	9（日）	福田孝之
	29（土）	川崎仁晴
	30（日）	中村真一

月	日（曜日）	日直者氏名
10月	6（土）	嶋田秀樹
	7（日）	貞弘晃宣
	8（月）	坂口彰浩
	14（日）	椛島隆富
	20（土）	川瀬雅也
	21（日）	吉田克雅
	27（土）	越村匡博
	28（日）	西口廣志
11月	3（土）	川下智幸
	4（日）	小原 彰
	12（月）	手島裕詞
	17（土）	中江道彦
	18（日）	山崎隆志
	23（金）	村山智子
	24（土）	三ツ廣 孝
	25（日）	森田英俊
12月	15（土）	松尾秀樹
	16（日）	兼田一幸
1月	12（土）	下野次男
	13（日）	大屋博一
	14（月）	重松利信
	19（土）	関 文雄
	20（日）	高比良秀彰
	26（土）	縄田亮太
	27（日）	大里浩文
2月	2（土）	堀江　潔
	3（日）	生住昌大
	9（土）	城野祐生
	10（日）	堂平良一

（出典　学生主事室資料）

資料７－１－⑤－７

クラブ日直資料（クラブ活動場所図）



（出典　学生主事室資料）

資料７－１－⑤－９

第４７回(平成２４年度) 全国高等専門学校体育大会

上位入賞者一覧

種　　目		順　　位	タイム
陸　上	男子総合	第２位	54点
	男子800m	第２位	1分58秒07
	男子1500m	第２位	4分01秒13
		第４位	4分06秒50
	男子5000m	優　勝	15分45秒13
		第４位	15分59秒15
	男子110mH	第５位	15秒60
	男子4×400mR	第５位	3分23秒66
	男子砲丸投	第２位	14m32
	男子円盤投	第２位	40m92
水泳	男子総合	第５位	30点
	男子200m自由形	第８位	2分22秒14
	男子400m自由形	第６位	4分27秒81
	男子800m自由形	第３位	9分07秒61
	男子200m背泳ぎ	第６位	2分24秒02
	男子100mバタフライ	第６位	1分00秒25
	男子400mリレー	第５位	3分51秒44
	男子400mメドレーリレー	第６位	4分17秒98
剣道	個人女子	第３位	
バレーボール	女子	優　勝	
テニス	男子ダブルス	第３位	

(出典　学生課資料)

（分析結果とその根拠理由）

学生主事室を中心とした全教員が，各種学校行事やクラブ活動等，学生会の様々な活動を人的に支援することで，適切な責任体制のもとに機能している。クラブ活動に必要な設備・場所は学校により整備され，その為の予算も学校により適切に配分され，機能している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

本校は各主事室，学級担任（１年生はこれに副担任が加わる），学生相談室等により，生活指導・相談を行っている（資料７－２－①－１）。教務主事室は，教務に関する側面から学生生活と経済面の指導を行っている。学生主事室は，学内外における厚生補導の観点から学生の指導を行うとともに，各種相談の窓口になっている（資料７－２－①－２）。寮務主事室は，学生寮における学生の生活を厚生補導の観点から指導している（資料７－２－①－３）。一方，学級担任は，生活指導の中心的役割を担っており，助言を行うとともに相談窓口の一つになっている（資料７－２－①－４）。

校内には，緊急医薬品，医療器具を設置した保健室（看護師常駐）を設置し，簡易な医療活動を行う他，学生の主要な相談窓口になっている。学生生活を支援するために設置された学生相談室は，教職員７名と学外カウンセラー２名を構成メンバーとし，保健室と連携して業務を行っている（資料７－２－①－５～７）。相談内容に応じて，長崎大学等の専門家や作業療法士との連携体制も整備している（資料７－２－①－８）。各種ハラスメント対策としてキャンパス・ハラスメント防止ガイドラインを定め（資料７－２－①－９），相談に対応する体制を整備している（資料７－２－①－10）。

経済的理由により授業料等の納付が困難な学生には，奨学金や授業料免除等の制度が整備されており，担任や掲示板を利用して学生に案内している（資料７－２－①－11～14）。

観点７－２－①資料一覧

（資料７－２－①－１）	学則，教員組織規程	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－２）	厚生補導委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－３）	学寮委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－４）	学級担任の仕事内容	出典：教員必携
（資料７－２－①－５）	学生相談室規程	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－６）	学生相談体制組織図	出典：学生相談室資料
（資料７－２－①－７）	学生相談室紹介	出典：本校ウェブサイト
（資料７－２－①－８）	外部専門家との連携概要資料	出典：学生課資料
（資料７－２－①－９）	キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－10）	キャンパス・ハラスメントの相談の流れ	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－11）	奨学生選考委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料７－２－①－12）	日本学生支援機構の申請者数と採択者数	出典：教育データベース
（資料７－２－①－13）	日本学生支援機構以外の奨学生採択者数	出典：教育データベース
（資料７－２－①－14）	授業料免除申請者と採択者数	出典：教育データベース

資料７－２－①－１

佐世保工業高等専門学校学則

略

第3章　職員組織

（職員組織）

第4条　本校に，校長，教授，准教授，講師，助教，助手，事務職員及び技術職員を置く。

2　前項の職員の職務は，学校教育法その他法令の定めるところによる。

（主事）

第5条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

2　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4　寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

佐世保工業高等専門学校教員組織規程

略

（学科長等）

第3条　本校の機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科及び物質工学科に学科長を，一般科目に一般科目長を置く。

2　学級に学級担任を置く。また，必要に応じ学級副担任を置くことができる。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料７－２－①－２

佐世保工業高等専門学校厚生補導委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の学生の厚生補導に関する重要事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生の補導、健康及び福祉に関する事項
二　学生の課外活動に関する事項
三　学生会活動に関する事項
四　その他学生の厚生補導に関する重要事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　学生主事
二　学生主事補
三　教務主事
四　寮務主事
五　専攻科長及び専攻科副科長のうちから選ばれた者　１人
六　学科代表（一般科目を含む。）
七　保健・体育を担当する教員のうちから選ばれた者　１人
八　学生課長
２　前項第６号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。

（委員長）
第４条　委員会の委員長は、学生主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（開催）
第５条　委員会は、毎月１回開催することを原則とする。ただし、委員長が必要と認めた場合は、臨時に開催することができる。

（報告）
第６条　委員長は、委員会の審議内容を校長に報告するものとする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料７－２－①－３

佐世保工業高等専門学校学寮委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の学寮の管理運営に関する重要事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校学寮委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　寮生の教育及び訓育指導の計画に関する事項
二　寮生の健康管理及び福利厚生に関する事項
三　寮生の負担となる経費に関する事項
四　学寮に関する諸規程の制定に関する事項
五　その他学寮の管理運営に関する重要事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　寮務主事
二　寮務主事補
三　教務主事
四　学生主事
五　専攻科長及び専攻科副科長のうちから選ばれた者　１人
六　第１学年及び第２学年の学級担任のうちから選ばれた者　各１人
七　各学科の教授、准教授、講師及び助教のうちから選ばれた者　各１人
八　学生課長
２　前項第７号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。

（委員長）
第４条　委員会の委員長は、寮務主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（開催）
第５条　委員会は、毎月１回開催することを原則とする。ただし、委員長が必要と認めた場合は、臨時に開催することができる。

（報告）
第６条　委員長は、委員会の審議内容を校長に報告するものとする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料７－２－①－４

学級担任の仕事内容（抜粋）

Ａ．健康状態と出席・欠席の把握・指導

1. １日１回は担任する学級に出向き、学生と顔を合わせ、学生の健康状態並びに学級の雰囲気等を観る。（例えば毎朝ショートHRを行うのも一例である）
2. 遅刻防止の指導を行い、常習者とはよく話し合う。
3. 無断で欠席している学生がいたら、保護者に連絡し、欠席する場合は事前に必ず保護者から担任に連絡をするように依頼する。寮生の場合は学寮に連絡する。
4. 毎週出席簿を点検し、欠課時数の記入と欠席の累計を行い、学生の出欠状況を把握する。特に出席率の低い学生に対して指導を徹底し、出席日数及び出席時数が不足しないよう充分な指導をする。（欠席届及び欠課届の提出の励行と指導をする）

《学習指導と生活指導は車の両輪である》

Ｂ．学習指導

1. 教科担当教員との連絡を密に取り、成績不振の学生および欠課時数等の多い学生がいたら相談にのると共に指導を行う。
2. 試験期毎に学生の成績を分析し、本人への指導および保護者との懇談を行う。特に留年者、成績不振者に対しては不断の指導を行う。
3. シラバスによる学習指導並びに就職、進学の指導及び進路変更等の指導を行う。
4. 試験を受ける場合の注意事項の徹底をはかる。特にカンニング防止の指導を行う。

Ｃ．生活指導

1. 学生は中学校の管理教育から解放され、戸惑いがあるように見受けられる。よって徐々に管理をゆるめて学生の自主性、自立（律）性を育てる。
2. 学級担任は学生の悩みや相談にものり、カウンセラーの役目もする。折りを見て学生と話し、また面接をし、学生とのコミュニケーションをはかる。
3. HRの時間を効果的に利用するよう工夫する。また年間指導の目標を学生にも知らせておく。
4. 服装、髪型、喫煙、麻薬及び暴力等について、学級で話し合う。また問題のある学生の把握と指導を行う。（学生と話し合い共通理解をはかる。また必要によって学生主事室や学生相談室との連絡を行う）
5. 学生に相応しくないと思われるアルバイトをしている学生の指導を行う。（原則として１～３年生についてはアルバイト禁止である）
6. 家庭との連絡を行う(電話の活用)。また必要に応じて家庭訪問を実施する。（保護者は学級担任と連絡を密に行いたいと思っている。例えば学級通信の発行等を行うのも一例である）
7. 学級懇談会の効果的活用をはかる。（学生と担任教官の情報交換の場、学級懇談会費の活用）
8. さらに学級日誌を通して学級の日直者とのコミュニケーションをはかり、日直学生の指導を行う。（学生としての義務と責任）

（出典　教員必携）

資料７－２－①－５

佐世保工業高等専門学校学生相談室規程

（平成16年4月1日制定）

（設置）
第1条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

（目的）
第2条　相談室は、本校学生の相談に応じ、問題解決に必要な助言及び指導を行うことを目的とする。

（業務）
第3条　相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。
一　就学に関する助言及び指導
二　精神衛生に関する助言及び指導
三　健康に関する助言及び指導
四　その他個人的問題に関する助言及び指導
五　相談活動に関する調査研究
六　その他学生相談に関する必要な業務

（組織）
第4条　相談室に、次の各号に掲げる職員を置く。
一　相談室長（以下「室長」という。）
二　相談員

（室長）
第5条　室長は、本校の教授及び准教授の中から校長が選任する。
2　室長は、相談室を統括する。
3　室長の任期は2年とし、再任を妨げない。
4　室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（相談員）
第6条　相談員は、次の各号に掲げる者をもって充てる。
一　各学科及び一般科目の教員から選出された者　各1人
二　学生課所属の看護師
2　相談員は第3条に掲げる業務を処理する。
3　第1項第1号の相談員の任期は1年とし、再任を妨げない。
4　第1項第1号の相談員に欠員が生じた場合の補欠の任期は、前任者の残任期間とする。
5　校長は、必要に応じて、本校職員以外の者を相談員として委嘱することができる。

（秘密の保持）
第7条　相談室の職員は、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

（運営委員会）
第8条　相談室に、相談室の運営等に関する必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校学生相談室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会の組織）
第9条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　室長
二　相談員
三　学生課長
四　その他室長が必要と認めた者

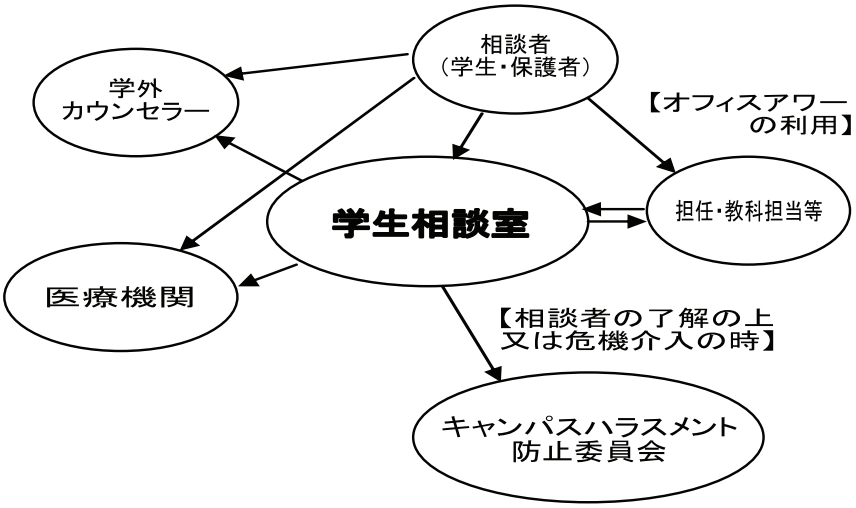
（委員長）
第10条　委員会の委員長は、室長をもって充てる。
2　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
3　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（会議）
第11条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
2　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料７－２－①－６

佐世保高専門学生相談体制組織図



（出典　学生相談室資料）

資料７－２－①－７



（出典　本校ウェブサイト）

資料７－２－①－８

外部専門家との連携概要資料

「特別支援教育部会」の設置（佐世保高専）

本校における発達障害の学生や心身上の障害や病気を持つ学生に対し，障害の状態に応じて適切な教育及び学生生活の支援方針を策定するため，教務委員会に特別支援教育部会を置き，必要な事項を定める。

（佐世保工業高等専門学校特別支援教育部会規程第一条）

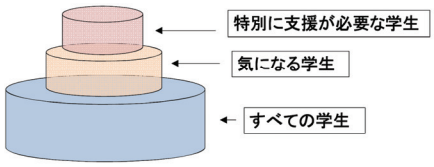
1

支援組織の概略など

◆教務委員会の下部組織として「特別支援部会」を設置
◆部会は教務主事の他、学科長、担任及び支援対象学生に関係のある教職員で組織する
◆部会は必要に応じ開催し支援状況の報告、新たな支援対象学生及び支援計画案等を審議する
◆支援は保護者・本人・担任の意向を尊重しつつ支援計画に沿って実施する
◆生活・修学・就労への支援を大きな柱とする

2

3つの階層のイメージ



支援区分及び内容（1）

◆全ての学生を対象にした支援
◆障害のある学生に対する理解促進
◆学級作り
◆学生対象の講演会の実施（ストレス・マネージメント、人権関係、性教育、自殺予防など）
◆授業改善（授業評価の実施等）
◆指導法の工夫（視覚的補助を活用、プリントの活用）
◆補習や個別指導の実施

4

支援区分及び内容（2）

◆気になる学生を対象にした支援
◆特別支援教育部会において状況を報告・確認

支援区分及び内容（3）

◆個別の指導が必要な学生に対する支援
◆担任、学科長、支援員、カウンセラー、外部専門家（特別支援教育アドバイザー、医師、作業療法士、オプトメトリスト等）などで連携し支援を行う

5

支援の流れ

支援対象学生の候補
・保護者、本人からの相談、中学からの連絡
・担任、教科担当者、学科長などからの相談
・学生相談室からの報告

↓

特別支援教育部会で検討
・状況の確認
・支援方針検討

↑↓

支援の実施
・本人、保護者への説明
・検査やカウンセリングの実施
・外部の専門家による支援
・医療機関受診
・個別指導実

6

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－９

佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン

（平成16年4月1日制定）

佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン（平成16年3月5日制定）の全部を改正する。

1 はじめに

佐世保工業高等専門学校（以下「本校」）は、学生・教職員すべての個人の尊厳が尊重され、それぞれの人権が守られた中で、安心して就学・就業・教育・研究ができる環境を保障し、維持するために、以下のガイドラインを定めます。

2 ガイドラインの対象

(1) このガイドラインは、本校の学生、教職員（非常勤職員を含む。）のすべてを対象とします。

(2) このガイドラインは、学校の内外、授業時間の内外、勤務時間の内外などを問わず、本校の学生又は教職員にかかわるキャンパス・ハラスメントのすべてに適用されます。

3 キャンパス・ハラスメントについて

このガイドラインにおいてキャンパス・ハラスメントとは、キャンパスのあらゆる場での差別的扱いや就学・就業・教育・研究上の利益・不利益を与えうる関係を利用した嫌がらせをいいます。このガイドラインでは、キャンパス・ハラスメントを以下のとおり分類しますが、これらと異なるものであっても、本校における人権侵害については、このガイドラインにより対応することとします。また、具体的なキャンパス・ハラスメントの例は、別表に示すとおりです。

(1) セクシュアル・ハラスメント　相手側の意に反した性的な性質の言動を行い、それに対する対応によって就学・就業を遂行する上で一定の不利益を与えたり、または就学・就業環境を悪化させること。

(2) アカデミック・ハラスメント等　教育・研究の場において、「指導」、「教育」又は「研究」の名を借りて、嫌がらせや差別をしたり、人格を傷つけること。

キャンパス・ハラスメントは、本校の構成員である学生及び教職員の相互の人格に対する尊重の気持ちと良識ある行動によって防止できるもので、常に相手の立場に立って考える思いやりが必要です。差別的言動や就学上・就業上の利益・不利益を与えうる関係を利用した嫌がらせを含め、相手の人権を脅かしたりする言動であれば、それはすべて個人の尊厳を侵害する行為になります。人権侵害の認定に関しては、被害者の判断が重要な基準となります。

4 キャンパス・ハラスメントに関する相談体制

本校では、キャンパス・ハラスメントに関する相談に対応するために相談員を置きます。相談員は、キャンパス・ハラスメントについての相談活動を行い、相談者を援助します。相談員については、毎年度、掲示、学生便覧、ホームページ等で周知します。相談員へは、被害者以外の者でも相談できます。相談者は最も相談しやすい相談員を選択できます。相談員は、問題解決に当たって、常に相談者の意思を確認し、プライバシーを保護し、人権の尊重に充分に配慮します。相談者は、相談に当たって、付添い人を同席させることもできます。また、相談者は、問題解決の進捗状況について、相談員から適宜報告を受けることができます。なお、相談者が相談員の対応に納得がいかない時は、別の相談員に相談することができます。

キャンパス・ハラスメントの相談の過程で、虚偽の申し立てや証言をした場合は、虚偽の申し立てによる人権侵害としてキャンパス・ハラスメントの加害者に該当する場合があります。

5 キャンパス・ハラスメントに関する苦情処理体制

本校におけるキャンパス・ハラスメントの防止等を行うために、キャンパス・ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を設置します。

相談員の役割は、相談者から話を受容的に聴いて内容を整理し、解決法を探すことであり、調査をしたり、調停をしたりして、紛争解決を行うことではありません。

相談員は、相談者が被害の救済、相手方との間での問題解決など苦情処理を望む場合には、相談者の同意を得た上で、キャンパス・ハラスメント防止委員会委員長（以下「防止委員会委員長」という。）に報告します。

苦情処理の方法には、「申し入れ」、「調停」及び「調査・措置」があり、相談者はどの方法を選択するか相談員と話し合います。相談員は、相談者の相談内容及び希望する苦情処理の方法を防止委員会委員長へ報告します。

資料７－２－①－９続き

(1) 申し入れは、加害者とされる者に対して（必要な場合は関係者にも）事実関係を確認の上、問題とされる行為があった場合はその行為を止めるよう、加害者に申し入れるものです。防止委員会委員長は、主事、学科長、一般科目長、専攻科長、事務部長又は課長に事実関係の確認及び加害者への申し入れを依頼するものとしますが、必要に応じ校長として事実関係の確認及び加害者への申し入れを直接行うこともあります。

防止委員会委員長は、申し入れの内容について被害者又は加害者が納得できない場合は、「調停」又は「調査・措置」の手続へと進むため防止委員会へ報告します。この場合、被害者が特に希望する場合は被害者の氏名を明らかにしないで報告するものとします。

(2) 調停は、防止委員会委員3名が調停員となり、被害者及び加害者の双方の話し合いで紛争を解決する方法です。調停委員は、当事者間の話し合いに立ち会い、調停案を作成します。調停が成立したときは合意事項を文書で当事者に確認の上、防止委員会に報告します。

調停に当たって、当事者はいつでも調停を打ち切ることができます。また、調停委員が、適当な期間が経過しても合意が成立する見込みがないと判断した場合は、調停不成立として調停を終了させることができます。調停の打ち切り、または不成立になった場合は、被害者は防止委員会に「調査・措置」を申し立てることができます。

(3) 調査・措置は、キャンパス・ハラスメントの被害者が学校に対して加害者に何らかの措置を取ることを求める手続きです。

① 調査

防止委員会委員長は、被害者から、加害者に対して何らかの措置を望む申し立てが行なわれた場合は、キャンパス・ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置します。調査委員会には、必要に応じて外部から弁護士などの専門家を加えるなど、委員会の客観性・公平性の確保に配慮します。調査委員会が当事者又は関係者から事情聴取を行う場合は、当事者等のプライバシーに充分に配慮します。加害者とされる者が一定期間内（原則として事情聴取要請後2週間以内）に事情聴取に応じなかった場合には、被害者の主張を重視します。

被害者が調査委員会の調査を受ける場合は被害者が希望する第三者の同席を求めることができます。なお、調査の過程で、当事者等が虚偽の申し立てや証言をした場合は、虚偽の申し立てによる人権侵害としてキャンパス・ハラスメントの加害者に該当する場合があります。

また、加害者とされる者には、充分な弁明の機会が与えられます。

調査委員会は、設置された日から2ヶ月以内をめどに調査を終了し、結果を直に防止委員会へ報告します。

② 措置

防止委員会委員長は、調査委員会からの報告を受け、被害者の不利益の回復、環境の改善、加害者に対する指導等の措置を決定します。措置が決定されたら、直ちに当事者にその結果が通知されます。当事者は決定された措置に不服のある場合は、防止委員会委員長に異議の申立てを行うことができます。

6 特別な場合の相談

本校教職員が、被害者から相談を受け、又は被害を直接見聞した場合において、その被害が重大であり学校として迅速な対応が必要と判断した場合は、その教職員は、被害者の意思にかかわらず、相談員又は防止委員会委員長へ被害の内容を報告しなければなりません。この場合、被害者の氏名を明らかにしないことを原則とします。

7 キャンパス・ハラスメント防止のために

本校は、次のとおりキャンパス・ハラスメントの防止に努めます。

○ 本ガイドラインを学生便覧、学校のHPなど、学校の広報物で広く公示し、防止の啓発に努めます。

○ 学生に対して、新入生オリエンテーションや講演会などの機会を通して、キャンパス・ハラスメントに対する知識・理解を深めるよう努力します。

○ 教職員に対して、キャンパス・ハラスメント防止のための研修会を積極的に行い、教職員の意識の改革を行います。

○ キャンパス・ハラスメントの生じやすい環境の改善及び慣行の排除の努力をします。

○ 相談者がキャンパス・ハラスメントの相談をしたことに対して、申し立てられた側が報復することを厳しく禁じます。もし、報復行為がなされた場合には、学校として、ただちに必要な措置を取ります。また、第三者が、申し立てた者、または申し立てられた者に、何らかの差別的・不利益的取り扱いや、嫌がらせをしたり、よくない噂を流したりした時も同様に厳しく対処します。

8 規則等

防止委員会、相談員、調査委員会等に関し必要な事項は、規則等により別に定めます。

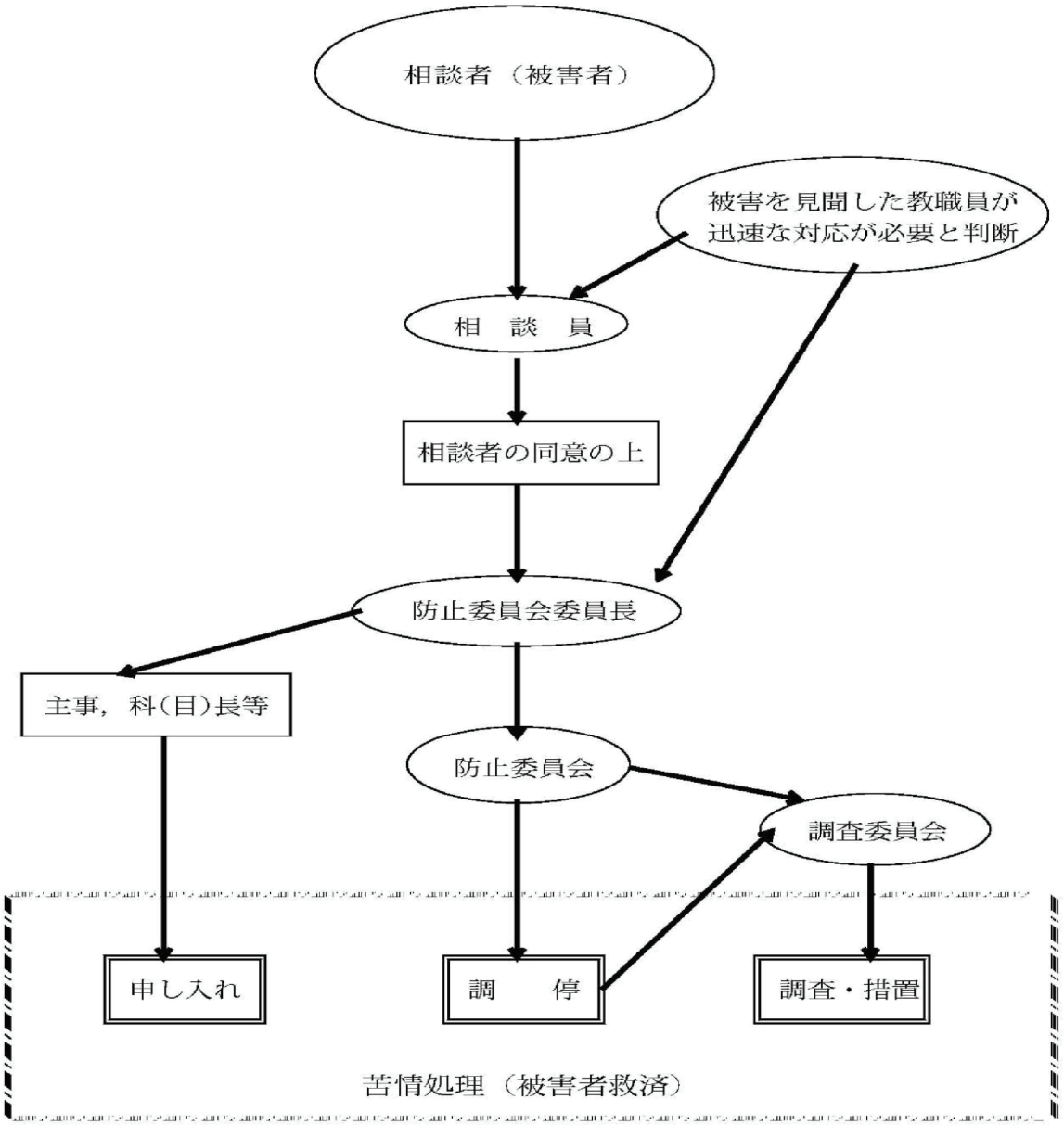
9 見直し・改訂

本ガイドラインは、適宜見直し、必要に応じ改訂を行うものとします。

（出典　佐世保高専規則集）

資料７－２－①－10

キャンパス・ハラスメントの相談の流れ



（出典　佐世保高専規程集）

資料７－２－①－11

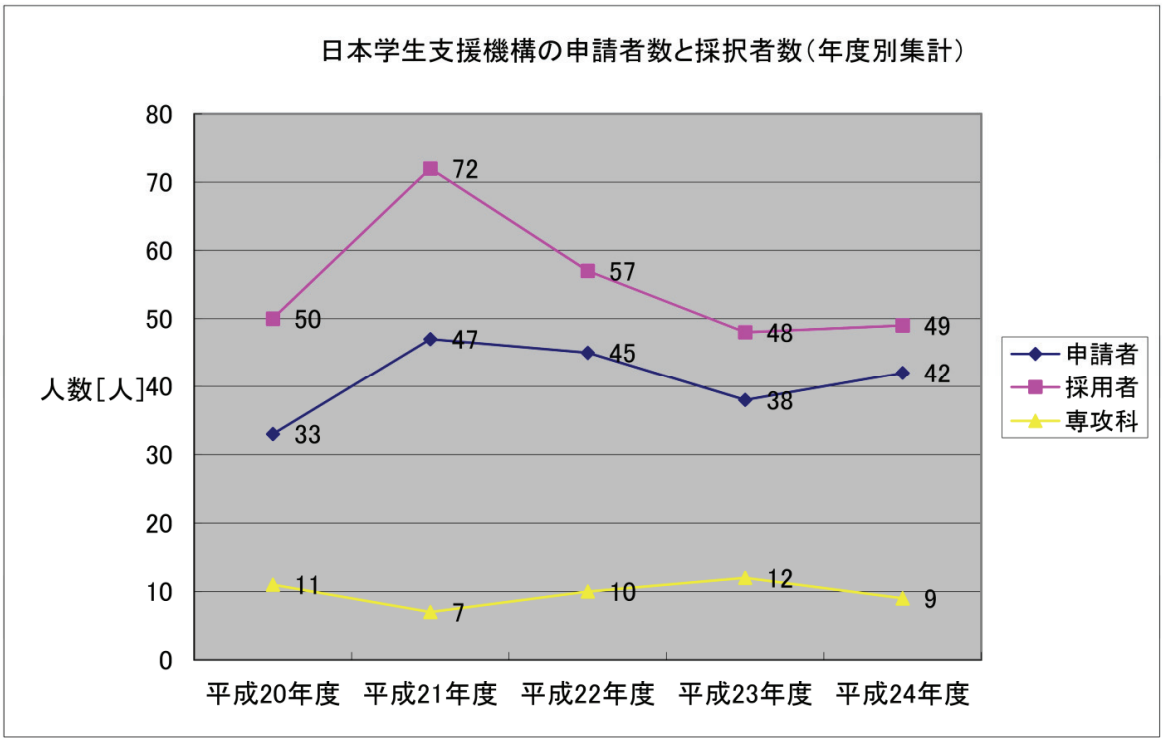
佐世保工業高等専門学校奨学生選考委員会規程

（平成２１年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、日本学生支援機構奨学生候補者の選考に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校奨学生選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　日本学生支援機構高等専門学校本科奨学生候補者の選考に関すること。
二　日本学生支援機構高等専門学校専攻科奨学生候補者の選考に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　学生主事
二　教務主事
三　事務部長
四　学生課長
五　各学級担任教員（申請者がいない学級の担任を除く。）
六　専攻科長（申請者がいない場合を除く。）
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、学生主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第７条　委員会の事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか、日本学生支援機構奨学生の選考に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料７－２－①－12



（出典　教育データベース）

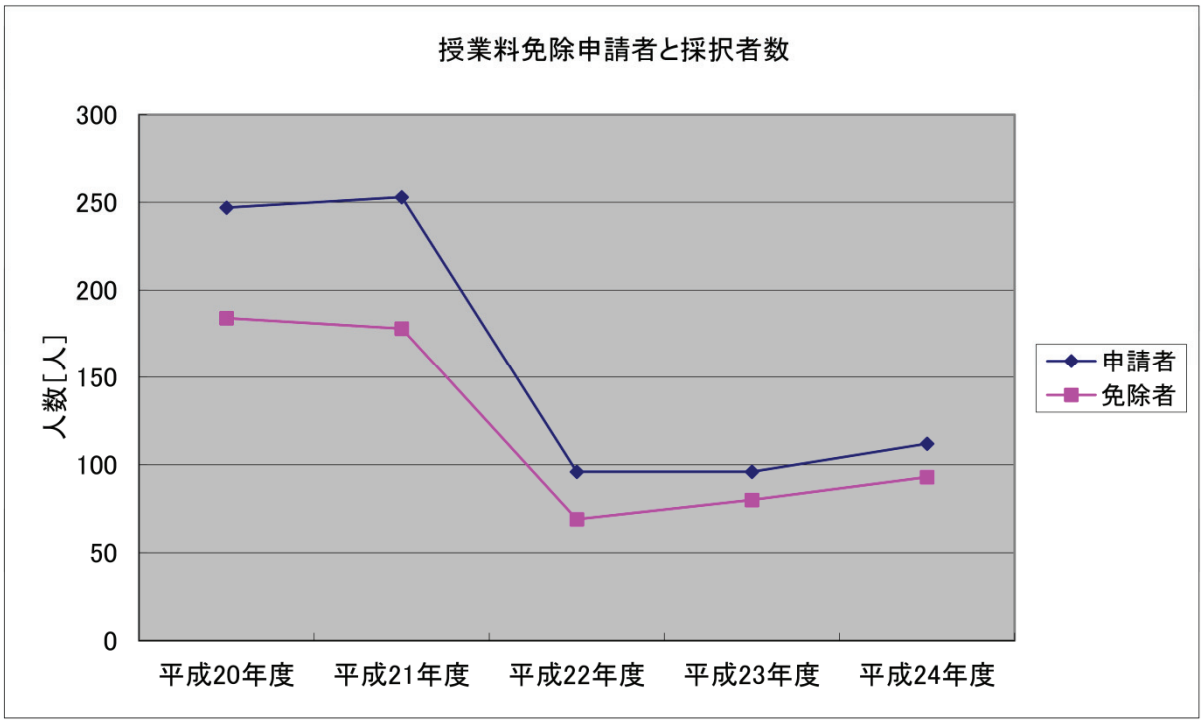
資料７－２－①－13

日本学生支援機構以外の奨学生採択者数

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
佐世保東ロータリークラブ奨学生（1人）	佐世保東ロータリークラブ奨学生（1人）	佐世保東ロータリークラブ奨学生（1人）	長崎県育英会（8人）	長崎県育英会（4人）
長崎県育英会（12人）	長崎県育英会（8人）	長崎県育英会（14人）	平戸市奨学生（1人）	平戸市奨学生（2人）
あしなが育英会（1人）	あしなが育英会（2人）	天野工業技術研究所（2人）	あしなが育英会（1人）	あしなが育英会（2人）
天野工業技術研究所(1人)	岡田甲子男記念奨学財団（1人）	松藤奨学育成基金（1人）	岡田甲子男記念奨学財団（1人）	岡田甲子男記念奨学財団（2人）
小城市奨学生(1人)	天野工業技術研究所(2人)	佐世保市奨学金（1人）	天野工業技術研究所（2人）	五島市奨学生（1人）
長与町奨学資金(1人)		島原市奨学金（1人）	ウシオ財団奨学金（1人）	天野工業技術研究所（1人）
			長崎市奨学金（1人）	松藤奨学育成基金（1人）
				佐世保市奨学金（1人）
				松園尚巳記念財団（1人）

（出典　教育データベース）

資料７－２－①－14



（出展　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行うために，各主事室・学級担任・保健室・学生相談室による支援体制が整備され，機能している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生に対しては，学科教員を留学生指導教員，及び同一学級の学生をチューターとして配置し，生活面の支援を行っている（資料７－１－④－２参照)。「留学生交流室」の設置により，留学生同士の日本における生活にかかる情報交換を行う場として提供している（資料７－２－②－１)。さらに，留学生の出身国の文化や慣習・宗教等を尊重し，学寮での生活支援として，寮内に留学生専用の調理室やシャワー室を設けている（資料７－２－②－２，３)。

また，平成19年度より文部科学省学生支援ＧＰの採択を受け，特別支援教育への取り組みを行っている。発達障害やその傾向がある学生に対する生活支援として「特別支援教育部会」を定期的に開催する等，特別支援教育の体制を整えている（観点７－１－④参照)。

身体障害を持つ学生への生活支援として，バリアフリー化を行っている（観点８－１－①参照）。

観点７－２－②資料一覧

（資料７－２－②－１）	留学生交流室	出典：学生課資料
（資料７－２－②－２）	学寮内「留学生調理室」	出典：学生課資料
（資料７－２－②－３）	学寮内「留学生シャワー室」	出典：学生課資料

資料７－２－②－１

留学生交流室

留学生交流室（入口）



留学生交流室交流室（室内）



（出典　学生課資料）

資料７－２－②－２

学寮内「留学生調理室」



（出典　学生課資料）

資料７－２－②－３

学寮内「留学生シャワー室」



（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，入学以後の生活に支障がないように，チューター制度等の生活支援を行う体制が整備されている。発達障害のある学生に対する特別な支援として，「特別支援教育部会」を定期開催して具体的な対策を講じている。設備面では，バリアフリー化が行われている。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

本校は，定員が 470 名（うち女子 80 名）の学生寮「西雲寮」を教育寮として設置している。このうち男子学生の１，２年生は全寮制であり，男子学生（３～５年生）と女子学生（全学年）は任意制である。学生寮は，寮務主事室と寮生会が協力して管理運営しており，料金体系は寮生活のしおりに掲載され，本校ウェブサイトにて公開している。（資料７－２－③－１）。近年の寮生数は 400 名程度で推移している（資料７－２－③－２）。

寮生の生活の場として食堂・浴室・補食室・自動販売機コーナー等が設けられている。また，勉学の場として，自室以外に自習室・図書室・パソコン室等が設けられており，寮生の自主的な学習を促進している（資料７－２－③－３，４）。

学生寮の運営と管理は寮務教員の他，男子・女子寮の各寮母を含む事務職員により行われている（資料７－２－③－５）。また，毎日教員が宿直し，休日も教員が日直の業務を行っている（資料７－２－③－６）。

寮生は，規則正しい生活と学習時間を適切に確保することを日課によって定められている（資料７－２－③－７）。日常の活動は，寮務主事室の指導のもとに，寮生会が中心となって運営されている（資料７－２－③－８）。この寮生会は地域住民との交流を通した社会学習として，幼稚園・保育園へ出張する節分イベントに参加している（資料７－２－③－９）。また，本校と厦門理工学院の国際交流を通した異文化学習として，寮生会がイベント「納涼祭」を企画・実施している（資料７－２－③－10）。

観点７－２－③資料一覧

（資料７－２－③－１）	寮費等料金体系	出典：寮生活のしおり
（資料７－２－③－２）	入寮者数の推移	出典：教育データベース
（資料７－２－③－３）	学生寮の主な設備	出典：本校ウェブサイト
（資料７－２－③－４）	パソコン室利用記録	出典：学生課資料
（資料７－２－③－５）	学寮運営組織と管理体制	出典：寮生活のしおり
（資料７－２－③－６）	学寮宿日直割振り表	出典：学生課資料
（資料７－２－③－７）	学生寮の日課	出典：寮生活のしおり
（資料７－２－③－８）	寮生会組織	出典：寮生活のしおり
（資料７－２－③－９）	節分イベント参加記事	出典：本校ウェブサイト
（資料７－２－③－10）	寮生会年間行事	出典：本校ウェブサイト

資料７－２－③－１

3. 寮費

寮生活をするためには、寄宿料、光熱費や消耗品費などの日常経費としての寮費が必要です。それぞれの月額を示していますが、振替は半期毎の計２回となっています。

（１）内訳
- 寄宿料：月額 700 円（個室の場合は 800 円）居室の補修費等に充てる。
- 寮費：1・2 年生は月額 7,200 円、3 年生以上は月額 7,700 円 光熱燃料費・消耗品等に充てる。
- 特別寮費：入寮時のみ 2,000 円　給食の食器購入代等に充てる。

（２）寮費等の納入例

１年生の前期の寮費等の納入額は、寄宿料の６ヵ月分と寮費の５ヵ月分（8 月分を除くため）の合計金額に、入寮時のみ支払っていただく特別寮費を合わせた金額で次の例のようになります。

例：１年生の前期の寮費等納入額（前期分）

引落日	寄宿料	寮費	特別寮費	計
4 月 26 日	4,200 円	36,000 円	2,000 円	42,200 円

（３）納入方法

校納金と共に自動振替。入学後、預金口座振替依頼書に記入した口座に入金していただきます。

（４）振替日（学校指定）

寄宿料・寮費・特別寮費：前期 4 月 26 日、後期 10 月 26 日

※当日が銀行休業日の場合は翌営業日です。当月振替不能の場合は必ず翌月の振替日までに不足分を加算して入金して下さい。諸納金を２ヶ月以上納入しない場合、退寮になることがあります。

4. 給食費

給食は民間の業者に委託しています。なお、欠食日の３日前までに欠食届けを提出し、かつ欠食が連続９食以上あった場合に限って後日、寮生の口座へ食材費（朝食 168 円、昼食 244 円、夕食 292 円）の払い戻しがあります。給食費の振替は毎月行われます。

（１）内訳
- 食材費：日額 704 円（朝食 168 円、昼食 244 円、夕食 292 円） 給食の材料費に充てる。
- 諸経費：日額 246 円（光熱費 49 円、人件費 197 円）給食のための人件費や水光熱費に充てる。

（２）給食費の納入例

１年生の４月の給食費納入額は、４月に１年生が寮に滞在する日数が 25 日間である場合、次のように計算されます。

給食費（食材費と諸経費の合計）日額 950 円×25 日分＝23,750 円

例：１年生の４月の給食費納入額（4 月分）

引落日	食費
4 月 27 日	23,750 円

（３）納入方法

給食業者が指定する口座に自動振替。

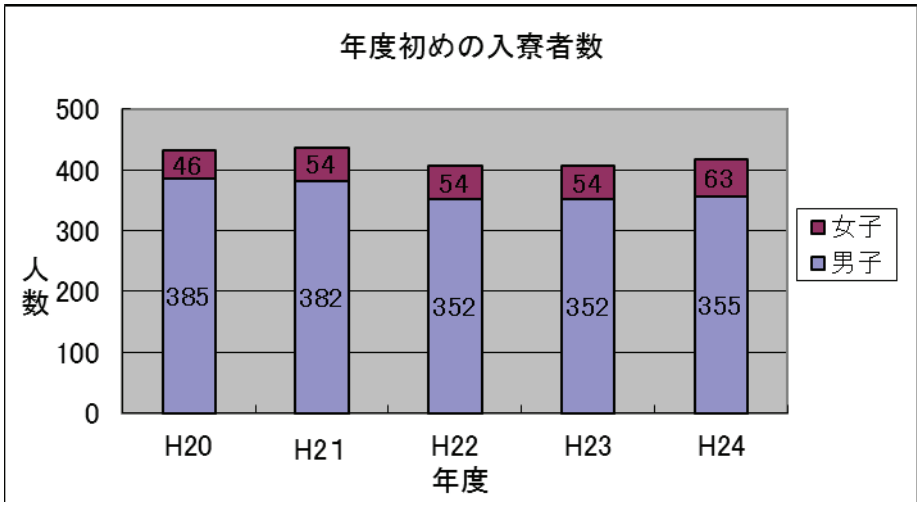
（４）振替日

給食費：毎月 27 日

※当日が銀行休業日の場合は翌営業日です。当月振替不能の場合は必ず翌月の振替日までに不足分を加算して入金して下さい。

（出典　寮生活のしおり）

資料７－２－③－２



（出典　教育データベース）

資料７－２－③－３

学生寮の主な設備



（出典　本校ウェブサイト）

資料７－２－③－４

N棟１階 パソコン室 利用者 (平成24年)

部屋番号	学年	名　前	日付	開始時刻	終了時刻	確認者
A108	2E	[redacted]	4/8	19:09	20:10	
B202	4C	[redacted]	4/9	17:32	18:07	
E207	5S	[redacted]	4/9	19:30	20:13	
B202	4C	[redacted]	4/10	17:23	18:03	
N101	5E	[redacted]	4/12	19:50	20→19:10	
N404	1E	[redacted]	4/13	21:5	21:10	
A108	2E	[redacted]	4/13	21:05	21:36	
B202	4C	[redacted]	4/14	9:32	9:48	
B313	3S	[redacted]	4/14	19:10	18:10	
N209	1E	[redacted]	4/14	20→19:10	21→20:10	
N207	1S	[redacted]	4/14	20:10	21:10	
A108	2E	[redacted]	4/14	20:30	21:33	
E307	5S	[redacted]	4/15	12:30	12:40	
N106	3M	[redacted]	4/15	12:45	12:50	
A108	2E	[redacted]	4/15	13→13:03	14→13:07	
B102	4S	[redacted]	4/15	13:20	13:07	
N404	1E	[redacted]	4/16	18→18:30	18→17:55	
B202	4C	[redacted]	4/16	18→17:52	19→17:05	
A108	2E	[redacted]	4/16	19:42	20:21	
N411	1M	[redacted]	4/17	19:00	20:57	
N412	1M	[redacted]	4/17	19:00	20:57	
N310	1S	[redacted]	4/17	19:00	20:57	
A108	2E	[redacted]	4/17	17:42	20:23	
N207	1E	[redacted]	4/17	19:55	20:17	
~~N404~~ A108	2E	[redacted]	4/18	19:31	20:23	

（出典　学生課資料）

資料７－２－③－５

20．学寮運営組織と管理体制

学寮では教員、事務職員が寮生の指導にあたっています。それぞれの組織の通りです。

寮務教員：寮務主事、寮務主事補６名
事務職員：寮務係長、非常勤事務員、非常勤寮母２名

寮務主事、主事補が寮生活全般の指導にあたっています。昼は休日をのぞいて事務室に事務員が２名います。休日は教員１名が日直しています。夜間は、毎日教員２名が宿直しています。学習、生活および健康上の問題が生じたときは、事務室または教員当直室（N棟１階、F棟１階）を訪ねて下さい。

寮母はN棟、F棟にそれぞれ１名ずついます。N棟寮母は平日の14：15～20：00、F棟寮母は平日の16：00～21：00に在寮しています。寮生の生活、健康指導などにあたります。

（出典　寮生活のしおり　抜粋）

資料７－２－③－６

学寮宿日直割振り表：６月

寮務主事室

※日直は月１回以内、宿直は週（日～土）１回以内となっています。
やむを得ない理由で交代する場合は、必ず確認してください。

		教員			寮務主事室		備考
		N棟	F棟	日直	N棟	F棟	
1	土	縄田	寺村	古川			
2	日		大島	桃島	田中		
3	月		重松		吉塚		
4	火		平山		森下		教務・専攻科委員会
5	水	中浦	堂平				
6	木		森川		生住		厚生補導委員会
7	金		川下		西口		
8	土	野尻	松山	品川			
9	日		森	須田義	猪原		図書館開放，第１回寮内英検
10	月		堀江		前田		
11	火		川瀬		田中		学寮委員会，前学期中間試験（18日まで）
12	水	真部	野坂				
13	木		山崎		森下		広報委員会
14	金		兼田		生住		校長事務部長会議（機構）
15	土	川崎	大里	貞弘			
16	日		原口	松尾	吉塚		図書館開放
17	月		越村		西口		
18	火		渡辺		猪原		運営委員会，防災・避難訓練，留学生懇談会
19	水	中村嘉	中江				施設整備委員会
20	木		手島		前田		教員会議
21	金		森田		田中		
22	土	長田	中村真	須田淳			寮生部屋替え（1年），交通安全講習会
23	日		嶋田	高比良	森下		デジタル技術検定試験
24	月		柳生		生住		
25	火		城野		吉塚		図書委員会
26	水	福田	村山				
27	木		坂口		西口		学科会議
28	金		中島		猪原		
29	土	志久	関	吉田			
30	日		下尾	南部	前田		

（出典　学生課資料）

資料７－２－③－７

学生寮の日課

5. 学寮日課時間

毎日の生活が規則正しく行われるように、下記の日課が定められています。

学　寮　日　課　表

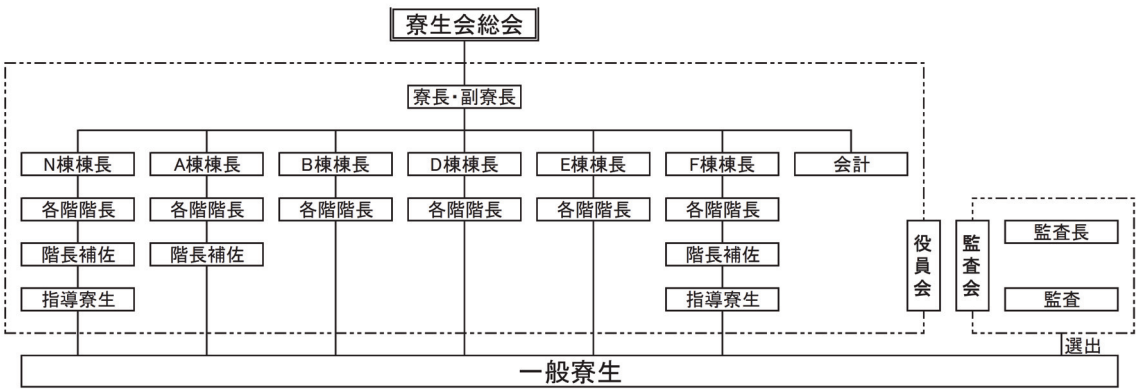
<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>平　日</td><td>休　日</td><td>点灯</td><td colspan="3">6:00</td></tr>
<tr><td colspan="2">起　床</td><td>7:20</td><td>8:00</td><td rowspan="8">消灯</td><td rowspan="2">平　常</td><td>1～2 年</td><td>23:30</td></tr>
<tr><td rowspan="3">点呼</td><td>朝</td><td>7:20</td><td>8:00</td><td>3 年以上</td><td>24:00</td></tr>
<tr><td rowspan="2">夕</td><td>平　常</td><td colspan="2">20:30</td><td>休日前</td><td>全学年</td><td>24:00</td></tr>
<tr><td>休日前</td><td colspan="2">22:00</td><td rowspan="2">試験 10 日前
～2 日前</td><td>1～2 年</td><td>1:00</td></tr>
<tr><td colspan="2">清　掃</td><td colspan="2">7:30～7:40</td><td>3 年以上</td><td>2:00</td></tr>
<tr><td rowspan="3">食事</td><td>朝</td><td>7:25～8:30</td><td>8:05～9:00</td><td rowspan="2">試験１日前
～試験終了</td><td>1 年</td><td>2:00</td></tr>
<tr><td>昼</td><td>12:20～13:05</td><td>12:00～13:00</td><td>2 年以上</td><td>自主消灯</td></tr>
<tr><td>夕</td><td>18:00～19:30</td><td>18:00～19:00</td><td rowspan="3">補食室</td><td>平　常</td><td colspan="2">20:00～23:20</td></tr>
<tr><td rowspan="2">入浴</td><td>平　常</td><td colspan="2">17:00～20:00</td><td>試験前特別</td><td colspan="2">20:00～24:00</td></tr>
<tr><td>休日前</td><td colspan="2">17:00～21:50</td><td>試験中特別</td><td colspan="2">終　夜</td></tr>
<tr><td rowspan="4">自習

静粛時間</td><td>１～２年</td><td colspan="2">20:30～23:30</td><td colspan="2">洗　濯　場</td><td colspan="2">23:20 まで</td></tr>
<tr><td>３年以上</td><td colspan="2">20:30～24:00</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>平　日</td><td colspan="2">21:00～23:00</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>休日前</td><td colspan="2">22:00～23:00</td><td></td><td></td></tr>
</table>

（出典　寮生活のしおり）

資料７－２－③－８

寮生会組織



（出典　寮生活のしおり）

資料７－２－③－９

平成24年度

近隣の幼稚園で節分イベントを開催しました

平成25年2月2日(土)、白岳町の大宮幼稚園にて、本校西雲寮の寮生会主催で「節分イベント」を開催しました。恒例行事となったこのイベントでは、前半を寮生の補助で園児に「スライムづくり」、「綿あめづくり」、「空気砲」などの簡単な実験を体験してもらい、後半は同幼稚園のグラウンドで「豆まき」を行いました。

園児たちはおもしろい実験に驚いたり喜んだり、また豆まきでは、赤鬼・青鬼となった寮生めがけて、一生懸命に豆を投げつけ、節分イベントを楽しみました。





（出典　本校ウェブサイト）

資料７－２－③－10

寮生会年間行事

西雲寮では，寮祭，部屋替え，清掃などの様々な行事があります．

月	行　事	月	行　事
4	新入寮生入寮	9	後期寮長選挙
	入寮説明会		後期部屋替え
	新入寮生歓迎寮祭	11	後期寮内一斉清掃
	火災避難訓練		講演会
5	前期寮内一斉清掃	12	冬期休業による閉寮
6	一年生部屋替え	1	次年度前期寮長選挙
	西雲寮便り発行		西雲寮便り発行
7	納涼祭	2	次年度部屋割り
	夏期休業による閉寮		卒業寮生送別寮祭
8	一日体験入学・学寮見学	3	春期休業による閉寮

（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

寮生の生活・勉学の場として，寮務主事室の指導のもと寮生会が中心となって学生寮の運営を行う体制が整備されており，生活・学習時間等の日課の管理が円滑に行われている。また，寮生会は，積極的に地域交流や国際交流を通じて社会学習や異文化学習に取り組んでいる。

観点７－２－④：　就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

就職や進学に関する進路指導は，準学士課程においては学科長と５年担任を中心として，また専攻科においては専攻科長と各系の副科長を中心として行っている。企業の求人情報は，平成19年度より実施した現代ＧＰ（観点５－１－②参照）の成果の一つであり本校ウェブサイト上で運用されている「求人情報検索システム」（資料７－２－④－１）により全学生に提供している。

学生の将来設計をサポートする「キャリア教育支援室」が支援プログラムを作成し，「特別活動」の一環として組み込み，学級担任と連携して１～３年生にキャリア指導を行っている（資料７－２－④－２）。就職活動時期直前には，４年生以上を対象にマナーに関する講習会，各企業や大学のガイダンス，地元企業との懇談会等を行っている。また，地元企業が多く参加する「地域企業説明会」を「地域共同テクノセンター」（観点２－１－③参照）が主催して開催している（資料７－２－④－３）。

事務職員による支援は，「求人情報検索システム」への情報入力と管理に加え，応募の際の必要書類の取りまとめと送付も行っている。また，編入学試験の日程等の情報を掲示するとともに，各大学の編入学試験募集要項や過去の編入学試験問題を保管し，希望する学生に提供している。

就職試験や編入学試験を受験した学生によって提出された報告書は，次年度用の参考資料として各学科にて活用している（資料７－２－④－４）。

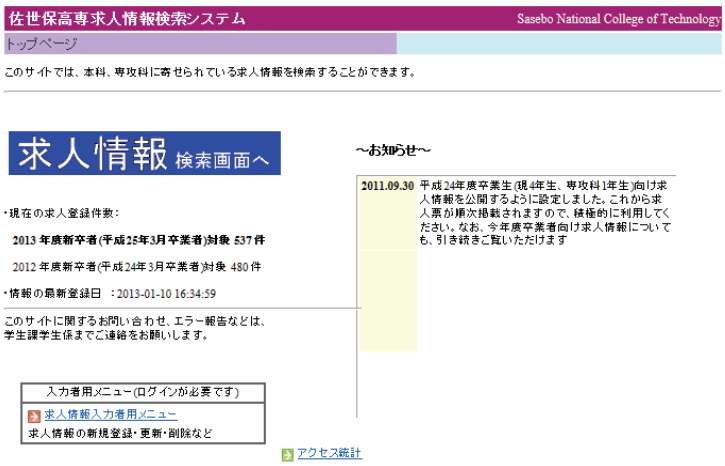
その結果，現在までほぼ100％の就職・進学率である（資料７－２－④－５）。

観点７－２－④資料一覧

（資料７－２－④－１）	求人情報検索システム	出典：本校ウェブサイト
（資料７－２－④－２）	キャリア教育支援プログラム概要	出典：キャリア教育支援室資料
（資料７－２－④－３）	地域企業説明会開催案内	出典：総務課資料
（資料７－２－④－４）	就職試験等結果報告様式	出典：学生課資料
（資料７－２－④－５）	就職・進学率の推移	出典：教育データベース

資料７－２－④－１

求人情報検索システム



（出典　本校ウェブサイト）

資料７－２－④－２

キャリア教育支援プログラム概要

	本科					その他
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	
目標（案）	高専で何を学ぶか理解する	高専卒業後にどのような仕事があるか理解する	社会人基礎力を理解し、自己評価する。	インターンシップ、工場見学旅行などを通して自分の進路を決定する。	社会に出るための準備をする	
4月	(・4/15,16入生オリエンテーション) ・システム紹介	・クラス別HRにおける生活指導（担任） ・4/18 学年集会	・クラス別HRにおける生活指導（担任）	・クラス別HRにおける生活指導（担任） ・インターンシップに関する説明（担任）	・進路ガイダンス（学科） ・個別面接対応　松永	・4/2就職対策会議
5月	・キャリア教育支援室紹介		・5/9 学年集会	・インターンシップ直前講座 松永	・個別面接対応　松永	
6月		・6/20 グループワーク1(HR) 川瀬＋高比良	・6/27 プレジョブハンティング（1回目：大講）森田＋学科		・個別面接対応　松永	
7月			・7/11 プレジョブハンティング（2回目）森田＋学科		・個別面接対応　松永	・7/8保護者懇談会　教員＋学生 ・ファシリテーター講習会　森田
8月				・インターンシップ（学科）		
9月		・9/5 社会人・卒業生講話（大講）川瀬＋志久	・9/5 プレジョブハンティング（3回目）森田＋学科 インターンシップ報告会を聞く	・インターンシップ報告会（学科） ・9/28就活ガイダンス（マイナビ様）手島		・9/5 ファシリテーター森田＋学科
10月		・10/3 グループワーク2川瀬＋高比良 ・10/10 グループワーク3川瀬＋高比良 ・10/24 グループワーク4（発表）川瀬＋高比良 ・工場見学　松永	・工場見学 ・10/3 プレジョブハンティング（発表）森田＋学科	・10/17-21工場見学旅行		・10/28保護者懇談会　教員＋学生
11月	・11/14 学科紹介（学科長）大屋＋志久 ・11/21 先輩講話（5年生）大屋＋山崎	・11/10 グループワークポスタ展示	11/10 プレジョブハンティングポスタ展示			・11/12工場見学バスツアー 松永＋志久
12月			12/19 マナー講習会（大講） 志久	・SPI（教務、担任） ・12/18地域企業合同説明会 ・12/12就活講座（面接、エントリーシートなど。マイナビ様）　手島		
1月		・1/23 先輩講話(HR)川瀬＋山崎				
2月				・SPI（教務、担任） ・ビジネスマナー講習会（教務、担任） ・個別面接対応　松永		
3月				・個別面接対応　松永 ・高専合同会社説明会（九工大）志久		キャリア教育研修会（八代高専）

（出典　キャリア教育支援室資料）

資料７－２－④－３

平成２４年度地域企業説明会について

昨今、各種報道で就職状況の厳しさが伝えられています。大都市圏にある企業の情報は入手しやすいのに対して、地元企業の情報はそれほど多くありません。そこで地元企業への関心を深めてもらうために、平成２６年３月卒業あるいは修了予定の学生諸君（本科４年生、専攻科１年生）を対象に、地元で活躍する企業の方を中心に来校していただき、各社の技術力や特徴などを紹介していただきます。

就職希望者だけではなく、いずれは就職する進学希望者にとっても、企業の特徴や求められる人物像、業界の技術や景気の動向等を知ることは非常に有益です。紹介プレゼンに耳を傾け、各企業の方に積極的に質問することにより自分をアピールして、就職活動の第一歩としてください。

記

１．日　　時　平成２４年１２月１８日（火）　１３：２０～１６：５０

２．会　　場　佐世保工業高等専門学校　大講義室及び第一体育館

３．対　　象　本科４年生、専攻科１年生

４．開催内容　**第１部　参加企業のショートプレゼンテーション（場所：大講義室）**

１３：２０～１３：２５　開会挨拶
１３：２５～１５：００　企業紹介

・各企業の発表順は別紙のとおりです。
・発表時間は各社２分です。資料を見ながら説明をよく聞いてください。

（第一体育館へ移動）

第２部　企業パネル展示見学および個別相談会（場所：第一体育館）

１５：１０～１６：５０

・興味のある企業を訪問してください。
・少なくとも**５社のブースを回ってください。**
・説明会終了時に**アンケート用紙を提出して**解散です。（出欠取り兼務）

（出典　総務課資料）

資料７－２－④－４

資料７－２－④－４

就　職　試　験　等　結　果　報　告			
組　　番	氏名		
会　　社　　名			
受　験　月　日	年　　月　　日	受験地	

1. 筆記試験
　　(1)一般教養

　　(2)専門科目

2. 面接試験

3. 身体検査

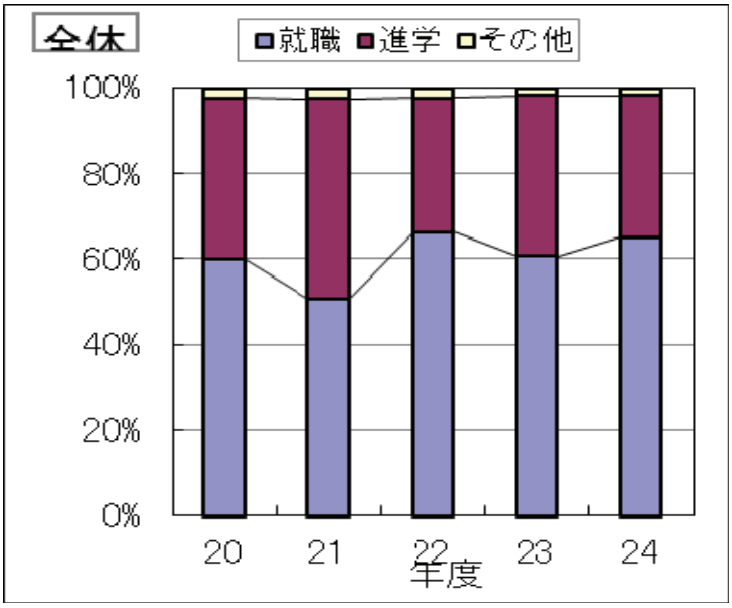
4. その他(後輩にアドバイス、印象残ったこと等)

◎記入上の注意:出来るだけ詳しく黒インクで記入すること

（出典　学生課資料）

資料７－２－④－５

就職・進学率の推移



（出典　教育データベース）

（分析結果とその根拠理由）

各学科・専攻科・キャリア教育支援室・学級担任等による進路指導体制を整備し，学生への助言指導や本校ウェブサイト上で情報の提供等を行っている。

現在までほぼ100％の就職・進学率を維持し，就職・進学の指導を行う体制が充分に整備されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・学生の相談・補習・助言を行う体制として，オフィスアワー，「学習の記録」「自己点検表作成支援システム」，意見箱「みんなの声」が整備され，機能している。

・発達障害又はその傾向のある学生に対する支援として，「特別支援教育部会」を定期開催し，対策を講じている。また，必要に応じて教育支援員を配置する制度が整備されている。

・「キャリア教育支援室」等による進路指導体制が整備されていて，本校のウェブサイト上で資料の公開等を行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準７の自己評価の概要

学習支援に関しては，以下のことが挙げられる。

学生がスムーズに学習を進めるために，新入生に対するオリエンテーションやホームルームを利用したガイダンスが実施されている。各科目担当教員がシラバスの内容を説明することに加え，学生は本校ウェブサイト上でも自由に閲覧できるシステムが整備されている。自主的学習を計画する「学習の記録」「自己点検表作成支援システム」や直接相談・助言を行うオフィスアワー等による体制が整備され，機能している。卒業研究や特別研究においては，「研究日誌」でその進捗状況を担当教員が適宜把握している。放課後等に学生が自己学習や部活動等に利用できるスペースとして，授業時間外の教室や図書館・情報処理センター第１演習室・CAD室等が用意され，福利厚生施設「敬愛館」は学生のキャンパス生活の場として利用されている。ニーズを把握する支援体制は，離島を含む保護者懇談会，校内設置の意見箱等，数多く整備されている。また，資格試験・検定試験を受検するための支援体制も整備されており，計画的な受検を促している。外国人留学生に対する学習支援として，チューター制度，留学生専用カリキュラム等が整備されている。発達障害又はその傾向のある学生に対する具体的な支援として，「特別支援教育部会」を定期開催して具体的な対策を講じている。また，教育支援員を配置する制度が整備されている。学生主事室を中心とした全教員が，各種学校行事やクラブ活動等，学生会の様々な活動を人的に支援することで，適切な責任体制のもとに機能している。クラブ活動に必要な設備・場所は学校により整備され，その為の予算も学校により適切に配分され，機能している。

生活支援に関しては，以下のことが挙げられる。

生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行うために，各主事室・学級担任・保健室・学生相談室が支援体制を敷いている。外国人留学生に対しては，学寮における生活面の支援を行う体制が整備されている。発達障害又はその傾向のある学生に対する具体的な支援として，学習面と同様に「特別支援教育部会」が機能している。設備面では，バリアフリー化した出入り口等が整備されている。学生寮においては，寮務主事室の指導のもと寮生会が中心となって生活・学習時間等の日課の管理を円滑に行っている。また，寮生会は，積極的に地域交流や国際交流を行っている。各学科・専攻科・キャリア教育支援室・学級担任等による進路指導体制を整備し，学生への助言指導や本校ウェブサイト上で情報の提供等を行っている。現在までほぼ100％の就職進学率を維持し，学生の就職・進学などの進路指導を行う体制が充分に整備されている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面での配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の校地は，100,718㎡，各施設の延べ面積は 32,947㎡ であり，高等専門学校設置基準を満たしている（資料８－１－①－１，２）。施設・設備の利用状況は良好であり，有効に活用されている（資料８－１－①－３）。また，施設内の設備状況は研究・教育を実施するにふさわしいものとなっている（資料８－１－①－４）。

過去５年間における主な施設・設備の新設・更新として，平成 21 年度に図書館のバリアフリー化と実習工場改修，平成 23 年度に地域共同テクノセンター新設や図書館空調の更新，平成 24 年度に機械工学科Ａ棟耐震改修と学内 LAN 設備や学内無線 LAN 更新が行われた。

本校は，ホームルーム制度を取っているため基本的に各ホームルーム教室で授業を行う。その教室は主に，本校の教育目標２）を実現する空間として 80㎡ の場所を提供している。この教室には，個人ロッカーや視聴覚教材が使用できるようにスクリーンを設置，また情報リテラシー向上の一環として学内 LAN 端子を設置し，パソコンの利用環境を改善している。継続的改善を進めた結果，現在では天井型プロジェクターを全ホームルーム教室に設置している。また，全ホームルーム教室にエアコンを完備することで，学習に適した環境が整備されている。平成 24 年度には学内無線 LAN 設置が完了し，その結果，学校全体におけるネットワークの利用環境の改善がさらに進んだ。

観点８－１－①資料一覧

（資料８－１－①－１）	建物配置図	出典：学校要覧
（資料８－１－①－２）	建物平面図	出典：総務課資料
（資料８－１－①－３）	教室等、施設設備の利用状況	出典：学生課資料
（資料８－１－①－４）	実験室等ごとの設置機器一覧	出典：学生課資料
（資料８－１－①－５）	共用施設機器一覧	出典：学生課資料
（資料８－１－①－６）	設備予約状況	出典：本校ウェブサイト
（資料８－１－①－７）	特別教室等使用割	出典：学生課資料
（資料８－１－①－８）	特別教室使用例１	出典：平成 24 年度シラバス
（資料８－１－①－９）	特別教室使用例２	出典：平成 24 年度シラバス
（資料８－１－①－10）	地域共同テクノセンター（外観）	出典：総務課資料
（資料８－１－①－11）	施設整備委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－①－12）	キャンパスマスタープラン 2010（はじめに）	出典：キャンパスマスタープラン
（資料８－１－①－13）	安全衛生管理規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－①－14）	安全教育委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－①－15）	「緊急対応マニュアル」	出典：緊急対応マニュアル
（資料８－１－①－16）	「安全の手引き」	出典：安全の手引き
（資料８－１－①－17）	佐世保高専の省エネ対策について	出典：総務課資料

共用施設として，情報処理センター，CAD 室，LL 教室，視聴覚教室，図書館，多目的教室，大講義室等がある。これらの共用施設は，多くのパソコン，視聴覚教材などを有し，本校の教育目標４）５）に寄与している（資料８－１－①－５）。情報処理センター第 1 演習室及び CAD 室は情報処理教育，製図などに使用し，LL 教室は英会話の授業などに使用されている（資料８－１－①－６，７）。

図書館は２階建てで，２階に開架図書閲覧室，事務室，閉架用書庫を設置している。図書館は本校の教育目標６）を実現するために蔵書として約９万冊の教養図書及び専門書を有している。さらに，インターネット接続可能なパソコンが設置され全国図書館の蔵書検索が可能となっている。

多目的教室，大講義室，視聴覚教室は，本校教育目標４）のためのパソコンや視聴覚教材を使った講義（資料８－１－①－８，９），卒業研究，特別研究発表会の他，文科系のクラブ活動，学生や教職員の発表会や研修会，講演会などに使用されている。

また，本校教育目標４）や６）を達成するために，第１・第２体育館，サッカー場，野球場，総合運動場（ラグビー場，陸上競技場）や，吹奏楽・美術部等文化系クラブが利用する福利厚生施設などを備え，これら施設はクラブ活動などに盛んに活用されている。

各学科の実験室，実習工場，ものづくり演習室，地域共同テクノセンター等は，準学士課程，専攻科課程の実験・実習に利用されており，充実した多くの施設・設備を有している。これらの施設は本校の教育目標１）に貢献している（資料８－１－①－４，５）。地域共同テクノセンターは，最先端研究、地域企業との共同研究，これら研究に関連する学生の卒業・特別研究を推進するため，平成 24 年度に新しく設置された(資料８－１－①－10)。

本校施設の全般について管理・運営するために施設整備委員会が設置されており,「キャンパスマスタープラン 2010」の策定，施設整備計画，施設利用計画など，本校の施設全般について審議している（資料８－１－①－11，12)。

また，本校の安全管理のために安全衛生委員会が設置されており，この委員会による校内巡視を月例で行い安全管理に努めている（資料８－１－①－13)。さらに安全教育委員会が学生生活に係る安全教育に関する事項について審議している（資料８－１－①－14)。全教職員には本校が独自に作成している「緊急対応マニュアル」（資料８－１－①－15）および「安全の手引き」（資料８－１－①－16）を，全学生には高専機構が作成している「実験実習安全必携」を配布し，安全管理を推進している。

バリアフリー化については「キャンパスマスタープラン 2010」に基づき年次計画により整備を進め，主要な各建物に段差解消スロープを設置している。また，管理棟校舎，図書館にはエレベータを設置し，平成 25 年度に改修される電気電子・物質工学科棟にもエレベータを設置し，バリアフリー化を推進している。また，学内４か所に身障者用トイレを設置している。

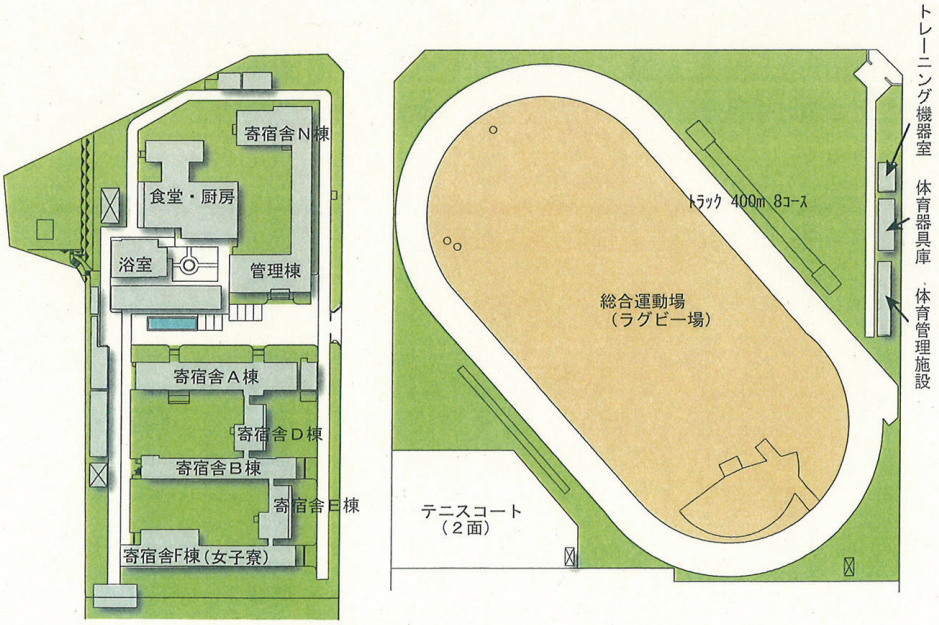
なお，近年の社会的関心である省エネ対策への意識づけとして，合計 45kW の太陽光パネルの設置，トイレ等への人感センサー付き照明の設置，外灯等への LED 照明の設置も随時進めている。さらに，エアコンを使用する際の基準を定め，電力監視装置を主要な建物に設置することで「電力の見える化」を推進している（資料８－１－①－17)。これらの活動を通して，学校全体として省エネ対策に取り組んでいる。

資料８－１－①－１

建物配置図

Campus Map

①管理・一般科棟
②一般教科A棟
③一般教科B棟
④一般教科C棟
⑤電気電子・物質工学科棟
⑥物質工学科棟
⑦機械工学科A棟
⑧機械工学科C棟
⑨実習工場
⑩電子制御工学科A棟
⑪電子制御工学科B棟
⑫専攻科棟
⑬高圧実験室
⑭情報処理センター
⑮海洋環境実験室
⑯図書館
⑰福利厚生施設（敬愛館）
⑱合宿研修施設（成和館）
⑲第１体育館
⑳第２体育館
㉑武道場
㉒水泳プール
㉓地域共同テクノセンター



40

資料８－１－①－１続き

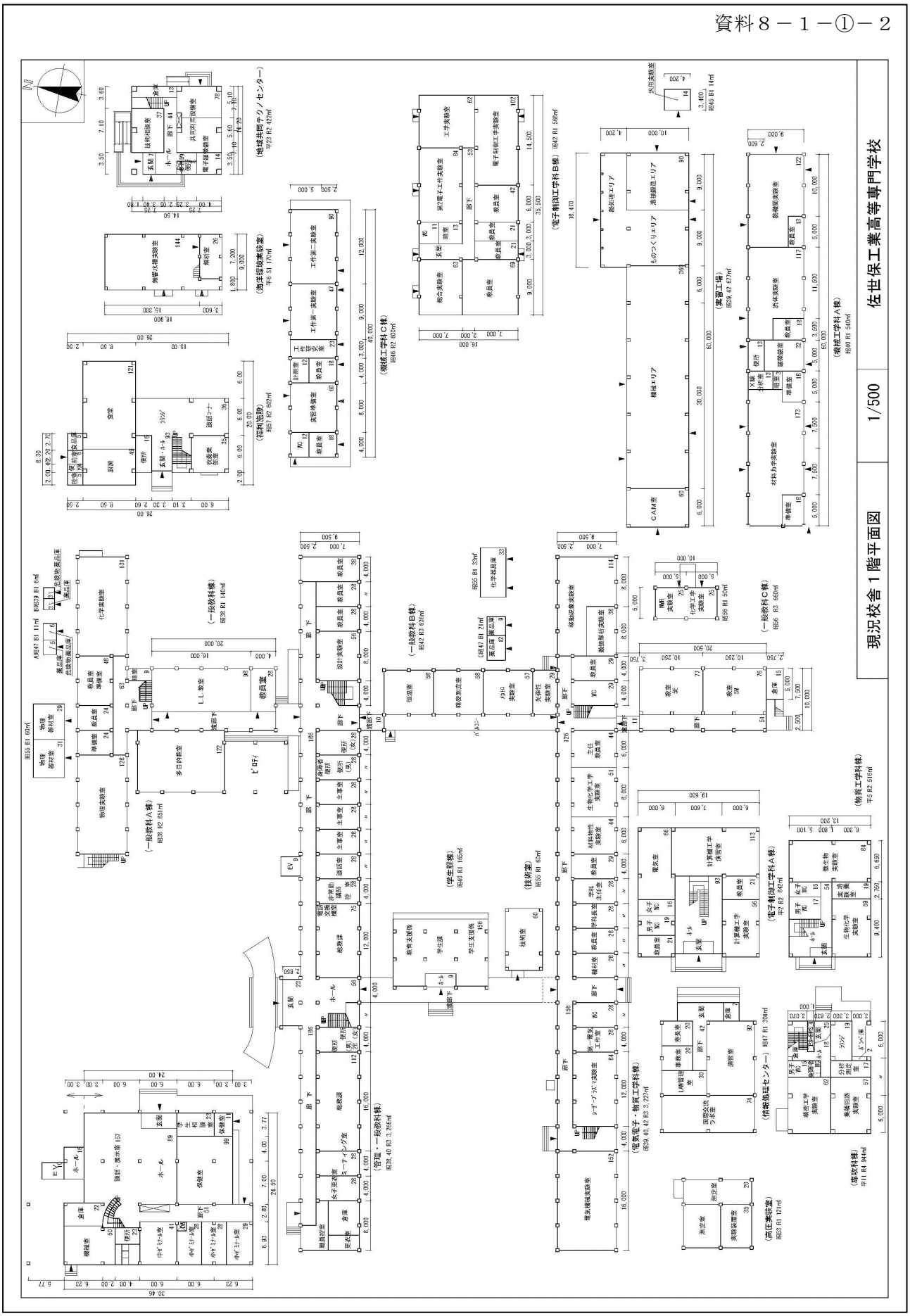


区分	校舎敷地	運動場敷地	校舎、寄宿舎、職員宿舎敷地 寄宿舎敷地	計	職員宿舎敷地	合計
面積	45,323m²	42,007m²	13,388m²	100,718m²	7,050m²	107,768m²

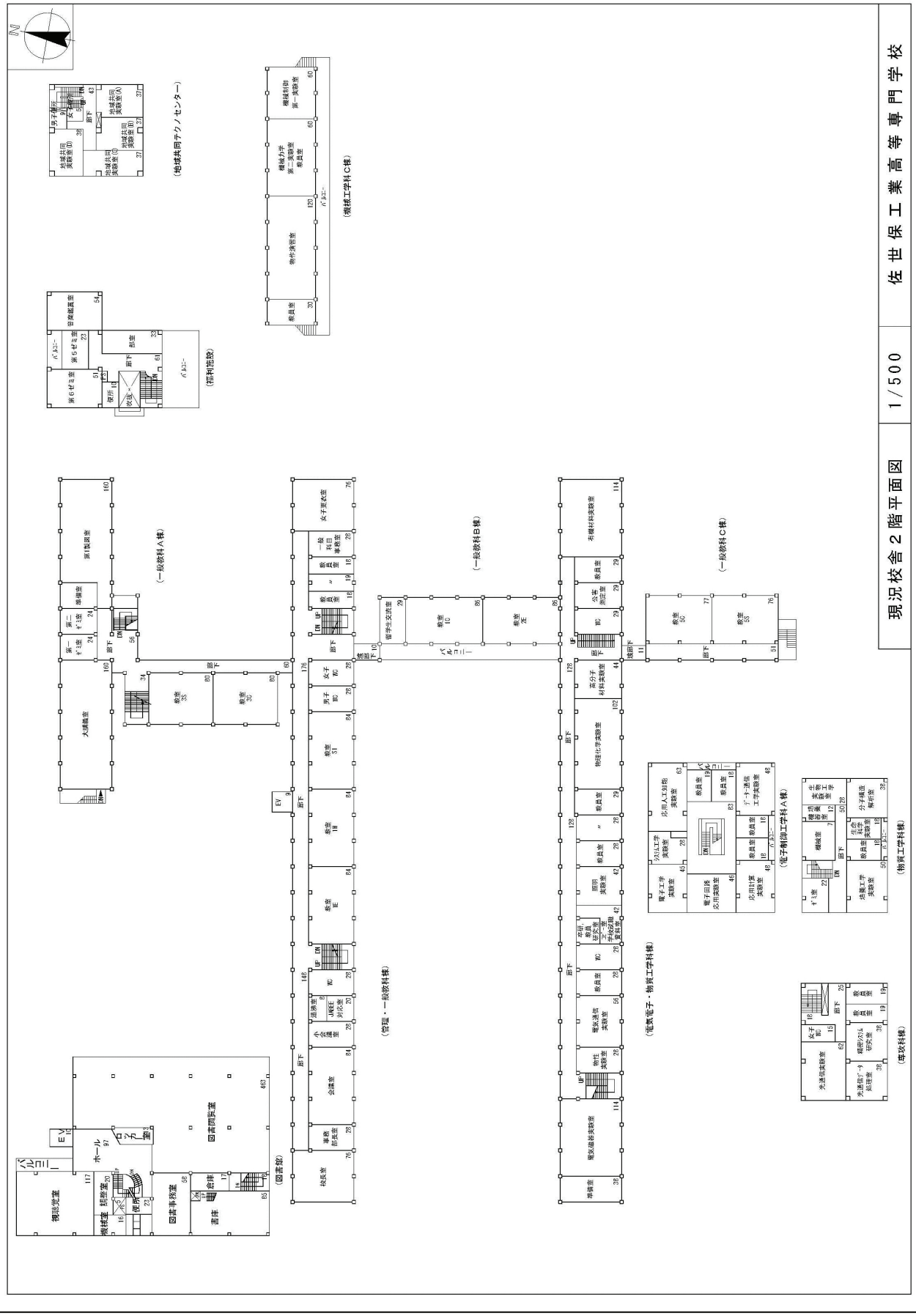
41

（出典　学校要覧）

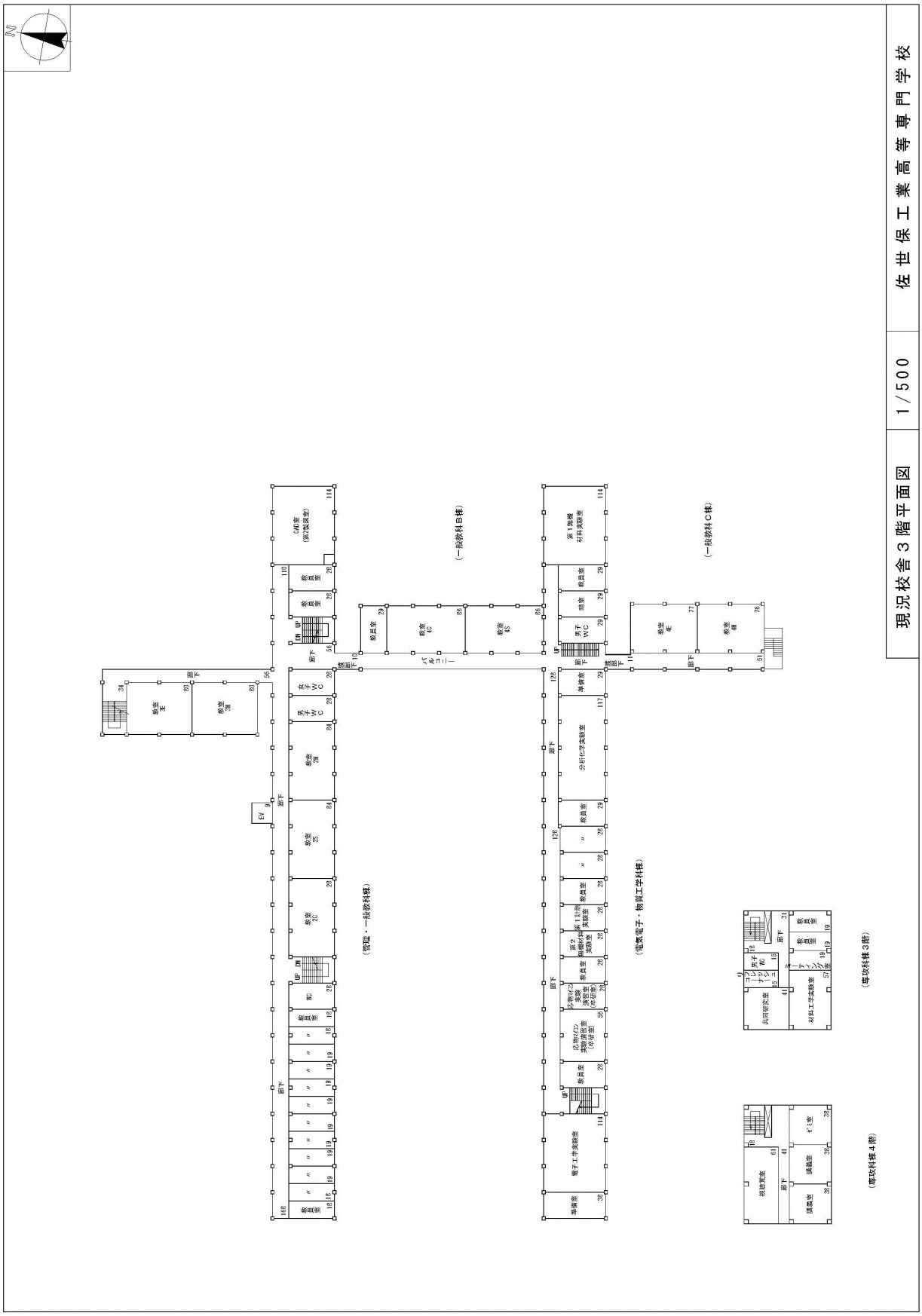
資料８－１－①－２



資料８－１－①－２続き


現況校舎２階平面図
1/500
佐世保工業高等専門学校
N
（地域共同テクノセンター）
（機械工学科Ｃ棟）
（福利施設）
（一般教科Ａ棟）
（一般教科Ｂ棟）
（一般教科Ｃ棟）
（管理・一般教科棟）
（図書館）
（電気電子・物質工学科棟）
（電子制御工学科Ａ棟）
（物質工学科棟）
（建築学科棟）

資料８－１－①－２続き



（出典　総務課資料）

資料８－１－①－３

教室等、施設設備の利用状況

教育課程に対応(実験室は準備室を含む)

施設名など	利用率(時間/週)		利用状況形態など	部屋数	面積(m2)	収容人数	パソコン台数	備考その他
HR教室								
1M	22.0 /週	55	講義、LHR	1	84			
1E	22.0 /週	55	講義、LHR	1	84			
1S	23.0 /週	57.5	講義、LHR	1	84			
1C	24.0 /週	60	講義、LHR	1	86			
2M	22.0 /週	55	講義、LHR	1	84			
2E	23.0 /週	57.5	講義、LHR	1	86			
2S	23.0 /週	57.5	講義、LHR	1	84			
2C	21.0 /週	52.5	講義、LHR	1	84			
3M	21.0 /週	52.5	講義、LHR	1	80		1	
3E	25.0 /週	62.5	講義、LHR	1	80		1	
3S	24.0 /週	60	講義、LHR	1	80		1	
3C	23.0 /週	57.5	講義、LHR	1	80			
4M	26.0 /週	65	講義、LHR	1	76		1	
4E	24.0 /週	60	講義、LHR	1	77		1	
4S	24.0 /週	60	講義、LHR	1	86		1	
4C	21.0 /週	52.5	講義、LHR	1	86		1	
5M	23.0 /週	57.5	講義、LHR	1	76		1	
5E	22.0 /週	55	講義、LHR	1	77		1	
5S	17.0 /週	42.5	講義、LHR	1	76		1	
5C	18.0 /週	45	講義、LHR	1	77		1	
一般教科								
一般教科A-B棟								
物理実験室	18.0 /週	45	実験	1	152		1	
化学実験室	8.0 /週	20	実験	1	176		3	
多目的教室	14.0 /週	35	講義、講演会など	1	116			
LL教室	27.0 /週	67.5	講義	1	112		1	
大講義室	2.0 /週	5	講義(音楽)、講演会	1	160			
第１製図室	18.0 /週	45	講義	1	160			
留学生室	3.0 /週	7.5	講義(留学生日本語)	1	29		7	
第1ゼミ室	-	-	講義	1	24			
第2ゼミ室	-	-	講義	1	24			
機械工学科								
機械A棟								
材料力学実験室	25.0 /週	62.5	実験、卒研	1	113		10	
金属材料実験室	10.0 /週	25	実験、卒研	1	112		2	
流体実験室	8.0 /週	20	実験、卒研	1	135		6	
熱機関実験室	14.0 /週	35	実験、卒研	1	135		4	
顕微鏡室	14.0 /週	35	実験、卒研	1	32		2	
一般B棟他								
恒温恒湿実験室	20.0 /週	50	実験、卒研	1	58		1	
精密測定実験室	22.5 /週	56.25	実験、卒研	1	58		2	
メカトロ実験室	12.0 /週	30	実験、卒研	1	57		3	
メカトロ研究室	11.5 /週	28.75	実験、卒研	1	29		11	
機械制御第2実験室	10.0 /週	25	実験、卒研	1	56			
機械C棟								
実習準備室	4.0 /週	10	実験、卒研	1	60		3	
工作第1実験室	26.0 /週	65	実験、卒研	1	67		8	
工作第2実験室	26.0 /週	65	実験、卒研	1	90		2	
機械力学第1実験室	30.0 /週	75	実験、卒研	1	120		7	
製図準備室	4.0 /週	10	実験、卒研	1	60			
機械力学第2実験室	20.0 /週	50	実験、卒研	1	60		7	
制御B棟								
総合実験室	16.0 /週	40	卒研	1	63		11	
実習工場								
CAM室	30.0 /週	75	実験、卒研	1	60			
機械エリア	30.0 /週	75	実験、卒研	1	360			
ものつくりエリア	30.0 /週	75	実験、卒研	1	90			
熱処理エリア	30.0 /週	75	実験、卒研	1	77			
溶接鍛造エリア	30.0 /週	75	実験、卒研	1	90			

資料８－１－①－３続き

教室等、施設設備の利用状況

教育課程に対応(実験室は準備室を含む)

施設名など	利用率(時間/週)		利用状況形態など	部屋数	面積(m2)	収容人数	パソコン台数	備考その他
電気電子工学科								
電気・物質棟(1F)								
電気機械実験室	11.0 /週	27.5	実験、卒研	1	152		2	
レーザプラズマ実験室	14.0 /週	35	実験、卒研	1	84		8	
第1電気工作実験室	6.0 /週	15	実験、卒研	1	28			
電力実験室	-	-	実験、卒研	1	28		2	
電気・物質棟(2F)								
電気計測実験室	10.0 /週	25	実験、卒研	1	152		5	
物性実験室	6.0 /週	15	実験、卒研	1	28		4	
電気通信実験室	14.0 /週	35	卒研	1	56		12	
照明実験室	2.0 /週	5	実験、卒研	1	42		2	
電気・物質棟(3F)								
電子工学実験室	12.0 /週	30	実験、卒研	1	152		20	
電子計算機室	12.0 /週	30	実験、卒研	1	28		4	
応用マイコン実験室	14.0 /週	35	卒研	1	84		12	
高圧実験室	18.0 /週	45	実験、卒研	1	121		14	
電子制御工学科								
制御A棟(1,2階)								
計算機工学実験室	19.0 /週	47.5	実験、卒研	1	56		6	
計算機工学演習	24.0 /週	60	実験、卒研	1	113		24	
電子工学実験室	33.0 /週	82.5	卒研	1	45		6	
電子回路応用実験室	33.0 /週	82.5	卒研	1	46		7	
応用計算機実験室	11.0 /週	27.5	卒研	1	48		9	
データ通信工学実験室	11.0 /週	27.5	卒研	1	48		6	
応用人工知能実験室	11.0 /週	27.5	卒研	1	63		15	
システム工学実験室	11.0 /週	27.5	卒研	1	28			
制御B棟								
電気機器工学実験室	20.0 /週	50	実験、卒研	1	69		4	
電子制御実験室	20.0 /週	50	実験、卒研	1	102			
工学実験室	22.0 /週	55	実験、卒研	1	62		3	
第2電子工作実験室	20.0 /週	50	実験、卒研	1	84		6	
物質工学科								
電気・物質棟(1F)								
移動現象実験室	24.0 /週	60	実験、卒研	1	114			
数値解析実験室	13.0 /週	32.5	実験、卒研	1	38		9	
生物化学工学	8.0 /週	20	実験、卒研	1	51		4	
材料物性実験室	8.0 /週	20	実験、卒研	1	44		6	
電気・物質棟(2F)								
有機材料実験室	35.0 /週	87.5	実験、卒研	1	114			
公害測定実験室	8.0 /週	20	実験、卒研	1	29			
高分子材料実験室	36.0 /週	90	実験、卒研	1	44		2	
物理化学実験室	24.0 /週	60	実験、卒研	1	102		2	
電気・物質棟(3F)								
第1無機材料実験室	24.0 /週	60	実験、卒研	1	114		3	
第1計測実験室	19.0 /週	47.5	実験、卒研	1	28		3	
第2無機材料実験室	8.0 /週	20	実験、卒研	1	28		3	
分析化学実験室	13.0 /週	32.5	実験、卒研	1	117		3	
第2計測実験室	8.0 /週	20	実験、卒研	1	28		3	
物質棟(1F)								
微生物実験室	19.0 /週	47.5	実験、卒研	1	84		2	
生物化学実験室	36.0 /週	90	実験、卒研	1	59		2	
物質棟(2F)								
分子構造解析室	14.0 /週	35	実験、卒研	1	38		2	
生物工学実験室	14.0 /週	35	実験、卒研	1	28		2	
培養室	4.0 /週	10	実験、卒研	1	12			
無菌室	4.0 /週	10	実験、卒研	1	25			
ゼミ室	6.0 /週	15	講義、卒研	1	22			
培養工学(生物工学)実験室	14.0 /週	35	実験、卒研	1	50		6	
NMR実験室	8.0 /週	20	実験、卒研	1	50		1	
化学工学実験室	9.0 /週	22.5	実験、卒研	1	50			

資料８－１－①－３続き

教室等、施設設備の利用状況

教育課程に対応(実験室は準備室を含む)

施設名など	利用率(時間/週)		利用状況形態など	部屋数	面積(m2)	収容人数	パソコン台数	備考その他
情報処理センター								
CAD室	19.0 /週	47.5	講義・演習	1	114		56	
情報処理演習室	28.0 /週	70	講義・演習	1	92		53	
図書館								
談話展示室	−	−		1	157			
保健室	−	−		1	110		1	
学生相談室	−	−		1	23		1	
閲覧室	−	−	自学自習	1	463		16	
視聴覚教室	20.0 /週	50	講義、研修会、卒研発表会	1	117(＋36)	78		
第3ゼミ室	2.0 /週	5	講義	1	29			
第4ゼミ室	4.0 /週	10	講義	1	28			
専攻科棟								
ラウンジ	−	−		1				
集積回路実験室(1階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	57		4	
精密工学実験室(1階)	20.0 /週	50	実験、卒研	1	62		2	
光通信実験室(2階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	38		10	
光通信データ処理室(2階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	62		5	
精密システム研究室(2階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	38		10	
材料工学実験室(3階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	57		10	
共同研究室(3階)	10.0 /週	25	実験、卒研	1	41		4	
リフレッシュコーナー	−	−		1				
ミーテイング室	−	−		1				
視聴覚室(4階)	20.0 /週	50	講義	1	61		28	
講義室1(4階)	10.0 /週	25	講義	1	38			
講義室2(4階)	10.0 /週	25	講義	1	38			
ゼミ室(4階)	14.0 /週	35	講義	1	38			
地域共同テクノセンター								
技術相談室(1階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	38		4	
共同利用設備室(1階)	40.0 /週	100	実験、卒研	1	99		2	
電子顕微鏡室(1階)	10.0 /週	25	実験、卒研	1	16		2	
地域共同実験室(A)(2階)	20.0 /週	50	実験、卒研	1	38		4	
地域共同実験室(B)(2階)	30.0 /週	75	実験、卒研	1	38		2	
地域共同実験室(C)(2階)	30.0 /週	75	実験、卒研	1	38		10	
地域共同実験室(D)(2階)	30.0 /週	75	実験、卒研	1	38		5	
敬愛館								
食堂	−	−						
ラウンジ	−	−						
ビデオ室	−	−						
文化局部室	−	−						
成和館	−	−	合宿研修					
テニスコート	36.0 /週	90	授業、クラブ活動	−	−			
プール				−	−			
第1体育館				1	867			
第2体育館				1	805			
野球・サッカー場				−	−			
総合運動場(ラグビー・陸上競技場)				−	−			
武道場		−	クラブ活動		369			
スクールバス		−						
乗用車		−						

(出典　学生課資料)

資料８－１－①－４

実験室等ごとの設置機器一覧（機械工学科）

室名		面積	機器名
管理棟	CAD室	114	クライアントパソコン(56台)、モノクロレーザープリンタ(3台)、カラーレーザープリンタ(1台)、ネットワークサーバー(2台)、液晶プロジェクタ(1台)、3Dスキャナ(1台)、3Dプリンタ(1台)
一般教科B棟	恒湿恒室実験室	58	CNC歯形歯すじピッチ測定器、歯車試験機、万能投影機、測長機、オートコリメータ、工具顕微鏡、歯車かみ合い試験機
	精密測定実験室	58	電気マイクロメータ
	メカトロ実験室	57	パソコン(2台)
	メカトロ研究室	29	パソコン(11台)、カラープリンタ(1台)
機械工学科A棟	材料力学実験室	189	万能試験機、ビッカース硬さ試験機、ブリネル硬さ試験機、ロックウェル硬さ試験機、ショア硬さ試験機、引張圧縮疲労試験機、小野式回転曲げ疲労試験機(3台)、平面曲げ・ねじり疲労試験機、4連式型持ち型回転曲げ疲労試験機、シャルピー衝撃試験機、静ねじり試験機、エリクセン試験機、投影機、マイクロボール盤、電解研磨装置、オートグラフ、電気炉、真空焼純炉、ファインカッター
	顕微鏡室	32	X線回析装置、光学顕微鏡(4台)、マイクロスコープ、真空蒸着器
	流体実験室	117	水力学実験装置：オリフェス流量計、ベンチュリ流量計、三角せき流量計、遠心送風機実験装置
	熱機関実験室	122	ガソリン機関の性能試験装置、直流定電流発生装置、蒸留器、直流電圧増幅器(32ch)
機械工学科C棟	工作第一実験室	47	粗さ測定機(1台)、デジタルマイクロスコープ、工具顕微鏡、精密電子天秤、実体顕微鏡、パソコン(9台)
	工作第二実験室	90	フライス盤(1台)、旋盤(3台)、超音波加工機、バンドソー、歯車ラッピング加工装置
	機械力学第一実験室	90	FFTアナライザ(2台)、デジタルデータレコーダ(3台)、ACサーボモータ(2台)、4chチャージアンプ、1chチャージアンプ、ファンクションジェネラータ、アナログオシロスコープ、加振器、レーザ変位計(2台)、ストレンアンプ
	機械力学第二実験室	60	アナログオシロスコープ(2台)、デジタルオシロスコープ、ファンクションジェネレータ(2台)、ストレインアンプ、レーザ顕微鏡、炭酸ガスレーザ(40W)，炭酸ガスレーザ(30W)，赤外線サーモグラフィ、光学顕微鏡、動画マイクロスコープ
制御B棟	総合実験室	63	パソコン(8台)、モノクロレーザプリンタ(1台)、デジタルオシロスコープ(1台)、ファンクションジェネレータ(1台)、リニアサーボモータ(1台)、4輪バギー(1台)
実習工場		677	普通旋盤(9台)、CNC旋盤(2台)、万能フライス盤(3台)、CNCフライス盤(1台)、横フライス盤(1台)、円筒研削盤(1台)、平面研削盤(1台)、万能工具研削盤(1台)、集塵グラインダ(2台)、両頭研削盤(1台)、ラジアルボール盤(1台)、小型ラジアルボール盤(1台)、卓上ボール盤(1台)、せん断機(1台)、金切帯鋸盤(1台)、木工帯鋸盤(1台)、卓上帯鋸盤(1台)、卓上糸鋸盤(1台)、立形マシニングセンタ(1台)、NCホブ盤(1台)、歯車形削盤(1台)、ホブ盤(1台)、ブローチ盤(1台)、キー溝盤(1台)、レーザー加工機(1台)、コンプレッサー(3台)、定盤(3台)、溶接台(4台)、硬さ試験機(1台)、万能鋳物砂強弱試験機(1台)、粗さ試験機(1台)、電熱式アルミルズボ炉(1台)、熱処理炉(1台)、ミキサ(1台)、溶接曲げ試験装置ユニット(1台)、被覆アーク溶接機(4台)、TIG溶接機(4台)、炭酸ガスアーク溶接機(4台)、移動式ヒューム集塵装置(2台)、プラズマ切断機(1台)、溶接棒乾燥機(1台)、溶接ロボット(1台)

資料８－１－①－４続き

実験室等ごとの設置機器一覧（電気電子工学科）

室名		面積	機器名
電気・物質工学科棟	器材室	28	パソコン（2台）
	第一電気工作室	28	旋盤（1台）、ボール盤（2台）、グラインダー（1台）、溶接機（1台）、高速切断機（1台）
	レーザプラズマ実験室	84	実験机（6台）、真空成膜装置（3台）、Nd:YAGレーザ（1台）、冷却用水循環装置（1台）、パソコン（1台）
	電気機械実験室	152	実験机（10台）、実験用M-G装置（9台）、実験用3相モータ（2台）、インバータ制御実験装置（1台）、送配電実験装置（1台）、パソコン（2台）、太陽光発電実験装置（1台）、シリコン整流器（1台）、直流電源装置（5台）
	照明実験室	42	パソコン（2台）
	電機通信実験室	56	実験机（10台）、パソコン（12台）
	物性実験室	28	実験机（2台）、パソコン（3台）
	電気磁気実験室	114	実験机（10台）、電車モデル型シーケンス実験装置（1台）、蒸留水製造装置（1台）、直流定電圧電源（15台）、ファンクションジェネレータ（2台）、発振器（8台）、スライダック（3台） デジタルマルチメータ（4台）、ブラウン管オシロスコープ（8台）、デジタルオシロスコープ（2台）6ダイヤル型抵抗（15台）スライド型抵抗（10台）LCRメータ（1台）
	準備室	38	直流電流計（20台）、直流電圧計（20台）、交流電流計（5台）、交流電圧計（5台）、電子電圧計（10台）、検流計（5台）、標準抵抗器（5台）、可変誘導器（5台）、可変コンデンサ（8台）、直流電位差計（2台）、携帯型ホイートストンブリッジ（2台）、コールラウシュブリッジ（2台）、ダブルブリッジ（1台）、工具（20式）
	応用マイコン実験演習室	56	実験机（8台）、パソコン（2台）、ノート型パソコン（1台）、ファンクションジェネレータ(1台)、オシロスコープ（2台）、PLDトレーニングキット（1台）
	電子計算機室	28	パソコン（1台）、ノート型パソコン（2台）、オシロスコープ（1台）、ロジックアナライザ（1台）
	電子工学実験室	114	実験机(12台)、パソコン（2台）、ノート型パソコン(18台)、ロジックアナライザ（2台）、マイクロ波実験装置一式（1台）、直流電流計（10台）、直流電圧計（10台）、電子電圧計（5台）、直流定電圧電源（5台）、ファンクションジェネレータ（2台）、オシロスコープ（3台）、レゴマインドストーム（20台）
高圧実験室	データ解析室	42	実験机（5台）、キュービクル（1台）、小型インキュベータ（2台）、オートクレーブ（1台）、クリーンベンチ（1台）、半導体方式バイポーラ高周波電源（1台）
	放電実験準備室	20	実験机（1台）、パソコン（1台）
	放電現象観測室	24	実験机（1台）、パソコン（6台）、高電圧発生装置操作盤（1台）、クリーンベンチ（1台）、オシロスコープ（1台）、オゾンモニタ（1台）、高電圧直流電源（1台）、水中衝撃波測定プローブ（1台）
	高電圧発生室	35	実験机（2台）、パソコン（2台）、高電圧実験装置一式（高電圧インパルス発生装置（1台）、試験用変圧器（1台）、シリコン架台（1台）、沿面放電観察装置（1台）、直流電圧測定用倍率器（1台）、平滑コンデンサ（1台）、大気圧放電実験装置（1台））、フーリエ変換型赤外線吸収分光分析装置（1台）、長光路セル（1台）、紫外可視分光光度計（1台）、マイクロ波電源（1台）、高圧パルス電源（1台）
専攻科	集積回路実験室	57	実験机（2台）、パソコン（5台）、スパッタリング成膜装置（1台）、純粋製造装置（1台）、防塵装置（1台）、赤外線加熱装置（1台）、X線光電子分光分析装置（1台）、X線回折装置（1台）、走査型プローブ顕微鏡（1台）、パルスNd：YAGレーザ（1台）、薄膜作製装置（1台）、イメージインテンシファイア付CCDカメラ（1台）、高速ゲート付き分光分析装置（1台）、ICCDカメラおよび分光分析装置用制御装置（1台）、窒素循環型ドラフト（1台）、高精度微細形状測定機（1台）、紫外可視分光光度計（1台）、ホール効果測定装置（1台）、熱処理装置（1台）、ノート型パソコン（1台）、ICCDカメラ（1台）、薬品保管庫（1台）
	分析測定室	17	パソコン（2台）、ノート型パソコン（5台）

資料８－１－①－４続き

実験室等ごとの設置機器一覧（電子制御工学科）

室　　名		面積	機　　器　　名
一般A棟	製図室	160	ドラフター（45台）
電子制御工学科A棟	計算機工学実験室	56	デスクトップ型パソコン（5台）、レーザープリンタ（2台）
	計算機工学演習室	113	デスクトップ型PC（24台）、サーバー（2台）、レーザープリンタ（3台）、L2スイッチ（12台）、L3スイッチ（1台）
	応用計算機実験室	48	デスクトップ型PC（7台）、カラーレーザープリンタ（3台）、スキャナ（3台）
	デジタル通信工学実験室	48	デスクトップ型PC（7台）、カラーレーザープリンタ（1台）、レーザープリンタ（3台）、タブレット型PC（2台）
	応用人工知能実験室	63	デスクトップ型PC（11台）、レーザープリンタ（2台）、スキャナ（1台）
	システム工学実験室	31	プロジェクタ
	電子工学実験室	45	デスクトップ型PC（7台）、レーザープリン（1台）
	電子回路応用実験室	46	デスクトップ型PC（4台）、ディジタルビデオカメラ（1台）
電子制御工学科B棟	電気機器工学実験室	81	デスクトップ型PC（17台）、レーザープリンタ（1台）、工作機械（卓上ボール盤　1台、電動ノコギリ　2台、卓上サンダー　1台、旋盤 1台、ハンドドリル　12台）、ビデオデッキ付きテレビ（1台）、平面研削盤（1台）
	電子制御実験室	102	デスクトップ型PC（12台）、テレビ（2台）、ビデオデッキ（2台）、静振台（1台）
	工学実験室	62	デスクトップ型PC（8台）、レーザープリンタ（1台）、オシロスコープ（8台）、安定化電源（25個）、電圧・電流計（各20個）、ファンクションジェネレーター（6台）、CR発振器（ 6台）
	準備室	15	デスクトップ型PC（2台）、レーザープリンタ（1台）
	電子工作実験室	84	FA実習システム（多関節ロボット　2台、NCドリル1台）、デスクトップ型PC（7台）、レーザープリンタ（1台）
専攻科棟	精密工学実験室	62	卓上ボール盤（1台）、卓上ハンドソー（ 1台）、DC電源（1台）、DCアンプ（1台）
	精密システム研究室	38	デスクトップ型PC（3台）
	光通信データ処理室	38	電子線回折装置、^{3}He冷凍機、4k冷凍機、超電導磁石、光干渉計
	光通信実験室	62	光スペクトルアナライザー（1台）、γ線測定装置（1台）、デスクトップ型PC（7台）、レーザープリンタ（1台）、液体窒素製造装置（1台）、ゼーマン効果測定装置（1台）

資料８－１－①－４続き

実験室等ごとの設置機器一覧（物質工学科）

室　　名		面積	機　　器　　名
電気電子・物質工学科棟	移動現象実験室	114	流動試験装置、熱交換実験装置、気液平衡装置
	数値解析実験室	38	粒度分布測定装置、走査型電子顕微鏡、フーリエ変換赤外分光光度計、可視紫外分光光度計
	生物化学実験室	44	光学顕微鏡
	材料物性実験室	57	動的粘弾性測定装置、エバポレーター、恒温恒湿器、粉体乾燥器
	有機材料実験室	114	製氷器、乾燥器、石油蒸留装置、ドラフトチャンバー
	公害測定室	29	パソコン、ワークステーション
	高分子材料実験室	44	エバポレータ、簡易型ドラフトチャンバー、電子天秤、乾燥器
	物理化学実験室	101	固定床圧流通式反応装置、ガスクロマトグラフ、熱分析装置、オートクレーブ、旋光度計、可視分光光度計
	第一無機材料実験室	114	分光光度計、ガスクロマトグラフ、電気炉、pHメーター、伝導率計、恒温槽、ドラフトチャンバー
	第二計測実験室	29	蛍光光度計、赤外吸光光度計、生物顕微鏡、pH計、微光分光光度計、遠心分離器、高速液体クロマトグラフフラクションコレクター
	準備室	29	なし
	分析実験室	116	乾燥器、天秤、分光光度計
	第一計測実験室	28	電気炉、質量分析計
	第二無機実験室	28	なし
物質工学科棟	生物化学実験室	59	分光光度計、純水製造機、恒温槽
	培養実験室	19	生物顕微鏡、PCR
	微生物実験室	84	クリーンベンチ、オートクレープ、乾熱滅菌器、顕微鏡、インキュベータ
	培養工学実験室	50	吸光光度計、パーソナルコンピュータ、プリンタ、遠心分離機、フラクションコレクター
	分子構造解析室	38	ガスクロマトグラフ、ジャーファーメンター、液体クロマトグラフ、インキュベータ
	生物工学実験室	28	なし
	培養室	12	倒立顕微鏡、培養棚
	無菌室	25	シェーカー、クリーンベンチ
	ゼミナール室	22	なし
その他	薬品庫	21	なし
	化学器具庫	33	なし
	NMR実験室	50	核磁気共鳴スペクトル測定装置(60MH2)
専攻科	材料工学実験室	57	電気炉、実体顕微鏡、ボールミル、ミニドリル、ミニカッター、酸素ガスバーナー

資料８－１－①－４続き

実験室等ごとの設置機器一覧（地域共同テクノセンター）

室　　名		面積	機　　器　　名
	共同実験室	78	走査型電子顕微鏡、粒形計測装置
	電子顕微鏡室	14	走査型電子顕微鏡
	地域共同実験室（A）	37	パソコン（4台）、モノクロレーザープリンター、プロジェクタスクリーン
	地域共同実験室（B）	37	PSAガス分離装置、PLD装置（レーザー、真空チャンバー、チラー）、ドラフトチャンバー、デシケータ、上皿電子分析天びん
	地域共同実験室（C）	37	デスクトップPC（4台）、ノートPC（2台）、インクジェットプリンタ、小型プロジェクタ、実験机（5台）
	地域共同実験室（D）	38	乾燥機、ドラフトチャンバー、純水製造器、クリーンベンチ、製氷機、真空蒸着装置、プロジェクター
海洋環境実験室	無響水槽実験室	144	実験机（2台）、無響水槽、電動台車、ハイドロホン（6本）、シンセサイザ（1台）、高速電力増幅器（1台）、差動アンプ（1台）、フィルタアンプ（1台）、LBL装置（1台）、SSBL信号装置（1台）、シンクロスコープ（1台）、音圧計（1台）
	解析室	26	実験机（1台）、パソコン（4台）、画像処理装置（1台）、CCDカメラ（2台）

（出典　学生課資料）

資料８－１－①－５

共用施設機器一覧

室　名	面積（m^2）	（主な）機器名
大講義室	160	ピアノ、CD／MD デッキ、VHS/DVD コンポ、パワーアンプ、オディオミキサ、プロジェクター、スクリーン、ビジュアルプレゼンター
ＣＡＤ室	114	学生用パソコン（55台）、教師用パソコン、プリンター（4台）、プロジェクター、スクリーン
多目的教室	118	TV モニタ、ミキサー、CD/DVD デッキ、デジタル CS チューナー、8mm/VHSW デッキ、TV、DVD プレーヤー、プロジェクター、スクリーン、ビジュアルプレゼンター
情報処理センター演習室	92	学生用パソコン（52台）、教師用パソコン、プリンター（3台）、プロジェクター、スクリーン
視聴覚教室（専攻科棟）	61	TV モニタ（25台）、パワーディストリビューター、オーディオアンプ、8mm/VHSW デッキ、デジタル CS チューナー、アナログ RGP 分配盤、ワイヤレスチューナーユニット、デジタルスキャンコンバーター、AV ミキサ、DVD/LD プレーヤー、CD プレーヤー、DVD/S-VHS プレーヤー、プロジェクター、スクリーン、ビジュアルプレゼンター
視聴覚教室（図書館）	117	モニター（4台）、VHS デッキ、DVD デッキ、パワーアンプ、スクリーン、プロジェクター、スクリーン、ビジュアルプレゼンター
ＬＬ教室	98	教師用パソコン、モニター（4台）、CD/DVD プレーヤー、プロジェクター、スクリーン、ビジュアルプレゼンター、エデュケーショナルユニット・ヘッドセット一式（55台）
留学生交流室	29	パソコン（5台）、スキャナー（2台）、プリンター（2台）、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤー、TV、VHS デッキ

（出典：　学生課資料）

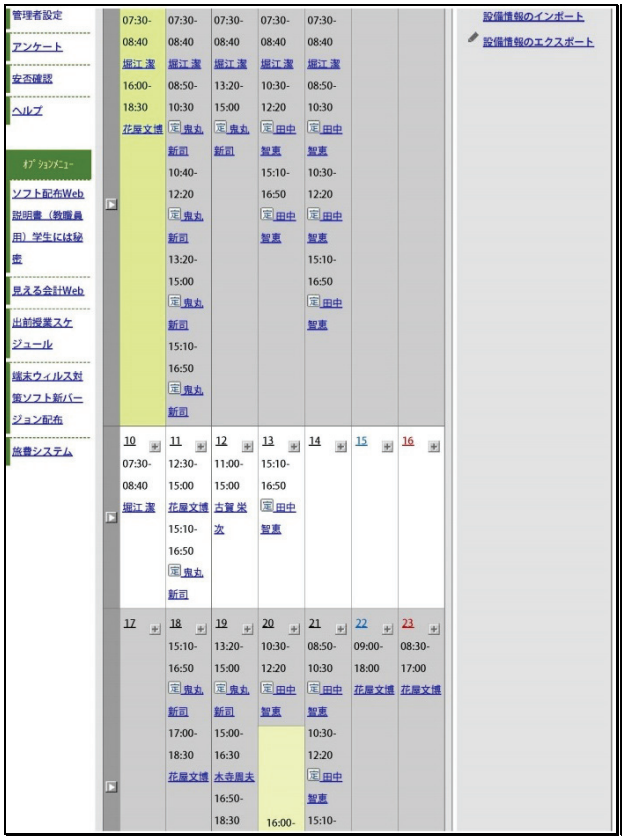
資料８－１－①－６

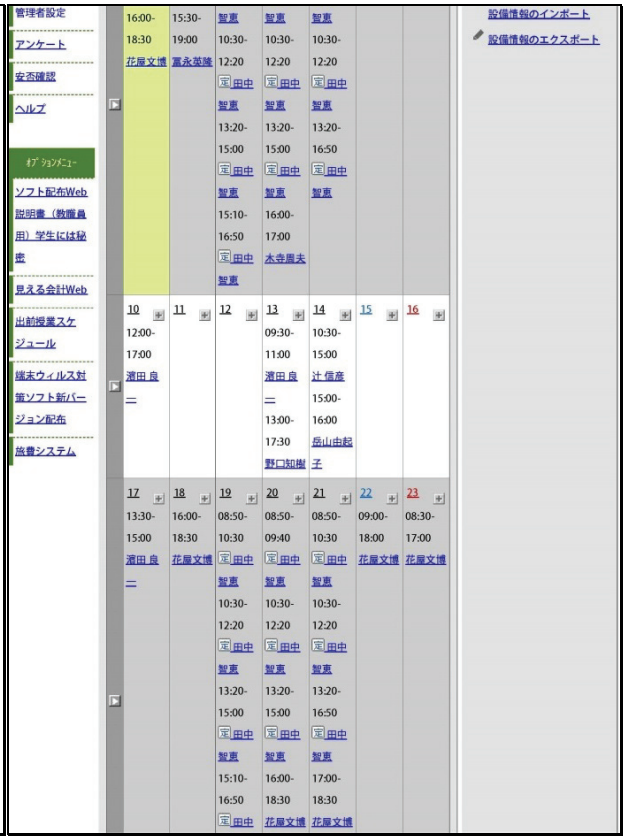
設備予約状況

（大講義室）　　（多目的教室）









（出典　本校ウェブサイト）

資料８－１－①－７

特別教室等使用割

平成２４年度　特別教室等使用割(前期)　Ver.17

	本科棟													専攻科棟			
	多目的教室	視聴覚室	大講義室	CP	CAD	異文化ラボ	D	LL	ゼミ室	体育1，2	体育3，4，5	化学実験室	物理実験室	実習工場	AV	講義室①②	ゼミ室	共同研究室
月1	応微 山崎 4C			情基演 高比良 下尾 1E		計算化学 平山 2AC		英会話 ストッカー 3S			健科学 吉塚 5M					国力 福田 1AI		
月2		地理 牧野 1M			ものづくり 総合実習 中江、森川 西村 3M			英会話 ストッカー 3C										
月3			国際関係 牧野 4ES	製図 前田 2S			製図 前田 2S	コミュニ ストッカー 5M		保体 吉塚 1M	健科学 縄田 4C			ものづくり 総合実習 中江・森川 西村 CAD 3M	放電 柳生 2AES			
月4								コミュニ ストッカー 5E										
月5			国際関係 牧野 4MC	情ネット 高比良 5E				総英Ⅰ 松尾LL 1AI		保体 縄田 2S						技官 川瀬 2A		
月6										保体 縄田 2M								
月7																		
月8																		
火1	美術 栗山	書道 朝永	音楽 伊藤	情通 手島 5S	信処 品川 5E		製図 長嶋・猪原 1E	総英Ⅱ 森下 2A		保体 縄田 1S	保体 田井 3E					数科Ⅰ 福永 1AI		
火2	美術 栗山 2ES	書道 朝永 2ES	音楽 伊藤 2ES															
火3	美術 栗山 2MC	書道 朝永 2MC	音楽 伊藤 2MC	数プロ 植田 5S				応ｺﾐｭ ライブ 1AI		保体 宮良 2S	保体 田井 3M					応解 原 2AM	電磁特 吉田 2AES	
火4	美術 栗山	書道 朝永	音楽 伊藤							保体 宮良 2C								
火5	総合実験 中江・三橋 川下・野尻 1AI 知活 4年	知活 4E	知活 4年	情処 中村嘉 2S	設計 製図Ⅰ 佐々木 設計 製図Ⅱ 西村 5M	知活 異文化交流 4E	設計 製図Ⅰ 佐々木 設計 製図Ⅱ 西村 5M			保体 宮良 2M	健科学 吉塚 5E		物理 森 2E	知活 全員 4M	総合実験 中江・三橋 川下・野尻 1AI				
火6										保体 宮良 2E			物理 森 2M					
火7				工概 中島昭 5S									物理 森 2S					
火8																		
水1		地理 牧野 1C		図学 植田 1S			図学 植田 1S	英会話 ローソン 1M		保体 縄田 1E	健科学 吉塚 5C		物理 森 3C		材料 川崎 2AES	現物 三橋 1AI	熱流 松山 2AM	
水2		地理 牧野 1M			実験 福田・中江 中浦・森田 西口・森川 小原・貞弘 原 4M			英会話 ローソン 2M					物理 森 3E					
水3				数値解析 手島 1AI				英会話 ローソン 1S			保体 岡崎 3S							
水4		地理 牧野 1S						英会話 ローソン 2C					物理 森 3M					
水5		地理 牧野 1E		プログ 高比良 3E	実験 福田・中江 中浦・森田 松山・中島 5M					保体 縄田 2C	保体 岡崎 3C							
水6													物理 森 3S 留学					
水7																		
水8					実験 4M													
木1	生体触媒 越村 4C	生工 山崎 1C		情処 高比良 4E				コミュニ ストッカー 5S		保体 縄田 1M			物理 森 2E			一化 須田淳 1AI	無工化 下野 2AC	
木2		微生物 山崎 2C						コミュニ ストッカー 5C					物理 森 2S	実 習				
木3	中国MS 堀江智 4選	英会話ES ケイン 4選	ハングル 李 4選	情処Ⅰ 城野 3C			製図 西村 2M	英会話MC ストッカー 4選	歴史学 堀江 4選	保体 縄田 1C	健科学 吉塚 5S	科機 須田淳 4選		小 原 2M				
木4				情処Ⅰ 田中・越村 1C									物理 城 2C					
木5	技術ゼミ 中江・高比良 坂口・田中 下野・牧野 1AI，2A	工英 村山 4C					製図 西村 2M	英会話 ストッカー 3M		保体 吉塚 1E				実 習 西 口 2M				
木6								英会話 ストッカー 3E		保体 縄田 2E			物理 森 3M					
木7				情処Ⅰ 城野 2C									物理 森 3S					
木8																		
金1	生化学 村山 4C			情工 高比良 5E	情処Ⅰ 中浦・貞弘 3M			英会話 ローソン 1E		保体 吉塚 1S	健科学 中山 4E		物理 森 3C			精加特 中江 ① 1ME	応物化 長田 専ゼミ 2A	
金2								英会話 ローソン 1C					物理 森 3S					
金3				情処 坂口 1S	情処 中浦・貞弘 2M			英会話 ローソン 2E			健科学 中山 4S		物理 城 2C			日表現 生住 1AI		
金4		地理 牧野 1E						英会話 ローソン 2S		保体 吉塚 1C								
金5	総合演習 森田・三橋 志久・坂口 渡辺 1AI	地理 牧野 1S		ソフトⅠ 武富 3S	流れ 中島 2AM		製図 福田・小原 1M				健科学 吉塚 4M		物理 森 3E	実験・実習 重松 横田 2S				
金6		地理 牧野 1C																
金7													物理 森 2M					
金8				シスプロ 寺山 5S														
	多目的室	視聴覚室	大講義室	CP	CAD	異文化ラボ	D	LL	ゼミ室	体育1，2	体育3，4，5	化学実験室	物理実験室	実習工場	AV	講義室①②	ゼミ室	共同研究室
	本科棟														専攻科棟			

（出典　学生課資料　抜粋）

資料８－１－①－８

情報処理　（学修単位）担当者：　高比良　秀彰　　TAKAHIRA Hideaki
Information Processing

4 E　2 単位（必修）　前期 100 分／週　　授業回数 15 回（ 30 時間）　講義室：情報処理センター第１演習室、4E 教室

授業概要：　数値計算は情報処理の重要なテーマの一つである。本科目では各種超越関数の計算法や連立方程式の解法、微分方程式の数値解法など種々の数値計算法について学習し、実際にプログラムを作成し実習を行うことで、数値計算法についてより理解を深める。

教科書：　　杉浦洋：数値計算の基礎と応用[新訂版]：サイエンス社
参考書、補助教材等：　林晴比古：C 言語クイック入門＆リファレンス：ソフトバンククリエイティブ
授業形式：　講義、演習
学生が用意するもの：　ノート、レポート用紙、USB メモリー

（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

資料８－１－①－９

国際関係論　（学修単位）担当者：　牧野　一成　　MAKINO Kazunari
International Affairs

4 MESC　　1 単位（必修）　　前期 100 分／週 授業回数 15 回（ 30 時間）　講義室：視聴覚教室
授業概要：　第２次世界大戦以降の国際社会の枠組み，世界の地域紛争，世界経済の動き，途上国に対する開発援助の問題などを扱い，現代社会が直面する諸問題ついて主体的に考察させ，理解を深めさせる。

教科書：　　最新ダイナミックワイド 現代社会，東京書籍
参考書、補助教材等：　参考文献は講義の中で随時紹介する
授業形式：　講義、ビデオ視聴
学生が用意するもの：　ノート，プリント類を綴じるファイル

自己学習の指針：　新聞，テレビ，雑誌等のニュース，特に国際的な問題にかかわる諸問題に日頃から関心を持っておくこと

（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

資料８－１－①－10

地域共同テクノセンター（概観）



（出典　総務課資料）

資料８－１－①－11

佐世保工業高等専門学校施設整備委員会規程　（平成１６年４月１日制定）

（設置）

第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の施設に関する必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校施設整備委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一　施設の整備計画に関すること。

二　施設の有効活用及び維持管理に係る具体的方策に関すること。

三　施設の現状把握のための調査及び点検・評価の実施に関すること。

四　施設使用の再編計画に関すること。

五　施設の共用スペース確保に関すること。

六　共用スペースを使用する教育研究チームの選定に関すること。

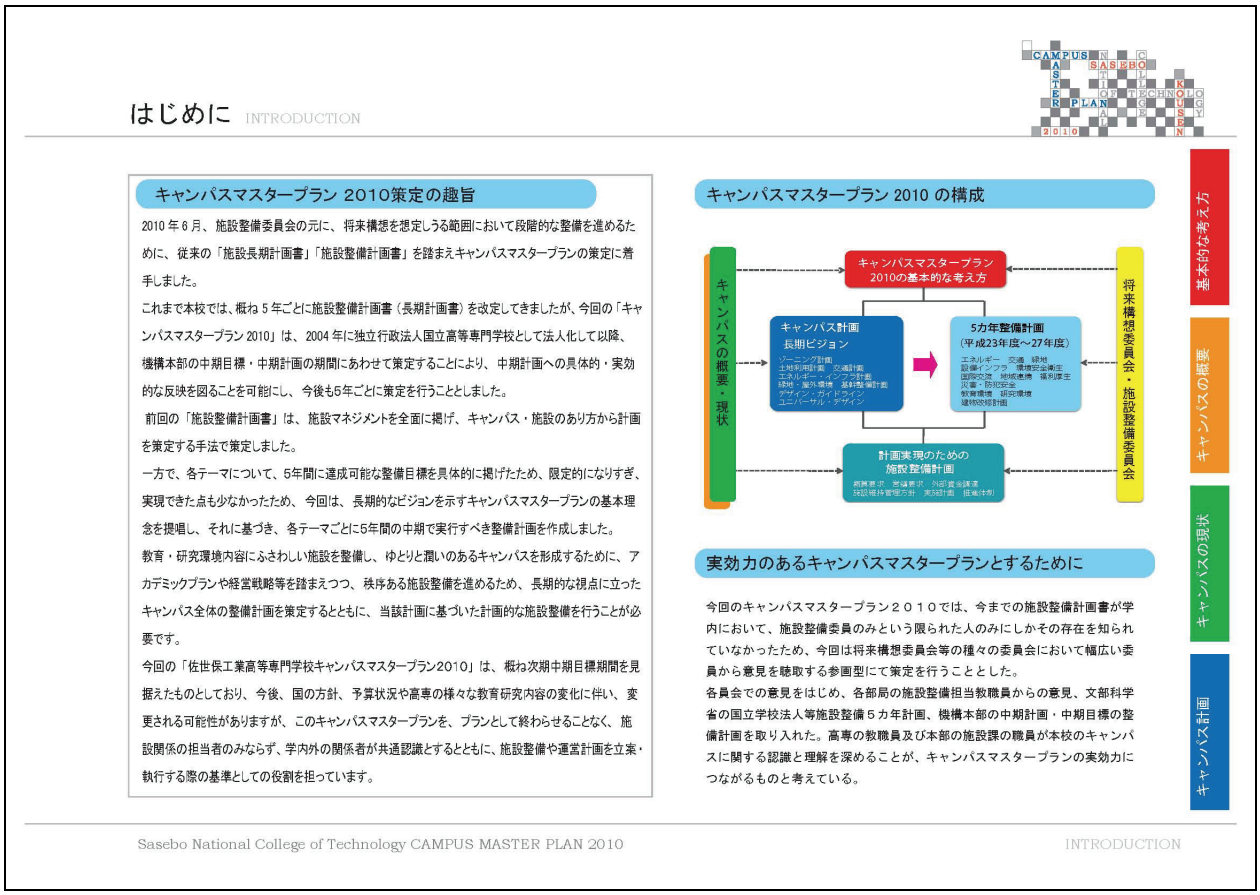
七　共用スペースの利活用に関すること。

八　その他施設に関すること。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－①－12

「キャンパスマスタープラン 2010」



（出典　キャンパスマスタープラン 2010）

資料８－１－①－13

佐世保工業高等専門学校安全衛生管理規程（平成１６年５月２０日制定）

（趣旨）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員（非常勤教職員を含む。以下同じ。）の安全及び衛生管理に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則（以下「機構安全衛生管理規則」という。）及びその他の法令に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。
（総括）
第２条　校長は、教職員の安全及び衛生管理に関して総括する。
２　事務部長は、職員の安全及び衛生管理に関して校長を補佐する。
（衛生管理者及び安全管理者等の指名）
第３条　校長は、機構安全衛生管理規則に規定する衛生管理者、安全管理者、衛生管理担当者及び安全管理担当者を別表に掲げる区分によりそれぞれ指名するものとする。ただし、指名された者に事故等がある場合は、校長が別に定める。
（安全衛生委員会）
第４条　本校に、機構安全衛生管理規則第１３条第１項に規定する安全衛生委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（職務）
第５条　委員会は、次の各号に掲げる事項を調査審議する。
一　教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
二　教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
三　労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること。
四　前三号に掲げるもののほか、教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項
２　委員会は、次の各号に掲げる事項を調査審議することができる。
一　教職員の危険を防止するための基本となるべき対策に関すること。
二　労働災害の原因及び再発防止対策で、安全に係るものに関すること。
三　前二号に掲げるもののほか、教職員の危険の防止に関する重要事項
四　環境マネジメントに関すること。
３　委員会は、前二項に掲げるもののほか、校長が必要と認める事項について調査審議することができる。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－①－14

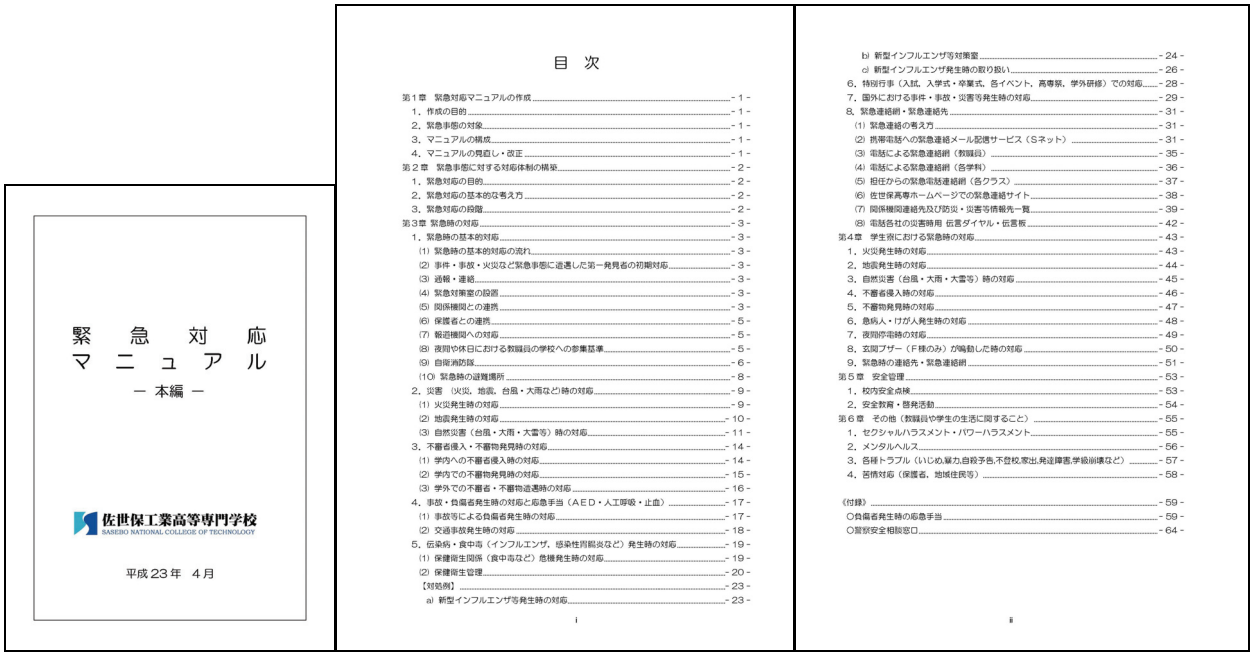
佐世保工業高等専門学校安全教育委員会規程（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の学生の安全教育に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校安全教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生生活に係る安全教育に関する基本的事項
二　その他安全教育に関する事項

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－①－15

「緊急対応マニュアル」



緊　急　対　応
マ　ニ　ュ　ア　ル
－ 本編 －

佐世保工業高等専門学校
SASEBO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

平成23年　4月

目　次

第１章　緊急対応マニュアルの作成 - 1 -
1、作成の目的 - 1 -
2、緊急事態の対象 - 1 -
3、マニュアルの構成 - 1 -
4、マニュアルの見直し・改正 - 1 -
第２章　緊急事態に対する対応体制の構築 - 2 -
1、緊急対応の目的 - 2 -
2、緊急対応の基本的な考え方 - 2 -
3、緊急対応の段階 - 2 -
第３章 緊急時の対応 - 3 -
1、緊急時の基本的対応 - 3 -
(1) 緊急時の基本的対応の流れ - 3 -
(2) 事件・事故・火災など緊急事態に遭遇した第一発見者の初期対応 - 3 -
(3) 通報・連絡 - 3 -
(4) 緊急対策室の設置 - 3 -
(5) 関係機関との連携 - 3 -
(6) 保護者との連携 - 5 -
(7) 報道機関への対応 - 5 -
(8) 夜間や休日における教職員の学校への参集基準 - 5 -
(9) 自衛消防隊 - 6 -
(10) 緊急時の避難場所 - 8 -
2、災害（火災，地震，台風・大雨など）時の対応 - 9 -
(1) 火災発生時の対応 - 9 -
(2) 地震発生時の対応 - 10 -
(3) 自然災害（台風・大雨・大雪等）時の対応 - 11 -
3、不審者侵入・不審物発見時の対応 - 14 -
(1) 学内への不審者侵入時の対応 - 14 -
(2) 学内での不審物発見時の対応 - 15 -
(3) 学外での不審者・不審物遭遇時の対応 - 16 -
4、事故・負傷者発生時の対応と応急手当（ＡＥＤ・人工呼吸・止血） - 17 -
(1) 事故等による負傷者発生時の対応 - 17 -
(2) 交通事故発生時の対応 - 18 -
5、伝染病・食中毒（インフルエンザ，感染性胃腸炎など）発生時の対応 - 19 -
(1) 保健衛生関係（食中毒など）危機発生時の対応 - 19 -
(2) 保健衛生管理 - 20 -
【対処例】 - 23 -
a) 新型インフルエンザ等発生時の対応 - 23 -
i

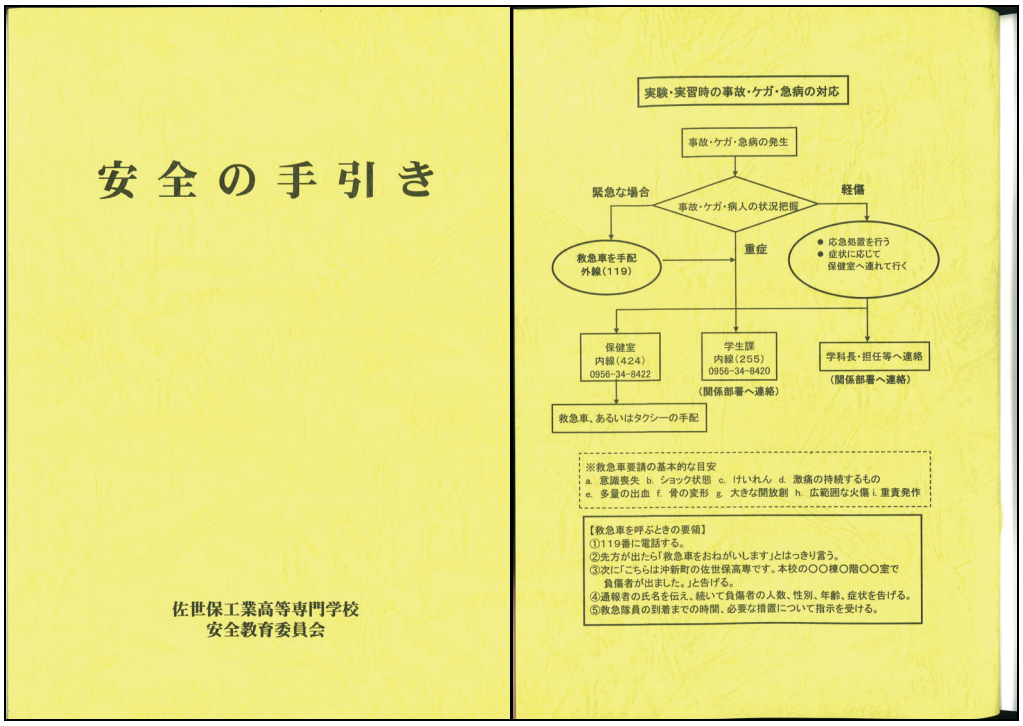
b) 新型インフルエンザ等対策室 - 24 -
c) 新型インフルエンザ発生時の取り扱い - 26 -
6、特別行事（入試，入学式・卒業式，各イベント，高専祭，学外研修）での対応 - 28 -
7、国外における事件・事故・災害等発生時の対応 - 29 -
8、緊急連絡網・緊急連絡先 - 31 -
(1) 緊急連絡の考え方 - 31 -
(2) 携帯電話への緊急連絡メール配信サービス（Ｓネット） - 31 -
(3) 電話による緊急連絡網（教職員） - 35 -
(4) 電話による緊急連絡網（各学科） - 36 -
(5) 担任からの緊急電話連絡網（各クラス） - 37 -
(6) 佐世保高専ホームページでの緊急連絡サイト - 38 -
(7) 関係機関連絡先及び防災・災害等情報先一覧 - 39 -
(8) 電話各社の災害時用 伝言ダイヤル・伝言板 - 42 -
第4章　学生寮における緊急時の対応 - 43 -
1、火災発生時の対応 - 43 -
2、地震発生時の対応 - 44 -
3、自然災害（台風・大雨・大雪等）時の対応 - 45 -
4、不審者侵入時の対応 - 46 -
5、不審物発見時の対応 - 47 -
6、急病人・けが人発生時の対応 - 48 -
7、夜間帰宅時の対応 - 49 -
8、玄関ブザー（Ｆ棟のみ）が鳴動した時の対応 - 50 -
9、緊急時の連絡先・緊急連絡網 - 51 -
第５章　安全管理 - 53 -
1、校内安全点検 - 53 -
2、安全教育・啓発活動 - 54 -
第６章　その他（教職員や学生の生活に関すること） - 55 -
1、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント - 55 -
2、メンタルヘルス - 56 -
3、各種トラブル（いじめ,暴力,自殺予告,不登校,家出,発達障害,学級崩壊など） - 57 -
4、苦情対応（保護者，地域住民等） - 58 -

《付録》 - 59 -
○負傷者発生時の応急手当 - 59 -
○警察安全相談窓口 - 64 -
ii

（出典　緊急対応マニュアル）

資料８－１－①－16

「安全の手引き」



安全の手引き

佐世保工業高等専門学校
安全教育委員会

実験・実習時の事故・ケガ・急病の対応

事故・ケガ・急病の発生

事故・ケガ・病人の状況把握

緊急な場合

軽傷

重症

救急車を手配
外線(119)

● 応急処置を行う
● 症状に応じて
保健室へ連れて行く

保健室
内線(424)
0956-34-8422

学生課
内線(255)
0956-34-8420
(関係部署へ連絡)

学科長・担任等へ連絡
(関係部署へ連絡)

救急車、あるいはタクシーの手配

※救急車要請の基本的な目安
a. 意識喪失　b. ショック状態　c. けいれん　d. 激痛の持続するもの
e. 多量の出血　f. 骨の変形　g. 大きな開放創　h. 広範囲な火傷　i. 重責発作

【救急車を呼ぶときの要領】
①119番に電話する。
②先方が出たら「救急車をおねがいします」とはっきり言う。
③次に「こちらは沖新町の佐世保高専です。本校の○○棟○階○○室で
負傷者が出ました。」と告げる。
④通報者の氏名を伝え、続いて負傷者の人数、性別、年齢、症状を告げる。
⑤救急隊員の到着までの時間、必要な措置について指示を受ける。

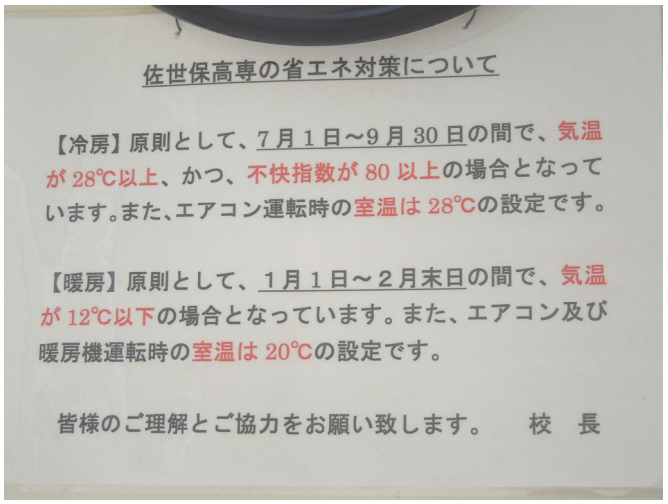
（出典　安全の手引き）

資料８－１－①－17

佐世保高専の省エネ対策について







（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程・専攻科課程の学生を教育するにふさわしい施設・設備を有し，高等専門学校設置基準に規定される校地及び校舎，図書館などの施設が整備され，有効に活用している。

実習工場，実験設備等の使用に関しては，全学生ならびに教職員に「安全の手引き」等を配布し，安全教育にも取り組んでいる。

主要な建物入口には段差解消スロープを，管理棟校舎と図書館及び改修がなされる電気電子・物質工学科棟にはエレベータを設置している。これらにより，学校内のバリアフリー化がさらに推進される。環境面においては，太陽光パネルによる電力の利用や「電力の見える化」により，学校全体として省エネ対策に取り組んでいる。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

情報処理センター（以下センター）は，十分なセキュリティ管理の下に校内のネットワーク環境を整備している（資料８－１－②－１，２）。

平成 24 年度においては，情報処理教育や自主学習で学生が使用するパソコンとして，センターが管理する情報処理センター第 1 演習室，CAD 室に合計 109 台を備え，各教員が管理する教室や実験室などには研究用パソコンが約 450 台設置されている（資料８－１－①－３参照）。

これら管理体制の組織や業務は，情報処理センター規則を定め（資料８－１－②－３），正副センター長を中心に各学科から選任されたセンター員が運営している。センターの利用については情報処理センター利用細則に定めている（資料８－１－②－４）。

平成 24 年度に行われたネットワーク更新後の本校の情報セキュリティシステムの構成は，外部からの侵入や通信妨害を遮断するファイアウォール，電子メールなどによるコンピュータウィルスの脅威から守るウィルス駆除ソフトなどであり，複数の手段を講じている。特に，ウィルス対策としては，ファイアウォール，メールサーバー及び各教職員が使用するクライアントパソコンにおいて積極的に利用している（資料８－１－②－５）。また，センター内の主要な設備を有する部屋は，暗証番号ドアロックを設け，人的な外部からの侵入を防ぐ手段を講じている。

情報セキュリティ管理委員会は，情報セキュリティの確保，対策，セキュリティポリシーの策定・実施・周知，セキュリティインシデント防止策の策定・実施，情報セキュリティ教育の実施，等に関する事項を審議する（資料８－１－②－６）。この一貫として，各種情報セキュリティ規程を策定した

観点８－１－②資料一覧

（資料８－１－②－１）	情報処理センター　システム構成	出典：情報処理センター資料
（資料８－１－②－２）	校内 LAN 構成図	出典：情報処理センター資料
（資料８－１－②－３）	情報処理センター規則	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－４）	情報処理センター利用細則	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－５）	情報セキュリティシステムの概要	出典：情報処理センター資料
（資料８－１－②－６）	情報セキュリティ管理委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－７）	情報セキュリティ管理規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－８）	情報セキュリティ推進規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－９）	情報セキュリティ教職員規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－10）	情報セキュリティ利用者規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－11）	情報セキュリティ推進委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－12）	情報セキュリティ責任者等に関する規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－１－②－13）	情報リテラシーに関する例（情報処理Ｉ　１Ｍ）	出典：平成 24 年度シラバス
（資料８－１－②－14）	情報リテラシーに関する例（地理学　４ＭＥＳＣ）	出典：平成 24 年度シラバス
（資料８－１－②－15）	情報リテラシーに関する例（情報処理１　１Ｃ）	出典：平成 24 年度シラバス

（資料８－１－②－７～12)。これらの規定の中では，情報セキュリティのための基本方針，組織・管理・運用体制と管理者・利用者が遵守する事項，物理的・人的・技術的セキュリティ確保について定めている。これらにより，十分なセキュリティ管理のもと，校内の情報ネットワークシステムが維持・推進され，利用・運営が行われている。

利用状況は，月曜から金曜日まで情報処理センター演習室第 1 演習室，CAD 室とも高い使用頻度となっている（資料８－１－①－７参照)。各学科の専門科目として行われる情報処理科目の中で，情報リテラシーに関する内容も組み込んでいる（資料８－１－②－13～15)。また，平成 24 年度に行われた校内 LAN システムの更新時に，学内全域をカバーする無線 LAN 環境整備も行ったことで，学生及び教職員が必要な時に必要な場所で校内ネットワークシステムを利用することが可能となり，利用者の利便性の向上につながっている。

資料８－１－②－１

情報処理センター　システム構成

１．教育用電子計算機システム

AD 認証サーバ（2 台）
　DELL PowerEdge R410
　Windows Server Standard 2008
AD ファイルサーバ
　DELL PowerEdge R710
　MS Windows Server Enterprise 2008
ネットブートサーバ（4 台）
　DELL PowerEdge R410
　MS Windows Server Standard 2008
クライアント PC（DELL 102 台）
　DELL Optiplex760 SFF
　MS Windows Vista Business
クライアント PC（Lenovo 7 台）
　Lenovo H330 11856BJ
　MS Windows Vista Business
　CentOS 2.6（on VM-Ware）
教育用ソフトウェア（各クライアント PC）
　MS Office Standard 2007
　PTC Pro Engineer WildFire5.0（3D-CAD）
　ラネクシー Ch Professional 6.0
　MS Visual Studio 2008 Express Edition

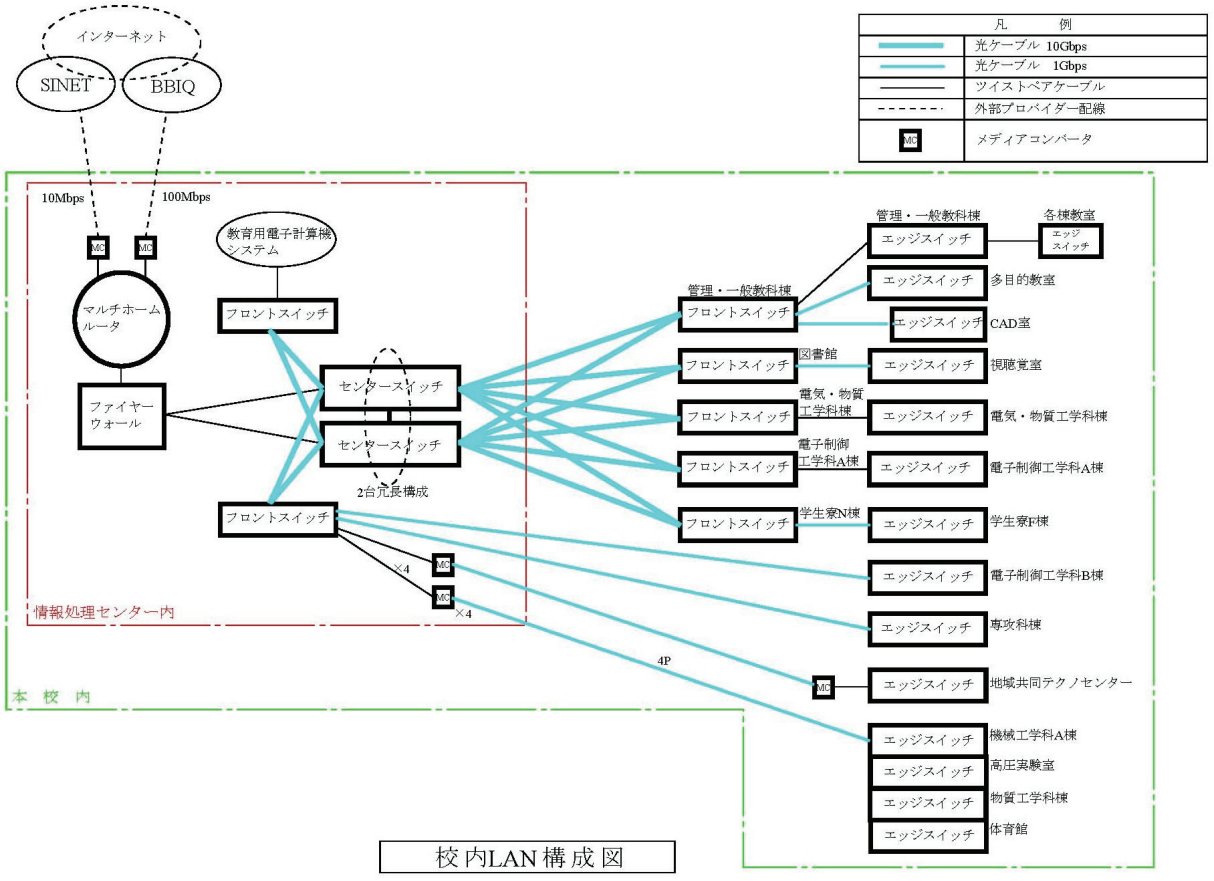
２．LAN 主要機器

センタースイッチ（2 台冗長）
　AlaxalA AX-S3830-44XWA2A
フロントスイッチ
　AlaxalA AX-S3650-24T6XWA1L（5 台）
　AlaxalA AX-2530-24T4X-B（5 台）
エッジスイッチ（45 台）
　AlaxalA AX-2530-24T-B
無線アクセスポイント（90 台）
　sisco AIR-LAP1042N-P-K9
通信速度
　幹線：10Gbps,1Gbps
　支線：1Gbps

（出典　情報処理センター資料）

資料８－１－②－２

校内 LAN 構成図



校内LAN構成図

（出典　情報処理センター資料）

資料８－１－②－３

佐世保工業高等専門学校情報処理センター規則　（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、佐世保工業高等専門学校学則第６条の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第２条　センターは、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究のための共同利用施設として、情報処理教育の推進及び情報処理システムの高度化を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。
一　情報処理システムの研究開発及び管理保全に関すること。
二　教育用電算機システムの利用に関すること。
三　校内ＬＡＮの利用に関すること。
四　学生に対する情報処理教育に関すること。
五　他高専等とのコンピュータの相互利用に関すること。
六　その他情報処理に関すること。
（組織）
第４条　センターに、次の各号に掲げる教職員を置く。
一　センター長
二　副センター長
三　センター員
四　その他校長が必要と認めた教職員
（センター長）
第５条　センター長は、本校専任教員の中から校長が選任する。
２　センター長は、センターを統括する。
３　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。
４　センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（副センター長）
第６条　副センター長は、本校専任教員の中からセンター長の推薦により校長が命ずる。
２　副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務に従事する。
３　副センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。
４　副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（センター員）
第７条　センター員は、本校専任教員及び職員の中からセンター長の推薦により校長が命ずる。
２　センター員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。
３　センター員の任期は２年とし、再任を妨げない。
４　センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（運営委員会）
第８条　センターに、センターの運営に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校情報処理センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第９条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
（委員会の組織）
第１０条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　センター長
二　教務主事
三　専攻科長及び専攻科副科長のうちから選出された教員　１名
四　各学科及び一般科目から選出された教員　各１名
五　副センター長
六　センター員
七　総務課長及び学生課長
八　その他校長が必要と認めた教職員
２　前項第４号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　第１項第４号の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

資料８－１－②－３続き

（委員長）
第１１条　委員会の委員長は、前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第１２条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第１３条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（専門委員会）
第１４条　委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。
（事務）
第１５条　委員会の事務は、技術室において処理する。
（雑則）
第１６条　この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－１－②－４

佐世保工業高等専門学校情報処理センター利用細則（平成１６年４月１日制定）

佐世保工業高等専門学校情報処理センター利用細則（平成１１年３月２６日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第１条　この細則は、佐世保工業高等専門学校情報処理センター規則第１６条の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）の利用について、必要な事項を定めるものとする。

（利用の範囲）

第２条　センターの利用は、次の各号に掲げる場合とする。

一　学生に対する情報処理教育に関する授業及びこれに伴う演習

二　学生の実験実習及び卒業研究

三　教職員の研修及び研究

四　事務処理

五　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）が主催する行事

六　その他センター長が必要と認めた場合

（利用資格）

第３条　センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

一　本校教職員

二　本校学生

三　センター長が許可した者

（利用申請）

第４条　センター長が必要と認めた場合は、申請書を提出し承認を得なければならない。

（利用時間）

第５条　センターの利用は、原則として、平日の午前８時３０分から午後６時３０分までとする。

（利用者の遵守事項）

第６条　センターの利用を認められた者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一　ユーザＩＤを当該利用目的以外に使用し、または他人に使用させないこと。

二　パスワードを他人に知られないように留意する等セキュリティへ配慮すること。

三　センターの機器及びソフトウェアに支障をきたすような使用をしないこと。

四　他の利用者に支障をきたすような利用をしないこと。

五　有償ソフトウェアの不法複製等、違法な行為はしないこと。

六　公序良俗に反する行為はしないこと。

七　営利、宣伝行為はしないこと。

八　その他の利用に際しては、センター員の指示に従うこと。

（利用の制限）

第７条　センターの機能を著しく低下する恐れがある場合や授業に支障をきたす恐れがある場合は、利用を制限することがある。

（利用の停止）

第８条　利用者がこの細則に違反し、又はセンターの運営に重大な支障を生じさせたときは、センター長はその利用の承認を取り消し、または利用を停止させることができる。

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－１－②－５

情報セキュリティシステムの概要

１．システム構成

本校 LAN は外部とは民間の専用線を介して SINET の長崎大学ノードと接続されると共に FTTH の BBIQ もマルチホームルータを介して併用している。外部からの侵入や通信妨害、電子メール添付ファイルや FTP によるコンピュータウィルスなどの脅威への対策として、本校では複数の手段を用いている。「図１」はネットワーク上の構成を示す。

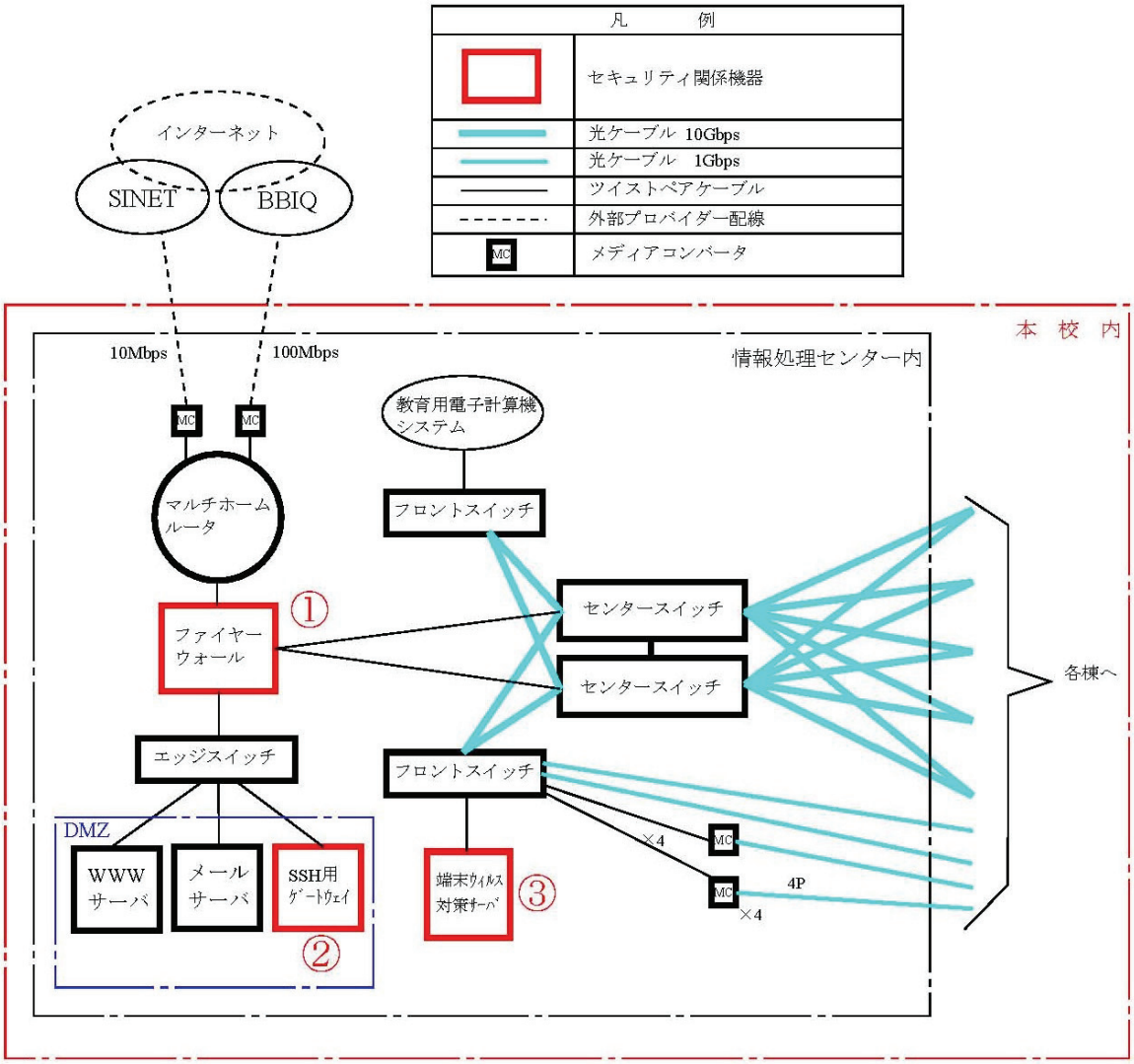


図１　セキュリティシステムの構成

外部インターネット側から順に①～③で示す位置に構成要素がある。

２．構成要素について

以下にセキュリティシステムの各構成要素について説明する。各項目の○囲み番号は

「図１」中の番号に対応する。

①ファイヤーウォール

各ポート間と通信リクエストの方向と通信プロトコルを指定して細かい制限設定をしている。外部から内部への接続だけではなく、外部に対する制限も加えることによって P2P などによる校内ユーザによる不正通信も遮断している。また、電子メール通信に含まれるマルウェアを検知して駆除する機能もあり、実用している。

②SSH用ゲートウェイ

外部から内部に対する遠隔端末エミュレータによる通信をここで受け付けてログインさせる。予め登録されたユーザだけしか受け付けない。

③端末ウィルス対策用サーバ

校内端末用に Symantec Endpoint Protection の契約をしており、これの管理サーバを稼働している。ウィルス定義ファイルの配布やクライアントの状態把握、クライアントへのコマンド送信ができる。

３．部屋出入り口の施錠

情報処理センター内のセキュリティ上特に重要な、LAN 管理室と事務室の出入り口には暗証番号によるドアロックを設けている。これにより頻繁な施錠による鍵や鍵穴の摩耗を心配せずにこまめに施錠できるようになった。暗唱番号入力用テンキーは毎回番号配列がランダムに変わる機能があるので、キーの汚れや摩耗から暗唱番号が推測される恐れが無い。「図２」にその配置と外観を示す。

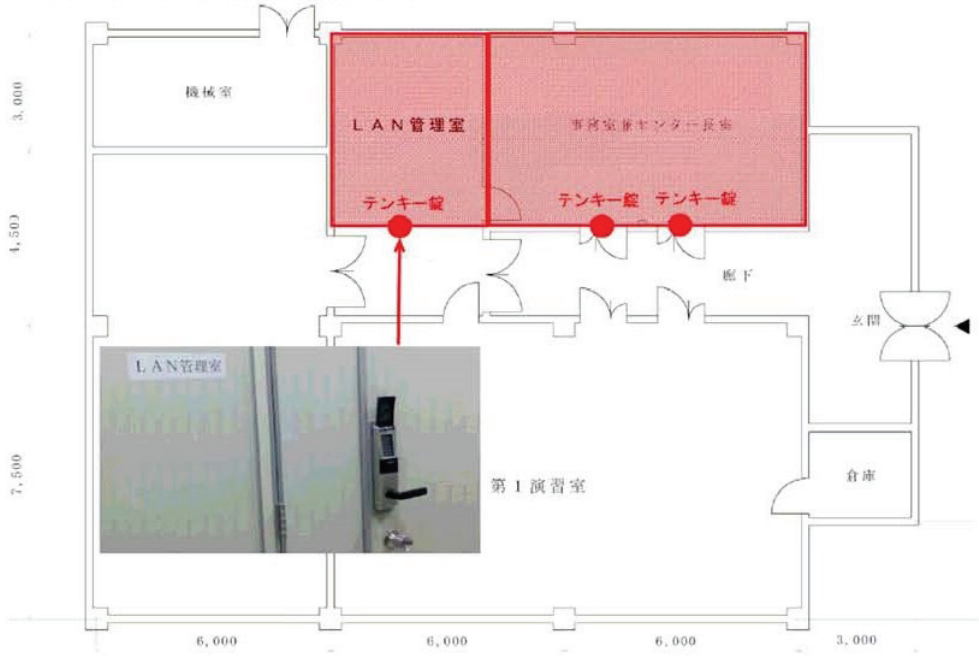


図２　テンキー錠位置と外観

（出典　情報処理センター資料）

資料８－１－②－６

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ管理委員会規程（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則第１５条、第１６条及び第１９条の規定に基づき佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ管理委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　実施規程及び実施手順の制定並びに改廃
二　情報セキュリティポリシー、実施規則、実施規程及び実施手順に関し、当該規則等の実施、周知徹底、遵守及び励行の推進、違反に対する措置並びに遵守事項の調査
三　情報セキュリティ教育
四　リスク管理及び非常時行動計画の策定並びに実施
五　情報セキュリティインシデント防止策の策定及び実施
六　例外措置の許可権限者の選任
七　情報セキュリティの強化に関する調査及び検討
八　情報セキュリティに関する情報の調査及び周知
九　実施規程及び実施手順の実施状況の評価及び見直し
十　その他情報セキュリティに関する事項
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　情報セキュリティ責任者
二　情報セキュリティ副責任者
三　情報セキュリティ管理者
四　情報セキュリティ推進責任者
五　その他情報セキュリティ責任者が必要と認める者
２　前項第５号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、委員の欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、校長をもって充てる。
２　委員長は委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の３分の２の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第７条　委員会の事務は、情報処理センター及び総務課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－１－②－７

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程（平成２２年１０月１日制定）

第１章　総則
（目的）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項および管理的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。
２　情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規程による。
（定義）
第２条　この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）別表及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号）の定めるところによる。
（適用範囲）
第３条　この規程を適用する情報資産の範囲は、機構が扱う情報及び本校の情報システムとする。
２　本校の情報システムの範囲は、別表１のとおりとする。
第４条　本校の教職員の範囲は、別表２のとおりとする。
２　本校の学生の範囲は、別表３のとおりとする。
３　本校の教職員、学生、及び第９条第１項に基づき情報資産を本校の業務遂行を目的として一定期間にわたり継続的に利用する許可を得て利用する者を「経常的利用者」と称する。
４　第９条第２項に基づき情報資産を臨時に利用する許可を得て利用する者を「臨時利用者」と称する。
５　本校の教職員、及び第９条第１項に基づき情報資産を本校の業務遂行を目的として一定期間にわたり継続的に利用する許可を得て利用する者を「業務従事者」という。
第５条　この規程の適用区域は、本校の管理区域とする。
２　本校の管理区域の範囲は、別図１及び別表４のとおりとする。
（組織体制）
第６条　本校の情報セキュリティ対策における管理的業務は、情報セキュリティ管理委員会及び情報セキュリティ推進委員会が責任を持ち、情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ推進責任者が主として執り行うものとする。
２　前項に係る各委員会及び役職の役割分担は、次の各号に掲げるとおりとする。
一　情報セキュリティ管理委員会　一般的管理業務について責任を持つ。
二　情報セキュリティ推進委員会　専門的及び技術的管理業務について責任を持つ。
三　情報セキュリティ責任者　情報セキュリティ対策業務の統括、実施規程及び実施手順の制定並びに改廃を主として執り行う。
四　情報セキュリティ副責任者　一般的管理業務を主として執り行う。
五　情報セキュリティ推進責任者　専門的及び技術的管理業務を主として執り行う。
３　前項の規定にかかわらず、緊急時又は特に必要と認める時において、情報セキュリティ責任者はその責任において前項各号に掲げる業務を直接執り行うことができるものとする。
４　情報セキュリティ管理者は第２項第四号に規定する情報セキュリティ副責任者の、情報セキュリティ推進員は第２項第五号に規定する情報セキュリティ推進責任者の役割をそれぞれ割り当てられた範囲で補佐し又は代行するものとする。
５　本校の情報セキュリティ全般に関する事務は、総務課が執り行うものとする。
（管理的業務遂行における禁止事項）
第７条　情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者、情報セキュリティ管理者、情報セキュリティ推進責任者及び情報セキュリティ推進員は、管理者権限を濫用してはならない。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－②－８

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程（平成２２年１０月１日制定）

第１章　総則
（目的）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項について定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。
（定義）
第２条　この規程における用語の定義及び範囲は、この規程に定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号）別表、独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号）及び本校の情報セキュリティ管理規程（以下「管理規程」という。）の定めるところによる。

第２章　情報システムのライフサイクル
第１節　設置時
（セキュリティホール対策）
第３条　情報セキュリティ推進責任者は、情報システムのセキュリティホールに関する情報を収集し、書面として整備するものとする。
２　情報セキュリティ推進責任者は、前項の規定に基づき入手した情報から、当該セキュリティホールが情報システムにもたらすリスクを分析した上で、次の各号に掲げる事項について判断し、セキュリティホール対策計画を作成するものとする。
一　対策の必要性
二　対策方法
三　対策方法が存在しない場合の一時的な回避方法
四　対策方法又は回避方法が情報システムに与える影響
五　対策の実施予定
六　対策テストの必要性
七　対策テストの方法
八　対策テストの実施予定
３　情報セキュリティ推進責任者は、信頼できる方法でセキュリティホール対策用ファイルを入手するとともに、当該ファイルの完全性検証方法が用意されている場合は、検証を行うものとする。
４　情報セキュリティ推進責任者は、管理下にある情報システム（公開されたセキュリティホールの情報がない情報システムを除く。）について、セキュリティホール対策計画に基づきセキュリティホール対策を講ずるものとする。
５　情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ推進責任者は、利用者に対する留意事項を含む日常的セキュリティホール対策を定め、その実施を管理及び監督するものとする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－②－９

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規程（平成２２年１０月１日制定）

第１章　総則
（目的）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティの維持向上のために本校の教職員が遵守すべき事項を定めるものである。
（定義）
第２条　この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号）別表、独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号。以下「格付規則」という。）、並びに本校情報セキュリティ管理規程（以下「管理規程」という。）別表１から別表４まで及び別図１の定めるところによる。
（適用範囲）
第３条　この規程は機構の扱う情報及び本校の情報システムを対象とする。
２　本校の情報システムの範囲は管理規程別表１のとおりとする。
第４条　　本校の教職員の範囲は、管理規程別表２のとおりとする。
２　本校の学生の範囲は、管理規程別表３のとおりとする。
３　本校の教職員、学生及び第４３条に基づき情報資産を本校の業務遂行を目的として一定期間にわたり継続的に利用する許可を得て利用する者を「経常的利用者」と称する。
４　第４４条に基づき情報資産を臨時に利用する許可を得て利用する者を「臨時利用者」と称する。
第５条　本校の管理区域の範囲は管理規程別図１及び別表４のとおりとする。
（一般的遵守事項）
第６条　本校の教職員は、情報セキュリティ関連法令、機構の情報セキュリティポリシー及び実施規則、並びに本校の実施規程及び実施手順を遵守しなければならない。
（一般的禁止事項）
第７条　本校の教職員は、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。
一　差別、名誉毀損、誹謗中傷、人権侵害、ハラスメントにあたる行為
二　個人情報やプライバシーを侵害する行為
三　守秘義務に違反する行為
四　著作権等の知的財産権や肖像権を侵害する行為
五　公序良俗に反する行為
六　本校の社会的信用を失墜させるような行為
七　ネットワークを通じて行う通信の傍受等、通信の秘密を侵害する行為
八　不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成１１年法律第１２８号）に定められたアクセス制御を免れる行為、又はこれに類する行為
九　過度な負荷等により円滑な情報システムの運用を妨げる行為
十　その他法令に基づく処罰の対象となり、又は損害賠償等の民事責任を発生させる行為
十一　上記の行為を助長する行為
（機構が扱う情報及び本校の情報システムの利用に係わる禁止事項）
第８条　本校の教職員は、機構が扱う情報及び本校の情報システムについて、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。
一　本校の業務遂行以外の目的で利用すること、及び利用資格のない者に利用させること。
二　機密性３又は機密性２である情報を開示すること
三　情報セキュリティ推進責任者の許可を得ずに、新たにソフトウェアインストールすること及びコンピュータの設定の変更を行うこと。ただし、オープンソースソフトウェアについては「PC 取扱ガイドライン」によるものとする。
四　情報セキュリティ推進責任者の許可を得ずに、新たにコンピュータシステムを本校内に設置すること及び本校のネットワークに接続すること。
五　情報セキュリティ副責任者の許可を得ずに、本校の情報システムを利用して情報公開を行うこと。
六　情報セキュリティ責任者又は情報セキュリティ副責任者の要請に基づかずに本校内通信回線と本校外通信回線を接続すること。
七　情報セキュリティ責任者又は情報セキュリティ副責任者の許可なくネットワーク上の通信を監視し、又は情報システムの利用情報を取得すること。ただし、本校の実施規程においてその実行が義務付けられる場合は除く。
八　情報セキュリティ責任者又は情報セキュリティ副責任者の要請に基づかずに管理権限のないシステムのセキュリティ上の脆弱性を検知すること。ただし、本校の実施規程においてその実行が義務付けられる場合は除く。
２　ファイルの自動公衆送信機能を持った P2P ソフトウェアについては、教育・研究目的以外にこれを利用してはならない。なお、当該ソフトウェアを教育・研究目的に利用する場合は情報セキュリティ副責任者の許可を得なければならない。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－②－10

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規程（平成２３年１１月１５日制定）

目次
第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　情報システムの利用（第８条－第 17 条）
第３章　情報の取扱い（第 18 条）
第４章　教育（第 19 条）
第５章　情報セキュリティインシデント対応（第 20 条）
第６章　違反報告（第 21 条）

第１章　総則
（目的）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティの維持向上のために情報システムを利用する者が遵守すべき事項を定めるものである。
（定義）
第２条　この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号）別表、独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号。以下「格付規則」という。）の定めるところによる。
（適用範囲）
第３条　この規程は、本校の情報システムを対象とする。
（適用対象）
第４条　この規程は、本校の情報資産を利用する本校の教職員を除く利用者に適用する。
（一般的遵守事項）
第５条　利用者は、この規程及び本校情報資産の利用に関する各実施手順等を遵守するとともに、その他関連規則を遵守しなければならない。
２　利用者は、立入り権限のない安全区域へ立入ってはならない。
（一般的禁止事項）
第６条　利用者は、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。
一　差別、名誉毀損、誹謗中傷、人権侵害、ハラスメントにあたる行為
二　個人情報やプライバシーを侵害する行為
三　守秘義務に違反する行為
四　著作権等の知的財産権や肖像権を侵害する行為
五　公序良俗に反する行為
六　本校の社会的信用を失墜させるような行為
七　ネットワークを通じて行う通信の傍受等、通信の秘密を侵害する行為
八　不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成１１年法律第１２８号）に定められたアクセス制御を免れる行為又はこれに類する行為
九　過度な負荷等により円滑な情報システムの運用を妨げる行為
十　その他法令に基づく処罰の対象となり又は損害賠償等の民事責任を発生させる行為
十一　上記の行為を助長する行為
（本校の情報システムの利用に係わる禁止事項）
第７条　利用者は、本校の情報システムについて、予め情報セキュリティ推進責任者から許可を得ている場合を除き、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。
一　利用を許可された以外の目的で利用すること及び利用資格のない者に利用させること。
二　新たにソフトウェアをインストールすること及びコンピュータの設定の変更を行うこと。
三　新たにコンピュータシステムを本校内に設置すること及び本校のネットワークに接続すること。
四　本校の情報システムを利用して情報公開を行うこと。
五　ネットワーク上の通信を監視し、又は情報システムの利用情報を取得すること。
六　管理権限のないシステムのセキュリティ上の脆弱性を検知すること。
２　ファイルの自動公衆送信機能を持った P2P ソフトウェアについては、教育・研究目的以外にこれを利用してはならない。なお、当該ソフトウェアを教育・研究目的に利用する場合は情報セキュリティ副責任者の許可を得なければならない。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料８－１－②－11

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ推進委員会規程（平成２３年１１月１５日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則第１７条、第１８条及び第１９条の規定に基づき佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題の審議
二　情報システムに関わる情報セキュリティインシデントの発生時の対応
三　情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ管理者への専門的及び技術的立場からの助言及び支援
四　その他情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題に関する事項
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　情報セキュリティ推進責任者
二　情報セキュリティ推進員
三　その他情報セキュリティ推進責任者が必要と認める者
２　前項第４号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、委員の欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、情報処理センター長をもって充てる。
２　委員長は委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の３分の２の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（事務）
第７条　委員会の事務は、情報処理センター及び総務課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－１－②－12

佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ責任者等に関する規程（平成２３年１１月１５日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則第 10 条から第 14 条の規定に基づき佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ責任者等に関し、必要な事項を定めるものとする。
（情報セキュリティ責任者）
第２条　本校の情報セキュリティに責任を持つものとして、情報セキュリティ責任者を置き、校長をもって充てる。
２　情報セキュリティ責任者は、学校における次の各号に掲げる業務を行う。
一　情報セキュリティポリシー及び実施規則の実施の統括
二　実施規程及び実施手順の制定及び改廃、並びにその実施の統括
三　情報セキュリティ教育の統括
四　学校非常時対策本部の設置及びその本部長の任務
五　情報セキュリティに関する連絡及び通報に関する代表
六　情報セキュリティ副責任者、情報セキュリティ管理者、情報セキュリティ推進責任者及び情報セキュリティ推進員の指名
七　情報セキュリティに関する各種問題の処置
八　実施規程及び実施手順の実施状況の評価及び見直しの総括
九　その他の情報セキュリティ対策業務の統括
（情報セキュリティ副責任者）
第３条　本校に情報セキュリティ副責任者を置き、副校長（教務主事）及び事務部長をもって充てる。
２　情報セキュリティ副責任者は、情報セキュリティ責任者を補佐し業務を代行する。
（情報セキュリティ管理者）
第４条　本校に情報セキュリティ管理者を置き、各学科長、一般科目長、総務課長及び学生課長をもって充てる。
２　情報セキュリティ管理者は、情報セキュリティ責任者の指示により割り当てられた範囲の情報セキュリティ業務を行う。
（情報セキュリティ推進責任者）
第５条　本校に情報セキュリティ推進責任者を置き、情報処理センター長をもって充てる。
２　情報セキュリティ推進責任者は、情報セキュリティ対策業務における専門的及び技術的問題への対応を行う。
（情報セキュリティ推進員）
第６条　本校に情報セキュリティ推進員を置き、情報処理センター員及び図書・情報係長をもって充てる。
２　情報セキュリティ推進員は、情報セキュリティ推進責任者の指示により割り当てられた範囲の専門的及び技術的問題への対応を行う。
（その他）
第７条　この規程に定めるもののほか、情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者、情報セキュリティ推進責任者及び情報セキュリティ推進員に関し必要な事項は、校長が別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－１－②－13

情報処理Ⅰ　　担当者：貞弘晃宜 SADAHIRO Teruyoshi　中浦茂樹 NAKAURA Shigeki
Information Processing Ⅰ
１Ｍ１単位（必修）　後期 100 分／週授業回数 15 回（30 時間）
授業概要：情報教育の導入として、ネットワークの活用法や情報セキュリティ、ハードウェアの基礎知識、ＯＳとそれらに必要な基礎的な数理について学ぶ。また、今後の授業で必要となるコンピュータを利用した文章作成、表計算とグラフ作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。
予備知識：　必要なし
（第２週）WWW と インターネットの情報活用
（第 12 週）コンピュータの構成と入出力
（第 13 週）オペレーティングシステム
到達目標：コンピュータの基礎知識とそれらに必要な数理、今後必要となるアプリケーション・ソフトウェアを利用した情報処理の方法を習得する。

（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

資料８－１－②－14

地理学　　担当者：　牧野一成MAKINO Kazunari
Geography
4 MESC 2 単位（選択）　前･後期 100 分／週授業回数 30 回（60 時間）　講義室：教員室
授業概要：最新の統計資料や各種データベースの利用および地域調査の実践により，地理的分野のみならず広範にわたる現代社会の諸問題を主体的に考察させ，理解を深めるとともに，情報機器を活用し情報リテラシーの向上を図る。
予備知識：　パソコンの基本操作,インターネット利用の基礎については習熟しておくことが望ましい。
（第 10 週）人口統計の種類，インターネットによる人口統計資料の入手と加工
（第 21 週）web による成果公開のための HTML 基礎編，画像ファイルの処理
（第 22 週）web による成果公開のための HTML 応用編，unix の基礎，FTP
（第 23 週）課題探索型演習（1），web による成果公開と著作権
到達目標：　課題探索型演習の成果を web 上で公開できる

（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

資料８－１－②－15

情報処理１　　担当者：　田中泰彦 TANAKA Yasuhiko　越村匡博 KOSHIMURA Masahiro
Information Processing 1
１Ｃ１単位（必修）　前･後期 50 分／週授業回数 30 回（30 時間）講義室：ＣＡＤ室あるいは情報処理室
授業概要：情報処理の初学者を対象とする。情報リテラシーの必要性について理解する。マイクロソフト社のオフィスソフト（ワード，エクセル，パワーポイント）を利用して文書の作成，表計算，グラフ作成，プレゼンテーション資料の作成を行う。
予備知識：ウィンドウズ パソコンの基本操作（マウスの操作ができる。キーボードから文字を入力(かな入力，あるいはローマ字入力のいずれか)ができる。）
（第 16 週）エクセルの基本操作１
（第 17 週）エクセルの基本操作２
（第 18 週）エクセルによるレポート課題１
到達目標：　パソコンの操作方法が理解できる。インターネットや電子メールを使用することができる。Word で文書作成ができる。Excel で表計算ができる。PowerPoint でプレゼンテーションができる。

（出典　平成 24 年度シラバス　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

情報処理センター演習室，CAD 室には多くの教育用パソコンを備え，また，教室・実験室・教員室などに設置されているパソコン等も，それらのほとんどが有線 LAN 及び無線 LAN により校内ネットワークに接続し，有効に活用されている。これらの利用においては，定められた各種情報セキュリティ規程のもとで適切に利用・運営が行われている。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整備されており，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校図書館では，平成 24 年 12 月現在で約９万冊の蔵書を有し，さらに，雑誌（248 タイトル），新聞８誌，視聴覚資料（DVD153 本，ビデオ 379 本，CD68 枚），図書館利用者用の機器（デスクトップパソコン３台，ノートパソコン５台，ポータブル DVD プレーヤー３台）を備えている。

準学士課程・専攻科課程の各学年・各学科・専攻科ごとに開講される授業科目（資料５－１－①－２～７参照）を履修する上で参考となる資料等は，図書館で収集・整理されており，学生は自由に利用することができる。図書館資料の収集は，図書委員会を中心として教員及び学生選書委員により行い，「日本十進分類法（NDC）（資料８－２－①－１）」によって図書係が整理している。この分類法により，授業に対応した資料を図書館蔵書の中から容易に探し出すことができる。また，学生の利用頻度が高い資格試験，就職・進学関連の資料，雑誌（専門・一般教養）については専用コーナーを設けている（資料８－２－①－２）。また，研究に必要な資料は，蔵書の他にも定期購読する和雑誌（77 種類）と電子ジャーナル（ScienceDirect・CiNii）・データベース（JDreamⅡ）の導入によって整備されている。これらにより，学生及び教員が一般教養や専門知識の修得，及び教育・研究に関する幅広い情報収集することを可能としている。

また，図書館利用状況は，長岡技科大・高専統合図書館システムを用いてデータ集計を行い，入館者数，貸出冊数，貸出人数で利用状況の把握に努めている（資料８－２－①－３）。

図書の収集方針は，第２期中期計画において「利用者のニーズに基づき計画的な図書の入替等を行い，蔵書の充実を図る」（資料８－２－①－４（別添８－１））を挙げており，年度計画に沿って図書館が活性化するような選書及び蔵書に努めている。具体的には，学生の本のリクエスト募集（リクエストボックスの設置），学生選書委員によるインターネットを利用した学生用図書の選書（資料８－２－①－５，６）および教員による学生用図書の選書である。また，平成 24 年度には記述が古く利用頻度の低い図書を除籍して新しい図書の受入が容易になった。

図書館利用に関しては，図書館利用規程及び図書館利用要項を定めている（資料８－２－①－７，８）。

観点８－２－①資料一覧

（資料８－２－①－１）	日本十進分類法（NDC）	出典：図書館資料
（資料８－２－①－２）	日本十進分類法による分類と図書館内専用コーナー	出典：図書館資料
（資料８－２－①－３）	入館者数・貸出冊数・貸出人数	出典：図書館資料
（資料８－２－①－４）	佐世保高専 第２期中期計画／平成 24 年度年度計画	出典：総務課資料
（資料８－２－①－５）	学生選書委員募集案内	出典：図書館資料
（資料８－２－①－６）	平成 24 年度 学生選書委員による選書リスト	出典：図書館資料
（資料８－２－①－７）	図書館利用規程	出典：佐世保高専規程集
（資料８－２－①－８）	図書館利用要項	出典：佐世保高専規程集
（資料８－２－①－９）	図書館報	出典：図書館報第 35 号
（資料８－２－①－10）	図書館ホームページ	出典：本校ウェブサイト

図書委員会を主体とした図書館利用促進の取り組みとして,図書館報の発行(資料８－２－①－９),学生選書委員による学生用図書の選書，JDreamⅡ・ScienceDirect・CiNii のデータベース・電子ジャーナルの学生向け利用講習会を行っている。また，平成 24 年度に図書館ホームページのリニューアルを行うなど，様々な利用者サービスの向上に努め（資料８－２－①－10)，平成 22 年度の入館者数は前年度分より減少したが，平成 24 年度は平成 22 年度分を上回る結果となった。

資料８－２－①－１

日本十進分類法（NDC）

第1次区分表（類目表）

0 総　記 General works
（図書館，図書，百科事典，一般論文集，逐次刊行物，団体，ジャーナリズム，叢書）

1 哲　学 Philosophy
（哲学，心理学，倫理学，宗教）

2 歴　史 History
（歴史，伝記，地理）

3 社会科学 Social Sciences
（政治，法律，経済，統計，社会，教育，風俗習慣，国防）

4 自然科学 Natural Sciences
（数学，理学，医学）

5 技　術 Technology
（工学，工業，家政学）

6 産　業 Industry
（農林水産業，商業，運輸，通信）

7 芸　術 The arts
（美術，音楽，演劇，スポーツ，諸芸，娯楽）

8 言　語 Language

9 文　学 Literature

資料８－２－①－１続き

第2次区分表（綱目表）

00 総記
01　図書館．図書館学
02　図書．書誌学
03　百科事典
04　一般論文集．一般講演集
05　逐次刊行物
06　団体
07　ジャーナリズム．新聞
08　叢書．全集．選集
09+　貴重書．郷土資料．その他の特別コレクション

10 哲学
11　哲学各論
12　東洋思想
13　西洋哲学
14　心理学
15　倫理学．道徳
16 宗教
17　神道
18　仏教
19　キリスト教

20 歴史
21　日本史
22　アジア史．東洋史
23　ヨーロッパ史．西洋史
24　アフリカ史
25　北アメリカ史
26　南アメリカ史
27　オセアニア史．両極地方史
28　伝記
29 地理．地誌．紀行

30 社会科学
31　政治
32　法律
33　経済
34　財政
35　統計
36　社会
37　教育
38　風俗習慣．民俗学．民族学
39　国防．軍事

40 自然科学
41　数学
42　物理学
43　化学
44　天文学．宇宙科学
45　地球科学．地学
46　生物科学．一般生物学
47　植物学
48　動物学
49 医学．薬学

50 技術．工学
51　建設工学．土木工学
52　建築学
53　機械工学．原子力工学
54　電気工学．電子工学
55　海洋工学．船舶工学．兵器
56　金属工学．鉱山工学
57　化学工業
58　製造工業
59 家政学．生活科学

60 産業
61　農業
62　園芸
63　蚕糸業
64　畜産業．獣医学
65　林業
66　水産業
67　商業
68　運輸．交通
69　通信事業

70 芸術．美術
71　彫刻
72　絵画．書道
73　版画
74　写真．印刷
75　工芸
76　音楽．舞踊
77　演劇．映画
78 スポーツ．体育
79 諸芸．娯楽

80 言語
81　日本語
82　中国語．その他の東洋の諸言語
83　英語
84　ドイツ語
85　フランス語
86　スペイン語
87　イタリア語
88　ロシア語
89　その他の諸言語

90 文学
91　日本文学
92　中国文学．その他の東洋文学
93　英米文学
94　ドイツ文学
95　フランス文学
96　スペイン文学
97　イタリア文学
98　ロシア・ソビエト文学
99　その他の諸文学

3

（出典　図書館資料）

資料８－２－①－２

日本十進分類法による分類と図書館内専用コーナー





（出典　図書館資料）

資料８－２－①－３

平成24年度　入館者数一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備　考
1		204	143		131		217	129	183		157	110	
2	39	129	38	198	86		190	104	176		39		
3	71			139	65	287	124		334				
4	67		211	116		193	174		229		169	113	
5	135		255	187		210	169	148	448		154	140	
6	30		250	210		134	24	111	381		175	143	
7		155	294	76		135		54	295	163	203	138	
8		160	330			44		188	196	148	225	77	
9	127	124	165	172			145	126	157	100	22		
10	173	58	149	320		293	94	198	318	183			
11	149	152	252	233		182	150		282	142		95	
12	167	23	310	169		281	146		117	19	209	101	
13	147		296	197		210	99	143	163		285	96	
14	34	154	333	38		346		160	183		254	91	
15		156	151			277	119	141	13	130	253	133	
16	107	96	99				132	158		133	161		
17	257	117	206	231			140	30	155	155	197		
18	275	137	309	153		413	142		118	119	299	106	
19	154	37	62	154		395	94	157	159	41	349	88	
20	121	71	64		100	377	14	82	161		319		
21	22		142	28	88	113		131	114	163	303	87	
22		211	186		115		131	160		123	207	110	
23		136	46	138	99	124	145			135	291		
24	208	173		215	88	220	148	43		175			
25	130	96	53	212		213	152		16	171	385	70	
26	139	34	185	174		234	136	219	49	39	243	127	
27	151		217	89	63	348	20	217			294	76	
28	27	156	142		67	121		234		184	271	109	
29		165	154		65	26	167	347		151		99	
30		124	30	163	82		105	374		116			
31		128		143	139		150			154			
合　計	2,730	2,996	5,072	3,755	1,188	5,176	3,327	3,654	4,247	2,744	5,464	2,109	
累　計	2,730	5,726	10,798	14,553	15,741	20,917	24,244	27,898	32,145	34,889	40,353	42,462	計
開館日数	22	24	28	23	13	23	26	23	22	21	24	20	269
1日平均入館者数	124.1	124.8	181.1	163.3	91.4	225.0	128.0	158.9	193.0	130.7	227.7	105.5	157.9
23年度実績													
入館者数	2,503	2,513	4,397	2,310	1,162	825		950	3,326	1,922	5,128	1,256	26,292
開館日	23	22	28	23	14	9		5	20	22	25	21	212
1日平均入館者数	108.8	114.2	157.0	100.4	83.0	91.7		190.0	166.3	87.4	205.1	59.8	
23年度比較													
入館者増減数	227	483	675	1,445	26	4,351	3,327	2,704	921	822	336	853	16,170

※　休館日

平成24年度クラス別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		1人平均貸出冊数
1M	0	14	5	3	2	14	8	6	0	7	5	3	67	1M	1.5
1E	24	8	18	15	4	8	16	7	17	8	8	16	149	1E	3.5
1S	59	27	15	13	0	27	20	8	13	22	16	13	233	1S	5.3
1C	55	101	33	29	0	101	29	21	38	28	4	24	463	1C	10.5
1年小計	138	150	71	60	6	150	73	42	68	65	33	56	912	1年小計	5.2
2M	4	11	2	9	0	11	9	2	8	16	11	5	88	2M	1.6
2E	12	14	17	47	1	14	40	75	48	98	13	12	391	2E	8.5
2S	4	13	3	7	0	13	14	10	2	9	0	17	92	2S	2.1
2C	11	3	15	12	1	3	20	14	8	24	1	8	120	2C	3.0
2年小計	31	41	37	75	2	41	83	101	66	147	25	42	691	2年小計	3.7
3M	20	30	2	11	0	30	13	9	21	8	4	6	154	3M	4.5
3E	39	26	17	35	4	26	34	32	12	37	20	4	286	3E	7.0
3S	35	27	9	20	0	27	26	15	9	33	6	9	216	3S	5.0
3C	3	3	16	7	0	3	7	6	13	8	11	2	79	3C	1.8
3年小計	97	86	44	73	4	86	80	62	55	86	41	21	735	3年小計	4.6
4M	10	27	14	19	9	27	1	12	1	16	0	6	142	4M	3.0
4E	20	45	27	45	18	45	26	38	43	49	28	40	424	4E	10.3
4S	27	27	11	28	6	27	20	31	24	67	65	13	346	4S	7.4
4C	19	18	5	14	6	18	25	22	13	55	10	47	252	4C	5.7
4年小計	76	117	57	106	39	117	72	103	81	187	103	106	1,164	4年小計	6.5
5M	10	12	0	2	8	12	16	1	4	15	1	0	81	5M	2.0
5E	29	39	28	20	11	39	48	22	15	55	6	0	312	5E	6.6
5S	24	38	14	14	6	38	15	2	13	17	2	0	183	5S	5.5
5C	41	57	28	40	13	57	27	3	23	19	13	0	321	5C	8.2
5年小計	104	146	70	76	38	146	106	28	55	106	22	0	897	5年小計	5.6
1AF	42	92	68	45	36	92	72	32	26	43	36	26	610	1AF	21.0
専攻科1小計	42	92	68	45	36	92	72	32	26	43	36	26	610	専攻科1小計	21.0
2AM	1	3	3	17	10	3	0	6	0	4	0	0	47	2AM	6.7
2AES	23	21	19	29	10	21	5	4	21	11	0	0	164	2AES	11.7
2AC	37	18	20	38	17	18	35	24	6	8	0	0	221	2AC	27.6
専攻科2小計	61	42	42	84	37	42	40	34	27	23	0	0	432	専攻科2小計	14.9
学生合計・平均	549	674	389	519	162	674	526	402	378	657	260	251	5,441	学生合計・平均	5.9
学生　1日平均	25.0	28.1	13.9	22.6	12.5	29.3	20.2	17.5	17.2	31.3	10.8	12.6	20.2	1日平均	
開館日	22	24	28	23	13	23	26	23	22	21	24	20	269	開館日	
教職員	80	93	39	51	56	93	82	102	71	171	99	56	993	教職員	
一般市民	36	26	18	15	10	26	15	10	18	18	15	11	218	一般市民	

資料８－２－①－３続き

平成24年度クラス別貸出人数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計		１人平均貸出回数
1M	0	4	3	1	1	0	4	4	0	2	4	1	24	1M	0.5
1E	8	4	6	4	2	4	5	3	8	2	3	3	52	1E	1.2
1S	23	5	5	5	0	3	5	3	6	4	6	2	67	1S	1.5
1C	19	11	8	8	0	3	8	5	13	2	2	7	86	1C	2.0
1年小計	50	24	22	18	3	10	22	15	27	10	15	13	229	1年小計	1.3
2M	2	4	1	1	0	2	5	1	1	4	2	2	25	2M	0.5
2E	5	4	4	14	1	3	15	20	24	24	4	4	122	2E	2.7
2S	2	8	2	2	0	1	2	3	2	3	0	4	29	2S	0.7
2C	4	3	4	6	1	0	3	3	2	6	1	2	35	2C	0.9
2年小計	13	19	11	23	2	6	25	27	29	37	7	12	211	2年小計	1.1
3M	11	3	2	3	0	1	3	2	6	2	1	2	36	3M	1.1
3E	12	10	6	11	1	6	6	9	7	12	8	1	89	3E	2.2
3S	14	5	3	6	0	4	9	8	4	11	3	3	70	3S	1.6
3C	1	2	5	3	0	2	5	2	8	2	2	2	34	3C	0.8
3年小計	38	20	16	23	1	13	23	21	25	27	14	8	229	3年小計	1.4
4M	4	8	3	6	4	4	1	4	1	4	0	3	42	4M	0.9
4E	10	16	13	9	7	15	13	12	20	17	12	12	156	4E	3.8
4S	9	4	3	7	3	4	7	9	9	13	12	4	84	4S	1.8
4C	9	10	4	5	2	6	8	6	6	14	4	14	88	4C	2.0
4年小計	32	38	23	27	16	29	29	31	36	48	28	33	370	4年小計	2.1
5M	7	7	0	1	3	4	5	1	1	9	1	0	39	5M	1.0
5E	14	8	9	10	3	20	10	10	9	25	3	0	121	5E	2.6
5S	11	8	6	4	2	9	4	2	4	7	1	0	58	5S	1.8
5C	24	14	8	9	5	18	11	3	11	9	5	0	117	5C	3.0
5年小計	56	37	23	24	13	51	30	16	25	50	10	0	335	5年小計	2.1
1AF	10	19	13	12	17	12	18	9	11	11	9	9	150	1AF	5.2
専攻科1小計	10	19	13	12	17	12	18	9	11	11	9	9	150	専攻科1小計	5.2
2AM	1	1	13	3	2	2	0	2	0	1	0	0	25	2AM	3.6
2AES	9	6	13	5	4	5	3	2	5	5	0	0	57	2AES	4.1
2AC	12	3	13	7	3	5	6	5	3	8	0	0	65	2AC	8.1
専攻科2小計	22	10	39	15	9	12	9	9	8	14	0	0	147	専攻科2小計	5.1
学生合計・平均	221	167	147	142	61	133	156	128	161	197	83	75	1,671	学生合計・平均	1.8
１日平均	10.0	7.0	5.3	6.2	4.7	5.8	6.0	5.6	7.3	9.4	3.5	3.8	6.2	１日平均	
開館日	22	24	28	23	13	23	26	23	22	21	24	20	269	開館日	
教職員	12	6	5	5	2	4	6	2	8	4	4	2	60	教職員	
一般市民	28	20	14	18	13	14	15	20	23	27	18	8	218	一般市民	

（出典　図書館資料）

資料８－２－①－５

学生選書委員募集案内

平成２４年１１月１６日

各学級担任　殿

図書館長

図書館購入図書のクラス選書委員の推薦について（依頼）

例年本校におきましては、学生の視点から学習等に必要な本を選書することで、より身近に図書館を感じてもらい、同時に読書への意識向上を目的として、本科生及び専攻科生を福岡市内の書店に派遣し、学生自らが図書館蔵書の選書・購入を行ってきました。
しかし、本年につきましては、創立５０周年記念事業の実施もあり、日程を確保することができません。
しかしながら、学生自らが図書館の蔵書を選書することは教育的にも意義のあることと考え、本年においては各学級から選書委員を推薦いただき、推薦いただいた選書委員に新刊リストの中から選書してもらうという方法をとりたいと思います。
以上趣旨をご理解いただき、１１月末までに下記により、各学級２名の選書委員の推薦をお願いいたします。
なお、推薦いただいた学生については、１２月１４日（金）放課後に説明を行いますので、図書館閲覧室に行くようご指導願います。

.....　キリトリ　.....

図書館長　殿

年　　組　　担任
氏　名

下記の学生を選書委員として推薦します。

委員　　氏　　名

委員　　氏　　名

（出典　図書館資料）

資料８－２－①－６

平成 24 年度 学生選書委員による選書リスト

クラス	書名	著者	出版社
1M	女の庭	花房　観音	幻冬舎
	日本人の知らない日本語　2	蛇蔵	メディアファクトリー
	独習Java　第4版	ジョゼフ・オニール	翔泳社
	海の見える街	畑野　智美	講談社
	同人音楽とその周辺	井手口　彰典	青弓社
	世界で闘うプログラミング力を鍛える150問	Gayle　Laakmann　McDow	マイナビ
	神去なあなあ夜話	三浦　しをん	徳間書店
	栢木先生のITパスポート教室　平成25年度	栢木　厚	技術評論社
	よくわかる最新画像処理アルゴリズムの基本と仕組み	長尾　智晴	秀和システム
	めっちゃ、メカメカ！リンク機構99→∞	山田　学	日刊工業新聞社
	ボーカロイドで作曲入門	岩井　悠	工学社
	Linuxの教科書　改訂版		アイ・ディ・ジー・インタラクテ
	KNOPPIX活用ガイド:Windows　PCメンテナンスブック	北浦　訓行	オーム社
	GIMP2．6スーパーリファレンスfor　Windows＆Macintosh	野沢　直樹	ソーテック社
2M	やさしい微積分	L．S．ポントリャーギン	筑摩書房
	数学が歩いてきた道	志賀　浩二	PHP研究所
	線型代数入門	松坂　和夫	岩波書店
	数学：教えるヒント、学ぶヒント　1	志賀　浩二	日本評論社
	数学：教えるヒント、学ぶヒント　2	志賀　浩二	日本評論社
	数と量の出会い	志賀　浩二	紀伊國屋書店
	変化する世界をとらえる	志賀　浩二	紀伊國屋書店
	数の悪魔　普及版	ハンス・マグヌス・エンツェンスベルガー	晶文社
	歪笑小説	東野　圭吾	集英社
	真夏の方程式	東野　圭吾	文藝春秋
	ロスト・シンボル　上	ダン・ブラウン	角川書店
	ロスト・シンボル　下	ダン・ブラウン	角川書店
	ロスト・シンボル　中	ダン・ブラウン	角川書店
	恐竜はなぜ鳥に進化したのか	ピーター　D．ウォード	文藝春秋
	深夜特急　1	沢木　耕太郎	新潮社
	深夜特急　2	沢木　耕太郎	新潮社
	深夜特急　3	沢木　耕太郎	新潮社
	深夜特急　4	沢木　耕太郎	新潮社
	深夜特急　5	沢木　耕太郎	新潮社
	深夜特急　6	沢木　耕太郎	新潮社
	これが物理学だ！	ウォルター・ルーウィン	文藝春秋
	面白くて眠れなくなる物理	左巻　健男	PHPエディターズ・グループ
	脳はバカ、腸はかしこい	藤田　紘一郎	三五館
3M	Never　Too　Late	田臥　勇太	日本文化出版
	はやぶさ遥かなる帰還	花井　良智	集英社
	名のないシシャ	山田　悠介	角川書店
	自殺プロデュース	山田　悠介	幻冬舎
	偽物語　下	西尾　維新	講談社
	偽物語　上	西尾　維新	講談社
	父、坂井三郎	坂井　スマート道子	産経新聞出版
	機械工学100年のあゆみ	日本機械学会	日本機械学会
	零戦の攻防	秋本　實	光人社
	太陽光発電システムの設計と施工　改訂4版	太陽光発電協会	オーム社
	意味がわかれば数学の風景が見えてくる　改訂合本	野崎　昭弘	ベレ出版
	ツナグ	辻村　深月	新潮社
	山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた	山中　伸弥	講談社
	教師が薦める大学　改訂新版	小園　修	エール出版社
	はじめての新TOEICテスト全パート総合対策	塚田　幸光	株式会社アスク出版
4M	速読速聴・英単語Basic2400　ver．2	松本　茂	Z会
	奄美方言	岡村　隆博	南方新社
	美しく書けるかな書道入門	高城　弘一	ナツメ社
	がらっと	山崎　拓巳	サンクチュアリ・パブリッシング
	光と影の法則	心屋　仁之助	経済界
	人間関係が「しんどい！」と思ったら読む本	心屋　仁之助	中経出版
	みさお　と　ふくまる	伊原　美代子	リトル・モア
	捨て犬のココロ	藤本　雅秋	ウェーブ出版
	日本の夜景	丸々　もとお	エンターブレイン
	メカトロニクス概論	古田　勝久	オーム社
	ひとことウチナーグチ	沖縄文化社	沖縄文化社
	江戸の数学教科書	桜井　進	集英社インターナショナル
	もしニーチェが短歌を詠んだら	中島　裕介	角川学芸出版
	もし「ランチェスターの法則」で恋愛戦略を立てるなら	大谷　由里子	佼成出版社
	書きあぐねている人のための小説入門	保坂　和志	草思社
	数学ガール	結城　浩	ソフトバンククリエイティブ
	大人の国語力大全	話題の達人倶楽部	青春出版社
	小さな物語のつくり方	江坂　遊	樹立社
	機械保全の徹底攻略機械系・実技　2012年度	JIPMソリューション	ジェイアイピーエムソリューショ
	現場で本当に役立つ設備管理マニュアル	植松　康行	日刊工業新聞社
	合金のマルテンサイト変態と形状記憶効果	大塚　和弘	内田老鶴圃
5M	動物的／人間的　1	大澤　真幸	弘文堂
	サッカー名監督のすごい言葉	桑原　晃弥	PHP研究所
	サッカークイズ　日本編	スポーツクイズ研究会	ポプラ社
	日本サッカーMF論	藤田　俊哉	実業之日本社
	サッカーバルセロナ戦術アナライズ	西部　謙司	カンゼン

（出典　図書館資料　抜粋）

資料８－２－①－７

佐世保工業高等専門学校図書館利用規程（平成１６年４月１日制定）

（目的）
第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校図書館規則第６条の規定に基づき、本校図書館の利用について必要な事項を定めることを目的とする。
（開館時間）
第２条　図書館の開館時間は次のとおりとする。

曜　　日	開　　館　　時　　間
月曜日から金曜日まで	９時から２０時まで（春季休業、夏季休業、冬季休業及び学年末休業期間中は、９時から１７時まで）
土曜日	１０時から１６時まで

２　前項の規定にかかわらず、図書館長が必要と認めたときは、臨時に開館時間を変更することがある。
（休館日）
第２条の２　図書館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。
一　日曜日
二　春季休業、夏季休業、冬季休業及び学年末休業期間中の土曜日
三　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日
四　開校記念日
五　１２月２８日から翌年１月４日まで
２　前項の規定にかかわらず、図書館長が必要と認めたときは、臨時に休館又は開館することがある。
（図書資料）
第３条　この規程における図書とは、次に掲げるものをいう。
一　一般図書及び専門図書
二　新聞雑誌等逐次刊行物
三　その他研究及び教育上必要な資料
（利用資格）
第４条　図書館を利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。
一　本校教職員
二　本校学生
三　図書館の利用を申し出た一般の利用者（以下「一般利用者」という。）
（入館心得）
第５条　利用者は、図書館内においては、次の事項を遵守しなければならない。
一　静粛に心掛けること。
二　秩序を乱さないこと。
三　飲食等をしないこと。
四　係員の指示に従うこと。
（館内閲覧）
第６条　開架方式の図書は、閲覧室において自由に閲覧することができる。
２　閉架方式の図書は、係員に請求して、閲覧室において閲覧することができる。
３　室内での閲覧が終った図書は、所定の位置に返却し、室外へ持ち出してはならない。
（学生への館外貸出）
第７条　学生への館外貸出は、次のとおりとする。
一　「図書利用カード」を係員に提出する。
二　図書の貸出冊数は、５冊以内とする。
三　貸出中の図書及び新着図書については、貸出予約ができる。
四　第３条第１号及び同条第３号に規定する図書の貸出期間については、貸出の日の翌日から起算して１４日以内（１４日目が休館日に当たるときは、休館日が終了する日の翌日まで。）とし、第３条第２号に規定する図書の貸出期間については、貸出の日の翌日から起算して７日以内（７日目が休館日に当たるときは、休館日が終了する日の翌日まで。）とする。ただし、夏季休業期間及び冬季休業期間並びに卒業研究のための貸出期間については、別途掲示する。
五　貸出予約のない図書は、前号に規定する貸出期間を延長することができるものとし、第３条第１号及び同条第３号のその期間は１４日以内、第３条第２号のその期間は７日以内とする。この場合における延長手続は、前号に規定する貸出期間の終了日に当該図書を提出させて行うものとする。

資料８－２－①－７続き

（教職員への貸出）
第８条　教職員への図書貸出は、次のとおりとする。
一　「図書利用カード」を係員に提出する。
二　一般図書の貸出冊数及び貸出期間については、学生への貸出規定に準ずる。
三　研究上又は業務上必要な図書は、１年の特別貸出を受けることができる。
四　特別貸出を受ける図書は、原則として教員研究費で購入された図書に限る。
五　特別貸出を受けた図書の保管責任は、各帯出者が負うものとし、各帯出者は係員の指示する時期に各自検認を行い、その結果を別記様式により報告しなければならない。
六　特別貸出を受けた図書でその必要がなくなったものは、速やかに返却しなければならない。
（一般利用者への貸出）
第９条　第４条第３号に規定する者への図書貸出は、次のとおりとする。
一　図書の貸出冊数は、３冊以内とする。
二　第３条第１号及び同条第３号に規定する図書の貸出期間については、貸出の日の翌日から起算して１４日以内（１４日目が休館日に当たるときは、休館日が終了する日の翌日まで。）とし、第３条第２号に規定する図書の貸出期間については、貸出の日の翌日から起算して７日以内（７日目が休館日に当たるときは、休館日が終了する日の翌日まで。）とする。
（返却督促及び貸出停止）
第１０条　図書の返却期間を過ぎても返却しない者に対しては、督促を行う。督促は掲示による。
２　前項の返却督促を受けている者に対しては、返却完了まで館外貸出を行わない。また、督促を受けた後、正当な理由なく返却を怠った者に対しては、返却完了後も一定期間貸出を停止することがある。
（禁帯出図書）
第１１条　次に掲げる図書は、原則として貸出を行わない。
一　貴重図書、書面帳その他取扱い上注意を要するもの
二　禁帯出表示の辞書、事典、年鑑、索引
三　新聞
四　その他図書館が特に指示するもの
（学生証等の提示）
第１２条　図書館を利用する者は、係員の求めがあれば学生証又は身分証明書等を提示しなければならない。
（転貸等の禁止）
第１３条　貸出中の図書は、汚損、破損又は紛失することのないよう留意し、他人に転貸してはならない。
（弁償）
第１４条　貸出中の図書を汚損、破損又は紛失した場合は直ちに届出の上、現物をもって弁償しなければならない。現物弁償が困難な場合は時価で弁償するものとする。
（返納）
第１５条　教職員は退職、転任の際、学生にあっては卒業、退学、除籍、休学又は留学の際、帯出図書を返納しなければならない。
（臨時の貸出停止等）
第１６条　図書の整理、検認等のための必要があるときは、貸出中の図書を臨時に調査し、若しくは回収し、又は一定期間貸出停止を行うことがある。
（書庫内立入）
第１７条　利用者が書庫に入る場合は、係員の許可を受けなければならない。
（個人情報の漏えい防止）
第１８条　本図書館において管理する歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料に記録されている個人情報(公文書等の管理に関する法律施行令第４条第５号で規定する個人情報をいう。)については、独立行政法人国立高等専門学校機構個人情報管理規則（機構規則第６５号第４０条）の規定に基づき、その漏えい防止のための措置を講ずるものとする。
（雑則）
第１９条　図書館資料を利用者の閲覧に供するため、図書館資料の目録及び図書館利用に関する規定を常時閲覧室内に備え付けるものとする。
第２０条　この規程に定めるもののほか、図書館利用に関する必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－２－①－８

佐世保工業高等専門学校図書館利用要項（平成１６年４月１日制定）

第１　趣旨
　この要項は、佐世保工業高等専門学校図書館利用規程第４条第３号の規定に定める者が、佐世保工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）に所蔵する図書館資料（以下「図書」という。）を利用することに関し必要な事項を定めるものとする。
第２　利用者の範囲
　図書館を利用することができる者は、図書館の利用を申し出た一般の利用者（以下「利用者」という。）とする。
第３　利用の範囲
一　利用者が利用できる図書は、図書館備付けの図書とする。
二　利用者は、前号に掲げる図書を所定の場所で閲覧し又は貸出しを受けることができる。
第４　利用時間
　利用者が図書館を利用することができる時間は、本校が定める図書館の開館時間内とする。
第５　利用手続
一　利用者は、図書館を利用しようとするときは、「図書館利用願」（別記様式第１号）を提出するとともに、身分を証明する証書を提示のうえ、「図書利用カード」（別記様式第２号）の交付を受けなければならない。
二　利用者は、図書館の入館に際しては、「図書利用カード」を図書館職員に提示しなければならない。
三　利用者は、図書の貸出しを受けるときは、「図書利用カード」を添付して図書館職員へ申出なければならない。
第６　遵守事項
　利用者は、図書館職員の指示する事項を遵守しなければならない。
第７　弁償義務
　利用者は、図書を汚損、破損若しくは紛失したとき、又は施設設備若しくは備品等に損害を与えたときは、弁償しなければならない。
第８　利用中止等
　この要項に違反した利用者は、直ちに利用を中止し、退館しなければならない。
第９　規則の準用
　この要項に定めるもののほか、利用に関し必要な事項は、佐世保工業高等専門学校図書館利用規程（平成１６年４月１日制定）を準用する。

別記様式第１号（ＰＤＦファイル）
別記様式第２号（ＰＤＦファイル）

（出典　佐世保高専規程集）

資料８－２－①－９

図書館報

佐世保高専図書館報　第35号

◆(題字)真理無窮　◆筆　出口裕通

Library News!

平成25年3月18日　図書委員会発行
佐世保工業高等専門学校 図書館報 第35号



学生選書委員および教員の選書（一部）



地元ケーブルテレビ取材の様子

目　次

図書館と時間～アリエッティをめぐる物語～…　図書館長　須田淳一郎　2
学生による選書の試みと蔵書の除却について…　図書係長　辻　信彦　3
学生選書委員「おすすめの本」……　4
教員「私のすすめる本」……　9
「空想科学図書館通信」を掲示しています……　12
図書館時間外スタッフ座談会……　13
利用統計……　16
図書館からのお知らせ、編集後記……　16

佐世保工業高等専門学校
SASEBO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY
URL:http://www.sasebo.ac.jp

－1－

（出典　図書館報第 35 号）

資料８－２－①－10

図書館ホームページ



（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

教育研究上必要な資料として，約９万冊の蔵書は系統的に整理され，学術雑誌，視聴覚資料等も収集されている。また，学生の本のリクエスト募集，学生選書委員による選書や，図書利用促進の取り組みが継続して行われ，その結果入館者数の増加等の効果があり，有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・実習工場の改修を行い，老朽化対策と実習時の安全確保がなされた。

・「電力の見える化」により，学校全体として省エネの意識向上が図られている。

・各種情報セキュリティ規程を制定し，情報セキュリティが確保されている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準８の自己評価の概要

準学士課程・専攻科課程の学生を教育するにふさわしい施設・設備を有し，高等専門学校設置基準に規定される校地及び校舎，図書館などの施設が整備され，有効に活用している。

平成25年度の電気電子・物質工学科棟の改修工事により，本校校舎の耐震化が完了する。これにより，校舎の安全化がさらに進むことになる。実習工場，実験設備等の使用に関しては，各学生ならびに教職員に「安全の手引き」等を配布し，安全教育にも取り組んでいる。主要な建物入口には段差解消スロープを，管理棟校舎と図書館及び改修がなされる電気電子・物質工学科棟にはエレベータを設置している。環境面においては，太陽光パネルによる電力の利用や「電力の見える化」により，学校全体として省エネ対策に取り組んでいる。

情報処理センター演習室，CAD室には多くの教育用パソコンを備え，また，教室・実験室・教員室などに設置されているパソコン等も，それらのほとんどが有線LAN及び無線LANにより校内ネットワークに接続している。これらの利用においては，定められた各種情報セキュリティ規程のもとで適切に利用・運営が行われている。

蔵書は日本十進分類法により系統的に整理している。また，選書に対して学生の要望を積極的に取り入れる取り組みとして，学生の本のリクエスト募集，学生選書委員による選書を行っている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

各種教育活動の実態を示すデータは，教務や学生，寮関係等の職員でそれぞれ担当を決め，「教育データベース」に入力・更新・蓄積を行っており，そのデータは学内限定で本校ウェブサイトにて閲覧できる（資料９－１－①－１）。過去２年分の試験答案や学生のノート等資料を，電子媒体または紙媒体により専用の部屋「JABEE対応室」に保管している。各教員は，「認証評価用試験答案保存要領（１～３年)」及び「JABEE用試験答案保存要領」に基づき適切に保管を行っている（資料９－１－①－２，３)。教員は，担当授業の資料保管状況に関して学科長・一般科目長の年度末に確認を受けることになっている。また，卒業研究論文や実験レポート及び過去５年分の試験答案は，各学科または各教科担当者が保管している。

これらの教育の状況のデータを基に，教育システム点検・改善委員会が各種教育活動に関する点検結果を報告し，校長・運営委員会でその内容が審議される。改善の必要なものは，校長・運営委員会の要請によりそれぞれの部署で改善を行っている。また，定期的に「自己点検書」（資料９－１－①－４）や「自己評価書」（資料９－１－①－５）を作成し，第三者評価を受けている。一方，自己点検・評価委員会が「自己点検・評価報告書」（資料９－１－①－６）を作成し，外部評価委員会で点検を受けるシステムも確立している。さらに，日常的な教育点検改善は，主要な委員会が毎月定例の会議にて行っている。

このように，教育点検・改善システムは適切に機能している（資料９－１－①－７)。

観点９－１－①資料一覧

（資料９－１－①－１）	教育データベース	出典：教育データベース
（資料９－１－①－２）	認証評価用試験答案保存要領（１～３年）	出典：教員必携
（資料９－１－①－３）	JABEE 用試験答案保存要領	出典：教員必携
（資料９－１－①－４）	JABEE 自己点検書	出典：総務課資料
（資料９－１－①－５）	機関別認証評価自己評価書	出典：総務課資料
（資料９－１－①－６）	自己点検・評価報告書	出典　平成 24 年度 外部評価報告書
（資料９－１－①－７）	教育点検システムの構成	出典：本校ウェブサイト

資料９－１－①－１

教育データベース

本表は平成25年4月現在の登録状態です。

なお、この表は学内のみの閲覧が可能となっています。

種別	項目	内容					
教務	教職員数・学生数	教職員	01）教員数、02）職員数				
		学生	03）学生数：全体（本科、専攻科、女子）	04）学年別			
	入試関係（本科）	本科１年入学	05）全志願者数、推薦志願者数、推薦合格者数、全合格者数、入学者数				
			06）本科１年入学：入試倍率	07）地域別志願者割合	08）入学生中学時成績		
		編入学	09）工業高校からの編入学：志願者数、合格者数、入学者数				
			10）普通高校からの編入学：志願者数、合格者数、入学者数				
		広報活動	11）中学校訪問・高校説明会実施中学校数				
			12）体験入学・学校説明会・入試懇談会参加者数				
		13）入試アンケート調査結果					
	進級関係	14）退学者数、留年者数、休学者数					
	就職・進学割合	15）進路割合（就職・進学）					
	就職関係	16）就職者割合					
		17）求人会社数					
		18）求人倍率、就職率					
		19）県内外への就職割合					
		就職先一覧	20）機械工学科	21）電気電子工学科	22）電子制御工学科	23）物質工学科	24）専攻科

資料９－１－①－１続き

	進学関係	25）進学者割合				
		26）専攻科進学者割合				
		27）専攻科進学者数				
		進学先一覧	28）機械工学科	29）電気電子工学科	30）電子制御工学科	31）物質工学科
	授業評価関係	32）全学年の平均評価、 学年別評価、一般科目…専門科目別評価、一般科目と専門科目の学科別評価（リンク）				
	学生意識調査	33）卒業時アンケート（リンク）				
	学生褒賞	34）成績優秀、成績向上、皆勤				
	資格試験	35）TOEIC、工業英検、デジタル技術他 ※				
学生	相談室関係	36）保健室利用状況				
	クラブ	37）クラブ加入状況				
		38）大会成績				
		39）課外活動事故件数				
	各種大会	40）ロボコン他				
	学生褒賞	41）功労賞、課外活動賞				
	奨学金	42）日本育英資金の申請者数と採択者数				
		43）その他の奨学金採択者数				
		44）授業料免除運用状況				
	車両通学関係	45）車両通学許可数				
		46）交通安全講習会実施状況				
寮	入寮者数	47）入寮者数	48）入寮率、全学生比			
	寮生意識調査	49）設備、生活、対人関係、食事・洗濯（アンケート調査）				

資料９－１－①－１続き

専攻科	入試関係	50）志願者数、倍率、入学者数		
	進路	51）修了生数と進路状況		
		52）進路割合		
		53）大学院入学先一覧		
	研究発表	54）研究活動状況（論文、講演数）		
	褒賞関係	55）実績		
研究	論文	56）外部機関への論文数	57）口頭発表数	58）学内報論文数
	学位	59）学位取得者数		
	外部資金	60）科研費申請数、採択件数、採択率、補助金額		
		61）奨学寄付金受入状況		
		62）共同研究受入状況		
		63）受託研究受入状況		
地域連携	公開講座	64）件数と受講生数		
	おもしろ実験大公開	65）参加者数		
	出前授業	66）実施数	67）テーマ名（リンク）	
図書館	蔵書	68)分野別蔵書		
		69）新規受入冊数		
		70）学生用図書購入予算		
	利用状況	71)１日当たり平均入館者数		
		72)年間貸出し冊数		
		73)分野別貸出し状況		
情報処理センター		74)LAN 利用状況 ※		
		75)企業アンケート ※		

資料９－１－①－１続き

外部	アンケート	76)大学アンケート ※
		77)ＯＢアンケート ※
財務		78)財務関係

種別	項目	内容
教務	学生意識調査	79)専攻科在学生アンケート ※
		80)修了時アンケート（リンク）
	教育目標等アンケート	81)教育目標アンケート（在学生・教職員） ※
		82)JABEE教育目標アンケート（在学生・教職員） ※
		83)アドミッションポリシーアンケート（在学生・教職員） ※

（出典　教育データベース）

資料９－１－①－２

認証評価用試験答案保存要領（1～3年）

通常時のファイル保存要領
　基本的にJABEEの保存要領に準ずるが、授業態度や出席状況を評価に入れても良い。但し、その場合は評価方法を明記し、表として保存する。（例：工学実験における授業態度：一覧表）

【試験答案保存】：以下を必要条件として保存する。
(1)各教員は受審年度の前年度までの５年間の試験答案（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末：4回分すべて。追試、再試分も含む）を保管する。保存媒体は、原本、コピー、PDFを問わない。保管は各教員室、JABEE室、JABEE資料保管室（新設）のいずれかに保管する。
(2)３月末に、前期中間、前期期末、後期中間、後期期末のいずれか２回分の全員のファイルに綴じJABEE室内に保管する(追試、再試分も含む)。隔年度毎に２回ずつ保管することで、２年度毎に１年（４回）分がJABEE室内に常に保管されている形にする。JABEE室内には直近の２年間分が保管される。（PDF形式も同様）
(3)保存ファイルには、(2)の答案に加えて、各年度毎の①成績単票（内表紙）、②成績表紙、③保管表示シート、④シラバスが紙媒体として添付されている事とする。また、1年分の⑤教科書、⑥ノートが同梱包されていること（担当者や内容変更があった場合、その都度梱包）。なお、小テスト、レポートを評価に入れる場合は、成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。
(4)JABEE室内にある3年前の答案は、新年度初めに各先生に返却する。PDFの場合は5月頭にJABEE室内のPCから、教務主事室で消去する。
(5) 6年以上前の答案は各教員で消去もしくは廃棄する。

[非常勤講師の答案について]
①平成20年度前期中間、前期期末、後期中間の３回分は、各学科長が保管する。
②後期期末試験終了後に非常勤職員を雇用し、【試験答案保存】(1)～(5)に従って、非常勤職員がファイリングする。
③ファイリング方法（PDFか、紙媒体か）は、各学科に委任する。

[電子ファイルの管理]
①各担当教員が責任を持って管理保管（保存）する。
②PDFファイルは、パスワード（パスワードは各自管理）をつけることも、ファイルそのものを自分のPCに移動させて管理する事も可とする。
③パスワードをつけた場合は、審査当日にパスワードを審査員に提示する。ファイルを自分のPCで管理する場合、審査当日には必ずJABEE室内のPC内に移動させる。
④閲覧用のコンピュータは外部のLANには繋げない。
⑤JABEE室は常時施錠する。鍵の管理は教務係で行う。
⑥メモリー等からHDへの読み書きは原則自由とする。但し、セキュリティーに関しては各担当教員が責任を持つ。

【小テスト、演習、宿題、学習レポート】
(1)全ての採点結果を記した採点表を残し、保存ファイルに添付、JABEE室内に保管する。（小テスト、演習、宿題等は極力学生に返却する。）
(2)ただし証拠として、どれか1回分の全員分の資料（1行）、もしくは1回分の全員分の小テスト（1列）を保管する。（ファイリングする必要はない）
(3)小テスト、レポートを評価に入れる場合は、成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。

【製図、実習等実技科目】
(1)【小テスト、演習、宿題、学習レポート】に従い、製作品や報告書は、担当教員が保管する。ファイルできない製作品は、写真撮影して保存する。
(2) ３月末に、JABEE室内には、①成績単票（内表紙）、②成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加えて、もしあれば⑤教科書、⑥ノート、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して保管する。製作品や報告書は担当教員が保管する。

【実験】
(1)【試験答案保存】に従い、実験報告書は、全て担当教員が保管する。
(2)保存ファイリング作業は,原則として学科長が担当する。(学科で担当者を決めてもよい)
(3)３月末に、JABEE 室内には、①JABEE 用成績単票（内表紙）、②JABEE 用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、⑤実験テーマ一覧表(実験計画表等)、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して JABEE 室内に保管する。

【卒業研究】
(1)【試験答案保存】に従い、「卒業論文」は全て担当教員が保管する。
(2)①JABEE 用成績単票（内表紙）、②JABEE 用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加え⑤研究テーマ一覧表(学生名,教員名記載)、⑥評価（採点）集計表、⑦講演概要集を，ファイルして JABEE 室内に保管する。保存ファイリング作業は,原則として学科長および専攻科長が担当する。
(3)「研究日誌」は、全て卒業研究の指導教員が保管する。

【その他、注意事項】
(1)成績単票は、再試験前のものとし、再試験に合格した場合は、「備考欄」に「再試合格」と記す。
(2)紙媒体の答案を破棄する場合は必ずシュレッダーを用いる。もしくは年1回、学内の不要な公文書とともに、教務主事室でまとめて事業ゴミとして焼却処分する。
(3) 小テスト、レポート、宿題、卒研や特研の研究日誌等、評価対象となる資料は、JABEE 室内での保管の義務がないものもすべて担当教員（卒研や特研の指導教員）が保存しておき、認証評価対応委員による検査等の要求に即対応できるようにしておく。

（出典　教員必携）

資料９－１－①－３

JABEE用試験答案保存要領

通常時のファイル保存要領

毎年度末までに、以下の【試験答案保存】【小テスト、演習、宿題、学習レポート】【製図、実習実技科目】【実験】【卒業研究、特別研究】に準じて保管（保存）する。

【試験答案保存】：以下を必要条件として保存する。
(1)各教員は受審年度の前年度までの５年間の試験答案（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末：4回分すべて。追試、再試分も含む）を保管する。保存媒体は、原本、コピー、PDFを問わない。保管は各教員室、JABEE室、JABEE資料保管室（新設）のいずれかに保管する。
(2)３月末に、前期中間、前期期末、後期中間、後期期末のいずれか２回分の全員のファイルに綴じJABEE室内に保管する(追試、再試分も含む)。隔年度毎に２回ずつ保管することで、２年度毎に１年（４回）分がJABEE室内に保管されている形にする。JABEE室内には直近の２年間分が保管される。（PDF形式も同様）
(3)保存ファイルには、(2)の答案に加えて、各年度毎の①JABEE用成績単票（内表紙）、②JABEE用成績表紙、③保管表示シート、④シラバスが紙媒体として添付されている事とする。また、1年分の⑤教科書、⑥ノートが同梱包されていること（担当者や内容変更があった場合、その都度梱包）。なお、小テスト、レポートを評価に入れる場合は、JABEE用成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。
(4)JABEE室内にある3年前の答案は、新年度初めに各先生に返却する。PDF形式も同様。PDFの場合はJABEE室内のPCから、年度初めに教務主事室で消去する。
(5) 6年以上前の答案は各教員で消去もしくは廃棄する。

[非常勤講師の答案について]
①前期中間、前期期末、後期中間の３回分は、各学科長が保管する。
②後期期末試験終了後に非常勤職員を雇用し、【試験答案保存】(1)～(5)に従って、非常勤職員がファイリングする。
③ファイリング方法（PDFか、紙媒体か）は、各学科に委任する。

[電子ファイルの管理]
①各担当教員が責任を持って管理保管（保存）する。
②PDFファイルは、パスワード（パスワードは各自管理）をつけることも、ファイルそのものを自分のPCに移動させて管理する事も可とする。
③パスワードをつけた場合は、審査当日にパスワードを審査員に提示する。ファイルを自分のPCで管理する場合、審査当日には必ずJABEE室内のPC内に移動させる。
④閲覧用のコンピュータは外部のLANには繋げない。
⑤JABEE室は常時施錠する。鍵の管理は教務係で行う。
⑥メモリー等からHDへの読み書きは原則自由とする。但し、セキュリティーに関しては各担当教員が責任を持つ。

【小テスト、演習、宿題、学習レポート】：成績評価に用いる場合
(1)全ての採点結果を記した採点表を残し、保存ファイルに添付、JABEE室内に保管する。（小テスト、演習、宿題等の原本は極力学生に返却する。）
(2)ただし証拠として、①代表的な学生1名分の全てか（1行）、もしくは、②前期中間、前期期末、後期中間、後期期末の各試験に対し、それぞれ1回分の全員分の小テスト(4列)を保管する。但し、JABEE室内にファイリングする必要はない。
(3) 小テスト、レポートを評価に入れる場合は、JABEE用成績単票（内表紙）の備考欄にその旨記載すること。

【製図、実習等実技科目】
(1)【試験答案保存】に従い、製作品や報告書は、全て担当教員が保管する。ファイルできない製作品は、写真撮影して保存する。数が多い場合は、上記【小テスト、演習、宿題、学習レポート】に従い保存する。
(2) ３月末に、JABEE室内には、①JABEE用成績単票（内表紙）、②JABEE用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加えて、もしあれば⑤教科書、⑥ノート、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付して保管する。（製作品や報告書は担当教員が保管）

【実験科目】
(1)【試験答案保存】に従い、実験報告書は、全て担当教員が保管する。
(2)保存ファイリング作業は,原則として学科長が担当する。(学科で担当者を決めてもよい)
(3)３月末に、JABEE室内には、①JABEE用成績単票（内表紙）、②JABEE用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、⑤実験テーマ一覧表(実験計画表等)、および全ての採点結果を記した採点表を保存ファイルに添付してJABEE室内に保管する。

【卒業研究,特別研究】
(1)【試験答案保存】に従い、「卒業論文」、「特別研究論文」は全て担当教員が保管する。
(2) ①JABEE用成績単票（内表紙）、②JABEE用成績表紙、③保管表示シート、④シラバス、に加え⑤研究テーマ一覧表(学生名,教員名記載)、⑥評価（採点）集計表、⑦講演概要集を，ファイルしてJABEE室内に保管する。保存ファイリング作業は,原則として学科長および専攻科長が担当する。
(3)「研究日誌」は、全て卒業研究の指導教員が保管する。

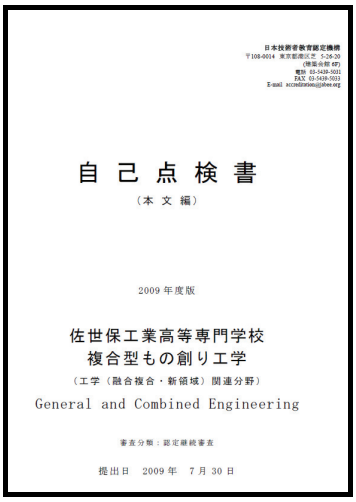
【その他、注意事項】
(1)成績単票は、再試験前のものとし、再試験に合格した場合は、「備考欄」に「再試合格」と記す。
(2)紙媒体の答案等成績に関与した資料を破棄する場合は必ずシュレッダーを用いる。もしくは年1回、学内の不要な公文書とともに、教務主事室でまとめて事業ゴミとして焼却処分する。学生に返却する場合はこの限りでない。
(3)小テスト、レポート、宿題、卒研や特研の研究日誌等、評価対象となる資料は、JABEE室内での保管の義務がないものもすべて担当教員（卒研や特研の指導教員）が保存しておき、JABEE委員による検査等の要求に即対応できるようにしておく。

（出典　教員必携）

資料９－１－①－４

JABEE 自己点検書（平成 21 年度）

（表紙）



日本技術者教育認定機構
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-26-20
（特定非営利 6F）
電話 03-5439-1021
FAX 03-5439-1023
E-mail accreditation@jabee.org

自 己 点 検 書

（本 文 編）

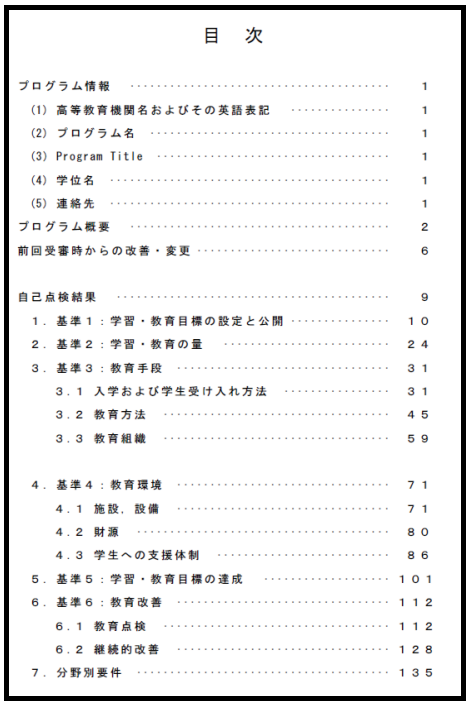
2009 年度版

佐世保工業高等専門学校
複合型もの創り工学
（工学（融合複合・新領域）関連分野）
General and Combined Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日　2009 年　7 月 30 日

（目次）



目　次

プログラム情報 …… 1
(1) 高等教育機関名およびその英語表記 …… 1
(2) プログラム名 …… 1
(3) Program Title …… 1
(4) 学位名 …… 1
(5) 連絡先 …… 1
プログラム概要 …… 2
前回受審時からの改善・変更 …… 6

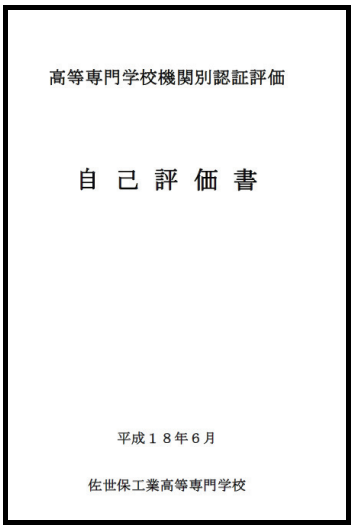
自己点検結果 …… 9
１．基準１：学習・教育目標の設定と公開 …… １０
２．基準２：学習・教育の量 …… ２４
３．基準３：教育手段 …… ３１
３．１ 入学および学生受け入れ方法 …… ３１
３．２ 教育方法 …… ４５
３．３ 教育組織 …… ５９
４．基準４：教育環境 …… ７１
４．１ 施設，設備 …… ７１
４．２ 財源 …… ８０
４．３ 学生への支援体制 …… ８６
５．基準５：学習・教育目標の達成 …… １０１
６．基準６：教育改善 …… １１２
６．１ 教育点検 …… １１２
６．２ 継続的改善 …… １２８
７．分野別要件 …… １３５

（出典　総務課資料）

資料９－１－①－５

機関別認証評価自己評価書（平成 18 年度）

（表紙）



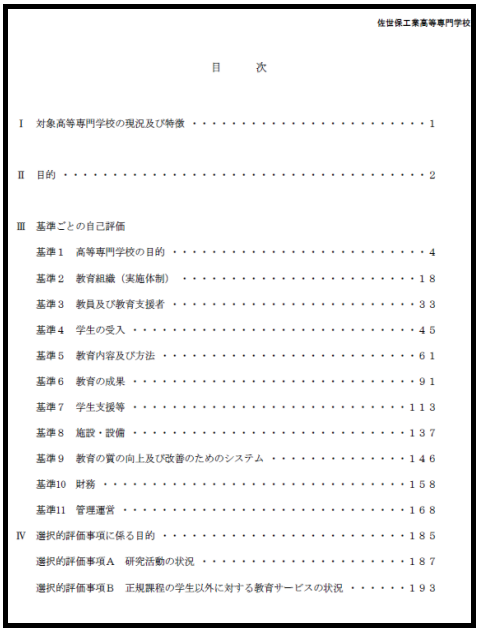
高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成１８年６月

佐世保工業高等専門学校

（目次）



佐世保工業高等専門学校

目　次

Ⅰ 対象高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
Ⅱ 目的 ・・２
Ⅲ 基準ごとの自己評価
基準１ 高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
基準２ 教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
基準３ 教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
基準４ 学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
基準５ 教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１
基準６ 教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１
基準７ 学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１３
基準８ 施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３７
基準９ 教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・１４６
基準10 財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５８
基準11 管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６８
Ⅳ 選択的評価事項に係る目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８５
選択的評価事項Ａ 研究活動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８７
選択的評価事項Ｂ 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況 ・・・・・・１９３

（出典　総務課資料）

資料９－１－①－６

自己点検・評価報告書

（表紙）

Ⅲ外部評価委員会資料

（自己点検・評価報告書）

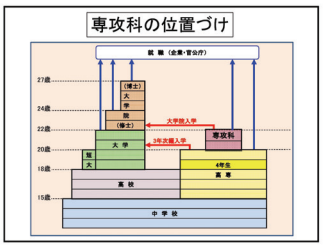
（報告書）

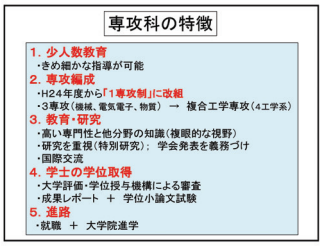
（3）専攻科の教育について〔専攻科長〕

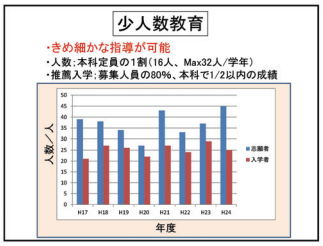
専攻科の教育について

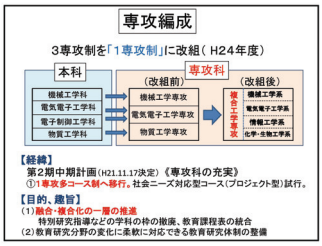
外部評価委員会資料（専攻科）

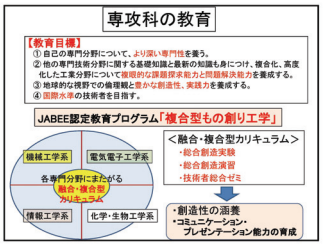
平成25年3月20日











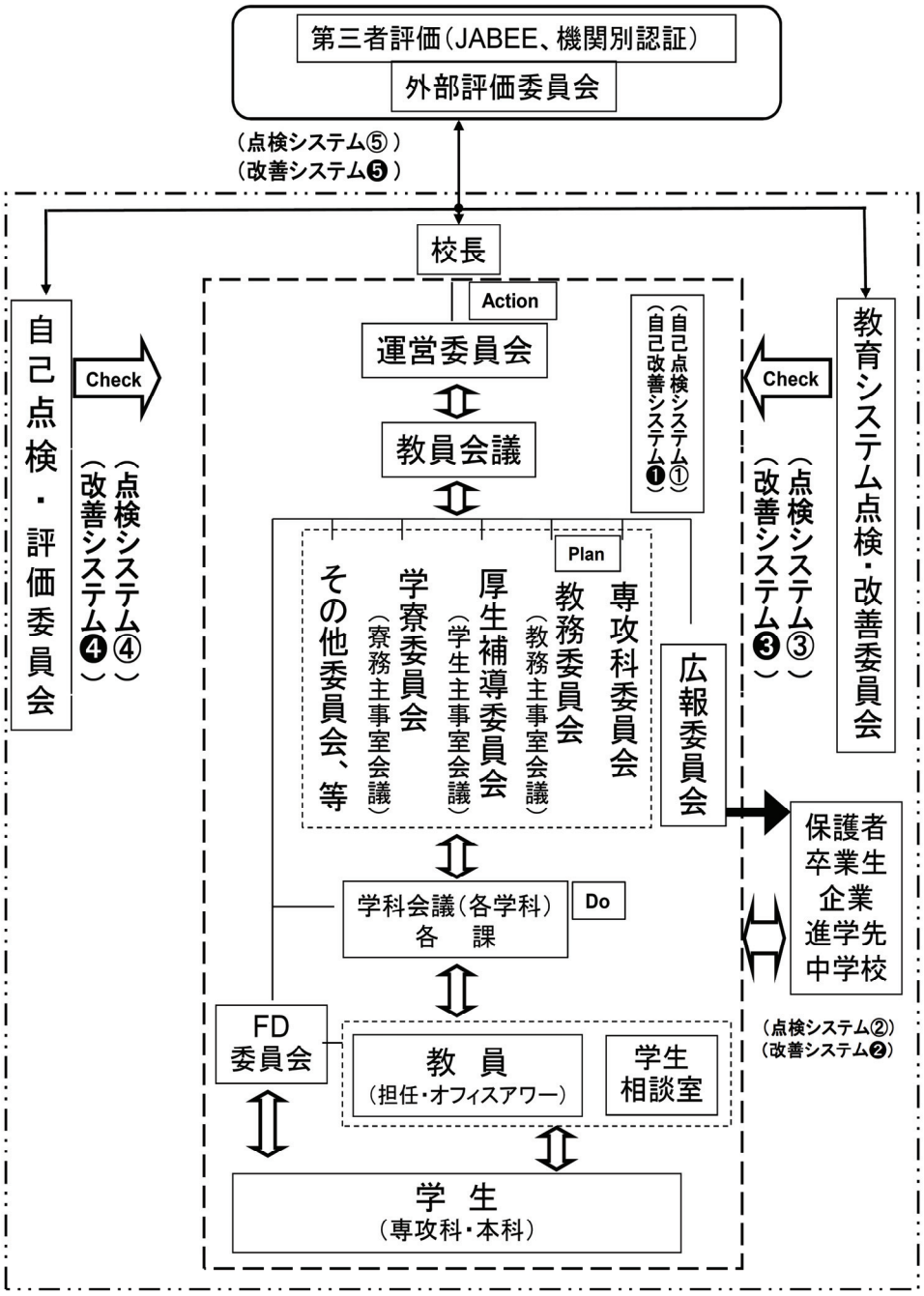
59

1

（出典　平成 24 年度 外部評価報告書）

資料９－１－①－７

教育点検システムの構成



（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の実態を示すデータは各担当部署で随時収集され,「教育データベース」に蓄積されている。また，学生の成績評価に関する試験答案等を適切に保管するシステムも確立している。この教育活動のデータを基に点検・評価する教育システム点検・改善委員会等，各種委員会を設置しており，適切に評価できる体制が整っている。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検･評価が､学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学生に対しては各種アンケート（授業評価アンケート，卒業・修了時アンケート），意見箱「みんなの声」，教員に対しては「自啓録」や各種会議，また保護者に対しては後援会総会（資料９－１－②－１），保護者懇談会，「佐世保高専意見箱」，さらに，企業及び大学・大学院に対してはアンケートにより，意見の聴取行っている。

「授業評価アンケート」はFD委員会により，全科目について毎年実施しており，その結果については，本校ウェブサイトに掲載して職員・学生へ周知を行っている。各教員はその評価結果に基づいて授業改善に努めるとともに，寄せられた意見要望等に対するコメントを記して教室掲示にて学生に伝えている（観点３－２－①参照)。また，「卒業・修了時アンケート」（観点６－１－④参照）を実施し，教育目標の達成度を把握している。

さらに、学生がいつでも意見・要望を言えるように，意見箱「みんなの声」を校内・学寮に設置し，出された意見に対し校長からその回答を学生及び教職員へ伝えている（観点７－１－③参照)。

「自啓録」は各教員が年度末に作成し，授業を含む教育活動全般における取組状況・自己改善点を校長に報告するほか，教育内容に関する意見は毎月実施される各学科会議・教員会議等を通じて聴取が行われている。

保護者からの要望･意見は,保護者懇談会を中心として担任を通じて学校側へ伝えられるのに加え，後援会総会で直接学校との意見交換が行われている。平成24年度からは，本校ウェブサイトの「佐世保高専意見箱」により投書が可能となった（資料９－１－②－２)。

学外関係者の意見を聴取するために，企業，及び大学・大学院へのアンケートを実施し，その結果を教育データベースに掲載している（資料９－１－①－１参照)。

また，平成25年３月に第３回外部評価委員会を開催し，委員から意見・提言を受け，提出された評価結果を取りまとめて「外部評価報告書」を発行した（資料９－１－②－３)。

これらの意見聴取の結果をもとに教育改善へとつなげるために，「自己点検・評価委員会規則」（資料９－１－②－４）と「自己点検・評価実施要項」（資料９－１－②－５）を定め，教育改善体制（資料９－１－①－７参照）に基づいて，教育の状況に関する自己点検・評価を適切に行っている。

観点９－１－②資料一覧

（資料９－１－②－１）	後援会総会開催案内	出典：総務課資料
（資料９－１－②－２）	佐世保高専意見箱	出典：本校ウェブサイト
（資料９－１－②－３）	外部評価報告書	出典：平成 24 年度外部評価報告書
（資料９－１－②－４）	自己点検・評価委員会規則	出典：佐世保高専規程集
（資料９－１－②－５）	自己点検・評価実施要項	出典：佐世保高専規程集

資料９－１－②－１

後援会総会開催案内

平成２４年６月１２日

佐世保工業高等専門学校
後援会会員　各位

佐世保工業高等専門学校後援会
会　長　　川　嶋　健　司

後援会総会の開催について（御案内）

拝啓　初夏の候ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
このたび、平成２４年度後援会総会を下記により開催いたしますので、御多忙中恐れ入りますが、御出席いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

１．日　時　　平成２４年７月８日（日）　午前１１時００分から
２．場　所　　佐世保工業高等専門学校　大講義室（一般教科Ａ棟２Ｆ）
※　場所は「学級担任と保護者との懇談会」案内通知の地図を参照願います。

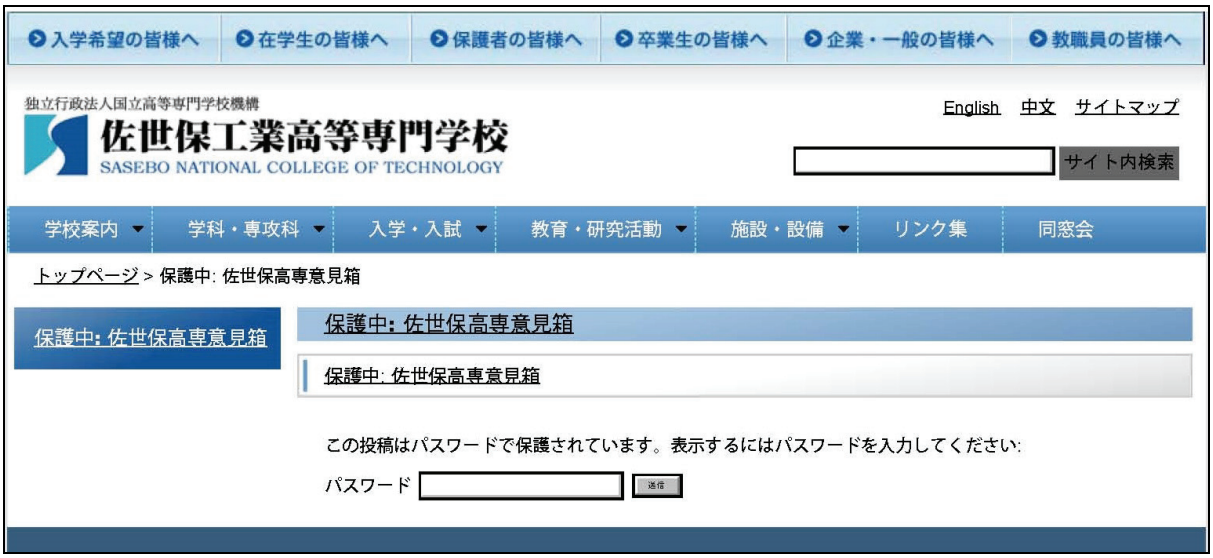
３．議　題　　(1) 平成２４年度後援会役員の選出について
(2) 平成２３年度後援会費の決算（案）について
(3) 平成２４年度後援会費の予算（案）について
(4) その他（質疑応答）

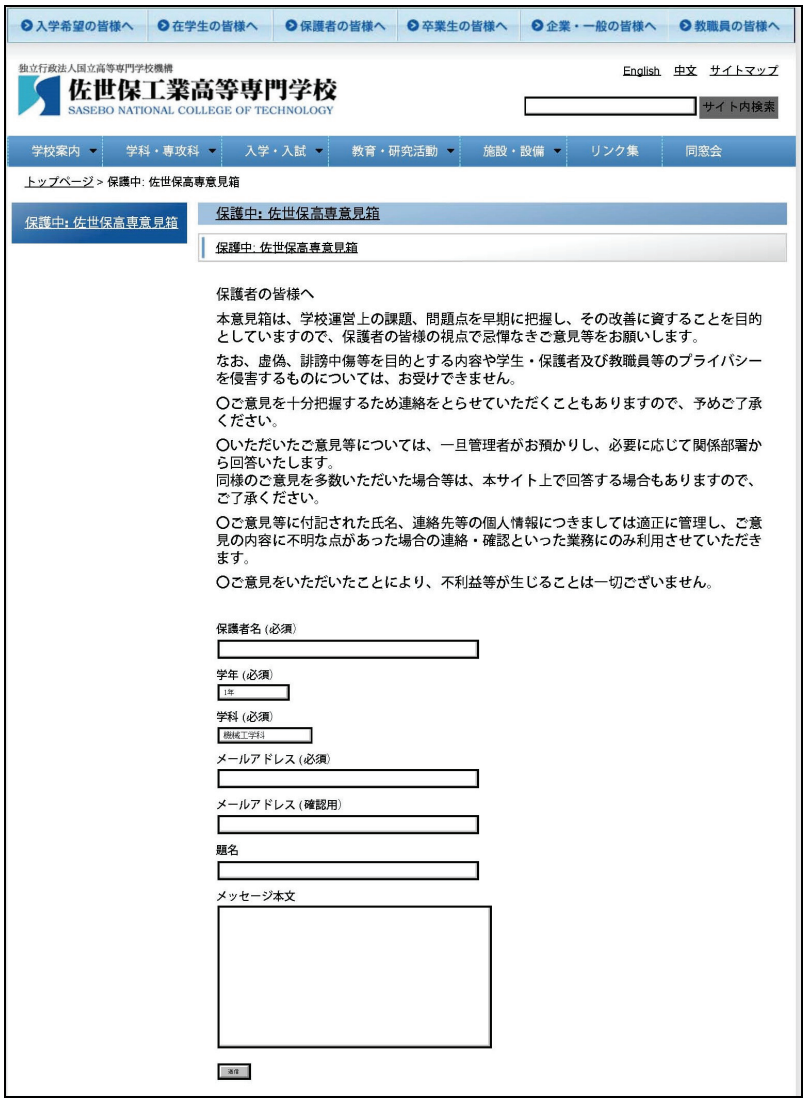
※「学級担任と保護者との懇談会」と同日に実施いたします。

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－２

佐世保高専意見箱



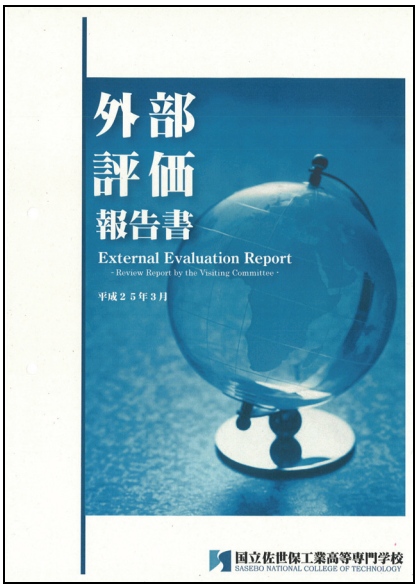


（出典　本校ウェブサイト）

資料９－１－②－３

外部評価報告書

（表紙）



（目次）

目　次

巻頭言
Ⅰ　外部評価委員会
1. 外部評価の概要 …… 1
2. 外部評価委員名簿 …… 2
3. 外部評価委員会日程 …… 4
4. 本校出席者名簿 …… 5
5. 議事
(1)開会挨拶 …… 6
(2)委員長の選出 …… 6
(3)学校側からの概要等説明 …… 7
(4)質疑応答及び提言 …… 8
(5)講評 …… 22
(6)閉会挨拶 …… 30
Ⅱ　評価委員による評価表
1. 評価点 …… 32
2. 意見･提言 …… 33
Ⅲ　外部評価委員会資料(自己点検･評価報告書) …… 49

（出典　平成 24 年度外部評価報告書）

資料９－１－②－４

佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第１条の２の規定に基づき、本校における教育研究活動等の状況と今後の展望に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　自己点検・評価の実施方法等に関すること。
二　自己点検・評価項目の設定に関すること。
三　自己点検・評価の実施報告書の編集に関すること。
四　その他自己点検・評価に関すること。
五　外部評価に関すること。

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　教務主事、学生主事及び寮務主事
二　専攻科長
三　校長が指名する者
四　総務課長及び学生課長
２　前項第３号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　第１項第３号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会の委員長は、委員のうちから校長が指名する者をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（会議）
第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。

（専門委員会）
第７条　委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関する必要な事項は、委員会が別に定める。

（事務）
第８条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料９－１－②－５

佐世保工業高等専門学校自己点検・評価実施要項（平成２５年６月１８日制定）

（趣旨）

第１条　この要項は、佐世保工業高等専門学校学則第１条の２第２項の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。 ）の状況について行う自己点検・評価の実施及びその結果の検証（以下、「自己点検・評価等」という。）並びに評価結果の活用に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　本校における教育研究等について、その活動の一層の活性化と水準の向上を図ることを目的とする。

（自己点検・評価の方法）

第３条　自己点検・評価は、学校教育法第 109 条第１項（同法第 123 条に基づき準用）の規定に基づき実施するものとする。

２　このほか、自己点検・評価は、独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・計画を達成するために必要とする評価項目、及び認証評価機関が定める基準等を参考に、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）が定める評価項目により、自己点検・評価を実施する。

（自己点検・評価の実施）

第４条　自己点検・評価は、前条に定める項目について、機構の中期目標・計画を達成するための評価については毎年、委員会の定める評価項目については５年毎に実施することを基本とする。

２　校長は，前項により実施した自己点検・評価の結果について、必要に応じ，外部評価を実施するものとする。

（結果の報告及び公表）

第５条　自己点検・評価委員会委員長は、自己点検・評価の結果を運営委員会に報告するとともに、刊行物やホームページ等によって公表するものとする。

（評価結果の活用）

第６条　校長は、自己点検・評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものに　ついては、その改善に努めなければならない。

２　校長は、前項の評価の結果を受け、関係委員会に対し、改善を要請する。

３　校長は、前項の改善実施の成果、対応等を勘案し、必要な措置を講ずるものとする。

（雑則）

第７条　この要項に定めるもののほか、評価に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この要項は、平成２５年６月１８日から施行し、平成２５年４月１日から適用する。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

学校の構成員からの意見聴取は各種アンケート等によって行っている。学外関係者に対しても，同様にアンケートを実施している。特に，保護者に対しては，後援会総会で直接学校との意見交換が行えるよう配慮するとともに，本校ウェブサイトを介した意見聴取システム「佐世保高専意見箱」を運用している。これらの結果に対し，自ら定めた規則や教育改善体制により教育の状況に関する自己点検・評価が実施されている。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育の質を向上・改善する体制として，各種委員会や会議等を設けている（資料９－１－①－７参照，資料９－１－③－１，２)。運営委員会を中心として，主要な委員会及び各学科が毎月定例の会議を開催し，随時教育の点検・改善に取り組んでいる。機構の中期計画に則った本校の５年間の中期目標，それを達成するための年度計画を定め，年度末に自己点検・評価委員会がその達成状況の点検を行い，次年度計画に反映させる等，教育の質の向上，改善に結びつけるシステムが整備されている。

具体的方策としては，以下に述べる様々な取り組みが行われている。

本校では外部評価や第三者評価等を受けている（観点９－１－①参照)。それらの結果を踏まえ，本校の年度計画に反映させるとともに，教育の質の向上・改善に結びつけている。

FD委員会が実施する学生による授業評価や，教員間の授業参観による指摘に対しては，直接各教員に伝えて改善を図るようにしている。また，授業評価結果が優秀だった教員や，顕著な成果で学校運営に貢献した職員に対して表彰を行っている(資料３－１－④－４参照)。改善を必要とする場合は，校長またはFD委員長との面談を通して授業の改善を促している。

「キャリア教育支援室」により，学生の就職・進学活動に必要とされる能力の育成，及び就職・進学に関する情報の提供に取り組んでいる（観点５－１－②参照)。

教育の質の向上・改善例としては，教務委員会・教員会議による検討を経て，平成22年度より第４学年においてPBL教育の一環で導入した「知識活用型教育」がある（資料９－１－③－３)。その他にも，多くの教育改善を行っている（資料９－１－③－４)。

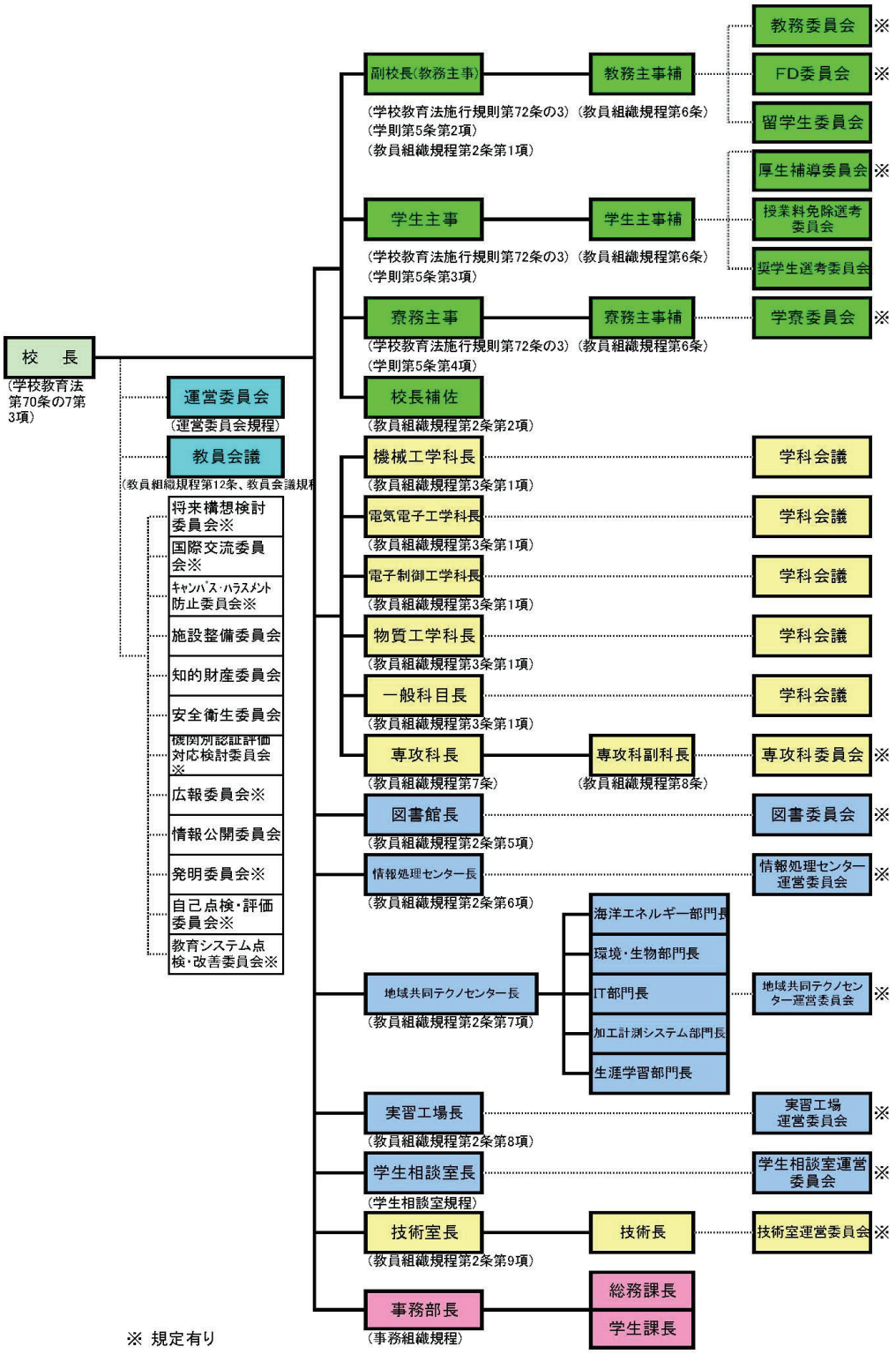
専攻科課程において中期計画に基づき，専攻科コース制度ワーキンググループ会議でコース制度の検討が行われ，１専攻４系へ改組することが諮問された（資料９－１－③－５（別添９－１))。その後，専攻科委員会，学科会議，教員会議等を経て，平成24年度から改組が行われた（資料２－１－②－２，３参照)。

観点９－１－③資料一覧

（資料９－１－③－１）	運営組織図	出典：本校ウェブサイト
（資料９－１－③－２）	意見交換会　議事録	出典：教育システム点検・改善委員会
（資料９－１－③－３）	社会人基礎力育成セミナー	出典：平成 24 年度シラバス
（資料９－１－③－４）	教育点検・改善事項一覧	出典：総務課資料
（資料９－１－③－５）	専攻科改組に関する資料	出典：専攻科委員会資料

資料９－１－③－１

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 運 営 組 織 図



（出典　本校ウェブサイト）

資料９－１－③－２

一般科目：理系教員と専門科目教員との意見交換会　議事録

作成：学校教育システム点検･改善委員長
（電気電子工学科）南部 幸久

【日時】平成 24 年 9 月 26 日（水）16:00～16:45

【出席者（敬称略）】15 名
一般科目：（数学）稲永，中村真，三ツ廣，真部，大屋，（化学）須田淳，（物理）森
専門科目：（M）中浦，森田，（E）南部，大島，（S）重松，（C）長田，古川，城野

1．意見交換会の開催にあたって
学校教育システム点検・改善委員長：南部より，本意見交換会の開催にあたって背景・目的・構成メンバー・開催回数などについて説明を行った。
《説明事項》
（会の名称）「一般科目理系教員と専門科目教員との意見交換会」
（背景） 同会は，これまで不定期に開催
（目的） 一般科目：理系教員と専門科目教員との意見交換
⇒育成する技術者像の共有＆一般理系科目と専門科目の接続の協議
（出席者） 学校教育システム点検･改善委員長， 一般科目：理系教員，
学科長（ M，E，S，C ）， 各専門学科より１～2 名
（会議）年に１～２回開催（招集：学校教育システム点検･改善委員長または学科長）

※ オフィシャルな会議だけでは，教員間の共通理解は難しいので，各科目担当者間で，機会あるごとに意見交換して頂くことが望ましい。

2．議事

(1) モデルコアカリキュラムの導入の方向性について

①南部：
平成 24 年度全国教育フォーラム（東京）について「科目間連携」および「モデルコアカリキュラム導入」に関するワークショップの報告があった．
②物理 / 森先生：
①に関連して「学習到達度試験」に関するワークショップの報告があった．
・学習到達度試験の目的は，各高専において弱点の分野を把握し克服するために行うものであり，高専間の競争や高得点を取らせるために授業内容の変更を行わせるものではない．
・物理では微分方程式を用いて解く問題が出題されることになったが，時間数の関係で物理の講義内で教えることは無理である．→本年度は選択していない．
③数学 / 三ツ廣先生：
②について 3 年生前期で微分方程式を教えているので，今後，物理の関連問題を取り入れて講義を行うことは可能であるという意見があった．

（出典　教育システム点検・改善委員会　抜粋）

資料９－１－③－３

社会人基礎力育成セミナー Training Seminar to Cultivate Fundamental Abilities as a Working Person	（履修単位）	担当者：機械工学科全員
４Ｍ　２単位（選択）　前・後期 150 分／週　授業回数 30 回（ 90 時間）		講義室：指定教室・実験室

授業概要：１．テクニカルスキルアップコース　２．国際的コミュニケーションコース
３．長期インターンシップコース

予備知識：１Ｍ～３Ｍまでで習得した知識

授業項目	授業内容
[前期] １．テクニカルスキルアップコース 各テーマに分かれ、４Ｍの学生自身が、ものづくりの体験を行う。 ①エンジンの分解・組み立て ②レーザーカッターを使用したものづくり ③ラジコンの制御 ④ミニ四駆を利用した力学学習 他 ２．国際的コミュニケーションコース 一回50分の英会話 英語でのプレゼンテーション基礎力育成 ３．長期インターンシップコース 地域企業と共同研究を行う	(１週)説明とコース分け (２週)各コースに分かれて活動 (３週)各コースに分かれて活動 (４週)各コースに分かれて活動 (５週)各コースに分かれて活動 (６週)各コースに分かれて活動 (７週)各コースに分かれて活動 (８週)各コースに分かれて活動 (９週)各コースに分かれて活動 (10週)各コースに分かれて活動 (11週)各コースに分かれて活動 (12週)各コースに分かれて活動 (13週)各コースに分かれて活動 (14週)各コースに分かれて活動 (15週)各コースに分かれて活動 **前期期末試験**
[後期] １．テクニカルスキルアップコース 各テーマにおいて、４Ｍの学生が１Ｍの技術指導を行う。 ①エンジンの分解・組み立て ②レーザーカッターを使用したものづくり ③ラジコンの制御 ④ミニ四駆を利用した力学学習 他 ２．国際的コミュニケーションコース 一回50分の英会話 英語でのプレゼンテーション基礎力育成 ３．長期インターンシップコース 地域企業と共同研究を行う	(16週)各コースに分かれて活動 (17週)各コースに分かれて活動 (18週)各コースに分かれて活動 (19週)各コースに分かれて活動 (20週)各コースに分かれて活動 (21週)各コースに分かれて活動 (22週)各コースに分かれて活動 (23週)各コースに分かれて活動 (24週)各コースに分かれて活動 (25週)各コースに分かれて活動 (26週)各コースに分かれて活動 (27週)各コースに分かれて活動 (28週)各コースに分かれて活動 (29週)各コースレポート作成 (30週)各コースレポート提出 **後期期末試験**

到達目標：１．テクニカルスキルアップコース　学生が各自のテーマで知識を習得し、他人にその内容を教え、理解させることができるようになること。
２．国際的コミュニケーションコース　英語で話す能力、聞いて理解する能力、受け答えする能力、プレゼンテーション能力および英語に対する自信を身につける。
３．長期インターンシップコース　地域企業と共同研究を行う

評価方法：　１．テクニカルスキルアップコース＆３．長期インターンシップ　出席数、報告書の提出　２．国際的コミュニケーションコース
評価基準　出席数、報告書の提出、プレゼンテーションの実施

佐世保高専教育目標：1.3.ｺｰｽ (2)　2	JABEE対応学習教育目標：
JABEE基準１（１）：	

教科書：　なし

参考書、補助教材等：なし

授業形式：　各コースの指示に従う
学生が用意するもの：各コースの指示に従う

自己学習の指針：

オフィスアワー：

備　考：実験レポート作成に必要な調査等のため、授業時間外に１時間以上必要とする

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料９－１－③－４

平成23・24年度に行われた主な教育点検・改善事項一覧

番号	点検・改善項目	委員会等
1	中期目標の検討	運営委員会
2	リスク管理室の設置	
3	実習工場運営規定の整備	
4	海外工場見学を4年生全クラスで計画・実施	教務関係委員会（教務主事室会議、教務委員会、専攻科委員会）
5	社会ニーズ対応型コース制の検討	
6	ポートフォリオ型点検ノートの活用	
7	出欠管理システムの活用	
8	本科4年生全学科に知識活用型教育を実施	
9	海外学校との学生交流を実施	
10	全教員による中学校訪問の実施	
11	専攻科3専攻を1複合専攻(4コース)に改組	
12	専攻科修了要件の改定	
13	専攻科生外部研究機関見学会を実施	
14	進路情報検索システムの導入	
15	新入生オリエンテーションの検討・実施	学生の支援関係委員会(教務主事室会議、学生主事室会議、厚生補導委員会、寮務主事室会議、キャリア支援室、学級担任連絡会、留学生委員会、奨学生・授業料免除委員会、安全教育委員会）
16	部活動・同好会に関する規約改定の検討	
17	クラブ引率に関わる規定の見直し	
18	リーダー研修会に招く外部講師の人選	
19	女子更衣室の防犯対策の監視カメラ設置	
20	通学用自転車登録制度の運用と事故防止指導	
21	容儀に関する細則の見直し	
22	携帯電話等の使用ルールの策定と指導	
23	寮生用パソコン更新	
24	学生寮寮室床のフローリング化	
25	寮室ドア用マグネット式傘置き設置	
26	寮生会会則の変更	
27	学生寮D棟・E棟前駐輪場増設	
28	学生寮N棟集会室LANハブ増設	
29	寮生用洗濯機追加・更新	
30	学生寮留学生用シャワー室改修	
31	学生寮女子寮製氷機更新	
32	特別支援部会の開催	
33	本校冊子「キャリアデザインへの第一歩」のWeb化	
34	高専キャリアデザイン講座の実施	
35	新入生対象図書館オリエンテーションの実施	施設・設備関係委員会(図書委員会、情報処理センター運営委員会、情報セキュリティ委員会、施設設備委員会、地域テクノセンター運営委員会）
36	情報セキュリティポリシー広報	
37	情報セキュリティについての講演会実施	
38	e・ラーニングのコンテンツ検討	
39	施設の点検及び調査の実施	
40	地域連携研究会の実施	
41	高専キャリアデザイン資料の収集	
42	学校公式ホームページのデザイン変更の検討	広報委員会
43	50周年記念講演会の実施	外部への貢献に関する委員会（教務委員会、地域共同テクノセンター運営委員会、50周年記念事業実行委員会）
44	出前授業の実施	
45	近隣企業説明会の実施	学生の要望に配慮した委員会（教務委員会、教務主事室会議、学生主事室会議、学生相談室、FD委員会、地域共同テクノセンター運営委員会）
46	授業改善に向けた授業参観ウィークの実施	
47	学生相談室長講話の実施	
48	学生相談だより「セネシオ」の発行	
49	外部評価委員会の開催	システム点検関係委員会(教育システム点検・評価委員会、外部評価委員会）
50	教育システム点検・評価委員会の実施	

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

各種委員会や会議等が設けられ，運営委員会を中心として，主要な委員会及び各学科が毎月定例の会議を開催し，随時教育の点検・改善に取り組んでいる。また，外部評価や第三者評価等による結果を教育の質の向上・改善に結びつけている。このように，学校全体として教育の質の向上や改善を図るためのシステムを整備し，教育課程の継続的改善を行っている。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

全教員は，学生による授業評価アンケートの結果に対し，その評価結果及び学生からの意見要望に対する対応・コメントをFD委員会へ報告し，授業の改善点等を各教室に掲示して学生へ伝えている（観点３－２－①参照）。さらに，本校ウェブサイトで公開されている卒業・修了アンケートの結果に対し，各教員は教育目標の達成度を把握することに努めている。

公開授業週間を決め（資料９－１－④－１），教員相互に授業を参観し意見交換することで，今後の授業の参考及び授業方法の向上を図っている。この公開授業の開催は保護者にも通知され，授業参観が可能となっている（資料９－１－④－２，３）。

教員は，これらの取り組みで得られた結果を参考にしながら，年度末に自分の活動内容を振り返り，改善状況について「自啓録」を作成し，校長にその内容を報告している（資料３－２－①－13参照）。

観点９－１－④資料一覧

（資料９－１－④－１）	教務委員会資料	出典：学生課資料
（資料９－１－④－２）	公開授業の実施について（教員への通知）	出典：学生課資料
（資料９－１－④－３）	公開授業の実施について（保護者への案内）	出典：学生課資料

資料９－１－④－１

平成２４年度第５回教務委員会資料

平成２４年９月４日

○報告事項

（１）年間行事予定表の変更及び追加について

教員会議９月 20 日（木） → ９月 24 日（月）
第二回 FD 講演会９月 27 日（木） → ９月 26 日（水）
学級担任連絡会（4・5 年） 10 月 22 日（月） → 10 月 29 日（月）
専攻科入学試験全体会議（学力後期）11 月 22 日（木） → 11 月 19 日（月）
卒業判定会議３月７日(木) → ３月６日（水）
入試合格者登校日３月７日(木)(長崎県の高校入試実施日)

（２）入試対策について

(a)学校説明会ついて

８回実施し、昨年よりも中学生 35 名、保護者 37 名の計 72 名（一昨年より 246 名）増加

(b)高校説明会等への出席について

①5 月 30 日(水)13:35～13:55 田平中学→担当須田(済み)
②6 月 12 日(火)13:30～13:50 牛津中学→担当大島(済み)
③7 月３日(火)14:35～14:50 小佐々中学→担当嶋田(済み)
④7 月 13 日(金)13:55～14:25 鹿町中学→担当松山(済み)
⑤9 月 21 日(金)14:10～14:35 志佐中学→担当堀江(案)
⑥9 月 26 日(水)14:15～14:30 吉井中学→担当嶋田
⑦9 月 26 日(水)14:50～15:10 柚木中学→担当松山(案)
⑧9 月 28 日(金)14:35～14:50 西大村中学→担当大島
⑨10 月 18 日(木)14:05～14:30 鷹島中学→担当須田
⑩10 月 22 日(月)13:45～14:30 御厨中学→担当堀江(案)

(c)入試懇談会の実施について

① ９ 月 19 日(水) 長崎会場中学校教員対象：大島先生
② ９ 月 21 日(金) 本校会場学習塾対象：須田
③ ９ 月 24 日(月) 本校会場中学校教員対象：須田
④ ９ 月 27 日(木) 佐賀会場中学校教員対象：嶋田先生

(d)一日体験入学について

８ 月４ 日(土)→（参加者数 635 名：昨年 663 名：一昨年 549 名）
（生徒 359 名：昨年 378 名：一昨年 342 名）

(e)編入学学力試験について

8/22(水)受験者 18 名(M:9 名、E:3 名、S:4 名、C:2 名)
編入学試験判定会議（8/24(金)14:00 ～）、合格者(M:4 名、E:1 名、S:1 名、C:0 名）

（３）防災・避難訓練(6 月 19 日(火))→雨天延期で前期定期試験最終日(9/28)に実施予定

（４）FD 関係について

(a)FD 講演会の計画について

②第二回ＦＤ講演会 9/26(水)13:30-15:30 講師：○○○○○○○○○　○○○○○○先生
「人権・ハラスメント」に関する FD 講演会
③第三回ＦＤ講演会 12/10(月)13:30-15:00 講師：○○先生(○○○○○○大学)
安全に関する FD 講演会
④第四回ＦＤ講演会定 2/22(金)13:30-15:00 講師：未定（○○○○○○）
情報セキュリティーに関する FD 講演会

(b)授業アンケートを集計整理中。

(c)公開授業参観を 10 月１日(月)～10 月 15 日(月)の期間で実施予定。

（５）第二回特別支援部会について 10 月１日(月)に開催予定

（出典　学生課資料）

資料９－１－④－２

教員各位

公開授業の実施について

FD 委員会委員長
須田義昭

各教員が他の教員の授業を参観し意見交換することで、今後の授業の参考及び授業方法の向上を図るために下記のように公開授業を実施致します。下記の実施期間中に，教員あるいは保護者が授業を参観しますので，よろしくお願い致します。なお授業参観後，教員の方は添付しました**公開授業参観記録**を各学科の FD 委員に提出して下さい。

また、非常勤講師、保護者、その他の方で参観された方も、意見などを「授業参観記録」に記入して頂き、教育支援係に提出して下さい。

ご意見等を参考にして頂けたら幸いです。

実施時期：*平成２４年１０月１日（月）～１５日（金）*

提出期限：*平成２４年１０月１９日（金）*

FD 委員　機械工学科　中江先生
電気電子工学科　高比良先生
電子制御工学科　嶋田先生
物質工学科　野尻先生
一般科目　稲永先生

（出典　学生課資料）

資料９－１－④－３

平成２４年１０月　　日

保護者各位

佐世保工業高等専門学校長
中　尾　充　宏（公印省略）

保護者懇談会の開催について（お知らせ）

このことについて、下記のとおり保護者懇談会を実施いたしますので、お知らせします。当日担任教員から成績通知表をお渡し致します。
なお、離島（五島、壱岐、対馬）での保護者懇談会も１０月下旬から１１月中旬に予定していることを申し添えます。
また、下記の日程以外でも、御希望があれば個別に面談を実施いたしますので、各担任の先生方へご連絡下さい。

記

１．保護者懇談会（本校）
開催日　　平成２４年１０月２８日（日）
会場　　佐世保工業高等専門学校　（裏面参照）
佐世保市沖新町１－１　TEL０９５６－３４－８４１９

２．地区保護者懇談会（諫早市）
開催日　　平成２４年１０月２６日（金）１８：３０～２０：００
会場　　諫早商工会館（裏面参照）
諫早市高城町５番１０号　TEL０９５７－２２－３３２３

◎諫早会場または本校開催分のいずれかにご出席ください。

また、公開授業参観を１０月１日（月）～１０月１５日（月）まで
実施致しますのでご出席ください。（受付場所は学生課教育支援係です）

◎１０月２８日当日は９：３０～１６：００まで、本校情報処理センターで、進路検索システムを使って、求人や大学の募集をご覧いただけます。
入退室は自由です。懇談会の空き時間等にお気軽にお立ち寄りください。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会は，授業評価アンケートに対する全教員の対応・改善活動状況を把握している。学生に対しては，授業評価アンケート結果を踏まえた各授業担当者の回答を全教室に掲示し通知している。各教員は，「自啓録」において，授業評価アンケート・公開授業報告書等を参考にした授業内容等の改善報告を記述し，校長に提出している。これらの取り組みは継続的に行われている。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員は独自の研究の他に大学や企業との共同研究等に取り組んでおり，それらを卒業研究や特別研究のテーマとして学生教育の場に取り入れている（資料９－１－⑤－１，２）。その成果として，論文及び口頭発表を行っている（資料９－１－⑤－３）。専攻科生は学会発表を義務付けられており，優秀講演賞を受賞する学生も毎年出てきている（資料５－７－①－４参照）。

また，工学教育関係への論文投稿も積極的に行っている。平成24年度の日本工学・工業教育研究講演会においては，機械工学科の４年生が１年生の「創作実習」の授業において実習指導に取り組む活動を報告したものがある（資料９－１－⑤－４）。さらに，平成24年度国際工学教育研究集会(ISATE)では，学生の英語運用能力を高めるため，英語ネイティブスピーカーを中心とした少人数ベースの取り組みを実施し，学生の英語力向上に対する効果を報告した（資料９－１－⑤－５）。

一般科目及び専門科目において，教員の研究活動に基づく専門分野の知識・経験が授業に活かされる機会も確保されている。具体的な事例として，英語教育におけるリーディング指導を行うために本校教員が作成した英語教材を利用している例（資料９－１－⑤－６），体育の授業でバレーボール動作の３次元的解析研究成果を活かし指導している例（資料９－１－⑤－７），物理の授業で担当教員が開発した実験教材「水道ホースを用いた音速測定装置」を取り入れた例（資料９－１－⑤－８）がある。また，専門科目の授業では担当教員が開発した教材を利用した「H8マイコンを用いた計測実験」を実験に取り入れている例（資料９－１－⑤－９，10）がある。

観点９－１－⑤資料一覧

（資料９－１－⑤－１）	卒業研究題目一覧	出典：学生課資料
（資料９－１－⑤－２）	専攻科特別研究テーマ・指導教員一覧	出典：学生課資料
（資料９－１－⑤－３）	教員研究活動一覧	出典：平成 24 年度研究報告
（資料９－１－⑤－４）	教育活動の報告事例１（論文発表）	出典：平成 24 年度日本工学・工業教育研究講演会 講演論文集
（資料９－１－⑤－５）	教育活動の報告事例２（論文発表）	出典：平成 24 年度 国際工学教育研究集会 論文集
（資料９－１－⑤－６）	英語教材	出典：三修社
（資料９－１－⑤－７）	保健体育	出典：平成 24 年度シラバス
（資料９－１－⑤－８）	物理	出典：平成 24 年度シラバス
（資料９－１－⑤－９）	５Ｓ工学実験・実習	出典：平成 24 年度シラバス
（資料９－１－⑤－10）	教育活動の報告事例３（論文発表）	出典：平成 22 年度 国際工学教育研究集会 論文集

資料９－１－⑤－１

平成24年度　機械工学科卒業研究題目

No.	研 究 テ ー マ	担当教員	No.	学生氏名
1	階段用曲線形手すりに関する研究	福田	12	
			28	
2	トイレ用曲線形手すりに関する研究	福田	27	
			29	
3	炭素鋼の疲労特性に及ぼす多量の水素の影響	西口	31	
			40	
4	欠番			
5	多量の水素が炭素鋼の引張特性に及ぼす影響	西口	13	
			24	
6	内歯車歯面のラッピングに関する研究	中江	37	
			39	
7	小径歯車歯面のラッピング仕上げ	中江	10	
			16	
8	高面圧運転試験における真空浸炭窒化歯車の歯面性状	森川	3	
			26	
9	自動車用電動パワステ・ウォームホイールの負荷能力	森川	33	
			34	
10	スーパー・エンプラ材の最適切削加工条件とその仕上面評価	森川	21	
			32	
11	3D-CADモデルによる教材の開発	小原・西村	18	
12	古典制御理論による倒立振子の安定化	中浦	6	
			36	
13	2次系のメカニカル系を用いた工学実験教材の開発	中浦	17	
14	二輪車用姿勢安定化装置のための基礎的研究	貞弘	9	
			14	
15	非線形自転車モデルの構築とその実験的検証	貞弘	5	
			30	
16	軟鋼板の振動における内部減衰に関する研究	原	4	
			15	
17	クラドニ図形発生装置の製作とFEMによる確認	原	23	
18	レーザを利用したガラスの新しい除去加工技術開発	森田	25	
19	振動モードを利用したガラスの新しいクロスカット技術開発	森田	20	
20	校外講座用実験・実習教材の製作	森田	7	
21	垂直管内気液環状流における表面張力の影響に関する研究	松山	19	
			35	
22	マイクロバブルの応用可能性に関する研究	松山	1	
			41	
23	加速度センサと角速度センサによるラグビー選手の運動軌跡計測	中島	2	
			38	
24	加速度センサと角速度センサによるラグビー選手の衝撃力計測	中島	8	
			22	

資料９－１－⑤－１続き

H24年度卒業研究　電気電子工学科卒研テーマ

No.	学生氏名	卒研テーマ	指導教員
3		高品質な水中衝撃波の生成を目的としたナノ秒パルス電源の開発	猪原
16		大気圧プラズマジェットによる表面処理を目的としたナノ秒パルス電源の開発	猪原
39		大気圧プラズマによるバイオ応用を目的としたナノ秒パルス電源の開発	猪原
9		Agアブレーションプラズマを用いた殺菌への応用	大島
14		プラズマプロセスを用いた全固体エレクトロクロミック薄膜の作製	大島
34		プラズマプロセスを用いた全固体エレクトロクロミック薄膜の作製	大島
40		Agアブレーションプラズマを用いた殺菌への応用	大島
19		極低温状態でのアーク放電に関する研究	川崎
37		小型多相グライディングアークの特性とその応用に関する研究	川崎
44		静電探針法によるプラズマの電子密度・温度計測	川崎
47		極低温状態でのアーク放電に関する研究	川崎
7		MathcadとC言語を用いた信号処理教材の作成	品川
12		Mathcadによる信号処理に関する研究	品川
24		テント写像群から生成される擬似乱数の評価	品川
26		異常音検出システムの作成	品川
10		水中音響を用いた測位システムに関する研究 -ノイズ対策と機能追加-	下尾
21			下尾
36		FPGAを用いたハードウェア設計に関する研究-多入力多出力への対応-	下尾
46		水中音響を用いた測位システムに関する研究 -システムの信頼性検証-	下尾
41		粉体ターゲットを用いたPLD法による酸化物薄膜の作製に関する研究	須田
42		有機金属溶液焼成法による白金ナノ構造物の作製に関する研究	須田
43		スパッタリング法を用いたヒートミラー薄膜の作製に関する研究	須田
4		動画を用いた人工物の3次元ベクトルデータ自動生成に関する研究	高比良
15		電動アシストリアカーの製作に関する研究	高比良
28		単発性騒音の能動音響制御による低減手法に関する研究	高比良
22		コンパクトな水中ロボットの高機能化に関する研究―操縦補助のための自律制御の導入―	長嶋
30		コンパクトな水中ロボットの高機能化に関する研究―実験による4chソナーの精度向上―	長嶋
31		コンパクトな水中ロボットの高機能化に関する研究―多機能型PCコントローラーへの自律制御コマンドの導入―	長嶋
32		無線LANを用いた遠隔制御・監視に関する研究	長嶋
6		永久磁石多極同期発電機の設計・製作	南部
8		ICT倫理およびリテラシー教育に関するメディア教材の試作	南部
18		自然エネルギーを利用した電気自動車充電システムの試作	南部
23		永久磁石多極同期発電機の設計・製作	南部
29		ICT倫理およびリテラシー教育に関するメディア教材の試作	南部
1		マイクロバブルに関する研究―レーザー光照射によるマイクロバブル発生の確認―	三橋
25		マイクロバブルのレーザー光計測技術の研究	三橋
33		水生植物の細胞におけるマイクロバブルの洗浄効果に関する研究	三橋
35		粒子法シミュレーションを用いた研究―シミュレーションと現実との比較―	三橋
5		大面積・低温大気圧プラズマ生成方法に関する研究	柳生
13		バラスト水殺菌装置用オゾン/酸素分離ユニット評価試験―酸素吸着材の評価―	柳生
20		ジャンボタニシの走電性を活用した誘因殺傷装置の開発―走電性の要因解明―	柳生
38		プラズマによる種子の殺菌・消毒法の研究	柳生
45		プラズマが農作物に与える影響―生長促進効果の検討―	柳生
2		PSAオゾン/酸素ユニットに関する研究―LabVIEWを用いたシステム開発―	吉田
11		展開型パワーモジュールの学生実験用教材の作成	吉田
17		LabVIEWを用いた自動制御教材の作成―倒立振子モデルの作成―	吉田
27		ANSYSによる学生実験用教材の作成―ダイレクトドライブ同期電動機の磁界解析―	吉田

資料９－１－⑤－１続き

平成24年度電子制御工学科卒業研究題目

研究室名	研　　究　　題　　目	学生数	学生名
中村研	Webカメラを用いた長さ計測の基礎的研究 腹囲計測システムの改善 腹囲計測システムのためのへその検出	4名	
川下研	画像処理とサーボ制御による砥石全領域の砥粒切れ刃解析に関する研究	2名	
重松研	ハイブリッド発電の実地検証 魅せる科学の実践研究	2名	
兼田研	CADデータを用いた配電盤製造工程効率改善用システム構築の共同研究 各種変調方式に対応した通信シミュレータの開発 測域レーザーを用いた物体の形状把握 パリティ ビットを用いたMTD復号法のユークリッド距離による特性解析	4名	
志久研	画像処理を用いた錠剤認識	2名	
嶋田研	リハビリテーション支援システムの開発 潮汐現象を利用した発電装置の開発	2名	
前田研	家庭用ロボットの移動制御に関する研究 位置情報センサを用いた自動誘導制御	2名	
坂口研	砥粒突出し量の自動計測アルゴリズムの開発 ダイヤモンドワイヤソーの表面形状解析アルゴリズムの開発 画像処理を用いた濃淡分布計測アルゴリズムの開発 砥粒形状を考慮した工作物表面形状の解析アルゴリズムの開発	4名	
手島研	対話型バーチャル水族館の開発 深度情報を用いたインタラクティブ3Dシステムの開発 画像特徴を利用した点描画像の自動生成	3名	
槇田研	電動義手によるパーシャルなケージング把持手法の検討 前腕の回内・回外動作の筋電位信号識別 リング型ケージング対象物の位置・姿勢推定 足部に着目した義足の調査	4名	
椛島研	APIを用いたWeb用自作問題集アプリ Webアプリケーション開発の研究 クラウドコンピューティングを用いたワークスペースアプリ	3名	

合　計　　32名

資料９－１－⑤－１続き

平成24年度 物質工学科卒業研究題目

No.	学生氏名	研究題目	担当教員
5		機能性脂質を生産する海洋微生物の探索	越村
14		カビを用いたステロイド化合物の変換	越村
18		*Aurantiochytrium* sp.によるアセトフェノン類の変換	越村
19		微生物を利用したテルペン類の変換	越村
36		カビによるステロイドサポニンの変換	越村
38		環境中からのアルコール発酵性酵母の分離	越村
26		廃セッコウの有効利用技術に関する研究	下野
29		石炭灰から合成したゼオライトの応用技術に関する研究	下野
39		海水電気分解－光触媒併用による海水浄化技術の研究	下野
7		付着性を有する粉体の流動化特性に関する研究	城野
22		マイクロバブルの物理化学特性に関する研究	城野
27		マイクロリアクターを用いた微粒子の連続合成に関する研究	城野
32		マイクロバブルの物理化学特性に関する研究	城野
6		ジベンジルビオロゲンの酸化還元電位の外部因子による影響	田中
9		両末端カルボン酸ヘプチルビオロゲンの酸化還元電位の外部因子による影響	田中
11		オクチルビオロゲンの酸化還元電位の外部因子による影響	田中
16		アルミナ−ジルコニア触媒によるクメン分解反応	長田
23		各種1,2−ジオール水溶液中で生成するクラスターの質量分析	長田
37		各種ケイ酸塩からのMFI型シリカライトの合成	長田
8		モノアゾメチン構造を有するナフトオキサジン類の合成と重合	平山
13		ビスアゾメチン構造を有するナフトオキサジン類の合成と重合	平山
21		フォトクロミックポリイミドの開発	平山
31		ナフタレンジオールからのオキサジン環形成と重合	平山
34		ベンゼンジオールからのオキサジン環形成と重合	平山
2		フェニルエチニル基を有する熱硬化性樹脂の開発	古川
3		セミIPN型耐熱性複合材料の開発	古川
4		ポリイミド系耐熱性ポリマーアロイの開発	古川
33		CO_2を原料とするウレタン系ポリマーの開発	古川
20		*Jatropha curcas* プロトプラスト培養系の開発	村山
24		交流電界を加えた水による植物の成長への影響	村山
28		植物細胞への遺伝子導入におけるバイオアクティブビーズの開発	村山
30		鉱石粉末の添加が植物の成長に及ぼす影響	村山
35		*Jatropha curcas* プロトプラスト培養系の開発	村山
1		炭素繊維を用いた藻場・漁礁形成に関する研究	山崎
10		機能性脂質を生産する海洋微生物の探索	山崎
12		プラズマを用いた滅菌に関する研究	山崎
15		機能性脂質を生産する海洋微生物の培養条件の検討	山崎
17		プラズマを用いた滅菌に関する研究	山崎
25		成長に伴う味蕾細胞数の変化	山崎

（出典　学生課資料）

資料９－１－⑤－２

平成２４年度専攻科　特別研究テーマ・指導教員一覧

学年	専攻(系)	氏　名	特別研究テーマ	指導教員	副指導教員
1年	機械		非線形自転車モデルの構築とその実験的検証	貞弘晃宜	中浦茂樹
			水素エネルギーシステム・インフラに使用される金属材料の強度特性に及ぼす極めて多量の水素侵入の影響	西口廣志	野尻能弘
			二輪車用車輪内蔵型姿勢安定化装置の開発	貞弘晃宜	中浦茂樹
			熱応力を利用したガラスの新しいレーザ加工技術	森田英俊	中浦茂樹
			振動モードを利用したガラスの新しい分断技術の開発	森田英俊	中浦茂樹
			高耐熱性エンジニアリング・プラスチックを用いたウォームギヤの負荷能力	森川浩次	中江道彦
			ダブル微粒子ショットピーニングが真空浸炭窒化歯車の疲労寿命に及ぼす影響	森川浩次	中江道彦
	電気電子		自然エネルギー利用のためのDC-DC変換システムの検討	南部幸久	高比良秀彰
			PSA法を用いたオゾン/酸素分離ユニットの性能評価および小型化の検討	柳生義人	川崎仁晴
			複数音源の分離手法に関する検討	高比良秀彰	三橋和彦
			スパッタリング法を用いた積層薄膜の作製	大島多美子	須田義昭
			粉体ターゲットを用いたプラズマプロセスによる機能性薄膜の作製	大島多美子	川崎仁晴
			ソフトプロセッサを用いたハードウェア設計手法に関する研究	下尾浩正	高比良秀彰
			粒子法を用いた巨大植物細胞内の原形質流動に関する研究	三橋和彦	高比良秀彰
			小型水中ロボットの知能化に関する研究	下尾浩正	川崎仁晴
	情報		部分的ケージングの定義と評価手法の提案	槇田　諭	前田貴信
			手指の筋腱複合体の機械的特性の解明とモデル化	槇田　諭	前田貴信
			拡張現実を用いたい科学学習支援システムの開発	嶋田英樹	中村嘉男
			超電導自動車の開発とその教育効果	重松利信	森　保仁
			RGBカメラ，深度センサを用いたリハビリ支援システムの開発	嶋田英樹	手島裕詞
			研削砥石表面の砥粒形状の解析アルゴリズムの開発	坂口彰浩	川下智幸
			回転型研削工具表面状態解析装置の開発	川下智幸	坂口彰浩
			道路案内標識における文字認識の基礎研究	志久　修	手島裕詞
	化生		石炭灰から合成したゼオライトによる重金属イオン除去に関する研究	下野次男	城野祐生
			芳香族系ポリ（ヒドロキシエーテル）および耐熱性ポリマーアロイの開発	古川信之	渡辺哲也
2年	機械		マイクロバブルの水耕栽培への応用に関する研究	松山史憲	中島賢治
			歯車歯面のラッピング仕上げに関する研究	中江道彦	森川浩次
			ラグビーにおけるコンタクトプレイに関する衝突力学的解析	中島賢治	松山史憲
			ねじり予ひずみを導入した炭素鋼S25Cの水素侵入特性・拡散係数および疲労特性に及ぼす水素の影響	西口廣志	福田孝之
			レーザによる熱応力を利用したガラスの非接触スライシング加工の可能性	森田英俊	原要一郎
			振動モードを利用したFPD用ガラスの非接触割断加工に関する研究	森田英俊	原要一郎
			曲線形手すりの形状とその効果に関する研究	福田孝之	西口廣志
	電気電子		粉体ターゲットを用いた機能性薄膜作製と評価	川崎仁晴	大島多美子
			屋内用搭乗型移動ロボットの走行制御に関する研究	前田貴信	川下智幸
			深度センサを用いた手話認識システムの開発	嶋田英樹	手島裕詞
			文字の色と形状に注目した情景画像からの文字領域抽出	志久　修	手島裕詞
			環境情報構造下におけるレーザセンサを用いた障害物位置検出装置の開発	前田貴信	川下智幸
			ダイヤモンド砥粒形状計測システムの開発	川下智幸	坂口彰浩
			水中音響を用いた小型測位システムの開発	下尾浩正	長嶋　豊
			動画像からの三次元データ自動抽出手法に関する研究	高比良秀彰	南部幸久
			有機金属溶液を用いたナノ微粒子作製に関する研究	須田義昭	大島多美子
			パルス電圧による低温液体中の放電特性	重松利信	川崎仁晴
			電子コミックのためのシーン評価手法の一検討	手島裕詞	志久　修
			SURF特徴量を用いた水中画像からの水中生物抽出	志久　修	手島裕詞
			ケプストラム分析を用いたカエルの鳴き声認識に関する研究	嶋田英樹	中村嘉男
			ダイヤモンド工具の砥粒配置最適化に関する研究	川下智幸	坂口彰浩
	物質		イミド構造を有する新規ベンゾオキサジンおよび分子複合材の開発	古川信之	平山俊一
			機能性脂質を生産する海洋微生物の培養条件の検討	山崎隆志	越村匡博
			アルミナ－ジルコニア系触媒によるヘキサフルオロエタンの加水分解反応	長田秀夫	渡辺哲也
			新規ナフトオキサジンの合成と反応解析	平山俊一	越村匡博
			廃セッコウの有効利用に関する基礎検討	下野次男	野尻能弘
			海水電解法を用いた海水浄化技術に関する研究	下野次男	野尻能弘
			低周波大気圧プラズマジェットを用いた口腔内細菌の不活化	山崎隆志	柳生義人
			イミド構造を有するベンゾオキサジンの合成反応における酢酸亜鉛の触媒効果	平山俊一	古川信之

（出典　学生課資料）

資料９－１－⑤－３

平成23年度　教員研究活動一覧

Ⅰ．論文著書

本研究報告掲載論文は除く

機械工学科

所属が記されていない者は本校教員

氏　名	題　目　・　書　名	誌名・出版社名	巻（号）
金田　泰昌[1)] 入月　康晴[2)] 貞弘　晃宜 山北　昌毅[1)]	可変構造をもつダイナミクスの離散化誤差低減とFPGAを用いた実現	電気学会論文誌	C編, Vol.132, No.7, pp.1182-1190, (2012.7)
松崎　健一郎[3)] 末岡　淳男[3)] 劉　孝宏[4)] 森田　英俊	BTA深穴加工におけるライフリングマーク発生現象の防止対策	日本機械学會論文集. C編 76(767)	C編 76(767)
中江　道彦 日高　一憲[5)] 森川　浩次 取違　典嗣[6)] 佐尾　進[6)]	心なし歯車ラッピング盤の開発とそれによる加工結果	日本機械学会論文集（C編）	76巻766号 pp.1627-1632 (2010.6)
Kazuma Sekiguchi[1)] Mitsuji Sampei[1)] Shigeki Nakaura	Parametarization of the Output with Respect to the Relative Degree	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration	Vol.3, No.2, pp.137-143 (2010.3)
中島　賢治 中浦　茂樹 森田　英俊 松山　史憲 西口　廣志 福田　孝之	異学年協働学習による機械工学リテラシーの育成	工学教育	Vol.60, No.1, pp.46-51 (2012.1)
豊橋技術科学大学・高等専門学校制御工学教育連携プロジェクト	制御工学　ー技術者のための，理論・設計から実装までー	実教出版	(2012.3)
Masahiko NAKAE Kazunori HIDAKA[5)] Hiroshi MORIKAWA Tenji TOII[6)] Susumu SAO[6)]	Development of the Center-Less Gear Lapping Machine and the Lapped Gears	Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing	Vol.5, No.3, 2011
中島　賢治 ほか16名共著	（第3章第2節）	包装工程の最適化とトラブル対策・技術情報協会編	pp.127-146 (2011.12.28第1版第1刷発行)
中島賢治・城野祐生	一定量の粉体が自由落下する場合の粒子群の挙動	佐世保工業高等専門学校研究報告	47, pp. 1-8

（出典　平成24年度研究報告　抜粋）

教育活動の報告事例１

オーガナイズドセッション：工学国際化へ向けてのコミュニケーション教育
講演番号：6−216

上級生による下級生への実習指導を通じた就業力育成

−定量的な追跡調査のためのアンケート作成と実施−

Program to improve ability for work by the training instruction that a senior teaches younger students
- Making and enforcement of the questionnaire for quantitative follow-up surveys -

中島 賢治※1　森川 浩次※1　松山 史憲※1　貞弘 晃宜※1　○中浦 茂樹※1　福田 孝之※1
Kenji NAKASHIMA, Hiroshi MORIKAWA, Fuminori MATSUYAMA, Teruyoshi SADAHIRO, Shigeki NAKAURA and Takayuki FUKUDA

キーワード：工学教育，高等専門学校，コミュニケーション，実務教育，問題解決，アンケート，教育効果
Keywords: Engineering education, Technical college, Communication, Business education, Solution to the problem, Questionnaire, Education effect

1. はじめに

企業においては，新入社員の「人間力[1)]」や「社会人基礎力[2)]」が重要視されるようになり，コミュニケーション能力，リーダーシップ，リテラシー（有用な情報を探し出して活用する能力）などの育成が課題となっている．それらの能力はより若いうちに育成するほうが有効と考えられ，学校教育において人間力や社会人基礎力の土台を作る教育プログラムを開発したいと考えている．昨今の不景気の影響により，新卒学生に対する企業の要求レベルは年々高くなり，学生の最終学歴になり得る高専の責任は重大である．

著者らは，平成 22 年度から上級生による下級生への実習指導を通じた就業力育成プログラム[3)]を実施しており，平成 23 年度の日本工学教育協会年次大会において取り組み内容を報告した．発表の中で，年度末に上級生らと教員による討論会が実施され，そこで得られたキーワードによって取り組みの効果が評価された．実際の教育効果を評価するには，数年単位での取り組みの実施と，統一されたアンケート評価が必要である．そのため，平成 23 年度に報告した取り組みの効果からキーワードを抜粋し，就業力の具体的項目別の効果がわかるアンケートを作成した．本報告では，平成 23 年度に受講した高専 4 年生に対するアンケートの内容とその結果を報告する．

2. 授業の方法とその内容

表 1 は本取り組みで行われたおもな実習の内容と授業時数を示している．4 年生が 1 年生を直接指導する点が本取り組みの特徴であり，これを実現するために 4 年生の知識活用教育と 1 年生の創作実習の時間を割り当てた．4 年生の知識活用教育の時間は通年で毎週火曜日の午後に設けられている．学生がこれまでに学習した知識を活用して自発的に行動する時間として，平成 22 年度に新設された通年 3 単位の科目で，平成 24 年度に単位化された．そして，1 年生の創作実習は，ものづくりに関しての好奇心を持ち，プレゼンテーションの資料作成ができるようになることを目的として，平成 16 年度に創設された後期 2 単位の科目である．4 年生が前期に実習の準備を行い，後期に 1 年生に対して実際の実習講義を行うようにしている．

表１　おもな実習の内容

	前　期	後　期
4 年生 知識活用 教育	講義内容の調査 授業案の作成 教材の準備 模擬授業の実施 50 分×3 単位×15 週	実習授業の実施 課題作成 成績評価 50 分×3 単位×15 週
1 年生 創作実習	なし	実習授業の受講 50 分×2 単位×15 週

表 2 に具体的な実習テーマの内容を示す．1 年生が将来履修する力学系科目，工作系科目，設計系科目，制御系科目と連携できるよう，早期専門教育を意識して，それぞれのテーマを設定した．

表２　具体的な実習テーマの内容

テーマ名	内容と目標
ガソリンエンジンの分解組立	ホンダ製教育用ガソリンエンジンを分解・組立することにより，各機械要素の役割，工具の扱い方などを習得する．また，内燃機関の仕組み，熱機関サイクルを理解する．
PLC によるラジコンカーの自動制御	オムロンの教育用シーケンサ（2ch）を利用して市販のラジコンカーを PLC で自動運転する．シーケンス制御，クルマのサスペンションやデフギヤの役割を理解する．
ミニ四駆を利用した力学学習	ミニ四駆のギヤ比を変更して回転数やトルクを計測し，競争する．歯車やベアリングなど機械要素の役割を理解する．
レーザーカッターによる木型切り出し	2 年生の鋳造実習で使用する木型をレーザーカッターで切り出す．木型の図面をパソコンで描く．パソコンの使い方，数値制御，レーザーカッターの原理を理解する．

※1 佐世保工業高等専門学校 機械工学科

㈳日本工学教育協会　平成 24 年度
工学教育研究講演会講演論文集

3. アンケートの作成と実施

前報[3]では，年度末に４年生と教員が討論会を開き，ポスター形式でプレゼンテーションを行い，そこで現れたキーワードの出現頻度で本取り組みの効果に関する考察を行った．口頭発表時の質疑応答および論文提出時の査読において，取り組みの効果は数年単位でデータを蓄積すべきであるとのご指摘をいただいた．そこで，平成 23 年度からアンケートを実施するため，アンケートの設問を作成した．学生が答えやすいアンケート内容にするため，次の点について留意した．①項目が具体的であること．②相対的なレベル評価ではなく，主観的な評価であること．

図１はアンケートの設問とその結果である．アンケート実施には図１の表を用い，図１で数字が入っている部分を空欄にして，「以下の４項目に該当するキーワードの番号に○をつけてください（いくつでも可）.」という設問とし，回答を得た．図１の表の中に記入されている数字は，丸印が付いた数を表している．アンケートの有効回答数は 22 人である．

この授業を通して	1 得られたと思う	2 難しいと感じた	3 重要と感じた	4 興味を持てた
チームワーク	17	3	16	2
臨機応変さ	12	12	14	1
リーダーシップ	6	6	10	2
やりがい	12	2	4	6
１年生との交流	8	5	5	10
自発的に行動する	12	6	10	2
１年生に対する指導力	14	14	7	5
積極的にかかわること	8	4	12	5
話して伝えること	10	13	12	4
関心を持たせること	5	17	12	4
教材（テキスト）の作成	7	14	4	2
教材（装置）の製作	8	8	6	4
理解できるように教えること	8	18	11	4
書いて伝えること	7	14	8	2
授業全体の計画	3	9	8	4
教材のためのマニュアルなどを読解すること	7	13	8	6
状況を見て授業を進めること	8	8	12	3
授業内容の作成	2	11	7	5
失敗を次に生かすこと	16	4	14	4
教え方の改善	11	6	14	3
授業前の準備	8	4	12	0
授業内容の理解	8	5	13	4
教えたことに対する責任感	12	2	10	5
授業に関する知識の豊富さ	10	7	14	6

図１　アンケートの選択式設問とその集計結果

図２はアンケートの自由記述「この授業の経験を通して，特に印象に残っていることがあれば書いてください.」の設問に対する回答である．学生の正直な感想が書かれていて，今後の授業運営に参考となる意見が多かった．

- 興味を持ってもらえるように教えることが難しかった．
- 後輩に指導するためには，まず自分たちがしっかり理解することの重要さを感じた．一年通して，非常に良い体験になったと思う．
- 授業中におしゃべりされたらなんかいやだった．
- １年生のエンジンに対する関心があまりない所．
- １年生へ CAD を教える事の難しさ（レーザー加工の創作実習において連線を使う意味やジョイントを用いる場所をうまく説明しなければ伝わらない）
- １年生の機械に対する関心が少し薄いような気がした．機械科なのに・・・．
- １年生への説明を回を増す毎に改善していくことの難しさ．
- 創作実習班と英語班の差がありすぎる．創作実習班は会社説明会に行きたくても行けない．英語班は楽（ラク）してそうに見える．
- 前期での準備が重要だと思った．
- 工具を使ったことがない１年生が多くて驚いた．
- １年生といかにコミュニケーションをとることが大切か学んだ．

図２　自由記述の回答（原文引用）

4. おわりに

上級生による下級生への実習指導を通じた就業力育成プログラムの効果を今後も継続的に調査，考察する計画である．アンケートに協力してくれた学生に感謝する．

参考文献

1）磯貝 恵美子，額 丈二：企業における「人間力」強化を狙った技術研修の構築 ，工学教育，56-1，pp. 89-93，（2008）．

2）伊藤 通子，定村 誠，本江 哲行，丁子 哲治：企業の若手技術者を対象とした「社会人基礎力」を育成する研修プログラムの開発 ，工学教育，57-5，pp. 99-105，（2009）．

3）中島賢治，中浦茂樹，森田英俊，松山史憲，西口廣志，福田孝之：異学年協働学習による機械工学リテラシーの育成，工学教育，60-1，pp. 46-51，（2012）．

（出典　平成 24 年度日本工学・工業教育研究講演会　講演論文集）

資料９－１－⑤－５

教育活動の報告事例２

ISATE 2012
International Symposium on Advances in Technology Education
19 – 21 September 2012, Kitakyushu JAPAN

Introduction of Novel English Conversation Education with Small Classes

H.Nishiguchi*, Y. Yagyu*, Y. Hara*, Y. Nagashima* and H. Matsuo*

* Sasebo National College of Technology, Sasebo, Japan

E-Mail hiroshin@post.cc.sasebo.ac.jp

Abstract

In order to nurture exceptional engineers taking an active role in international business, this project that encourages students to try to improve English communication skills was started. In this project, the group is made up of 4 ~ 6 students and a native speaker who facilitates students' English talking appropriately. In this group, practices of debate, discussion, presentation, making a suggestion with using brain-storming are conducted in English. Furthermore the networking event between the students in this course and the students of Xiamen University of Technology (XUT) in China was held. Before this time, Japanese students prepared presentations about Sasebo culture, their school life, social concern about the energy problem and friendship between Japan and China, and these topics were talked to the students of XUT in English. After the presentation, both students discussed about "how China and Japan contribute to the world" by using brain storming with mind-map.

Some students who belonged to this course, their TOEIC Listening score increased 75 ~ 105 points. Furthermore most of the students gained some confidence in talking with foreigners. From this result, this project has been of great benefit to their English communication skills. Because the Japanese education is in a critical shortage of the time which students can talk in English with native speakers instead of globalized society, this project should be popularized in Japanese schools.

Keywords: *Practical English Communication Education, Japanese and English Communication Patterns, Small group Education, Xiamen University of Technology, Mind-map*

Introduction

Regardless of acceleration in globalization, many Japanese students attending high school or National College of Technology can neither speak in English fluently nor insist their own opinions logically to the others in English well except for the students who have experienced to live in English-speaking countries. These reasons are as follows.

(a) Usual English class style in Japan consisting of 1 teacher and many (maybe more than 20) students is inefficient to improve students' English communication skill because of less opportunity of communication.

(b) The training for communication skills to represent students' opinions logically and clearly has been neglected in Japan. In other words, despite having an aspiration for improving students' English skills, breakaway from "High-context communication (Japanese pattern communication)" in which people place an importance on each other's opinion and make the opinion indistinct isn't conducted instead of adopting "Low-context communication (English communication patterns)" in which people are proactive in expressing their own opinions and place an importance on clearness. A questionnaire by the institute of National Colleges of Technology, Japan, shows that the decline in ability of using English and communicating. Without picking up the habit to speak their own opinion logically, it is presumed that improvement of English communication skill is difficult. Therefore in addition to acquisition of knowledge (grammar or words), it is important to practice "English type communication" for improving English communication ability. Moreover the education which improves not only the students who are interested in English but also all class students must be conducted.

Since 2010, in Sasebo National College of Technology (SNTC), English conversation with small class was carried out. This small class consist of one native-speaker and 4-6 students. In addition, the class to train their ability to communicative logically and clearly with mind-map by using Japanese was carried out. The following abilities were trained in those classes. (1) The ability to communicate own insists clearly and logically in both Japanese and English, (2) The abilities for discussion and presentation in both Japanese and English. Moreover in this paper, the mutual student exchange meeting with the students from Xiamen University of Technology, China (XUT) was reported.

English Conversation Education with Small Classes

(1) English Conversation Education with Small Classes in 2010

Figure 1 shows the appearance of English conversation education with small classes in 2010. These classes were carried out since December for the fourth grade students belonging to the Department of Mechanical Engineering. It was carried out 8

資料９－１－⑤－５続き

ISATE 2012
International Symposium on Advances in Technology Education
19 – 21 September 2012, Kitakyushu JAPAN





Figure 1 The appearances of English conversation education with small classes in 2010.

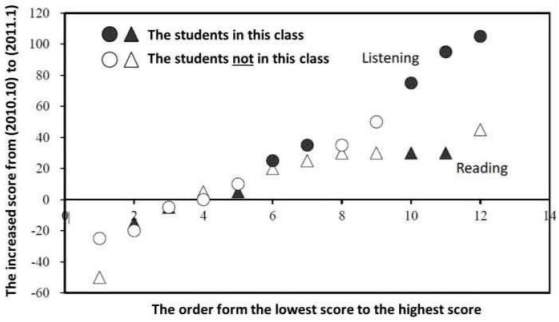


Figure 2 The comparison of the increasing points of TOEIC IP test.

times. From three to five students and one native speaker per one group were in this class. Students talks with native speaker in 50 minutes. The sum total of the teacher and students who participated are two and 30, respectively. In order to investigate the effect of the class on students' English, the increasing point of the score of a TOEIC IP test was adopted. Figure 2 shows the comparison of the increasing points of TOEIC IP test by 5 students participated in this class and the 7 other students. They carried out the TOEIC IP test both in October 2010 and January 2011. ● and ▲ shows the increasing points of Listening test and Reading test score respectively for the students participate in this class. Horizontal axis shows the order of increasing point from the lowest to the highest. 3 students participated in this class, TOEIC Listening score was improved by 75 ~105. Mostly the Listening score of the students in this course is mostly higher than that of the others. This class gives all students lots of chances to speak and listen with English to the native speaker and is different from usual English class style consisting of 1 teacher and many (more than 30) students. Therefore it is presumed that it is useful to improve students' listening skill and responding skill appropriately by carrying out this education system.

(2) Opinion from students

Table 1 and Figure 3 shows the opinions from students. Since this class was started from December 2010, there

Table 1 Opinions from the students in 2010.

Opinions from the students to this class
・It is valid way for the TOEIC test
・I got used to the atmosphere with the native-speaker.
・I got used to the pronunciation of the native-speaker a bit.
・I'm glad to interface with the native-speaker.
・I hope that this class starts from the beginning of a new fiscal year.
・I think it is better to introduce the debating form to this class.
・The dialogue form should be introduced more. (many)
・The time in this class should be decreased (50 min → 40 min)
・The context is differ from group to group. It should be unified.
・It is nothing but the reviewing the context in junior high school.
・The group should be composed of the same level students.
・I want to join in this class of next fiscal year.
・It is useful because the students can communicate with the native-speaker in this class directly.
・I had a valuable experience because the time the students could have a communication with the native-speaker is rare.
・The time to communicate with the native-speaker should be increased. I wanted to have improvise communication in a setting rather than to speak the words written in white board.

are many opinions that explain "It should be started from the first of the year." "Please increase the communication time." and "Debate should be introduced" From 2011, it was reconstructed. There were other problems.

At first the building the vocabulary and contraction an environment using only English is important. When the students could not understand the words which they just want to say or what the native-speaker said, they asked neighbour friend using Japanese. It broke the atmosphere that concentrate on English communication. The lack of vocabulary is the main cause. Therefore TOOL BOX in which contains useful phrases for communications form next term.

At second, the students communicated with native speaker with only easy and simple sentences. For example in case that native-speaker asked students "What sports do you like?", students answered only "I

（出典　平成 24 年度 国際工学教育研究集会 論文集　抜粋）

資料９－１－⑤－６

英語教材



（出典　三修社）

資料９－１－⑤－７

シラバス（保健体育）

保健体育 Health and Physical Education	（履修単位）	**担当者：**	縄田　亮太　NAWATA　Ryota 宮良　俊行　MIYARA　Toshiyuki
2 MESC　2　単位（必修）　前・後期 100 分／週　授業回数 30 回（ 60 時間）		講義室：	第２体育館、グラウンド、総合グラウンド、教室

授業概要： 各種目の基本技能を高め、ゲームに発展させるとともに、自己の体力を確認し、向上を目指す。また、ルールや規則を守り、安全に留意し、運動を通じて健全な人間関係を保つ態度を養う。

予備知識： １年時に学習した各運動種目の基本技能及びルール

授業項目及び内容

〈前期〉

１、集団行動

集団での行進、整列等の行動様式を確認する。体育祭の練習も兼ねる。

２、ソフトボール

基本技能の復習を行い、攻撃と守備の連携などの観点からチームづくりをする。
また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。

３、バレーボール

基本技能の復習を行い、攻撃と守備の連携などの観点からチームづくりをする。
また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。

４、新体力テスト

「握力」・「反復横跳び」・「長座体前屈」・「上体起こし」の４種類を測定する。

５、保健理論

身体組成の測定・調査を行う。　また、応急処置および心肺蘇生について学ぶ。

〈後期〉

１、新体力テスト

「50m走」・「立ち幅跳び」・「ハンドボール投げ」・「持久走」の４種類を測定する。

２、バスケットボール

基本技能の復習を行い、攻撃と守備の連携などの観点からチームづくりをする。
また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。

３、サッカー

基本技能の復習を行い、チームでの役割などを考慮し、チームづくりをする。
また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。

４、保健理論

到達目標：
１、集団行動についてより発展した行動様式を実践できる。
２、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーについて基本技能を基にしたゲームができる。
３、新体力テスト、12分間走により、自己の体力の確認と比較ができる。
４、身体組成、有酸素能力の測定により運動と健康との関連について理解できる。
５、心肺蘇生等の応急処置、ストレスについて理解できる。

評価方法：
評価基準
実技試験、体力テスト、12分間走による評価70%、知識テスト、レポート等15%、授業への取り組み等15%で評価を行い、60点以上を合格とする。

佐世保高専教育目標：(3), (4)	**JABEE対応学習教育目標：** (D)-1, (E)-2, (E)-3
JABEE基準１（１）：　c, g, h	

教科書：　最新スポーツルール（大修館）

参考書、補助教材等：必要に応じてプリントや映像を使用する

授業形式：　実技・演習・講義

学生が用意するもの：指定体操服、シューズなど

自己学習の指針：

オフィスアワー：月曜日（17:00～）　体育教員室

備　　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料９－１－⑤－８

シラバス（物理）

物理 Physics	（履修単位）	担当者：　森　　保 仁　　MORI　Yasuhito
3 MESC　2　単位（必修）　前・後期 100 分／週　授業回数 30 回（ 60 時間）		講義室：物理実験室

授業概要：自然界の「なぜ？」を解き明かすために必要な「科学的に考える力」を身につけるため、主に「宇宙、熱、波動」に関する講義および講義実験を中心に授業を展開する。さらに自然界に成り立つ物理法則を学生実験を通して実感することにより、科学的自然観を育てる。

予備知識：中学校で学習した理科（特に第一分野）の内容
高専第２学年で学習した「物理」の内容

授業項目	授業内容
[前期] 講義プリントを用い、講義実験を随所に取り入れた授業を行う。 ６．円運動 (3)慣性力と遠心力 (4)万有引力 ８．熱と物質の状態 (1)熱と温度 (2)温度と物質の状態 (3)気体の分子運動 (4)気体の内部エネルギー (5)気体の状態変化 (6)エネルギーの変換と保存 ９．学生実験［Ⅲ］	(１週)３年物理の概略説明、慣性力と遠心力 (２週)円すい振り子、円筒面内を運動する物体 (３週)天動説から地動説へ、ケプラーの法則 (４週)万有引力の法則、万有引力と重力の関係、第一宇宙速度 (５週)万有引力による位置エネルギー、第二宇宙速度 (６週)熱と温度、熱量、比熱と熱容量 (７週)熱量保存の法則、融解熱と気化熱、演習 (８週)＜前期中間試験＞ (９週)テスト返却、ボイル・シャルルの法則 (10週)学生実験［Ⅲ］ (11週)学生実験［Ⅲ］、理想気体の状態方程式 (12週)気体の分子運動論、気体分子の温度と平均運動エネルギー (13週)内部エネルギー、熱力学第一法則、混合気体 (14週)等圧変化、定積変化、等温変化、断熱変化 (15週)熱機関の効率、永久機関、熱力学第二法則、演習 **前期期末試験**
[後期] 講義プリントを用い、講義実験を随所に取り入れた授業を行う。 １０．波の性質 (1)波の伝わり方と種類 (2)重ね合わせの原理と波の干渉 (3)波の反射・屈折・回折 １１．音 (1)音の伝わり方 (2)発音体の振動と共振・共鳴 (3)音のドップラー効果 １２．光 (1)光の性質 (2)光の進み方 (3)光の干渉と回折 １３．学生実験［Ⅳ］	(16週)テスト返却、波動、波の伝わるしくみ、波の要素 (17週)横波と縦波、縦波の横波表示、重ね合わせの原理 (18週)波の干渉、定常波、自由端と固定端 (19週)ホイヘンスの原理、波の反射・屈折・回折 (20週)音波、音の速さ、音の反射・屈折・回折・干渉 (21週)うなり、音のドップラー効果 (22週)音のドップラー効果、演習 (23週)＜後期中間試験＞ (24週)テスト返却、弦の振動 (25週)弦の振動、気柱の振動 (26週)気柱の振動、光の種類、光の速さ、偏光 (27週)光の反射・屈折、全反射 (28週)学生実験［Ⅳ］、 (29週)学生実験［Ⅳ］、光の散乱、光の分散 (30週)ヤングの実験、回折格子、演習 **後期期末試験**

到達目標：全ての自然現象の基礎にある物理法則、特に「宇宙の法則、熱の法則、波動の法則」（万有引力の法則、熱量保存則、エネルギー保存則、気体の状態方程式、気体の分子運動論、音波や光波の性質、弦や気柱の振動、音のドップラー効果、光の回折や干渉など）に関する基本的なものの見方や考え方が出来る。

評価方法：　定期試験は、テスト（75～95%）、学生実験レポート・宿題（25～5%）の割合で評価し、60点以上を合格とする。追試験は、定期テストの素点が60点未満の学生を対象として行う。
評価基準

佐世保高専教育目標：1),2),3)	JABEE対応学習教育目標：　A-1
JABEE基準１（１）：　c	

教科書：「高等学校物理　力学の総合学習」、「高等学校　物理Ⅰ」（数研出版）

参考書、補助教材等：講義プリント、　センサー物理Ⅰ＋Ⅱ（啓林館）

授業形式：講義、講義実験（ストロボカメラ、自作の実験装置などを使用）、学生実験

学生が用意するもの：電卓、定規、色付きのペン

自己学習の指針：

オフィスアワー：水曜日16:00～18:00、金曜日16:00～18:00

備　　考：

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料９－１－⑤－９

５Ｓ工学実験・実習　シラバス

工学実験・実習 Electronic Experiments	(学修単位)	**担当者：電子制御工学科全教員**
５Ｓ　３　単位（必修）　前・後期 250 分／週　授業回数 30 回（ 150 時間）		講義室：各実験担当教員実験室

授業概要：電子、情報、計測制御に関連する学科での授業内容を確認する実験と卒業研究テーマ別の応用実験を行い、理解を深める。

予備知識：今までに学んだ、電子工学、工作法、制御工学、通信工学、情報処理、応用物理などの基礎的な技術や能力が必要

授業項目及び内容

【前期内容】
第１週：実験ガイダンス
第２週：振幅変調回路
第３週：Ｈ８マイコンを用いた計測実験
第４週：光ファイバーの伝送損失特性
第５週：ステッピングモータ
第６週：サーボ制御系のシミュレーション
第７週：サーボ制御の基礎実験（速度制御）
第８週～第14週
：Linuxによるサーバの構築（システムエンジニア指向情報処理実験）
１．linuxのインストールとネットワーク設定
２．カーネルの再構築とパッケージの管理及び各種設定
３．各種サーバの構築
(1)Webサーバ
(2)FTP、Mailサーバ
(3)サウンドストリーミングサーバ
(4)映像ストリーミングサーバ
(5)Samba、ファイル、プリントサーバ
(6)WebDAVサーバ
(7)その他のサーバ

上記の内容で、前半３週を説明とサーバ構築のための準備にあてる。
４、５週を使って実際にサーバの構築を行わせる。
６週目にプレゼンテーションと評価（発表５分、質疑応答２分:計７分）
を実施する。

第15週：レポート作成，まとめ

【後期内容】

卒業研究に関連する応用実験

到達目標：電子制御に関連する各種実験を通し、各実験の重要性を認識し、そのテーマにおける問題解決能力をつける。

評価方法：準備(服装10点，実験書10点)，実験態度(積極性・協調性・適格性)30点，報告書(提出期限・内容)50点の合計100点で評価し，60点以上を合格とする．
評価基準

佐世保高専教育目標：1),3)	**JABEE対応学習教育目標**：A-1,A-2,D-1,D-2
JABEE基準１（１）：c,d-1,d-2a,d-2b,e,h,d-2c,d-2d	

教科書：各実験室における実習・実験書

参考書、補助教材等：グラフ用紙、電卓

授業形式：実験実習
学生が用意するもの：実験書

自己学習の指針：実験実習の動作原理を調べる。課題を調べる。

オフィスアワー：

備　　考：実験終了後レポート提出のためのデータ整理を行う。

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料９－１－⑤－10

教育活動の報告事例３

Embedded System Training Courses as Technical Contribution in Sasebo Region

K. Kaneda*, A. Sakaguchi*, T. Maeda*, T. Kawashita* and S. Matsuo**

* Control Engineering, Sasebo National College of Technology, Sasebo, Japan
** Technical staff, Sasebo National College of Technology, Sasebo, Japan

Kaneda@post.cc.sasebo.ac.jp

Abstract

To improve the technical skill of the persons in the companies at Sasebo region, Sasebo national collage of technology (SNCT) has performed eleven activities of the engineer training for the business persons. As one of the activities, the engineer training for the embedded system has been performed. In the embedded system training, two training course are organized. One is a primary course and other is the middle skill course. The primary course is focus to the beginner and the period of the course is 4 days. The middle skill course is focus to the person that has some knowledge of the embedded system and the period of the course is 3 days. Through these courses, the learner can take the ability and the knowledge of the product development for the embedded system.

Keywords: *embedded system, region contribution, skill up, training course, technical skill*

Introduction

Sasebo national collage of technology (SNCT) is located at Sasebo city in JAPAN. SNCT is expected the technical contribution for the community in Sasebo area. To correspond to the demand, SNCT had planned eleven engineer training courses for the business persons. As one of the training courses, the embedded system engineer training was performed. The embedded system is constructed by using the one central microcomputer, and the embedded system is used in almost appliances and cars recently. The training course of the embedded system is constructed two courses. One is primary course, and other is the middle skill course. The target of the primary course is the first time learner for the embedded systems, and the target of the middle skill course is the person who has a little knowledge of the embedded system and thinks to develop a new product.

In this paper, we first explain the necessity of the personal training for the embedded system. We also describe the situation of the embedded system business against other industry business in JAPAN. Second, we explain the contents and the plans for the embedded training courses. We plan two training courses. Third, we report the looks for the learners, and explain the contents of the questionnaire for the training courses. Finally, we give a conclusion for the embedded system training.

The necessity for the embedded system training

From a report of the ministry of international Affairs and communication in 2007 [1], the Gross Domestic Product (GDP) of Japan is $5.87 trillion and the Product concern with the embedded system is $7,695 billion. The ratio of the embedded system product against with the GDP is 13.1%. Furthermore, the number of employees in the embedded system industry is 475 million people, and the number of people engaged in embedded software is 24.2 million. On the other hand, the survey of embedded software industry in METI [2] points out that 88,000 people insufficient on the embedded software field in 2008. From these backgrounds, recently, some seminars for the embedded software had been held in the companies, and the new educational course for the embedded system will be established in universities. In this way, the educational environments of the embedded system will become popular rapidly.

By the way, in the Sasebo area, almost companies concerned with the shipbuilding and the ironwork, and the companies deal with the embedded system very rarely. Thus, the almost companies in Sasebo region do not use the embedded system. However, the companies want to make more value-added products such as the car industries and the consumer electronics. Consequently, the companies in Sasebo area want to take the skill for the embedded system engineering.

On the other hand, at the control engineering of SNCT, the microcomputer trainings are already performed in the engineering experiment since several years ago [3]. As its contents of engineering experiment, the H8 microcomputer trainings are performed at third grade to fourth grade in our school, and the simple experiments for the digital input and output are performed. Additionally, in the advanced engineering course, the general exercises of the microcomputer had been done over a month.

Thus, considering these things above, we decide to perform the embedded system training as a human resources development project.

Contents of the embedded system training

First, we consider a target person for the embedded system training. As we have already mentioned above, Sasebo area does not have much persons who have advanced technology and skill of the embedded system. Therefore, we planned two training courses instead of one course. One is a beginner course, and other is a middle skill course. In the beginner course, to improve the learner's interest for the embedded system, we first show the backgrounds and the effectiveness of the embedded system. Then, we show some videos of the embedded system applications. Next, we teach a usage of the development environment for the embedded system. Furthermore, we teach a method of the program writing, and we also explain a writing method of the program into the microcomputer. The microcomputer is H8/3664 family produced by Renesas electronics. The core of the usage of the embedded system is to learn the usage of the microcomputer. Thus, we teach the method of the setting of the registers in microcomputer using the environment software. For a better understanding, we set a practice at the end of each day. On the half part of third day to fourth day, we set the general practice for the person. In the general practice, we accept any example such as the real problem in the company. Table 1 shows the content of the primary course. Photo 1 shows a lecture scene of the primary course.

Table 1.　The content of the primary course

Period	Contents
1st day	● Backgrounds and the effectiveness of the embedded system ● Summary of a H8 microcomputer ● Videos for the embedded system applications ● Installing of an environment software for the H8 micro-computer ● Usage of the environment software 1. Installing of the environment software and the drivers 2. General usage of the microcomputer 3. Names of each components of microcomputer 4. Program making method, execution, compiling and debug method of the program in the environment software 5. Writing manner of the C program into a H8 microcomputer ● Review the C language (variables, control statements, condition statements, etc) ● Usage of a serial communication software (simple term) and a display method of the character ● A practice for the lecture on first day
2nd day	● Method of digital input and output ● Usage of switch input circuit ➢ Ports control in H8 microcomputer ➢ A simple LED circuit and control method of the LED Light (on and off) ➢ Control method for the 7-segments LED indicator ● Make a circuit of the switch and the LED ● Principle of the analogue to digital converter (sequential comparison procedure) ● Method of the analogue inputs ● Setting of the control register for the analogue conversion ● An example of the analogue conversion program ● Make circuit of the temperature sensor and display the temperature ● A practice for the lecture on second day
3rd day	● What is the pulse width modulation (PWM) ? 1. Motor action for PWM 2. Bridge circuit and the motor driver 3. motor drive circuit with Bridge circuit ● Timer A, V, W and Watch dog timer ● A sample program for the timer V ● 7-segment indicator with the timers ● The interruption programing of the microcomputer(inside and outside interruption) ● 7-segment indicator with the inside interruption ● A practice for the lecture on third day ● General practice with the microcomputer
4th day	● General practice with microcomputer (continued) ● Presentation for the general practice



Photo 1.　A scene of first lecture on the primary course.

In the middle skill course, we use another development environment and another microcomputer. Both of the environment and the microcomputer can be used for the real product development. The microcomputer is Renesas electronics of SH7125 that is used in real ap-

（出典　平成 22 年度 国際工学教育研究集会 論文集　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教員独自の研究活動や企業等との共同研究活動の成果は，学協会等における口頭発表や論文集として公表されており，それらは卒業研究や特別研究に反映され，さらに授業における教育の質の向上にも活用されている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

教員の資質向上を図り，教育の内容及び方法を改善・向上させるために，FD委員会を設置している（資料９－２－①－１）。FD委員会の活動は，教職員を対象とする研修会や講演会の開催，及び他機関で実施される研修会等への派遣であり（資料９－２－①－２，３，４），他機関での研修会への参加者は，その内容を教員会議で報告している（資料９－２－①－５）。なお，平成24年度における本校で行ったFD講演会の出席状況は良好である（資料９－２－①－６（別添９－２））。

一方，「授業評価アンケート」「卒業・修了時アンケート」を毎年実施し，結果をウェブサイトで教職員が閲覧できるようにしている（観点３－２－①参照，観点６－１－④参照）。これらの調査結果により，教員が授業の改善を行っている。

また，教員相互による授業参観を行っており，公開授業として保護者の参観も可能である（観点９－１－④参照）。なお，参観後は「公開授業参観記録」をFD委員会に提出し，感想・意見等を担当教員へフィードバックして授業改善に役立てている（資料９－２－①－７）。

観点９－２－①資料一覧

（資料９－２－①－１）	ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料９－２－①－２）	平成 24 年度 FD 講演会実施予定	出典：FD 委員会資料
（資料９－２－①－３）	平成 24 年度新任研修実施要領	出典：総務課資料
（資料９－２－①－４）	平成 24 年学外各種研修参加実績一覧	出典：総務課資料
（資料９－２－①－５）	平成 24 年外部研修会参加報告書	出典：教員会議資料
（資料９－２－①－６）	平成 24 年度 FD 講演会出席者名簿	出典：学生課資料
（資料９－２－①－７）	公開授業参観記録様式	出典：FD 委員会資料

資料９－２－①－１

佐世保工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会規程（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の教育目的及び理念の達成に向け、ファカルティ・ディベロップメント（「本校の授業内容及び方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み」をいい、以下「ＦＤ」という。）の推進を図るために必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　ＦＤの啓発及び推進に関すること
二　ＦＤに係る研究会、研修会等に関すること
三　授業及び教育技法の改善に関すること
四　ＦＤに係る調査・研究に関すること
五　その他ＦＤに関すること
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　教務主事
二　校長が指名する教員　若干人
三　総務課長
四　学生課長
２　前項第２号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　第１項第２号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会の委員長は、委員のうちから校長が指名する者をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ校長が指名した委員がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。
（他の委員会等との連携）
第７条　委員会は、他の委員会等と相互に連携し、本校におけるＦＤの推進活動を補完しあう。
（専門部会）
第８条　委員会に、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は別に定める。
（事務）
第９条　委員会の事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第１０条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料９－２－①－２

平成 24 年度 FD 講演会実施予定

平成２４年度第１回ＦＤ委員会議事要旨

日　時　　平成２４年５月３１日１６時１０分～１６時２５分
場　所　　大会議室
出席者　　教務主事、中島賢治、高比良秀彰、嶋田英樹、越村匡博、森保仁、総務課長、学生課長
列席者　　教育支援係長

１．今後の予定について
教務主事より、ＦＤ講演会の日程について確認された。
①第一回ＦＤ講演会　6/12(火)13:30-15:00
講師：○○工業高等専門学校　　○○○○先生
「ティーチング・ポートフォリオ」に関する FD 講演会
②第二回ＦＤ講演会　9/26(水)13:30-15:30
講師：○○○○○○○○から　「人権・ハラスメント」に関する FD 講演会
③第三回ＦＤ講演会　12/10（月）13:30-15:00
講師　○○○○先生(○○○○大学)
「安全に関する FD 講演」
④第四回ＦＤ講演会日時未定
情報セキュリティに関する FD 講演会

２．学習態度および授業アンケートについて
○ アンケート実施時期について
実施時期については、昨年と同時期の 6/25（月）から 7/13（金）にかけて最低３週間を確保する。時間割については、様式をメールでＦＤ委員へ送付するので学科毎（一般科目を除く）に 6/15（金）迄に作成して教務主事へ提出するよう依頼があった。（専攻科の時間割は教務主事が作成済み。）
集計については、教務主事室で行い、コメントについては、各ＦＤ委員で行う。
なお、アンケートの集計結果で２科目以上２点台があれば、校長又は教務主事が注意を行うことがある。
○ アンケートの内容について
内容の変更・訂正等の要望があれば、6/6（水）までに教務主事または教育支援係へ連絡すること。

３．意見要望用紙について
個人を誹謗、中傷した内容の記載が見受けられることがあるので、クラスの学生に対して、中間試験の時に担任から試験の注意と共に授業アンケートの実施及び記載にあたっての注意をお願いする。

４．公開授業参観について
10 月 1 日（月）～ 10 月 15 日（月）の２週間実施する。
（４年生の工場見学旅行が 10 月 15 日(月)～ 19 日(金)のため）
保護者への通知は 10 月の保護者懇談会の案内に同封して知らせる。
公開授業は保護者だけではなく、教員も見学することができるので、授業評価の高い先生の授業を見学してほしいとの説明がなされた。

５．その他
教務委員会において、授業アンケートを Web 上で実施することができないかとの提案があったことが報告され、これについて利点等が述べられ、また、その他にマークシート方式でも良いのではないかとの意見が出され、今後の検討課題となった。＿

（出典　FD 委員会資料）

資料９－２－①－３

平成 24 年度 新任研修会実施要領

平成24年度 新任者研修実施要領

１　目　　的　新任者に対し、佐世保工業高等専門学校の教育・研究及び研究指導・補助並びに行政手続の遂行に必要な基礎的知識を修得させることを目的とする。
２　対 象 者　平成２４年４月１日付け新規採用者等
３　研修期間　平成２４年４月２日(月)
４　研修場所　小会議室

５　研修内容
(1) 校長講話
「 高専制度と国立高等専門学校機構、佐世保高専の概要・取組み　等 」

(2) 教務主事講義内容
① 委員会(委員長)の説明
② 楔形カリキュラム
③ 実験・実習が多い→高校、大学との比較
④ 進学率、就職状況
⑤ 高専教育で重視すべき事項←アンケートより
⑥ 学生の勉強時間(アンケート)
⑦ 授業評価アンケート(９月)
⑧ 公開授業(１０月末２週間)
⑨ 「複合型もの創り工学」←→専攻科
⑩ 入学競争倍率、入試(地域別志願者)
⑪ インターンシップ
⑫ 教務手帳の説明

(3) 学生主事講義内容
① 学生生活心得
② 学校行事
③ 学生の懲戒、指導措置基準
④ 学生会活動
⑤ クラブ活動、クラブ顧問
⑥ 学生褒章
⑦ 厚生補導状況

(4) 寮務主事講義内容
① 学寮運営規則(全寮制、教育寮としてのあり方)
② 寮生指導要領、日課
③ 指導方針等

(5) 事務部（総務課）諸手続き説明
① 総務係
・ 着任当初の行事（教員会議等での新任者紹介）
・ 郵便物、財形貯蓄
・ 就業規則等（機構規則、学内規則）
・ 勤務時間（変形労働カレンダー）、休暇、出張、研修
・ 服務、兼業
・ 諸手当、給与関係
・ 共済組合（共済組合員証、短期・長期給付、福祉事業）
② 経理係
・ 旅費システム・旅費の支給など
・ 予算管理
・ 宿舎関係
③ 情報サービス係
・ グループウェア
④ 図書係
・ 図書館利用、図書購入手続
・ 研究報告、文献複写等
⑤ 企画係
・ 外部資金（共同研究、受託研究、寄付金、科学研究費補助金等）
・ 知的財産関係
・ 技術相談、出前授業
⑥ 契約係
・ 物品の調達及び修理

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－４

学外各種研修会参加実績一覧

平成２４年度　各種研修会の実施・参加状況

学校名：佐世保工業高等専門学校

No.	研修名称	研修区分	主催者区分	主催者	実施日時			参加者数		備考
					開始日	～	終了日	教員	事務職員・技術職員	
1	平成24年度第1回ネットワーク管理者研修会	9.情報技術	1.国立高専	国立高専	H24.6.4	～	H24.6.5	2	1	
2	平成24年度新任部課長研修会（課長の部）	3.職位	1.国立高専	国立高専	H24.6.22	～	H24.6.22		1	
3	平成24年度九州沖縄地区国立高等専門学校事務系職員研修	2.学校運営・ありかた	1.国立高専	熊本高等専門学校	H24.8.27	～	H24.8.28		3	
4	情報システム統一研修（平成24年度第2／四半期）	9.情報技術	1.国立高専	国立高専	H24.8.1	～	H24.9.20		1	
5	平成24年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修A	8.技術・技能	4.国立大学法人	熊本大学	H24.9.12	～	H24.9.14		1	
6	平成24年度九州地区国立大学法人等係長研修	3.職位	4.国立大学法人	鹿児島大学	H24.9.11	～	H24.9.14		1	
7	平成24年度九州地区国立大学法人等テーマ別研	2.学校運営・ありかた	4.国立大学法人	大分大学	H24.10.17	～	H24.10.19		1	
8	平成24年度独立行政法人国立高等専門学校機構中堅職員研修会	3.職位	1.国立高専	国立高専	H24.11.14	～	H24.11.16		1	
9	平成24年度新任教員研修会	3.職位	1.国立高専	茨城工業高等専門学校	H24.8.22	～	H24.8.24	1		
10	平成24年度学生支援担当教員研修会	12.学生・留学生指導	1.国立高専	鈴鹿工業高等専門学校	H24.7.26	～	H24.7.26	1		
11	第3回PBL利用教育に関する教員研修会	8.技術・技能	1.国立高専	熊本高等専門学校	H24.6.8	～	H24.6.8	1		
12	平成24年度九州沖縄地区国立高等専門学校教員研究集会	2.学校運営・ありかた	1.国立高専	沖縄工業高等専門学校	H24.11.15	～	H24.11.16	2		
13	平成24年度独立行政法人国立高等専門学校機構学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	2.学校運営・ありかた	1.国立高専	国立高専	H24.9.11	～	H249.13	1		

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－５

外部研修会参加報告書

「第３回 PBL 利用教育に関する教員研修会（講演会）」報告書

報告者：電気電子工学科　猪原武士

I.　日時：平成 24 年６月８日（金）

場所：熊本高等専門学校（熊本キャンパス）２号棟１階カンファレンスルーム

参加者：猪原　他　約 20 名（北九州高専，鹿児島高専，熊本高専，熊本保健科学大学等）

II.　講演題目：「PBL による能動的な学習と教育効果」

講師：東京大学医学教育国際協力研究センター　講師　大西弘高

講師紹介：医学教育が専門．PBL 教育に関する著書を執筆されている（「実践 PBL テュートリアルガイド」大西弘高共著　2004 年　南山堂　等）．

III. 講演内容：

PBL（problem-based learning or project-based learning）とは，事例の中から問題を見出し，その問題を手がかりに学習を進めていく教育方法で，数名程度のグループで実施，通常１名のテュータが陪席する．PBL が求められる背景として「教育観の変化」が挙げられる．情報の迅速化，大容量化によって教育者の情報伝達者としての意義は相対的に低下しており，教育者中心から学習者中心に変わりつつある．そこで PBL は生涯学習につながる自己主導型学習，情報検索，グループ学習の能力獲得を目的としている．

PBL の成功に不可欠な要素は，１）事例シナリオ，２）テュータ，３）学生の自己学習である．事例シナリオ作成においては，明確な答えがあるようなものは避け，鈴木先生（熊本大学）が考案されたモデル“ARCS”による評価を行うことで授業を行いやすくなる．ARCS とは，おもしろそう－注意（Attention），やりがいがある－関連性（Relevance），やればできそう－自信（Confidence），やってよかった－満足感（Satisfaction）．

PBL の問題点として，シナリオのでき次第であること，学生がシナリオの内容に慣れてしまうこと，こなす作業になることや，PBL の授業評価方法の難しさが挙げられている．評価を行う観点としては，結果よりも学生の熱心さ・授業態度を重視している．東京大学では，授業後に評価シート（５段階）にて学生の評価を行っている．

最後に，PBL を実践する上で大事なことは，シナリオを作り出す熱意が必要であるとのこと．

IV. 所感：

PBL は評価方法などの問題点が未解決のままであるが，学生が主導となり学習するシステムはこれからの情報過多の時代において自らの判断で適切な情報を選択していく良い経験になるのではないかと感じた．

＊詳しい研修資料の閲覧希望がありましたら猪原まで宜しくお願い致します．

（出典　教員会議資料）

資料９－２－①－７

平成２４年度　公開授業参観記録

公開授業実施期間：平成２４年１０月１日（月）～１０月１５日（月）

参観者名		所属	
授　業　日	平成２４年１０月　　日（　曜）　第　　校時		
授業科目名		クラス	
授業教員名		参観時間	約　　分
良かった点 参考になった点	・ ・ ・ ・ ・		
教えて欲しい点	・ ・ ・ ・ ・		
アドバイスしたい点	・ ・ ・ ・		

注：　（１）　所属は、該当する名称を○で囲んで下さい。
　　（２）　記入後、所属学科のＦＤ委員へ、メール添付で提出してください。
　　非常勤講師、保護者、その他の方は、教育支援係へ提出してください。

※　提出期限は、**平成２４年１０月１９日（金）**です。

（出典　FD 委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

教員の資質向上を図るためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会を設置し，学内での講演会や研修会の開催，外部研修会への出席とその報告を実施している。また，各種アンケートにより，学生の意見やニーズを汲み上げるようにしている。さらに，保護者も含めた教員相互の授業参観を行い，教育の質の向上や授業の改善に役立てている。

観点９－２－②：　教育支援者に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

技術職員に関しては技術室が，事務職員に対しては総務課が，教育支援者に対するスタッフディベロップメント（SD）研修に関して管轄している。

校内で行われるFD講演会にSD研修として参加するだけでなく,校外の研修として「九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修」「国立高等専門学校機構中堅職員研修会」等に毎年参加している（資料９－２－①－４参照)。

資質の向上を図る一環として，技術室所属の技術職員は科学研究費補助金（奨励研究）に申請している（資料９－２－②－１)。また，実習工場に関連する技術職員が機械工作に関わる技術研修を校内外で受け，実習工場の高度安全化対策に取り組んでいる（資料９－２－②－２訪問時資料)。

基準９－２－②資料一覧

（資料９－２－②－１）技術職員の科研費（奨励研究）申請状況一覧	出典：総務課資料
（資料９－２－②－２）実習工場の安全に関する取り組み	訪問時資料

資料９－２－②－１

技術職員の科研費（奨励研究）申請状況一覧
（平成20年度～平成24年度）

年度	連番	氏　名	研　究　課　題　名	応募額
H20	1	森　　晴樹	離島・郡部の小規模小中学校への環境教育及び自由研究支援	
	2	松尾　修二	教育機関のCNC工作機活用における安全装置の開発	
H21	1	森　　晴樹	地域の産物を用いた創作型実験を通しての環境・理科教育支援	
	2	中原　勝俊	ダイナミックにPDFファイルを作成するWebシステムの構築	
H22	1	松尾　修二	コンピュータを活用した教育用３次元形状計測システムの開発	
	2	熊井　悠城	スイッチング型直流安定化電源実験モデルの開発	
	3	原　　久之	演示実験用に自作した大きなコイルモーターの最適条件の知見を得る実験的研究	
	4	森　　晴樹	発泡ポリスチレンゴミの可溶化における代替精油の探査	
H23	1	松尾　修二	「組み込み技術」を活用したプログラミングが苦手な学生のための補修的演習開発	
	2	原　　久之	コイルモーターの最適条件の確立と理科教材への展開	
	3	森　　晴樹	自由研究を用いた環境および理科教育支援	
H24	1	森　　晴樹	汚濁水中へ水蒸気熱導入による水質浄化法の検討	
	2	原　　久之	大型霧箱を用いた自然放射線の飛跡観察のための最適条件に関する検討	
	3	松尾　修二	省電力と微細な仕上げ面を実現する砥粒単層固着型研削砥石の開発	
	4	白石　博伸	タッチパネルを用いた微分積分の習得を補助する教材の開発	

（出典　総務課資料）

〈分析結果とその根拠理由〉

教育支援者に対するSD研修に関して，資質の向上のためにFD委員会を中心として学校全体で支援する取り組みが行われ，学内外の研修会にも積極的に参加し，資質の向上を図るための取組が適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・本校独自のシステム「教育データベース」に教育活動の実態を示すデータを蓄積し，教職員に公開している。
・「授業評価アンケート」や「卒業・修了時アンケート」，意見箱「みんなの声」，さらに保護者も含めた教員相互による授業参観等により各種意見の聴取を行っており,教育の改善に活かしている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータは各担当部署で随時収集され,「教育データベース」に蓄積されている。また，学生の成績評価に関する定期試験解答用紙等は適切に保管するシステムも確立している。そのデータを基に点検・評価する各種委員会を設置しており，適切に評価できる体制が整っている。

学校の構成員からの意見聴取は各種アンケート等によって行っている。学外関係者に対しても，同様にアンケートを実施している。特に，保護者に対しては，後援会総会で直接学校との意見交換が行えるよう配慮するとともに，ウェブサイトを介した意見聴取システム「佐世保高専意見箱」を運用している。これらの結果に対し，新たに定めた自己点検・評価実施要領に従い，学校として策定した中期計画，年度計画に基づいて，教育の状況に関する自己点検・評価が実施されている。

教育の質の向上や改善を図るためのシステムとして，各種委員会や会議等が設けられている。このシステムは，運営委員会を中心として，教務，厚生補導，学寮，専攻科等の主要な委員会並びに各学科の定例会議などで，随時教育の点検を行い，継続的改善を行っている。

FD委員会は，授業評価アンケートに対する全教員の対応・改善活動状況を把握している。また，授業評価アンケート結果を踏まえた各教員によるコメントを教室に掲示している。さらに，各教員は，授業評価アンケート・公開授業報告書等を参考にした授業改善についての「自啓録」を作成し，校長に提出している。

教員独自の研究活動や企業等との共同研究活動の成果は，学協会等における口頭発表や論文集として公表されており，それらは卒業研究や特別研究に反映され，さらに授業における教育の質の向上にも活用されている。

教育支援者に対する研修に関して，資質の向上のためにFD委員会を中心として学校全体で支援する取り組みが行われ，その結果として学内外の研修会に積極的に参加している。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校は，平成 16 年度の法人化により国の機関から独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「高専機構」という）に属する一高専となった。その際，国の資産をすべて承継した。法人化後も施設を充実し，教育研究活動を将来に渡り適切且つ安定して遂行するために必要な高等専門学校設置基準を満たす資産を有している。

平成 25 年３月末における資産内訳は，土地 107,768 ㎡，建物延べ面積 32,947 ㎡等となっている（資料 10－１－①－１）。

また，運営事業費については，貸借対照表一覧（資料 10－１－①－２）および年度別決算報告書（資料 10－１－①－３）に示すように，年度毎安定して高専機構より予算配分が行われ，自己収入と高専機構からの配分予算の範囲内で計画的に運営しており，過大な債務は無い。

なお，人件費については，平成 23 年度から非常勤講師及び非常勤職員分を除き，全ての教職員分が高専機構本部での一括管理となった。

観点 10－１－①資料一覧

（資料10－１－①－１）	資産内訳一覧表	出典：総務課資料
（資料10－１－①－２）	貸借対照表	出典：総務課資料
（資料10－１－①－３）	決算報告書	出典：総務課資料

資料 10－１－①－１

資　産　内　訳　一　覧　表
《平成20年度～平成24年度　期末簿価価格》

資産内訳		種類		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
有形固定資産	不動産	土地	簿価価格	3,871,200,000	3,871,200,000	3,871,200,000	3,871,200,000	3,871,200,000	
			面積	107,768 ㎡	107,768 ㎡	107,768 ㎡	107,768 ㎡	107,768 ㎡	
		建物	簿価価格	991,262,489	886,411,003	761,502,083	752,418,757	671,614,664	
			建て面積	18,601 ㎡	18,236 ㎡	18,236 ㎡	18,456 ㎡	18,401 ㎡	
			延べ面積	32,935 ㎡	32,580 ㎡	32,580 ㎡	33,002 ㎡	32,947 ㎡	
		構築物	簿価価格	89,803,808	77,151,486	75,787,212	82,551,257	74,190,415	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		小　計		4,952,266,297	4,834,762,189	4,708,489,295	4,706,170,014	4,617,005,079	
	動産	船舶	簿価価格	395,644	131,884	1,736,526	1,356,426	976,326	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		車両運搬具	簿価価格	832,976	1,215,162	604,226	1,216,221	799,913	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		工具器具備品	簿価価格	106,807,879	191,416,521	217,284,513	228,181,735	210,390,445	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		小　計		108,036,499	192,763,567	219,625,265	230,754,382	212,166,684	
		建設仮勘定	簿価価格	0	0	0	0	179,879,440	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
無形固定資産		特許権	簿価価格	0	0	0	2,043,642	1,197,056	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		ソフトウェア	簿価価格	0	0	946,286	1,528,196	1,178,231	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		電話加入権	簿価価格	57,000	57,000	57,000	57,000	57,000	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
		小　計		57,000	57,000	1,003,286	3,628,838	2,432,287	
		特許権仮勘定	簿価価格	621,397	621,397	621,397	2,624,535	2,592,509	
			数量	1 式	1 式	1 式	1 式	1 式	
合　計				5,060,981,193	5,028,204,453	4,929,739,243	4,943,177,769	5,014,075,999	

（出典　総務課資料）

資料 10－１－①－２

貸 借 対 照 表

平成20～24年度 貸借対照表(報告式)

(単位:円)

勘定科目表示名称 ＼ 年度	明細金額				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
[資産の部]					
流動資産	50,948,632	148,317,042	54,449,274	50,919,019	42,116,519
現金及び預金	45,803,500	45,551,544	53,059,278	48,855,116	38,896,730
現金	51,857	187,495	63,491	169,070	297,061
当座預金	0	0	0	3,012,631	0
普通預金	45,751,643	45,364,049	52,995,787	45,673,415	37,831,899
定期預金	0	0	0	0	0
その他預金	0	0	0	0	767,770
有価証券	0	0	0	0	0
有価証券	0	0	0	0	0
受取手形	0	0	0	0	0
受取手形	0	0	0	0	0
未収学生納付金収入	592,200	169,200	338,400	338,400	169,200
未収学生納付金収入(授業料)	0	0	0	0	0
未収学生納付金収入(入学金)	592,200	169,200	338,400	338,400	169,200
棚卸資産	4,178,917	3,986,317	949,834	1,656,190	2,990,740
未成研究支出金	4,178,917	3,986,317	949,834	1,656,190	2,990,740
未成事業支出金	0	0	0	0	0
貯蔵品	0	0	0	0	0
未収入金	239,045	98,560,968	69,420	8,400	4,000
未収入金	239,045	98,560,968	69,420	8,400	4,000
前渡金	0	0	0	0	0
前渡金	0	0	0	0	0
前払費用	36,300	49,013	32,342	60,913	55,849
前払費用	36,300	49,013	32,342	60,913	55,849
法定福利費	0	0	0	0	0
未経過賃借料	0	0	0	0	0
未経過保険料	36,300	49,013	32,342	60,913	55,849
未経過支払利息	0	0	0	0	0
その他の前払費用	0	0	0	0	0
未収収益	0	0	0	0	0
未収収益	0	0	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	0	0
その他の流動資産	98,670	0	0	0	0
仮払金	98,670	0	0	0	0
仮払消費税	0	0	0	0	0
旅費仮払	98,670	0	0	0	0
立替金	0	0	0	0	0
その他流動資産	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
固定資産	5,061,000,483	5,028,259,912	4,929,766,443	4,943,264,685	5,014,122,176
有形固定資産	5,060,302,796	5,027,526,056	4,928,114,560	4,936,924,396	5,009,051,203
建物	2,220,628,652	2,275,805,857	2,275,805,857	2,382,967,597	2,408,497,083
建物	1,592,878,735	1,590,851,940	1,590,851,940	1,660,877,385	1,660,755,371
建物附属設備	627,749,917	684,953,917	684,953,917	722,090,212	747,741,712
建物減価償却累計額	−1,229,366,163	−1,389,394,854	−1,514,303,774	−1,630,548,840	−1,736,882,419
建物減損損失累計額	0	0	0	0	0
構築物	345,889,115	345,889,115	356,819,615	372,503,675	372,503,675
構築物減価償却累計額	−256,085,307	−268,737,629	−281,032,403	−289,952,418	−298,313,260
構築物減損損失累計額	0	0	0	0	0
機械装置	0	0	0	0	0
機械装置減価償却累計額	0	0	0	0	0
機械装置減損損失累計額	0	0	0	0	0
船舶	2,922,413	2,922,413	2,838,150	2,838,150	2,838,150
船舶減価償却累計額	−2,526,769	−2,790,529	−1,101,624	−1,481,724	−1,861,824
船舶減損損失累計額	0	0	0	0	0
車両運搬具	3,994,506	4,823,156	4,823,156	5,659,742	5,659,742
車両運搬具減価償却累計額	−3,161,530	−3,607,994	−4,218,930	−4,443,521	−4,859,829
車両運搬具減損損失累計額	0	0	0	0	0
工具器具備品	244,641,988	372,320,172	420,156,291	473,655,441	508,363,477
工具器具備品減価償却累計額	−137,834,109	−180,903,651	−202,871,778	−245,473,706	−297,973,032
工具器具備品減損損失累計額	0	0	0	0	0
土地	3,871,200,000	3,871,200,000	3,871,200,000	3,871,200,000	3,871,200,000
土地減損損失累計額	0	0	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	0	179,879,440
その他の有形固定資産	0	0	0	0	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	0	0	0	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	0	0	0	0
無形固定資産	678,397	678,397	1,624,683	6,253,373	5,024,796
特許権	0	0	0	2,043,642	1,197,056
借地権	0	0	0	0	0
商標権	0	0	0	0	0

BS 1/4

資料 10－１－①－２続き

貸 借 対 照 表

平成20～24年度　貸借対照表（報告式）

（単位：円）

勘定科目表示名称 ＼ 年度	明細金額 平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実用新案権	0	0	0	0	0
意匠権	0	0	0	0	0
ソフトウェア	0	0	946,286	1,528,196	1,178,231
電話加入権	57,000	57,000	57,000	57,000	57,000
その他の無形固定資産	0	0	0	0	0
著作権	0	0	0	0	0
特許権仮勘定	621,397	621,397	621,397	2,624,535	2,592,509
投資その他の資産	19,290	55,459	27,200	86,916	46,177
投資有価証券	0	0	0	0	0
長期貸付金	0	0	0	0	0
長期前払費用	1,090	29,039	780	51,656	10,917
未収財源措置予定額	0	0	0	0	0
長期性預金	0	0	0	0	0
敷金・保証金	0	0	0	0	0
長期未収入金	0	0	0	0	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	0	0	0	0
その他の投資その他の資産	18,200	26,420	26,420	35,260	35,260
貸倒引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
[資産の部]合計	5,111,949,115	5,176,576,954	4,984,215,717	4,994,183,704	5,056,238,695
[本支店勘定]					
[本支店]機構本部（統括）	−845,926	−743,949	−789,332	−3,892,923	−7,902,023
[本支店]函館工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]苫小牧工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]釧路工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]旭川工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]八戸工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]一関工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]仙台高専	0	0	0	0	0
[本支店]秋田工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]鶴岡工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]福島工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]茨城工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]小山工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]群馬工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]木更津工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]東京工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]長岡工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]富山高専	0	0	0	0	0
[本支店]石川工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]福井工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]長野工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]岐阜工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]沼津工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]豊田工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]鳥羽商船高専	0	0	0	0	0
[本支店]鈴鹿工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]舞鶴工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]明石工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]奈良工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]和歌山工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]米子工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]松江工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]津山工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]広島商船高専	0	0	0	0	0
[本支店]呉工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]徳山工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]宇部工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]大島商船高専	0	0	0	0	0
[本支店]阿南工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]香川高専	0	0	0	0	0
[本支店]新居浜工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]弓削商船高専	0	0	0	0	0
[本支店]高知工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]久留米工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]有明工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]北九州工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]佐世保工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]熊本高専	0	0	0	0	0
[本支店]大分工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]都城工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]鹿児島工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]沖縄工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]機構本部（支店）	0	0	0	0	0
[本支店]機構本部 管理課	183,678,670	218,868,665	295,093,841	189,364,797	221,294,206

BS 2/4

資料 10－１－①－２続き

貸 借 対 照 表

平成20～24年度　貸借対照表（報告式）

（単位：円）

勘定科目表示名称 ／ 年度	明細金額 平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
[本支店]宮城工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]仙台電波工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]富山工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]富山商船高専	0	0	0	0	0
[本支店]高松工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]詫間電波工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]熊本電波工業高専	0	0	0	0	0
[本支店]八代工業高専	0	0	0	0	0
[本支店勘定]合計	182,832,744	218,124,716	294,304,509	185,471,874	213,392,183
[負債の部]					
流動負債	251,287,756	383,188,577	368,987,497	256,498,396	286,721,682
運営費交付金債務	0	0	5,150,250	100,000	0
授業料債務	0	0	0	0	0
承継剰余金債務	0	0	0	0	0
預り施設費	0	0	0	0	0
預り補助金等	0	0	0	0	263,533
預り寄附金	19,536,412	19,140,161	20,324,208	32,885,318	34,938,582
前受受託研究費等	6,630,000	5,105,000	1,692,494	3,820,490	7,687,490
前受受託研究費	0	0	0	3,820,490	7,687,490
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	3,820,490	7,687,490
前受共同研究費	6,630,000	5,105,000	1,692,494	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	6,630,000	5,105,000	1,692,494	0	0
前受受託事業費等	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
短期借入金	0	0	0	0	0
１年以内返済予定長期借入金	0	0	0	0	0
未払金	171,027,077	304,353,383	282,511,558	166,126,338	199,372,449
退職金	29,552,265	111,883,392	234,330,416	557,400	0
リース債務	0	0	4,920,520	4,705,239	9,264,627
その他未払金	141,474,812	192,469,991	43,260,622	160,863,699	190,107,822
未払消費税等	0	0	0	0	0
未払費用	8,093,235	8,829,740	9,019,261	5,810,301	4,345,182
給与	4,156,803	4,951,956	5,054,416	2,529,465	2,571,767
社会保険料	246,911	289,942	377,065	57,852	27,158
労働保険料	7,755	0	0	0	0
賃借料	35,113	30,901	0	0	0
水道光熱費	2,196,884	2,260,581	2,158,994	2,522,107	1,039,793
未払利息	0	0	79,001	60,937	42,066
その他未払費用	1,449,769	1,296,360	1,349,785	639,940	664,398
前受金	0	0	0	0	3,120
預り金	45,633,158	45,278,541	50,289,726	47,755,949	40,111,326
科学研究費	0	148,181	1,716,377	2,021,646	2,362,345
社会保険料	0	0	0	0	0
労働保険料	0	0	0	0	0
源泉所得税	0	0	0	0	0
住民税	0	11,400	0	0	0
職員宿舎貸付料	0	0	0	0	0
補助金等返還	0	0	341,240	427,212	0
その他預り金	45,633,158	45,118,960	48,232,109	45,307,091	37,748,981
前受収益	0	0	0	0	0
前受利息	0	0	0	0	0
その他前受収益	0	0	0	0	0
引当金	367,874	481,752	0	0	0
賞与引当金	367,874	481,752	0	0	0
修繕引当金	0	0	0	0	0
損害補償損失引当金	0	0	0	0	0
その他の引当金	0	0	0	0	0
その他の流動負債	0	0	0	0	0
仮受金	0	0	0	0	0
その他の流動負債	0	0	0	0	0
固定負債	142,604,271	238,493,823	267,532,638	401,877,307	547,783,444
資産見返負債	142,492,791	238,419,624	251,398,661	390,449,069	521,674,174
資産見返運営費交付金等	100,727,088	118,492,275	149,523,117	301,741,754	276,527,060
資産見返運営費交付金	76,834,075	94,122,064	121,409,801	273,058,910	253,047,925
資産見返授業料	23,893,013	24,370,211	28,113,316	28,682,844	23,479,135
資産見返補助金等	19,993,082	100,208,675	85,886,529	71,055,710	50,435,287
資産見返寄附金	17,944,209	17,675,798	15,039,319	14,929,915	12,239,848
資産見返物品受贈額	3,207,015	1,421,479	328,299	97,155	30
建設仮勘定見返運営費交付金等	0	0	0	0	0
建設仮勘定見返運営費交付金	0	0	0	0	0
建設仮勘定見返授業料	0	0	0	0	0
建設仮勘定見返施設費	0	0	0	0	179,879,440
建設仮勘定見返補助金等	0	0	0	0	0

BS 3/4

資料 10－１－①－２続き

貸 借 対 照 表

平成20～24年度　貸借対照表（報告式）

（単位：円）

勘定科目表示名称 ＼ 年度	明細金額				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
建設仮勘定見返寄附金	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返運営費交付金等	621,397	621,397	621,397	2,624,535	2,592,509
特許権仮勘定見返運営費交付金	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返授業料	621,397	621,397	621,397	2,624,535	2,592,509
特許権仮勘定見返補助金等	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返寄附金	0	0	0	0	0
長期預り補助金等	0	0	0	0	0
長期預り寄附金	0	0	0	0	0
長期前受受託研究費等	0	0	0	0	0
長期前受受託研究費	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
長期前受共同研究費	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
長期前受受託事業費等	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
長期借入金	0	0	0	0	0
長期未払金	0	0	16,133,977	11,428,238	26,109,270
引当金	111,480	74,199	0	0	0
退職給付引当金	111,480	74,199	0	0	0
追加退職給付引当金	0	0	0	0	0
その他の引当金	0	0	0	0	0
資産除去債務	0	0	0	0	0
その他の固定負債	0	0	0	0	0
[負債の部]合計	393,892,027	621,682,400	636,520,135	658,375,703	834,505,126
[純資産の部]					
資本金	6,387,315,800	6,387,315,800	6,387,315,800	6,387,315,800	6,387,315,800
政府出資金	6,387,315,800	6,387,315,800	6,387,315,800	6,387,315,800	6,387,315,800
その他出資金	0	0	0	0	0
資本剰余金	−1,486,652,019	−1,614,341,913	−1,748,419,300	−1,870,045,025	−1,951,282,637
資本剰余金	16,761,000	61,312,500	61,312,500	61,312,500	85,987,500
資本剰余金施設費	16,590,000	16,590,000	16,590,000	16,590,000	41,265,000
資本剰余金運営費交付金	0	0	0	0	0
資本剰余金授業料	0	0	0	0	0
資本剰余金補助金等	0	0	0	0	0
資本剰余金寄附金	0	0	0	0	0
資本剰余金目的積立金	0	44,551,500	44,551,500	44,551,500	44,551,500
資本剰余金譲与	171,000	171,000	171,000	171,000	171,000
その他の資本剰余金	0	0	0	0	0
損益外減価償却累計額	−1,500,365,885	−1,670,580,484	−1,803,991,908	−1,925,617,633	−2,031,408,231
損益外減損損失累計額	−114,000	−114,000	−114,000	−114,000	−114,000
損益外固定資産除売却差額	−2,933,134	−4,959,929	−5,625,892	−5,625,892	−5,747,906
損益外利息費用累計額	0	0	0	0	0
減資差益	0	0	0	0	0
利益剰余金	226,051	45,383	3,103,591	4,009,100	−907,411
前中期目標期間繰越積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
積立金	0	0	0	0	0
国庫納付金	0	0	0	0	0
当期未処分利益	226,051	45,383	3,103,591	4,009,100	−907,411
繰越欠損金	0	0	0	0	0
当期未処理損失	0	0	0	0	0
その他の有価証券評価差額金	0	0	0	0	0
[純資産の部]合計	4,900,889,832	4,773,019,270	4,642,000,091	4,521,279,875	4,435,125,752
資本・負債の部合計	5,294,781,859	5,394,701,670	5,278,520,226	5,179,655,578	5,269,630,878

BS 4/4

（出典　総務課資料）

資料 10－１－①－３

決 算 報 告 書
（平成20～24年度）

（単位：円）

区分 ＼ 年度	決算額 平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
収 入					
運営費交付金	1,011,281,791	1,046,531,070	1,082,816,683	249,943,523	67,816,932
施設整備費補助金	0	0	0	0	179,879,440
国立大学財務・経営センター施設費交付事業費	16,590,000	0	26,964,000	19,740,000	24,675,000
自己収入	227,234,081	226,238,153	238,924,886	239,839,619	236,495,664
自 授業料収入	189,908,700	191,240,950	205,428,000	204,435,800	203,254,850
自 入学金収入	17,258,400	17,791,100	17,173,800	17,139,400	17,004,600
自 検定料収入	6,055,500	6,225,400	5,593,500	6,857,300	6,138,000
自 雑収入	14,011,481	10,980,703	10,729,586	11,407,119	10,098,214
産学連携等研究収入	15,963,960	12,821,350	10,256,776	18,081,431	12,612,000
寄附金収入	10,850,000	10,430,000	13,771,137	27,834,091	26,327,235
その他補助金	46,605,000	137,920,168	18,828,760	16,000,000	2,130,648
目的積立金取崩	13,019,584	85,700,000	0	0	0
計	1,341,544,416	1,519,640,741	1,391,562,242	571,438,664	549,936,919
支 出					
業務費	1,251,535,456	1,358,049,723	1,316,834,718	499,571,173	309,692,751
業 教育研究経費（教育研究支援経費を含む）	1,146,093,810	1,256,259,405	1,224,777,539	259,496,536	217,057,899
業 一般管理費	105,441,646	101,790,318	92,057,179	240,074,637	92,634,852
施設整備費	16,590,000	0	26,964,000	19,740,000	204,554,440
長期借入金償還金	0	0	0	0	0
産学連携等研究経費	15,540,240	13,140,070	9,619,116	8,936,060	7,159,000
寄附金事業費	16,430,419	10,727,581	12,030,895	15,272,981	24,273,971
その他の補助金	46,605,000	137,920,168	18,828,760	16,000,000	1,867,115
国立大学・財務経営センター施設費納付金	－	－	－	－	0
計	1,346,701,115	1,519,837,542	1,384,277,489	559,520,214	547,547,277

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

資産現在額一覧表に示すように，教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有している。また，貸借対照表が示すように，高専機構本部からの運営費交付金等の範囲内で運営しており，実質的に未払いとなっている債務もなく，健全な運営を行っている。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校の経常的収入には，高専機構から交付される運営費交付金に加え，自己収入としての授業料，入学料，検定料及び財産貸付料等の雑収入がある（資料10－１－②－１）。

平成23年度に運営費交付金が著しく減少しているが，これは平成23年度から教職員の人件費が機構本部管理となり，人件費に相当する約７億３千万円が収入として計上されていないためである。

過去５年間における自己収入額の大きな変動はなく，今後とも経常的収入の継続的な確保に努めていくものである。

観点 10－１－②資料一覧

（資料 10－１－②－１）　経常的収入一覧　　出典：総務課資料

資料 10－１－②－１

過去5年分の経常的収入一覧
（平成20年～24年度）

（単位：円）

項目		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
運営費交付金		1,011,281,791	1,046,531,070	1,082,816,683	249,943,523	67,816,932	
自己収入	授業料収入	189,908,700	191,240,950	205,428,000	204,435,800	203,254,850	
	入学金収入	17,258,400	17,791,100	17,173,800	17,139,400	17,004,600	
	検定料収入	6,055,500	6,225,400	5,593,500	6,857,300	6,138,000	
	雑収入	14,011,481	10,980,703	10,729,586	11,407,119	10,098,214	寄宿寮、職員宿舎貸付料収入等
	小　計	227,234,081	226,238,153	238,924,886	239,839,619	236,495,664	
合　計		1,238,515,872	1,272,769,223	1,321,741,569	489,783,142	304,312,596	

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金に加えて，安定した自己収入額を確保しており，学校の目的に沿って安定した教育研究活動を遂行するための経常的収入が継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。

（観点に係る状況）

外部の財務資源の活用により安定した財務基盤を確保するため，受託研究，共同研究に関する規則を策定している（資料10－１－③－１，２）。また，「佐世保高専技術シーズ集」を本校ウェブサイトで公表し共同研究等の増に努めている（資料10－１－③－３）。

また，平成24年４月に新設された地域共同テクノセンターを拠点として専任の産学官連携コーディネーターを２名配置し，本校が有する研究シーズと企業，他大学，自治体等の外部機関とのマッチングを図り，外部の財務資源の積極的な獲得を図っている（資料10－１－③－４）。

これらの外部資金獲得策により，過去５年間において，受託研究，共同研究及び寄附金では，平均契約件数36件，平均受入金額２千百万円，科学研究費補助金では，平均採択件数11件，平均受入金額２千３百万円，補助金では，平均採択件数２件，平均受入金額２千４百万円の外部資金を獲得している（資料10－１－③－５）。

観点 10－１－③資料一覧

（資料 10－１－③－１）	受託研究実施規則	出典：佐世保高専規程集
（資料 10－１－③－２）	共同研究取扱規則	出典：佐世保高専規程集
（資料 10－１－③－３）	「佐世保高専技術シーズ集」	出典：本校ウェブサイト
（資料 10－１－③－４）	地域共同テクノセンター紹介	出典：地域共同テクノセンター資料
（資料 10－１－③－５）	外部資金の獲得状況	出典：総務課資料

資料 10－１－③－１

佐世保工業高等専門学校受託研究実施規則

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における受託研究の申請手続き及び実施等に関し必要な事項については、独立行政法人国立高等専門学校機構受託研究実施規則（平成１６年４月１日制定）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（定義）
第２条　この規則において「受託研究」とは、本校において外部からの委託を受けて、本校の教職員（以下「研究担当者」という。）が業務として行う研究、調査、製作及び試験等をいう。

（受託研究の申込み）
第３条　受託研究の申込みをしようとする者（以下「申請者」という。）は、受託研究申込書（別記様式第１号）を校長に提出するものとする。

（受入れの決定）
第４条　校長は前条の規定に基づく申請があったときは、本校の教育研究上有意義であり、かつ、本来の教育研究に支障を生じるおそれがないと認められる場合に限り、第９条に規定する受託研究委員会に諮ったのち受入れを決定し、受託研究受入決定通知書（別記様式第２号）により契約担当役及び申請者に通知するものとする。

（契約の締結）
第５条　契約担当役は、前条の通知を受けたときは、速やかに申請者と受託研究契約書（別記様式第３号）により契約を締結するものとする。

（受入れの条件）
第６条　受託研究の受入れには、次に掲げる条件を付するものとする。
一　受託研究は、当該研究等を委託した者（以下「委託者」という。）が一方的に中止することはできない。
二　受託研究の結果生じた知的財産権について、これを無償で使用させ、又は譲渡することはできない。
三　研究経費により取得した設備等は、返還しない。
四　天災その他やむを得ない事由により受託研究を中止し、又はその期間を延長する場合においても、本校はその責を負わず、又原則として研究経費は委託者に返還しない。
２　前項に定めるもののほか、校長が必要と認める場合は、別に条件を付することができる。
３　校長は、委託者が国の機関若しくは公社、公庫、公団等政府関係機関又は地方公共団体である場合には、契約担当役と協議の上、第１項第３号の条件を付さないことができる。

（委託者の負担する経費）
第７条　委託者が負担する研究経費は、直接経費、間接経費及び受託料とする。
２　前項の間接経費等の額は、直接経費の１０％に相当する額とする。ただし、委託者側の事情により１０％に相当する額と異なる額とする場合には、委託者と校長が協議した額とする。
３　第１項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、直接経費のみをもって研究経費とすることができるものとする。
一　委託者が国である場合で、当該受託研究の制度上、間接経費及び受託料（以下「間接経費等」という。）が措置されていない場合
二　国から委託を受けた委託者が、その再委託により研究を委託することが明確である場合で、当該受託研究の制度上、間接経費等が措置されていない場合
三　委託者が特殊法人、認可法人、独立行政法人又は地方公共団体であって、財政事情により間接経費等を措置できない場合
四　委託者が競争的資金をもって研究を委託し、当該競争的資金に間接経費等が措置されていない場合
五　その他やむを得ない事情により、間接経費等を措置できない場合

（受託料）
第８条　受託料は研究担当者へ、研究経費として配分する。

（委託者の協力）
第９条　委託者は、受託研究の遂行上必要がある場合は、研究経費以外に研究材料又は機械・器具等の提供、その他必要な協力をしなければならない
２　前項の規定による必要な経費は、委託者が負担しなければならない。
３　本校は、委託者が提供した機械・器具等について、受託研究の遂行中に生じた損害については、その責めを負わないものとする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 10－１－③－２

佐世保工業高等専門学校共同研究取扱規則

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）における民間等外部の機関（以下「民間機関等」という。）との共同研究の取扱いについては、独立行政法人国立高等専門学校機構共同研究実施規則又はこれに基づく特別の定めのある場合を除くほか、この規則の定めるところによる。

（定義）
第２条　この規則において、「共同研究」とは、本校が民間機関等から研究者及び研究経費等を受け入れて、本校の教職員（以下「研究担当者」という。）の自主性のもとに当該民間機関等の研究者と共通の課題について共同して行う研究をいう。

（共同研究の申請）
第３条　共同研究を申請しようとする民間機関等の長（以下「申請者」という。）は、共同研究申請書（別記様式第１号）を校長に提出するものとする。

（研究者の受入れ）
第４条　校長は、本校の教育研究上有意義であり、かつ本校の教育研究に支障がないと認められる場合は、民間機関等に属する研究者を民間等共同研究員（以下「共同研究員」という。）として受け入れるものとする。
２　前項の共同研究員とは、民間機関等において、現に研究業務に従事しており、共同研究のために在職のまま本校に派遣される者をいう。

（共同研究の受入れの決定等）
第５条　校長は第３条の規定に基づく申請があったときは、第１１条に規定する共同研究委員会に諮ったのち受入れを決定し、共同研究承諾書（別記様式第２号）により申請者に通知するとともに、関係学科長等を経由して、研究担当者並びに契約担当役に通知するものとする。

（計画書の提出）
第６条　校長は、前条の受入れを決定したときは、研究担当者に対し、民間機関等と最終協議済の共同研究計画書（別記様式第３号）及び共同研究費費目別内訳書（別記様式第４号）を提出させるものとする。

（契約の締結）
第７条　契約担当役は、第５条による通知を受けたときは、速やかに当該民間機関等と共同研究契約書（別記様式第５号）により契約を締結するものとする。

（受入研究者指導料）
第８条　同一年度内に研究期間を延長する場合、同一の共同研究員に係る受入研究者指導料については、これを徴収しない。

（共同研究に要する経費等）
第９条　本校は、その施設、設備の維持管理に必要な経常経費等を負担するものとする。
２　民間機関等は共同研究遂行のため、受入研究者指導料及び前項により本校が負担するもののほか、直接経費及び間接経費を負担するものとする。
３　前項の間接経費等の額は、直接経費の１０％に相当する額とする。ただし、民間機関等側の事情により１０％に相当する額と異なる額とする場合には、申請者と校長が協議した額とする。
４　第２項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、直接経費のみをもって研究経費とすることができるものとする。
一　民間機関等が国である場合で、当該共同研究の制度上、間接経費が措置されていない場合
二　民間機関等が国から委託を受けていることが明確である場合で、当該共同研究の制度上、間接経費が措置されていない場合
三　民間機関等が特殊法人、認可法人、独立行政法人又は地方公共団体であって、財政事情により間接経費を措置できない場合
四　民間機関等が競争的資金をもって共同研究を行う場合であって、当該競争的資金に間接経費が措置されていない場合
五　その他やむを得ない事情により、間接経費を措置できない場合
５　共同研究に必要な経費を適切に分担するため、本校は必要に応じ、予算の範囲内で、第２項に規定する直接経費の一部を、負担することができるものとする。ただし、第２項に規定する民間機関等が負担する直接経費は、本校が負担する共同研究に要する経費の総額を下回らないものとする。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 10－１－③－３



（出典　本校ウェブサイト）

資料 10－１－③－４

地域共同テクノセンター

国立佐世保工業高等専門学校内

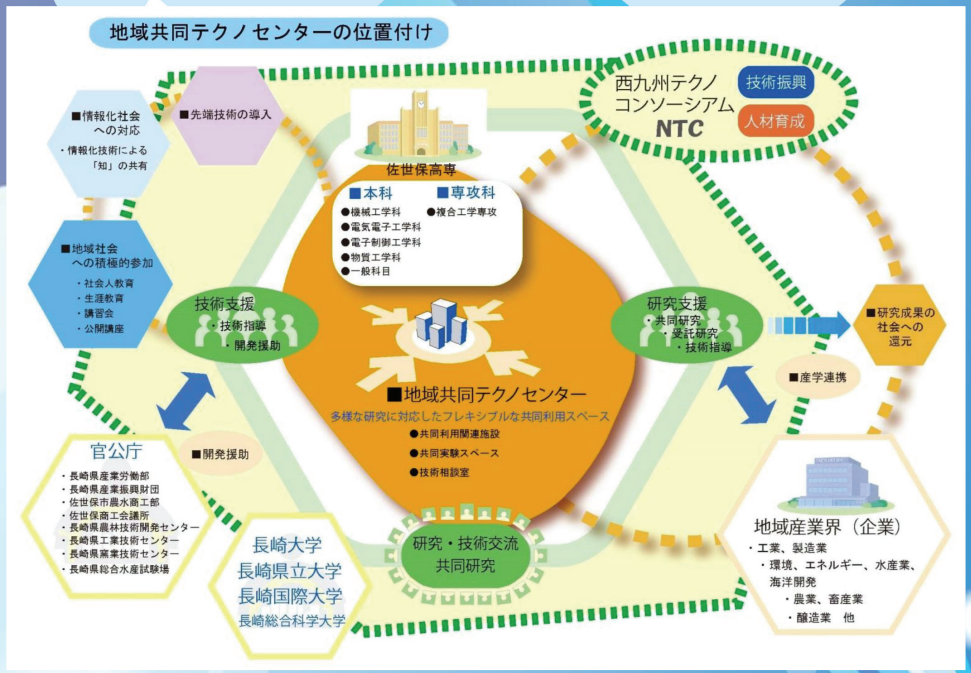
■地域共同テクノセンターの目的

佐世保工業高等専門学校の共同利用教育研究施設として、学生の技術教育のための教育方法の開発・研究を行います。

それに加え、総合的実習及び教員の共同研究の場並びに地域社会における技術開発、技術振興及び技術者教育等に資することを目的としています。

■地域共同テクノセンターの役割

・地域の企業との共同研究、受託研究、技術相談
・企業の技術者の再教育などの促進
・地域企業の技術者を対象とした技術セミナーも積極的に実施
・西九州テクノコンソーシアム（技術振興会）による、地域企業・異業種交流会との交流、高専教育の発展



■技術相談

1. 産学官連携コーディネータによる相談窓口
2. 佐世保工業高等専門学校内で利用できる先端機器
   - ●走査型電子顕微鏡　(FE-SEM)
   - ●X 線回折装置　(XRD)
   - ●X 線光電子分光装置 (XPS)

■問い合わせ

地域共同テクノセンター
〒857-1193 佐世保市沖新町 1-1
TEL/FAX:0956-34-8415（企画係）
E-mail :kikaku@sasebo.ac.jp
URL　:http://www.sasebo.ac.jp/

（出典　地域共同テクノセンター資料）

資料 10－１－③－５

過去5年間の外部資金獲得状況

（平成20年度～平成24年度）

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		5年間の平均	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
受託研究	2 件	2,700 千円	3 件	3,350 千円	1 件	300 千円	2 件	6,350 千円	2 件	4,547 千円	2.0 件	3,449 千円
受託事業	1 件	498 千円	1 件	3,000 千円	1 件	492 千円	0 件	0 千円	0 件	0 千円	0.6 件	798 千円
共同研究	14 件	9,090 千円	11 件	3,465 千円	6 件	2,542 千円	12 件	3,228 千円	12 件	3,418 千円	11.0 件	4,348 千円
寄附金	28 件	9,850 千円	17 件	9,430 千円	17 件	9,361 千円	23 件	20,465 千円	24 件	15,452 千円	21.8 件	12,911 千円
科研費	7 件	15,470 千円	10 件	13,390 千円	12 件	33,150 千円	13 件	37,440 千円	11 件	18,200 千円	10.6 件	23,530 千円
補助金	3 件	46,105 千円	2 件	39,390 千円	1 件	19,000 千円	1 件	16,000 千円	0 件	0 千円	1.4 件	24,099 千円
計	55 件	83,713 千円	44 件	72,025 千円	38 件	64,845 千円	51 件	83,483 千円	49 件	41,617 千円	47.4 件	69,135 千円

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するため，共同研究，受託研究，寄付金等の外部資金の獲得を図り，安定した財務基盤を確保している。特に産学官民連携活動における拠点施設である地域共同テクノセンターを核として本校の研究シーズを最大限活用することで，外部資金の獲得については具体的な成果が継続的に得られている。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

毎年度，高専機構の中期計画及び年度計画に基づき，予算配分が通知される。本校は通知された配分額に対し，校長指示の下，予算配分書（案）を作成し（資料10－２－①－１），運営委員会で審議し（資料10－２－①－２，３），決定された予算配分の内容は，各学科長及び一般科目長から全教員に周知される。

また，財務に係る年度毎の決算額を広く内外の関係者に周知する目的で，学校要覧に掲載し配布している（資料10－２－①－４）。

観点 10－２－①資料一覧

（資料 10－２－①－１）	予算配分書（案）	出典：総務課資料
（資料 10－２－①－２）	運営委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料 10－２－①－３）	運営委員会議事要旨	出典：総務課資料
（資料 10－２－①－４）	平成 23 年度決算額	出典：学校要覧

資料 10－２－①－１

平成２４年度

予算配分書（案）

佐世保工業高等専門学校

平 成 ２４ 年 度 予 算 配 分 方 針

１．予算の概要

平成２１年度より人件費を除き、「一般管理費」については３%、「教育研究経費」は１%の業務効率化が図られることとなった。
今年度においては、機構本部からの予算配分総額を対前年度比で比較した場合、△１．０%の減額となっている。なお、人件費（常勤教職員給与、超過勤務手当、退職手当）については、平成２３年度より機構本部で一括管理されている。

２．教育研究費配分額

① 教員数積算分単価は、平成 24 年 3 月 6 日運営委員会にて承認された単価（実験系（一般科目・体育を含む）：450,000 円　非実験系 250,000 円）とする。

② 当初配分率

当初配分（別紙１「調整前」）から「特殊要因経費」及び「在外研究員旅費」など前年度との比較することになじまない経費を除き、前年度と当該年度予算額を比較し増減率を算出し、当該年度の配分率を求める。

・平成２３年度予算額と平成２４年度予算額を比較すると全体的に 1.9%減（別紙２「調整後」）となっており、今年度の配分率は 98.1%となる。
（参考：平成２３年度　増減率 1.4%減，配分率 98.6%）
・学生数積算分については、平成２３年度配分額に配分率 98.1%を乗じた額とする。

③ 再雇用教員については、フルタイム再雇用者は常勤教員単価と同額とし、短時間勤務再雇用者は半額とする。

④ ロボコン経費として専門科目４学科及び一般科目からそれぞれ負担額を按分差引くものとする。

⑤ 平成２１年度より専門科目において非常勤講師への依頼時間数を考慮し、配分額の増減を行う。

⑥ 補充教員分については、追加で配分する。

⑦ 平成２５年度２月末で執行予定がない教育研究費は共通経費に振り替えるものとする。（平成２３年度　振替額９４０，８９３円）

３．校長裁量経費

財源として教育改善充実費、高専教育充実設備費等をもってあてることとする。なお、配分については、現在照会中であり、今後別途配分予定である。

（出典　総務課資料）

資料 10－２－①－２

佐世保工業高等専門学校運営委員会規程

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の円滑な運営に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本校の運営に関する重要な事項
二　その他校長が必要と認めた事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　校長
二　教務主事、学生主事及び寮務主事
三　校長補佐
四　専攻科長
五　各学科長及び一般科目長
六　技術室長
七　事務部長

（委員長）
第４条　委員会の委員長は、校長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（開催）
第５条　委員会は、原則として毎月１回開催する。ただし、委員長が必要と認めた場合は、臨時に開催することができる。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 10－２－①－３

運営委員会議事要旨

○日　時　平成24年6月13日(水)16時10分～18時36分
○場　所　校長室
○出席者　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、校長補佐(広報、地域連携)、
　　機械工学科長、電気電子工学科長、電子制御工学科長、物質工学科長、一般科目長、
　　技術室長、事務部長
○列席者　総務課長、学生課長、学生課長補佐、総務担当課長補佐

報告事項

15. 事務部から報告
(1)報告事項
　総務課長から、資料により次の事項について報告があった。
1)平成24年度予算配分(案)について(資料1)
　資料1に基づき平成24年度予算配分方針等について説明があり、原案のとおり承認された。
2)概算要求事項(電子・物質工学科棟改修)について
　5 月 28 日付で機構本部からヒアリングの再評価結果として、平成 25 年度施設整備費補助金概算要求事項とする通知が届いた。これにより機構本部から文部科学省に要求　が行われることが確定した。
なお、本日、機構本部から連絡が入ったところでは、当初、電気電子・物質工学科棟全体の改修計画として要求していたが、ヒアリングの段階で1期・2期に分けて要求するようにとの指摘があり、現在は、電気電子・物質工学科棟全体の改修として要求するが、場合によっては西・東に分けるなど調整が入ることも考えられる状況である。これについては確定次第報告する。

(出典　総務課資料)

資料 10－２－①－４



（単位：千円）

経常収益		経常費用	
運営費交付金収益	82,969	事業費	352,799
授業料収益	205,235	教育・研究経費	260,728
入学金収益	17,139	教育研究支援経費	33,332
検定料収益	6,857	受託研究費	1,307
受託研究等収益	7,194	共同研究費	4,757
受託事業等収益	0	受託事業費	0
補助金等収益	9,602	人件費	52,673
寄附金収益	17,958	一般管理費	84,323
施設費収益	19,740	財務費用	831
資産見返負債戻入	55,100	雑損	0
財務収益	0	臨時損失	11,117
雑益	20,166	経常利益	4,009
臨時利益	11,117		
目的積立金取崩額	0		
計	453,080	計	453,080

（出典　学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

財務に係る計画等については，本校の目的を達成するため，高専機構の中期目標，中期計画を踏まえつつ，校長指示の下，策定した本校の予算配分方針に基づき，教育研究及び管理運営に必要な経費など運営委員会において審議され，策定されている。その内容は，各学科長及び一般科目長を通じて全教員に周知される体制が確立されている。さらに，広く内外の関係者に周知する目的で，財務に係る決算額を学校要覧に掲載し配布している。

観点10－２－②：　収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

決定された予算配分額に基づく計画的な執行を念頭に置いて，高専機構本部とオンライン化している財務会計システムにより各学科・部門毎で予算を執行し，執行額の毎月締め作業や期中・期末における決算作業での総括的な確認作業を高専機構本部と連携しつつ実施している。

なお，過去５年間における損益計算書の収支状況を分析しても，過大な支出超過とはなっていない（資料10－２－②－１）。

観点 10－２－②資料一覧

（資料 10－２－②－１）　損益計算書　　出典：総務課資料

資料 10－２－②－１

損 益 計 算 書

平成20～24年度　損益計算書（報告式）

勘定科目表示名称 ／ 年度	明細金額				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
[経常費用]					
業務費	1,199,856,745	1,303,609,406	1,325,280,401	352,799,261	307,354,595
教育・研究経費	294,789,664	354,019,537	279,457,708	260,728,151	241,939,192
消耗品費	87,828,043	91,038,951	60,332,911	68,030,599	57,835,724
備品費	26,588,455	32,482,152	26,151,181	17,296,559	12,537,579
印刷製本費	10,443,542	8,304,693	6,489,851	4,947,052	7,165,230
水道光熱費	25,254,343	22,819,716	23,890,450	25,774,656	24,796,635
電気料	17,313,238	16,254,536	16,492,611	18,050,345	17,250,798
ガス料	4,268,944	3,774,836	4,229,318	4,453,126	3,977,652
水道料	3,672,161	2,790,344	3,168,521	3,271,185	3,568,185
旅費交通費	25,485,723	22,117,316	25,416,553	25,398,779	23,468,362
通信運搬費	776,421	585,776	881,537	460,900	816,062
賃借料	8,224,116	8,065,524	1,650,098	3,186,813	3,499,303
車両燃料費	1,024	6,673	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0
保守費	37,800	1,323,000	547,979	662,587	498,120
修繕費	49,488,938	79,375,325	54,308,275	30,704,415	16,210,651
損害保険料	0	164,000	0	0	0
広告宣伝費	410,130	449,348	31,500	108,150	159,200
行事費	0	0	0	0	0
諸会費	691,188	951,133	760,111	1,076,594	1,366,742
会議費	0	0	0	0	0
報酬・委託・手数料	7,257,787	6,297,512	6,622,163	6,526,663	6,902,127
委託調査研究費	0	0	0	0	0
文献複写費	0	51,773	67,493	17,882	14,651
支払派遣費	0	0	0	0	0
プログラム開発費	0	0	0	0	0
業務委託費	364,780	64,260	0	736,601	24,806
支払報酬・諸謝金	6,893,007	6,181,479	6,554,670	5,772,180	6,862,670
支払手数料	0	0	0	0	0
奨学費	16,187,400	16,217,400	6,885,000	7,814,550	9,036,600
奨学交付金（授業料）	16,187,400	15,952,800	6,885,000	7,814,550	9,036,600
奨学交付金（入学金）	0	84,600	0	0	0
奨学交付金（検定料）	0	0	0	0	0
奨学交付金（その他）	0	180,000	0	0	0
留学生給与	0	0	0	0	0
減価償却費	26,561,085	46,261,636	53,729,165	57,392,418	67,362,873
貸倒損失	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
雑費	9,553,669	17,559,382	11,760,934	11,347,416	10,283,984
傭船料	70,000	0	0	0	0
特許出願費	0	253,745	487,950	26,250	268,162
環境整備費	543,690	1,238,790	614,250	439,740	872,340
移設撤去費	409,500	2,435,700	0	189,735	0
損害賠償費	0	0	0	0	0
雑役務費	8,530,479	13,631,147	10,658,734	10,691,691	9,143,482
教育研究支援経費	17,868,435	10,579,374	13,733,774	33,332,495	10,502,653
消耗品費	7,923,851	3,465,765	3,668,185	3,855,868	3,729,554
備品費	1,100,465	1,309,665	1,366,600	468,300	540,800
印刷製本費	447,117	324,580	411,210	209,157	140,481
水道光熱費	2,762,717	2,487,231	2,599,062	2,837,092	2,726,681
電気料	1,801,096	1,690,990	1,716,642	1,895,249	1,809,826
ガス料	508,534	452,703	491,587	537,767	475,870
水道料	453,087	343,538	390,833	404,076	440,985
旅費交通費	124,250	0	0	0	0
通信運搬費	272,655	282,150	295,520	273,740	251,530
賃借料	0	0	0	0	0
車両燃料費	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0
保守費	134,400	0	0	145,320	0
修繕費	1,662,150	599,450	2,868,390	21,562,275	224,700
損害保険料	0	0	0	0	0
広告宣伝費	0	0	0	0	0
行事費	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0
報酬・委託・手数料	0	117,050	0	0	0
支払派遣費	0	0	0	0	0
プログラム開発費	0	0	0	0	0

PL 1/5

資料 10－２－②－１続き

損 益 計 算 書

平成20～24年度　損益計算書（報告式）

勘定科目表示名称 ＼ 年度	明細金額				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
業務委託費	0	0	0	0	0
支払報酬・諸謝金	0	117,050	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0
減価償却費	845,357	836,948	744,467	744,467	744,467
貸倒損失	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
雑費	2,595,473	1,156,535	1,780,340	3,236,276	2,144,440
環境整備費	0	0	0	0	73,500
移設撤去費	943,000	0	0	0	0
損害賠償費	0	0	0	0	0
雑役務費	1,652,473	1,156,535	1,780,340	3,236,276	2,070,940
受託研究費	2,699,999	3,349,999	300,000	1,307,693	72,000
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の受託研究費	0	0	0	0	0
その他	2,699,999	3,349,999	300,000	1,307,693	72,000
謝金	98,532	0	0	0	0
旅費交通費	117,860	93,270	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	812,491	2,231,230	292,500	1,307,693	72,000
減価償却費	1,249,499	640,499	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の受託研究費	421,617	385,000	7,500	0	0
共同研究費	3,210,000	4,990,000	4,490,251	4,757,711	3,220,000
国又は地方公共団体	0	0	0	350,000	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	0	0	0	350,000	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の共同研究費	0	0	0	0	0
その他	3,210,000	4,990,000	4,490,251	4,407,711	3,220,000
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	428,681	715,960	67,533	558,190	284,005
人件費	0	0	0	0	0
物件費	2,764,994	3,983,635	3,557,967	3,678,430	2,841,864
減価償却費	0	0	834,751	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の共同研究費	16,325	290,405	30,000	171,091	94,131
受託事業費	498,960	2,706,350	483,282	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の受託事業費	0	0	0	0	0
その他	498,960	2,706,350	483,282	0	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	165,730	0	0	0
人件費	0	466,400	0	0	0
物件費	0	90,900	483,282	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	23,320	0	0	0
その他の受託事業費	498,960	1,960,000	0	0	0
教員人件費	550,833,892	615,461,611	756,476,331	19,059,200	19,769,910
常勤教員給与	530,803,526	596,055,476	735,369,544	0	0
常勤教員給与	375,897,981	369,802,349	367,846,466	0	0
常勤教員賞与	147,803,921	133,548,065	126,463,916	0	0
常勤教員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
常勤教員退職給付費用	0	87,269,688	234,218,936	0	0
常勤教員法定福利費	7,101,624	5,435,374	6,840,226	0	0

PL 2/5

資料 10－２－②－１続き

損 益 計 算 書

平成20～24年度　損益計算書(報告式)

勘定科目表示名称 ＼ 年度	明細金額				
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
非常勤教員給与	20,030,366	19,406,135	21,106,787	19,059,200	19,769,910
非常勤教員給与	19,928,480	19,347,460	20,197,468	19,059,200	19,769,910
非常勤教員賞与	0	0	421,504	0	0
非常勤教員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
非常勤教員退職給付費用	0	0	0	0	0
非常勤教員法定福利費	101,886	58,675	487,815	0	0
職員人件費	329,955,795	312,502,535	270,339,055	33,614,011	31,850,840
役員報酬	0	0	0	0	0
役員報酬	0	0	0	0	0
役員賞与	0	0	0	0	0
役員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
役員退職給付費用	0	0	0	0	0
役員法定福利費	0	0	0	0	0
常勤職員給与	291,372,503	275,695,136	231,074,597	0	0
常勤職員給与	189,548,064	186,617,531	173,885,701	0	0
常勤職員賞与	68,782,408	61,123,740	54,323,878	0	0
常勤職員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
常勤職員退職給付費用	29,552,265	25,488,984	0	0	0
常勤職員法定福利費	3,489,766	2,464,881	2,865,018	0	0
非常勤職員給与	38,583,292	36,807,399	39,264,458	33,614,011	31,850,840
非常勤職員給与	33,885,888	31,831,485	33,815,192	31,599,941	31,082,720
非常勤職員賞与	1,053,136	1,400,536	1,276,916	722,762	442,882
非常勤職員賞与引当金繰入額	367,874	481,752	0	0	0
非常勤職員退職給付費用	0	18,459	111,480	557,400	0
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0	0	0	0	0
非常勤職員法定福利費	3,276,394	3,075,167	4,060,870	733,908	325,238
一般管理費	106,033,322	101,050,777	82,175,495	84,323,201	92,418,103
一般管理費	106,033,322	101,050,777	82,175,495	84,323,201	92,418,103
消耗品費	9,937,022	12,566,932	10,147,894	12,001,667	12,382,744
備品費	1,472,795	2,542,455	1,955,675	2,885,872	1,394,450
印刷製本費	5,068,225	5,899,845	6,308,262	3,103,937	3,498,040
水道光熱費	2,807,336	2,102,233	2,519,803	2,837,087	2,726,680
電気料	1,845,714	1,305,990	1,716,639	1,895,247	1,809,826
ガス料	508,535	452,703	412,333	537,764	475,869
水道料	453,087	343,540	390,831	404,076	440,985
旅費交通費	5,341,410	5,967,749	7,851,336	8,962,463	7,597,102
通信運搬費	7,176,158	7,503,613	8,225,517	5,691,601	4,123,799
賃借料	657,730	594,063	211,508	490,503	760,290
車両燃料費	1,586,466	1,214,050	1,624,655	761,250	660,631
福利厚生費	1,160,550	30,760	1,436,445	1,384,395	1,179,045
保守費	2,730,295	3,100,650	3,235,050	2,852,850	3,036,894
修繕費	37,970,767	27,792,935	12,720,586	16,601,812	28,786,405
損害保険料	53,080	49,148	57,180	51,293	73,833
広告宣伝費	596,800	1,130,850	0	0	0
行事費	0	0	36,400	0	3,780
諸会費	106,000	122,500	278,500	256,000	264,000
会議費	2,210	0	0	8,000	0
報酬・委託・手数料	7,339,148	8,163,951	7,311,260	6,618,468	2,918,718
委託調査研究費	0	0	0	0	0
支払派遣費	340,200	631,355	895,230	497,096	0
プログラム開発費	0	0	0	0	0
業務委託費	6,846,048	6,834,438	5,982,270	5,829,648	2,495,718
諸謝金	152,900	196,678	149,360	152,604	303,650
その他報酬	0	378,000	121,500	36,000	0
支払手数料・銀行手数料	144,480	123,480	162,900	103,120	119,350
支払手数料・その他手数料	0	0	0	0	0
租税公課	2,127,500	2,179,500	1,978,800	2,395,200	2,166,300
自動車重量税	107,100	195,300	25,000	187,300	106,900
固定資産税	2,020,400	1,984,200	1,953,800	2,207,400	2,059,400
収入印紙代	0	0	0	500	0
消費税等	0	0	0	0	0
その他の租税公課	0	0	0	0	0
減価償却費	2,852,926	2,697,182	2,981,658	3,087,772	3,155,265
貸倒損失	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
雑費	16,902,424	17,392,361	13,294,966	14,333,031	17,690,127
環境整備費	13,318,648	10,030,444	8,004,414	6,935,850	9,192,719
移設撤去費	0	158,000	0	63,000	0
雑役務費	3,583,776	7,203,917	5,290,552	7,334,181	8,497,408

PL 3/5

資料 10－２－②－１続き

損 益 計 算 書

平成20～24年度 損益計算書(報告式)

勘定科目表示名称 ＼ 年度	明細金額 平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
[臨時損失]減損損失	0	0	0	0	0
[臨時損失]国庫納付金	0	0	0	0	0
[臨時損失]その他の臨時損失	600	0	23,536,266	11,117,426	909,266
[臨時損失]合計	600	718,376	23,821,520	11,117,439	909,276
[臨時利益]					
[臨時利益]固定資産売却益	0	0	0	0	0
[臨時利益]貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入	0	0	0	0	0
[臨時利益]退職給付引当金戻入	0	0	74,199	0	0
[臨時利益]資産見返負債戻入	0	718,376	285,254	12	10
資産見返運営費交付金等戻入	0	0	1	2	5
資産見返運営費交付金戻入	0	0	1	2	5
資産見返授業料戻入	0	0	0	0	0
資産見返補助金等戻入	0	0	0	0	0
資産見返寄附金戻入	0	718,375	0	1	1
資産見返物品受贈額戻入	0	1	285,253	9	4
[臨時利益]その他引当金戻入	0	0	0	0	0
[臨時利益]運営費交付金収益	0	0	0	0	0
[臨時利益]授業料収益	0	0	0	0	0
[臨時利益]補助金等収益	0	0	0	0	0
[臨時利益]施設費収益	0	0	0	0	0
[臨時利益]その他の臨時利益	0	99,452	24,155,772	11,117,526	13,475
[臨時利益]合計	0	817,828	24,515,225	11,117,538	13,485
[当期純利益(純損失)]	13,245,635	41,193,883	3,103,591	4,009,100	-907,411
[前中期目標期間繰越積立金取崩額]	0	0	0	0	0
[目的積立金取崩額]	13,019,584	41,148,500	0	0	0
[当期総利益(総損失)]	226,051	45,383	3,103,591	4,009,100	-907,411

(出典　総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構本部とオンライン化している財務会計システムで常時，予算執行状況及び残額を確認しており，損益計算書の過去５年間の収支状況においても過大な支出超過はない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

教育研究活動の質の向上と維持を図るため，限られた予算の中で予算配分方針に則り，予算配分を行っている（資料10－２－①－１参照）。また，教育方法改善及び研究活性化，教育環境充実等を図るため，校長裁量経費を設け，学内の公募後，応募者のプレゼンテーションを行い，校長，副校長及び事務部長等で審議の上で配分している（資料10－２－③－１）。施設整備計画については，「キャンパスマスタープラン2010」を作成し，その策定内容に基づき，事業規模に応じて高専機構本部に概算要求と営繕要求として予算要求を実施し，採択された事業により整備を実施している（資料10－２－③－２）。また，比較的少額な案件に関しては，施設整備委員会での審議決定を経て，学内予算にて継続的に整備を行っている。

設備整備計画については，毎年高専機構本部の設備整備マスタープランの基準に基づき，教職員に対し照会を行い，校長が要求設備を決定し，高専機構本部に予算要求を行い，採択された設備の整備を行っている（資料10－２－③－３（別添資料10-１））。なお，平成24年度においては，大規模な補正予算により約５億円の設備整備予算が確保された（資料10－２－③－４）。

観点 10－２－③資料一覧

（資料10－２－③－１）　校長裁量経費の公募等に関する周知メール　出典：総務課資料

（資料10－２－③－２）　施設整備事業（営繕事業・施設概算事業等）実績一覧　出典：総務課資料

（資料10－２－③－３）　設備整備マスタープラン年次計画表・評価設備一覧表　出典：総務課資料

（資料10－２－③－４）　補正予算（施設整備費）一覧表　出典：総務課資料

資料 10－２－③－１

校長裁量経費公募等に関する周知メール（**抜粋**）

Subject:　平成２５年度校長裁量経費の要求について（照会）
Date:　Tue, 30 Apr 2013 14:06:57 +0900
From:　佐世保高専 経理係 <keiri@sasebo.ac.jp>
To:　全教員 <zenkyoukan@sasebo.ac.jp>, 事務職員 <jimu@sasebo.ac.jp>, 技術室 <gijutsu@sasebo.ac.jp>

平成２５年４月３０日

教　職　員　　各位

総務課経理係

平成２５年度校長裁量経費の要求について（照会）

このことについて、配分を希望される場合は、別添様式により要求書を作成の上、５月１５日（水）までに総務課経理係（keiri@sasebo.ac.jp<mailto:keiri@sasebo.ac.jp>）へメールにて提出願います。融合研究は別紙１、それ以外は別紙２により作成し、資料等があれば併せて提出願います。

注１　融合研究については、２４年度採択者の成果報告並びに２５年度申請者の提案発表を行う予定です。（担当窓口　総務課企画係）

【校長裁量経費（融合研究）】平成２４年度提案発表会の開催について［7/30(月) 13:30］

平成２４年度校長裁量経費（融合研究）申請者　様

校長裁量経費（融合研究）の提案発表を、下記のとおり実施します。ついては、下記の点にご注意の上、ご準備ください。お忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願いします。
なお、今回は応募数が多いことから、昨年度の成果報告会は８月１日(水)に実施いたします。

記

開催日時　：　７月３０日（月）１３時３０分～
開催場所　：　多目的教室
発表時間　：　１２分(質疑応答の時間を含む)
発 表 順　：　別紙のとおり
※　時間は予定です。発表される方は、早めに会場に来るようお願いします。発表時間の都合が悪い場合は、発表者間で調整の上、変更結果を企画係までお知らせ下さい。
発表内容　：　背景・目的、研究内容、共同研究者、分担、計画表、成果(予定)、研究予算(総額、内訳)等

（出典　総務課資料）

資料 10－２－③－２

■施設整備事業（営繕事業・施設概算事業等）実績一覧

（平成１９年度～平成２５年度）

執行年度	事業区分	事業名	税込金額（円）
平成１９年度	営繕事業	実習工場改修（Ⅰ期）	19,257,000
	〃	寄宿舎屋外蒸気配管改修	11,004,000
	〃	第２体育館他便所改修	7,644,000
	〃	寄宿舎Ｂ棟便所改修	8,930,250
	〃	寄宿舎Ａ棟寮室模様替、寄宿舎Ｎ棟１階便所改修外	9,370,000
平成２０年度	〃	実習工場改修（Ⅱ期）	24,622,500
	〃	図書館エレベータ取設	16,590,000
	〃	寄宿舎Ｄ・Ｅ棟便所改修	22,680,000
	〃	寄宿舎Ｎ棟寮室床改修	7,125,850
平成２１年度	〃	実習工場改修（Ⅲ期）	24,517,500
	〃	寄宿舎Ｆ棟改修	85,700,000
	〃	瀬戸越宿舎取壊	3,948,000
平成２２年度	〃	武道場耐震補強	8,085,000
	〃	第２体育館内部改修	18,879,000
	〃	寄宿舎渡廊下改修	10,605,000
平成２３年度	〃	図書館空調設備改修	19,740,000
	〃	総合運動場他便所改修	8,610,000
	〃	第２体育館外部改修	9,043,125
	〃	地域共同テクノセンター新営	118,167,000
平成２４年度	〃	寄宿舎空調用電気設備	24,675,000
	〃	機械工学科Ａ棟耐震改修	13,944,000
	施設概算事業	校舎（電気電子・物質工学系）改修	425,880,000
平成２５年度	営繕事業	寄宿舎Ｂ棟耐震改修	106,260,000
合　　計			1,005,277,225

（出典　総務課資料）

資料 10－２－③－４

H24補正予算（施設整備費）一覧表

（単位：千円）

設備番号	設　備　名	設置場所	設備区分	耐用年数	金　額
1	交流回転機の総合実験実習システム一式	エネルギー変換実験室	更新	20	
2	単相及び三相変圧器の総合実験実習システム一式	エネルギー変換実験室	更新	20	
3	磁性薄膜作製装置	プラズマ実験室	更新	5	
4	機器分析実験等高度化設備	化学工学解析実験室，無機・分析実験室	新規	5	
5	流動の計測・制御実験装置	移動現象実験室	更新	10	
6	気液平衡蒸留実験装置一式	移動現象実験室	更新	10	
7	充填層圧力損失測定実験装置一式	移動現象実験室	更新	10	
8	濾過実験装置	移動現象実験室	更新	10	
9	油圧式材料強度試験機一式	材料力学実験室	更新	30	
10	エネルギー有効利用教育のための流体実験設備	流体工学実験室	更新	30	
11	核磁気共鳴装置	NMR室	更新	5	
12	ガス置換式高速昇温電気炉	共通ラボE	更新	5	
13	生物実験システム	微生物実験室	更新	5	
14	CNC全自動歯車測定機	恒温恒湿室	更新	5	
15	光を用いた薄膜運行分析装置	地域共同テクノセンター共同実験室	新規	5	
16	材料特性分析システム	材料特性分析室	更新	10	
17	分子配列構造観察・解析装置	共通ラボ （I）	新規	5	

資料 10－２－③－４続き

H24補正予算（設備整備費）一覧表

（単位：千円）

設備番号	設　備　名	設置場所	主に使用する学科系等	設備の概要及び必要理由	設備区分	耐用年数	経過年数（更新のみ）	金　額
1	ダブルスキャン型3Dカラーレーザーマイクロスコープ	機械力学第2実験室	機械系	・物体の表面形状を3次元で拡大観察でき、かつ非接触で表面形状などを精密に測定できる装置。 ・微細加工技術などナノテクノロジーの進歩は，急速な技術競争の中にあり，これらのニーズをみたす技術者を育成するため。	新規	8		[redacted]
2	電気電子基礎理論実験システム一式	多目的実験室（1）（2）	電気・電子系	・電気電子工学の導入・基礎教育のための計測基礎実験システムである。 ・現在の使用機器が製造から数十年が経過しており、至急の更新が必要である。	更新	20	50	
3	アナログ＆ディジタル電子回路実験システム一式	多目的実験室（1）（2）	電気・電子系	・電気電子工学の電子回路および通信技術の導入・基礎教育のための実験システムである。 ・現在の使用機器が製造から数十年が経過しており、至急の更新が必要である。	更新	20	42	
4	ハイスピードカメラ	集積回路実験室	電気・電子系	・放電現象やプラズマ現象などの極めて高速な現象を観測する装置。 ・高速度の放電やプラズマ技術は、太陽電池や環境浄化にすでに利用されつつあるものであり、学生が早急に習得しなければならないものであるため。	新規	5		
5	微生物実験高度化設備	生物・物理化学実験室	化学・生物系	・微生物の保存，培養および観察をするための設備である。滅菌・無菌操作および顕微鏡観察などの基礎的な生物実験が行える機構を有しており、生物化学と有機化学を連携させる設備。 ・現在使用している設備が極めて古く老朽化や陳腐化しており、最先端の技術の基礎を学生に身につけさせることができないため。	更新	7	21	
6	ガスクロマトグラフ質量分析計（GCMS）	生物化学実験室	化学・生物系	・有機化合物（特に低分子量成分）の定性・定量分析を行う装置。 ・老朽化により学生に対し、機器操作及びデータ解析などの教育・指導が十分に行えない状況のため更新が必要。	更新	5	22	
7	材料物性試験装置一式	共通ラボA	化学・生物系	・本試験装置は、高分子材料、無機材料および複合材料の基本的特性について評価分析を行う装置。 ・専攻科までの課程において高分子材料に関する達成目標（モデルコアカリキュラム）を策定しており実践的教育を重視する高専教育において本装置は非常に重要かつ有用である。	新規	15		
8	ナノ粒子解析装置	移動現象実験室	化学・生物系	・本装置は試料の粒子径測定，ゼータ電位測定，分子量測定を行うことが可能なシステムである。 ・分野を問わずナノテクノロジーの発展が望まれており、実践的技術者を目指す本校の学生に早期に学習をさせるため。	新規	10		
9	FRA式インピーダンスアナライザ	共通ラボE	化学・生物系	・電気化学反応が行われている状態で電気的に測定する測定装置である。 ・リチウムイオン電池材料や燃料電池材料の評価では世界標準的な機材であり次世代のエネルギーデバイスの開発にはこの機材による評価は避けて通れないため必要である。	新規	20		
10	純水製造装置	共通学生実験室（4部屋），共通ラボ等（6部屋）	化学・生物系	・実験・実習，卒業研究および特別研究で使用する純水を製造するための装置。 ・現有装置は導入後１０年が経過し老朽化が顕著である。更には卒業後に企業等で純水を使用する卒業生が増えたため純水の取り扱いを実験等で教育する必要が急務となった。	更新	7	10	

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育研究活動の質の向上と維持を図るため，限られた予算の中で予算配分方針に則り，予算配分を行っている。このうち校長裁量経費については，校長指示の下，教育方法改善及び研究活性化，教育環境充実等を重点とし，戦略的に教育研究の活性化を図っている。

施設整備については，「キャンパスマスタープラン2010」に基づき，概算要求事業や高専機構の営繕要求事業について限られた予算ではあるが予算要求及び施設整備を計画的に行っている。

設備整備においても設備整備マスタープランに基づき，優先度を考慮した予算要求を行い，予算確保に尽力している。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

高専機構は，全高専統一の財務会計システムを構築しており，各高専は統一された勘定科目・仕訳により財務会計処理を行っており，事業年度毎に年度末決算後，この財務会計システムにより法人全体の財務諸表等が作成される。

高専機構理事長は，当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握るため各帳簿の締め切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行って，所定の手続きに従って決算数値を確定し，財務諸表を作成し公表している（資料10－３－①－１）。

なお，高専機構は，独立行政法人通則法第38条第４項の適用を受け，財務諸表等を官報に公告している。

観点10－３－①資料一覧

（資料10－３－①－１）　高専機構・財務諸表　　出典：高専機構ウェブサイト

資料 10－３－①－１



（出典　高専機構ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，当該年度末における資産・負債の残高並びに損益に関し各帳簿の締め切りを行い，所定の手続きに従って決算数値を確定し機構本部に報告している。

高専機構理事長は，各高専より報告された各帳簿の決算数値を法人として取りまとめて確定し，財務諸表を作成し公表している。

観点10－３－②：　財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

財務に関する監査については，独立行政法人通則法第39条により，監事及び会計監査人の監査が明確に規定されているほか，高専機構会計規則第45条及び第46条（資料10－３－②－１）により，内部監査並びに会計機関の義務及び責任を規定している。

外部監査としては，平成24年度に会計検査院による会計実地監査を受検し，平成23年度に会計監査人による監査（期中）を実施している（資料10－３－②－２，３）。なお，監事監査，内部監査（情報セキュリティ監査含む）は，高専機構本部が計画し順次実施しており，本校は平成23年度に実施している（資料10－３－②－４）。また，毎年度，高専相互会計内部監査も適正に実施している（資料10－３－②－５）。さらに，本校での部内監査として，毎年度，科学研究費補助金内部監査を実施している（資料10－３－②－６）。

観点10－３－②資料一覧

（資料10－３－②－１）	高専機構会計規則第45条・第46条	出典：高専機構ウェブサイト
（資料10－３－②－２）	会計検査院実地監査実施通知	出典：総務課資料
（資料10－３－②－３）	会計監査人監査実施通知	出典：総務課資料
（資料10－３－②－４）	監事監査，内部監査，情報セキュリティ監査実施通知	出典：総務課資料
（資料10－３－②－５）	高専相互会計内部監査報告書	出典：総務課資料
（資料10－３－②－６）	科学研究費補助金部内監査報告書	出典：総務課資料

資料 10－３－②－１

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３４号
制定 平成１６年４月１日
一部改正 平成２０年１２月２４日

目次
第１章 総則（第１条－第１６条）
第２章 予算（第１７条－第１９条）
第３章 出納取引（第２０条－第３０条）
第４章 資産管理（第３１条）
第５章 契約（第３２条－第４２条）
第６章 決算（第４３条－第４４条）
第７章 内部監査及び責任（第４５条－第４６条）
附則

第７章 内部監査及び責任

（内部監査）
第４５条 理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。
２ 内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。

（会計機関の義務及び責任）
第４６条 会計機関は，機構の財務及び会計に関し，適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し，かつ，予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって，その職務を行わなければならない。
２ 会計機関は，故意又は重大な過失により前項の規定に違反して，機構に損害を与えた場合は，その損害を弁償する責を負わなければならない。

（出典　高専機構ウェブサイト　抜粋）

資料 10－３－②－２

佐世保工業高等専門学校会計実地検査項目・準備資料等

文部科学検査第2課

２月12日(火)から14日(木)に実施予定の佐世保工業高等専門学校の会計実地検査において、下記事項について検査を行う予定としていますので、関係書類の準備等をお願いいたします。

【検査項目】

（１）公的研究費の不適切な経理に関する調査結果の検証

（２）少額資産等の管理

（３）上記のほか佐世保校における収入支出等の会計経理

【実地検査担当調査官（予定）】

[redacted]

（出典　総務課資料）

資料 10－３－②－３

事　務　連　絡
平成２２年１２月２４日

佐世保工業高等専門学校
事　務　部　長　殿

国立高等専門学校機構本部事務局
財務課長　飯　田　雄　介

会計監査人の監査について

今般，平成２２年度会計監査人として有限責任監査法人[redacted]が文部科学大臣から選任されました。独立行政法人通則法第３９条の規定に基づき会計監査人の監査を受けるにあたって，有限責任監査法人[redacted]から監査計画について連絡がありましたので，下記のとおり通知します。

会計監査人の監査は，従来のいわゆる監査とは異なり，会計経理等について指摘を目的とするものではなく，適正な財務諸表等を作成するための指導的な意味合いのものですので，この点にご留意いただくとともに，日頃の疑問点の解決の場とする等積極的な対応をお願いします。

なお，日程は変更される場合もありますのでご了承ください。

また，詳細な日程及び準備資料等については，追ってご連絡いたします。

記

平成２３年１月２４日（月）～２６日（水）

（出典　総務課資料）

資料 10－３－②－４

平成２３年　６月１４日

佐世保工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
監　事　　松　本　　香
監　事　　斎　藤　秀　俊
（公印省略）

平成２３年度監事監査の実施について（通知）

平成２３年度監事監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）個性化・高度化の進捗状況について
（２）教育研究活動について
（３）リスク管理体制について
（４）年度評価の策定・自己点検評価の実施状況について
（５）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、預り金精算状況、施設整備費補助金の執行状況等）
（６）契約の状況について
（７）産学連携・地域連携等の状況について
（８）入試業務の実施状況について
（９）保有個人情報の管理の状況について
（10）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を調整することがある。

２　監査の実施時期
平成２３年１１月３０日（水）～　１２月　２日（金）

３　監査の従事者
監事
財務課課長補佐
学務課専門職員
施設課施設企画係長
監査室長補佐



資料 10－３－②－４続き

平成２３年　６月１４日

佐世保工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　林　　勇　二　郎
（公印省略）

平成２３年度内部監査の実施について（通知）

平成２３年度内部監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、預り金精算状況、施設整備費補助金の執行状況等）
（２）契約の状況について
（３）産学連携・地域連携等の状況について
（４）入試業務の実施状況について
（５）保有個人情報の管理の状況について
（６）人事労務管理の状況について
（７）その他

（注）監査の実施状況により、監査項目を調整することがある。

２　監査の実施時期
平成２３年１１月３０日（水）～　１２月　２日（金）

３　監査の従事者
財務課課長補佐
学務課専門職員
施設課施設企画係長
◎　監査室長補佐
◎は総括者



資料 10－３－②－４続き

平成２３年　６月１６日

情報セキュリティ責任者
佐世保工業高等専門学校長　殿
（別紙受信者のとおり）

最高情報セキュリティ監査責任者
独立行政法人国立高等専門学校機構
本部事務局長　後　藤　宏　平
（公印省略）

平成２３年度情報セキュリティ監査の実施について（通知）

平成２３年度情報セキュリティ監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）組織、体制（責任者、副責任者、管理者、推進員、管理委員会、専門委員会）について
（２）情報セキュリティポリシーに基づく各種実施規程の整備状況等について
（３）情報システムに係る安全確保策（ファイル交換ソフト（Ｗｉｎｎｙ等）に係る対策を含む）について
（４）ＩＴ内部統制の状況について
（５）その他

（注）ソフトウェアライセンス管理の状況については、管理システムの運用状況により、監査項目として追加することがある。

２　監査の実施時期
平成２３年１１月３０日（水）～１２月　２日（金）

３　監査の従事者
財務課長補佐
学務課専門職員
施設課施設企画係長
◎監査室長補佐
◎は総括者

[redacted]

（出典　総務課資料）

資料 10－３－②－５

別紙２

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	佐世保工業高等専門学校
監査実施日	平成２４年１２月１７日　～１２月１８日
監査担当者	久留米工業高等専門学校　総務課課長補佐 総務課財務係長 総務課財務係

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課　宮成課長、高比良課長補佐　他

① 監査部署の現状

・総務課には、課長の他、課長補佐３名、専門職員１名と８係が配置されている。

・会計を担当する職員は、予算決算及び収入支出事務を担当する経理係（3名）、契約事務を担当する契約係（５名）、施設管理事務を担当する施設係（２名）及び図書館事務を担当する図書係（２名）の４係、計１４名（課長及び課長補佐を含む。）となっている。

② 査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重大な問題点は見受けられなかった。

③ 発見事項及び指摘事項

・特になし

④ 摘事項等（指示、考究）

・特になし

⑤ 監査部署の意見等

・特になし

⑥ 関係資料等（徴収資料等）

・なし

（出典　総務課資料）

資料 10－３－②－６

監査報告書（科学研究費補助金）

実施年月日	平成24年　9月18日
監査種別	特別監査
対象年度	平成２３年度
研究種目	若手研究(B)
課題番号	23710130
研究代表者所属・氏名	
監査実施者所属・氏名	学生課・木寺　周夫
	学生課・蒲上　俊一

監査の内容		監査の所見	
通常監査	収支簿、財務会計システム、伝票類の照合	収支簿等は適正に処理されていることを確認した。	
	証拠書類（領収書、見積書、納品書等）の確認の確認	・物品、その他の区分に係る証拠書類（見積書、納品書、請求書等）は全て揃っていることを確認した。 ・旅費に係る証拠書類（旅費請求書、精算書、航空券領収書等）は全て揃っていることを確認した。	
	設備備品の購入時期に遅れがないか確認	特に問題なし。	
	設備備品の寄付受入処理の確認	購入した設備備品については全て本校資産として登録済であることを財務会計システムにより確認、寄附漏れは認められなかった。	
	その他の財源との抱き合わせによる物品の購入、出張旅費の支給がないか調査。	証拠書類を精査したが、他の財源との抱き合わせは認められなかった。	
	預け金等の有無（教員への事情聴取）	無	
特別監査（通常監査に追加）	設備備品の使用状況について確認	購入した設備備品は研究課題に沿って適正に使用されている。	
	設備備品の設置確認、備品シール等の確認	設備備品について現物確認済み。	
	納品書と当該契約業者の売上伝票との突合（無作為抽出３件分）	当該契約業者の売上伝票と合致確認済み。	
監査結果	不正な使用の有無	有	(無)
	不正な使用が行われた疑いの有無	有	(無)
	購入済み物品等の適正な使用及び管理状況	(適正)	不適正

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

財務に対して適正に会計監査が実施されている。また，個々の監査において，不正事項等の大きな指摘は受けておらず，指摘・指導を受けた事項についてはその都度改善を図っている。さらに，部内においても科学研究費の部内監査を毎年度実施している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

会計業務の適性かつ効率的な推進に資するために，監査を通じて会計業務の改善に寄与することを目的として，高専相互会計内部監査を実施している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準10の自己評価の概要

本校は，平成16年４月の独立行政法人化により，国から現物出資された土地及び施設・設備を保有している。事業費においても，授業料・入学料等の自己収入及び文部科学省から高専機構を通じて交付される運営費交付金が安定的，継続的に確保されていることから教育研究活動を安定して遂行するための財務基盤が確保されている。また，校長指示の下，教員への新たな教育・研究の取り組みによる科学研究費補助金や，地域共同テクノセンターを基軸とした産学官民連携活動による受託研究費等の外部資金獲得も精力的に行われている。

施設整備については，「キャンパスマスタープラン2010」に基づき，概算要求事業や高専機構の営繕要求事業について，予算要求及び施設整備を計画的に行っている。設備整備においても設備整備マスタープランに基づき，校長の決定により優先度を考慮した予算要求を行い，予算確保に尽力している。

予算執行については，校長の指示の下，学内予算配分方針に基づき適正に執行されている。さらに教育方法改善及び研究活性化，教育環境充実等を図るため，校長裁量経費を設けている。なお，本校では，高専機構から配分された予算額を基に予算執行をしているため，収支は均衡しており，支出超過にはなっていない。

財務状況については，各年度末における資産・負債の残高並びに損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を行った後，所定の手続きに従って決算数値を確定し高専機構本部に報告しており，これを受けて高専機構理事長は，高専機構全体としての財務諸表等を作成し公表している。

財務に対する会計監査については，独立行政法人通則法及び機構会計規則に明確に定められており，毎年度実施される公的研究費等の管理・監査実施方針に基づく高専相互会計内部監査や数年毎に実施される高専機構からの監事監査，内部監査や会計監査人，会計検査院による実地検査が適正に実施されている。

基準１１　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の役割は，学校教育法（資料11－１－①－１）に定められ，これに基づいて学則の第４条において校長の職務を規定している（資料11－１－①－２）。また，各主事の役割も学校教育法施行規則（資料11－１－①－３）に定められ，これに基づいて学則の第５条で各主事の役割を同様に規定している（資料11－１－①－４）。また，本校では教務主事を副校長に充て，広報担当及び地域連携担当の校長補佐を設けている（資料11－１－①－５）。このほか、本校には運営委員会，教員会議，教務委員会等の各種委員会があり，これらの役割については教員組織規程，運営委員会規程及び各種委員会規程で定めている（資料11－１－①－６，７，８）。これらの本校の組織は，学則，教員組織及び事務組織規程，各種委員会規程等に基づき運営されている（資料11－１－①－９）。

各委員会の審議結果は，本校の運営に関する重要事項を審議する運営委員会に諮り，校長が決定するシステムになっている。運営委員会の委員長は校長であり，運営委員会の審議を経て校長が全体を把握しリーダーシップをとって意思決定を行っており，学校業務の円滑な遂行を行っている。

観点 11－１－①資料一覧

（資料 11－１－①－１）	校長の役割	出典：学校教育法第 120 条
（資料 11－１－①－２）	学則（教員組織）	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－①－３）	各主事の役割	出典：学校教育法施行規則第 175 条
（資料 11－１－①－４）	学則（各主事の役割）	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－①－５）	校務分担	出典：学生課資料
（資料 11－１－①－６）	教員組織規程	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－①－７）	運営委員会規程	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－①－８）	各種委員会規程一覧	出典：本校ウェブサイト
（資料 11－１－①－９）	運営組織図	出典：本校ウェブサイト

資料 11－１－①－１

校長の役割

第 120 条　高等専門学校には、校長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置かなければならない。ただし、教育上の組織編制として適切と認められる場合には、准教授、助教又は助手を置かないことができる。
２　高等専門学校には、前項のほか、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。
３　校長は、校務を掌り、所属職員を監督する。
４　教授は、専攻分野について、教育上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授する。
５　准教授は、専攻分野について、教育上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授する。
６　助教は、専攻分野について、教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授する。
７　助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
８　講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

（出典　学校教育法第 120 条）

資料 11－１－①－２

佐世保工業高等専門学校学則（平成１６年４月１日制定）（平成１９年４月１日全部改正）

（職員組織）
第４条　本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び技術職員を置く。
２　前項の職員の職務は、学校教育法その他の法令の定めるところによる。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 11－１－①－３

各主事の役割

第１７５条　高等専門学校には、教務主事及び学生主事を置くものとする。
２　高等専門学校には、寮務主事を置くことができる。
３　教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
４　学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事を置く高等専門学校にあつては、寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
５　寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　学校教育法施行規則第 175 条）

資料 11－１－①－４

佐世保工業高等専門学校学則（平成１６年４月１日制定）（平成１９年４月１日全部改正）

（主事）

第５条　本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

２　教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

３　学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

４　寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 11－１－①－５

平成２４年度校務分担

１．主事・主事補

区分	主事	主事補
教務	須田義昭	松山、大島、嶋田、山崎、堀江
学生	田崎弘章	貞弘、三橋、手島、越村、三ッ廣
寮務	渡辺哲也	西口、下尾、槇田、城野、生住、縄田

２．学科長等

専攻科長	下野次男	一般科目長	松尾秀樹
専攻科副科長	中江、高比良、坂口、田中、牧野	図書館長	須田淳一郎
機械工学科長	小原彰	校長補佐（広報担当）	福田孝之
電気電子工学科長	南部幸久	〃（地域連携担当）	川崎仁晴
電子制御工学科長	中村嘉男	技術室長	川下智幸
物質工学科長	長田秀夫		

３．情報処理センター長・センター員

情報処理センター長	センター員
中村嘉男	貞弘、長嶋、嶋田、城野、三ッ廣

４．地域共同テクノセンター長・副センター長・部門長

地域共同テクノセンター長	副センター長・部門長
川崎仁晴	副センター長：長嶋、部門長：原、下尾、椛島、古川、須田（淳）

５．学生相談室長・相談員

学生相談室長	相談員
森保仁	中江、大島、川下、古川、堂平、苑田

６．特別支援教育コーディネーター

特別支援教育コーディネーター
松尾秀樹

７．キャリア教育支援室・支援室員

キャリア教育支援室長	支援室員
志久修	森田、高比良、手島、山崎、大屋、川瀬

（出典　学生課資料）

資料 11－１－①－６

佐世保工業高等専門学校教員組織規程（平成１６年４月１日制定）

第４章　会議等

（教員会議）

第１２条　本校に教員会議を置く。

２　教員会議に関する事項は別に定める。

（委員会等）

第１３条　本校に，必要に応じ委員会等を置く。

２　委員会等に関する事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 11－１－①－７

佐世保工業高等専門学校運営委員会規程（平成１６年４月１日制定）

（設置）

第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の円滑な運営に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一　本校の運営に関する重要な事項

二　その他校長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　校長

二　教務主事、学生主事及び寮務主事

三　校長補佐

四　専攻科長

五　各学科長及び一般科目長

六　技術室長

七　事務部長

（委員長）

第４条　委員会の委員長は、校長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（出典　佐世保高専規程集　抜粋）

資料 11－１－①－８

各種委員会規程一覧

未分類

佐世保工業高等専門学校規程集

＜利用上の注意＞
１．規則名をクリックしてください。
２．様式等で使用しているＰＤＦファイルを読み込むには Acrobat Reader が必要です。

- 第１章 学則
- 第２章 教員組織及び事務組織
- 第３章 委員会等
- 第４章 庶務
- 第５章 会計
- 第６章 教務・学生
- 第７章 施設等
- 第８章 学寮
- 第９章 学生会・寮生会

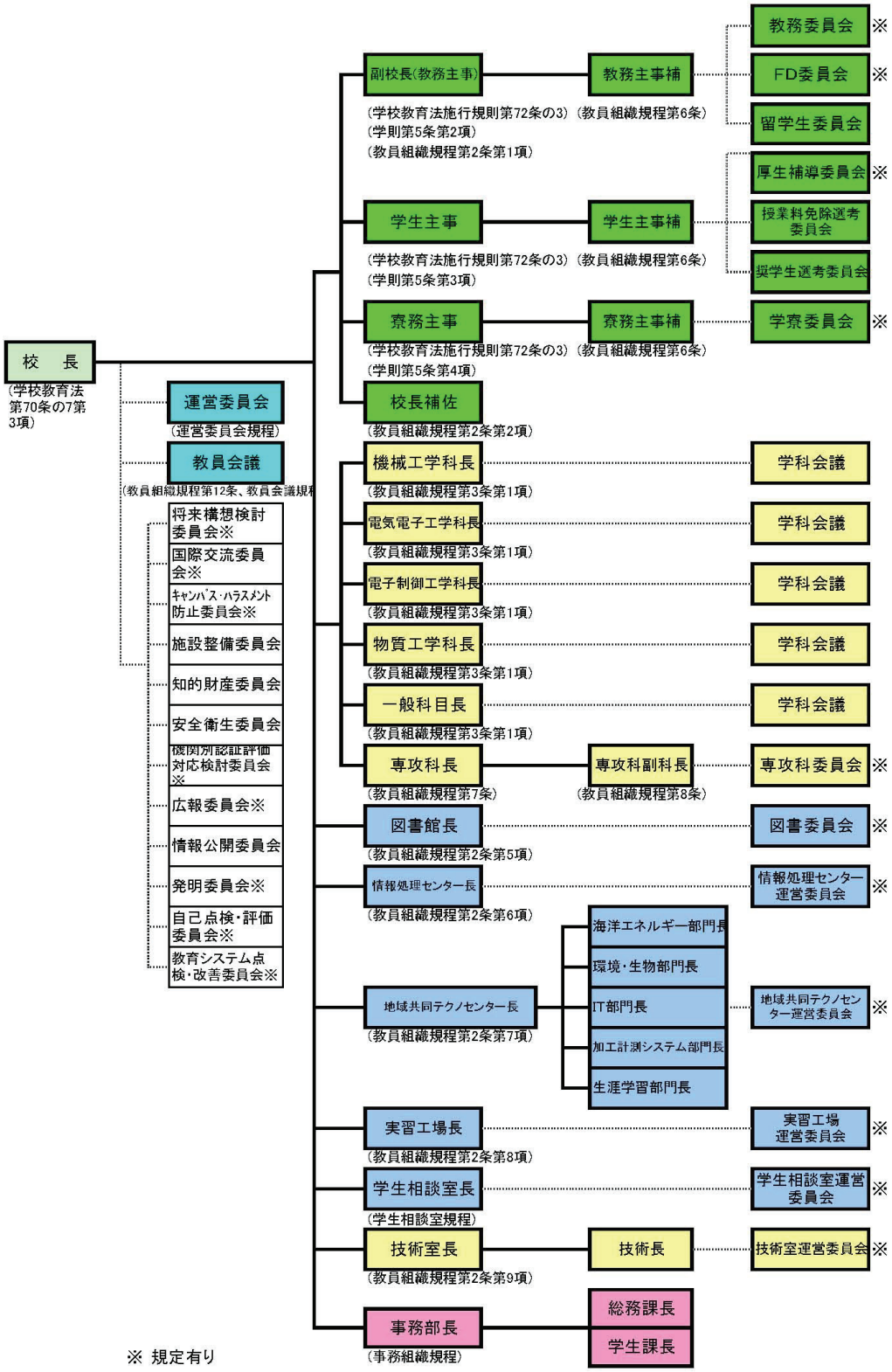
目次

第１章 学則
■ 佐世保工業高等専門学校学則
第２章 教員組織及び事務組織
■ 佐世保工業高等専門学校教員組織規程
■ 佐世保工業高等専門学校事務組織規程
■ 佐世保工業高等専門学校事務分掌規程
■ 佐世保工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校技術室規程
第３章 委員会等
■ 佐世保工業高等専門学校教員会議規程
■ 佐世保工業高等専門学校運営委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校将来構想検討委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校図書委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校研究報告編集委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校事務情報化委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校外部評価実施要項
■ 佐世保工業高等専門学校広報委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報公開委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントに関する相談員についての要項
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント相談員
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント調査委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校国際交流委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校機関別認証評価対応検討委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校資金管理運用委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校施設整備委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校教務委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校厚生補導委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校学寮委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校専攻科委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校安全教育委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校学生相談室規程
■ 佐世保工業高等専門学校学級担任連絡会規程
■ 佐世保工業高等専門学校教育システム点検・改善委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校競争参加資格等審査委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校特別支援教育部会規程
■ 佐世保工業高等専門学校建設工事総合評価審査委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校５０周年記念事業実行委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校技術室運営委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校建設コンサルタント選定委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校実習工場運営委員会規程
第４章 庶務
■ 佐世保工業高等専門学校文書処理規程
■ 佐世保工業高等専門学校法人文書管理規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報公開取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校文書専決規程
■ 佐世保工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
■ 佐世保工業高等専門学校名誉教授称号授与規程施行細則
■ 佐世保工業高等専門学校表彰規程
■ 佐世保工業高等専門学校公開講座講習料規程

（出典　本校ウェブサイト）

資料 11－１－①－９

佐 世 保 工 業 高 等 専 門 学 校 運 営 組 織 図



（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校では、校長の職務、各主事の役割を学則に明確に規定し，また，各種の委員会や教員会議についてもその役割を明確に規定している。各委員会などで審議した事項は，運営委員会の審議を経て校長が意思決定を行っており，校長が全体を把握しリーダーシップをとれる体制となっている。

以上のことから，学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確であり，校長のリーダーシップの下で，効果的な意志決定が行える態勢となっている。

観点11－１－②:　管理運営の諸規定が整備され､各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

管理運営の諸規程として規程集に第１章の学則から第９章の学生会・寮生会まで 147 項目の規程を整備しており，規程の詳細については本校ウェブサイトで公開している（資料 11－１－②－１）。管理運営について重要な事項を審議する運営委員会（資料 11－１－①－７参照）のほか，将来構想検討委員会等の各種委員会を系統的に組織し（資料 11－１－①－９参照），それぞれ役割を分担し活動している。事務組織については，事務組織規程（資料 11－１－②－２）及び事務分掌規程（資料 11－１－②－３）が定められており，管理運営上の役割・事務分掌を明確にしている。教員と事務職員の連携の下に管理運営に関する各種委員会及び事務組織が効果的に活動している。

また，危機管理に対しては，危機管理規程を制定しており（資料 11－1－②－４），副校長を室長とするリスク管理室を常設している。危機事象が発生した時には通常リスク管理室が対応するが，校長が必要と判断する場合には，校長を本部長とする危機対策本部を設置し，迅速に対処する。

また，「緊急対応マニュアル」を作成し，全教職員に配付している（資料 11－1－②－５）。本校ウェブサイトに緊急連絡サイト（資料 11－１－②－６）や緊急時の基本的対応の流れ図（資料 11－1－②－７）も載せている。これらによって，危機事象発生時の教職員の行動指針を示すとともに，危機管理意識の向上に努めている。

観点 11－１－②資料一覧

（資料 11－１－②－１）	規程集目次	出典：本校ウェブサイト
（資料 11－１－②－２）	事務組織規程	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－②－３）	事務分掌規程	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－②－４）	危機管理規程	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－１－②－５）	緊急対応マニュアル	出典：緊急対応マニュアル
（資料 11－１－②－６）	緊急連絡サイト	出典：本校ウェブサイト
（資料 11－１－②－７）	リスク管理室イメージ図	出典：本校ウェブサイト

資料 11－１－②－１

佐世保工業高等専門学校規程集｜佐世保工業高等専門学校

入学希望の皆様へ | 在学生の皆様へ | 保護者の皆様へ | 卒業生の皆様へ | 企業・一般の皆様へ | 教職員の皆様へ

独立行政法人国立高等専門学校機構
佐世保工業高等専門学校
SASEBO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

English　中文　サイトマップ

サイト内検索

学校案内 | 学科・専攻科 | 入学・入試 | 教育・研究活動 | 施設・設備 | リンク集 | 同窓会

トップページ > 未分類 > 佐世保工業高等専門学校規程集

未分類

- 入学のご案内
  - 本科入試情報
  - 専攻科入試情報
  - 編入学入試情報
  - 入試懇談会
  - 高専説明会
  - 一日体験入学
- 創立５０周年記念事業
- 学校開放事業
  - 公開講座、一般教養講座
  - おもしろ実験大公開
  - 出前授業
    - 平成25年度
    - 平成24年度
    - 平成23年度
    - 平成22年度
    - 平成21年度
    - 平成20年度以前
  - サイエンス・パートナーシップ
- 学生に関する 統計資料
  - 進学・就職状況
    - 平成21年度
    - 平成22年度
    - 平成23年度
- 学生生活
  - ロボコン
  - 体育祭
  - 高専祭・文化祭
- 教職員公募
- 教育・研究活動
  - 産学官連携制度
    - 地域企業説明会
  - 研究活動
    - 科学研究費補助金
      - 平成20年度以前
      - 平成21年度
      - 平成22年度
      - 平成23年度
- イベント情報

未分類

佐世保工業高等専門学校規程集

＜利用上の注意＞
１．規則名をクリックしてください。
２．様式等で使用しているＰＤＦファイルを読み込むには Acrobat Reader が必要です。

- 第１章 学則
- 第２章 教員組織及び事務組織
- 第３章 委員会等
- 第４章 庶務
- 第５章 会計
- 第６章 教務・学生
- 第７章 施設等
- 第８章 学寮
- 第９章 学生会・寮生会

目次

第１章 学則
■ 佐世保工業高等専門学校学則
第２章 教員組織及び事務組織
■ 佐世保工業高等専門学校教員組織規程
■ 佐世保工業高等専門学校事務組織規程
■ 佐世保工業高等専門学校事務分掌規程
■ 佐世保工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校技術室規程
第３章 委員会等
■ 佐世保工業高等専門学校教員会議規程
■ 佐世保工業高等専門学校運営委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校将来構想検討委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校図書委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校研究報告編集委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校事務情報化委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校外部評価実施要項
■ 佐世保工業高等専門学校広報委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報公開委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントに関する相談員についての要項
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント相談員
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント調査委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校国際交流委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校機関別認証評価対応検討委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校資金管理運用委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校施設整備委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校教務委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校厚生補導委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校学寮委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校専攻科委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校安全教育委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校学生相談室規程
■ 佐世保工業高等専門学校学級担任連絡会規程
■ 佐世保工業高等専門学校教育システム点検・改善委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校競争参加資格等審査委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校特別支援教育部会規程
■ 佐世保工業高等専門学校建設工事総合評価審査委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校５０周年記念事業実行委員会要項
■ 佐世保工業高等専門学校技術室運営委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校建設コンサルタント選定委員会規則
■ 佐世保工業高等専門学校実習工場運営委員会規程
第４章 庶務
■ 佐世保工業高等専門学校文書処理規程
■ 佐世保工業高等専門学校法人文書管理規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報公開取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校文書専決規程
■ 佐世保工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
■ 佐世保工業高等専門学校名誉教授称号授与規程施行細則
■ 佐世保工業高等専門学校表彰規程
■ 佐世保工業高等専門学校公開講座講習料規程

http://www.sasebo.ac.jp/snct/nogenre/2011/12/17/4669[2013/06/06 11:51:40]

資料 11－１－②－１続き

佐世保工業高等専門学校規程集｜佐世保工業高等専門学校

- 平成25年度
- 平成24年度
- 平成23年度
- 平成22年度
- 平成21年度
- 平成20年度以前
- ニュース&トピックス
  - 平成25年度
  - 平成24年度
  - 平成23年度
  - 平成22年度
  - 平成21年度以前
- 未分類
- 未分類

■ 佐世保工業高等専門学校職員の財産形成貯蓄等関係事務取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校公印規程
■ 佐世保工業高等専門学校放射線障害防止規程
■ 佐世保工業高等専門学校ホームページの管理及び運用に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校教員選考規則
■ 佐世保工業高等専門学校における旧姓使用取扱要領
■ 佐世保工業高等専門学校安全衛生管理規程
■ 佐世保工業高等専門学校宿日直規則
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン
■ 佐世保工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規則
■ 佐世保工業高等専門学校におけるキャンパス・ハラスメントの相談の流れ
■ 佐世保工業高等専門学校内地研究員規則
■ 佐世保工業高等専門学校知的財産権取扱規程
■ 佐世保工業高等専門学校教員が非常勤講師の職を兼ねる場合の申合せ
■ 佐世保工業高等専門学校文書処理取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校に再雇用される教員の職務に関する申合せ
■ 佐世保工業高等専門学校外国人研究員受入規程
■ 佐世保工業高等専門学校の保有する個人情報の管理等に関する規則
■ 佐世保工業高等専門学校研修員受入規程
■ 佐世保工業高等専門学校寄附金取扱細則
■ 佐世保工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申合せ
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ推進委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報セキュリティ責任者等に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校学術研究員等規程
■ 佐世保工業高等専門学校危機管理規程
■ 高専・両技科大間教員交流制度に関する申合せ
■ 佐世保工業高等専門学校校長顧問設置規程
■ 佐世保工業高等専門学校非常勤職員の雇用に関する取扱いについて
■ 佐世保工業高等専門学校規則等の制定改廃に関する規則

第５章 会計

■ 佐世保工業高等専門学校防火管理規程
■ 佐世保工業高等専門学校における契約担当役等の補助者の指定及びその事務の範囲等を定める規則
■ 佐世保工業高等専門学校契約事務取扱規則
■ 佐世保工業高等専門学校契約の監督及び検査要項
■ 佐世保工業高等専門学校収入事務等取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校物品管理事務取扱規則
■ 佐世保工業高等専門学校物品不用決定及び処分取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校寄贈物品取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校会計監査実施規則
■ 佐世保工業高等専門学校不動産管理規則
■ 佐世保工業高等専門学校校舎及び学寮電気工作物保安規程
■ 佐世保工業高等専門学校宿舎管理規則
■ 佐世保工業高等専門学校受託研究実施規則
■ 佐世保工業高等専門学校科学研究費補助金経理事務取扱規則
■ 佐世保工業高等専門学校共同研究取扱規則
■ 佐世保工業高等専門学校科学研究費補助金間接経費取扱規則
■ 佐世保工業高等専門学校における競争的資金に係る間接経費の取扱方針
■ 佐世保工業高等専門学校教職員に対する給与の口座振込実施要領
■ 佐世保工業高等専門学校毒物及び劇物取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校共用自動車取扱要領
■ 佐世保工業高等専門学校タクシー配車業務取扱要領
■ 佐世保工業高等専門学校施設の有効活用に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校共用研究スペース管理運営規程
■ 佐世保工業高等専門学校機種選定取扱要項
■ 佐世保工業高等専門学校の会計機関の使用する公印に関する規則
■ 佐世保工業高等専門学校宿泊所使用規程
■ 佐世保工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム運用規則
■ 佐世保工業高等専門学校電子入札システム官職規則
■ 佐世保工業高等専門学校仕様策定取扱要項

第６章 教務・学生

■ 佐世保工業高等専門学校授業料等の免除及び徴収猶予に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校職業紹介業務運営規程
■ 佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則
■ 他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則
■ 佐世保工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
■ 佐世保工業高等専門学校・技術者教育プログラム「複合型もの創り工学」の履修規程
■ 佐世保工業高等専門学校プール管理運営要項
■ 佐世保工業高等専門学校研究生規則
■ 佐世保工業高等専門学校聴講生規則
■ 佐世保工業高等専門学校科目等履修生規則
■ 佐世保工業高等専門学校派遣留学生規則

http://www.sasebo.ac.jp/snct/nogenre/2011/12/17/4669[2013/06/06 11:51:40]

資料 11－１－②－１続き

佐世保工業高等専門学校規程集｜佐世保工業高等専門学校

■ 佐世保工業高等専門学校外国人留学生規則
■ 佐世保工業高等専門学校学生交流規則
■ 臨時の休業措置等に関する申合せ
■ 台風等に対する休講措置の申合せ
■ 佐世保工業高等専門学校奨学生選考委員会規程
■ 佐世保工業高等専門学校教育支援員規程
■ 佐世保工業高等専門学校入学者選抜要項
■ 佐世保工業高等専門学校入学者選抜実施要項

第７章 施設等

■ 佐世保工業高等専門学校図書館規則
■ 佐世保工業高等専門学校図書館利用規程
■ 佐世保工業高等専門学校図書館利用要項
■ 佐世保工業高等専門学校研究報告投稿規程
■ 佐世保工業高等専門学校情報処理センター規則
■ 佐世保工業高等専門学校情報処理センター利用細則
■ 佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則
■ 佐世保工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規則
■ 佐世保工業高等専門学校実習工場規程
■ 佐世保工業高等専門学校実習工場使用細則

第８章 学寮

■ 佐世保工業高等専門学校学寮管理運営規則
■ 佐世保工業高等専門学校寮生負担経費取扱規程

第９章 学生会・寮生会

■ 佐世保工業高等専門学校学生準則
■ 佐世保工業高等専門学校学生会準則
■ 佐世保工業高等専門学校学生会会則
■ 佐世保工業高等専門学校寮生会会則
■ 佐世保工業高等専門学校寮生会寮長選挙細則

2011-12-17

学校案内
教育理念
校長挨拶
沿革
組織
広報誌
学生に関する統計資料
事務部案内
アクセス／キャンパスマップ
校歌、校旗、校章、記章、ロゴマーク、マスコットシンボル
情報公開
規程集

学科・専攻科
学科紹介
専攻科紹介
学生生活
シラバス
出席管理システム
授業時間割

入学・入試
本科入試情報
専攻科入試情報
編入学入試情報
入試懇談会
高専説明会
一日体験入学
入試関係行事予定
中学生の皆様へ

教育・研究活動
教育活動
産学官連携制度
研究活動

施設・設備
図書館
情報処理センター
技術室
学寮
福利厚生施設
学生相談室
学生主事室

リンク集
同窓会

サイトマップへ

このホームページは、佐世保高専ホームページ管理・運用規定に基づいて、本校広報委員会が管理しています。
このホームページに関するご意見・ご要望はwebmasterまでお寄せください。
佐世保工業高等専門学校 〒857-1193 長崎県佐世保市沖新町1-1 E-mail:webmaster@sasebo.ac.jp

Copyright(c)2011 Sasebo National College of Technology
個人情報保護方針　利用規程　携帯サイト

http://www.sasebo.ac.jp/snct/nogenre/2011/12/17/4669[2013/06/06 11:51:40]

（出典　本校ウェブサイト）

資料 11－１－②－２

佐世保工業高等専門学校事務組織規程（平成１９年７月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１０条及び佐世保工業高等専門学校学則第３条に基づき、事務部の事務組織に関し、必要な事項を定める。
（事務部）
第２条　事務部に、総務課及び学生課を置く。
（事務部長）
第３条　事務部に、事務部長を置く。
２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。
（課長）
第４条　課に、課長を置く。
２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
（課長補佐）
第５条　課に、課長補佐を置くことができる。
２　課長補佐は、上司の命を受け、高度な専門知識又は経験を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
（専門職員）
第６条　課に、専門職員を置くことができる。
２　専門職員は、上司の命を受け、課の事務のうち専門的事項を処理する。
（係長）
第７条　係に係長を置く。
２　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
（主任）
第８条　係に主任を置くことができる。
２　主任は、係の事務を処理する。
（係員）
第９条　係に係員を置くことができる。
２　係員は、係の事務を処理する。
（総務課の所掌事務）
第１０条　総務課においては、次の事務をつかさどる。
一　事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　儀式その他会議に関すること。
三　将来構想に関すること。
四　国際交流に関すること。
五　安全管理及び衛生管理に関すること。
六　訴訟に関すること。
七　公印の管守に関すること。
八　文書及び郵便物の接受並びに発送に関すること。
九　広報に関すること。
十　学則及び規程等の制定並びに改廃に関すること。
十一　情報公開及び個人情報に関すること。
十二　教職員の人事管理及び雇用（社会保険・労働保険等）に関すること。
十三　教職員の任免、給与（計算及び支給）、服務及び兼業等に関すること。
十四　教職員の退職手当に関すること。
十五　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
十六　教職員の賞罰に関すること。
十七　共済組合に関すること。
十八　教職員の福祉及び災害補償に関すること。
十九　教職員の出張及び研修に関すること。
二十　栄典及び表彰に関すること。
二十一　産学官・地域連携事業に関すること。
二十二　地域開放事業（公開講座、広報事業等）に関すること。
二十三　工業所有権等の知的財産権に関すること。
二十四　評価に関すること。
二十五　競争的資金及び外部資金等に関すること。
二十六　内地研究員及び在外研究員等に関すること。
二十七　インターンシップ学生の受入れに関すること。

資料 11－１－②－２続き

二十八　図書の受入れ、収集、整理及び管理に関すること。
二十九　図書の貸出、閲覧及び案内に関すること。
三十　　事務情報化に関すること。
三十一　概算要求等に関すること。
三十二　会計の監査に関すること。
三十三　財務会計決議書等の照査に関すること。
三十四　予算及び決算に関すること。
三十六　宿舎に関すること。
三十七　収入及び支出に関すること。
三十八　現金及び有価証券に関すること。
三十九　旅費の計算並びに支給に関すること。
四十　　物品及び役務に関すること。
四十一　共用車の管理に関すること。
四十二　施設整備の計画に関すること。
四十三　営繕工事に関すること。
四十四　土地、建物及び工作物等の維持保全に関すること。
四十五　施設マネジメントに関すること。
四十六　その他他の課の所掌に属しない事務に関すること。
（学生課の所掌事務）
第１１条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
一　教育課程の編成、実施に関すること。
二　教育システム点検・改善に関すること。
三　入学者の選抜及び学生の募集に関すること。
四　入試の広報に関すること。
五　学生の修学支援に関すること。
六　学生の学籍に関すること。
七　学生の考査、成績に関すること。
八　学生のインターンシップ、学外研修及び国際交流の事務に関すること。
九　非常勤講師に関すること。
十　ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
十一　他機関との各種協定及び単位互換制度に関すること。
十二　留学生の受入及び支援に関すること。
十三　厚生補導に関すること。
十四　課外活動に関すること。
十五　生活相談に関すること。
十六　就職支援に関すること。
十七　就学支援金に関すること。
十八　奨学金及び経済支援に関すること。
十九　授業料等の免除、猶予及び分納に関すること。
二十　日本スポーツ振興センターの事務に関すること。
二十一　厚生福利に関すること。
二十二　学生寮の管理運営に関すること。
二十三　学生の入退寮に関すること。
二十四　寮生の生活支援に関すること。
二十五　その他教務、学生の厚生補導及び学生寮の事務に関すること。
（事務分掌）
第１２条　各課の事務分掌は、別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料 11－１－②－３

佐世保工業高等専門学校事務分掌規程（平成１９年７月１日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は、佐世保工業高等専門学校事務組織規程第１３条の規定に基づき、総務課及び学生課の事務分掌について、次のとおり定める。
（総務課）
第２条　総務課に、課長補佐（総務企画担当）、課長補佐（総務人事担当）及び課長補佐（財務担当）並びに次の専門職員及び係を置く。
一　専門職員（評価等担当）
二　総務係
三　人事係
四　企画係
五　情報サービス係
六　経理係
七　契約係
八　図書係
九　施設係
（課長補佐（総務企画担当））
第３条　課長補佐（総務企画担当）は、次の事務をつかさどる。
一　総務課専門職員（評価等担当）、総務係、企画係及び情報サービス係（以下「総務企画系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　将来構想の企画・立案に関すること。
三　中期目標、中期計画及び年度計画の策定に関すること。
四　安全管理及び衛生管理の総括に関すること。
五　防火・防災の総括に関すること。
六　訴訟に関すること。
七　国際交流の総括に関すること。
八　創立記念事業の支援に関すること。
九　その他総務課総務系の所掌事務のうち、特に重要な事務に関すること。
（課長補佐（総務人事担当））
第４条　課長補佐（総務人事担当）は、次の事務をつかさどる。
一　総務課人事係の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　その他総務課人事係の所掌事務のうち、特に重要な事務に関すること。
（課長補佐（財務担当））
第５条　課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。
一　総務課経理係、契約係、図書係及び施設係（以下「財務系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　概算要求等に関すること。
三　会計の監査に関すること。
四　財務会計決議書等の照査に関すること。
五　大型設備の調達に関すること。
六　物品の調達（図書の発注を除く。）に関すること。
七　役務に関すること。
八　調達関連の各種統計調査に関すること。
九　その他総務課財務系の所掌事務のうち、特に重要な事務に関すること。
（専門職員（評価等担当））
第６条　専門職員（評価等担当）は、次の事務をつかさどる。
一　自己点検・評価及び外部評価に関すること。
二　日本技術者教育認定制度の事務に関すること。
三　教育データベースの整備に関すること。
（総務係）
第７条　総務係は、次の事務をつかさどる。
一　本校の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　儀式、その他諸行事に関すること。
三　運営委員会、教員会議その他総務課の他の係に属しない会議等に関すること。
四　公印の管守に関すること。
五　文書及び郵便物の接受並びに発送に関すること。
六　他の係に属しない調査・報告に関すること。
七　学則等の制定及び改廃に関すること。
八　情報公開に関すること。
九　個人情報保護に関すること。
十　校内の警備取締に関すること。
十一　その他他の課、係に属しない事項に関すること。
（人事係）
第８条　人事係は、次の事務をつかさどる。
一　教職員の人事管理及び雇用(社会保険・労働保険等)に関すること。
二　教職員の任免、給与（計算及び支給)、服務及び兼業等に関すること。
三　教職員の退職手当に関すること。

資料 11－１－②－３続き

四　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
五　教職員の賞罰に関すること。
六　共済組合に関すること。
七　教職員の福祉及び災害補償に関すること。
八　教職員の衛生管理に関すること。
九　教職員の出張及び研修に関すること（経理に関することを除く。）。
十　栄典、表彰に関すること。
十一　その他人事に関すること。
（企画係）
第９条　企画係は、次の事務をつかさどる。
一　産学官・地域連携事業に関すること（経理に関することを除く。）。
二　地域開放事業（公開講座、広報事業等）に関すること。
三　工業所有権等の知的財産権に関すること。
四　競争的資金及び外部資金等の獲得支援及び受入・報告に関すること。（国際交流に関することを除く。）
五　内地研究員及び在外研究員等に関すること。
六　学則等の制定及び改廃に関すること。
七　インターンシップ学生の受入れに関すること。
八　広報に関すること。
九　その他企画に関すること。
（情報サービス係）
第１０条　情報サービス係は、次の事務をつかさどる。
一　事務情報化の企画・立案に関すること。
二　事務情報に係る連絡調整及び助言・指導に関すること。
三　ＷＥＢ（ホームページ及びグループウェア）の管理、運用に関すること。
四　情報セキュリティに関すること。
五　ソフトウェアの管理に関すること。
六　その他事務情報に関すること。
（経理係）
第１１条　経理係は、次の事務をつかさどる。
一　予算及び決算に関すること。
二　会計の諸規程に関すること。
三　資産に関すること。
四　宿舎に関すること。
五　収入及び支出に関すること。
六　現金及び有価証券に関すること。
七　旅費の計算及び支給に関すること。
八　競争的資金及び外部資金等の経理に関すること。
九　営繕工事の入札業務に関すること。
十　その他経理に関すること。
（契約係）
第１２条　契約係は、次の事務をつかさどる。
一　備品、消耗品、役務及び修理等（図書の発注を除く。）の契約に関すること。
二　物品の管理（登録・処分）に関すること。
三　共用車の管理に関すること。
四　寄贈物品等の受入れに関すること。
五　その他契約に関すること。
（図書係）
第１３条　図書係は、次の事務をつかさどる。
一　図書の受入れ、収集、整理及び管理に関すること。
二　図書の貸出、閲覧及び案内に関すること。
三　図書館間の相互協力（貸借、文献複写等）に関すること。
四　図書の統計調査に関すること。
五　図書の調達に関すること。
六　図書の製本に関すること。
七　その他図書に関すること。
（施設係）
第１４条　施設係は、次の事務をつかさどる。
一　施設整備の計画に関すること。
二　営繕工事の設計、施工及び検査に関すること。
三　営繕工事の請負契約に関すること。
四　土地、建物及び工作物等の維持保全に関すること。
五　施設マネジメントに関すること。
六　光熱水料に関すること。
七　構内の清掃に関すること。
八　ボイラーの管理に関すること。
九　安全管理に関すること。
十　防火・防災に関すること。

資料 11－１－②－３続き

十一　その他施設に関すること。
（学生課）
第１５条　学生課に、課長補佐並びに次の専門職員及び係を置く。
一　専門職員（入試担当）
二　教育支援係
三　生活支援係
四　寮務係
（課長補佐）
第１６条　課長補佐は、次の事務をつかさどる。
一　学生課の事務の総括及び連絡調整に関すること。
二　教育課程の編成、実施に係わる専門的事項に関すること。
三　教育システム点検・改善に関すること。
四　入学者の選抜に係わる専門的事項に関すること。
五　他機関との各種協定及び単位互換制度に関すること。
六　留学生の受入及び支援に関すること。
七　他機関で実施する学生の企画事業に関すること。
八　その他学生課の所掌事務のうち、各係に属しない事項に関すること。
（専門職員（入試担当））
第１７条　専門職員（入試担当）は、次の事務をつかさどる。
一　入学者の選抜に関すること。
二　学生の募集に関すること。
三　入学志願者確保のための統計調査及び情報分析に関すること。
四　入試の広報に関すること。
五　入試及び教務の連絡調整に関すること。
（教育支援係）
第１８条　教育支援係は、次の事務をつかさどる。
一　教育課程の編成、実施に関すること。
二　学生の考査、成績に関すること。
三　学生の修学支援に関すること。
四　学生のインターンシップ、学外研修の事務に関すること。
五　学生の学籍等の記録・保管に関すること。
六　学生の諸届、諸証明に関すること（他係の所掌に属するものを除く。）。
七　教務の会議及び学生の諸行事に関すること。
八　非常勤講師に関すること。
九　ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
十　教務及び入試に関し、連絡調整すること。
十一　その他学生課の所掌事務で他の係に属しない事項に関すること。
（生活支援係）
第１９条　生活支援係は、次の事務をつかさどる。
一　厚生補導に関すること。
二　課外活動に関すること。
三　生活相談に関すること。
四　就職支援に関すること。
五　就学支援金に関すること。
六　奨学金及び経済支援に関すること。
七　授業料等の免除、猶予及び分納に関すること。
八　日本スポーツ振興センターの事務に関すること。
九　学生の旅客運賃割引証に関すること。
十　福利厚生に関すること。
十一　学生の保健管理に関すること。
十二　その他学生の支援に関すること。
（寮務係）
第２０条　寮務係は、次の事務をつかさどる。
一　学生の入寮及び退寮に関すること。
二　寮生の福利厚生に関すること。
三　学生寮の防火・防災に関すること。
四　学生寮に関する統計諸調査及び報告に関すること。
五　寮生の生活支援に関すること。
六　寮生の保健管理に関すること。
七　学生寮の宿日直に関すること。
八　学生寮の管理運営に関すること。
九　学生寮の将来計画（適正定員等）の分析に関すること。
十　厦門理工学院との相互交流に関すること。
十一　その他寮生の支援に関すること。

（出典　佐世保高専規程集）

資料 11－１－②－４

佐世保工業高等専門学校危機管理規程（平成２３年５月３１日制定）

（目的）
第１条　この規程は，佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生することが予想される様々な事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び危機事象発生時の基本的な対処方法等に関し，必要な事項を定めることにより，本校の学生，教職員（非常勤職員を含む。以下同じ）及び近隣住民（以下「学生等」という。）の安全並びに本校教育研究活動の確保を図るとともに，本校が社会的な責任を果たすことを目的とする。
（定義）
第２条　この規程において，次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。
一　危機管理　次条に定める危機事象の原因と状況を把握，予知又は分析し，その事象によってもたらされる事態を想定することにより，被害や影響を回避又は軽減し、最小限に抑制するための適切な対応を行うことをいう。
二　部局　一般科目，各学科，専攻科，図書館，情報処理センター，総合技術教育研究センター，技術室及び事務部をいう。
三　部局長　前号に規定する部局の長をいう。
（対象とする事象）
第３条　この規程において対象とする事象（以下「危機事象」という。）は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
一　教育研究活動の遂行に重大な支障のある事態
二　学生等の安全に係わる重大な事態
三　施設管理上の重大な事態
四　社会的影響の大きな事態
五　本校に対する社会的信頼を損なう事態
六　前各号と同等以上の重要な事態
（校長等の責務）
第４条　校長は，本校における危機管理を統括し，その充実に努めなければならない。
２　副校長（教務主事）は，校長を補佐し，本校における危機管理の充実に努めなければならない。
３　次条に定めるリスク管理員は，他部局と連携を図りつつ，当該部局における危機管理の充実に努めなければならない。
４　校長，副校長（教務主事）及びリスク管理員は，法令及び本校の学内規定に従い，学生等が本校に起因する危機により被害等を被ることがないよう，常に配慮しなければならない。
５　校長，副校長（教務主事）及びリスク管理員は，危機管理に当たり，学生等に対し必要な情報提供に努めなければならない。
６　教職員は，その職務の遂行に当たり，危機管理に努めなければならない。
（リスク管理員）
第５条　各部局における危機管理の責任者としてリスク管理員を置く。
２　リスク管理員は，次に掲げる者をもって充てる。
一　部局長
二　その他校長が必要と認めた者
（リスク管理室の設置）
第６条　本校に，危機管理を総合的かつ計画的に推進するため，リスク管理室を置く。
（リスク管理室の業務）
第７条　リスク管理室は、次の各号に掲げる業務を行う。
一　危機事象への対処に関すること。
二　危機管理に関する情報の収集分析及び周知に関すること。
三　危機管理ガイドライン及び危機管理マニュアルの策定並びに周知に関すること。
四　危機管理に関する教育，研修，訓練等に係る企画，立案及び実施に関すること。
五　危機管理対策の評価及び見直しに関すること。
六　緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備並びに周知に関すること。
七　危機管理に関し，機構本部リスク管理対策本部と相互連携を図ること。
（リスク管理室の組織）
第８条　リスク管理室は，次に各号に掲げる者をもって組織する。
一　副校長（教務主事）
二　学生主事及び寮務主事
三　事務部長
四　総務課長及び学生課長
五　その他校長が必要と認めた者
２　前項第５号の室員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし，補欠又は増員による室員の任期は，前任者又は現任者の残任期間とする。
（リスク管理室の室長）

資料 11－１－②－４続き

第９条　リスク管理室に室長を置き，前条第１項に掲げる室員のうちから校長が指名する。
２　室長は，リスク管理室の業務を掌理する。
３　室長に事故あるとき，室長が指名した室員が，その職務を代行する。
（リスク管理室員以外の者の出席）
第１０条　リスク管理室長が必要と認めたときは，その都度リスク管理室員以外の者を会議に出席させ，当該事項について意見を述べさせることができる。
（通報窓口）
第１１条　本校における危機事象の通報窓口は，総務課とする。
（危機事象に関する通報等）
第１２条　学生及び教職員は，緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生するおそれがあることを発見したときは，直ちに総務課に通報しなければならない。
２　前項の通報を受けた総務課は、直ちに関係する部局のリスク管理員に連絡するとともに，他の学内規定において当該危機事象発生の通報について定めている場合は、当該学内規定等に従い，直ちに連絡するものとする。
３　総務課及び前項の連絡を受けたリスク管理員は，当該危機の状況を確認の上、直ちにリスク管理室長に連絡するとともに，緊急に必要な措置を講じた場合においては，その旨も報告するものとする。
４　前項の連絡を受けたリスク管理室長は，直ちに校長に報告するとともに，当該危機事象の対処について他の学内規定等に定めがない場合は，校長及び関係部局のリスク管理員と対処方針等を協議するものとする。ただし，第１６条第１項に該当する場合を除く。
５　前項の協議により対処方針等を決定したときは，次条により危機対策本部を設置する場合を除き，リスク管理室が対処に当たるものとする。
（対策本部の設置）
第１３条　校長は，危機事象の対処のために必要と判断する場合は，当該危機事象に係る危機対策本部（以下「対策本部」という。）を設置するものとする。
２　対策本部は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
一　校長
二　副校長（教務主事）
三　学生主事及び寮務主事
四　事務部長
五　関係部局のリスク管理員
六　総務課長及び学生課長
七　その他校長が必要と認めた者
３　対策本部に本部長を置き，校長をもって充てる。
４　本部長は，対策本部の業務を総括する。
５　対策本部に本部長を補佐するため副本部長を置き，リスク管理員の中から校長が指名する者をもって充てる。
６　対策本部の事務は，総務課が主管し，関係各課から事務部長の指名する者が参画する。
７　本部長は，危機事象への対処により，対策本部の役割を完了したと判断したときは，対策本部を解散するものとする。
（対策本部の権限）
第１４条　対策本部は，本部長の指揮の下に，危機事象に迅速に対処しなければならない。
２　職員及び学生は，対策本部の指示に従わなければならない。
３　対策本部は，危機事象の処理に際し，緊急を要する場合には，本校の学内規定等により必要とされる手続きの省略又は当該手続きを対策本部が行うことができる。対策本部は、当該手続きを省略した場合においては，危機事象の対処の終了後に，必要な報告をしなければならない。
（機構本部リスク管理本部等との連携）
第１５条　対策本部は，危機管理を総合的かつ有機的に実施するため，機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。
（部局における危機への対処等）
第１６条　リスク管理員は，当該部局のみに係る危機事象であって当該部局限りで対処することが適切と判断する危機事象については，その内容，対処方針，対処状況等をリスク管理室長に報告し，了解を得るものとする。
２　リスク管理員は、当該部局のみに係る危機事象であっても，本校として対処すべきものと判断する場合は，リスク管理室長を経由して校長に対し対策本部の設置を申し出るものとする。
（校長が不在の時の措置）
第１７条　校長が出張等により不在の場合は，副校長（教務主事）が、この規程に基づき，危機管理に対処するものとする。
（事務）
第１８条　危機管理に関する事務は，総務課が行う。
（秘密保持の義務）
第１９条　本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する職員は．その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も，同様とする。

（出典　佐世保高専規程集）

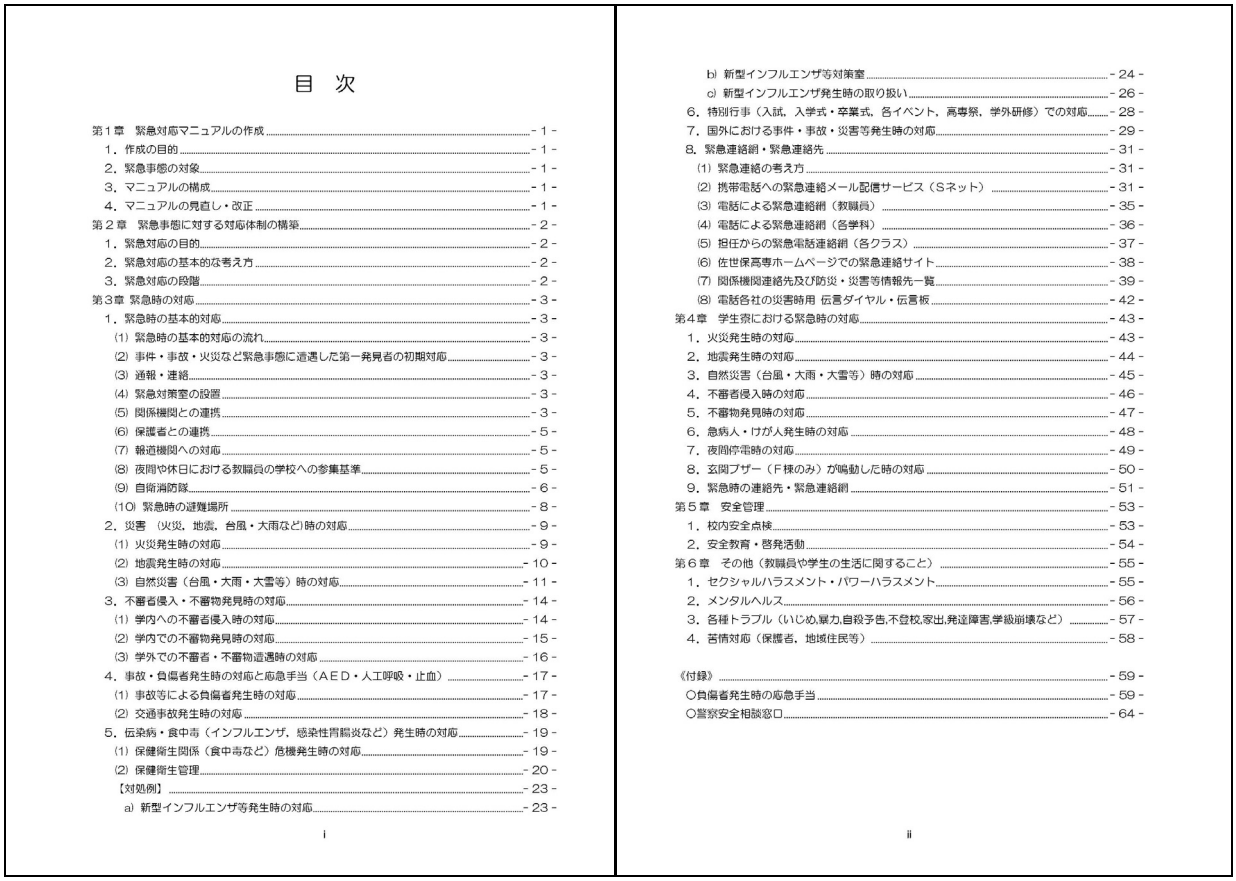
資料 11－１－②－５

緊急対応マニュアル

（表紙）



（目次）



目　次

第１章　緊急対応マニュアルの作成 - 1 -
１．作成の目的 - 1 -
２．緊急事態の対象 - 1 -
３．マニュアルの構成 - 1 -
４．マニュアルの見直し・改正 - 1 -
第２章　緊急事態に対する対応体制の構築 - 2 -
１．緊急対応の目的 - 2 -
２．緊急対応の基本的な考え方 - 2 -
３．緊急対応の段階 - 2 -
第３章 緊急時の対応 - 3 -
１．緊急時の基本的対応 - 3 -
⑴ 緊急時の基本的対応の流れ - 3 -
⑵ 事件・事故・火災など緊急事態に遭遇した第一発見者の初期対応 - 3 -
⑶ 通報・連絡 - 3 -
⑷ 緊急対策室の設置 - 3 -
⑸ 関係機関との連携 - 3 -
⑹ 保護者との連携 - 5 -
⑺ 報道機関への対応 - 5 -
⑻ 夜間や休日における教職員の学校への参集基準 - 5 -
⑼ 自衛消防隊 - 6 -
⑽ 緊急時の避難場所 - 8 -
２．災害 （火災，地震，台風・大雨など）時の対応 - 9 -
⑴ 火災発生時の対応 - 9 -
⑵ 地震発生時の対応 - 10 -
⑶ 自然災害（台風・大雨・大雪等）時の対応 - 11 -
３．不審者侵入・不審物発見時の対応 - 14 -
⑴ 学内への不審者侵入時の対応 - 14 -
⑵ 学内での不審物発見時の対応 - 15 -
⑶ 学外での不審者・不審物遭遇時の対応 - 16 -
４．事故・負傷者発生時の対応と応急手当（ＡＥＤ・人工呼吸・止血） - 17 -
⑴ 事故等による負傷者発生時の対応 - 17 -
⑵ 交通事故発生時の対応 - 18 -
５．伝染病・食中毒（インフルエンザ，感染性胃腸炎など）発生時の対応 - 19 -
⑴ 保健衛生関係（食中毒など）危機発生時の対応 - 19 -
⑵ 保健衛生管理 - 20 -
【対処例】 - 23 -
a) 新型インフルエンザ等発生時の対応 - 23 -
b) 新型インフルエンザ等対策室 - 24 -
c) 新型インフルエンザ発生時の取り扱い - 26 -
６．特別行事（入試，入学式・卒業式，各イベント，高専祭，学外研修）での対応 - 28 -
７．国外における事件・事故・災害等発生時の対応 - 29 -
８．緊急連絡網・緊急連絡先 - 31 -
⑴ 緊急連絡の考え方 - 31 -
⑵ 携帯電話への緊急連絡メール配信サービス（Ｓネット） - 31 -
⑶ 電話による緊急連絡網（教職員） - 35 -
⑷ 電話による緊急連絡網（各学科） - 36 -
⑸ 担任からの緊急電話連絡網（各クラス） - 37 -
⑹ 佐世保高専ホームページでの緊急連絡サイト - 38 -
⑺ 関係機関連絡先及び防災・災害等情報先一覧 - 39 -
⑻ 電話各社の災害時用 伝言ダイヤル・伝言板 - 42 -
第４章　学生寮における緊急時の対応 - 43 -
１．火災発生時の対応 - 43 -
２．地震発生時の対応 - 44 -
３．自然災害（台風・大雨・大雪等）時の対応 - 45 -
４．不審者侵入時の対応 - 46 -
５．不審物発見時の対応 - 47 -
６．急病人・けが人発生時の対応 - 48 -
７．夜間停電時の対応 - 49 -
８．玄関ブザー（Ｆ棟のみ）が鳴動した時の対応 - 50 -
９．緊急時の連絡先・緊急連絡網 - 51 -
第５章　安全管理 - 53 -
１．校内安全点検 - 53 -
２．安全教育・啓発活動 - 54 -
第６章　その他（教職員や学生の生活に関すること） - 55 -
１．セクシャルハラスメント・パワーハラスメント - 55 -
２．メンタルヘルス - 56 -
３．各種トラブル（いじめ,暴力,自殺予告,不登校,家出,発達障害,学級崩壊など） - 57 -
４．苦情対応（保護者，地域住民等） - 58 -
《付録》 - 59 -
○負傷者発生時の応急手当 - 59 -
○警察安全相談窓口 - 64 -

i

ii

（出典　緊急対応マニュアル）

資料 11－１－②－６

緊急連絡サイト



（出典　本校ウェブサイト）

資料 11－１－②－７

佐世保高専リスク管理室イメージ図

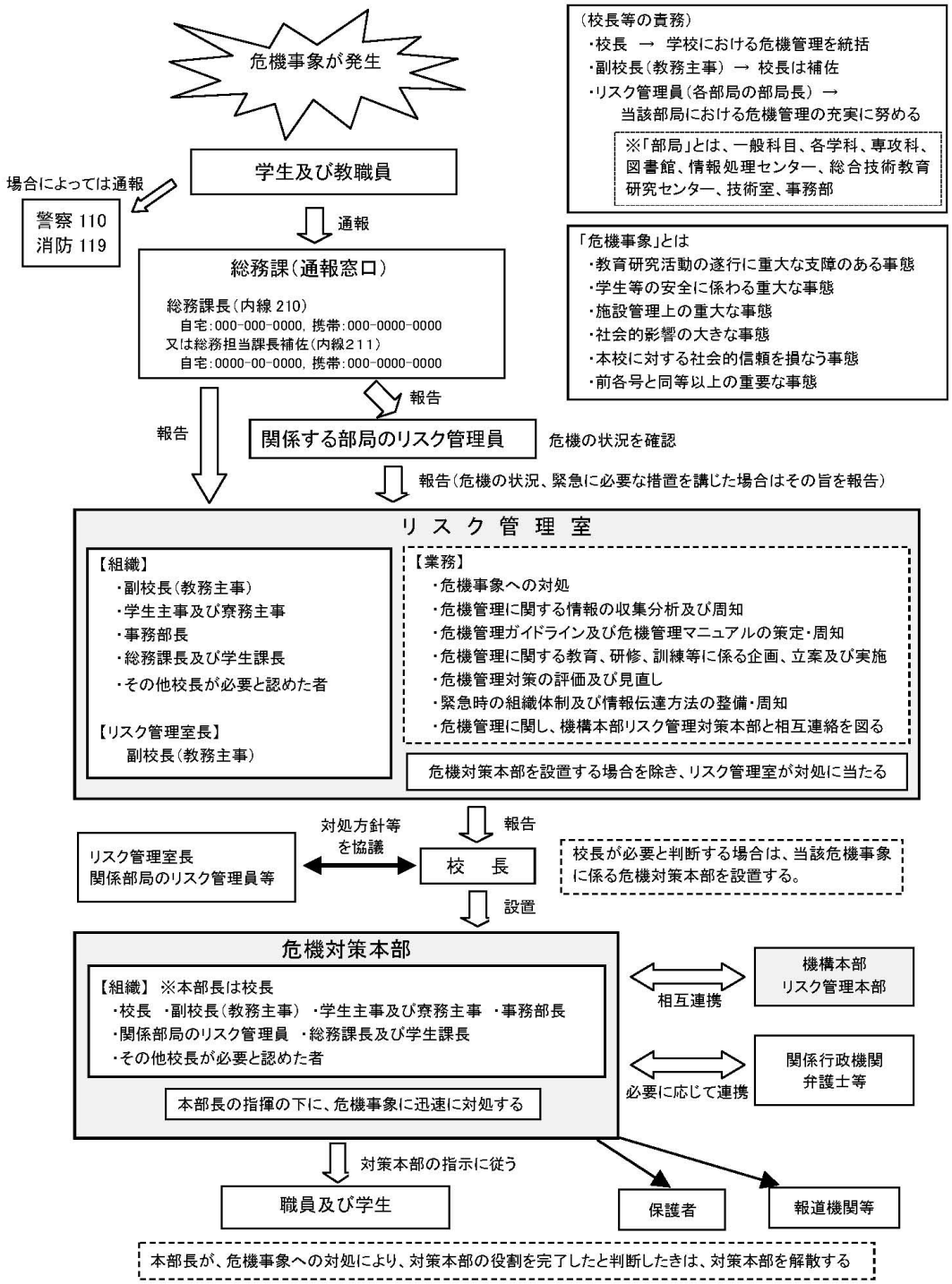


図 3-1-1　緊急時の基本的対応の流れ

（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校には管理運営のための諸規則があり，その規定に則って，運営委員会等の各種委員会を系統的に組織している。また事務組織についても，事務組織規程等を定め，規定に則ってその体制が系統的に組織されている。これにより，教員と事務職員の連携の下に管理運営に関する各種委員会及び事務組織が効果的に活動している。また，危機管理に関しても同様に規定で定め，必要に応じて校長を本部長とする危機対策本部を設置し，対処する体制となっている。

以上のことから，管理運営の諸規定が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動し，危機管理に係る体制も整備されている。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価に関する活動は，自己点検・評価委員会が規則に従って実施している（資料11－２－①－１）。委員会メンバーは，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，総務課長，学生課長などである。学校全体の自己点検・評価として，各部署が本校の中期計画に基づく年度計画について提出した年度計画実績報告書を元に，自己点検・評価委員会が各項目の点検・評価を行い，達成状況を各部署に報告している（資料11－２－①－２（別添Ｐ11－１））。各部署は，各項目についての達成状況を踏まえて，次年度計画の立案を行っている。

自己点検・評価活動に加えて，外部評価実施要項を定め，５年ごとに外部有識者を委員とする外部評価を実施し，その結果を公表している（資料11－２－①－３，４）。また，平成21年度には日本技術者教育認定機構（JABEE）による継続審査を受け，認定されている（資料11－２－①－５）。

観点 11－２－①資料一覧

（資料 11－２－①－１）	自己点検・評価委員会規則	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－２－①－２）	年度計画実績報告書（抜粋）	出典：総務課資料
（資料 11－２－①－３）	外部評価実施要項	出典：佐世保高専規程集
（資料 11－２－①－４）	外部評価報告書のページ	出典：本校ウェブサイト
（資料 11－２－①－５）	JABEE 認定審査結果	出典：JABEE 技術者教育プログラム認定審査結果報告書

資料11－２－①－１

佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則（平成１６年４月１日制定）

（設置）

第１条　佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第１条の２の規定に基づき、本校における教育研究活動等の状況と今後の展望に関し必要な事項を審議するため、佐世保工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一　自己点検・評価の実施方法等に関すること。

二　自己点検・評価項目の設定に関すること。

三　自己点検・評価の実施報告書の編集に関すること。

四　その他自己点検・評価に関すること。

五　外部評価に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　教務主事、学生主事及び寮務主事

二　専攻科長

三　校長が指名する者

四　総務課長及び学生課長

２　前項第３号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。

３　第１項第３号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会の委員長は、委員のうちから校長が指名する者をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（会議）

第５条　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させることができる。

（専門委員会）

第７条　委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会に関する必要な事項は、委員会が別に定める。

（事務）

第８条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）

第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

資料 11－２－①－３

佐世保工業高等専門学校外部評価実施要項（平成１６年４月１日制定）

（目的）
第１　この要項は、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動等の状況に係る自己点検及び評価の結果等について、外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、教育研究体制等の改善に資することを目的とする。
（設置）
第２　本校に、佐世保工業高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（評価事項）
第３　委員会は、次の各号に掲げる事項を評価する。
一　教育理念及び教育目標に関すること。
二　教育活動に関すること。
三　学生生活に関すること。
四　研究活動に関すること。
五　地域社会及び産業との連携に関すること。
六　その他学校の管理運営に関すること。
（組織）
第４　委員会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した委員をもって組織する。
一　大学、高等専門学校等高等教育機関の教員等及び経験者
二　本校の所在する地域の教育関係者
三　地方自治体の関係者
四　地域産業界の関係者
五　報道機関の有識者
六　本校卒業生の代表者
七　その他校長が必要と認める者
（委員長）
第５　委員会の委員長は、委員の互選により選出する。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（実施方法）
第６　外部評価は、次の各号に掲げる事項により実施する。
二　本校の自己点検・評価報告書及び資料による調査
三　本校で実施するヒアリング、実地調査等
（報告）
第７　委員会は、評価の結果を校長に報告する。
（改善）
第８　校長は、外部評価に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。
（報告書の公開）
第９　自己点検・評価委員会は、報告書を作成し、公開するものとする。
（事務）
第１０　委員会の事務は、総務課において処理する。

（出典　佐世保高専規程集）

資料 11－２－①－４

外部評価報告書のページ



（出典　本校ウェブサイト）

資料 11－２－①－５

JABEE 認定審査結果

Japan Accreditation Board for Engineering Education
一般社団法人
日本技術者教育認定機構
東京都港区芝 5-26-20 建築会館 6F 〒108-0014
TEL. 03-5439-5031(代表)　FAX. 03-5439-5033
http://www.jabee.org　E-mail:office@jabee.org

JABEE 総発 22 第 19-09070 号
2010 年 5 月 13 日

佐世保工業高等専門学校
校長
中尾充宏　殿

一般社団法人日本技術者教育認定機構
会　長　　木村　孟

JABEE 技術者教育プログラム認定審査結果のご報告

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、下記の技術者教育プログラムは、2009 年度認定継続審査の結果 JABEE 認定技術者教育プログラムとして認定が継続となりましたので、認定審査結果報告書を同封しご報告致します。つきましては「JABEE 認定プログラム修了生」名簿の厳正な管理について引き続きご配慮いただきますようお願い致します。

敬具

記

学部・学科・コース等：　専攻科

認定プログラム名：　複合型もの創り工学

認定分野：　工学（融合複合・新領域）関連分野

以上

（出典　JABEE 技術者教育プログラム認定審査結果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

学校全体の総合的な活動に対しての自己点検・評価は，自己点検・評価委員会により適切に行われ，その結果は，自己点検･評価報告書，外部評価報告書として、冊子やウェブページで公表されている。また，第三者評価の一つであるJABEEの継続審査を受け，認定も得ている。

以上のことから，自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，その結果が公表されている。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

外部評価実施要項（資料11－２－①－３参照）により外部有識者を指名し（資料11－２－②－１），原則５年に一度，外部評価委員会を開催し，外部評価を行っている。近年では，平成20年度と平成24年度に外部評価委員会が開かれた（資料11－２－②－２）。外部評価委員会は自己点検・評価報告書を基に評価を行い，その評価結果は自己点検・評価報告書とともに「外部評価報告書」（資料11－２－②－３）に記載されている。その「外部評価報告書」を近隣教育機関に配布すると同時に，本校ウェブサイトに掲載している（資料11－２－①－４参照）。

観点 11－２－②資料一覧

（資料 11－２－②－１）	外部評価委員（外部有識者）	出典：平成 24 年度 外部評価報告書
（資料 11－２－②－２）	外部評価委員会開催実績	出典：総務課資料
（資料 11－２－②－３）	外部評価報告書	出典：平成 24 年度 外部評価報告書

資料11－２－②－１

平成24年度 外部評価委員

○大学、高等専門学校等高等教育機関の教員等及び経験者
　九州大学工学部長　○○○○
　長崎県立大学長　○○○○
○本校の所在する地域の教育関係者
　佐世保市中学校長会　会長（佐世保市立山澄中学校　校長）　○○○○
○地方自治体の関係者
　佐世保市長　○○○○
○地域産業界の関係者
　佐世保重工業株式会社　常務執行役員　佐世保造船所長　○○○○
　長菱エンジニアリング株式会社　代表取締役社長　○○○○
　株式会社西日本流体技研　代表取締役社長　○○○○
○報道機関の有識者
　株式会社長崎新聞社　取締役　佐世保支社長　○○○○
○本校卒業生の代表者
　佐世保工業高等専門学校同窓会　会長　○○○○

（敬称省略）

（出典　平成24年度 外部評価報告書）

資料 11－２－②－２

外部評価委員会開催実績

○平成 20 年度
日　時：　平成２１年３月１７日（火）13：30～16：30
場　所：　佐世保工業高等専門学校　一般教科棟１階　多目的教室
評価項目：　学生（本科）の教育について
　専攻科の教育について
　学生生活について
　学生の寮生活について
　地域連携及び産学官交流について
　広報活動について
評価結果の公表：　外部評価報告書を発行するとともに本校ウェブサイトに掲載

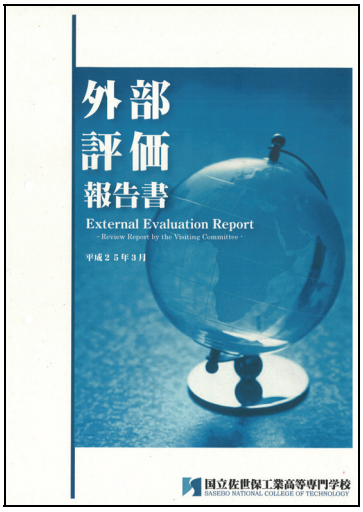
○平成 24 年度
日　時：　平成２５年３月２０日（水・祝）13：30～16：30
場　所：　佐世保工業高等専門学校　一般教科棟１階　多目的教室
評価項目：　学生（本科）の教育について
　専攻科の教育について
　学生指導・生活指導について
　学生の寮生活について
　社会との連携について
　広報活動について
評価結果の公表：　外部評価報告書を発行するとともに本校ウェブサイトに掲載

（出典　総務課資料）

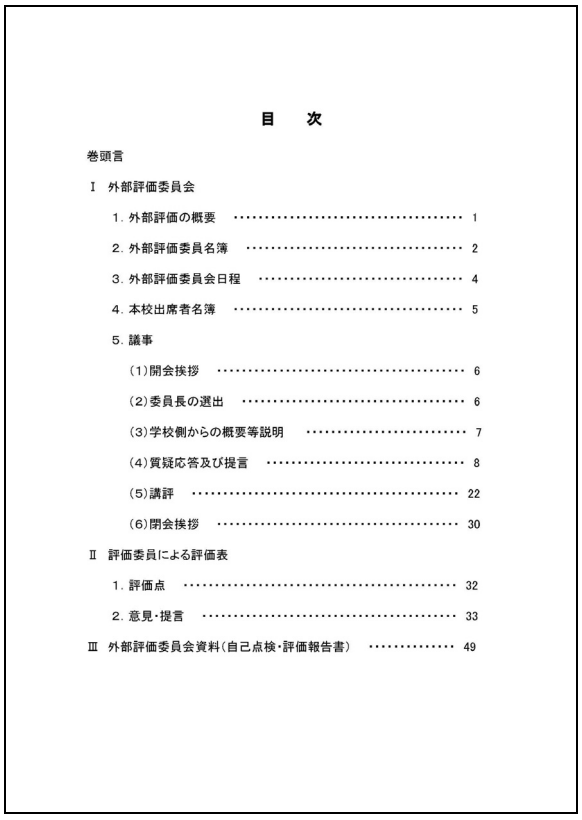
資料 11－２－②－３

外部評価報告書

（表紙）



（目次）



目　次

巻頭言
Ⅰ　外部評価委員会
1. 外部評価の概要 …… 1
2. 外部評価委員名簿 …… 2
3. 外部評価委員会日程 …… 4
4. 本校出席者名簿 …… 5
5. 議事
(1)開会挨拶 …… 6
(2)委員長の選出 …… 6
(3)学校側からの概要等説明 …… 7
(4)質疑応答及び提言 …… 8
(5)講評 …… 22
(6)閉会挨拶 …… 30
Ⅱ　評価委員による評価表
1. 評価点 …… 32
2. 意見・提言 …… 33
Ⅲ　外部評価委員会資料(自己点検・評価報告書) …… 49

（出典　平成 24 年度 外部評価報告書）

（分析結果とその根拠理由）

外部の有識者により組織された外部評価委員会が定期的に開催され，「外部評価報告書」を刊行している。

以上のことから，自己点検・評価の結果について，外部有識者による検証が実施されている。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結びつけられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

管理運営に関しては，自己点検・評価結果をフィードバックして改善を行うシステム（PDCA）を整備している（資料11－２－③－１）。本校の主要委員会である教務主事室,学生主事室,寮務主事室,専攻科委員会及び各種委員会が立案し（Plan）,各担当部署（各科・専攻科及び各課）が実施する（Do）。その結果を自己点検・評価委員会がチェックする（Check）。その点検結果を運営委員会に答申し，運営委員会で議論され，各主事室及び専攻科委員会等に改善を要請する。各主事室及び専攻科委員会等が改善策や具体的計画を立て，各学科・専攻科及び関係部署等において改善を実施する（Action）システムとなっている。

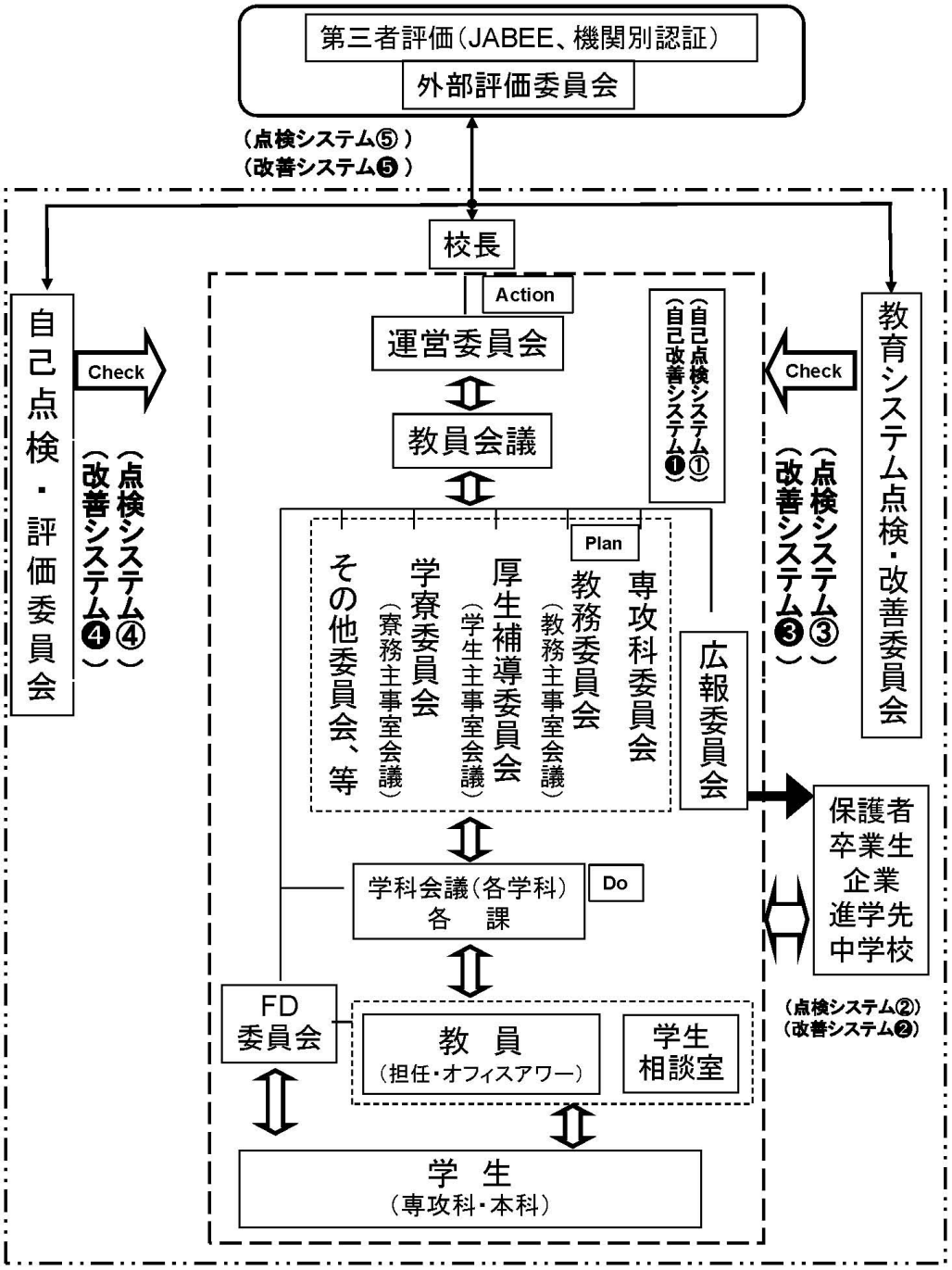
具体的な改善例として，平成20年度に実施した外部評価委員会からの指摘事項として地域連携活動に関する意見・提言を受けた（資料11－２－③－２）。そこで，自己点検・評価委員会を通して運営委員会で議論され,改善の施策として２つの方針が決定された。一つは地域ニーズの掘起しと学生教育・研究とを絡ませた取り組みとして数か月から１年間の「長期インターンシップの実施」であり，二つ目は地域連携としての共同研究促進の拠点となる「地域共同テクノセンターの設置」である。これらの実現に向け校長補佐（地域連携担当）を中心とした総合技術教育研究センターと西九州テクノコンソーシアムが連携協力して地域連携活動に取り組んできた（資料11－２－③－３）。その結果，長期インターンシップは平成23年度から各学科１名が参加して実施に至った（資料11－２－③－４）。また，地域共同テクノセンターは，平成24年度に開所の運びとなった（資料11－２－③－５）。

観点 11－２－③資料一覧

（資料 11－２－③－１）	教育点検システムの構成	出典：本校ウェブサイト
（資料 11－２－③－２）	外部評価委員からの意見・提言	出典：平成 20 年度　外部評価報告書
（資料 11－２－③－３）	運営委員会資料（校長補佐（地域連携担当））	出典：運営委員会資料
（資料 11－２－③－４）	長期インターンシップ実施報告書	出典：機械工学科資料
（資料 11－２－③－５）	地域共同テクノセンター開所記念式	出典：本校ウェブサイト

資料 11－２－③－１

教育点検システムの構成



（出典　本校ウェブサイト）

資料 11－２－③－２

外部評価委員から「地域連携及び産学官交流について」に関する意見・提言

＜意見・提言：○○委員＞
・現在、地域貢献というのは、各教育機関に求められているものと考えるが、特に貴校の場合、県北地区に唯一の工科系高等教育機関としての役割は大きいと考えるので、積極的に地元企業のニーズをくみ取ることが重要と考える。

＜意見・提言：○○委員＞
・高専が西九州テクノコンソーシアムという産学官民組織の中心的役割ではあるが、地域にとってなくてはならない存在感を出して欲しい。
・そのためにはシーズ研究だけでなくニーズ：出口を見据えた事業の発掘と取り組みが必要で企業や地域を考えると一次産業（農業・水産業）を含めた連携事業を模索して欲しい。

＜意見・提言：○○委員＞
・卒業生の地元就職が少ないなかで、企業との連携は、地元に目を向ける一つの効果になると思います。

（出典　平成 20 年度　外部評価報告書　抜粋）

資料 11－２－③－３

運営委員会資料（校長補佐（地域連携担当）兼 総合技術教育研究センター長）

運営委員会資料（平成 23 年 5 月 12 日）

総合技術教育研究センター　川下

報告事項

１．平成 23 年度総合技術教育研究センター構成委員

（省略）

２．４月からの報告および予定

（省略）

３．NTC 関連

（１）NTC 委員等

（省略）

（２）NTC の予定

技術交流検討 WG（４／２８）　主査：○○先生

情報発信検討 WG（４／２８）　主査：○○先生

人材育成検討 WG（４／２５）　主査：○○氏　　（株）○○○○○　本校 OB

企画委員会（５／１６）

理事会・総会（５／３１）　＊：総会の時，長期インターンシップの協力依頼

（懇親会に多くの教員の参加をお願いします.）

（３）平成 22 年度（22 年度２次募集）ものづくり分野の人材育成・確保事業の公募（全国中小企業団体中央会）長崎県産業振興財団とＮＴＣが申請していた「長崎県北・県央地域における『もの（価値）創り意欲』と『高いスキル』を有する技術者育成事業」が採択された.

講師派遣に協力、７月～12 月実施予定

５月９日（月）　管理法人：長崎県産業振興財団と最終打ち合わせ

注：高専学生の対象事業です.

（４）平成 23 年度　佐世保市中小企業新製品開発促進事業（創造的技術開発支援事業）

佐世保市⇒NTC への委託

委員：○○先生，○○先生　（今年度は，２名に増員）

４．今年度の目標

（１）テクノセンターの建設

（２）ＮＴＣとの連携

①人材育成および共同研究（長期インターンシップ等を考慮した）

②環境関係分野の研究会の立ち上げ　　（西九州組込み技術コミュニティ(NET－C)(研究会)

③廈門経済技術交流研究会、佐世保高専学術交流等との連携の検討

④本校ＯＢ教職員，卒業生による支援体制の強化

（３）長崎県との連携強化

本校の長期ビジョンを見据えた連携強化

（長期インターンシップ，テクノセンター等を含めた）

（出典　運営委員会資料）

資料11－２－③－４

平成24年度　長期インターンシップ実施報告書

平成 24 年 12 月 13 日

氏　　名	4 年 M 組　　番 ○○○○○
会社名・部署	株式会社 ワイビーエム
実 習 地	佐賀県唐津市北波多岸山589-10 岸山工場
担当者名	総務グループ　○○○○○
通勤方法	車、バス
ＯＢの有無 （居る場合）	数人 氏名 ○○○○○
実習期間	8月 1日 ～ 8月 31日 （ 31日間） その他の機関（地活など。適宜記載してください）
実習テーマ	製造機械の取扱い、製造部品の製造補佐、安全衛生教育

＜実習概要＞

材料のバリ取りから始まり、NCフライス盤やマシニングセンタ、NC旋盤などの工作機械の見学をしました。それぞれの機械の見学のあとには、実際に機械を使い、製造部品の加工をしました。NC旋盤では、φ65シューやφ85シューという部品の加工を材料の取付けから加工後のバリ取りまで、200個程しました。その他にも、ボーリングロッドの塗装をする仕上げ作業や摩擦圧接機の見学をしました。品質保証の部署では、計測器の取扱いの指導を受け、ノギスやマイクロメータ、硬度計などを使い部品の測定をしました。また、熱膨張による測定値の誤差の実験やダイヤルゲージ、マイクロメータの精度確認のための誤差線図の作成やグラインダの安全教育を受けました。

＜感　　想＞

学校での実習でやってきたことが役に立ちました。しかし、まだまだ学ぶべきことがたくさんあることにも気づくことができました。また、働いている方々の声を聞くことで、実際に働くことについても知ることができました。

長い期間インターンシップに行くことで、働くことの大変さや、やりがいを感じ、多くの知識や経験を得ることができました。

＜今後の予定＞ 終了，継続（どちらかに○をし、継続の場合は予定を記載してください。）

終了です。

（出典　機械工学科資料）

資料11－２－③－５

地域共同テクノセンター開所記念式

平成24年度

地域共同テクノセンター開所記念式を開催しました

佐世保高専では、地域共同テクノセンター開所記念式を５月２９日（火）に開催しました。

本校教職員や地域企業関係者等約６０名が参加し、中尾充宏校長の挨拶、高専機構五十嵐一男理事の祝辞に続き、地域共同テクノセンター長を含めた３名でテープカットが行わました。

式典終了後は、同センター内部の紹介、五十嵐理事による記念講演会が併せて実施されました。

同センターは、学生の技術教育のための教育方法の開発・研究を行うとともに総合的実習及び教員の共同研究の場並びに地域社会における技術開発、技術振興及び技術者教育等に資することを目的として、３月末に総工費１億２千万円で竣工したものです。

１階は技術相談室及び共同研究を行う地元企業の入居スペース、２階は教員の研究室であり、のべ床面積は４１２㎡です。

また、長崎県県北地域の産学官民により構成された西九州テクノコンソーシアムの事務局も１階に入居しており、本校と連携した今後の取り組みがより一層期待されます。









（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

学校の活動を総合的に評価・改善するシステムが整備されている。このシステムは，評価結果をフィードバックし，目的達成に向けた改善へと結びつけるPDCAサイクルとして機能している。

以上のことから，評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されている。

観点11－３－①：　外部有識者の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

平成20年度と平成24年度に外部評価委員会を開催し，外部評価を行っている。外部評価委員会において，本校が事前に設定した評価項目（資料11－３－①－１）に対する取組と自己評価について報告を行い，外部評価委員による評価，意見・提言を報告書として取りまとめ，「外部評価報告書」（資料11－２－②－３参照）として本校ウェブサイトに掲載している（資料11－２－①－４参照）。外部評価委員会の意見・提言を受け，新たに校長補佐（広報担当）を配置するなどの改善を行い，管理・運営に活かしている（資料11－３－①－２）。

また，平成18年度の機関別認証評価や平成21年度のJABEEによる第三者評価においては，管理運営に関する指摘事項はなかったが，高専機構の方針に則り，平成21年度に全学的な教育研究支援及び地域貢献などへの対応の充実を目的として技術室を設置する改善を行った（資料11－３－①－３）。

観点 11－３－①資料一覧

（資料 11－３－①－１）　外部評価委員会評価項目　　出典：平成 20 年度 外部評価報告書

（資料 11－３－①－２）　外部評価委員からの提言を受けての改善例　　出典：平成 20 年度 外部評価報告書

（資料 11－３－①－３　）技術室規程　　出典：佐世保高専規程集

資料 11－３－①－１

外部評価委員会　評価項目

1. 評価点

	A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員	H 委員	I 委員	平均
学生(本科)の教育について	5	5	5	4	5	4	4	4	5	4.6
専攻科の教育について	4	5	5	3	5	4	4	4	4	4.2
学生生活について	5	5	4	5	3	4	5	4	5	4.4
学生の寮生活について	4	4	4	5	3	5	5	4	5	4.3
地域連携及び産学官交流について	5	5	3	4	4	2	4	3	4	3.8
広報活動について	4	4	4	2	3	3	4	4	3	3.4

評価点	評　価　基　準
5	優れている。　（あるいは、）適切である。
4	やや優れている。　（あるいは、）ほぼ適切と言える。
3	普通。
2	やや劣っている。　（あるいは、）あまり適切と言えない。
1	劣っている。　（あるいは、）適切でない。

（出典　平成 20 年度 外部評価報告書　抜粋）

資料 11－３－①－２

外部評価委員からの提言を受けての改善例

＜平成 20 年度　外部評価委員　意見・提言：○○委員＞

計画に対しての結果は、自己評価されている通り、良かったと思います。然しながら、“広報”の定義からすれば、計画されている内容は局所的すぎます。佐世保高専の広報に関し全体的な広報のガイドラインを作り、一目で佐世保高専の広報活動や流れがわかり、一人では佐世保高専の広報は出来るわけではないので、各々広報活動の責任所掌を明確にすべきです。

＜提言を受けての改善内容＞

広報に関しての責任所掌については、これまで広報委員会はありましたが、新たに広報に関して校長の業務を補佐する校長補佐（広報担当）（平成 25 年度から（広報・国際交流担当）に名称変更）を配置し、広報活動に関する責任所掌を明確にした。

（出典　総務課資料）

資料 11－３－①－３

佐世保工業高等専門学校技術室規程（平成２１年４月１日制定）

（設置）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第４号）第１２条及び佐世保工業高等専門学校学則第６条の規定に基づき、佐世保工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、技術室を置く。
（目的）
第２条　技術室は、本校の学科等の要請に基づき、技術・技能を要する専門業務を行うことにより、本校における教育研究等の業務を支援する。
（業務）
第３条　技術室は、次に掲げる業務を行う。
一　実験・実習における教育の補助及び技術指導に関すること。
二　教育研究に必要な技術業務、技術開発及び教材作成に関すること。
三　情報システム基盤の維持・管理に関すること。
四　実験室、実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
五　地域社会との連携に基づく技術協力に関すること。
六　技術の向上・継承に関すること。
七　技術職員の研修の企画、立案及び実施に関すること。
八　技術職員の養成に関すること。
九　学校行事への支援に関すること。
十　本校の業務の技術支援に関すること。
十一　その他技術室に関すること。
（組織）
第４条　技術室に、次に掲げる職員を置く。
一　技術室長
二　技術長
三　副技術長
四　技術専門職員
五　技術職員（建物及び施設の営繕、保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）
六　その他必要な職員
２　技術室に、次の班及び班長を置き、各業務に従事する。
一　第１技術班　主に電気・情報・制御、情報処理センターに関する業務
二　第２技術班　主に物質・生物・物理・化学、環境マネジメントに関する業務
三　第３技術班　主に実習指導・研究機器製作、実習工場に関する業務
（技術室長）
第５条　技術室長は、本校の教授の中から校長が選任する。
２　技術室長は、校長の命を受け、技術室の業務を統括する。
３　技術室長の任期は、２年とする。ただし、技術室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残余期間とする。
（技術長）
第６条　技術長は、技術専門員又は技術専門職員の中から校長が選任する。
２　技術長は、技術室長の命を受け、技術専門員、技術専門職員及び技術職員の業務を総括する。
（副技術長）
第７条　副技術長は、技術専門員又は技術専門職員の中から校長が選任する。
２　副技術長は、上司の命を受け、専門的見地から技術長を補佐し、必要に応じ、連絡調整、技術職員の技術的な指導、育成を行う。
（班長）
第８条　班長は、技術専門職員をもって充てる。
２　班長は、上司の命を受け、班の業務を取りまとめ、円滑な業務遂行に努め、必要な連絡調整を行う。
（技術専門員）
第９条　技術室に技術専門員を置くことができる。
２　技術専門員は、上司の命を受け、極めて高度の専門的知識又は技術をもって、業務に従事する。
（技術専門職員）
第１０条　技術専門職員は、上司の命を受け、高度の専門的知識又は技術をもって、業務に従事する。
（運営委員会）
第１１条　技術室の運営に関する基本的な事項を審議するため、技術室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の組織、運営については、別に定める。
（雑則）
第１２条　この規則に定めるもののほか、技術室の運営に関し必要な事項は別に定める。

（出典　佐世保高専規程集）

（分析結果とその根拠理由）

定期的に外部有識者による外部評価や第三者評価を行っており，外部評価委員会の意見や提言を改善に結び付け，第三者評価による指摘事項の有無に関わらず，改善活動に取り組んでいる。

以上のことから,外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されている。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念にある「豊かな教養と人間性，国際性を備え，社会に貢献できる人材を育成する」や教育目標にある「豊かな教養と倫理観を身につけ，地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する」を達成するために，本校は早くから海外の大学との間に教育協定を締結してきた（資料11－３－②－１）。また，平成16年度から文部科学省が強く推進してきた「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）」や「質の高い大学教育推進プログラム（教育ＧＰ）」（資料11－３－②－２）などに積極的に応募してきた。そのような取り組みから，平成17年度からは中国の厦門理工学院と学生の相互派遣に関するプログラム（資料11－３－②－３）に採択され，学生の異文化理解の促進や国際性の涵養に努めてきた。更に平成21年度からはスウェーデンや韓国，中国の各教育協定校の学生を交えて，環境問題やエネルギー問題など一つのテーマを決めて英語で議論する若年技術者国際交流ネットを開催するなど，国際的協業によって外部の教育力を十分に活用している（資料11－３－②－４）。更に，平成20年度から外部機関の教育力活用の目的で「企業技術者等活用プログラム」を実施し，年間約24人の企業技術者に講義・講演を依頼・実施している（資料11－３－②－５）。

準学士課程と専攻科課程の学生のインターンシップは，県内外の企業で実施している。特に準学士課程４年次においては，ほぼ全員の学生がインターンシップに参加している。また，平成23年度から開始された長期インターンシップ制度は，地元企業での試験測定や開発実務の一部を担当するものであり，希望する学生に対して実施されている（資料11－３－②－６）。

観点11－３－②資料一覧

（資料11－３－②－１）	国際学術交流協定校一覧	出典：学校要覧
（資料11－３－②－２）	ＧＰについて	出典：文部科学省ウェブサイト
（資料11－３－②－３）	「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」成果報告書	出典：成果報告書
（資料11－３－②－４）	「国際的協業による実践的若年技術者の育成」成果報告書	出典：成果報告書
（資料11－３－②－５）	企業技術者等活用プログラム実績	出典：総務課資料
（資料11－３－②－６）	長期インターンシップに参加した学生の感想文	出典：沖新通信

資料11－３－②－１

国際学術交流協定校一覧



国際学術交流協定　International Academic Exchange Agreement

大学等名 Name of Institution	国　名 Country	締結年月日 Date of Agreement
厦門理工学院 Xiamen University of Technology	中華人民共和国 People's Republic of China	2004年10月26日 October 26, 2004
承徳石油高等専科学校 Chengde Petroleum College	中華人民共和国 People's Republic of China	2006年6月30日 June 30, 2006
北京大学化学与分子工程学院 Peking University College of Chemitry and Molecular Engineering	中華人民共和国 People's Republic of China	2007年6月28日 June 28, 2007
スウェーデン王立工科大学情報通信工学部 Royal Institute of Technology	スウェーデン	2007年8月15日 August 15, 2007
仁荷大学情報技術工学院 INHA University College of Information Technology and Engineering	大韓民国 Republic of Korea	2010年3月11日 March 11, 2010



前列左から、事務部長、校長、厦門理工学院教員、副校長
後列　厦門理工学院学生
Front row from left to right
Dir. of Admin Dept., President, XMUT teacher, Vice President
Back row
XMUT sutudents

（出典　学校要覧　抜粋）

資料 11－３－②－２

ＧＰについて

3. GP を支えるプログラム

文部科学省では、「Good Practice」をキーワードとして、教育の質向上に向けた取組や政策課題対応型の優れた取組など、大学における学生教育の質の向上を目指す個性・特色のある優れた取組を選び、その取組をサポートしています。文部科学省では、これらのサポートのためのプログラムとして、「特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）」と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）」及び「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」を実施しています。　平成 21 年度からは「大学教育・学生支援事業」のテーマ A「大学教育推進プログラム」において大学教育改革の取組を推進しています。

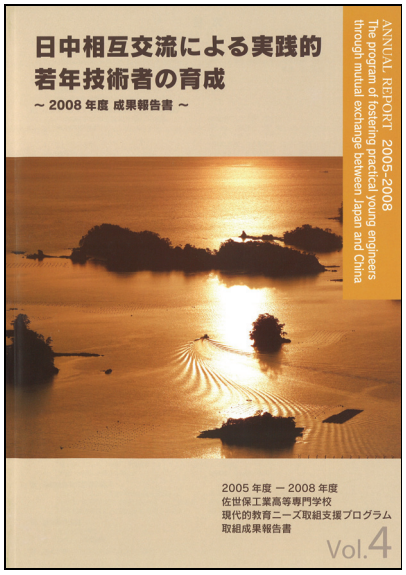
（出典　文部科学省ウェブサイト）

資料11－３－②－３

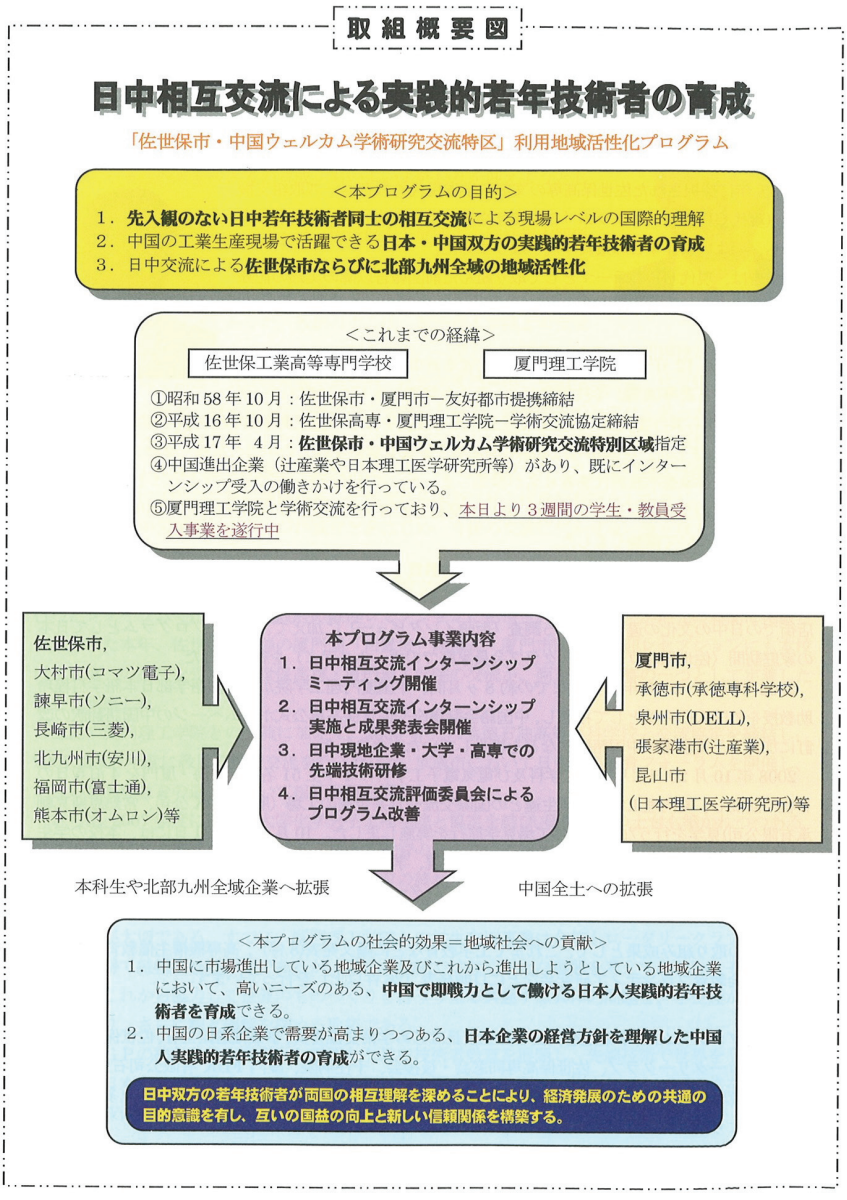
現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）

「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」（取組期間 2005～2008年度）2008年度成果報告書

（表紙）



（取組概要図）



（出典　「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」　成果報告書）

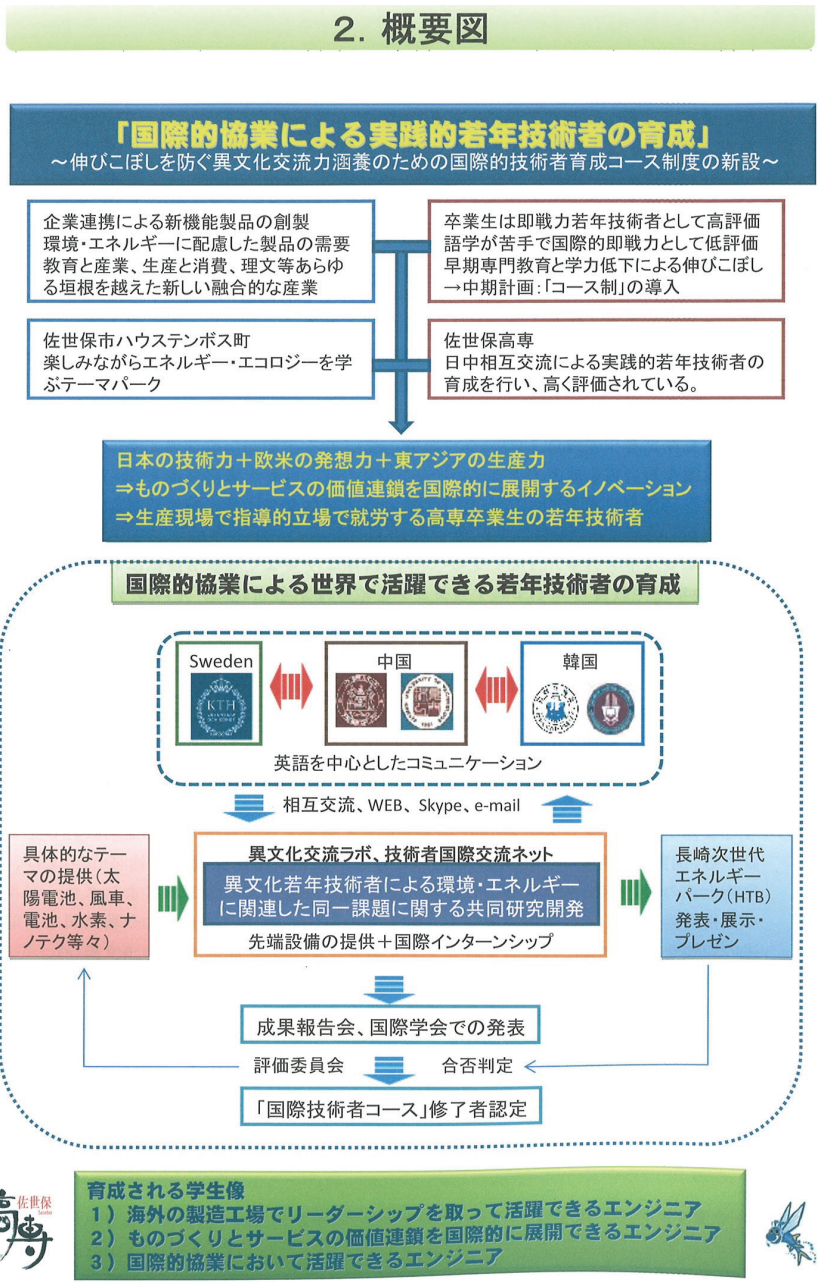
資料11－３－②－４

大学教育・学生支援推進事業【テーマＡ】大学教育推進プログラム
「国際的協業による実践的若年技術者の育成」（取組期間 2009年～2011年度）2011年度成果報告書

（表紙）



（取組概要図）



（出典　「国際的協業による実践的若年技術者の育成」　成果報告書）

資料11－３－②－５

企業技術者等活用プログラム実績

年度	講義・指導者数
平成20年度	28人
平成21年度	28人
平成22年度	31人
平成23年度	20人
平成24年度	14人
計	121人
平均	24.2人

（出典　総務課資料）

資料 11－３－②－６

長期インターンシップに参加した学生の感想文

CADデータを用いた配電盤製造工程効率改善用システム構築の共同研究　電子制御工学科　５年 [redacted]

佐世保市三川内町にある宮本電機株式会社。昨年度から私が長期インターンシップでお世話になっている会社です。私の卒業研究はその宮本電機との共同研究として、長期インターンシップでの課題を引き継ぎ、宮本電機の主な事業である配電盤の製造工程効率改善のためのシステムを開発することです。

本研究では、CADソフトウェアで作成された設計図をPC上に読み取り、PC上から作業を行うことによって、現在手作業で行っている工程を一部自動化し、製造効率を上げるプログラムの作成を行っています。しかし、手作業で行っていることを全体の作業工程に影響を与えないように一部自動化するということは非常に困難なことで、何度も宮本電機の担当の方との打ち合わせを行ったり、行き詰った結果、別の方法で一からやり直すということもありました。

2年続いたこの研究もあと少しで一区切りとなります。この2年間を通して学んだことをこれからも生かしていきたいと思います。

（出典　沖新通信（広報誌）　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，海外協定校との学生の相互派遣プログラムを継続的に実施している。さらに，「企業技術者等活用プログラム」も実施するなど，外部教育力を有効に活用する努力をしている。また学生は，県内外の企業で実施するインターンシップや長期インターンシップに積極的に参加している。

以上のことから，学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育研究活動等の状況について，本校ウェブサイトで情報を発信している（資料11－４－①－１）。該当ページには，トップページのバナーから直接アクセスすることができるようになっている。

また，年に一度「研究報告」（資料11－4－①－２）を発刊している。研究報告には教員の教育研究活動の成果が記されており，研究論文の他に研究活動一覧も載せている。この他，「佐世保高専技術シーズ集」（資料11－４－①－３）も発刊しており，全教員の研究内容や研究設備を紹介している。これら二つの冊子は，本校ウェブサイト上でも公開されている。さらに即時的な情報源として，本校ウェブサイトに「研究者情報システム」（資料11－４－①－４）を整備し，教員個人の教育・研究活動状況や成果を掲載している。

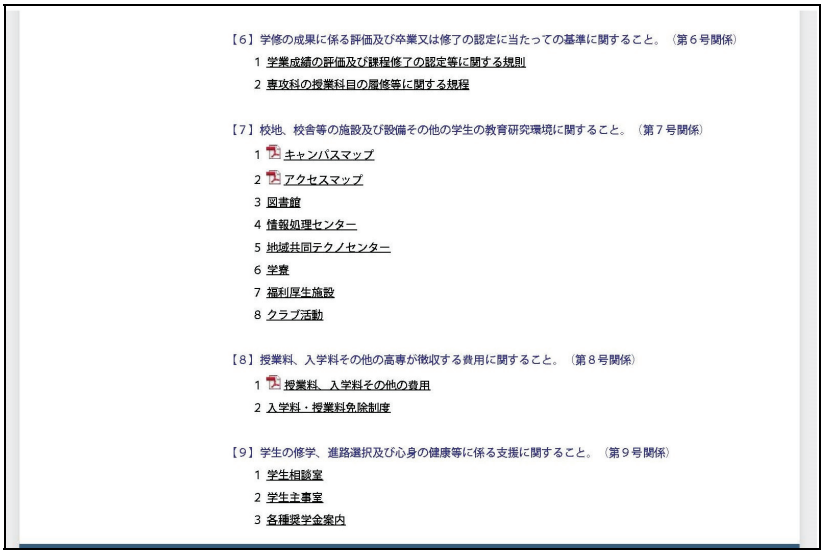
観点 11－４－①資料一覧

（資料 11－４－①－１）	教育情報の公表	出典：本校ウェブサイト
（資料 11－４－①－２）	研究報告	出典：研究報告第 49 号
（資料 11－４－①－３）	「佐世保高専技術シーズ集」	出典：技術シーズ集
（資料 11－４－①－４）	研究者情報システム	出典：本校ウェブサイト

資料 11－４－①－１

教育情報の公表





（出典　本校ウェブサイト）

資料11－４－①－２

研究報告　（CiNii（NII論文情報ナビゲータ[サイニィ]）に掲載中
（本校ウェブサイト（図書館）よりリンク）

ISSN 0386-4391

佐世保工業高等専門学校
研　究　報　告

第49号
平成25年1月

目　次

軟鋼板の横振動時における内部減衰に関する実験的研究
原 要一郎　森田英俊 …… 1

粒子クラスタにおける空隙率上昇に伴う相互干渉減衰
（一様な流れの中に置かれた求形クラスタの数値解析）
中島賢治　城野祐生　重松利信　松山史憲 …… 5

時空間ターボ符号化変調方式の符号間干渉通信路への適用
兼田一幸　正本利行　萩原春生 …… 13

積符号の繰り返し復号とその2次元バーコードへの適用
兼田一幸　濱崎 亮 …… 19

弧度法指導に関する考察
稲永善数 …… 25

数学科と専門科目の相互補完について
稲永善数 …… 31

水中洞窟系のロボット探査とソナーによる形態計測の予備実験
眞部広紀　長嶋 豊　浦田健作　染谷 孝
下尾浩正　前田貴信　三宅飛翔　柴田裕貴
原崎芳加　原田 明　白川知秀　福岡聡紀 …… 51

平成22年度 教員研究活動一覧

（出典　研究報告第49号　抜粋）

資料 11－４－①－３

技術シーズ集

（表紙）

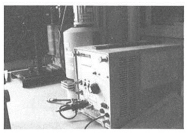


（本文）

I 技術シーズ

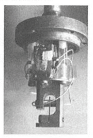
教員別シーズ

教員名(漢字・英語)	重松　利信　　SHIGEMATSU Toshinobu
学 科 名 ・ 職 名	電子制御工学科　教授
電 話 ・ F A X	電話 0956-34-8490　　FAX 0956-34-8490
電子メールアドレス	shige@sasebo.ac.jp
研究分野(専門分野)	センサー工学、低温物理学、物理教育
主要な研究テーマ	酸化物超伝導体を用いたリニアモーターカーの開発 超流動ヘリウム中でのカーボンナノ物質の生成研究 Vibrating Reed法による金属中固溶水素の研究
研究内容キーワード	超電導、カーボンナノチューブ、Bose-Einstein 凝縮、Vibrating Reed
技術相談、共同研究、受託研究などの可能分野（テーマ）	・センサー工学 ・物性値の実験・実験環境・実験方法
生涯教育関連で協力可能な分野 (講演会・講習会)	・－200度の世界探検 ・リニアモーターカーの原理・演示
共同研究等に利用可能な装置等	・4K 冷凍機・液体窒素液化機・Zeeman 効果測定装置・γ線測定装置 ・Vibrating Reed 法による金属硬さの温度依存精密測定装置



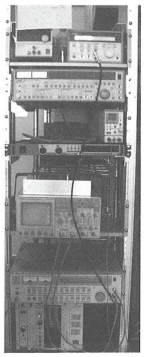
γ ray detector, Zeeman effect detector

Vibrating Reed Cell →



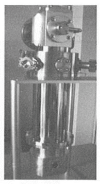


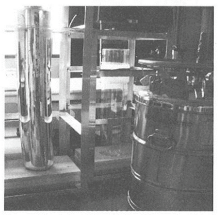
Liquid Nitrogen liquefier



4.2K refrigerator →

Evaporation Cryostat





（出典　佐世保高専技術シーズ集）

資料11－４－①－４

研究者情報システム





（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育研究活動等の状況について，本校ウェブサイトで情報を発信し，アクセスしやすい手段を講じている。

また，「研究報告」と「佐世保高専技術シーズ集」を毎年発刊，本校ウェブサイトでの公開により，教育研究活動を広く社会に発信している。さらに，「研究者情報システム」を本校ウェブサイト上で運営することも行っている。

以上のことから，高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・校長が全体を把握しリーダーシップをとれる体制となっている。

・教育研究活動等の状況について，本校ウェブサイトで情報をアクセスしやすく発信している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準11の自己評価の概要

本校では，校長の職務，各主事の役割を学則に明確に規定し，また，各種の委員会や教員会議についてもその役割を明確に規定している。各委員会などで審議した事項は，運営委員会の審議を経て校長が意思決定を行っており，校長が全体を把握しリーダーシップをとれる体制となっている。また，事務組織についても，事務組織規程等を定め，規定に則ってその体制が系統的に組織されている。これにより，教員と事務職員の連携の下に管理運営に関する各種委員会及び事務組織が効果的に活動している。さらに，危機管理に関しても同様に規定で定め，必要に応じて校長を本部長とする危機対策本部を設置し，対処する体制となっている。

学校全体の総合的な活動に対しての自己点検・評価は，自己点検・評価委員会により適切に行われ，その結果は，自己点検･評価報告書，外部評価報告書として，冊子や本校ウェブページで公表されている。また，第三者評価の一つであるJABEEの継続審査を受け，認定も得ている。外部の有識者により組織された外部評価委員会が定期的に開催され，「外部評価報告書」を刊行している。学校の活動を総合的に評価・改善するシステムが整備されている。このシステムは，評価結果をフィードバックし，目的達成に向けた改善へと結びつけるPDCAサイクルとして機能している。

本校では，海外協定校との学生の相互派遣プログラムを継続的に実施している。さらに，「企業技術者等活用プログラム」やインターンシップも実施するなど，外部教育力を有効に活用している。

本校の教育研究活動等の状況について，本校ウェブサイトで情報を発信し，アクセスしやすい手段を講じている。また，「研究報告」や「佐世保高専技術シーズ集」，「研究者情報システム」を本校ウェブサイトで公開することにより，教育研究活動を広く社会に発信している。